

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)	3. 科目番号	GECM1111 GECM1311
2. 授業担当教員	内藤 伊都子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。		
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 2 テキストのpp.30~33、pp.54~57、pp.74~77の問題に解答する。 3 テキストの内容からアメリカの文化またはアメリカ人の行動について自分の意見も含めてまとめる。 詳細については、講義内で指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 染矢正一, Fred Ferrasci, Paul Murray 共著『Face to Face: To Better Understand Japanese and American Culture』三修社、2010、1,800 円+税。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。必要に応じて英和辞書を持参すること。		
11. 成績評価の方法	受講態度・積極的な参加姿勢 20% グループワーク 20% 発表 30% Review Test 30% これらを総合的に評価する。		
12. 受講生への メッセージ	各回の事前学習と事後学習の内容を確認し、発表の準備をして授業に臨むこと。 コミュニケーション手段としての言語や異なる文化に興味・関心をもっていることが望ましい。 日頃から自身が見聞きしたり使用したりする言語に意識的を高め取り組むことを勧める。 自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。		
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction:授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや行動内容について把握しておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。
第 2 回	Why do Japanese study hardest before, not during, college?	事前学習	pp.10~12 の Guess the Meaning に回答し、Jane's Question および Hiroshi's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.10~13 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 3 回	Why does America have "Ladies first"?	事前学習	pp.14~16 の Guess the Meaning に回答し、Hiroshi's Question および Jane's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.14~17 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 4 回	Why are Japanese obsessed with brand names?	事前学習	pp.18~20 の Guess the Meaning に回答し、Jane's Question および Hiroshi's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.18~21 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 5 回	Why are so many Americans overweight?	事前学習	pp.22~24 の Guess the Meaning に回答し、Hiroshi's Question および Jane's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.22~25 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 6 回	Why do Japanese do things in groups?	事前学習	pp.26~28 の Guess the Meaning に回答し、Jane's Question および Hiroshi's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.10~29 までの既習内容について総復習し、理解を深めておく。

第 7 回	Why are Americans so outspoken?	事前学習	pp.34~36 の Guess the Meaning に回答し、Hiroshi's Question および Jane's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.34~37 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 8 回	Why can't more Japanese speak English?	事前学習	pp.38~40 の Guess the Meaning に回答し、Jane's Question および Hiroshi's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.38~41 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 9 回	Why are American state capitals often small cities?	事前学習	pp.42~44 の Guess the Meaning に回答し、Hiroshi's Question および Jane's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.42~45 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 10 回	Why do Japanese open gifts so slowly?	事前学習	pp.46~48 の Guess the Meaning に回答し、Jane's Question および Hiroshi's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.46~49 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 11 回	Why does America go to war with so many countries?	事前学習	pp.50~52 の Guess the Meaning に回答し、Hiroshi's Question および Jane's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.34~53 までの既習内容について総復習し、理解を深めておく。
第 12 回	Why does Japan subsidize farmers?	事前学習	pp.58~60 の Guess the Meaning に回答し、Jane's Question および Hiroshi's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.58~61 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 13 回	Why do Americans think their way is the only way?	事前学習	pp.62~64 の Guess the Meaning に回答し、Hiroshi's Question および Jane's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.62~65 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 14 回	Why does Japan support whaling?	事前学習	pp.66~68 の Guess the Meaning に回答し、Jane's Question および Hiroshi's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.66~69 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。
第 15 回	Why do American let people own guns?	事前学習	pp.70~72 の Guess the Meaning に回答し、Hiroshi's Question および Jane's Answer の英文内容を把握しておく。
		事後学習	pp.70~73 の意味内容を復習し、不明な点がないか確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語Ⅱ (外国語活動) (2 単位)		3. 科目番号	GECEM1302
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	アメリカの文化と言語Ⅰ			
7. 講義概要	アメリカの文化と言語Ⅰのクラスで学んだアメリカの文化と言語に関する知識の幅を広げ、アクティブラーニングを取り入れ、楽しく外国語活動を行い使える力へと高める。まず、活動型の授業形態をとり、活動に伴う会話力の技能を、様々な日常生活の場面に応じて基本的なレベルから、より高いレベルへと向上させる。また、コミュニケーション力や人間関係能力を高めるための基本的な表現力を身につける。アメリカの文化を学びながら自国の文化と比較することで、様々な文化を尊重できる素地を養う。			
8. 学習目標	1) 様々な日常生活に必要な活動に応じた教材を適宜使用しながら、英語(表現力)の技能を高め、実生活で外国語を使える力を育成する。 2) 1) を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解する。 3) アメリカの文化事情について多角的に考察を深める。 4) アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成する。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	4 各回の事前学習と事後学習を参照し、必ず予習と復習をしておくこと。 5 テキストの内容をもとに、アメリカの文化やアメリカ人の行動について、自分の言葉で表現する。 6 テキストの内容やディスカッション内容を含めて、アメリカ文化やアメリカ人の行動を日本や日本人と比較しながらまとめる。 詳細については、講義内で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小林敏彦, Shawn M. Clankie 著『Eye on America selected: Japanese and American Views of U.S. Culture』三修社、2016、1,800 円+税。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。必要に応じて英和辞書を持参すること。			
11. 成績評価の方法	受講態度・積極的な参加姿勢 20% ペアワーク 20% ディスカッション 20% 小レポート 20% 発表 20% これらを総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	各回の事前学習と事後学習の内容を確認し、発表の準備をして授業に臨むこと。 コミュニケーション手段としての言語や異なる文化に興味・関心をもっていることが望ましい。 日頃から自身が見聞きしたり使用したりする言語に意識的になって取り組むことを勧める。 自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。			
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや行動内容について把握しておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。	
第2回	The GPA System: Study hard or leave	事前学習	pp.2~4 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。	
		事後学習	pp.2~6 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。	
第3回	Potluck Party: Bring what you have	事前学習	pp.7~9 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。	
		事後学習	pp.7~11 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。	
第4回	Selling textbooks after exams	事前学習	pp.12~14 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。	
		事後学習	Chapter1: pp.2~16 までの既習内容について総復習し、理解を深めておく。	
第5回	The rules of introductions	事前学習	pp.18~20 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。	
		事後学習	pp.18~22 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。	
第6回	Holding the door for other people	事前学習	pp.23~25 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。	

		事後学習	pp.23~27 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。
第 7 回	Never letting anyone cut in line	事前学習	pp.28~30 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	Chapter2: pp.18~32 までの既習内容について総復習し、理解を深めておく。
第 8 回	Attitudes toward smoking	事前学習	pp.34~36 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	pp.34~38 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。
第 9 回	Intolerance of drunks	事前学習	pp.39~41 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	pp.39~43 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。
第 10 回	Scary public restrooms	事前学習	pp.44~46 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	Chapter3: pp.34~48 までの既習内容について総復習し、理解を深めておく。
第 11 回	Impolite store clerks	事前学習	pp.50~52 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	pp.50~54 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。
第 12 回	The troublesome custom of tipping	事前学習	pp.55~57 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	pp.55~59 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。
第 13 回	Hotel room charges: How many rooms?	事前学習	pp.60~62 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	Chapter4: pp.50~64 までの既習内容について総復習し、理解を深めておく。
第 14 回	Independent-minded children	事前学習	pp.66~68 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	pp.66~70 の意味内容を復習し、ディスカッション内容をまとめておく。
第 15 回	Husband controlling the family budget	事前学習	pp.71~73 の Warm-up Questions に回答し、A Japanese Viewpoint および An American Viewpoint の英文を読み上げ、内容を把握しておく。
		事後学習	Chapter5: pp.66~75 までの既習内容について総復習し、理解を深めておく。

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (小児保健を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112 GELA1312 EDHE2317
2. 授業担当教員	宋 暁鈞		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、乳・幼・小児の保育・教育にかかわる専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●小児の発達とリスク因子について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 乳・幼・小児の健全な発達に寄与する方策が理解できる。 3. 生活習慣病とその予防につき、小児の段階における健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な健康と疾病の情報について、その是非・真偽について考察する (口頭発表)。 2. 講義した内容はもう一層深く理解する為に、毎回の授業を終了する前に「理解を高める実践問題」を配布して解答する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会著 『新・社会福祉養成講座<1>人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版、2015。</p> <p>【参考書】高橋長雄著『からだの地図帳』講談社、1989。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業を参加際に、その積極性や勤勉さ、課題・レポート等で総合評価：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の参加と学習態度 (口頭発表・遅刻・出席状況) 総合点の 20% 2. 授業ごとの課題 (理解を高める実践問題①～④) 総合点の 40% 3. 課題レポート (理解を高める実践問題⑤) 総合点の 40% <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>医学概論では、身体の構造や機能、そして疾病等に関する様々な医学的知識の習得を目標とする。その為、受講生は以下の条件を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常に集中力を保っているように積極的な学習態度で授業に参加する。 2. 疑問点は後に残さず、講義時間内及び直後に質問すること (研究室への来訪は大歓迎)。 3. 予習を十分行い、授業後の復習も心がけること。関連書籍も読み、理解すること。 4. 分かりやすい口頭発表の仕方を覚えてもらう。 5. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。特に、携帯電話の操作は絶対にしないこと。 <p>上記のことをした場合はその理由を必ず書面にて報告すること。</p> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 		
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも結構であるが、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の解説) 生命の誕生、身体的及び精神的成長・発達及び老化	事前学習	教科書第 1 章を予習し、生命の意義について考える (pp. 2~14)。
		事後学習	「実践問題①」を解答しながら、身体の発達及び老化についてまとめる。
第 2 回	心身機能と身体構造①： (身体各部の名称と機能の概要、体液・血液、呼吸器系、循環器系)	事前学習	心臓、肺の構造と機能について予習する (pp. 31~34, 36~37)。
		事後学習	「実践問題②」を解答しながら、心肺の構造と機能についてまとめる。
第 3 回	心身機能と身体構造②： (消化器系、泌尿器系、生殖器系)	事前学習	消化器と泌尿器の構造と機能について予習する (pp. 34~35, 37~40)。
		事後学習	「実践問題③」を解答しながら、消化器と泌尿器の構造と機能についてまとめる。
第 4 回	心身機能と身体構造③： (支持運動器系:骨格系・筋系、皮膚と感覚器系)	事前学習	骨格・筋系、感覚系の構造と機能について予習する (pp. 46~52)。
		事後学習	「実践問題④」を解答しながら、運動器と感覚器

			の構造と機能についてまとめる。
第 5 回	心身機能と身体構造④：(神経系、内分泌系)	事前学習	神経、内分泌系の構造と機能について予習する (pp. 41～46)。
		事後学習	「実践問題⑤」を解答しながら、神経と内分泌系の構造と機能についてまとめる。
第 6 回	疾病と障害①： (生活習慣病、癌、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム)	事前学習	生活習慣病と癌疾患との関連性について予習する (pp. 54～56)。
		事後学習	「実践問題⑥」を解答しながら、生活習慣病と癌疾患との関連性についてまとめる。
第 7 回	疾病と障害②： (先天性疾患の特徴、周産期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害)	事前学習	遺伝子、染色体と人体の形成・成長について予習する (pp. 113～116)。
		事後学習	「実践問題⑦」を解答しながら、各々の先天性疾患の特徴についてまとめる。
第 8 回	疾病と障害③：(感染症)	事前学習	感染症の種類と感染経路について予習する (pp. 103～106)。
		事後学習	「実践問題⑧」を解答しながら、感染症の対策についてまとめる。
第 9 回	疾病と障害④：(精神疾患、高次脳機能障害)	事前学習	精神障害、高次脳機能障害の分類について予習する (pp. 162～167)。
		事後学習	「実践問題⑨」を解答しながら、精神障害者、高次脳機能障害者に対する対応をまとめる。
第 10 回	疾病と障害⑤：(知的障害・発達障害)	事前学習	脳機能の発達と知能・学習能力について予習する (pp. 149～155)。
		事後学習	「実践問題⑩」を解答しながら、知的障害と発達障害の原因と対策についてまとめる。
第 11 回	疾病と障害⑥：(免疫とアレルギー)	事前学習	免疫のメカニズムについて予習する (pp. 51～52、事前配布資料)。
		事後学習	「実践問題⑪」を解答しながら、アレルギーの分類についてまとめる。
第 12 回	疾病と障害⑦：(神経性疾患と難病)	事前学習	難病の定義について予習する (pp. 107～112)。
		事後学習	「実践問題⑫」を解答しながら、神経性疾患と難病の特徴についてまとめる。
第 13 回	健康の概念とプライマリヘルスケア	事前学習	健康とは何かを予習する (pp. 206～209)。
		事後学習	「実践問題⑬」を解答しながら、WHO の健康の概念について討論し、まとめる。
第 14 回	リハビリテーションの概要・目的と実践	事前学習	リハビリテーションの定義・理念について予習する (pp. 174～192)。
		事後学習	「実践問題⑭」を解答しながら、リハビリテーションの種類と目的についてまとめる。
第 15 回	まとめ・課題レポートを提出	事前学習	授業を振り返り、そのポイントを考えまとめる。
		事後学習	今回まとめた内容で、「実践問題⑮」を解答・提出する。

1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション教育 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2171
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	多文化コミュニケーション、異文化コミュニケーション教育演習			
7. 講義概要	異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。グローバル化の進む国際社会では、越境する人々によって教育環境も多様化し、異文化コミュニケーションの機会は増加している。 本講義では、教育場面での異文化の対人関係を取り上げながら、教育の現状や文化とコミュニケーションの関係、またその影響や対応などについて考えていく。			
8. 学習目標	7 文化とコミュニケーションの関係について理解することができる。 8 多様な教育環境について理解することができる。 9 教育場面における文化の影響について理解することができる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 2 講義で扱う教育場面や対人関係を踏まえ、具体的な例をあげながらコミュニケーション事象を分析する。 3 異文化コミュニケーションで起こる摩擦や葛藤について、原因や対応などを含めて考察する。 詳細については、講義内で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	受講態度・積極的な参加姿勢 20% グループワーク 20% 小レポート 20% 期末レポート 40% これらを総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	文化背景の異なる人々との交流やコミュニケーションに興味をもっていることが望ましい。 自身や周囲のコミュニケーション状況を意識して観察し、関連付けながら受講することを勧める。 講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。 自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。			
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや内容について把握しておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。	
第 2 回	異文化コミュニケーションと教育	事前学習	教育とはなにかについて自身で考えてみる。	
		事後学習	異文化コミュニケーションの事象について振り返っておく。	
第 3 回	日本におけるコミュニケーション教育	事前学習	配付する資料を読んでおく。	
		事後学習	講義で扱った学習指導要領の部分について振り返っておく。	
第 4 回	コミュニケーションの機能と文化集団	事前学習	コミュニケーションの役割について自身の考えをまとめておく。	
		事後学習	コミュニケーション学における文化集団について振り返っておく。	
第 5 回	教育場面における対人コミュニケーション	事前学習	教育現場にはどのような対人関係が存在するか考えておく。	
		事後学習	教育場面における文化集団とコミュニケーション事象について整理しておく。	
第 6 回	海外子女教育とコミュニケーション	事前学習	異文化環境下で学校生活を送る際の問題について自身の考えをまとめておく。	
		事後学習	補習校や母語教育などについて整理しておく。	
第 7 回	海外の言語コミュニケーション教育	事前学習	国際社会における言語の役割について考えておく。	
		事後学習	講義で扱った各国の言語政策について整理しておく。	
第 8 回	海外における日本語教育	事前学習	母国語以外の言語でコミュニケーションをするときの問題について考えてみる。	
		事後学習	講義で扱った各国の日本語教育事情や日本との関係について整理しておく。	

第 9 回	外国人児童教育と異文化適応	事前学習	新しい環境に適応するために必要なことはなにか自身の考えをまとめておく。
		事後学習	外国人児童を取り巻く問題について整理しておく。
第 10 回	帰国子女教育と再適応	事前学習	新しい環境と慣れ親しんだ環境の違いはなにか自身の考えをまとめておく。
		事後学習	帰国子女教育の変遷について整理しておく。
第 11 回	国際理解教育	事前学習	自身の異文化体験について振り返っておく。
		事後学習	教育現場での国際理解や異文化理解への取り組みについて整理しておく。
第 12 回	留学生のコミュニケーション	事前学習	留学生や文化背景の異なる人々と接した経験について振り返っておく。
		事後学習	在日留学生の現状について整理しておく。
第 13 回	複言語・複文化主義	事前学習	自身の言語学習の経験から、その教材内容について振り返っておく。
		事後学習	ヨーロッパの言語教育や複言語・複文化主義について整理しておく。
第 14 回	日本語教育からみた異文化理解	事前学習	既習内容を振り返り、異文化を理解するために必要なことはなにか考えておく。
		事後学習	異文化理解のための教育的課題についてまとめておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について総復習をし、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション教育演習 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP3371
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、グループワーク、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	異文化コミュニケーション教育、多文化コミュニケーションを履修していることが望ましい。			
7. 講義概要	<p>異文化コミュニケーションの教育の一つに、異文化トレーニングがある。異文化トレーニングは主に知識学習と体験学習に大別されるが、講義では知識学習としてトレーニングの種類や内容、効果など認知的側面を扱い、個人による作業も取り入れていく。</p> <p>実践では体験学習としてクラスで実施可能なペアワークやグループワークなどを取り入れながら、異文化コミュニケーションの情動や行動の側面についても訓練していく。また、トレーニングの実践後にはディブリーフィングやディスカッションなども実施し、ルールの違いや行動の意味などについて考えていく。</p> <p>クラスのサイズによってトレーニング内容を調整しながら実施していく。</p>			
8. 学習目標	<p>1 0 未知の環境での生活やストレングヤーとのコミュニケーションに先立ち、擬似的に体験したり能動的に行動したりする訓練を通して、経験的知識を習得する。</p> <p>1 1 擬似異文化の社会的相互作用や人間関係の調整における情動を体感し、自己理解や成長を図り、説明できるようになる。</p> <p>1 2 トレーニングを通して、問題の早期認識や判断、対応する力に結び付けできるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>4 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。</p> <p>5 ルールの違いや行動の意味について考察する。</p> <p>6 自身のコミュニケーション行動とともに、情動についても振り返って分析する。</p> <p>詳細については、講義内で指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。</p> <p>【参考書】 講義内で適宜紹介する。</p>			
11. 成績評価の方法	グループワークへの参加程度	40%	トレーニング後のディブリーフィングやディスカッションへの参加程度	40%
	小レポート	20%		
	これらを総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	<p>グループワークを実践するため、授業には遅刻せずに出席することが肝要である。</p> <p>トレーニングやディスカッションに積極的に参加し、率先して行動することが求められる。</p> <p>文化背景の異なる人々との交流に興味をもっていることが望ましい。</p> <p>自身や周囲のコミュニケーション状況と関連付けたり、自身の行動と文化背景の異なる他者の行動を比較したりしながら受講することを勧める。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや内容について把握しておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。	
第2回	異文化トレーニングの背景	事前学習	異文化環境下で生活するために必要なことはなにか考えてみる。	
		事後学習	異文化トレーニングの始まりや歴史的背景について整理しておく。	
第3回	異文化トレーニングの種類	事前学習	異文化を知るためにはどのような方法があるか考えてみる。	
		事後学習	知識学習と体験学習についてそれぞれ整理しておく。	
第4回	異文化コミュニケーション能力	事前学習	自身が所属する社会で必要とされる能力とはなにか考えてみる。	
		事後学習	文化背景の異なる環境で必要とされる能力について整理しておく。	
第5回	スキル・トレーニング	事前学習	目に映ったものやその状況について客観的に表現してみる。	
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。	
第6回	クリティカル・シンキング	事前学習	日頃当たり前と思っていることに対して、再考してみる。	
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。	
第7回	アサーティブ・コミュニケーション	事前学習	自分の意見を伝えられなかった経験があれば振り返っておく。	

		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第 8 回	クリティカル・インシデント	事前学習	困った状況に陥った経験について振り返っておく。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第 9 回	シミュレーション (1) 言語コミュニケーションによるゲーム	事前学習	メールや電話と対面のコミュニケーションの違いについて考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第 10 回	シミュレーション (2) 非言語コミュニケーションによるゲーム	事前学習	自分の考えを非言語だけで伝えることを考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第 11 回	人間関係トレーニング	事前学習	自分とは立場や役割が異なる人々について考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第 12 回	シミュレーション (3) 異文化探査	事前学習	知らないことや分からないことを知るための手段を考えてみる。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第 13 回	シミュレーション (4) 異文化交流	事前学習	知り合いもない初めての環境に入ったときの経験を振り返っておく。
		事後学習	実践したり体験したりした内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第 14 回	異文化トレーニングの効果	事前学習	これまでのトレーニングを通して気づいたことがあればまとめておく。
		事後学習	自身のトレーニングを振り返り、どのような効果があったか自分の考えをまとめておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について振り返り、総復習をしておく。
		事後学習	ディブリーフィングについて全体的にまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	異文化接触と文化学習 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP1171
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	E J 1 年次以上			
7. 講義概要	<p>文化とはなにかという定義は多様で複雑であるが、世界には多くの文化が存在している。人間の考えや行動は自分が所属している文化の中で時間をかけて形成されるため、自分のもつ考えや行動があまりに自然であり、そのことに無意識になりがちである。このため、他文化やその中に生きる人間行動を理解するためには、文化学習が重要となってくる。</p> <p>本講義では、日常生活におけるさまざまな文化的側面に触れながら、人はどのように文化を獲得し文化的行動を身につけていくのか考察していく。現代は異文化接触場面も多様化しているため、身近に存在している異文化を事例として扱いながら、異文化理解につなげる基礎的な学習を目的とする。</p>			
8. 学習目標	<p>1 3 幅広い文化の概念について知識を深めることができる。</p> <p>1 4 身近に存在している異文化の影響について認識を新たにすることができる。</p> <p>1 5 文化の獲得や文化学習のプロセスを理解することができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>7 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。</p> <p>8 講義ノートは、講義内容や理解した内容、疑問などについて、講義毎に自分の言葉・表現でまとめたノートを意味する。第5回、第10回、第15回の授業時に提出する。</p> <p>9 他グループの発表について、内容のまとめやグループの特徴、感想などについてレポートを作成する。詳細については、講義内で指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。</p> <p>【参考書】 講義内で適宜紹介する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>講義ノートの提出 20%</p> <p>受講態度・積極的な参加姿勢 20%</p> <p>グループ発表 20%</p> <p>発表評価レポート 20%</p> <p>期末レポート 20%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>授業は事前学習を前提に行うため、必ず事前学習課題に取り組んで授業に臨むこと。</p> <p>異なる文化、多様な文化に積極的な興味を持っていることが望ましい。</p> <p>日常生活や身近な出来事の中にある異文化接触と関連付けながら受講することを勧める。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。</p> <p>自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマ内容について把握しておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方や講義ノートの作成について整理しておく。	
第2回	異文化接触の場面	事前学習	自身の周囲に存在する異なる文化について振り返っておく。	
		事後学習	異文化接触の現状について講義内容を振り返り講義ノートに整理しておく。	
第3回	在住外国人との異文化接触	事前学習	自身の出身地で外国人と接したときの経験を振り返っておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、ホストとして異文化接触するとはどういうことか講義ノートに整理しておく。	
第4回	海外旅行での異文化接触	事前学習	講義内容を振り返り、海外旅行でのトラブルについて見聞きしたことを振り返っておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、海外でのトラブルについて講義ノートに整理しておく。	
第5回	留学生の異文化接触: 学校場面	事前学習	留学生にとって、学校で困ることとはなにか見聞きしたことを振り返っておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、留学生のライフスタイルについて講義ノートに整理しておく。	
第6回	留学生の異文化接触: 対人関係	事前学習	留学生にとって、学校や地域、友人など人間関係のトラブルについて見聞きしたことを振り返っておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、留学生の対人ネットワークについて整理しておく。	

第 7 回	留学生の異文化接触：日常生活	事前学習	留学生の学校以外でのトラブルについて見聞きしたことを振り返っておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、ゲストとして異文化接触するとはどういうことか講義ノートに整理しておく。
第 8 回	海外赴任の異文化接触	事前学習	海外で働いていて困ることはなにか、見聞きしたことを振り返っておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、滞在目的による異文化接触の影響について講義ノートに整理しておく。
第 9 回	リエントリーと文化学習	事前学習	海外で生活していた人が、もとの環境に戻ったときの影響について自分なりに考えておく。
		事後学習	講義を振り返り、リエントリー・ショックの影響について講義ノートにまとめておく。
第 10 回	文化学習のプロセス	事前学習	自身の文化とはなにか、自身が所属する文化の特徴について振り返っておく。
		事後学習	自身の行動の中にどのような文化的特徴が表れているか分析し、講義ノートにまとめておく。
第 11 回	言語学習とイメージ	事前学習	目標言語の社会や文化について自身のもつイメージをまとめておく。
		事後学習	言語の学習動機や文化との関係について、講義内容を振り返り理解を深めておく。
第 12 回	メディアを通じた異文化接触と文化学習	事前学習	海外のドラマや海外ニュースからどのようなイメージをもつか振り返っておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、メディアの影響について整理しておく。
第 13 回	異文化受容	事前学習	既習内容を復習し、自身の文化の観方について分析しておく。
		事後学習	文化の受容や適応について自身の傾向を分析しておく。
第 14 回	異文化摩擦の要因	事前学習	文化が異なるとどのようなことが起こるか自身の経験を振り返っておく。
		事後学習	文化摩擦について講義内容を振り返り、摩擦の原因となり得る要因を振り返っておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について総復習し、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	異文化理解 (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3331								
2. 授業担当教員	内藤 伊都子											
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表		5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	多文化コミュニケーション											
7. 講義概要	<p>人は、ある文化環境の中で生活し、そこからさまざまな影響を受けている。文化を共有している人々の間では常識であることも、文化背景が異なると相互作用をする相手は自分と同じ考え方をするとはいえないし、自分とは異なった行動をすることもある。それらの異質性はまた様々な形の異文化摩擦が生じる原因となることもある。</p> <p>本講義では文化に起因する様々な異質性を理解するとともに、その比較対象である自文化、つまりは自分について理解することにも留意していく。つまり、外国人とのコミュニケーションや異文化接触の摩擦問題のみならず、自己と世界の関わり、自己と自文化の関係、そして異文化接触のダイナミズムを探り、理解を深めることで、「異質性を楽しむ」態度の育成を図っていく。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化」という概念について理解を深め、説明できるようになる。 2. 個人の持つ「文化」的背景への気づきを高め、「文化」がもたらす影響を意識できるようになる。 3. 異文化接触と異文化摩擦の現象とそのダイナミズムを理解できるようになる。 4. 異文化理解を促進する態度や技能を身につける。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 10 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 11 自身のもつ文化について分析する。 12 自身の生活がどのような文化的影響を受けているかを分析する。 <p>詳細については、講義内で指示する。</p>											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。</p> <p>【参考書】 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。 日本コミュニケーション学会 編『現代日本のコミュニケーション研究』三修社、2011。 その他文献は講義内で適宜紹介する。</p>											
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>受講態度・積極的な参加姿勢</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>グループワーク</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>これらを総合的に評価する。</p>				受講態度・積極的な参加姿勢	20%	グループワーク	20%	小レポート	20%	期末レポート	40%
受講態度・積極的な参加姿勢	20%											
グループワーク	20%											
小レポート	20%											
期末レポート	40%											
12. 受講生へのメッセージ	<p>異なる文化、多様な文化に積極的な興味を持っていることが望ましい。</p> <p>自身の身近な生活の中にある異文化を意識して観察し、関連付けながら受講することを勧める。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。</p> <p>自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。</p>											
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマ内容について把握しておく。									
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。									
第2回	自文化と異文化	事前学習	“文化”とはなにかについて、自身の考えをまとめておく。									
		事後学習	自分自身の中のどのような部分が自文化らしいと思うか考えをまとめておく。									
第3回	異文化接触	事前学習	自身の異文化体験について振り返っておく。									
		事後学習	異文化接触の現状について整理しておく。									
第4回	文化コンテキスト	事前学習	自身もつ文化背景について、その特徴を振り返っておく。									
		事後学習	文化コンテキストについて講義内容を振り返り、理解を深めておく。									
第5回	文化と行動 (1) 文化比較	事前学習	文化の違いを感じた経験について振り返っておく。									
		事後学習	講義で扱った事例について振り返っておく。									
第6回	文化と行動 (2) 個人と社会	事前学習	文化の違いを感じたとき、どのような行動を取るか自身の考えをまとめておく。									
		事後学習	講義で扱った事例について振り返っておく。									
第7回	異文化接触とストレス	事前学習	異文化環境ではどのような心理状態になると思うか考えておく。									
		事後学習	異文化環境下での心理的要因について、講義内容を振り返り整理しておく。									

第 8 回	カルチャーショック	事前学習	自身のカルチャーショック体験があれば振り返っておく。
		事後学習	カルチャーショックの症状や対応などについて講義内容を振り返り理解を深めておく。
第 9 回	異文化適応	事前学習	自身の新入生当時に思い出し、大学生活への適応について振り返っておく。
		事後学習	適応や不適応について講義内容を振り返り、整理しておく。
第 10 回	異文化カウンセリング	事前学習	一般のカウンセリングについて、どのような活動だと思うか自身の考えをまとめておく。
		事後学習	なぜ異文化のカウンセリングが必要なのか講義内容を振り返り理解を深めておく。
第 11 回	異文化コミュニケーション能力	事前学習	コミュニケーション能力とはどのような能力だと思うか考えておく。
		事後学習	一般のコミュニケーション能力と異文化のコミュニケーション能力を整理しておく。
第 12 回	異文化トレーニング	事前学習	コミュニケーション能力を高めるにはどうしたらよいと思うか考えておく。
		事後学習	異文化トレーニングとはなにかについて講義内容を振り返り理解を深めておく。
第 13 回	アサーティブ・コミュニケーション	事前学習	日頃、自己主張したいときどのような手段を取っているか振り返っておく。
		事後学習	アサーティブなコミュニケーションの方法について講義内容を振り返り整理しておく。
第 14 回	異文化理解の課題と展望	事前学習	これまでの講義を踏まえ、異文化理解にはどのような問題があると思うか考えておく。
		事後学習	異文化理解のための課題と展望について、講義内容を振り返り整理しておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について総復習し、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	医療経営論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2130						
2. 授業担当教員	岡田 広司									
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	医療機関の運営に関する問題について、経営学の観点から学習を進める。医療機関は、その公共性から、利潤を追求することが第一義的な目的ではないため、ややもすると経営状態が悪化することが指摘されている。このため、医療機関の経営について、どのように公共性と利潤追求とのバランスをとりながら行っていくべきかについて学習することが重要である。昨今では、高齢化などから医療・福祉機関が増加していることも考えれば、その重要性は増している。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関の存立を支える立場としての経営学や経済学の重要性を認識する。 2. 現代の医療機関の運営に必要な公共性と利潤追求とのバランス感覚を養う。 3. 一般の企業、公共機関と医療機関の運営の相違点と類似点を把握する。 4. 現在、医療機関を運営を持続的に進めていく上で、問題となる点を認識する。 5. 高齢化などの社会の変化の中で、医療・福祉機関がどのように行われるべきかの考えを持てるようにする 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	15回の講義の中で、数回、医療・福祉機関の経営にかかわる問題に関わるアサイメント (宿題) を課す。また、最終レポートを課す。 レポート課題：現在医療業界で問題となっている事柄の一つあげ、まずその内容と対策を述べなさい。									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山内一信・藤田保健衛生大学医療経営情報学科編著『入門医療経営情報学』同友館、2012。</p> <p>【参考書】 木村憲洋・的場匡亮・川上智子編著『1からの病院経営』碩学舎、2013。 今村知明・康永秀生・井出博生共著『医療経営学 (第2版) -病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』医学書院、2011。 柳野順三著『ひと目でわかる病院業界一激変時代の医療・病院事情がわかる』ばる出版、2005。 岡田広司著『現代マネジメント概論』あるむ、2011。 岡田広司編著『戦略的イノベーションの経営』あるむ、2008。 岡田広司編著『マーケティング理論と市場戦略』あるむ、2008。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1 授業態度 (積極性など)</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 確認テスト</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート提出</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> </table>				1 授業態度 (積極性など)	総合点の 40%	2 確認テスト	総合点の 20%	3 課題レポート提出	総合点の 40%
1 授業態度 (積極性など)	総合点の 40%									
2 確認テスト	総合点の 20%									
3 課題レポート提出	総合点の 40%									
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 理解が不十分な点については、そのまま放置せずに、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。 2 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学科を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。 3 単に単位を取るための手段としてではなく、将来医療・福祉業務に携わる際に役立つ有効なセンスを磨いてやるという意気込みで講義に臨んでほしい。 									
13. オフィスアワー	授業中に伝える。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	日本医療の現状と課題	事前学習	教科書 pp.1~19 の内容を予習すると共に、テレビや新聞で病院経営に関して見聞したことをまとめる。							
		事後学習	授業で学習した第 1 章の医療システムが直面する課題を整理する。							
第 2 回	医療と経営学	事前学習	教科書 pp.21~43 の自分が病院経営にあたった場合何を考えるか、まとめる。							
		事後学習	授業で学習した第 2 章の経営学が医療問題の解決にどう役立つか考える。							
第 3 回	病院の組織	事前学習	教科書 pp.45~62 の組織論が説く組織形態を整理する。							
		事後学習	授業で学習した第 3 章の良質の医療サービスに相応しい組織とは何かまとめる。							
第 4 回	病院の医事管理	事前学習	教科書 pp.63~74 の医療経営者がすべき業務管理は何か考える。							
		事後学習	授業で学習した第 4 章の医事管理の医療サービスへの影響をまとめる。							
第 5 回	病院の人的資源管理	事前学習	教科書 pp.75~90 の看護師や勤務医の就業実態を調べる。							
		事後学習	授業で学習した第 5 章の病院における良質の人的資源の確保とは何か考える。							
第 6 回	病院の施設および物品管理	事前学習	教科書 pp.91~101 の病院において管理の対象となる物品は何か考える。							
		事後学習	授業で学習した第 6 章の効果的な施設利用や物品管理とは何か調べる。							

第 7 回	病院の財務・会計（財務会計）と経営管理	事前学習	教科書 pp.103～110 の財務会計で学ぶ知識をまとめる。
		事後学習	授業で学習した第 7 章の財務会計がいかに病院運営に活かされるかまとめる。
第 8 回	病院の財務・会計（管理家計）と経営管理	事前学習	教科書 pp.110～114 の管理会計で学ぶ知識をまとめる。
		事後学習	授業で学習した第 7 章の管理会計がいかに病院運営に活かされるかまとめる。
第 9 回	医療安全管理と医療経営	事前学習	教科書 pp.114～125 の医療事故訴訟数の推移を把握する。
		事後学習	授業で学習した第 7 章の効果的な医療安全管理は何か調べる。
第 10 回	医療保険制度と DPC(診断群分類別包括評価)	事前学習	教科書 pp.127～133 の DPC とは何か、参考書などを使って調べる。
		事後学習	授業で学習した第 8 章の DPC 導入が病院運営に与える影響は何かまとめる。
第 11 回	規制緩和と医療運営	事前学習	教科書 pp.134～144 の混合医療とは何か調べる。
		事後学習	授業で学習した第 8 章の規制緩和のメリットとデメリットを調べる。
第 12 回	医療の評価	事前学習	教科書 pp.145～148 の患者としてどういう病院を選択するか考える。
		事後学習	授業で学習した第 9 章の手術件数と医療成績との関係を把握する。
第 13 回	医師不足と医師のキャリア・パス	事前学習	教科書 pp.148～155 の日本の慣行キャリア・パスを調べる。
		事後学習	授業で学習した第 9 章の医療の供給と需要のミス・マッチを理解する。
第 14 回	医療の情報化と IDT システム	事前学習	教科書 pp.157～175 の IDT システムとは何か調べる。
		事後学習	授業で学習した第 10 章の医療の情報化のメリット・デメリットは何かまとめる。
第 15 回	最後のまとめ	事前学習	教科書 pp.175～183 の内容と、ここまで未消化であった事項を整理する。
		事後学習	第 1 章～第 10 章まで、授業で学習した医療経営に関し自分なりの知見がもてたか振り返ってまとめる。

1. 科目名 (単位数)	英語学演習 I (統語論) (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3304
2. 授業担当教員	松本 一喜			
4. 授業形態	講義 演習 ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	統語論の主流といえる生成文法の入門書を読み、生成文法の基本的な考え方を学ぶ。この授業の目標は、英語という言葉の構造をどのように捉えるべきかという基本的な考え方を理解することである。従来の英文法の知識と対比させて、生成文法理論の概要を知ることによって、英語教員としての基礎的な教養を高め、学んだことをどのように英語教育に活用できるか考察する。			
8. 学習目標	1. 生成文法の基本的な考え方を学び、英語の文構造の理解を深め、基本的な文型からなる英文を分析し、図式化出来るようになる。 2. 新しい概念を積極的に学ぶ態度を養い、今後の英語教授への活用ができるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業開始時に前回の授業で学んだことの確認小テストを課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】江川泰一郎 著『英文法解説 改訂三版』金子書房、1991。			
11. 成績評価の方法	授業態度 30点：次回学習箇所の章末問題の予習の有無と、授業時の章末問題の回答の正解度が評価対象である。 中間試験 30点：テキストの(第1~8章)を対象とする。各章の章末問題が半分出題される。 まとめ試験 40点：テキストの(第9~13章)を対象とする。各章の章末問題が半分出題される。			
12. 受講生への メッセージ	授業終了時に次回の授業でカバーする範囲を知らせるので、その部分はあらかじめ授業開始以前に1回講読し、おおよその内容を把握の上、授業に出席するのが望ましい。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業案内、テキスト第1章「名詞」	事前学習	テキスト(名詞)章末問題 pp.134~185の問題を解いてくる。	
		事後学習	テキスト(名詞)章末問題 pp.134~185の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。	
第2回	テキスト第2章「代名詞」	事前学習	テキスト(代名詞)章末問題 pp.216~217の問題を解いてくる。	
		事後学習	テキスト(代名詞)章末問題 pp.216~217の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。	
第3回	テキスト第3章「形容詞」	事前学習	テキスト(形容詞)章末問題 pp.267~269の問題を解いてくる。	
		事後学習	テキスト(形容詞)章末問題 pp.267~269の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。	
第4回	テキスト第4章「冠詞」	事前学習	テキスト(冠詞)章末問題 pp.247~248の問題を解いてくる。	
		事後学習	テキスト(冠詞)章末問題 pp.247~248の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。	
第5回	テキスト第5章「副詞」	事前学習	テキスト(副詞)章末問題 pp.284~285の問題を解いてくる。	
		事後学習	テキスト(副詞)章末問題 pp.284~285の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。	
第6回	テキスト第6章「否定」 テキスト第7章「比較」	事前学習	テキスト(否定、比較)章末問題 pp.293~295、pp.488~489の問題を解いてくる。	
		事後学習	テキスト(否定、名詞)章末問題 pp.293~295、pp.488~489の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。	
第7回	テキスト第8章「動詞」	事前学習	テキスト(動詞)章末問題 pp.301~303の問題を解いてくる。	
		事後学習	テキスト(動詞)章末問題 pp.301~303の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。	
第8回	中間まとめ(第1~8章)テスト	事前学習	第1~8章のノートを整理し、内容を再確認する。特に授業時の赤字板書箇所は念を入れて再確認する。	
		事後学習	テストを見直し、間違えたポイントをノートにまとめ	

			る。
第 9 回	テキスト第 9 章「動詞の時制」	事前学習	テキスト（動詞の時制）章末問題 pp.313～314 の問題を解いてくる。
		事後学習	テキスト（動詞の時制）章末問題 pp. 313～314 の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。
第 10 回	テキスト第 10 章「仮定法」	事前学習	テキスト（仮定法）章末問題 pp.328～330 の問題を解いてくる。
		事後学習	テキスト（仮定法）章末問題 pp. 328～330 の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。
第 11 回	テキスト第 11 章「受動態」	事前学習	テキスト（受動態）章末問題 pp.340～342 の問題を解いてくる。
		事後学習	テキスト（受動態）章末問題 pp.340～342 の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。
第 12 回	テキスト第 12 章「助動詞」	事前学習	テキスト（助動詞）章末問題 pp.351～352 の問題を解いてくる。
		事後学習	テキスト（助動詞）章末問題 pp. 351～352 の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。
第 13 回	テキスト第 13 章「準動詞」 1	事前学習	テキスト（準動詞）章末問題 pp.374～376 の問題を解いてくる。
		事後学習	テキスト（準動詞）章末問題 pp. 374～376 の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。
第 14 回	テキスト第 13 章「準動詞」 2	事前学習	テキスト（準動詞）章末問題 pp.396～398 の問題を解いてくる。
		事後学習	テキスト（準動詞）章末問題 pp. 396～398 の問題の誤った箇所を確認し、授業ノートの赤字板書部分を確認する。
第 15 回	後半まとめ（第 9～13 章）テスト	事前学習	第 9～13 章の授業時のノートを振り返り、章末テストの誤り部分を確認しておく。
		事後学習	後半まとめテストの誤った箇所を確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法 I (4 単位)	3. 科目番号	EDEN3341
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語教育の理論と実践の両側面をバランス良く学びながら、中学校及び高等学校の英語の教員免許状の取得を希望する者にとって必要不可欠な基礎知識を身につけることを目標とする。具体的には、世界の言語、言語の習得、代表的な英語教授法、学習指導要領、英語教育に関する基本用語などについて学ぶ。実践的な側面としては、聞く、話す、読む、書くといった 4 技能に焦点を当てた指導技術を学び、より良い授業を展開するために必要な事柄を考察し、学習していく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校及び高等学校における英語教育の指導目標について理解を深めることができる。 2. 代表的な英語教授法の特徴、長所、短所を学習し、英語科教育への適用を考察することができるようになる。 3. 教育現場で活用できるよう、英語の発音・語彙・文法と英語の 4 技能の指導技術の学びを深めることができる。 4. 言語テストと評価に関する理解を深め、学習者のニーズ・英語力・授業の効果を把握し、学習指導に生かす土台を形成することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業時に適時指示をする。400字×4枚のレポートを3回提出。 1 回目レポート課題「母語習得と第二言語習得の違い」 2 回目レポート課題「英語教科書のある課を指定し、授業指導案を作成しなさい。」 3 回目レポート課題「あなたの理想の英語教師像」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 望月昭彦編『改訂版 新学習指導要領にもとづく 英語科教育法』大修館書店、2010。 笠島準一著『NEW HORIZON English Course 3』東京書籍、2012。		
11. 成績評価の方法	授業参加度 30% : 授業時のディスカッションや模擬授業時の生徒役としての積極度を評価対象とする。 レポート 20% : アサイメント (宿題) 及びレポート課題で提示したレポートを評価対象とする。 模擬授業評価 50% : 本講座において、模擬授業を各自 3 回行う。指導案と授業実践を評価対象にする。		
12. 受講生へのメッセージ	本授業を、将来の良き教師への成長の場としてほしい。講師自身もまだまだ未完成な一教師である。皆さんとともによき教師像を模索していきたいと思っている。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業案内「英語科指導法の授業で学ぶこと」講義	事前学習	テキスト該当箇所を熟読してくる。
		事後学習	英語科指導法の授業概要を整理する。
第 2 回	* 偶数回の授業は、前回の授業で学んだことについて演習形式でグループ・ワークを行います。 グループワーク A—自己紹介— 注 以下グループワーク A : 模擬授業 グループワーク B : コミュニケーション・ワークと表示します。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、グループ・ワーク実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。
第 3 回	第 1 章 英語教育と英語教育学	事前学習	テキスト (英語教育と英語教育学) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	英語教育と英語教育学のポイントをまとめておく。
第 4 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit.2 の教師による模擬授業デモンストラーション—	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	教師による模擬授業デモンストラーションを振り返り、第 6 回ないしは第 8 回模擬授業時の指導案のアウトラインをつくっておく。
第 5 回	第 2 章 英語の国際化と日本の英語教育	事前学習	テキスト (国際化と日本の英語教育) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	国際化と日本の英語教育のポイントをまとめておく。
第 6 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit.2 の学生による模擬授業 (1) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 6 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 7 回	第 3 章 学習指導要綱	事前学習	テキスト (学習指導要綱) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	学習指導要綱のポイントをまとめておく。

第 8 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 2 の学生による模擬授業 (2) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 8 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 9 回	第 4 章 学習者	事前学習	テキスト (学習者) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	学習者のポイントをまとめておく。
第 10 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 4 の教員による模擬授業デモンストレーション—	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	教師による模擬授業デモンストレーションを振り返り、第 12 回ないしは第 14 回模擬授業時の指導案のアウトラインをつくっておく。
第 11 回	第 5 章 英語教員	事前学習	テキスト (英語教員) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	英語教員のポイントをまとめておく。
第 12 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 4 の学生による模擬授業 (1) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 12 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 13 回	第 7 章 英語教授法	事前学習	テキスト (英語教授法) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	英語教授法のポイントをまとめておく。
第 14 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 4 の学生による模擬授業 (2) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 14 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 15 回	第 8 章 第二言語習得と英語教育	事前学習	テキスト (第二言語習得と英語教育) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	第二言語習得と英語教育のポイントをまとめておく。
第 16 回	演習形式でグループ・ワーク B —「英語教員に求められる能力」グループ・ディスカッション—	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、プレゼンテーション実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。
第 17 回	第 9 章 コミュニケーション能力の育成	事前学習	テキスト (コミュニケーション能力の育成) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	コミュニケーション能力の育成のポイントをまとめておく。
第 18 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 6 の教員による模擬授業デモンストレーション—	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	教師による模擬授業デモンストレーションを振り返り、第 20 回ないしは第 22 回模擬授業時の指導案のアウトラインをつくっておく。
第 19 回	第 10 章 リスニング	事前学習	テキスト (リスニング) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	リスニングのポイントをまとめておく。
第 20 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 6 の学生による模擬授業 (1) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 20 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 21 回	第 11 章 スピーキング	事前学習	テキスト (スピーキング) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	スピーキングのポイントをまとめておく。

第 2 2 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 6 の学生による模擬授業 (2) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 22 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 2 3 回	第 12 章 リーディング	事前学習	テキスト (リーディング) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	リーディングのポイントをまとめておく。
第 2 4 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 8 の教員による模擬授業デモンストレーション—	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	教師による模擬授業デモンストレーションを振り返り、第 26 回ないしは第 28 回模擬授業時の指導案のアウトラインをつかっておく。
第 2 5 回	第 13 章 ライティング	事前学習	テキスト (ライティング) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	ライティングのポイントをまとめておく。
第 2 6 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 8 の学生による模擬授業 (1) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 26 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 2 7 回	第 17 章 教科書と教材研究	事前学習	テキスト (教科書と教材研究) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	教科書と教材研究のポイントをまとめておく。
第 2 8 回	演習形式でグループ・ワーク A —New Horizon Unit. 8 の学生による模擬授業 (2) —	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 28 回授業グループ・ワークを振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 2 9 回	学生によるプレゼンテーション： 「あなたの理想の英語教師像」	事前学習	プレゼンテーションが出来るよう 3 回目レポートを準備しておく
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、プレゼンテーション実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。
第 3 0 回	グループ・ディスカッション： 「あなたの理想の英語教師像」	事前学習	自分の目指す英語教員について考えをまとめておく。
		事後学習	ディスカッションを振り返り、気づいた点をまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	EDEN3342
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「英語科指導法Ⅰ」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	英語科指導法Ⅰで学んだことを踏まえ、教育実習に必要な実践的な知識を身につけることを目標とする。授業の構成は以下になる。まず、学習者及び、言語活動のポイントに応じて、授業が展開できるよう、基本的な知識や指導技術を学び、次に、学んだことや自分で行った教材研究の成果を生かして、指導案を作成する。この指導案に基づいて、模擬授業を展開し、自己及び相互評価、ディスカッションを通して、授業の改善の可能性を探る。最後に、より良い授業を目指して、教授法と教授技術の学びを深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できる。 2. 教材研究を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができる。 3. 文法を中心とした指導案とコミュニケーションを中心とした指導案の作成方法を学習し、実際に指導案を作成できる。 4. 模擬授業を体験し、クラスディスカッションを通して授業改善のヒントをつかむことができる。 5. 視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>3回のレポート提出を課す。</p> <p>1回目は、「『NEW HORIZON English Course 3』のUnit 3の授業計画案」を作成する。</p> <p>2回目は、「『NEW HORIZON English Course 3』のUnit 5の授業計画案」を作成する。</p> <p>3回目は、「『NEW HORIZON English Course 3』のUnit 7の授業計画案」を作成する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 JACET 教育問題研究会編『新 英語科教育の基礎と実践』三修社、2005 年。 笠島準一著『NEW HORIZON English Course 3』東京書籍、2012 年。		
11. 成績評価の方法	<p>授業参加度 30点：授業時のディスカッションや模擬授業時の生徒役としての積極度を評価対象とする。</p> <p>レポート 20点：アサイメント (宿題) 及びレポート課題で提示したレポートを評価対象とする。</p> <p>模擬授業評価 50点：本講座において、模擬授業を各自 3 回行う。指導案と授業実践を評価対象にする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	本授業を、将来の良き教師への成長の場としてほしい。講師自身もまだまだ未完成な一教師なので、皆さんとともによき教師像を模索していきたい。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業案内。「英語科指導法Ⅱの授業で学ぶこと」講義。 注：以下の奇数回授業の各章名は、テキストの章に基づいた講義を行う。	事前学習	テキスト該当箇所を講読してくる。
		事後学習	英語科指導法の授業概要を整理する。
第 2 回	「よい教師の資質とは」グループ・ディスカッション	事前学習	よい教師の資質について、考えをまとめてくる。
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、プレゼンテーション実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。
第 3 回	第 3 章 英語教授法	事前学習	テキスト (英語教授法) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 4 回	① 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 3。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 4 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 5 回	第 4 章 英語教員の役割と要件	事前学習	テキスト (英語教員の役割と要件) を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 6 回	② 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 3。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 6 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 7 回	第 5 章 第一言語習得と第二言語習得	事前学習	テキスト (第一言語習得と第二言語習得) を熟読し、疑問点をまとめておく。

		事後学習	次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 8 回	③ 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 3。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 8 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 9 回	第 6 章 学習者論	事前学習	テキスト（学習者論）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	学習者論のポイントをまとめておく。次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 10 回	① 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 5。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 10 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 11 回	第 7 章 コミュニケーション能力	事前学習	テキスト（コミュニケーション能力）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	コミュニケーション能力のポイントをまとめておく。次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 12 回	② 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 5。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 12 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 13 回	第 9 章 発音指導	事前学習	テキスト（発音指導）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	発音指導のポイントをまとめておく。次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 14 回	③ 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 5。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	第 14 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 15 回	第 11 章 リスニング指導	事前学習	テキスト（リスニング指導）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	リスニング指導のポイントをまとめておく。次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 16 回	① 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 7。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする
		事後学習	第 16 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 17 回	第 12 章 リーディング指導	事前学習	テキスト（リーディング指導）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	リーディング指導のポイントをまとめておく。次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 18 回	② 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 7。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする
		事後学習	第 18 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 19 回	第 14 章 ライティング指導	事前学習	テキスト（ライティング指導）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	ライティング指導のポイントをまとめておく。次回授業の模擬授業者は、指導案を作成しておく。
第 20 回	③ 演習形式で模擬授業を行う。対象は『NEW HORIZON English Course 3』の Unit 7。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。

		事後学習	第 20 回模擬授業を振り返り、授業担当者は、自己の授業実践の振り返りを、生徒役の学生は、授業担当者への良かった点・悪かった点のフィードバックをノートにまとめておく。
第 21 回	第 15 章 語彙指導	事前学習	テキスト（語彙指導）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	語彙指導のポイントをまとめておく。
第 22 回	DVD『プロフェッショナル 中学教師』を視聴し、グループ・ディスカッションを行う。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、プレゼンテーション実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。
第 23 回	第 16 章 文法指導	事前学習	テキスト（文法指導）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	文法指導のポイントをまとめておく。
第 24 回	DVD『プロフェッショナル 中学教師』を視聴し、グループ・ディスカッションを行う。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、プレゼンテーション実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。
第 25 回	第 23 章 テストと評価	事前学習	テキスト（テストと評価）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	テストと評価のポイントをまとめておく。
第 26 回	3 年生 1 学期末を想定した、期末テストの作成演習を行う。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	本授業のテスト作成演習を振り返り、ノートにまとめておく。
第 27 回	第 24 章 教育実習	事前学習	テキスト（教育実習）を熟読し、疑問点をまとめておく。
		事後学習	教育実習のポイントをまとめておく。
第 28 回	DVD『プロフェッショナル 中学教師』を視聴し、グループ・ディスカッションを行う。	事前学習	奇数回の授業終了時に課題・演習形式の予告と事前学習の指示をする。
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、プレゼンテーション実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。
第 29 回	教室英語を学習する。	事前学習	ノートを再確認し、疑問点等があれば書き出ししておく。
		事後学習	教室英語で使える文型をノートにまとめておく。
第 30 回	まとめ「再・よい英語教師の資質とは」グループ・ディスカッション	事前学習	英語教師の資質について、再度考えをまとめておく。
		事後学習	授業演習を振り返り、気づいた点等をまとめておく。特に、プレゼンテーション実践時の自己評価と他の学生からのフィードバックをノートにまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習 I (文法・読解) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1301
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本講座修得後、英語基礎演習 II の受講が望ましい。		
7. 講義概要	英語の「読む力」や他の技能を向上させるには、英文法の基礎知識が不可欠である。本科目では英文法の基礎的な事項を改めて復習しながら様々な形態の練習問題をこなすことで、各自が持つ文法知識をより実践的に活用できるようになるよう目指す。特に英語の文構造を理解しながら意味を把握することで、英文をより正しく解釈するための基礎を培っていく。また文法力と同時に語彙力も必要であるため、継続的に語彙知識の増強を図っていく。		
8. 学習目標	1. 英文法の基礎をしっかりと固めて、自分の持つ文法知識をより体系的に捉えられるようになる。 2. 学習した英文法を英語の「読む力」や他の技能の養成へと実践的に活かせるようになる。 3. 英文読解や他の技能の養成に必要な語彙知識の量を効果的に増やせるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【宿題】毎週、教科書の演習問題を事前学習すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】佐藤哲三他著『First Primer<Revised Edition>』南雲堂、2012 年。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 50% : テキストが演習形式となっているので、授業時の演習解答の正確性を評価する。 2 演習問題 (宿題) 総合点の 40% : 授業開始時に、ノートの確認をし、予習の有無を確認する。 3 日常の学習状況 総合点の 10% : 授業時の学習態度を評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	英語の読解力を身につけるためには、文法の基本事項を確認し、辞書をよく引き予習に十分時間をかけて英文の内容を深く考えることが必要である。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明、授業計画・予定、英語の勉強の仕方を説明する。) UNIT 1 be 動詞を学習する。	事前学習	辞書、ノートを用意する。
		事後学習	Unit 1 の問題 (練習問題・長文問題(pp.15~16)で間違えた個所を確認しておく。
第 2 回	UNIT 2 一般動詞 (現在) を学習する。	事前学習	Unit 2 の問題 (練習問題) (p.18)を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.18~19)の間違った個所を確認する。
第 3 回	UNIT 3 一般動詞 (過去) を学習する。	事前学習	Unit 3 (練習問題) (p.21)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.21~22)の間違った個所を確認する。
第 4 回	UNIT 4 進行形を学習する。	事前学習	Unit 4 (練習問題) (p.24)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.24~25)の間違った個所を確認する。
第 5 回	UNIT 5 未来形を学習する。	事前学習	Unit 5 (練習問題) (p.27)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.27~28)の間違った個所を確認する。
第 6 回	UNIT 6 助動詞を学習する。	事前学習	Unit 6 (練習問題) (p.30)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.30~31)の間違った個所を確認する。
第 7 回	UNIT 7 名詞・冠詞を学習する。	事前学習	Unit 7 (練習問題) (p.34)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.34~35)の間違った個所を確認する。
第 8 回	UNIT 8 代名詞を学習する。	事前学習	Unit 8 (練習問題) (p.37)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.37~38)の間違った個所を確認する。
第 9 回	UNIT 9 前置詞を学習する。	事前学習	Unit 9 (練習問題) (p.40)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.40~41)の間違った個所を確認する。
第 10 回	UNIT 10 形容詞・副詞を学習する。	事前学習	Unit 10 (練習問題) (p.43)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.43~44)の間違った個所を確認する。
第 11 回	UNIT 11 比較を学習する。	事前学習	Unit 11 (練習問題) (p.46)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.46~47)の間違った個所を確認する。
第 12 回	UNIT 12 命令文・感嘆文を学習する。	事前学習	Unit 12 (練習問題) (p.49)の問題を解いてくる。

		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.49～50)の間違った箇所を確認する。
第 1 3 回	UNIT 13 接続詞を学習する。	事前学習	Unit 13 (練習問題) (p.52)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.52～53)の間違った箇所を確認する。
第 1 4 回	UNIT 14 不定詞・動名詞を学習する。	事前学習	Unit 14 (練習問題) (p.55)の問題を解いてくる。
		事後学習	当 UNIT の練習問題・長文問題(pp.55～56)の間違った箇所を確認する。
第 1 5 回	授業のまとめ・質問	事前学習	第 1-14 回の授業時のノートを確認し、テキストの練習問題・長文問題で間違えた箇所を再確認しておく。
		事後学習	第 1-14 回の授業時のノートを確認し、重要な点(教師が赤字で板書した箇所)を確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習Ⅲ (文法・作文) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2301
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義、演習、 ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	英文法事項の整理・確認と英作文の展開を融合させたテキストを用いる。英文法の基礎的な事項を復習し確認しながら英文を書く基礎を身につける。また、各課の重要事項を踏まえたうえで自ら相手に伝えたいことを英語で「書く」訓練も合わせて積んでいく。将来のパラグラフライティングへの橋渡しの授業となるよう目指す。		
8. 学習目標	1. 英文を書くために必要な英文法の基本的な事項の復習と確認を行い、実際に基礎的な英文が書けるようになる。 2. 自分で書いた英文の問題点を知り、より良い英文を書くことができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	次回授業のカバー範囲の予習は怠らないこと。		
10. 教科書・参考書・ 教材	酒井志延他著『ENGLISH QUEST INTRO』桐原書店、2006、1900 円＋税。		
11. 成績評価の方法	授業参加態度 30% 課題テスト 70%		
12. 受講生への メッセージ	次回授業のカバー範囲の予習は怠らないこと。		
13. オフィスアワー	初回授業時に案内する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業案内 Unit1 I LOVE MUSIC	事前学習	Unit1. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit1. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 2 回	Unit2 CHERRY BLOSSOMS ARE SPECIAL	事前学習	Unit2. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit2. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 3 回	Unit3 LIFE IN JAPAN	事前学習	Unit3. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit3. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 4 回	Unit4 SHOPPING FOR BEAUTIFUL EYES	事前学習	Unit4. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit4. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 5 回	Unit5 I LOVE SPORTS!	事前学習	Unit5. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit5. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 6 回	Unit6 A PART-TIME JOB	事前学習	Unit6. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit6. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 7 回	Unit7 LOVE AND PEACE	事前学習	Unit7. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit7. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 8 回	Unit8 “COSPLAY” IS COOL	事前学習	Unit8. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit8. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 9 回	Unit9 AFRICA OR ITALY	事前学習	Unit9. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit9. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 10 回	Unit10 NO SMOKING, PLEASE.	事前学習	Unit10. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit10. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 11 回	Unit11 LET'S GO TO A MOVIE!	事前学習	Unit11. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit11. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 12 回	Unit12 WHICH CLASS IS BETTER?	事前学習	Unit12. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit12. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 13 回	Unit13 THE BEST CONCERT	事前学習	Unit13. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit13. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 14 回	Unit14 TO CHICAGO, PLEASE.	事前学習	Unit14. WARM-UP と PRACTICE を一読しておく。
		事後学習	Unit14. PRACTICE の間違い箇所を確認する。
第 15 回	Units1-14 まとめテスト	事前学習	Units 1-14 のポイントを授業時のノートで重要点を確認しておく。
		事後学習	テストでの不明のポイントをテキストで確認。

1. 科目名 (単位数)	英語講読 I (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1311
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義 演習 グループディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	修得以後、英語講読Ⅱ、英語講読Ⅲ、英語講読Ⅳの受講が望ましい。		
7. 講義概要	この授業では、英語基礎演習で習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、英文の構造と意味内容を正確に把握し、英文の読解力の向上をはかり、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなして、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることを旨とする。		
8. 学習目標	1. 英文法を応用して構文を確認しながら、英文を読んで意味内容を把握する力を身に着けるようになる。 2. 英文の読解力向上には、単語力の向上が必要である。そのため、英語の単語の増やし方や、知らない単語の意味を文の前後関係から推測する方法を学び、実際の英文講読に活用できるようになる。 3. 英文を読むこと、書くこと、聞くこと、話すことの 4 技能を統合した言語活動を通じて、英語力の向上に努めることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 2. 1unitを2コマの授業でカバーしていく。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Gillian Flaherty and James Bean 『Extensive Reader BOOK1』成美堂、2004、1,900 円＋税。		
11. 成績評価の方法	受講態度・積極的な参加姿勢 25%：予習の有無、授業時の積極性、解答の正確度を評価する。 小テスト 25%：各ユニット終了後に単語テストを行う。 まとめテスト 50%：最後の授業時において、読解力、単語力、文法力を問うテストを行う。 Units1-7 を対象とする。		
12. 受講生へのメッセージ	各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をして授業に臨むこと。		
13. オフィスアワー	初回の授業時に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction:授業の概要、授業の進め方	事前学習	テキストを概観し、扱うテーマ内容について把握しておく。
		事後学習	シラバスを確認し、授業の進め方について整理しておく。
第 2 回	Unit 1: Run, Terry, run –Reading	事前学習	p.10 の[Reading]を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit1 の[Reading]の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 3 回	Unit 1: Run, Terry, run –Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 1 の[Reading]の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.11 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.11 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 4 回	Unit 2: Human computer –Reading	事前学習	p. 14 の[Reading]を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 2 の[Reading]の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 5 回	Unit 2: Human computer –Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 2 の[Reading]の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.15 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.15 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 6 回	Unit 3: Mr. Eat Everything –Reading	事前学習	p. 18 の[Reading]を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 3 の[Reading]の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 7 回	Unit 3: Mr. Eat Everything –Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 3 の[Reading]の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.19 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.19 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 8 回	Unit 4: Strong Children –Reading	事前学習	p. 22 の[Reading]を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 4 の[Reading]の意味内容を復習し、理解を深めておく。

第 9 回	Unit 4: Strong Children – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 4 の[Reading]の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.23 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.23 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 10 回	Unit 5: Britney is best! – Reading	事前学習	p. 26 の[Reading]を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 5 の[Reading]の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 11 回	Unit 5: Britney is best! – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 5 の[Reading]の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.27 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.27 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 12 回	Unit 6: Music at midnight – Reading	事前学習	p. 30 の[Reading]を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 6 の[Reading]の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 13 回	Unit 6: Music at midnight – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 6 の[Reading]の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.31 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.31 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 14 回	Unit 7: Turn it down! – Reading	事前学習	p. 34 の[Reading]を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 7 の[Reading]の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 15 回	Units 1-7 を試験範囲とし、Reading の英文読解力と、Vocabulary の太字単語・熟語の運用力を測る。	事前学習	Units 1-7 の[Reading]の英文読解ができているのか、Vocabulary の太字単語・熟語の意味とその語法を記憶しているのか、テキスト・ノートで確認をしておく。
		事後学習	まとめテストで不明だった箇所をテキスト・ノートに照らし合わせ確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅳ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2311
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	英語講読Ⅰ、英語講読Ⅱを受講し、以後英語講読Ⅴの受講が望ましい。		
7. 講義概要	本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、多種多様な文学的英語テキストを読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、英語基礎演習で習得した知識を駆使して文学的英語テキストを読解することで、理論的知識の実践的な活用を図る。幅広いジャンルの英語テキストに触れることにより、多様な英語表現に親しむことが本科目のもう一つの眼目である。		
8. 学習目標	1: 学習辞典を適切に引くことができるようになる。 2: 多種多様な英語表現に親しみ、読解できるようになる。 3: 長文の英語テキストを、忍耐強く読み続けることができるようになる。 4: 英文法の知識を駆使しつつも、英語テキストをイメージ豊かに読み進めることができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 2. 1unitを2コマの授業でカバーしていく。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 Gillian Flaherty and Chris Coey 『Extensive Reader BOOK II』成美堂、2004、1,900 円＋税。		
11. 成績評価の方法	受講態度・積極的な参加姿勢 25%: 予習の有無、授業時の積極性、解答の正確度を評価する。 小テスト 25%: 各ユニット終了後に単語テストを行う。 まとめテスト 50%: 最後の授業時において、読解力、単語力、文法力を問うテストを行う。 Units1-7 を対象とする。		
12. 受講生への メッセージ	各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をして授業に臨むこと。		
13. オフィスアワー	初回の授業時に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction:授業の概要、授業の進め方、 勉強の仕方を紹介する。	事前学習	テキストを概観し、扱うテーマ内容について把握しておく。
		事後学習	シラバスを確認し、授業の進め方について整理しておく。
第 2 回	Unit 1: Toon time – Reading	事前学習	Unit 1: Toon time の[Reading] (p.10)を本文を授業時以前に一度通読し、知らない単語の意味調べをし、理解できない英文をチェックしておく。
		事後学習	Unit 1: Toon time の[Reading] (p.10)の英文を再読し、口頭でもよいので各英文を和訳し、内容を理解しているか確認する。
第 3 回	Unit 1: Toon time – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 1: Toon time の[Reading] (p.10)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。 [Vocabulary] (p.11)の設問に答えられるようにしておく。
		事後学習	Unit 1: Toon time の[Vocabulary](p.11)に採り上げられている例文の太字単語・熟語は、特に習熟しておく。
第 4 回	Unit 2: TV world – Reading	事前学習	Unit 2:TV world の [Reading] (p.14)の本文を授業時以前に一度通読し、知らない単語の意味調べをし、理解できない英文をチェックしておく。
		事後学習	Unit 2:TV world の[Reading] (p.14)の英文を再読し、口頭でもよいので各英文を和訳し、内容を理解しているか確認する。
第 5 回	Unit 2: TV world – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 2:TV world の[Reading] (p.14)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。 [Vocabulary] (p.15)の設問に答えられるようにしておく。
		事後学習	Unit 2:TV world の [Vocabulary] (p.15)に採り上げられている例文の太字単語・熟語は、特に習熟しておく。
第 6 回	Unit 3: Laughter – Reading	事前学習	Unit 3:Laughter の[Reading] (p.18)の本文を授業時以前に一度通読し、知らない単語の意味調べをし、理解できない英文をチェックしておく。
		事後学習	Unit 3:Laughter の[Reading] (p.18)の英文を再読し、口頭でもよいので各英文を和訳し、内容を理解しているか確認する。
第 7 回	Unit 3: Laughter – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 3:Laughter の[Reading] (p.18)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。 [Vocabulary] (p.19)の設問に答えられるようにしておく。
		事後学習	Unit 3:Laughter の[Vocabulary] (p.19)に採り上げられている例文の太字単語・熟語は、特に習熟しておく。

第 8 回	Unit 4: That's magic! – Reading	事前学習	[Unit 4: That's magic! の Reading] (p.22)の本文を授業時以前に一度通読し、知らない単語の意味調べをし、理解できない英文をチェックしておく。
		事後学習	Unit 4: That's magic! の[Reading] (p.22)の英文を再読し、口頭でもよいので各英文を和訳し、内容を理解しているか確認する。
第 9 回	Unit 4: That's magic! – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 4: That's magic! の[Reading] (p.22)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。 [Vocabulary] (p.23)の設問に答えられるようにしておく。
		事後学習	Unit4:That's magic! の[Vocabulary] (p.23)に採り上げられている例文の太字単語・熟語は、特に習熟しておく。
第 10 回	Unit 5: London fashion – Reading	事前学習	Unit 5: London fashion の[Reading] (p.26)の本文を授業時以前に一度通読し、知らない単語の意味調べをし、理解できない英文をチェックしておく。
		事後学習	Unit 5: London fashion の[Reading] (p.26)の英文を再読し、口頭でもよいので各英文を和訳し、内容を理解しているか確認する。
第 11 回	Unit 5: London fashion – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 5: London fashion の[Reading] (p.26)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。 [Vocabulary] (p.27)の設問に答えられるようにしておくこと
		事後学習	Unit 5: London fashion の[Vocabulary] (p.27)に採り上げられている例文の太字単語・熟語は、特に習熟しておく。
第 12 回	Unit 6: Surf style – Reading	事前学習	Unit 6: Surf style の [Reading] (p.30)を本文を授業時以前に一度通読し、知らない単語の意味調べをし、理解できない英文をチェックしておく。
		事後学習	Unit 6: Surf style の[Reading] (p.30)の英文を再読し、口頭でもよいので各英文を和訳し、内容を理解しているか確認する。
第 13 回	Unit 6: Surf style – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 6: Surf style の[Reading] (p.30)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。 [Vocabulary] (p.31)の設問に答えられるようにしておく。
		事後学習	Unit 6: Surf style の[Vocabulary] (p.31)に採り上げられている例文の太字単語・熟語は、特に習熟しておくこと。
第 14 回	Unit 7: Male models – Reading	事前学習	Unit 7: Male models の[Reading] (p.34)の本文を授業時以前に一度通読し、知らない単語の意味調べをし、理解できない英文をチェックしておく。
		事後学習	Unit 7: Male models の[Reading] (p.34)の英文を再読し、口頭でもよいので各英文を和訳し、内容を理解しているか確認する。
第 15 回	まとめテスト Units 1-7 を試験範囲とし、Reading の英文読解力と、Vocabulary の太字単語・熟語の運用力を図る。	事前学習	Units1-7 の Reading の英文を読解できるか、その意味内容を適切な日本語で表現できるか、Vocabulary の太字単語・熟語の意味とその綴りを記憶しているか確認しておく。
		事後学習	まとめテストで不明だった箇所をテキスト・ノートに照らし合わせ確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	英語講読 V (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2312
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	演習、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	E/EJ 1 年次以上 英語講読 I, II, IV を受講していることが望ましい。		
7. 講義概要	英語圏の小説や英語のリーディングテキストを教材として使用し、習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文の英文を読む力を身につける。ストーリーの面白さを味わいながら、英語で物語を読む楽しさを体験すること、歴史上の人物のライフストーリーを追体験しながら、他者への想像力を鍛えることを目的とする。この授業を履修することによって得る読書体験は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際に必ず役立つ。また、言語の背景に潜在する歴史や文化を理解することにより、異文化圏の人々とコミュニケーションする際にも役に立つ。		
8. 学習目標	1. 英文法の基本事項を確認し、英語の読解力を身に付ける。 2. 英語圏の小説や歴史、文化に関する理解を深めることができる。 3. 多様な英語表現に親しみ、異文化コミュニケーションに活用できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 2. 1unit を 2 コマの授業でカバーしていく。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Gillian Flaherty and Chris Coey 『Extensive Reader BOOK II』成美堂、2004、1,900 円＋税。		
11. 成績評価の方法	受講態度・積極的な参加姿勢 25% : 1、予習してあるか、2、授業において積極的に授業に関わっているか、の 2 点を評価する。 小テスト 25% : 各ユニット終了時にそのユニットの重要単語の小テストを行う。 まとめテスト 50% : 第 1～15 回授業において学んだことをテストする。読解力、単語力などを広く授業時に学んだことの習得度を計る。		
12. 受講生へのメッセージ	各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をして授業に臨むこと。		
13. オフィスアワー	初回の授業時に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction: 授業の概要、授業の進め方、勉強の仕方を紹介する。	事前学習	テキストを概観し、扱うテーマ内容について把握しておく。
		事後学習	シラバスを確認し、授業の進め方について整理しておく。
第 2 回	Unit11: The blue whale – Reading	事前学習	Unit 11 の [Reading] (p.50) を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 11 の [Reading] (p.50) の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 3 回	Unit11: The blue whale – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 11 の [Reading] (p.50) の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.51 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.51 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 4 回	Unit12: Animal parents – Reading	事前学習	Unit 12 の [Reading] (p.54) を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 12 の [Reading] (p.54) の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 5 回	Unit12: Animal parents – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 12 の [Reading] (p.54) の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.55 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.55 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 6 回	Unit13: Tiger Woods – Reading	事前学習	Unit 13 の [Reading] (p.58) を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 13 の [Reading] (p.58) の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 7 回	Unit13: Tiger Woods – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 13 の [Reading] (p.58) の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.59 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.59 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 8 回	Unit14: A famous ballpark – Reading	事前学習	Unit 14 の [Reading] (p.62) を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 14 の [Reading] (p.62) の意味内容を復習し、理解

			を深めておく。
第 9 回	Unit14:A famous ballpark – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 14 の[Reading] (p.62)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.63 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.63 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておくこと。
第 10 回	Unit15: Skateboarding – Reading	事前学習	Unit 15 の[Reading](p.66)を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 15 の[Reading] (p.66)の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 11 回	Unit15:Skateboarding – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 15 の[Reading] (p.66)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.67 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.67 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 12 回	Unit16: Basketball – Reading	事前学習	Unit 16 の[Reading](p.70)を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 16 の[Reading] (p.70)の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 13 回	Unit16:Basketball – Vocabulary, In other words, Listening for Detail	事前学習	Unit 16 の[Reading] (p.70)の意味内容を再度復習し、理解を深めておく。p.71 の Vocabulary には答えられるようにしておく。
		事後学習	p.71 の Vocabulary に採り上げられている単語は習熟しておく。
第 14 回	Unit17: Crime doesn't pay – Reading	事前学習	Unit 17 の[Reading](p.74)を授業時以前に一度目を通し、知らない単語の意味調べは終えておく。
		事後学習	Unit 17 の[Reading](p.74)の意味内容を復習し、理解を深めておく。
第 15 回	まとめテスト Units11-17 を試験範囲とし、Reading の英文読解力と、Vocabulary の太字単語・熟語の運用力を図る。	事前学習	Units 11-17 の Reading の英文を読解できるか、その意味内容を適切な日本語で表現できるか、Vocabulary の太字単語・熟語の意味とその綴りを記憶しているか確認しておく。
		事後学習	まとめテストで不明だった箇所をテキスト・ノートに照らし合わせ確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅵ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2303
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義、演習、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	E/EJ 2年次以上、英語講読Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの内2~3科目の受講済が望ましい。		
7. 講義概要	英語の読解力を向上させるためには、単語、熟語、文法事項などを確認しながら正確に読む精読と、スピードを意識しながら大量の文書を読み進める速読の両方の読み方を駆使する必要がある。そこで、本授業では、読む目的に応じて、英文の速読と精読を行い、英文の読解力の向上を目指す。題材は、これから教壇で英語を教える学生に役立つように配慮したので、各課のねらいに従って、タスクを行い、問題の解決力や批判的思考力も身に付けてほしい。このようにして、学生は、これまでに習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、英文の読解力の向上を目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教員として必要な語彙知識と文法知識を、英文読解を通して培うことができる。 2. 読む目的に応じて、英文を読む速度を変え、効率良く英文を読むコツを学習し、実際の英文講読で活用できるようになる。 3. 英文テキストの要点をまとめ、他文化や他言語と比較し、類似点や相違点を発見し、自分の考えを表現することができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	次回授業時のカバー範囲は、予習しておくこと。 2回のレポート提出を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 John S. Lander 『 <i>Hollywood Dialogs</i> 』朝日出版、2004、1800 円＋税。		
11. 成績評価の方法	授業参加点 25 点：授業時における、学習意欲とその表れ (1. 予習がしてあるか、2. 授業時の学習課題に意欲的に取り組んでいるか) を評価する。 レポート点 25 点：unit の “Movie Summary” のなかから 3 つ指定し、その部分の和訳をレポート課題とする。 まとめテスト 50 点：第 1～15 回の授業時にカバーしたテキスト学習範囲をテスト範囲とし、主として英文読解理解力を試す。		
12. 受講生へのメッセージ	楽しく学んでほしい。		
13. オフィスアワー	初回授業時に案内する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業案内：授業の概要、授業の進め方、勉強の仕方を紹介する。 Unit 2 <i>A.I. – Movie Summary –</i>	事前学習	<i>A.I. – Movie Summary –</i> を一読し、知らない単語の意味調べをし、英文講読できない箇所を明らかにしておく。
		事後学習	<i>A.I. – Movie Summary –</i> を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 2 回	Unit 2 <i>A.I. – Key Vocabulary, Vocabulary Check –</i>	事前学習	<i>A.I. – Key Vocabulary, Vocabulary Check –</i> を一読し、知らない単語の意味調べをし、和訳もできるようにしておく。
		事後学習	<i>A.I. – Key Vocabulary, Vocabulary Check –</i> を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 3 回	Unit 2 <i>A.I. – Steven Spielberg Biography –</i>	事前学習	<i>A.I. – Steven Spielberg Biography –</i> を一読し、知らない単語の意味調べをし、英文講読できない箇所を明らかにしておく。
		事後学習	<i>A.I. – Steven Spielberg Biography –</i> を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 4 回	Unit 5 <i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – Movie Summary –</i>	事前学習	<i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – Movie Summary –</i> を一読し、知らない単語の意味調べをし、内容把握上で疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	<i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – Movie Summary –</i> を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 5 回	Unit 5 <i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – Key Vocabulary, Vocabulary Check –</i>	事前学習	<i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – Key Vocabulary, Vocabulary Check –</i> を一読し、知らない単語の意味調べをし、和訳もできるようにしておく。
		事後学習	<i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – Key Vocabulary, Vocabulary Check –</i> を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 6 回	Unit 5 <i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – J. K. Rowling Biography –</i>	事前学習	<i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – J. K. Rowling Biography –</i> を一読しておく。
		事後学習	<i>Harry Potter and the Sorcerer’s Stone – J. K. Rowling Biography –</i> を再読し、英語で内容が理

			解できるか確認しておく。
第 7 回	Unit 7 <i>The Lord of the Rings</i> – Movie Summary –	事前学習	<i>The Lord of the Rings</i> –Movie Summary–を一読し、知らない単語の意味調べをし、内容把握上で疑問点を明らかにしておく。疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	<i>The Lord of the Rings</i> –Movie Summary–を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 8 回	Unit 7 <i>The Lord of the Rings</i> –Key Vocabulary, Vocabulary Check –	事前学習	<i>The Lord of the Rings</i> –Key Vocabulary, Vocabulary Check –を一読し、知らない単語の意味調べをし、英文講読できない箇所を明らかにしておく。
		事後学習	<i>The Lord of the Rings</i> –Key Vocabulary, Vocabulary Check –を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 9 回	Unit 7 <i>The Lord of the Rings</i> –Elijah Wood Biography –	事前学習	<i>The Lord of the Rings</i> –Elijah Wood Biography –を一読し、知らない単語の意味調べをし、和訳もできるようにしておく。
		事後学習	<i>The Lord of the Rings</i> –Elijah Wood Biography –を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 10 回	Unit 10 <i>Spider-Man</i> – Movie Summary –	事前学習	<i>Spider-Man</i> –Movie Summary–を一読し、知らない単語の意味調べをし、内容把握上で疑問点を明らかにしておく。疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	<i>Spider-Man</i> –Movie Summary–を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 11 回	Unit 10 <i>Spider-Man</i> – Key Vocabulary, Vocabulary Check –	事前学習	<i>Spider-Man</i> –Key Vocabulary, Vocabulary Check–を一読し、知らない単語の意味調べをし、和訳もできるようにしておく。
		事後学習	<i>Spider-Man</i> –Key Vocabulary, Vocabulary Check – を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 12 回	Unit 10 <i>Spider-Man</i> – Tobey Maguire Biography –	事前学習	<i>Spider-Man</i> –Tobey Maguire Biography –を一読しておく。
		事後学習	<i>Spider-Man</i> –Tobey Maguire Biography –を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 13 回	Unit 11 <i>Star Wars II</i> – Movie Summary –	事前学習	<i>Star Wars II</i> –Movie Summary–を一読し、知らない単語の意味調べをし、内容把握上で疑問点を明らかにしておく。疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	<i>Star Wars II</i> –Movie Summary –を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 14 回	Unit11 <i>Star Wars II</i> – Key Vocabulary, Vocabulary Check –	事前学習	<i>Star Wars II</i> – Key Vocabulary, Vocabulary Check –を一読し、知らない単語の意味調べをし、和訳もできるようにしておく。
		事後学習	<i>Star Wars II</i> – Key Vocabulary, Vocabulary Check –を再読し、英語で内容が理解できるか確認しておく。
第 15 回	まとめテストを行う。 Units 2,5,7,10,11 を試験範囲とし、英文読解力、単語・熟語の運用力を図る。	事前学習	Units2,5,7,10,11 の Movie Summary, Biography を和訳できるか確認をしておく。Key Vocabulary, Vocabulary Check の太字単語・熟語を確認しておく。
		事後学習	テスト内容で不明であった部分は、テキストで確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	衛生学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	戎 弘志		
4. 授業形態	講義を中心に、演習、実習等を導入する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともに、それらが健康に如何なる影響を及ぼすかを考え、併せて、子供のときからよい環境衛生条件を維持することが重要であることを認識することを主なねらいとして、人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する。</p> <p>よりよく「生きること」を「衛(護衛する)学問」衛生学は、①生きるための資源、②生きる場(生活の場)、③生きる様式(生活習慣)が、人類の存続、生活生存に影響することに視点を当てている。空気・水・光・土壌・植生・食品、住居・被服・学校・職場等の環境衛生学を核にして、人間生態系にまで視点を広げ、学校教育や就学前教育を支える保育士・養護教諭・保健科教師の専門性の基礎基盤を修得することを目的とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 人間の生きる力は、環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解し、応用することが出来る。 環境の捉え方を包括することが出来る。 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解する。 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測する。 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等の理解とその体系を構築する。 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことが出来る。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>【アサシメント(宿題)】: 原稿用紙3枚以内。提出日は、授業時に指定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校環境衛生の基準について説明せよ。 気象因子と人間の心身状態との関連を説明せよ。 建築基準法と建築物衛生管理基準について検討せよ。 各種職場環境の環境衛生の実態と労働者への健康影響について課題を発見し、解決の方法を模索せよ。 環境衛生から環境保健、主体一環境系へ、細胞・組織・器官のレベルから環境との関わりを検討せよ。 <p>【レポート課題】: 最終授業時に提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間一環境系について、環境衛生学の立場から論述せよ。(2,000字程度) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木路子・眞野喜洋編著『教育健康学—教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい、1999年、4,200円(税込)。 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座(1)人体の構造と機能及び疾病』中央法規2015年、2,200円</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007年、2,310円(税込)。 鈴木路子編著『人間環境・教育福祉論』光生館、2007年、2,100円(税込)。 鈴木庄亮、久道茂監修『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂、2013年、2,520円(税込)。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>期末試験70%、レポート15%、日常の授業態度(質問、授業後のコメント)15%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>人間の健康、心身状態・生命現象は、環境との相互作用の中で営まれること、多くのストレスへの身体内部の諸反応を含めた内部環境は、身近な生活環境から、地球環境レベルでの外部環境との相互作用の中で存続していることを実感するため、各種測定を行って共に考えてゆくひと時に使いたいと考える。人間(内部環境)は長い人類の歴史の中で外的環境への適応という形で存続していることを衛生学の理念として理解されたい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業前後の時間、これ以外の時間については教務課に相談しアポイントを取ること。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(講義概要の説明) 衛生学とは? 健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について	事前学習	衛生学とはどんな学問か調べる。
		事後学習	教科書の目次を読み、これからどのような勉強をするか理解する。
第2回	人間生態系のとらえ方を基盤にした人間の生活生存のあり方を考える	事前学習	人間の進化とは何か調べる。
		事後学習	人間の生活環境を理解してノートにまとめる。
第3回	自然環境と人の健康、生命、発育、人工環境化によって生じる健康上のゆがみに関する具体的健康現象—生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応に視点をおいて—	事前学習	生活環境とは、どのようなことか資料等で調べる。
		事後学習	生活環境、自然環境は生活にどのように影響するか理解する。
第4回	人類の進化過程から見た「個体発生と系統発生」: 人間の発育発達、生活生存の様相(心身の健康状態)	事前学習	成長とはどのようなことか、理解する。
		事後学習	ヒトの成長の特徴を知り、生命の流れを理解してまとめる。
第5回	光と生体リズム、学習環境としての学校環境衛生基準(照度及び照明環境)	事前学習	生活環境と視覚について資料等で調べる。
		事後学習	照度等が人間に及ぼす影響をノートにまとめる。
第6回	音と人間の感性の発達、心身の調和、学習環境・労働環境と騒音及び騒音レベル(人体への影響・	事前学習	生活環境と聴覚について資料等で調べる。
		事後学習	騒音と環境、難聴の原因を理解してまとめる。

	安全基準)		
第 7 回	空気と人間①：空中微生物・浮遊粉塵（ハウスダスト含）・空中化学物質等の環境基準と人体影響	事前学習	空気の成分と呼吸器について資料等で調べる。
		事後学習	空気中の有害成分が人体に及ぼす影響をまとめる。
第 8 回	空気と人間②：温熱条件（温度・湿度・気流・実効輻射温度・気圧・日照等、気象条件）の人体影響	事前学習	温度、体温、湿度について調べる。
		事後学習	温度、湿度が人間生活に及ぼす影響をノートにまとめる。
第 9 回	生活習慣と人の健康①：生体リズムの同調（獲得過程）と脱同調による健康障害（自律神経不安定症）	事前学習	脳について調べる。
		事後学習	生活リズムと生活習慣が健康に及ぼす影響をまとめる。
第 10 回	生活習慣と人の健康②：生活習慣病について	事前学習	生活習慣病とは何か調べる。
		事後学習	生活習慣病の種類と原因、その症状についてノートにまとめる。
第 11 回	職業と健康：VDT 症候群、塵肺、アスベスト・浮遊粒子状物質等による呼吸器系疾患ほか	事前学習	呼吸器の仕組みについて調べる。
		事後学習	空気中の有害物質と呼吸器の関係について理解してまとめる。
第 12 回	養護教諭の行う環境衛生の実際、環境衛生管理から環境教育へ	事前学習	環境衛生とはどんな学問か調べる。
		事後学習	環境衛生の重要性についてノートにまとめる。
第 13 回	水と健康：水質汚濁と健康被害⇔水系感染症、環境汚染病（重金属による健康被害：水俣病ほか）	事前学習	水系感染症とはどんな学問か調べる。
		事後学習	水系感染症と水質汚濁の人体に及ぼす影響についてまとめる。
第 14 回	学校環境衛生・地域環境衛生・建築物環境衛生基準（シックビル症候群等）	事前学習	環境衛生とは何か調べる。
		事後学習	環境が人体に及ぼす影響を理解して、ノートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書の目次を読む。
		事後学習	目次を見ながら再学習し、理解できない箇所をなくす。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英米児童文学演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3314
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	この科目では、児童文学の名作といわれる作品を読み、英文の読解力を身につけるとともに、子どもたちの世界を描いた作品の世界を理解して、作品と時代との関わりや文化との関わりをも考察する。この授業を履修することによって得る読書体験は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際に必ず役立つ。		
8. 学習目標	1. 英文の読解力が身に付く。 2. 児童文学の作品のテーマや文体の技法の特徴を理解できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	3回のレポートを課す。それぞれの課題は、次回授業でカバーする講読箇所の和訳を課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 Laura I. Wilder 著 『“These Happy Golden Years” 邦文タイトル「ローラの青春」』 成美堂、1990年。		
11. 成績評価の方法	期末試験 50% 授業態度 30% レポート 20%		
12. 受講生への メッセージ	授業終了時に次回の授業でカバーする範囲を知らせるので、その部分はあらかじめ授業開始以前に一回講読し、おおよその内容を把握の上、授業に出席するのが望ましい。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業案内。作品紹介。	事前学習	テキスト「はしがき」を読み、作品の概略を確認する。
		事後学習	課題文献(作者)に関する調査(図書館・WEB)を行っておく。
第2回	DVD『大草原の小さな家』視聴。	事前学習	課題文献(作品)に関する調査(図書館・WEB)を行っておく。
		事後学習	課題文献に関する調査(図書館・WEB)を行っておく。
第3回	‘Laura Leaves Home’ pp.1.01~3.08 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第4回	‘Laura Leaves Home’ pp.3.09~5.06 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第5回	‘Laura Leaves Home’ pp.5.07~7.026 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第6回	‘Laura Leaves Home’ pp.7.027~9.025 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第7回	‘Laura Leaves Home’ pp.9.026~11.011 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第8回	‘One Week’ pp.22.01~24.05 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第9回	‘One Week’ pp.24.06~26.013 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第10回	‘One Week’ pp.26.014~28.02 講読・演習(構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。

第 1 1 回	'One Week' pp.28.03~30.01 講読・演習 (構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第 1 2 回	'One Week' pp.30.02~31.022 講読・演習 (構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第 1 3 回	'Sleigh Bells' pp.32.01~33.026 講読・演習 (構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第 1 4 回	'Sleigh Bells' pp.34.01~35.011 講読・演習 (構文の説明および内容確認)。	事前学習	前回授業時に学習課題の告知・この個所の事前講読を終えておく。
		事後学習	学習個所再講読・和訳清書をノートに記入する。
第 1 5 回	講義における教師からの指摘ポイントをまとめておく。	事前学習	予告してある試験課題個所の学習をする。
		事後学習	授業時の教師からの指摘ポイントの再確認をする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英米文学演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3313
2. 授業担当教員	松本 一喜		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、文学的英語テキストを精確に読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、文学作品が何らかの形で言及するところの西洋的な価値基準について検討し、日本と対照的な英米の諸相を概観すると同時に、両文化に共通する生命への価値観を考察する。		
8. 学習目標	1: 英米文学作品における英語表現を精読することができる。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができる。 3: 英米文学作品の歴史的・文化的な背景を知悉し、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業時に指示する。 3回レポートを提出する。レポート課題は、次回時の講義箇所を和訳したものを次回時の授業時に提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 Roger Lancelyn Green 『" New Tales From Shakespeare" 邦文タイトル「新シェイクスピア物語」』 成美堂、1983。		
11. 成績評価の方法	授業態度 30% レポート 20% 期末試験 50%		
12. 受講生への メッセージ	授業終了時に次回の授業でカバーする範囲を知らせるので、その部分はあらかじめ授業開始以前に一回講 読し、おおよその内容を把握の上、授業に出席すること。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業案内。シェイクスピアに関する DVD 視聴。	事前学習	シェイクスピアについて、資料を探し調べて おく。
		事後学習	シェイクスピア作品を調査しておく (図書 館・WEB)。
第 2 回	シェイクスピアに関する DVD 残り視聴。	事前学習	シェイクスピア作品を調査しまとめておく。
		事後学習	『ヴェニスの商人』を調査しまとめておく。 (図書館・WEB)
第 3 回	シェイクスピアに関する英文講読 (授業時に講読資料配 布) 及びペアないしはグループ学習。	事前学習	シェイクスピア作品の事前講読を行い、疑問 点をまとめておく。
		事後学習	授業時に講読資料学習箇所の再講読・和訳清 書をおこなう。
第 4 回	シェイクスピアに関する英文講読 (授業時に講読資料配 布) 及びペアないしはグループ学習。	事前学習	シェイクスピア作品の事前講読を行い、疑問 点をまとめておく。
		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 5 回	DVD 『ヴェニスの商人』視聴。	事前学習	『ヴェニスの商人』を調査 (図書館・WEB) しまとめておく。
		事後学習	DVD 『ヴェニスの商人』について疑問点をま とめる
第 6 回	DVD 『ヴェニスの商人』残り視聴。 テキスト pp. 2-3 講読及びペアないしはグループ学習。	事前学習	テキスト pp. 2~3 の事前講読を行い、疑問点 をまとめておく。
		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 7 回	テキスト pp. 4-5 講読及びペアないしはグループ学習。	事前学習	テキスト pp. 4~5 の事前講読を行い、疑問点 をまとめておく。
		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 8 回	テキスト pp. 6-7 講読及びペアないしはグループ学習。	事前学習	テキスト pp. 6~7 の事前講読を行い、疑問点 をまとめておく。
		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 9 回	テキスト pp. 8-9 講読及びペアないしはグループ学習。	事前学習	テキスト pp. 8~9 の事前講読を行い、疑問点 をまとめておく。
		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 10 回	テキスト pp. 10-11 講読及びペアないしはグループ学 習。	事前学習	テキスト pp. 10~11 の事前講読を行い、疑問 点をまとめておく。
		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 11 回	テキスト pp. 12-13 講読及びペアないしはグループ学 習。	事前学習	テキスト pp. 12~13 の事前講読を行い、疑問 点をまとめておく。
		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 12 回	テキスト pp. 14-15 講読及びペアないしはグループ学 習。	事前学習	テキスト pp. 14~15 の事前講読を行い、疑問 点をまとめておく。

		事後学習	学習箇所の再講読・和訳清書をおこなう。
第 13 回	DVD 『ロミオとジュリエット』 視聴。	事前学習	『ロミオとジュリエット』の作品成立の経緯を調査(図書館・WEB)しまとめておく。
		事後学習	『ロミオとジュリエット』について資料を探してまとめておく。
第 14 回	DVD 『ロミオとジュリエット』 残り視聴。	事前学習	『ロミオとジュリエット』を調査(図書館・WEB)し疑問点等をまとめておく。
		事後学習	『ロミオとジュリエット』についてまとめる。
第 15 回	『ロミオとジュリエット』の作品のテーマのまとめ。	事前学習	第 1-14 回授業内容を振り返り、疑問点等がないか確認しておく。
		事後学習	作品講読時の教師による指摘ポイントのノートを整理し、まとめておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1325
2. 授業担当教員	橋本 松代		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、次の授業の課題を提示 2. 毎回、前時に学習した音楽基礎理論についての小テストを実施、また第12回に総合のテストを実施 3. 第11回にレポート課題提示 (課題例) 私が選んだ楽曲の分析 4. ピアノ演奏と歌唱のテストを実施 ※期末試験とは別に実施する。(1回) ※毎時のピアノ演奏は、教科書の音楽理論の学習で用いる楽曲、参考書の連弾曲集を教材とするが、テストでは教科書の音楽理論の学習で用いた楽曲、又各自が選んだ楽曲の中から1曲、参考書の連弾曲集から1曲の計2曲を選択する。 ※毎時の歌唱は、小学校の教科書に掲載されている楽曲を教材の中心とする。テストではその中から1曲を選択する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】今川恭子他編著『おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論』教育芸術社、2008。 【参考書】池田恭子編『たのしい6手連弾ピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社、2005。 その他、必要な資料等は授業ごとに配付し使用する。</p>		
11. 成績評価の方法	日常の授業への取り組み及び意欲	20%	
	毎時の実技テストと修了コンサートにおけるテスト	40%	
	音楽基礎理論テスト	20%	
	レポート	20%	
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもも大人も本来音楽が好きで、歌を歌ったり楽器を演奏したりすることに興味関心がある。 2. 音楽嫌いが生まれるとすれば、表現方法が分からなく、失敗経験を持つことにある。 3. 授業時間以外に音楽に触れる時間を多くもち、段階的に継続的に活動を繰り返すことで、技は身に付いてくる。 4. 一人で歌ったり演奏したりするより、複数の人とアンサンブルをする方が音楽の楽しさは倍増する。 		
13. オフィスアワー	授業内にて通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 音楽歴の調査、音楽基礎理論確認調査 音楽鑑賞	事前学習	本講義で身に付ける内容を把握する。
		事後学習	自身の経験を踏まえ、学習計画を立てる。
第2回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱 音楽基礎理論「五線と鍵盤」	事前学習	教科書 pp.6~15 の内容をつかむ。
		事後学習	「五線と鍵盤」について楽譜と鍵盤上で確認する。
第3回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱 音楽基礎理論「拍」	事前学習	教科書 pp.16~29 の内容をつかむ。
		事後学習	「拍」について復習する。
第4回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱 音楽基礎理論「言葉とリズム」	事前学習	教科書 pp.30~35 の内容をつかむ。
		事後学習	「言葉とリズム」の面白さを日常の中でも発見する。
第5回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱 音楽基礎理論「リズムパターン」	事前学習	教科書 pp.30~35 の内容をつかむ。
		事後学習	「リズムパターン」の多様性を実際に表現することをつかむ。
第6回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱 音楽基礎理論「拍子」	事前学習	教科書 pp.36~39 の内容をつかむ。
		事後学習	「拍子」と「拍」と「リズム」の違いについてまとめる。
第7回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱 音楽基礎理論「複合拍子」	事前学習	教科書 pp.40~43 の内容をつかむ。
		事後学習	「複合拍子」について復習する。
第8回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱 音楽基礎理論「リズム創作」	事前学習	教科書 pp.44~47 の内容をつかむ。
		事後学習	「リズム創作」の楽しさを次への学習に結びつける。

9 回	音楽鑑賞 ピアノ演奏と歌唱	事前学習	音楽理論の課題を明確にする。
		事後学習	提示されたピアノと歌唱のテスト曲の中からそれぞれ 1 曲を選択し練習する。
第 10 回	音楽鑑賞と表現 ピアノ演奏と歌唱	事前学習	既習の鑑賞曲の特徴を整理する。
		事後学習	鑑賞曲の合奏の練習計画を確認する。
第 11 回	ピアノ演奏と歌唱 キーボードによる合奏活動①・・・1～10 回で鑑賞した 楽曲の中から合奏用に編曲したものを、パートを選択し て合奏する。 (レポート課題提示)	事前学習	合奏パートの分担を決める。
		事後学習	音楽理論で学習したことが、合奏の中でどう 具体化されているか確認する。
第 12 回	音楽理論総合テスト キーボードによる合奏活動②	事前学習	楽譜の読み取り力を自己評価する。
		事後学習	合奏における自分が分担したパートの役割 を確認する。
第 13 回	ピアノ演奏と歌唱のテスト 既習教材による総合的な表現と鑑賞①・・・既習の鑑賞 教材を題材にした歌唱とキーボードを取り入れた表 現活動の工夫	事前学習	ピアノ演奏と歌唱のテストに向け、課題を明 確にする。
		事後学習	よりよいピアノ演奏と歌唱に向けて課題を 整理し、修了コンサートに資する。
第 14 回	既習教材による総合的な表現と鑑賞②・・・①の習熟 (レポート提出)	事前学習	総合的な音楽表現のねらいを確認する。
		事後学習	表現と鑑賞との関連をまとめる。
第 15 回	音楽理論のまとめ 既習教材による総合的な表現と鑑賞③・・・まとめ 修了コンサート	事前学習	授業目標の達成度を自己評価する。
		事後学習	音楽Ⅱに向けた自己課題を明確にする。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2305
2. 授業担当教員	橋本 松代		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 表現の教育について考え議論ができる。 5. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の授業で実施する演奏の課題を提示。 2. 毎回、前時に学習した音楽基礎理論についての小テストを実施、また総合のテスト (1回) を実施。 3. 毎時間に取り組むピアノ演奏と歌唱は次のように実施し、その成果を修了コンサートで発表。 ※ ピアノ演奏は、教科書掲載曲と配布された連弾曲にソロ又はデュオ、トリオで取り組む。 ※ 歌唱は、小学校の教科書に掲載されている教材にソロ又は合唱で取り組む。 4. 音楽理論の総合テストを実施。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】今川恭子他編著『おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論』教育芸術社、2008。 【参考書】池田恭子編『たのしい6手連弾ピアノ曲集 1』ドレミ音楽出版社、2005。 その他、必要な資料等は授業ごとに配付し使用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への取り組み及び意欲 30% 2. ピアノと歌唱の実技テスト 40% 3. 音楽理論テスト 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽を聴く・歌う・楽器を演奏する・表現を工夫するという一連の活動により、音楽の力が身に付く。 2. 音楽にかかわる様々な情報を得ることにより、音楽に対する興味・関心が倍増する。 3. 授業時間以外にも音楽に触れる時間を多くもち、段階的に継続的に練習を繰り返すことで、技は身に付いてくる。 4. 一人で歌ったり演奏したりするより、複数の人とアンサンブルをする方が音楽の楽しさは倍増する。 		
13. オフィスアワー	授業内で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) ピアノ演奏…音楽理論で使用した楽曲、連弾曲集から選択した楽曲を取り扱い、基礎的な演奏技術を身に付ける。 歌唱……………小学校教科書の中から受講生が1・2曲を選び、発声やソルフェージュ力、表現力を身に付ける。 音楽理論「音階と調」	事前学習	音楽Ⅱで身に付ける事の見通しをもつ。
		事後学習	音楽Ⅰで身に付けた理論や演奏技術をもとに、音楽Ⅱでの目標を各自設定し、練習計画を立てる。 音楽理論「音階と調」の復習をする。
第2回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「長音階と短音階」	事前学習	教科書 pp.54~59 に掲載されている楽曲をソルフェージュする。
		事後学習	音楽理論「長音階と短音階」の復習をする。
第3回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「和音と伴奏」	事前学習	教科書 pp.62~65 に掲載されている楽曲をソルフェージュする。
		事後学習	音楽理論「和音と伴奏」の復習をする。
第4回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「主要三和音」	事前学習	教科書 pp.66~67 に掲載されている楽曲をソルフェージュする。
		事後学習	音楽理論「主要三和音」の復習をする。
第5回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「移調」	事前学習	教科書 pp.68~69 に掲載されている楽曲をソルフェージュする。
		事後学習	音楽理論「移調」の復習をする。
第6回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「コードネーム」の基礎	事前学習	教科書 pp.70~72 に掲載されている楽曲をソルフェージュする。
		事後学習	音楽理論「コードネーム」の基礎を復習する。
第7回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「コードネーム」の活用	事前学習	教科書 pp.79~83 に掲載されている楽曲をソルフェージュする。
		事後学習	音楽理論「コードネーム」の活用の復習をする。
第8回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「伴奏の工夫」	事前学習	教科書 pp.73~78 に掲載されている楽曲をソルフェージュする。
		事後学習	音楽理論「伴奏の工夫」の復習をする。

第 9 回	ピアノ演奏と歌唱 音楽理論「アレンジの基礎」	事前学習	教科書 p.84 の内容把握をする。
		事後学習	音楽理論「アレンジの基礎」の復習をする。
第 10 回	ピアノ演奏と歌唱 キーボードによる合奏活動 「子ぎつねと山の四季」シーン 1～3	事前学習	「子ぎつねと山の四季」シーン 1～3 のねらいを押さえる。
		事後学習	「子ぎつねと山の四季」シーン 1～3 の演奏に慣れる。
第 11 回	ピアノ演奏と歌唱 キーボードによる合奏活動 「子ぎつねと山の四季」シーン 4～5	事前学習	「子ぎつねと山の四季」シーン 4～5 のねらいを押さえる。
		事後学習	「子ぎつねと山の四季」シーン 4～5 の演奏に慣れる。
第 12 回	ピアノ演奏と歌唱 キーボードによる合奏活動 「子ぎつねと山の四季」シーン 6 音楽理論総合テスト	事前学習	「子ぎつねと山の四季」シーン 6 のねらいを押さえる。
		事後学習	「子ぎつねと山の四季」シーン 6 の演奏に慣れる。
第 13 回	ピアノ演奏と歌唱のテスト キーボードによる合奏活動「どんぐり海を見に行く」前半	事前学習	ピアノと歌唱のテスト準備をする。
		事後学習	「どんぐり海を見に行く」前半のアレンジ計画に基づき自己練習を深める。
第 14 回	ピアノ演奏と歌唱 キーボードによる合奏活動「どんぐり海を見に行く」後半	事前学習	「どんぐり海を見に行く」後半の構成を確かめる。
		事後学習	「どんぐり海を見に行く」後半のアレンジ計画に基づき自己練習を深める。
第 15 回	音楽理論のまとめと修了コンサート	事前学習	音楽Ⅱの目標達成度を自己点検する。
		事後学習	修了コンサートに向けて技能を確かなものにする。

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2315
2. 授業担当教員	橋本 松代			
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、「音楽 (初等・小) 及びⅡ」で学んだ基本的な内容を踏まえて、小学校音楽科の授業ができるようになることを目指す。実際には、小学校の授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について話し合ったり、音楽科で扱う教材研究を行ったりし、教育方法や教材開発について考える。その上で、音楽科学習指導案を作成して、グループによる模擬授業を行い、全員でディスカッションする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校音楽科の目標と内容を理解し、説明することができる。 2. 授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について、根拠を示して意見を述べるができる。 3. 小学校音楽科学習指導案を作成して模擬授業ができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の課題を課す。 <ol style="list-style-type: none"> ① 共通教材の弾き歌い……………「君が代」を含め、1～6 年の共通教材からそれぞれ1曲を選択する。 ② リコーダー演奏……………3～6 年の教材から3 曲を選択する。 ③ 日本の伝統的な楽器の演奏……箏に触れ、「さくら」「荒城の月」等の演奏をする。 ④ 題材全体を捉えた学習指導案を作成する。 2. 毎時、受講者が代わり合い、学年、教材、ねらいを明確にした歌唱や器楽の指導をする。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 有本真紀他 編『教員養成課程 小学校音楽科教育法 2011 年改訂版』教育芸術社、2011。 【用意する楽器】 ソプラノリコーダー			
11. 成績評価の方法	授業への参加 (態度・演奏・演習・発表等) …………… 20 % 課題への取り組み…………… 40 % (共通教材の弾き歌い・リコーダー演奏・日本の伝統的な楽器の演奏・題材全体を捉えた学習指導案の作成等) 毎時の歌唱・器楽の指導及び模擬授業…………… 40 %			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導目標達成のためには、日々、教師自身が音楽への愛好心を持ち、音楽との積極的なかかわりを通して豊かな感性を培っていくことが大切である。 2. 音楽好きな児童を育成するために、教師が様々な指導法や教材をもち合わせていることが望まれる。 3. 指導は目標優先であり、何のために、どんな力をつけるために学習を計画し、実践・評価しているかを念頭に置いて実践することが大切である。 4. 子どもは教師の後ろ姿を見て育つ。得手不得手にかかわらず、教科のもつ役割を認識し、真摯に努力する姿を期待する。弾き歌いやリコーダー演奏等の実技課題には、計画的に取り組む。 			
13. オフィスアワー	別途、授業内にて通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) ・ 小学校における音楽指導の意義について ・ 音楽的発達について ・ 音楽科教育の目標について	事前学習	学習指導要領音楽編を読み、小学校における音楽科の意義について考える。	
		事後学習	発達段階を踏まえた音楽科の目標をまとめる。※配布シート「音楽科指導法振り返りノート」に毎時のまとめを記す。2~15 回も同様にて記述を割愛する。	
第 2 回	音楽教育の歴史 小学校音楽科の指導内容	事前学習	教科書 pp.160~163 を読み、音楽教育の歴史を把握する。	
		事後学習	音楽教育の歴史を踏まえ、現行学習指導要領音楽科指導内容の要点をまとめる。	
第 3 回	表現 (音楽づくり) 指導① 創作活動の意義	事前学習	教科書 pp.36~37 を読み、創作活動のねらいを理解する。	
		事後学習	表現の中の「音楽づくり」の位置づけをまとめる。	
第 4 回	表現 (音楽づくり) 指導② 共通事項の指導を踏まえて	事前学習	共通事項の概要を学習指導要領からつかむ。	
		事後学習	音楽づくりで培う音楽の基礎的・基本的な力についてまとめる。	
第 5 回	表現 (音楽づくり) 指導③ 表現意欲を高める指導	事前学習	表現意欲を高め、発達段階に応じた指導の具体例を作成する。	
		事後学習	受講生同士で交換した「音楽づくり」の具体例を、既習内容と関連づけ、重要事項をまとめる。	
第 6 回	表現 (歌唱) 指導① 心情に訴えかける指導	事前学習	教科書 pp.12~20 を、歌う心を育てる教師の働きかけを観点に読みを深める。	
		事後学習	歌唱指導の意義をまとめる。	
第 7 回	表現 (歌唱) 指導② 共通事項の指導を踏まえて	事前学習	教科書 pp.12~20 を、歌唱指導で何を育てるかを観点に読みを深める。	
		事後学習	技術より心情、楽曲より音楽の内容を重視した指導法についてまとめる。	

第 8 回	表現(歌唱)指導③ 合唱指導の在り方	事前学習	授業内容 7・8 を通し、歌唱指導の課題を見つける。
		事後学習	自己表現として、他者とのかかわりの中での歌唱についてまとめる。
第 9 回	表現(器楽)指導① 教育楽器の奏法	事前学習	教科書 pp.20~28 を読み、器楽指導の意義をとらえる。
		事後学習	教育楽器により多く触れることによって様々な奏法を身に付けると共に、「弾く」・「吹く」・「打つ」という奏法にまとめる。
第 10 回	表現(器楽)指導② 日本の伝統楽器の奏法	事前学習	教科書 pp.29~31 を、学習児童要領の改訂の要点と関連させ読む。
		事後学習	実際に箏に触れて得た知識と感想をまとめる。
第 11 回	表現(器楽)指導③ 合奏指導の在り方	事前学習	教科書 pp.34~35 を読み、器楽合奏で培う力を理解する。
		事後学習	発達段階に応じた器楽指導についてまとめる。
第 12 回	鑑賞の指導① 様々な国や地域の伝統音楽	事前学習	教科書 pp.44~46 を、鑑賞教材のジャンルについて、読みを深める。
		事後学習	鑑賞指導の意義をまとめる。
第 13 回	鑑賞の指導② 共通事項の指導を踏まえて	事前学習	教科書 pp.47~51 を読み、共通事項についての理解をする。
		事後学習	共通事項を踏まえ鑑賞指導で培う音楽の基礎的・基本的な力についてまとめる。
第 14 回	鑑賞の指導③ 表現と鑑賞の関連 指導と評価・総合的な学習の時間との関連	事前学習	教科書 p.52 を、「表現と鑑賞の関連」について読みを深める。
		事後学習	実際の指導法を体験することで得た、鑑賞活動の意義と他教科との関連についてまとめる。
第 15 回	まとめ 音楽指導の具体例からみる教師の姿	事前学習	読み物資料「音楽指導の具体例からみる教師の姿」を読み、教師の役割について考える。
		事後学習	教育実習に向け、音楽科指導における各自の課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	会計学 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2131
2. 授業担当教員	武田 嘉孝			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	簿記が履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	近年の会計制度の状況を踏まえ、会計学の基礎的な理論を把握するのがこの授業の目的である。財務会計の目的は、会計の財務状況を投資家などの利害関係者に知らせるものであり、そのために、会計の基礎概念、財務諸表の作成ルール、現金、手形、商品取引、資金調達、収益と費用、決算手続等についても解説を加える。財務諸表の利用者 (債権者や株主などの利害関係者)、経営者の会計に関する行動などについても解説を加える。将来、就職した先や自分で立ち上げる事業所等の経営に役立てるようにする。			
8. 学習目標	1. 個人商店や会社について、その財政状態や経営成績を表す財務諸表の読み方を知り、説明できる。 2. 収益と費用と測定して利益を計上するという過程の基礎にある会計理論を学び、説明できる。 3. 資産項目、負債項目、資本項目の課題と評価について理解し、説明できる。 4. 会計情報を活用した経営改善について理解し、説明できる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメントやレポートについては、特に課さない。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 碓氷悟史・柴田寛幸 著『入門会計学テキスト<第 4 版>』中央経済社、2006。 【参考書】 伊藤邦雄 著『ゼミナール 現代会計入門<第 8 版>』日本経済新聞出版社、2010。			
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 (質問、出席態度など) 20% 2. 小テスト 30% 3. 期末試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	「会計とは、企業にとって過去に対する誤りなき判定者であり、現在に対する欠くべからざる指導者であり、将来に対する信ずべき助言者である」との格言からも分かるとおり、会計学の基礎知識こそ、組織活動の成果を科学的・客観的に評価できる最良の道具であることを理解してほしい。			
13. オフィスアワー	講義後に質問を受け付ける。分からないところを気軽に聞きに来てほしい。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 会社の意義	事前学習	日本の会社にはどのようなものがあるのか、会社には色々の形態があり、法律によって規定され、どのような決算書を作成しなければならないのかを理解しておく。	
		事後学習	決算書とは何であるかを認識すること。それぞれがどのような役割を持っているのかを、理解する。	
第 2 回	会計の基礎的考え方と開示	事前学習	儲けの状態と財産の状態は、どう表わされるかを理解できるようにする。	
		事後学習	実際の損益の状況と財政状態を表示することができるようになること。	
第 3 回	貸借対照表と損益計算書の仕組み	事前学習	貸借対照表と損益計算書の仕組みが理解できるようになること。	
		事後学習	貸借対照表と損益計算書の作成方法を練習し、作成できるようにする。	
第 4 回	企業会計の特徴と役割	事前学習	企業の会計を行う目的や基本的な考え方を認識することによって、会計の性格を理解する。	
		事後学習	企業会計の基本的な公準とは何か、制度会計の領域と会計学の学問領域を概観できるように、全体を把握できるようにする。併せて会計は誰のために行うのかを考える。	
第 5 回	財務会計の基礎と原則	事前学習	財務会計の基本的な目的を知っておく。	
		事後学習	企業の利害関係者を考え、彼らの必要とする会計情報の内容を把握できるようにする。	
第 6 回	一般原則 1	事前学習	企業会計原則の意義、とくに構成はどのようなになっているかを知っておく。	
		事後学習	真实性の原則についての考え方、および同原則の具体的な意味を理解できるようにする。	
第 7 回	一般原則 2	事前学習	正規の簿記の原則とは何であるかを、会計的に考えてみる。	
		事後学習	帳簿作成の際の立証性、秩序性、網羅性、説明性について理解した上で、簿外資産と簿外負債との微妙な認識の違いを理解すること。	
第 8 回	一般原則 3	事前学習	資本取引・損益取引区分の原則について、詳細に取り上げ、明瞭性の原則にも触れておく。	
		事後学習	継続性の原則の意味合いを理解する。また保守主義の原	

			則についてその考え方を十分理解できるようにする。
第 9 回	一般原則 4	事前学習	保守主義の原則をしっかりと理解しているかを復習する。
		事後学習	単一性の原則および重要性の原則について、しっかりと理解した上で、重要性の原則を学び、全体としての一般原則の内容の理解の総括とする。
第 10 回	損益計算書	事前学習	経営成績の計算と表示の原則に関わるのが、損益計算書であることを認識する。
		事後学習	損益計算書の具体的な作成方法をマスターできるようにする。
第 11 回	貸借対照表	事前学習	財政状態の計算・表示の仕方を認識する。
		事後学習	資産の認識原則、貸借対照表作成の原則についての、細部に亘る諸原則の考え方を理解し、実際に貸借対照表作成の練習問題を解けるようにする。
第 12 回	キャッシュフロー計算書	事前学習	キャッシュフロー計算書を作る目的について考える。そのためには営業・投資・財務活動におけるキャッシュフローを区分する。
		事後学習	3 区分キャッシュフロー計算書の作り方を覚える。そして作成演習を行ってみる。
第 13 回	原価計算	事前学習	商業簿記と工業簿記の違いをまず理解する。
		事後学習	原価計算の目的、原価要素とは何か、製造原価報告書と損益計算書そして貸借対照表の関わりを認識する。
第 14 回	小テスト問題練習（第 1 回～第 7 回の範囲）	事前学習	教科書の会計学ノート第 1 回から第 5 回までの復習問題を解答する。
		事後学習	教科書の小テスト第 1 回から第 5 回までの復習問題を解説する。
第 15 回	小テスト問題練習（第 8 回～第 11 回の範囲）	事前学習	教科書の会計学ノート第 6 回から第 11 回までの復習問題を解答する。
		事後学習	教科書の会計学ノート第 6 回から第 11 回までの復習問題を解説する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2309
2. 授業担当教員	中野 一茂		SSMP2109
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	高齢者福祉論、社会福祉原論、地域福祉論、ソーシャルワーク論等の関連科目の受講は望ましい。		
7. 講義概要	<p>本講座は、高齢者福祉論との関連において、介護が必要な高齢者に対する支援を中心に進めていく。 高齢者の特性と生活について理解を深めたうえで、生活支援の在り方を考え、介護の実践では、自立への支援、尊厳ある介護の理解を学習し、介護実践の基本を理解できるように授業を進めていく。特に根拠を持った介護実践が行えるように、介護過程と介護実技を学習して理解を深めていく。また、今後増加する認知症高齢者や精神的支援が必要な高齢者の介護についても授業を行なう。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性からくる生活障害や、介護が必要となる状況を理解でき、快適な生活環境を考えることができる。 2. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、介護の今日的課題について考えることができる。 3. 高齢者を支援する専門職の役割の理解と専門職間の連携の在り方を考えることができる。 4. 介護の概念、理念と対象について理解でき、社会福祉士など専門職としての役割と結び付けることができる。 5. 介護は介護過程に基づいて行われることを理解し、専門性について考えることができる。 6. 認知症及び精神的支援が必要な高齢者に対する介護について理解ができ、その応用力を身につけることができる。 7. 終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持（人間観や倫理）について考えることができる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に非定期的に小テストを実施する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉学習双書編集委員会 編 『老人福祉論 高齢者に対する支援と介護保険制度』全国社会福祉協議会、2015。</p> <p>【参考書】 岩田正美・大橋謙策・白澤政和監修、岡田進一・橋本正明 編著 『高齢者に対する支援と介護保険制度 [第2版]』(社会福祉士養成テキストブック)、ミネルヴァ書房、2013。 東京福祉大学 編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>出席率・態度評価 (4 回以上欠席は評価しない) が良好であることを前提に、欠席・遅刻・許可のない携帯電話作動・おしゃべりなどにはそれぞれ1回につき5点減点とする。</p> <p>小テスト 20% 期末試験 80%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生に期待される学習態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で授業に参加することを望む。 2. 授業のための予習は必ずし、ノートを整理すること。 3. 理解できないことや疑問点がある場合は必ず質問すること。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではない。 4. 人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴すること。 5. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないこと。 6. レポート等の提出期限を厳守すること。提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点の対象となる。 7. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等、学習活動を妨げる行為は厳禁とする。 		
13. オフィスアワー	オフィスアワーは講義時間の前後で受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 高齢期の暮らし生活問題	事前学習	高齢期の生活問題について調べてみる。
		事後学習	高齢期の生活問題についてまとめて説明できるようにまとめる。
第2回	介護とは何か	事前学習	第1回授業で配布したプリント資料を予習。
		事後学習	プリント資料に基づいて復習。
第3回	高齢者の介護の実際とその課題	事前学習	第2回授業で配布したプリント資料を予習。
		事後学習	プリント資料に基づいて復習。
第4回	高齢者福祉関係の法制度と介護保険制度の構想	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第5回	介護保険制度の目的と仕組みと介護保険財政の概要	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第6回	介護保険制度を支える組織および実施状況と動向	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。

第 7 回	介護保険制度におけるケアマネジメント	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 8 回	多職種連携・地域連携	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 9 回	介護保険制度における地域包括ケアの概念	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 10 回	地域包括支援センターの役割と課題	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 11 回	介護予防の重要性と実際	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 12 回	地域における認知症ケア体制	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 13 回	高齢者の住まいと居住支援	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 14 回	高齢者と地域福祉	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 15 回	まとめ	事前学習	テキストを用いてこれまで学習した知識の復習。
		事後学習	授業で提示したレジュメ資料の復習。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	開発経済論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3118
2. 授業担当教員	岡田 広司			
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答などを併用する。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	開発経済学は、一国が低開発段階から経済発展を遂げるために必要な要素・政策や成長の制約要因を、経済学的手法により探る学問である。本講義では低開発段階から経済発展を遂げるために必要な様々な経済的条件に着目して講義を進める。途上国の国々には、比較的大きな経済成長・経済発展がみられる国もあるが、発展のパスに乗れていない国も存在する。発展を遂げた国、未発展・低開発の国それぞれに共通する政策や問題点を事例を交えながら指摘し、経済発展のために今後どのような開発が必要かについて論ずる。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発経済学の観点から発展途上国が抱えている問題を理解する。 2. 途上国諸国の経済発展の歴史と発展するための条件を理解する。 3. 経済発展の進んだ国と遅れている国の違いは何かを理解する。 4. 途上国間の地域統合やサブリージョナルの経済統合の動きを理解する。 5. わが国と途上国諸国との経済的な結びつきを理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	本授業で興味を持った開発経済学の議論のうち、興味を持った事項につき、具体的な事例も上げながら、まとめなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 高橋和志、山形辰史編著『国際協力ってなんだろう、現場に生きる開発経済学』、岩波ジュニア新書、2010。 【参考書】 渡辺利夫著『開発経済学入門[第3班]』東洋経済新報社、2012。			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業態度 (積極性など) 総合点の 40% 2 確認テスト 総合点の 20% 3 課題レポート提出 総合点の 40% 			
12. 受講生へのメッセージ	開発経済の内容を包括的かつ平易に説明するが、授業時間中に質問や意見を積極的に述べて欲しい。			
13. オフィスアワー	授業中に伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 開発経済とは	事前学習	発展途上国の生活や産業など、開発経済に関する新聞や雑誌の関連記事を読んでくる。	
		事後学習	オリエンテーションをもとに、経済発展とは何かとその要件をまとめる。	
第 2 回	経済開発の目指すもの、貧困と不平等	事前学習	教科書 pp.2~8 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。	
		事後学習	授業の学習内容である途上国における貧困の実情をまとめる。	
第 3 回	障害と保健	事前学習	教科書 pp.16~29 の内容及び障害と保健と社会的コストについて調べる。	
		事後学習	授業の学習内容である障害と保健による社会的課題を整理する。	
第 4 回	教育—より良い将来に向けた投資	事前学習	教科書 pp.37~43 の内容及び先進国と途上国の教育の違いを調べる。	
		事後学習	授業の学習内容である教育と社会発展との関係をまとめる。	
第 5 回	平和と公正の実現	事前学習	教科書 pp.45~59 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。	
		事後学習	授業の学習内容である経済発展における平和の重要性を学ぶ。	
第 6 回	法制度改正支援	事前学習	教科書 pp.60~67 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。	
		事後学習	授業の学習内容である法制度改革の真のあり方をまとめる。	
第 7 回	開発援助	事前学習	教科書 pp.100~106 の内容及び産業を分類する構造を確認する。	
		事後学習	授業の学習内容である経済発展と開発援助との関係をまとめる。	
第 8 回	マイクロファイナンスと貧困削減	事前学習	教科書 pp.107~120 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。	
		事後学習	授業の学習内容であるマイクロファイナンスの成果をまとめる。	
第 9 回	技術と知的財産権	事前学習	教科書 pp.121~134 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。	

		事後学習	授業の学習内容である先進国の途上国への技術移転をまとめる。
第 10 回	情報技術革命	事前学習	教科書 pp.135～141 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。
		事後学習	授業の学習内容である情報技術革命のポイントをまとめる。
第 11 回	農業技術革命	事前学習	教科書 pp.142～148 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。
		事後学習	授業の学習内容である農業技術革命と経済発展の関係をまとめる。
第 12 回	貿易自由化	事前学習	教科書 pp.149～156 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。
		事後学習	授業の学習内容である貿易の自由化と経済発展の関係をまとめる。
第 13 回	産業集積と国際価値連鎖	事前学習	教科書 pp.157～169 の内容及び産業集積などの関連記事を読んでくる。
		事後学習	授業の学習内容である国際価値連鎖と経済発展の関係をまとめる。
第 14 回	国際労働移動	事前学習	教科書 pp.170～176 の内容及び新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる。
		事後学習	授業の学習内容である労働移動と経済発展の関係をまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書全体 pp.2～176 の内容を見直したうえで、講義の要点を復習する。
		事後学習	授業を通して学習した発展途上国の現状と課題について、自主的にまとめる。

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学 I (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2321
2. 授業担当教員	宋 暁鈞			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	約 60 兆個の様々なタイプの細胞から構成される人間の身体を全体からみて、その構造(解剖)と機能(生理)をうまく関連して考える思考過程を学び、解剖生理学の基本的知識を習得する。 具体的には、表面に現れた各種症状の背景となる、「人体の中で何が起きているのか」、「次に何が起こるのか」、「どう対処すればよいのか」、「予防するにはどうすればよいのか」と考えることができるよう、基礎知識の習得を目標とする。			
8. 学習目標	以下について学び、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 人体各部の名称とその位置を表す方向用語、および人体構造の構築(細胞→組織→器官→器官系→個体)について学ぶ。 2. 筋系、骨格系の機能と神経支配について学ぶ。 3. 皮膚と体性感覚、頭部と特殊感覚について学ぶ。 4. 循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系の機能について学ぶ。 5. 体液(細胞内液、細胞外液、血液、リンパ液)、体温とホメオスタシスについて学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の授業を終了する前に、「理解を高める実践問題」を配布し、次回の授業に解答を確認する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】高橋長雄(編)『からだの地図帳』講談社、1989年。 【参考書】久木野憲司他(編)『解剖生理学(標準栄養学講座)』金原出版株式会社、2002年。 後藤昇/楊峯隆哉『しくみが見える体の図鑑』エクスマレッジ株式会社、2012年。 東京福祉大学(編)『保育児童福祉要説 第三版』中央法規出版、2011年。			
11. 成績評価の方法	授業ごとの課題 40% 授業中の積極的発言 10% まとめ課題 50% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	「解剖生理学 I」では、身体の構造や機能等に関する医学の基本的な知識の習得を目標とする。その為、受講生は以下の条件を守ること。 1、学生には常に集中力を保って受講し、積極的態で授業に参加すること。 2、一方的な講義ではなく、随所で発言を求め、ディスカッションを沢山行う。 3、疑問点は後に残さず、講義時間内及び直後に質問すること(研究室への来訪は大歓迎)。 4、予習を十分行い、授業後の復習も心がけること。関連書籍も読み理解すること。 5、授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。特に、携帯電話の操作は絶対にしないこと。 上記のことをした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。			
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも、どんな事でも、気軽に研究室に相談しに来て下さい。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション(講義概要の解説) 人体の基本構造と特徴とその機能(基本的な名称)	事前学習	「解剖生理学 I」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高めること。	
		事後学習	「実践問題①」を解答しながら、細胞・組織・器官・器官系の構成についてまとめる。	
第 2 回	骨格系とその機能(支持、保護、運動、造血、電解質の貯蔵)	事前学習	pp. 112~115: 骨格系の構造について予習する。	
		事後学習	「実践問題②」を解答しながら、骨の機能と加齢に伴う部位別変化についてまとめる。	
第 3 回	筋系とその機能(運動、産熱)	事前学習	pp. 108~111: 筋の種類とその機能について予習する。	
		事後学習	「実践問題③」を解答しながら、骨格筋の収縮調節機構、収縮のエネルギーについてまとめる。	
第 4 回	循環器系(心臓・脈管系の構造、心臓の自動能、血圧)	事前学習	pp. 40~45: 心臓と脈管系(血管系・リンパ系)の構造と血流について予習する。	
		事後学習	「実践問題④」を解答しながら、心臓と脈管系(血管系・リンパ系)との関連性、血圧の調整についてまとめる。	
第 5 回	呼吸器系(呼吸器の構造、呼吸運動とその調節)	事前学習	pp. 30~39: 呼吸器系の構造と機能について予習する。	
		事後学習	「実践問題⑤」を解答しながら、呼吸運動とその調節についてまとめる。	

第 6 回	消化器系 (消化管と消化腺、咀嚼と嚥下運動、消化と吸収)	事前学習	pp. 52～68 : 消化管と消化腺に属する器官について予習する。
		事後学習	「実践問題⑥」を解答しながら、消化と吸収についてまとめる。
第 7 回	泌尿器系 (腎臓・尿路とその機能、蓄尿と排尿)	事前学習	pp. 70～75 : 腎臓と尿路の構造と機能について予習する。
		事後学習	「実践問題⑦」を解答しながら、尿の形成と排尿についてまとめる。
第 8 回	生殖器系 (男女生殖器の性差とその機能)	事前学習	pp. 76～86 : 男女生殖器の構造と機能について予習する。
		事後学習	「実践問題⑧」を解答しながら、排卵・月経と射精の機序についてまとめる。
第 9 回	中枢神経系 (脳・脊髄とその機能)	事前学習	pp. 14～17 : 神経細胞の特徴とシナプスについて予習する。
		事後学習	「実践問題⑨」を解答しながら、脳・脊髄の構造と機能分化についてまとめる。
第 10 回	末梢神経系 (体性神経系、自律神経系とその機能)	事前学習	pp. 126～133 : 脳神経・脊髄神経と自律神経の構造について予習する。
		事後学習	「実践問題⑩」を解答しながら、運動神経と感覚神経及び自律神経の機能についてまとめる。
第 11 回	感覚器系 (体性感覚と特殊感覚、その機能)	事前学習	pp. 18～25、pp. 116～119 : 感覚の種類について予習する。
		事後学習	「実践問題⑪」を解答しながら、体性感覚と特殊感覚の機能についてまとめる。
第 12 回	内分泌系 (ホルモンの特徴、各内分泌器官とその機能)	事前学習	pp. 134～135 : 内分泌器官の名称とその部位・構造について予習する。
		事後学習	「実践問題⑫」を解答しながら、ホルモンの特徴と各々内分泌器官の機能についてまとめる。
第 13 回	体液・血液とホメオスタシス	事前学習	pp. 141～142 : 体液・血液の成分について予習する。
		事後学習	「実践問題⑬」を解答しながら、体液・血液の恒常性 (ホメオスタシス) の維持機構についてまとめる。
第 14 回	質疑応答、討論	事前学習	第 1 回～第 13 回まで学んだ身体各系統の構造と機能の内容について学生間でディスカッションし、質疑応答を行う。
		事後学習	「実践問題⑭」を解答しながら、各器官系の構造と主な機能について再学習する。
第 15 回	まとめ・課題提出	事前学習	授業を振り返り、そのポイントを総括的にまとめる。
		事後学習	今回まとめた内容で、「実践問題⑮」を解答・提出する。

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS3306 SBMP3333 SSMP3333 PSMP3181
2. 授業担当教員	長坂 正文		
4. 授業形態	講義 (ディスカッション)、演習 (ロールプレイ)、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「カウンセリングの基礎」の単位を修得していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>カウンセリングの理論は、医療・教育・福祉の現場でも幅広く活用・実践されている。カウンセリングとは、何らかの援助を求める人（クライアント）に対して、自己理解、環境理解と行動変容（レポートが遅れがちな人が日時を守る、悩みが解消する、性格が明るくなる、など）を通して人をエンパワーすることを目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする人間関係でありプロセスである。</p> <p>本講義では、カウンセリングの理論と技法の基礎を学びながら、単に頭で知識を学ぶのではなく、ロールプレイを通して、自分のコミュニケーションのあり方を振り返り、社会生活で健全な人間関係を形成するとともに問題を解決する能力を育てる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングが具体的にどのような環境・方法で、どんな人達を対象に行われ役立っているのかを理解する。 2. カウンセリングの基本的な態度・技法を習得し、実践できるようにする。 3. さまざまなケースを通してクライアント理解を深め、対応のポイントを理解し、実践できるようにする。 4. 社会生活で、人の生き方を尊重した支援ができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に目を通す。 ・発表資料作りをし、授業で発表をする。 ・2回レポートを提出する (A4用紙 2枚、2,400字以上)。 <ol style="list-style-type: none"> 1 テキストにあるカウンセリングに対する批判に対する自分なりの答え *単なる自分の感想ではなく、疑問点も含めた自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。 2 テキストの事例について自分の意見 *テキストの事例について、疑問点・問題点も含めた自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970。</p> <p>【参考書】 氏原寛・東山紘久著『カウンセリング初歩』ミネルヴァ書房、1992。 鏑幹八郎監修『精神分析的な心理療法の手引き』誠信書房、1998。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発言) 50% ・発表・レポート 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・演習形式と実習を中心とした授業であるので、主体的に取り組むこと。 ・事前に該当頁を必ず読み、分からない言葉・用語・概念などを調べて、授業に臨むこと。 ・発表者は、該当頁についてしっかりと調べてまとめること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (講義概要の解説) ・カウンセリングの基本的な考え 	事前学習	「はじめに」を読む、また「目次」を見て興味の湧いた言葉を参考書などで調べる。
		事後学習	授業資料に出てきた専門用語について参考書などで調べてノートにまとめる。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・援助の方法 (カウンセリングの出発点、カウンセリングの効果) ・カウンセリングのねらい (「聴く」ことの意味、可能性の発展) 	事前学習	テキスト pp.2~12 を読んで、カウンセリングの基本的な方法について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	カウンセリングの目標について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの過程 (対人恐怖症の事例、クライアントの期待しているもの、カウンセリングによって起こる恐怖感・不安感) 	事前学習	テキスト pp.28~37 を読んで、カウンセリングの過程について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「対人恐怖」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第4回	<p>【演習1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究 (不登校) 	事前学習	事前に配布された事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめる。

第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 最初の面接（時間に余裕をもたせる、カウンセリングが可能かどうかの判断） 動機づけのないクライアント（拒否的態度の人、自分で解決したいという人、明らかに問題解決が望めない場合） 	事前学習	テキスト pp.38～50 を読んで、初回面接とクライアントの動機について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「抵抗」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 自我（主体性、同一性、自分と他者の区別、統合性） 適応（意識の障害、現実吟味） 	事前学習	テキスト pp.52～59 を読んで、自我の特徴と適応について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「意識の障害」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> 自我防衛（自我防衛の意味、より高い自我への発展、自我防衛とカウンセリングの過程） 自己実現（自己実現の意義、簡単に望んではならない自己実現） 	事前学習	テキスト pp.59～80 を読んで、自我防衛と自己実現について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「防衛」「自己実現」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	【演習 2】 <ul style="list-style-type: none"> 描画療法体験 	事前学習	描画療法について調べて概要を理解しておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめる。また、自分の作品について自己分析をする。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングにおける二律背反性（治るのか治すのか、引き受けることの意味、二律背反への必死の取り組み） 態度と理論（態度と理論の相補性、理論のあるところに受容がある） 	事前学習	テキスト pp.82～95 を読んで、二律背反・カウンセラーの態度と理論について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「相補性」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> カウンセラーの基本的態度（無条件的積極的関心、共感的理解、純粋）。 	事前学習	テキスト pp.95～111 を読んで、カウンセラーの基本的態度について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「ロジャーズのセラピー理論（6 条件）」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	【演習 3】 <ul style="list-style-type: none"> カウンセリングのビデオ視聴 	事前学習	テキスト pp.95～111 を読んで、カウンセリングの基本について復習しておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめて提出する。
第 12 回	【演習 4】 <ul style="list-style-type: none"> ロールプレイ、逐語録 	事前学習	テキスト pp.95～107 の「カウンセラーの 3 条件」について復習しておく。
		事後学習	逐語録をチェックして、気づいたことを記入し提出する。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> 事例報告の前提条件 事例（不登校の高校 1 年生） 	事前学習	テキスト pp.114～148 を読んで、事例のアセスメントを考える。発表者は資料を作る。
		事後学習	「不登校の原因」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> 終結と評価（中断、過剰な反省よりも事実の探求を、中断になった場合どうするか、偽の中断、カウンセリング以外の方法に移る場合） 	事前学習	テキスト pp.150～165 を読んで、カウンセリングの終結と評価について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「中断」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> 終結時の実際問題（終結のめやす、明らかに終わりがかかっている場合、終結に近づいて悪くなる場合） 評価 	事前学習	テキスト pp.166～175 を読んで、終結時の実際的な問題について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「終結」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 16 回	【演習 5】 <ul style="list-style-type: none"> 事例研究（発達障害） 	事前学習	事前に配布された事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめる。
第 17 回	<ul style="list-style-type: none"> カウンセラーの訓練（理論、ロールプレイ、レコーダー使用の功罪、自分がカウンセリングを受ける、訓練を受ける、事例発表の際の心がまえ） カウンセラーの資格（カウンセラーの資格、カウンセラーの専門性、カウンセラーとしての素質、指導者） 	事前学習	テキスト pp.178～201 を読んで、カウンセラーの訓練・資格について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「教育分析」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 18 回	<ul style="list-style-type: none"> 転移（フロイトの考え、転移の実際、転移を受け入れることの是非、逆転移） 	事前学習	テキスト pp.204～213 を読んで、転移について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「転移」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。

第 19 回	・カウンセラーとクライアントの関係（逆転移の例、逆転移をどう考えたらよいか、開かれた態度）	事前学習	テキスト pp.213～219 を読んで、逆転移について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「逆転移」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 20 回	【演習 6】 ・コラージュ療法体験	事前学習	コラージュ療法について調べて概要を理解しておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめる。また、自分の作品について自己分析をする。
第 21 回	・限界設定の意味（カウンセラーの守るべき限界、自戒すべきカウンセラーの自我肥大、カウンセラーの人間としての限界）	事前学習	テキスト pp.219～226 を読んで、カウンセラーの限界性について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「制限」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 22 回	・カウンセラーの仕事（カウンセラーの基本的安定感、安定感を支える理論、待つ才能、参加への決意と欲求、厳密で正確な観察）	事前学習	テキスト pp.228～237 を読んで、カウンセラーの態度・資質について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「コンステレーション」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 23 回	・カウンセラーの仕事の多様性（分業による治療、二役・三役をつとめる覚悟、深まりを抑える場合もある、浅い話のなかにも意味がある、教えた方がよい場合もある）	事前学習	テキスト pp.238～245 を読んで、カウンセラーの仕事について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「AT スプリット」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 24 回	【演習 7】 ・事例研究（いじめ）	事前学習	事前に配布された事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめる。
第 25 回	・自己実現への共同作業（思わぬときに発展のいとぐちがひらかれる、両者の自己実現の過程）	事前学習	テキスト pp.245～252 を読んで、共同作業という考え方について理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「自己実現」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 26 回	・スーパーバイザーの三つの役割（管理、評価、教育） ・スーパーバイザーの教育における機能（指示、受容、解釈、布置） ・スーパーバイズの方法と形態	事前学習	テキスト pp.254～277 を読んで、スーパーバイザーについて理解し、疑問点を明確にする。発表者は資料を作る。
		事後学習	「スーパービジョン」について参考書などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 27 回	【演習 8】 ・ロールプレイを録画し検討する	事前学習	カウンセリングの基本的な技術について復習しておく。
		事後学習	逐語録をチェックして、気づいたことを記入し提出する。
第 28 回	【演習 9】 ・ロールプレイ、逐語録	事前学習	カウンセリングの基本的な技術について復習しておく。
		事後学習	逐語録をチェックして、気づいたことを記入し提出する。
第 29 回	【演習 10】 ・カウンセリングのビデオ視聴	事前学習	カウンセリングの基本的な技術について復習しておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめて提出する。
第 30 回	まとめ	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	カウンセリングの基礎 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2344
2. 授業担当教員	長坂 正文		SSMP2344
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年次以上、「心理学概説」または「心理学入門」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	カウンセリングの土台となる人間の心のメカニズムについての考え方を理解し、実際のカウンセリング面接中に生起する様々な現象とカウンセリングのプロセスおよび展開について基礎的なことを学ぶ。また、カウンセラーの条件となる基本的な態度や面接技法について、討議や演習を通して実践的に理解する。		
8. 学習目標	1. カウンセリングの基本的な概念や用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. カウンセリングの一般的なプロセスと展開について説明できる。 3. カウンセリングの基本的な理論と技法について理解し、説明できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する (A4用紙 2枚、2,400字以上)。 <ul style="list-style-type: none"> 1 自分が興味を持ったカウンセリング理論 <ul style="list-style-type: none"> *その理論の概要を紹介し、どこに興味を持ったのか、疑問点はなにか、また自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。 2 カウンセリングをする際の留意点 <ul style="list-style-type: none"> *カウンセリングを実施する際に、どのような問題があるのか、またどのようなことに留意すればよいのかについて、文献を2、3冊参考にしてまとめ、自分なりの意見を述べる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 福島脩美著『総説カウンセリング心理学』金子書房、2008。</p> <p>【参考書】 河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970。 長坂正文著『学校カウンセリングの基本技法』ほんの森出版、2000。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 総合点の50% ・レポート (2回) 総合点の50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの流派は、数え切れないほどあるが、対話を中心とした基本的なところは共通しているといえる。まずはカウンセリングがどのようなものなのかを理解し、その後、自分に合ったカウンセリングを見つけてほしい。その手伝いが少しでもできればと考える。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (講義概要の解説)。 ・現代社会とカウンセリング (心理的援助を必要とするとき、さまざまなカウンセリング、カウンセリングの効果) 	事前学習	テキスト pp.2~22 を読んで、現代社会とカウンセリングについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	事例研究について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの定義、歴史、社会的背景 (カウンセリングとは、カウンセリングの歴史、カウンセリングの社会的機能、関連領域と社会的展開) 	事前学習	テキスト pp.23~44 を読んで、カウンセリングがどのようなものかについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	アセスメントについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの構造 (構造の意義と考え方、基本構造、インフォームドコンセントと取り決め) 	事前学習	テキスト pp.46~60 を読んで、構造について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	時間的構造について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングのはじめから終わりまで (スタート点、カウンセリングの到達点、カウンセラーの役割とクライアントの役割、カウンセリング関係におけるカウンセラーの基本機能) 	事前学習	テキスト pp.61~77 を読んで、カウンセリングの実際について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	抵抗と防衛について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの基本的態度と技法 (基本的態度、基本的機能、カウンセリングプロセスと基本技法の共通点) 	事前学習	テキスト pp.78~108 を読んで、カウンセリングの基本的態度と技法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	開かれた質問・閉じられた質問について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。

第 6 回	・心理アセスメントと個性の理解 (アセスメントの意義、アセスメントの 3 つの方法、アセスメントの機会と留意点、個性の基本的傾向、発達の視点)	事前学習	テキスト pp.109～128 を読んで、心理アセスメントについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	心理検査について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 7 回	・カウンセリングの生成プロセス (鏡に映す自己理解、繰り返される原型、感情と認知への取り組み、相互作用過程・関係改善、日本におけるプロセスと技法)	事前学習	テキスト pp.129～151 を読んで、カウンセリングの生成プロセスについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	遊戯療法について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	・無意識過程への視線 (フロイトの精神分析、アドラーの個人心理学、ユングの分析心理学、交流分析)	事前学習	テキスト pp.154～169 を読んで、力動論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	防衛機制について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	・関係性と気づきへの視点 (人間中心理論、フォーカシング指向カウンセリング、ゲシュタルト療法)	事前学習	テキスト pp.170～182 を読んで、カウンセリングの基本について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	カウンセラーの 3 条件について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	・日本で生まれた心理療法 (森田療法、内観法)	事前学習	テキスト pp.183～193 を読んで、森田療法と内観法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	森田療法の実際について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	・身体への定位と注意集中 (催眠法、自律訓練法、動作法、マインドフルネス・ストレス低減法)	事前学習	テキスト pp.196～205 を読んで、催眠法、自律訓練法、動作法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	動作療法について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	・行動論的アプローチ (行動論的アプローチの基本的立場、認知行動療法、EMDR、ACT)	事前学習	テキスト pp.206～220 を読んで、行動論的アプローチについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	認知行動療法について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	・実習 (カウンセリングのロールプレイ、記録)	事前学習	自分が使用する技法についてある程度 (3、4 個) 決めておく。
		事後学習	記録を読み返して、技法が使えているか確かめる。
第 14 回	・カウンセリングの多面的アプローチ (柔軟に対応する、折衷と統合、多モードの概念化、多面的アプローチの導入、多面的アプローチの諸技法)	事前学習	テキスト pp.221～241 を読んで、カウンセリングの多面的アプローチにおけるクライアントの不安について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	折衷主義について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	・専門家として学ぶこと (カウンセリング実践から学ぶ、スーパービジョン、事例検討・事例研究)	事前学習	テキスト pp.244～269 を読んで、カウンセリングの諸問題について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	スーパービジョンについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	学習心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP2351
2. 授業担当教員	小澤 良			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	人間は、生まれてから死ぬまでの間に、さまざまなことを学習したり、忘れたりする。さらに、過去の学習を基盤として新しい学習を行うといったように、日常生活においては常に学習をしている。本科目では、こうした学習の仕組みや働きに関する代表的な学習理論について学んでいく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習心理学の基礎的な理論や研究方法についての知識を習得する。 2. 学習心理学の知識が臨床、教育、福祉等の他分野でどのように生かされているのかを理解し、説明できる。 3. 身近な問題行動の理解や改善に、習得した学習心理学の知識や研究方法を活用することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	期末レポートを提出すること。途中で宿題を求めることはないが、予習・復習をおこなうこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 指定しない (資料を事前に配布する)。</p> <p>【参考書】 山内光哉、春木豊 著『グラフィック学習心理学—行動と認知』サイエンス社、2001。</p>			
11. 成績評価の方法	レポート：90% 授業態度：10% 私語は禁止するが、質問は随時受けつけるので積極的に行うこと。			
12. 受講生への メッセージ	<p>授業はただその時間だけ参加すればよいものではなく、そこで得た知識を基に自分で知識を深めていくきっかけとなるものである。また、授業中も出来るだけ知識を吸収するため、積極的な態度で参加することが期待される。授業への参加にあたっては、以下の事項を守って臨むこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のための予習・復習を必ずする。 2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由必ず書面をもって教員に報告する。 			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明)	事前学習	シラバスを読んで内容を確認しておくこと。	
		事後学習	心理学一般に関し復習すること。	
第2回	学習心理学とは	事前学習	学習心理学について資料を探して調べておくこと。	
		事後学習	心理学における学習の位置づけを復習すること。	
第3回	古典的条件付け (行動の獲得)	事前学習	講義資料を熟読し、「行動の獲得」を A4 用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。	
第4回	古典的条件付け (行動の消去)	事前学習	講義資料を熟読し、「行動の消去」を A4 用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	第3、4回を通した内容を A4 用紙三枚程度にまとめること。	
第5回	オペラント条件付け (典型的な条件付け)	事前学習	講義資料を熟読し、「典型的な条件付け」を A4 用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。	
第6回	オペラント条件付け (より高次の条件付け)	事前学習	講義資料を熟読し、「より高次の条件付け」を A4 用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	第5、6回を通した内容を A4 用紙三枚程度にまとめる。	
第7回	回避と罰	事前学習	講義資料を熟読し、「回避と罰」を A4 用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。	
第8回	社会的学習 (模倣学習に関して)	事前学習	講義資料を熟読し、「模範学習に関して」を A4 用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。	
第9回	社会的学習 (観察学習に関して)	事前学習	講義資料を熟読し、「観察学習に関して」を A4 用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	第8、9回を通した内容を A4 用紙三枚程度にまとめること。	

第 10 回	技能学習（結果の知識に関して）	事前学習	講義資料を熟読し、「結果の知識に関して」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。
第 11 回	技能学習（練習の条件に関して）	事前学習	講義資料を熟読し、「練習の条件に関して」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	第 10、11 回を通した内容を A4 用紙三枚程度にまとめる。
第 12 回	知覚学習（視覚について）	事前学習	講義資料を熟読し、「視覚について」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。
第 13 回	知覚学習（その他の感覚について）	事前学習	講義資料を熟読し、「その他の感覚について」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	第 12、13 回を通した内容を A4 用紙三枚程度にまとめること。
第 14 回	学習と思考	事前学習	講義資料を熟読し、「学習と思考」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。
第 15 回	まとめ	事前学習	資料等を熟読し、今まで学んだことを見返し、疑問等があればまとめておくこと。
		事後学習	これまでに作成したまとめの整理をすること。

1. 科目名 (単位数)	家族心理学 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3307 PSMP3360
2. 授業担当教員	高橋 亜希		
4. 授業形態	講義および演習・ディスカッション・グループ発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	人間は生涯を通じて他者との中で生きて行く。その最も身近な人間関係の中の一つに「家族」がある。本講義では、家族システム理論を始めとする家族を理解するための鍵概念を解説し、①家族のライフコースと発達、②家族内（夫婦、親子、兄弟姉妹など）の心理構造、③家族療法の概要について学びます。講義による解説とディスカッション・グループ発表を通し、人が成長していくうえで重要な役割を持つ家族の心理に関して理解を深め、日常生活の場で起きている家族の諸問題を考察し、受講生にとっての家族観の再考を促すことを目的としています。		
8. 学習目標	家族心理学が終了した時点で下記の目標達成をすることが期待されます。 1. 家族の在り方と家族メンバーの心理的ウェルビーイングとの深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 家族の発達と共に起こりうる諸問題について指摘できるようになる。 3. 家族心理学の理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 4. 家族臨床の歴史と近年の主たる理論とアプローチについて、説明できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	講義15回の中で1~2回程度のレポート提出を求める。 レポート課題「家族システム理論」「課題図書『西の魔女が死んだ』を家族心理学の観点から読む」など。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣ブックス、2008。 【参考書】 柏木恵子著『家族心理学』東京大学出版会、2003。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、受講態度、課題レポートなどを総合して評価する。 平常点 (授業態度・授業への積極的参加) 30% 課題レポート 30% 期末レポート 40% * 本学規定により、75%以上の出席が確認できない場合は単位の修得は認められない。		
12. 受講生への メッセージ	家族の心理的問題は、特別な家族にだけ生じるものではなく、どの家庭にも生じる可能性がある。身近な問題として様々なことに関心をもって授業に臨んで欲しい。 以下の点について講義では守って欲しい。 1. 講義に積極的に参加すること。積極的な姿勢を評価する。 2. 質問は講義内で受けつける。わからないことはそのままにせず、質問すること。 3. 他の受講者の迷惑となる行為 (遅刻、不必要な私語、携帯電話等) はしないこと。		
13. オフィスアワー	初回講義時にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：シラバスの説明と本講義の目的 家族とは何か：家族心理学の基礎概念	事前学習	家族心理学の基礎概念について調べてくる。
		事後学習	家族心理学の中で自分が最も興味を持っていることをまとめてくる。
第2回	家族とは何か：家族を理解するための鍵概念	事前学習	家族とは何かについてテキストを熟読して くる。
		事後学習	自分が考える家族と講義で学んだ家族につ いてノートにまとめる。
第3回	家族システム理論	事前学習	家族システム理論についてテキストを熟読 してくる資料等を探して調べてくる。
		事後学習	家族システム理論について疑問点等をまと めておく。
第4回	家族システム：家族の構造、境界、連合	事前学習	家族システム理論についてテキストを熟読 してくる。
		事後学習	家族システムの構造と機能について説明で きるようにする。
第5回	家族システム：自己分化、三角関係、情緒遮断	事前学習	家族の構造について調べてくる。
		事後学習	家族システムの構造と機能について説明で きるようにする。
第6回	家族システム：多世代間伝達、ジェノグラム	事前学習	家族の機能について調べてくる。
		事後学習	ジェノグラムの書き方を覚える。
第7回	ジェノグラムの小テスト 家族の発達：思春期・青年と家族	事前学習	ジェノグラムの書き方を復習し、小テストに 向けて準備をしてくる。
		事後学習	思春期・青年の発達課題について覚える。
第8回	家族の発達：夫婦と家族	事前学習	夫婦と家族についてテキストを熟読して くる。
		事後学習	夫婦のレベルとステージについて復習し、ノ ートをまとめる。

第 9 回	子育てをめぐる問題：親になること	事前学習	子育てをめぐる問題について資料等を探して調べてくる。
		事後学習	親になることについて自分に問題を引き寄せてまとめてくる。
第 10 回	子育てをめぐる問題：虐待 レポート課題：児童虐待の要因	事前学習	児童虐待について資料等を探して調べてくる。
		事後学習	児童虐待の要因について実例を挙げてレポートとしてまとめる。
第 11 回	家族療法：家族療法の歴史	事前学習	家族療法の歴史についてテキストや資料等を探し調べてくる。
		事後学習	家族療法の歴史についてポイントをまとめておく。
第 12 回	家族療法：家族療法の理論	事前学習	家族療法の理論についてテキストや関連資料で調べてくる。
		事後学習	家族療法の理論について年代順にポイントをまとめておく。
第 13 回	家族療法：家族療法による援助	事前学習	家族療法による援助について資料等を探し調べてくる。
		事後学習	家族療法による援助について家族療法家による仮説をまとめておく。
第 14 回	家族療法：家族療法の実際	事前学習	家族療法についてテキストや資料、参考文献を読んでくる。
		事後学習	家族療法の実際について講義で使用した実例についてまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでに配布した講義資料を見直し、疑問点等をまとめておく。
		事後学習	期末レポートの作成。

1. 科目名 (単位数)	学校経営 (2 単位)	3. 科目番号	EDTC2309
2. 授業担当教員	伊藤 京一		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	学校経営の基本的機能について理解するとともに、現代の学校経営改革の姿とこれからの学校経営のあり方を、学校経営の基礎となる法令のしくみを理解するとともに、学校経営をめぐる実践的諸問題を検討し、学校経営を実際に機能させる力を養うことをめざし、学生諸君と対話しながら進める。		
8. 学習目標	学校は、教師集団が子ども達を計画的・系統的に教育する場であり、そこでは一人ひとりの教師のみならず教師同士の組織的な協力が不可欠である。この面に着目して学校を動かしていくことが学校経営にほかならない。この授業では、この観点から、教師が協力するとはどういうことか、学校が組織として地域や保護者に対応するとはどういうことか、などを学ぶ。学校を運営するにあたって直面する様々な事柄を理解するとともに、学校を組織する一員としての力量を身に付けることを目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	(1) 中間レポート 「学級担任である教員として学校経営にどのような姿勢で参画するか。」 (1,200 字程度とする。) (2) 期末レポート 事前に提示するテーマについて 1,200 字程度のレポートとする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 牧 昌見 著『新装版学校経営の基礎・基本』教育開発研究所、2006。 【参考書】 市川 須美子 他編著『教育小六法』学陽書房、2015。		
11. 成績評価の方法	1 授業への出席状況 (受講態度) 20 % 2 中間および期末のレポートの内容 40 % 3 期末試験 40 %		
12. 受講生への メッセージ	授業は真剣かつ楽しくありたいが、この科目は教育職員免許状取得のための選択科目であるので、以下の点に留意して出席されたい。 1 受講にあたっては、自分が教壇に立った場合はどうするかを常に考えること。 2 社会人としての常識をわきまえ、教師を目指す人の集まりにふさわしい態度を保つこと。 3 立ち居振る舞いを真摯に。私語を慎む。遅刻をしない。早退する場合は、授業の前に申し出る。 4 20 分以上の遅刻は、欠席にカウントする。 5 4 回以上欠席した者は、定期試験を受けることができない。		
13. オフィスアワー	講義の中で知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業のオリエンテーション (授業概要の説明) 学校経営の概念について学ぶ	事前学習	教科書 pp.2~7 をまとめる。
		事後学習	学校経営について自分の考えをまとめる。
第 2 回	学校経営と関連法規について学ぶ	事前学習	学校教育法を予習する。
		事後学習	学校経営と関連法規との関係についてまとめる。
第 3 回	教員の職務と学校組織について学ぶ	事前学習	教科書 pp.24~35 をまとめる。
		事後学習	教員の職務内容についてまとめる。
第 4 回	学校経営と経営参加について学ぶ	事前学習	教科書 pp.40~43 をまとめる。
		事後学習	学校経営・運営組織をまとめる。
第 5 回	経営参加と職員会議について学ぶ	事前学習	教科書 pp.44~51 をまとめる。
		事後学習	職員会議の運営上留意することをまとめる。
第 6 回	校長の役割について学ぶ	事前学習	教科書 pp.72~77 をまとめる。
		事後学習	望ましい校長の資質についてまとめる。
第 7 回	教頭の役割について学ぶ 【中間レポート提出】	事前学習	教科書 pp.78~87 をまとめる。
		事後学習	望ましい教頭の資質についてまとめる。
第 8 回	学校経営と主任の役割①について研究討議をする	事前学習	教科書 pp.92~97 をまとめる。
		事後学習	望ましい主任の役割、資質についてまとめる。
第 9 回	学校経営と主任の役割②について研究討議をする	事前学習	教科書 pp.98~115 をまとめる。
		事後学習	学校における主任の役割についてまとめる。
第 10 回	教育行政と学校経営との関わりについて学ぶ	事前学習	地方教育行政法について予習する。
		事後学習	学校の裁量権についてまとめる。
第 11 回	教員の服務について学ぶ	事前学習	地方公務員法について予習をする。
		事後学習	サービス内容についてまとめる。
第 12 回	教員の研修について学ぶ	事前学習	教育公務員特例法について予習する。
		事後学習	教員の研修とサービスとの関係をまとめる。
第 13 回	当面する教育課題にどう対処するか研究討議①をする	事前学習	提示課題について調べる。
		事後学習	対処の内容についてまとめる。
第 14 回	当面する教育課題にどう対処するか研究討議②をする 【期末レポート提出】	事前学習	提示課題について調べる。
		事後学習	対処の内容についてまとめる。
第 15 回	レポート発表と発表内容について研究討議をする	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	発表者の良い点をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	学校保健学 (学校安全を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2302						
2. 授業担当教員	辻 立世								
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	学校保健は、児童、生徒、学生並びに幼児の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果に資するための学問である。教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の法令が、学校教育課程にある子どものよりよい成長と学校教育の円滑な実施を支援している。本講義では、学校保健の構造やその意義、法的な位置づけなど、基礎的かつ重要な事項について習得し、それぞれの領域での取り組みの実際について学ぶ。また、各自が目指す職種の立場からの参画の仕方について、主体的に考えることを目指す。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校保健の意義、構造、内容について理解し、説明することができるようになる。 2 保健教育の中の、保健学習と保健指導について、その位置づけや実践のあり方について理解し、説明することができるようになる。 3 保健管理の心身の管理、生活の管理、学校環境の管理について理解し、その実践のポイントを習得する。 4 児童生徒の現代的健康課題と、これに応じた学校保健活動の進め方について習得する。 5 学校保健推進にかかわる教員として、健康増進にとって不可欠な内容について具体的に学び身につける。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校のとるべき救急処置体制、危機管理体制を考え、チャート化し、提出する。 2 学校保健経営と学校保健安全計画について関連をまとめ、提出する。 3 「児童生徒の近年の健康課題について」レポートを提出する。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】三木とみ子編著『四訂 養護概説』ぎょうせい、2009 年、3,600 円 (税込)。 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校保健実務必携 第 3 次改訂版』第一法規、2014 年、4,104 円 (税込)。 担当教員が作成した資料</p> <p>【参考書】出井美智子他共著『養護教諭のための学校保健 改訂版』少年写真新聞社、2015 年、2,592 円 (税込)。</p>								
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極性</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート、課題発表</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>事前・事後の学習の到達度</td> <td>20%</td> </tr> </table>			授業への積極性	30%	レポート、課題発表	50%	事前・事後の学習の到達度	20%
授業への積極性	30%								
レポート、課題発表	50%								
事前・事後の学習の到達度	20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>学校保健の対象となる児童生徒は、一日の大半を学校で過ごしている。その点で学校は安全で楽しい場所ではなくてはならない。また、発育・発達途上にあることから子どもたちが将来にわたって健康を保持・増進していける力を付けることができるよう、関係者や家庭・地域で協力しあい健康管理や健康指導をしていく必要がある。そのためにはどんな活動をしていけばよいのか考え合いたい。</p> <p>授業では、積極的な発言を期待している。</p>								
13. オフィスアワー	毎講義時間の前後。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション (授業概要の説明) 学校保健と諸法令、学校保健とは、学校保健活動の目的、学校保健を支える人	事前学習	学校保健の概念をまとめておく。						
		事後学習	主要な法令に目を通しておく。						
第 2 回	学校保健の領域構造について理解する。 学校保健安全計画について理解する。	事前学習	3 領域について調べてくる。						
		事後学習	学校保健経営と学校保健安全計画について関連をまとめておく。						
第 3 回	各領域構造の主な内容を理解する。 ①保健管理 (健康診断)	事前学習	健康診断の意義を考えてくる。						
		事後学習	健康診断の情報をどう生かすかをまとめる。						
第 4 回	各領域構造の主な内容を理解する。 ①保健管理 (健康観察、感染症の予防、情報管理)	事前学習	健康観察の意義を考えてくる。						
		事後学習	健康の事後措置についてまとめておく。						
第 5 回	各領域構造の主な内容を理解する。 ①保健管理 (心身の健康問題への支援)	事前学習	最近の健康問題を調べておく。						
		事後学習	児童生徒の抱える健康課題と対応についてレポートを書く。						
第 6 回	各領域構造の主な内容を理解する。 ②学校安全、危機管理、スポーツ振興センター	事前学習	学校安全の内容を調べておく。						
		事後学習	危機管理の重要性について復習をしておく。						
第 7 回	各領域構造の主な内容を理解する。 ③保健教育 (保健学習、保健指導)	事前学習	保健学習と保健指導の違いを考えてくる。						
		事後学習	新学習指導要領に目を通しておく。						
第 8 回	各領域構造の主な内容を理解する。 ③保健教育 (保健学習、保健指導)	事前学習	保健学習、保健指導の教材となるものを探してくる。						
		事後学習	保健管理と保健指導のつながりをまとめておく。						
第 9 回	ヘルスプロモーションと健康教育 学校環境衛生 (含：学校給食衛生管理) 環境衛生の測定	事前学習	ヘルスプロモーションの理念をもう一度整理しておく。						
		事後学習	学校環境衛生の法的根拠をまとめておく。						
第 10 回	学校保健計画と新学習指導要領にそった小学校の保健指導年間計画を立てる。そのねらいも発表する。	事前学習	新学習指導要領に目を通しておく。						
		事後学習	実態に即した内容が評価する。						
第 11 回	各領域の主な内容を理解する。 ④組織活動、連携	事前学習	組織活動とは何が考えられるか列挙しておく。						
		事後学習	一例を挙げ、連携の仕方をまとめる。						

第 1 2 回	保健室の法的根拠、機能、健康相談活動等について理解し、保健室登校について考える。	事前学習	保健室の目的、機能について予習してくる。
		事後学習	保健室登校について考えをまとめる。
第 1 3 回	食育と学校給食、食物アレルギーの子どもへの対応について理解する。	事前学習	学校給食が食育に果たす役割について考えてくる。
		事後学習	学校給食におけるアレルギー対策のあり方をまとめる。
第 1 4 回	特別支援教育との関わり 学校行事における保健活動について理解する。	事前学習	発達障害について調べておく。
		事後学習	学校保健活動と特別支援教育の係わりについてまとめておく。
第 1 5 回	今後の学校保健の動向（児童生徒の新しい健康課題とその対応および学校の危機管理・児童生徒期における健康教育をどう進めるか）などを考える。 まとめ	事前学習	これまでの授業資料を再度見直し、疑問点等の質問事項を考えてくる。
		事後学習	学校保健学で学んだことを整理し、採用試験の過去問に各自取り組み試験にそなえると共に実習先の学校現場の学校保健についてまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	家庭 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3309
2. 授業担当教員	浅井 恭子		
4. 授業形態	講義、実習など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	小学校教員資格取得者必修		
7. 講義概要	小学校の家庭科の授業を行ううえで必要となる家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活、環境に関する基本事項について解説するとともに実習などを行い、専門的な知識および技能を身につけることを目的とした授業を展開する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の授業を担当するための必要な家政学・生活科学全般の基本的知識および技能を身に付ける。 2. 家庭科の学びの広さが具体的にわかり、自らの生活をみつめ改善を図ることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【中間レポート課題】 家庭科における「米飯および味噌汁の調理」を含めた実習指導に対する配慮について2,000字程度で考察する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社、2008。 渡邊彩子 他 12 名監修『新編 新しい家庭 5・6』東京書籍、2015。 野崎恵津子、稲田百合 著『新任教師のしごと 家庭科授業の基礎基本』小学館、2010。 【参考書】内野紀子・藤原孝子編著『小学校新学習指導要領の展開 家庭科編 平成 20 年版』明治図書出版、2008。 東京福祉大学 編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (授業に対する意欲) 20% 期末試験 (論文) 20% 実技 (作品の評価) 40% 課題及び発表の評価 20%		
12. 受講生へのメッセージ	小学校家庭科の学習内容を十分に理解し、それに伴う知識や技術を学んでほしい。家庭科の学習内容は実生活に基づくものであり、教科の特徴として他の教科に比べて生活という実践的な家庭生活が授業内容になる。従って、自分自身の生活の質 (QOL) を高めてほしい。普段の規則的な生活がいかに大切かを深く考えて行動し、家庭科を教える側として模範となるようにしてほしい。また、家庭の役割や家庭生活の必要性を考え、よりよい家庭生活を送るための大切な学習であることを理解してほしい。家庭科は家庭の基本であり生活そのものであることを学習の中から学びとってほしい。		
13. オフィスアワー	授業前後、その他時間が許す限り対応する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 小学校家庭科について全体の学習内容の説明等	事前学習	家庭の学習ノートを準備し講義への意欲を高めること。
		事後学習	小学校家庭科の内容の把握をして、家庭の全体像をつかむこと。
第 2 回	平成 20 年の改訂の経緯及び学習内容の改訂 (平成 10 年と平成 20 年の比較を中心に) *ディスカッション	事前学習	家庭科の変遷を前もって学習しておくこと。
		事後学習	何がどのように変化したか、ディスカッションの内容を踏まえて1,000字程度にまとめること。
第 3 回	小学校学習指導要領および家庭科教科書 ① A、家庭生活と家族	事前学習	家庭生活について教科書を一読しておくこと。気になる内容は書き留めておく。
		事後学習	小学校で学ぶ家庭生活を理解してそれをノートにまとめた上で、本時での学習したことをノートに 600 字程度にまとめておくこと。
第 4 回	家族・家庭の扱いについて、近隣との関係 *ディスカッション	事前学習	家族の様々な形態を調べておくこと。
		事後学習	家族の扱い方の難しさや近隣とのかかわりを学び、注意点についてまとめること。
第 5 回	小学校学習指導要領および家庭科教科書 ② B、日常の食事と調理の基礎	事前学習	食事の形態や問題点を考えておくこと。
		事後学習	食事を作るには調理技術が必要となることを理解し、調理技術いわゆる切り方や煮方等について児童にうまく伝わるか、事例を挙げてノートに 1,000 字でまとめること。
第 6 回	食事の役割、食品群	事前学習	自分の一日の食生活を記録し、栄養素を分類しておくこと。
		事後学習	食事は食べることはもちろんであるが、食べる以外にどんなことがあるかについて考え、ノートに書き出し考察すること。
第 7 回	食生活・・・栄養、献立、実習に向けて (学校給食の献立の特徴を含む)	事前学習	小学校の給食の献立をわかる範囲内で調べておくこと。
		事後学習	学校給食の献立にはどのような配慮がなされているかについて 1,000 字程度でまとめなさい。

第 8 回	調理実習 (米飯及びみそ汁)	事前学習	実習内容を確認し、調理材料やエプロン等の準備を行っておくこと。実習室へは早めに集合して、班で打ち合わせを行っておくこと。
		事後学習	調理実習を終えての反省を配布用紙に記入し提出すること。【実習の反省及び感想】
第 9 回	小学校学習指導要領および家庭科教科書 ③ C、快適な衣服と住まい *ディスカッション	事前学習	服には季節や流行などの影響があるかを調べておくこと。
		事後学習	普段着や目的にあった服装など、服装には様々な用途があることや住まいにも季節によって工夫がされていることを理解し、衣服と住まいの季節感について1,200字でまとめなさい。
第 10 回	衣生活・・・繊維、役割 (吸水性及び燃焼実験)	事前学習	繊維製品について興味を持ち、身近なものの調査をしておくこと。
		事後学習	繊維の鑑別を実習し、それらの鑑別結果をノートにまとめること。
第 11 回	被服実習 (基礎縫い製作・・・並縫い、半返し縫い、本返し縫い)	事前学習	被服実習を行うための材料の準備をしておくこと。
		事後学習	縫い方は基礎縫いの方法で実習し、基礎縫いの作品はスクラップブック形式で完成させ名前を付けて提出すること。【作品 1】
第 12 回	被服実習 (基礎縫い・自由作品製作)	事前学習	自分が製作する作品の準備をすること。
		事後学習	作品が計画通りに進んでいるかを確認すること。作品の進路を進行表に書き込むこと。さらに今後の予定を立てておく。
第 13 回	被服実習 (自由作品製作)：千輝祭参加作品を含む	事前学習	作品の変更がある場合は必要な材料の調達を図っておく。
		事後学習	道具(ミシン・アイロン・ハサミ等)の特徴をノートに記し、取扱いの注意点についてまとめること。
第 14 回	被服実習 (自由作品製作完成)：千輝祭参加作品を含む *作品についてのプレゼンテーション	事前学習	完成を目指して作品製作への意欲を高めて、進んで製作に挑むこと。
		事後学習	完成した作品の評価を各自で行い、作品ノートを作成する。作品・製作ノートを提出すること。【作品 2】
第 15 回	小学校学習指導要領および家庭科教科書 ④ D、身近な消費生活と環境 (買い物ゲームを含む)	事前学習	家庭の経済について調べ、学習内容への意欲を高めること。一日分の買い物を記入しておくこと。
		事後学習	消費と環境の関連を理解し、家庭経済の重要性をまとめておくこと。小学生にどのような授業内容で消費に関して理解させたら効果的な学習に繋がるかについてレポートを提出すること。

1. 科目名 (単位数)	家庭科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3319
2. 授業担当教員	浅井 恭子		
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーションなど	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	小学校教員資格取得者必修		
7. 講義概要	家庭科の教科としての意義や、小学校家庭科の目標、内容、指導方法などについて教授する。さらに実際の家庭科学習のありかたを具体的な学習指導計画や学習指導案などの作成を通して、実践的に検討し提案する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の特質とその役割を知り、指導対象となる児童の生活実態や家庭科学習に関する背景的要因などを理解する。 2. 小学校家庭科の授業計画を構想し、具体的な学習指導計画や学習指導案、授業展開、評価などができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【指導案作成】 模擬授業についての指導案および、授業計画に基づいた資料作成等を各自で行う。事前に指導教官に提出し指導を受けること。 【課題】 『家庭科の学習で育成すべき力とはどのようなものか2,000字程度で述べなさい。』		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社、2008。 渡邊彩子 他 12 名監修『新編 新しい家庭 5・6』東京書籍、2015。 【参考書】内野紀子・藤原孝子編著『小学校新学習指導要領の展開 家庭科編 平成 20 年版』明治図書出版、2008。 多々納道子他 編著『教育実践力をつける家庭科教育法 第三版』大学教育出版、2011。 東京福祉大学 編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (授業に対する意欲) 30 % レポート課題 30 % 模擬授業 40 %		
12. 受講生へのメッセージ	① 授業は積極的に取り組んでほしい。 ② 講義内容を自分のものにしてほしい。 ③ 欠席や遅刻はしないように。 ④ 指導案作成などの授業準備を行い、模擬授業を教育現場と同じように効果的な場としてほしい。 *課題や成績評価に関係するので、意欲を持って取り組んでほしい。 *専門的な知識や技術の習得を目指しながら、教師としての思考力、創造力、問題解決能力など自己研鑽に励み、積極的に授業へ参加し、意欲的に学習されることを期待する。		
13. オフィスアワー	授業前後、時間が許す限り対応する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 家庭科教育の意義とねらい 小学校家庭科教育のあゆみ	事前学習	家庭科の教員としての自覚を持ち、講義に対する関心と意欲を持って臨むこと。
		事後学習	家庭科の意義と変遷について学習した事柄から、600 字程度ノートにまとめること。
第 2 回	家庭科の教育課程 ・家庭科の学習指導要領 (家庭科の目標、内容)	事前学習	家庭科の教育課程について、教科書を読んでおくこと。
		事後学習	家庭科の学習指導要領を学習して、目標や学習内容はどのように示されているかを 600 字程度でまとめること。
第 3 回	家庭科における学習指導 ・家庭科学習指導の考え方 ・家庭科で育てたい力 ・家庭科における学習指導の方法	事前学習	教科書を読んで、どんなことを学習するのかを理解しておくこと。
		事後学習	家庭科の学習指導を学習して、教育者として学習指導について思うことを 600 字程度でノートにまとめておくこと。
第 4 回	家庭科における学習指導 ・より充実した指導のために 家庭科における学習評価 学習評価の方法	事前学習	前回からのまとめをしておくこと。
		事後学習	子どもにおける学習評価の意義について、学習した内容を参考に考えをノートにまとめておくこと。
第 5 回	指導と評価の計画 ・指導計画の考え方 ・年間指導計画作成上の留意点 ・2 年間の題材計画	事前学習	指導計画について事前に教科書を読んで学習しておくこと。
		事後学習	年間学習時間や内容を理解し、5・6 年の学習計画を立てること。
第 6 回	学習指導案の作成 授業観察と評価 家庭科授業づくりの工夫	事前学習	前回の事後学習での課題を準備しておくこと。
		事後学習	指導案作成について学んだことを基に、1 時間分の指導案を計画しなさい。
第 7 回	学習指導案作成 A * 班ごとに模擬授業の準備	事前学習	学習指導案に必要な学習内容を決めておく。
		事後学習	本講義で学習したことを踏まえて、第 1~6 回までの講義内容の集大成として、指導案を完成して提出すること。

第 8 回	模擬授業①	事前学習	事前に授業の内容を話し合い、授業媒体を作成し、クラス全員に指導案を配布すること。配布物は全員分用意すること。
		事後学習	プレゼンテーション終了後、反省を行い、話し合った内容をまとめて、模擬授業の反省や意見等をノートのまとめること。
第 9 回	模擬授業②	事前学習	模擬授業の内容を話し合い、授業媒体を作成し、指導案を提出すること。配布資料は全員分用意すること。
		事後学習	プレゼンテーション終了後、反省を行い、話し合った内容をまとめて、模擬授業の反省や意見等をノートのまとめること。
第 10 回	模擬授業③	事前学習	班で事前に授業の内容を話し合い、授業媒体を作成すること。指導案は全員に配布すること。
		事後学習	プレゼンテーション終了後、反省を行い、話し合った内容をまとめて、模擬授業の反省や意見等をノートのまとめること。
第 11 回	学習指導案作成 B 個人での模擬授業準備	事前学習	各自で授業の内容を決め、授業媒体を作成し、さらに指導案を提出すること。
		事後学習	各自の模擬授業の内容を確認して、プレゼンテーションへの準備をすること。
第 12 回	模擬授業④	事前学習	事前に授業の内容を決め、授業媒体を作成し、指導教官に確認を得ること。配布資料の印刷等の準備を行うこと。
		事後学習	プレゼンテーション終了後、ディスカッションを行う。配布用紙に反省を記入し提出すること。
第 13 回	模擬授業⑤	事前学習	事前に授業の内容を決め、授業媒体を作成し、指導教官に確認を得ること。配布資料の印刷等の準備を行うこと。
		事後学習	プレゼンテーション終了後、ディスカッションを行う。配布用紙に反省を記入し提出すること。
第 14 回	模擬授業⑥	事前学習	事前に授業の内容を決め、授業媒体を作成し、指導教官に確認を得ること。配布資料の印刷等の準備を行うこと。
		事後学習	プレゼンテーション終了後、ディスカッションを行う。配布用紙に反省を記入し提出すること。
第 15 回	学習指導案作りからの課題	事前学習	各自の指導案を講義に持参すること。
		事後学習	家庭科の指導に関する課題をまとめて 2,000 字程度でまとめて提出すること。

1. 科目名 (単位数)	起業経営論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP4105
2. 授業担当教員	岡田 広司		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答などを併用する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	日本経済の再生のためにはイノベーションを生み出すベンチャー企業が不可欠である。起業家精神やベンチャーマインドはベンチャー企業だけではなく、大企業にとっても重要性を増している。ベンチャー企業の経営は容易ではないが、ベンチャーを成功させるには、立ち上げから、成長、発展までの確かなビジネスプランの作成と、市場戦略、資金調達戦略、組織戦略、IPO 戦略ならびに各種支援が必要である。起業家精神を涵養し、失敗を恐れず新しいことに果敢に挑戦するベンチャー・ビジネスの立ち上げから成功に導く経営方法について、考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 起業の意義と方法を理解し、説明することが出来る。 2. ベンチャーの企業経営について理解し、説明することが出来る。 3. ベンチャーの成長戦略について理解し、説明することが出来る。 4. ベンチャーの成長段階に相応しい資金調達を理解し、説明することが出来る。 5. IPO 市場と上場プロセスを理解し、説明することが出来る。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義の中でアサイメントやレポートを課す。授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。また、前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 岡田広司編著『商品開発とビジネス戦略』あるむ、2006。 【参考書】 岡田広司著『現代マネジメント概論増補改訂版』あるむ、2011。 岡田広司著『起業家育成と現代マネジメント研究』あるむ、2003。 岡田広司著『企業ドメインをフル活用した戦略的商品開発』泉文堂、1999。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業態度 (積極性など) 総合点の 40% 2 確認テスト 総合点の 20% 3 課題レポート提出 総合点の 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は、授業担当教員が企業時代に開発し起業した世界初の通信カラオケ『JOY SOUND』をはじめ、実践した様々な新規事業を事例として取り上げる。新しい社会背景と起業がどのように関わっているか等の視点で、起業に関心を持ってほしい。		
13. オフィスアワー	授業の中で伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明)、起業マネジメントの基本的課題とその概念	事前学習	参考書などを調べて、起業や商品開発・新事業創造の持つ意味をまとめる。
		事後学習	オリエンテーションによって得た、起業や新事業創造についての自分の考えをまとめ提出。
第 2 回	ベンチャー起業家に求められる条件	事前学習	関心のある製品や事業を取り上げ、製品や事業内容と社会との関連についてまとめる。
		事後学習	テキストを通して学んだ成功した起業家の条件と行動についてまとめる。
第 3 回	ベンチャー起業のための商品開発の考え方	事前学習	テキスト第 1 章の pp.9~19 を熟読し、起業・商品開発と経営理念との考え方をまとめる。
		事後学習	当該学習を通して、起業がもたらす付加価値とは何か、新事業創造がもたらす意義をまとめる。
第 4 回	新規事業開発のための戦略的探索法	事前学習	テキスト第 1 章 pp.19~30 を読んで、新事業開発のための戦略的商品探索法をまとめる。
		事後学習	戦略的新事業が企業活動のなかでどう機能するのかまとめ、企業の実態と比較考察する。
第 5 回	商品学の基礎	事前学習	テキスト第 2 章 pp.41~45 を読み、商品の概念や、商品研究のあり方などを中心にまとめる。
		事後学習	伝統的な商品概念を確認し、商品研究を 4 つの視点から関心ある商品を取り上げてまとめる。
第 6 回	拡大された起業のための事業概念	事前学習	テキスト第 2 章 pp.45~55 を読んで、3 つのレベルの製品概念に関する考え方をまとめる。
		事後学習	この学習を通して、起業と消費者や市場への新製品提供と事業化について理解を深める。
第 7 回	起業のための製品戦略の意義と重要性	事前学習	テキスト第 3 章の pp.56~59 を熟読し、マーチャンダイジングの重要性についてまとめる。
		事後学習	製品の 3 つの概念と製品ミックスという視点から、具体的な製品を取り上げてまとめる。
第 8 回	起業を実現する製品計画	事前学習	テキスト第 3 章 pp.60~63 を熟読し、製品計画のおよび新製品開発の要点をまとめる。
		事後学習	起業活動のなかで最も重要なテーマの一つである

			新製品開発の実行プロセスをまとめる。
第 9 回	新事業開発と製品ライフサイクルの展開	事前学習	製品ライフサイクルについて熟読し、製品の導入期・成長期・成熟期・衰退期を考察する。
		事後学習	市場における製品を取り上げ、製品ライフサイクルの適応事例としてまとめ理解を深める。
第 10 回	起業から経営多角化への展開	事前学習	テキスト第 3 章 pp.66～68 を熟読しまとめ、経営の多角化についての予備知識を得る。
		事後学習	学習成果を応用して、計画的陳腐化政策や製品多角化という視点から事例をまとめる。
第 11 回	製品差別化と市場細分化戦略	事前学習	テキスト第 3 章 pp.69～72 を熟読し、製品差別化と市場細分化について内容をまとめる。
		事後学習	学習成果からプロダクトアウトとマーケットインの手法を導入した事例をまとめる。
第 12 回	ポートフォリオ計画と起業化戦略	事前学習	テキスト第 3 章のポートフォリオ・マトリクスを読み、予備知識としてまとめる。
		事後学習	学習成果の中からポートフォリオ計画と製品ライフサイクル、SBU の関係などをまとめる。
第 13 回	起業による消費者志向の商品戦略と商品コンセプト	事前学習	テキスト第 4 章 pp.75～106 を読み、消費者志向の事業開発、消費者動向分析、新事業創生コンセプトを中心にまとめる。
		事後学習	生活者志向、消費者動向分析の重要性を中心にブレインストーミング、アイデア発想法をまとめ、起業活動への理解を深める。
第 14 回	起業のための商品具現化戦略と顧客満足 (CS)	事前学習	テキスト第 4 章 pp.106～130 を読み、コンジョイント・スタディ、データ分析などをまとめる。
		事後学習	学習成果であるコンジョイント・スタディの手順など総合的な手法をまとめ知識を深める。
第 15 回	IPO 市場と上場プロセス	事前学習	未上場企業が新規に株式を上場する IPO についての基礎知識や株式市場に新たに株式を供給する意味などの予備知識をまとめる。
		事後学習	学習成果から、ベンチャー企業などが株式上場するプロセスをまとめ、企業の成長に必要な株式上場のポイントと意義をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	企業統治論 (非営利企業を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3116
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	講義を主にしながら質問、報告、討論の時間をつくり進める。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>1) 企業の健全な経営のため最も重要な機能は企業統治だといわれている。まず企業統治 (コーポレート・ガバナンス) とは何かについて理解を深める。</p> <p>2) 企業という場合、株式会社などの営利企業のほかに非営利企業(NPO 法人など)、最近では社会的企業と表現される企業があるが、株式会社を中心としつつ、各種の企業経営に共通の機能として企業統治機能の内容を解明する。</p> <p>3) 企業活動のグローバル化にともない、日本をはじめアメリカ、中国、韓国、ドイツなどの企業統治の特徴を具体的にとりあげ、国際化への知的対応を準備する。</p>			
8. 学習目標	<p>将来、企業 (営利企業、非営利企業) へ就職したり、企業を設立、運営したり、企業と関係することが多いと思われ、そのような意味から学習の目標としては、1) 企業の立場から企業統治を考えるとともに、2) 企業の利害関係者 (ステイクホルダー) の立場から、株主、従業員、顧客、地域社会などの視点から考え、3) 数多くの具体的な事例をとりあげ、問題への認識を深めることを目標とする。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義でとりあげ学習した問題または関連するテーマについて課題を示し、それについてレポートを作成または報告する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 菊池敏夫著『現代企業論-責任と統治-』中央経済社、2007。</p> <p>【参考書】 高巖著『コンプライアンスの知識<第2版>』日本経済新聞社、2010。 菊池敏夫、太田三郎、金山権、関岡保二編著『企業統治と経営行動』文眞堂、2012。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への質問・討論などの積極性 20%</p> <p>課題レポート 30%</p> <p>期末試験 50%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>将来、企業 (営利・非営利企業) への就職、企業の設立、企業の経営管理への参加などの機会を想定しながら学習することをおすすめしたい。そうすることによって学習が将来の夢の実現への準備となり、問題を真剣に考えられるようになるからである。</p>			
13. オフィスアワー	別途、お知らせする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	I 企業と責任の統治	事前学習	pp.1~3 を読み企業統治の問題をまとめること	
		事後学習	p.6 の企業の歴史と社会的責任との関係をまとめる。	
第2回	II 現代企業のステイクホルダーの関係	事前学習	p.9 の企業とステイクホルダーを読みまとめること。	
		事後学習	p.12 の株主・投資家関係のあり方についてまとめる。	
第3回	III 企業社会責任と経営倫理：企業行動と倫理的価値	事前学習	p.35 の企業行動と倫理的価値を読みまとめる。	
		事後学習	p.46 の経営倫理と社会的責任をまとめる。	
第4回	III 企業社会責任と経営倫理：アジアにおける企業行動と経営倫理	事前学習	p.51 を読み企業理念と経営慣行をまとめる。	
		事後学習	p.54 の日本における経営倫理と自己規制力をまとめる。	
第5回	IV 企業統治と経営管理：日本のコーポレートガバナンス	事前学習	p.65 の日本の取締役会の特徴を読みまとめること。	
		事後学習	p.70 の取締役会の構成をまとめる。	
第6回	IV 企業統治と経営管理：コーポレートガバナンス論における問題の分析	事前学習	p.76 のイギリスにおける会社統治論の背景を読みまとめること。	
		事後学習	p.82 の変化する企業観についてまとめる。	
第7回	V 企業統治の国際比較：企業統治と企業行動	事前学習	p.99 の経営者報酬の問題を読みまとめる。	
		事後学習	p.105 の企業行動の評価基準をまとめる。	
第8回	V 企業統治の国際比較：日本のコーポレートガバナンス	事前学習	p.107 の日本におけるコーポレートガバナンスの特徴を読みまとめる。	
		事後学習	p.113 の経営者報酬への株主の監視をまとめる。	
第9回	VI 企業の所有構造の変化：ヨーロッパ企業の合併行動	事前学習	p.118 のヨーロッパ諸国間の企業合併を読みまとめること。	
		事後学習	p.124 の国際的合併・買収の問題点をまとめる。	

第 1 0 回	VI 企業の所有構造の変化：企業成長方式の検討	事前学習	p.130 の企業成長方式の日米比較を読みまとめる。
		事後学習	p.139 のM&Aに対する規制をまとめる
第 1 1 回	VI 補論日本の企業合併とカルテルの特徴	事前学習	p.150 の企業合併の 1990 年代の特徴についてまとめる。
		事後学習	p.162 の市場経済の限界と公的機関の役割についてまとめる。
第 1 2 回	VII 企業行動と政府規制：企業に対する政府規制の研究と調査—1970-80 年代のアメリカ	事前学習	p.181 のアメリカ自動車企業に対する政府規制の研究を読みまとめる。
		事後学習	p.182 の企業に対する規則組織をまとめる。
第 1 3 回	VII 企業行動と政府規制：企業に対する規制緩和論	事前学習	p.184 の規制緩和の背景を読みまとめる。
		事後学習	p.189 の企業行動への規制とその背景をまとめる。
第 1 4 回	VIII 企業統治の課題と展望	事前学習	p.189 の企業責任の視点から組織の違法行為の要因をまとめる。
		事後学習	p.197 のコーポレートガバナンスと経営者についてまとめる。
第 1 5 回	講義全体のまとめと課題	事前学習	企業統治・コンプライアンスの概要を整理する。
		事後学習	東芝問題、旭化成問題をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	基礎演習 I (1 単位)	3. 科目番号	GEBS1108
2. 授業担当教員	高橋 亜希		
4. 授業形態	演習・ディスカッション・グループ発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学とはどのような学問領域なのか、また、主な研究テーマや研究方法にはどのようなものがあるのかについて体験的に理解することを目標とする。</p> <p>具体的には身近なテーマについて、質問紙法、実験法、観察法、事例研究といった心理学における代表的な研究方法を用いた簡単な演習を通して、自分自身の心理的特徴について理解し、あわせて基礎的な知識や技術を習得する。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 心理学という学問領域、主な研究テーマ、研究方法について説明することができる。</p> <p>2. データ (事実) に基づいて、理論的・批判的に考え、意見を述べることができる。</p> <p>3. 心理学的なもの見方、考え方を日常生活で応用することができる。</p> <p>4. 心理学を通して自己や他者、社会を理解することができる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：授業で演習として実施する課題に関してレポートを作成する。</p> <p>グループ課題：興味のあるテーマについて、口頭発表およびレポートにて成果発表を行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】世界思想社編集部・編『大学生の学びのハンドブック 3 訂版』世界思想社、2015。</p> <p>【参考書】必要に応じて授業で紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、受講態度、課題レポートなどを総合して評価する</p> <p>平常点 (授業態度・授業への積極的参加) 20%</p> <p>発表資料作りと発表 30%</p> <p>課題・レポート 50%</p> <p>* 本学規定により、75%以上の出席が確認できない場合は単位の修得は認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>一口に「心理学」と言っても、その中にはいろいろな「心理学」がある。演習を通して心理学の異なる分野や研究方法について体験的理解を深め、「科学としての心理学」に興味をもって欲しい。受講生の皆さんの積極的な参加を期待する。</p> <p>授業内容は受講者の皆さんの興味や理解度によって、適宜変更する可能性がある。</p>		
13. オフィスアワー	初回講義時にお伝えします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・自己 (他己) 紹介	事前学習	シラバスを確認しておく。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめる。
第 2 回	ノートのとり方	事前学習	テキスト第 1 章を読んでくる。
		事後学習	課題をまとめてくる。
第 3 回	テキストの読み方	事前学習	テキスト第 2・3 章を読んでくる。
		事後学習	課題をまとめてくる。
第 4 回	レポートの書き方	事前学習	テキスト第 4・5 章を読んでくる。
		事後学習	課題をまとめてくる。
第 5 回	質問紙法：性格	事前学習	自分の性格について考えておく。
		事後学習	講義で行った質問紙法演習の結果をまとめる。
第 6 回	質問紙法：矢田部ギルフォード性格検査実施	事前学習	YG 性格検査について調べる。
		事後学習	検査結果をまとめる。
第 7 回	質問紙法：矢田部ギルフォード性格検査解釈	事前学習	模擬事例を解釈する。
		事後学習	結果のまとめを書く。
第 8 回	質問紙作成法：質問紙の作成①	事前学習	質問紙のテーマについて考えておく。
		事後学習	テーマに関連した資料・文献を探し、読んでおく。
第 9 回	質問紙作成法：質問紙の作成②	事前学習	テーマに関連した資料・文献を探し、読んでおく。
		事後学習	質問紙の項目を作成する。
第 10 回	質問紙作成法：質問紙の作成③	事前学習	質問紙の項目を作成する。
		事後学習	質問項目を精査し、完成させる。
第 11 回	質問紙作成法：データ収集と結果の整理	事前学習	質問項目を精査し、完成させる。
		事後学習	質問紙調査結果を整理し、発表資料を作成する。
第 12 回	作業検査法：内田クレペリン精神作業検査実施・解釈	事前学習	内田クレペリン精神作業検査について調べる。
		事後学習	検査結果をまとめる。
第 13 回	質問紙作成法：グループ発表	事前学習	発表の準備。質問紙調査のレポート作成。
		事後学習	質問紙調査のレポート作成。
第 14 回	質問紙作成法：グループ発表	事前学習	発表の準備。質問紙調査のレポート作成。
		事後学習	質問紙調査のレポート作成。
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	講義内容を全体で振り返り。
		事前学習	レポート課題作成。

1. 科目名 (単位数)	基礎演習Ⅱ (1 単位)	3. 科目番号	GEBS2108
2. 授業担当教員	高橋 亜希		
4. 授業形態	演習、発表、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学は科学として在ることを示すことで生まれ、また経験と実践の学としても積みあげられてきている。学問としての心理学を学んでいくにあたり、心理学的なものの方や考え方を養うことは欠かせない。これは、先人の研究成果を正確に読み取り、自身の意見を論理的に組み立てることであったり、臨床心理学的な観点から人間理解を深めることであったりする。</p> <p>本講義においては、心理学の専門的内容を学び始める準備として、心理学の基本的なテーマを取りあげながら、基礎的な知識を身につけると同時に、学問としての心理学の視点・観点を身につけることをねらいとする。講義においては演習や議論、発表を通して、知識と同時に体験的な理解を深めていく。</p>		
8. 学習目標	<p>1 心理学的なものの方や考え方を体験的に身につけていく。</p> <p>2 心理学の基本的なテーマについて基礎知識を学ぶ。</p> <p>3 自ら学び、まとめる過程を通して、心理学的視点を身につけ、応用する力を養う。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義前には必ず該当部分に通す。 発表資料作りをし、授業で発表をする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】石黒圭著『この1冊でちゃんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012。 【参考書】小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社、2009。 河野哲也著『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会、2002。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加 (態度、発言) 40% レポート・提出課題 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>講義中は良く聞き良く考え、そして復習すること。 ディスカッションやグループワーク等において、自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。</p>		
13. オフィスアワー	初回講義時にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	テキストの目次に目を通してくる。
		事後学習	講義内で疑問に思ったことをまとめる。
第2回	心理学論文の構成	事前学習	テキストを読んで、心理学論文の構成について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第3回	心理学論文の構成：問う—目的	事前学習	テキストを読んで、心理学の目的について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第4回	心理学論文の構成：調べる—先行研究	事前学習	テキストを読んで、心理学の論文を書くための先行研究について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第5回	心理学論文の構成：選ぶ—資料と方法	事前学習	テキストを読んで、心理学を研究するための資料収集とその方法について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第6回	心理学論文の構成：確かめる—結果と分析	事前学習	テキストを読んで、心理学研究の結果とその分析について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第7回	心理学論文の構成：裏付ける—考察	事前学習	テキストを読んで、心理学的考察について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第8回	心理学論文の構成：まとめる—結論	事前学習	テキストを読んで、心理学論文の結論のあり方について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第9回	心理学論文の表現	事前学習	テキストを読んで、心理学論文の表現について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第10回	心理学用語の正確な選択	事前学習	テキストを読んで、心理学用語の正確な選択について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。

第 1 1 回	心理学用語の正確な表記	事前学習	テキストを読んで、心理学用語の正確な表記について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第 1 2 回	心理学論文における専用の表現	事前学習	テキストを読んで、心理学論文での専用表現について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第 1 3 回	心理学論文の文体	事前学習	テキストを読んで、心理学論文の文体について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第 1 4 回	心理学論文における明晰な文・文章展開	事前学習	テキストを読んで、心理学論文での明晰な文章について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。
第 1 5 回	心理学論文における書き手の責任	事前学習	テキストを読んで、心理学論文を書く上での書き手の責任について考えをまとめておく。
		事後学習	学んだことをノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3211
2. 授業担当教員	西脇 雅彦		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2年次までの教職課程科目並びにキャリア基礎演習 I/キャリア基礎演習 II をすでに単位取得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教員には、校種別の専門的知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身に付けることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習 I (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習 I A (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア開発演習 I A においては、「教職教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力を身につけることを目標とする。各回の演習においては、「教職教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。		
8. 学習目標	1. 教育に関する基礎的な教養を身に付け、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得することができる。 2. 教職教養の各領域の出題傾向を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 教職教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 教職教養の各領域の過去問演習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集等に取り組み、自己学習できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 授業の前に必ず予習をしてくること。また、同じ問題を繰り返し自分で解いてみる。 2 各都道府県によって出題傾向が違うので、自分が受験する予定の都道府県の情報を各自で必ず入手しておくこと。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】東京教友会著『教員採用試験シリーズ 教職教養ランナー 2017 版』一ツ橋書店、2016 年。		
11. 成績評価の方法	授業への意欲や関心等にかかる態度 毎回のテスト	総合点の 50 % 総合点の 50 %	
12. 受講生へのメッセージ	各自しっかりとした目標を持って、自分の希望を実現するために努力を惜しまず、学習に取り組んでほしい。		
13. オフィスアワー	時間・場所：第 1 回目のときに指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業の概要説明 教員採用及び公務員採用対策 (模擬試験)	事前学習	教員採用試験について資料を探し、内容を確認しておく。
		事後学習	具体的な年間学習計画を立てる。
第 2 回	教育心理① 主要人物	事前学習	教科書 pp.270~275 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 3 回	教育心理② 学習理論、学力、適応機制	事前学習	教科書 pp.294~302 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 4 回	教育心理③ 生徒指導① 安全指導①	事前学習	教科書 pp.140~143,162~165 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 5 回	生徒指導② 安全指導②	事前学習	教科書 pp.144~149,166~167 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 6 回	生徒指導③	事前学習	教科書 pp.154~157 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 7 回	教育法規①	事前学習	教科書 pp.8~15 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 8 回	教育法規②	事前学習	教科書 pp.16~23 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 9 回	教育法規③	事前学習	教科書 pp.24~29 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 10 回	教育法規④	事前学習	教科書 pp.30~41 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 11 回	教育法規⑤	事前学習	教科書 pp.42~55 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 12 回	教育法規⑥	事前学習	教科書 pp.56~76 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 13 回	教育法規⑦	事前学習	教科書 pp.77~89 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 14 回	教育法規⑧	事前学習	教科書 pp.90~97 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。

第 15 回	模擬試験の練習	事前学習	これまで学習した問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 16 回	教育法規⑨	事前学習	教科書 pp.99～107 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 17 回	教育法規⑩	事前学習	教科書 pp.110～118 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 18 回	教育法規⑪	事前学習	教科書 pp.119～の 131 問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 19 回	人権尊重の教育①	事前学習	教科書 pp.170～177 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 20 回	人権尊重の教育②	事前学習	教科書 pp.178～188 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 21 回	現代の教育①	事前学習	教科書 pp.190～198 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 22 回	現代の教育②	事前学習	教科書 pp.199～210 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 23 回	現代の教育③ 西洋教育史①	事前学習	教科書 pp.211～216,218～222 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 24 回	西洋教育史②	事前学習	教科書 pp.223～240 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 25 回	日本教育史①	事前学習	教科書 pp.242～251 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 26 回	日本教育史②	事前学習	教科書 pp.252～268 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 27 回	教育課程と教授・学習	事前学習	教科書 pp.304～310 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 28 回	学習指導要領①	事前学習	教科書 pp.312～334 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 29 回	学習指導要領②	事前学習	教科書 pp.335～359 の問題を予習しておく。
		事後学習	間違えた問題等を再確認し、ノートにまとめる。
第 30 回	まとめ	事前学習	これまでの学習について見直しておく。
		事後学習	今後に向けて、自分の必要な学習について確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3213
2. 授業担当教員	西脇 雅彦		GECD3214
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、キャリアアップにつながる「教養」を身に付けるための一環として、効果的な考え方や勉強法を学習参考例や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、考え方や解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取り上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導などを行い、社会現場で役立つ実践的な能力を身に付けていく。		
8. 学習目標	本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。 ①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。 ②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。 ③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。 ④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。 ⑤上記の①～④を兼ね備えた、総合的な教養と実践力を身に付けられる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業の前に必ず演習問題の予習をしていくこと。また、間違えた問題は課題として繰り返し解くようにすること。毎日、新聞の読み比べを行っておくこと。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【参考書】資格試験研究会編『市役所上・中級教養・専門試験過去問 500 2016 年度版』実務教育出版、2014 年。 中村一樹『中村流 市役所合格必勝過去問 第 3 版』三修社、2014 年。		
11. 成績評価の方法	授業への出席状況、意欲や関心等にかかる態度	総合点の 30%	
	授業時の確認テスト	総合点の 70%	
12. 受講生への メッセージ	目標を見つけるために、既に目標がある人はそれを実現するために、努力を惜しまず、課題に取り組むように。		
13. オフィスアワー	時間・場所：第 1 回目のときに指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業の概要説明 文学・芸術・国語・経済事情 pp.120~123、p.506、 p.507	事前学習	大学卒業時の取得資格や取得単位について考える。
		事後学習	希望する進路に必要な物を調べる。
第 2 回	政治・経済 pp.2~17、pp.33~43	事前学習	政治・経済の問題 (pp.2~9、pp.33~38) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.10~17、pp.39~43 の問題を解く。
第 3 回	社会・日本史 pp.55~88	事前学習	社会・日本史の問題 (pp.55~61、pp.68~77) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.62~67、pp.78~88 の問題を解く。
第 4 回	世界史・地理 pp.89~119	事前学習	世界史・地理の問題 (pp.89~96、pp.104~111) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.97~103、pp.112~119 の問題を解く。
第 5 回	物理・化学 pp.140~163	事前学習	物理・化学の問題 (pp.140~145、pp.152~157) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.146~151、pp.158~163 の問題を解く。
第 6 回	生物・地学 pp.164~191	事前学習	生物・地学の問題 (pp.164~171、pp.180~185) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.172~179、pp.186~191 の問題を解く。
第 7 回	文章理解 pp.192~224	事前学習	文章理解の問題 (pp.192~207) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.208~224 の問題を解く。
第 8 回	判断推理 pp.225~264	事前学習	判断推理の問題 (pp.225~244) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.245~264 の問題を解く。
第 9 回	数的推理 pp.280~319	事前学習	数的推理の問題 (pp.280~294) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.295~319 の問題を解く。

第 10 回	数学・資料解釈 pp.125~139、pp.328~335	事前学習	数学・資料解釈の問題 (pp.125~132、pp.328~331)を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.133~139、pp.332~335 の問題を解く。
第 11 回	政治・経済 pp.18~33、pp.44~54	事前学習	政治・経済の問題 (pp.18~25、pp.44~48) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.26~33、pp.49~54 の問題を解く。
第 12 回	政治学・行政学 pp.338~360	事前学習	政治学・行政学の問題 (pp.338~343、pp.349~353) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.344~348、pp.354~360 の問題を解く。
第 13 回	国際関係 pp.375~384	事前学習	国際関係の問題 (pp.375~379) を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。 pp.380~384 の問題を解く。
第 14 回	自己分析 (1) 一人で行う自己分析	事前学習	自己分析とは何かを調べる。
		事後学習	自分グラフを作る。
第 15 回	自己分析 (2) 自己分析サービス、ディスカッション	事前学習	自分の関心がどこにあるか考える。
		事後学習	自分の考えを言語化する練習をする。今後の就職活動計画について考える。

1 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (日本語教育) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3316
2 授業担当教員	森田 哲志		
4 授業形態	講義、問題演習	5. 開講学期	通年
6 履修条件・他科目との関係	3 年次以上		
7 講義概要	本科目は、広く基礎科目を学習することにより大学卒業レベルの一般教養を身につけること、学生が希望する職種に就職するための一助となることを目的とする。		
8 学習目標	一般企業人や社会人に必要な教養を身につけるために一般教養の演習問題を中心に幅広く学習する。具体的には、毎回の課題内容からテストを行い、復習問題を行うことで知識の定着を図る。		
9 アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の前に必ず演習問題の予習をすること。また、間違えた問題は課題として繰り返し解くこと。毎日、新聞の読み比べを行うこと。		
10 教科書・参考書・教材	【教科書】なし 【参考書】資格試験研究会編『国家総合職 教養試験 過去問 500 2016 版』実務教育出版、2015、3、240 円。		
11 成績評価の方法	授業の出席態度、意欲や関心等・・・総合点の 30% 授業時の確認テスト・・・・・・・・・・総合点の 70%		
12 受講生へのメッセージ	社会人としての基礎教養をしっかりと身に付け、自分の希望する就職先や資格の取得について真剣に考えて欲しい。		
13 オフィスアワー	不明な点や質問があれば、遠慮なく研究室を訪ねて欲しい。在室中は、来客のない限りいつでも対応する。		
14 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業の概要説明、一般教養試験対策	事前学習	大学卒業時の取得資格や取得単位について考える。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 2 回	政治 (1)	事前学習	政治 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 3 回	政治 (2)	事前学習	政治 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 4 回	経済 (1)	事前学習	経済 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 5 回	経済 (2)	事前学習	経済 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 6 回	世界史 (1)	事前学習	世界史 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 7 回	世界史 (2)	事前学習	世界史 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 8 回	日本史 (1)	事前学習	日本史 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 9 回	日本史 (2)	事前学習	日本史 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 10 回	地理 (1)	事前学習	地理 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 11 回	地理 (2)	事前学習	地理 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 12 回	国際関係 (1)	事前学習	国際関係 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 13 回	国際関係 (2)	事前学習	国際関係 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 14 回	数学 (1)	事前学習	数学 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 15 回	数学 (2)	事前学習	数学 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 16 回	物理 (1)	事前学習	物理 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 17 回	物理 (2)	事前学習	物理 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 18 回	化学 (1)	事前学習	化学 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。

第 19 回	化学 (2)	事前学習	化学 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 20 回	生物 (1)	事前学習	生物 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 21 回	生物 (2)	事前学習	生物 (2) 問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 22 回	地学 (1)	事前学習	地学 (1) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 23 回	地学 (2)	事前学習	地学 (2) の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 24 回	環境	事前学習	環境の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 25 回	コンピュータ・情報社会	事前学習	コンピュータ・情報社会の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 26 回	国語	事前学習	国語の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 27 回	倫理	事前学習	倫理の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 28 回	英語	事前学習	英語の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 29 回	音楽	事前学習	音楽の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。
第 30 回	美術	事前学習	美術の問題を予習する。
		事後学習	間違えた問題をやり直す。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (教養コース) (2 単位)		3. 科目番号	GECD4213 GECD4214
2. 授業担当教員	武田 嘉孝			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	経営学が履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、就職試験や資格試験のためだけでなく、有能な社会人として必要な「教養」を身に付けるための一環として、効果的な勉強法を資料や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導なども行い、現場で役立つ実践的な能力を身に付ける。			
8. 学習目標	本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。 ①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。 ②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。 ③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。 ④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。 ⑤上記の①～④を兼ね備えた、有能な社会人として活躍できる総合的な教養力や実践力を身に付けられる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義の最後に、その時間に学んだ内容を整理してレポートを提出する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	佐藤・藤村・八代著『新しい人事労務管理 第4版』有斐閣アルマ、2011。			
11. 成績評価の方法	1. 毎時間に提出したレポート点：60% 2. 授業への参加度 (授業中の態度)：20% 3. 授業への参加度 (参加意欲など)：20%			
12. 受講生への メッセージ	本講義を履修し内容を学ぶことによって、自らのキャリア開発の必要性が人事管理においていかに重要であるかを自覚してほしい。			
13. オフィスアワー	別途指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	企業経営と人事労務管理	事前学習	人事労務管理システムを環境要因を調べる。	
		事後学習	環境要因と人事労務管理システムとの関連性を理解する。	
第2回	雇用管理	事前学習	インターネットによる求人方法を調べる。	
		事後学習	人材活用の在り方を従業員の年代別に理解する。	
第3回	人事制度	事前学習	職能資格制度について調べる。	
		事後学習	職能資格制度の人事労務管理での役割を知る。	
第4回	賃金管理	事前学習	出来高払い制度の意義を調べる。	
		事後学習	日本企業における賃金支払い形態を理解する。	
第5回	昇進管理	事前学習	昇進が従業員に与える仕事意欲との関連性。	
		事後学習	ポジティブ・アクションの意義を理解する。	
第6回	労働時間管理	事前学習	労働者にとっての労働時間制度の機能を調べる。	
		事後学習	労働時間短縮の課題を理解する。	
第7回	能力開発 (キャリア開発)	事前学習	職業能力育成の方法を調べる。	
		事後学習	職業能力の育成と生涯学習との関連性を理解する。	
第8回	非正規従業員と派遣労働者	事前学習	非正規従業員の形態の種類を調べる。	
		事後学習	企業業務の外部化や派遣社員の意義を知る。	
第9回	従業員の生活支援	事前学習	教育訓練制度の意義を調べる。	
		事後学習	個人の能力開発について雇用保険の適用の仕組みを理解する。	
第10回	労使関係管理	事前学習	労働者と組合との関連性を調べる。	
		事後学習	日本の企業別組合が作られる理由を知る。	
第11回	人事労務管理制度	事前学習	最近の人事管理制度の改革を調べる。	
		事後学習	能力主義管理の特徴を理解する。	
第12回	人事労務管理の国際比較	事前学習	国際比較の前提条件を調べる。	
		事後学習	同じ義体制の人事労務管理の変数を理解する。	
第13回	第1回～第4回までの要約	事前学習	まとめ。	
		事後学習	自分の意見。	
第14回	第5回～第8回までの要約	事前学習	まとめ。	
		事後学習	自分の意見。	
第15回	第9回～第12回までの要約	事前学習	まとめ。	
		事後学習	自分の意見。	
期末試験				

1 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (日本語教育) (2 単位)		3. 科目番号	GECD4316
2 授業担当教員	森田 哲志			
4 授業形態	講義、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期	
6 履修条件・他科目との関係				
7 講義概要	ドラッカーのマネジメントの概略を分かりやすいイラスト等を通じて理解する。 授業は、教科書を輪読した後、それぞれの感じたことを発表し、さらに与えられたテーマについてディスカッションする。 ディスカッションを通じて学習したことを振り返り票に整理し記載する。			
8 学習目標	本科目では、ドラッカーが考えるマネジメント論の基礎を理解することができる。 現代の日本におけるビジネス活動の中では、ドラッカーの唱えるマネジメント論はとても役に立つ理論として受け入れられているので、経営学の入門書としてしっかりと学んで欲しい。			
9 アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中で指示する。 例: 「知識社会について」レポート 1,200 字以上 (ドラッカーのいう知識社会の中で自分はどのように生き抜くかを中心に論じること)			
10 教科書・参考書・教材	【教科書】 津田 太愚著『ドラッカーのマネジメントがマンガで3時間でわかる本』明日香出版社、2011。 【参考書】 岩崎 夏海著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』ダイヤモンド社、2009。			
11 成績評価の方法	①授業態度	総合点の50%		
	②授業内課題	総合点の10%		
	③レポート (期末試験)	総合点の40%		
12 受講生へのメッセージ	①欠席・遅刻・早退をしない。やむを得ない場合は、届を提出すること。 ②分からないことは、授業後やオフィスアワーを利用して質問し、理解を深めること。 ③双方向対話型の授業を基本とするので、受講生の積極的な授業参加を期待したい。			
13 オフィスアワー	授業の前後 (その他授業中に指示をする)			
14 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ドラッカーはマネジメントの神様	事前学習	第一章 pp.1~4 を一読し、ドラッカーという人物をイメージする。	
		事後学習	組織論についてまとめる。	
第2回	顧客の創造	事前学習	第一章 pp.5~10 を一読する。	
		事後学習	顧客の創造について自分の考えを整理する。	
第3回	企業はどこへ向かっているのか (1)	事前学習	第二章 pp.11~15 を一読する。	
		事後学習	企業や組織の目的について自分の考えたことを整理する。	
第4回	企業はどこへ向かっているのか (2)	事前学習	第二章 pp.16~19 を一読する。	
		事後学習	目標と戦略について学んだことを整理する。	
第5回	知識社会の到来 (1)	事前学習	第三章 pp.20~23 を一読し、新しい概念について事前学習しておく。	
		事後学習	知識社会について学んだことを整理する。	
第6回	知識社会の到来 (2)	事前学習	第三章 pp.24~27 を一読する。	
		事後学習	知識社会におけるマネジメントについて学んだことを整理する。	
第7回	組織のイノベーション	事前学習	第四章 pp.28~35 を一読し、イノベーションの意味を考える。	
		事後学習	企業経営におけるイノベーションについて学んだことを整理する。	
第8回	戦略思考	事前学習	第五章 pp.36~43 を一読し、戦略的思考についてイメージする。	
		事後学習	情報化社会における企業戦略について学んだことを整理する。	
第9回	働くって何だ (1)	事前学習	第六章 pp.44~47 を一読し、働くことの意味について考える。	
		事後学習	自己マネジメントについて学んだことを整理する。	
第10回	働くって何だ (2)	事前学習	第六章 pp.48~51 を一読する。	
		事後学習	企業内における自己マネジメントについて学んだことを整理する。	
第11回	公的機関と社会貢献 (1)	事前学習	第七章 pp.52~55 を一読し、公的機関について事前学習しておく。	
		事後学習	公的機関について学んだことを整理する。	

第 1 2 回	公的機関と社会貢献 (2)	事前学習	第七章 pp.56～58 を一読し、社会的責任について考えておく。
		事後学習	企業の社会的責任について学んだことを整理する。
第 1 3 回	次の時代は何か (1)	事前学習	第九章 pp.67～70 を一読し、自分なりに未来予測してみる。
		事後学習	ドラッグターの未来予測から学んだことを整理する。
第 1 4 回	次の時代は何か (2)	事前学習	第九章 pp.71～73 を一読し、ドラッグターの主張を理解する。
		事後学習	未来予測から学んだことを整理する。
第 1 5 回	日本の問題	事前学習	第十章を一読し日本の問題を理解する。
		事後学習	日本の問題と自国の問題を対比しながら考えたことを整理する。
期末試験			

1 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GECD1111
2 授業担当教員	森田 哲志			
4 授業形態	演習、討議	5. 開講学期	秋期	
6 履修条件・他科目との関係	キャリア基礎演習 II、キャリア開発演習 I へとつながるキャリア科目の基礎となる科目である。 1 年次以上			
7 講義概要	本講義は、主としてビジネスマンとしての基礎学力及び教養養成を目標として開講する。			
8 学習目標	1 日本社会のビジネスマンとして必要とされる基礎的学力及び教養を身に付ける。 2 日本語を使い通常のビジネス会話ができるようになる。 3 面接試験において、自分の意見を的確に表現できるようになる。			
9 アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎時テストをする。授業の前に必ず予習をしておくこと。間違えた問題は必ず見直しをすること。			
10 教科書・参考書・教材	【教科書】なし 【参考書】資格試験研究会編『一般知識まるごとチェック』実務教育出版、2011、1,296 円 (税込)。			
11 成績評価の方法	授業への意欲や関心等にかかる態度・・・・・・・・・・総合点の 30% 授業時の確認テスト・期末試験・・・・・・・・・・総合点の 70%			
12 受講生へのメッセージ	日本語を使ったビジネス関連表現が的確にできるように日々研鑽して欲しい。そのためには、努力を惜しまず、課題に積極的に取り組む姿勢が必要。			
13 オフィスアワー	火、水、金の研究室在室中			
14 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	日本の法律	事前学習	問題を解いてみる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 2 回	日本の政治	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 3 回	経財	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 4 回	社会 (家族、環境、労働事情等)	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 5 回	日本史	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 6 回	世界史	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 7 回	思想	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 8 回	地理	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 9 回	文学	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 10 回	芸術	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 11 回	数学	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 12 回	物理	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 13 回	化学	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 14 回	生物	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
第 15 回	地学	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	間違った問題をやり直す。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習Ⅱ (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2311
2. 授業担当教員	伊藤 京一		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ (教員コース)」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>教員には、校種別の専門知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身につけることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。</p> <p>本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習ⅡA においては、「専門教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力をつけることを目標とする。</p> <p>各回の演習においては、「専門教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身につけ、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得する。 2. 専門教養の各領域の出題を理解したうえで、各自自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 専門教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 専門教養の各領域の過去問練習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集などに取り組み、自己学習できる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>予習課題を実施する。次回にはその範囲のテストを実施する。従って毎回復習テストと演習の繰り返しである。課題は必修であるので、必ず丁寧に取り組むこと。</p> <p>課題をすることでどのように学習したらよいかを理解し、自分にあった学習方法を修得してほしい。一部の内容については課題を家庭学習として実施し、チェック表にて点検していくので、粘り強く取り組んでほしい。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文理編『完全攻略高校入試 3 年間の総仕上げ 数学・英語』、株式会社文理、2015。</p> <p>【参考書】必要に応じて連絡する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 (提出課題、レポート、発表、受講態度などを含む) : 30%</p> <p>毎回の復習テスト : 70%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教養は就職などの試験で必要となるばかりでなく、これから何十年と生きていく上での生活の知恵となり、また人生に豊かさをもたらす。1 回 1 回の講義や演習問題を通して、人文・社会・自然科学のさまざまな考え方を身につけ、学問のおもしろさ、奥深さを発見できることを期待する。</p> <p>【受講生に期待される学習態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の私語・携帯電話は厳禁。 2. 欠席をした場合は必ず、授業内容を確認する。 3. わからないところはそのままにしないで、授業中あるいは授業後に担当の先生によく聞く。 		
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	数学総仕上げ 1・2 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 1・2 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 回	数学総仕上げ 3・4 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 3・4 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 3 回	数学総仕上げ 5・6 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 5・6 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 4 回	数学総仕上げ 7・8 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 7・8 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 5 回	数学総仕上げ 9・10 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 9・10 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 6 回	数学総仕上げ 11・12 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 11・12 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 7 回	数学総仕上げ 13・14 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 13・14 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 8 回	小論文の作成の仕方について学ぶ	事前学習	小論文の作成の仕方について資料を読む。
		事後学習	自分の小論文を読み返す。
第 9 回	集団討論についてその内容を学び、模擬討論をする	事前学習	集団討論の仕方について資料を読む。
		事後学習	集団討論について注意点をまとめる。
第 10 回	数学総仕上げ 15・16 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 15・16 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 11 回	数学総仕上げ 17・18 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 17・18 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。

第 1 2 回	数学総仕上げ 19・20 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 19・20 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 1 3 回	数学総仕上げ 21・22 のテストと結果の考察	事前学習	数学総仕上げ 21・22 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 1 4 回	数学総仕上げ模擬テスト 1 と結果の考察	事前学習	数学総仕上げ全体の予習をする。
		事後学習	模擬テスト 1 をした結果を復習する。
第 1 5 回	数学総仕上げ模擬テスト 2 と結果の考察	事前学習	数学総仕上げ全体の予習をする。
		事後学習	模擬テスト 2 をした結果を復習する。
第 1 6 回	プレテスト 英語総仕上げ模擬テスト 1	事前学習	英語の重要語句を復習しておく。
		事後学習	プレテストの結果を復習する。
第 1 7 回	英語総仕上げ 1・2 のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ 1・2 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 1 8 回	英語総仕上げ 3・4 のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ 3・4 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 1 9 回	英語総仕上げ 5・6 のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ 5・6 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 0 回	英語総仕上げ 7・8 のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ 7・8 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 1 回	英語総仕上げ 9・10 のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ 9・10 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 2 回	英語総仕上げ 11・12 のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ 11・12 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 3 回	英語総仕上げ 13・14 のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ 13・14 の予習をする。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 4 回	英語総仕上げ重要語句のテストと結果の考察	事前学習	英語総仕上げ重要語句を予習する。
		事後学習	不得意な語句を確認する。
第 2 5 回	英語総仕上げ pp.66~69 のテストと結果の考察	事前学習	pp.66~69 を予習する。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 6 回	英語総仕上げ pp.70~73 のテストと結果の考察	事前学習	pp.70~73 を予習する。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 7 回	英語総仕上げ pp.74~77 のテストと結果の考察	事前学習	pp.74~77 を予習する。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 8 回	英語総仕上げ pp.78~81 のテストと結果の考察	事前学習	pp.78~81 を予習する。
		事後学習	確認テストをした結果を復習する。
第 2 9 回	英語総仕上げ模擬テスト 1 と結果の考察	事前学習	これまでの英語学習を復習しておく。
		事後学習	テストの結果を復習する。
第 3 0 回	英語総仕上げ模擬テスト 2 と結果の考察	事前学習	これまでの英語学習を復習しておく。
		事後学習	テストの結果を復習する。

1 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	GECD2211
2 授業担当教員	森田 哲志			
4 授業形態	演習、討論		5. 開講学期	通年
6 履修条件・他科目との関係				
7 講義概要	本講義では、日本社会におけるビジネスマンとしての基礎的能力養成を目標として開講する。			
8 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスマンとして必要とされる基礎的な思考方法や戦略・マーケティング等に関する基礎的知識を習得する。 2. 文献や書籍を読んで、レポート等にまとめる能力を身に着ける。 3. 聴講や文献購読、ディスカッション等を通して自らの意見をまとめ、発表する力を身に着ける。 			
9 アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の前に必ず予習をすること。 2. 学習の区切りごとに、特に興味を持ったテーマについて、自分の考えをレポート (1000字~1200字) にまとめる。 			
10 教科書・参考書・教材	【教科書】 なし 【参考書】 日経ビジネスアソシエ編『ビジネスプロフェッショナルの教科書』日経BP社、2011、880円 (税込)。 推薦図書をその都度紹介			
11 成績評価の方法	授業への意欲や関心等にかかる態度・・・・・・・・・・総合点の50% 毎回のテスト・・・・・・・・・・総合点の50%			
12 受講生へのメッセージ	事前に資料はしっかりと読み、分からない単語や概念等は調べた上で授業に臨んで欲しい。 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退はしないこと。			
13 オフィスアワー	火、水、金の研究室在室時			
14 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	講義概要の説明、初期仮説編	事前学習	将来、自分がやりたい職業について考えてくる。	
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再認識する。	
第2回	仮説編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	仮説の立て方について理解する。	
第3回	シナリオ分析	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	シナリオ分析について理解する。	
第4回	MECE 編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	MECEについて理解する。	
第5回	PAC 思考編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	PAC 思考について理解する。	
第6回	PAC 思考応用編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	PAC 思考をビジネスマンとして応用できるように試みる。	
第7回	幻想の因果関係編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	因果関係論について理解する。	
第8回	適応効果編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	適応効果について理解する。	
第9回	レファレンス・ポイント編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	レファレンス・ポイントについて理解する。	
第10回	確認バイアス編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	確認バイアスについて理解する。	
第11回	アンカリング効果編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	アンカリング効果について理解する。	
第12回	Mimic 編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	Mimic について理解する。	
第13回	RBV 編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	RBV について理解する。	
第14回	SWOT 編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	SWOT について理解する。	
第15回	ファイブフォース分析編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	ファイブフォース分析について理解する。	
第16回	3C、4P 編	事前学習	資料を読み込んでくる。	
		事後学習	3C、4P について理解する。	

第 17 回	ブランド編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	ブランドについて理解する。
第 18 回	物語マーケット編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	演出力が付加価値を生み出すことを理解する。
第 19 回	ミメーシス編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	感染的模倣の意味を理解する。
第 20 回	ゲーム理論編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	ゲーム理論の中身を理解する。
第 21 回	レモン市場編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	レモン市場の意味を理解する。
第 22 回	シグナリング編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	アピールしなければ評価されない場合があることを理解する。
第 23 回	期待収入編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	見えない財布が経済を動かす場合があることを理解する。
第 24 回	メンタル・アカウンティング編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	メンタル・アカウンティングの意味を理解する。
第 25 回	アービトラージ編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	理不尽が儲けの種になる場合があることを理解する。
第 26 回	ボトルネック編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	弱点を把握して効率をアップする方法を理解する。
第 27 回	リバースエンジニアリング編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	模倣しつつ個性を伸ばしていく方法を考える。
第 28 回	フリー編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	無料ほど怖いものはないということを知る。
第 29 回	正義編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	正義論について自分の意見をまとめてみる。
第 30 回	成功打率編	事前学習	資料を読み込んでくる。
		事後学習	打率 3 割の世界で戦うことについて自分の考えをまとめてみる。

1. 科目名 (単位数)	教育学概論 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE1101
2. 授業担当教員	石崎 達也	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>今後、教育を専門的に学んでいくにあたっての基礎的な知識・理解の涵養を目指し、人類が教育をどのように考え実践してきたのかを、その歴史的・文化的な背景と現在の日本の教育との関連を同時に射程に収めながら学んでいく。</p> <p>大学で教育(学)なるものを学ぶ大きな目的の一つは、学校文化の中にどっぷりと浸かりその内部の視点からのみ教育や教師を考えているであろう多くの受講生の視点を、学校文化という文脈からいったん引き離し、より大きな社会的・歴史的な背景のもとに教育を捉えなおしてみる姿勢と思考力を涵養することにあると言ってよい。人間が営む教育という社会的な営為は、ひとつの絶対的で普遍的な形式をもつものではなく、常に変化し続けている。言い換えれば、いま現在の日本の教育現場のみを念頭に置いた教育の勉強というのは、有用であるように見えながら、真っ先に時代の流れに取り残されてしまう可能性が高いという側面もっている。</p> <p>本講義では、教育方法や個々の教科教育などから成る狭義の教育学だけではなく、教育を分析・理解するさまざまなアプローチに目を向ける。それを通して、今後ますます変化の度合いを強めるであろう社会の中で、市民として、あるいは親として教師として生きていく受講生が、教育を複数の視点から玩味し、問いなおし、発展させていく態度と思考能力を磨いていけるような講義を展開する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育のさまざまな側面に触れることで、各自のこれまでの教育概念を揺さぶり、それぞれが教育という営みを再考できるようになること。 2. 教育に関する代表的な論考やアプローチから教育の射程の広さを学び、教育理解に関する柔軟さ、そして教育実践における覚悟と責任と寛容さを培えるようになること。 3. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質だと考えられる)。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>平常点(毎回の講義内容に対するリアクションペーパーあるいは課題に対する小テスト・レポートの提出)と期末の課題提出による。 *詳細は初回に説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>資料は適宜、配布する。資料を整理するファイル等を用意すること。 【参考書など】 東京福祉大学編『教職科目要説 初等教育編』ミネルヴァ書房、2007年。 汐見俊幸他編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。 *その他、発展的学習のための参考書は必要に応じて授業の中で紹介するので、図書館を活用すること。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 30% 小テスト・課題レポートの提出状況 30% 期末レポート課題 40%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>社会の変化とともに、「教師」に対する親や社会の期待はますます高まっている。そこで、教育現場における「教師」にとって、さまざまなニーズに対応するための「問題解決能力」「コミュニケーション能力」の向上が課題となっている。受講生の皆さんには、この授業の中では失敗や間違いを恐れず積極的に発言・発表すること、また同じ目標をもった受講生同士が協力して課題に取り組み、学び合うことを期待している。</p> <p>この講義では、さまざまな媒体(メディア)をとおして、①これまで教育(学)がどのような「見立て」を生み出してきたかを知る。②教育という言葉を「」に入れて考えてみる。③自分のこれまでの教育体験を見つめ直した上で、これからどのような教育実践をしていきたいかを表現することを課題とする。学習目標に書かれてあることはそのステップに過ぎない。しっかりと自分自身と向き合いながら本講義を受講していただくことにより、さまざまな教育的事象について、自ら学び、深く考える姿勢を身につけることができる。</p> <p>【学生に期待される学習態度】</p> <p>受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高める。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでほしい。 ② 授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないこと。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告すること。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格とする。) ③ 明らかに授業態度が悪いと判断した際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られないと判断した場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格とする。 ④ 授業中、私語、居眠りはしないこと。 ⑤ 授業中は携帯電話等の携帯端末の電源は切ること。 <p>【教員の心がまえ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はできるかぎりシラバスに沿って行う。 ② 受講生全員に伝わるような声で話をする。また専門用語を用いた際は、わかりやすく説明する。 ③ 一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくる。 ④ 遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出、その他、授業に臨むうえで不適切と思われる態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		

13. オフィスアワー		別途通知する。	
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション（講義概要の説明） 【「教育原理」を学ぶということ】 教育という「言葉」の意味について	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくる。
		事後学習	この授業を受講する際のポイントをノートに整理すること。
第 2 回	【「教育」の意義と目的】 「学び」と「教育」という言葉を手がかりに「教育」の意義と目的について考える	事前学習	「教育」という言葉の意味について考えてくること。
		事後学習	本時の授業のポイントをリアクションペーパーに整理してくる。
第 3 回	【「教育」の歴史と思想①】 欧米の教育の歴史と思想について	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	欧米の教育の歴史と思想のポイント整理すること。
第 4 回	【「教育」の歴史と思想②】 日本の教育の歴史と思想について	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	日本の教育の歴史と思想のポイント整理すること。
第 5 回	【人間の発達と教育①】 さまざまな「発達段階」の考え方について	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	「人間の発達」に関する小レポートを作成すること。
第 6 回	【人間の発達と教育②】 「子ども」から「おとな」になるということについて	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	「こども」と「おとな」のちがいについての小レポートを作成すること。
第 7 回	【遊びと教育】 「遊ぶこと」は「人間」にとってどのような意味があるのか	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	「遊び」の教育的意義についてまとめること。
第 8 回	【教師とはどのような存在か】 教育現場における「教師」の存在意義と役割について	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	「教師」に求められる専門性についてまとめること。
第 9 回	【教師とは何か】 幼児・児童・生徒指導におけるさまざまな問題をとおして「教師」のあり方について学ぶ	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	幼児児童生徒の特性に応じた支援や指導のあり方についてまとめておくこと。
第 10 回	【教育方法とカリキュラム】 「教育方法」「保育・教育計画」のあり方について	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	基本的な「教育方法」の原理・「保育・教育計画」の立て方について復習しておくこと。
第 11 回	【教育関連法規】 「教育基本法」「学校教育法」を中心に教育に関する法規について学ぶ	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	重要な条文について復習しておくこと。
第 12 回	【学校制度】 日本の学校制度について他国との比較をとおして学ぶ	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	日本の「学校制度」の特徴をまとめること。
第 13 回	【特別支援教育】 「発達障がい」の理解と支援のあり方について学ぶ	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	「発達障がい」について学んだことをまとめること。
第 14 回	【生涯学習】 生涯学習の概念、ライフステージに応じた学習について学ぶ	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	「生涯学習」の意義についてまとめること。
第 15 回	ふりかえりと授業評価	事前学習	配布資料や各自のノート等で本授業の学習内容をふり返り、自己の成果と課題を報告できるようにしてくる。
		事後学習	シラバスに記載された本科目の学習目標を達成するための3つの到達目標を確認し、その到達度を自己評価すること。

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS1103 SBMP3339 SSMP3339 EDTS3303
2. 授業担当教員	鈴木 収		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表、グループ学習等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教育課程とは、教育機関(学校)がその教育目標(学校の教育目標)を達成するために児童・生徒に提供する教育内容と学習経験の組織である。本講義では現代日本の教育課程を多角的に展望するための基礎的な知識や概念の習得を目的としている。</p> <p>まず教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念について学習する。そして日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴について学ぶ。さらに近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題についての理解を深める。</p> <p>これらの学習を通して、現行の学習指導要領の基本的方向について理解し、教師として必要となる資質・能力の基礎を養う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の思想や教育課程編成の方法・理論、教育課程と教育評価の関係を学ぶことによって、教育課程に関する基本的な用語や概念を理解し、説明することができる。 2. 日本の教育課程の変遷について学習し、歴史的視点から教育課程を展望することができる能力を身に付け、活用することができる。 3. 諸外国の教育改革について学び、日本の教育課程を相対的に考察することができる能力を身に付け、活用することができる。 4. 近年の教育課程に関する新たな取り組みについて学習し、現代の教育が抱える課題についての理解し、その課題に対する自らの考えを深めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	2回のレポート提出を行う。レポート課題については、改めて知らせる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>田中耕治 他著『新しい時代の教育課程 第三版』有斐閣アルマ、2011。 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』ぎょうせい、2008。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房、2009。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の15% 2 中間課題レポート 総合点の35% 3 期末課題レポート 総合点の35% 4 日常の学習状況 総合点の15% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>教育課程は、学校教育の基本となるものだが、その内容は戦後繰り返し論議されている。21世紀に生き抜く子どもたちが身に付けるべく学力について、授業を通して学生の皆さん一人ひとりが自分の考えを持つように努める。</p> <p>また、教室内での学習中のマナーを守り、併せて必要な自宅学習にも積極的に取り組むこと。</p>		
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要の説明 学力問題と教育課程について	事前学習	教科書 pp.1~15 を読み学力問題の概要を確認する。
		事後学習	教育課程と学力問題の関係を整理し、まとめる。
第2回	近代日本(戦前)の教育課程について	事前学習	教科書 pp.18~43 を読み、明治期から太平洋戦争終了までの教育課程の特色を確認する。
		事後学習	軍国主義教育が行われた時代とその時の教育課程のポイントを整理し、まとめる。
第3回	1947年から2008年の中学校学習指導要領の内容について	事前学習	戦後の学習指導要領の説明文を読んでおく。
		事後学習	第8次の学習指導要領の改訂ポイントをノートにまとめる。
第4回	中学校教育課程の意義や関係法制について	事前学習	教科書の「教育課程の意義」を読んでおく。
		事後学習	「教育課程の意義」について、ポイントをノートにまとめる。
第5回	中学校教育課程の編成の一般方針について	事前学習	教科書「教育課程の編成の一般方針」を読んでおく。
		事後学習	「教育課程の編成の一般方針」のポイントをノートにまとめる。
第6回	中学校教育課程編成と授業時数について	事前学習	中学校の各教科の時間数を調べる。
		事後学習	教育課程編成と授業時数の関係をノートにまとめる。

第 7 回	中学校指導計画作成時に配慮すべき点について	事前学習	教科書「指導計画作成時の配慮すべき点」を読んでおく。
		事後学習	指導計画作成上で配慮すべき点をノートにまとめる。
第 8 回	中学校教育課程実施上の配慮事項について① 言語活動、体験的学習等、生徒指導、進路指導について学ぶ	事前学習	教科書「中学校教育課程実施上の配慮事項 1 から 4」を読んでおく。
		事後学習	配慮事項 1 から 4 のポイントをノートにまとめる。
第 9 回	中学校教育課程実施上の配慮事項について② ガイダンス機能、見通しを立てた学習、個に応じた指導、障害のある生徒の指導、帰国生徒や外国人の指導について学ぶ	事前学習	教科書「中学校教育課程実施上の配慮事項 5 から 9」を読んでおく。
		事後学習	配慮事項 5 から 9 のポイントをノートにまとめる。
第 10 回	中学校教育課程実施上の配慮事項について③ コンピュータ活用、学校図書館、指導と評価、部活動、地域連携について学ぶ	事前学習	教科書「中学校教育課程実施上の配慮事項 10 から 14」を読んでおく。
		事後学習	配慮事項 10 から 14 のポイントをノートにまとめる。
第 11 回	中学校教育課程の手順と評価について	事前学習	教科書「中学校教育課程の手順と評価」を読んでおく。
		事後学習	教育課程作成の手順をノートにまとめる。
第 12 回	中学校総合的な学習の時間について	事前学習	資料「中学校総合的な学習の時間」を読んで、疑問部分に下線を引く。
		事後学習	中学校総合的な学習の時間のポイントをノートにまとめる。
第 13 回	高等学校学習指導要領の改訂の要点について	事前学習	教科書「高等学校学習指導要領の改訂の要点」を読んでおく。
		事後学習	「高等学校学習指導要領の改訂の要点」のポイントを手帳にまとめる。
第 14 回	高等学校の各教科科目及び単位数について	事前学習	教科書「高等学校の各教科科目及び単位数」を読んでおく。
		事後学習	「高等学校の各教科科目及び単位数」をノートにまとめる。
第 15 回	高等学校の必修教科・科目について	事前学習	教科書「高等学校の必修教科・科目」を読んでおく。
		事後学習	「高等学校の必修教科・科目」の表をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (4 単位)	3. 科目番号	EDTS2105 EDTS2305
2. 授業担当教員	坪田 祐基		
4. 授業形態	講義および演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	学習心理学を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から解説する学問である。教育心理学の基礎とされる発達、学習、人格、測定・評価の4つの領域について基礎知識を深め、今日の教育の現場が必要としている問題解決のための諸要因を解説する。本講義では、以上のような基礎的知識の修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学と心理学の深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 学習の場における諸問題について指摘できるようになる。 3. 子どもの発達と学習能力を高めるさまざまな要因について理解できるようになる。 4. 教育の目的から考える学校生活のあり方：理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 5. 学習の場におけるウェルビーイングを考え、理想的な教育の姿を考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に目を通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する。(A4用紙 2枚、2,400字以上) <ol style="list-style-type: none"> 1 I～Ⅲの中から自分が興味を持ったテーマについて 2 IV～Ⅵの中から自分が興味を持ったテーマについて <ul style="list-style-type: none"> *各回とも、そのテーマの概要を紹介し、どこに興味を持ったのか、疑問点は何か、また自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山崎史郎編『教育心理学ルック・アラウンド』おうふう、2010。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 総合点の50% ・レポート (2回) 総合点の50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、スクールカウンセラーを目指す人もいるかもしれない。その場合、教育心理学は、学校現場に必ず役立つ知見を与えてくれるであろう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明)	事前学習	教科書 p.3 の「教育心理学とは」を読み、教育心理学とは何かを理解する。
		事後学習	教育現場における教育心理学の貢献についてノートにまとめる。
第2回	教育心理学の研究法 (観察法、実験法、面接法、質問紙法、その他)、教育心理学のあゆみ (ピアジェ、ヴィゴツキー、ブルーナー、認知心理学派、スキナー)	事前学習	教科書 pp.4～12 を読み「教育心理学の研究法とあゆみ」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ピアジェの知能の発達段階」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第3回	教師の仕事 (教育心理学は教育の現場に役立つか、キャリア選択としての教師、教師の成長)	事前学習	教科書 pp.13～17 を読み「教師の仕事」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「教師選択の動機」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第4回	子どもの発達段階とその特徴 (発達段階の区分、発達の様相)	事前学習	教科書 pp.21～29 を読み「子どもの発達段階とその特徴」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エリクソンの心理社会的発達」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第5回	発表 (視覚障害、聴覚障害)	事前学習	教科書 pp.174～176、pp.177～180 を読み「視覚障害、聴覚障害」についてまとめて資料を作成する。
		事後学習	「手話」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第6回	成熟と学習 (遺伝と環境、刻印づけ、野生児、レディネス)	事前学習	教科書 pp.30～36 を読み「成熟と学習」について理解し、疑問点を明確にする。

		事後学習	「レディネス」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 7 回	事例研究	事前学習	配布資料をよく読み、見たとプロセスについて自分なりに理解する。
		事後学習	本事例の「見立て」「プロセス」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	教育と発達（新しいレディネス観、学校教育の影響、発達の 2 つの水準、発達の最近接領域、教育と発達の関係）	事前学習	教科書 pp.37～43 を読み「教育と発達」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「発達の最近接領域」について参考書などでさらに調べ、理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	発表（言語障害、肢体不自由）	事前学習	教科書 pp.181～182、pp.183～184 を読み「言語障害、肢体不自由」についてまとめて資料を作成する。
		事後学習	「知的障害」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	知能（知能と性格、知能の構造、知能の発達、知能の規定因、知能の診断、知と学力）	事前学習	教科書 pp.47～58 を読み「知能」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「知能検査」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	レポート発表	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する（レポートを修正して再提出してもよい）。
第 12 回	性格Ⅰ（性格とは、類型論、特性論、力動論、性格の形成）	事前学習	教科書 pp.59～68 を読み「性格の形成と構造」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「特性論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	性格Ⅱ（性格の診断、目録法、作業検査法、投影法）	事前学習	教科書 pp.68～73 を読み「性格の診断」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「投影法」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	学ぶ意欲と学習指導（外発的動機づけ・内発的動機づけ、知的好奇心、達成動機、原因帰属、学業不振、学習障害、注意欠陥／多動性障害）	事前学習	教科書 pp.77～85 を読み「学ぶ意欲と学習指導」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「学習障害」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	前半のまとめ	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 16 回	授業の過程（プログラム学習、課題の分析、先行オーガナイザー、仮説実験授業、メディアの利用）	事前学習	教科書 pp.86～94 を読み「授業の過程」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「メディアの利用」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 17 回	発表（知的障害、病弱・身体虚弱）	事前学習	教科書 pp.185～186、pp.187～191 を読み「情緒障害、重度・重複障害」についてまとめて資料を作成する。
		事後学習	「知的障害」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 18 回	学習の評価（評価の目的、評価の観点、絶対評価、個人内評価、相対評価、教育統計）	事前学習	教科書 pp.95～104 を読み「学習の評価」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「評価方法」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 19 回	子どもにとっての集団（集団の活動、集団のはたらき）	事前学習	教科書 pp.109～113 を読み「子どもにとっての集団」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ギャングエイジ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 20 回	事例研究	事前学習	配布資料をよく読み、見たとプロセスについて自分なりに理解する。
		事後学習	本事例の「見立て」「プロセス」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 21 回	子どものフォーマル集団（幼児の集団、児童・生徒の集団、環境としての集団、学習集団としての学級、ソシオメトリー、帰国子女、いじめ、四層構造論）	事前学習	教科書 pp.114～121 を読み「子どものフォーマル集団」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「四層構造論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。

第 2 2 回	子どもと教師（先生のあたりとはずれ、強化者としての先生、モデル、ビッグマリオン効果、先生のリーダーシップ）	事前学習	教科書 pp.122～128 を読み「子どもと教師の関係」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「PM 理論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 2 3 回	発表（情緒障害、重度・重複障害）	事前学習	教科書 pp.192～193、pp.194～195 を読み「情緒障害、重度・重複障害」についてまとめて資料を作成する。
		事後学習	「情緒障害」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 2 4 回	子どもの心の健康（心の健康とは、生活習慣、子どものストレス、ライフスキル、ストレスマネジメント教育、構成的グループ・エンカウンター、自己実現）	事前学習	教科書 pp.131～137 を読み「子どもの心の健康」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ストレスマネジメント教育」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 2 5 回	レポート発表	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する（レポートを修正して再提出してもよい）。
第 2 6 回	子どもの不適応行動（不適応行動の意味、不登校、無気力、非行、思春期やせ症）	事前学習	教科書 pp.138～153 を読み「子どもの不適応行動」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「不登校」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 2 7 回	発表（自閉症）	事前学習	教科書 pp.196～200 を読み、「自閉症」についてまとめて資料を作成する。
		事後学習	「自閉症」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 8 回	生徒指導と学校カウンセリング（生徒指導の意義、共感的理解、人間性を尊重する、自己理解を深める指導、学校カウンセリングの体制と連携）	事前学習	教科書 pp.154～161 を読み「生徒指導と学校カウンセリング」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「学校カウンセリングの体制」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 2 9 回	進路指導と進路選択（進路指導の定義、進路選択、キャリア教育、キャリア発達、進路相談、進路適性）	事前学習	教科書 pp.162～167 を読み「進路指導と進路選択」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「キャリア発達」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 3 0 回	後半のまとめ	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2105 EDTE2305
2. 授業担当教員	坪田 祐基		
4. 授業形態	講義、演習、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	1年次に、「児童心理学」の単位を修得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教育心理学は、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考える学問である。それを考える上では主に、発達、学習、人格、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本講義では、以上のような基礎的知識修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。		
8. 学習目標	1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明することができる。 2. 教育心理学の見方、考え方を習得し、活用できる。 3. 教育心理学の知識、見方、考え方を教育の場で応用できるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に目を通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する。(A4用紙 2枚、2,400字以上) <ul style="list-style-type: none"> 1 I～Ⅲの中から自分が興味を持ったテーマについて 2 IV～Ⅵの中から自分が興味を持ったテーマについて *各回とも、そのテーマの概要を紹介し、どこに興味を持ったのか、疑問点はなにか、また自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山崎史郎編『教育心理学ルック・アラウンド』おうふう、2010。 【教材】 随時資料を用意し活用する。		
11. 成績評価の方法	授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。 ・授業への参加 (態度、発表) 総合点の50% ・レポート (2回) 総合点の50%		
12. 受講生へのメッセージ	・将来、教職につくことを目指している方にとって、教育心理学は、学校現場に必ず役立つ知見を与えてくれるだろう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明)	事前学習	教科書 p.3の「教育心理学とは」を読み、教育心理学とは何かを理解する。
		事後学習	教育現場における教育心理学の貢献についてノートにまとめる。
第2回	教育心理学の研究法 (観察法、実験法、面接法、質問紙法、その他)、教育心理学のあゆみ (ピアジェ、ヴィゴツキー、ブルナー、認知心理学派、スキナー)、教師の仕事 発表 (視覚障害)	事前学習	教科書 pp.4～20を読み「教育心理学の研究法」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「教師の仕事」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第3回	子どもの発達段階とその特徴 (発達段階の区分、発達の様相)、成熟と学習 (遺伝と環境、刻印づけ、野生児、レディネス)	事前学習	教科書 pp.21～36を読み「子どもの発達段階」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「レディネス」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第4回	教育と発達 (新しいレディネス観、学校教育の影響、発達の2つの水準、発達の最近接領域、教育と発達の関係) 発表 (聴覚障害)	事前学習	教科書 pp.37～43を読み「教育と発達」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「発達の最近接領域」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第5回	知能 (知能と性格、知能の構造、知能の発達、知能の規定因、知能の診断、知と学力) 発表 (言語障害)	事前学習	教科書 pp.47～58を読み「知能」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「知能検査」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第6回	性格 (性格とは、類型論、特性論、力動論、性格の形成、性格の診断、目録法、作業検査法、投影法) 発表 (肢体不自由)	事前学習	教科書 pp.59～73を読み「性格」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「投影法」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第7回	学ぶ意欲と学習指導 (外発的動機づけ・内発的動機づけ、知的好奇心、達成動機、原因帰属、学業不振、学習障害、	事前学習	教科書 pp.77～85を読み「学ぶ意欲と学習指導」について理解し、疑問点を明確にする。

	注意欠陥／多動性障害) 発表 (病弱・身体虚弱)	事後学習	「学習障害」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	授業の過程 (プログラム学習、課題の分析、先行オーガナイザー、仮説実験授業、メディアの利用)、学習の評価 (評価の目的、評価の観点、絶対評価、個人内評価、相対評価、教育統計) 発表 (知的障害)	事前学習	教科書 pp.86～104 を読み「授業の過程・学習の評価」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「メディアの利用」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	子どもにとっての集団 (集団の活動、集団のはたらき)、子どものフォーマル集団 (幼児の集団、児童・生徒の集団、環境としての集団、学習集団としての学級、ソシオメトリー、帰国子女、いじめ、四層構造論)	事前学習	教科書 pp.109～121 を読み「子どもの集団」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「四層構造論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	レポート発表	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する (レポートを修正して再提出してもよい)。
第 11 回	子どもと教師 (先生のあたりとはずれ、強化者としての先生、モデル、ピグマリオン効果、先生のリーダーシップ) 発表 (情緒障害)	事前学習	教科書 pp.122～128 を読み「子どもと教師の関係」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「PM 理論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	子どもの心の健康 (心の健康とは、生活習慣、子どものストレス、ライフスキル、ストレスマネジメント教育、構成的グループ・エンカウンター、自己実現) 発表 (重度・重複障害)	事前学習	教科書 pp.131～137 を読み「子どもの心の健康」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ストレスマネジメント教育」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	子どもの不適応行動 (不適応行動の意味、不登校、無気力、非行、思春期やせ症) 発表 (自閉症)	事前学習	教科書 pp.138～153 を読み「子どもの不適応行動」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「不登校」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	生徒指導と学校カウンセリング (生徒指導の意義、共感的理解、人間性を尊重する、自己理解を深める指導、学校カウンセリングの体制と連携)、進路指導と進路選択	事前学習	教科書 pp.154～167 を読み「生徒指導と学校カウンセリング」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「キャリア発達」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	まとめと事例研究	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2105 SBMP3330 SSMP3330 EDTS2305
2. 授業担当教員	坪田 祐基		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	1年次に、「児童心理学」の単位を修得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教育心理学とは、子どもに関わる上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考察する学問である。本講義では、教育心理学の基礎とされる発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域についての基礎知識の習得に加えて、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのかを検討し、現実の教育現場で起きている問題への対応も考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明できるようになる。 2. 教育心理学的観点から、学習・教育の場における諸問題について考えを深める。 3. より良い教育、より良い学習を提供するための理論を知り、その応用や実践ができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に目を通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する。(A4用紙 2枚、2,400字以上) <ol style="list-style-type: none"> 1 I～Ⅲの中から自分が興味を持ったテーマについて 2 IV～Ⅵの中から自分が興味を持ったテーマについて <ul style="list-style-type: none"> *各回とも、そのテーマの概要を紹介し、どこに興味を持ったのか、疑問点は何か、また自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 北夫倫彦・中島実・林龍平・広瀬雅彦・高岡昌子・伊藤美加著『精選コンパクト教育心理学』北大路書房、2006。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 総合点の 50% ・レポート (2回) 総合点の 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、教職につくことを目指している方にとって、教育心理学は、学校現場に必ず役立つ知見を与えてくれるだろう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明)	事前学習	教科書 pp.1~5 の「教育心理学の成り立ち」を読み、教育心理学とは何かを理解する。
		事後学習	教育現場における教育心理学の貢献についてノートにまとめる。
第 2 回	発達観と認知の発達 (遺伝と環境、成熟説と学習説、乳児の認知能力、幼児期の近くの特徴、ピアジェの認知発達段階、心の理論)	事前学習	教科書 pp.8~20 を読み「発達観と認知の発達」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「心の理論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 3 回	言語能力の発達 (言語発達と教育、話しことばの発達段階、読書と作文の役割、一次的事ことばと二次的事ことば、自己中心的言語、国語力育成のための課題)	事前学習	教科書 pp.21~32 を読み「言語能力の発達」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「国語力育成のための課題」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 4 回	性格の形成 (愛着関係、しつけの型、自己概念、自尊感情、アイデンティティ、性と性役割、男らしさ女らしさ、性役割とステレオタイプ)	事前学習	教科書 pp.33~42 を読み「性格の形成」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「アイデンティティ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 5 回	社会性と社会的スキルの発達 (遊びの発達、ギャングエイジ、道徳性の発達、向社会性の発達、社会的スキル)	事前学習	教科書 pp.43~53 を読み「社会性と社会的スキルの発達」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「社会的スキル」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 6 回	学習の動機づけ (内発的動機づけ・外発的動機づけ、帰属理論、自己効力感、自己決定感、学習性無力感、自己価値感、価値のある課題、自律性の保証された学習、共通の目標と協力関係、努力や成果の承認と評価)	事前学習	教科書 pp.54~64 を読み「学習の動機づけ」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「帰属理論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。

第 7 回	学習の認知プロセス（記憶のプロセス、精緻化、体制化、系列位置効果、分散効果、反復効果、睡眠の効果、メタ認知）	事前学習	教科書 pp.65~97 を読み「学習の認知プロセス」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「メタ認知」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	個人差に応じる指導（適性処遇交互作用、学習到達度、習熟度別指導、完全習得指導、認知スタイル、興味・関心の個人差と課題選択学習）	事前学習	教科書 pp.75~82 を読み「個人差に応じる指導」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「習熟度別指導」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	授業のタイプと技術（分類の次元、小集団学習を活用した授業、発見学習と仮説実験授業、有意味受容学習、プログラム学習と CAI、発問、板書、教材づくり）	事前学習	教科書 pp.83~97 を読み「授業のタイプと技術」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「小集団学習を活用した授業」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	レポート発表	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する。（レポートを修正して再提出してもよい）
第 11 回	学級の理解と指導（学習の場と生活の場、人間関係のとらえ方、学級崩壊と心理的構造、リーダーシップのとらえ方、教師の指導力向上）	事前学習	教科書 pp.98~105 を読み「学級の理解と指導」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「学級崩壊」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	不適応児の理解と指導（不登校児の分類、不登校の発症と指導・支援、学習困難の分類、学習困難の診断と指導・支援、特別支援教育）	事前学習	教科書 pp.106~115 を読み「不適応児の理解と指導」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「特別支援教育」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	心理検査と心理療法（知能検査、性格検査、精神分析療法、行動療法、認知療法、クライアント中心療法、家族療法、遊戯療法、学校カウンセリングの実際）	事前学習	教科書 pp.116~128 を読み「心理検査と心理療法」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「認知行動療法」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	教育評価の考え方と実際（教育評価の目的、アセスメント、評価の基準、他者評価、自己評価、相互評価、診断的評価、形成的評価、総括的評価、パフォーマンスによる評価、ポートフォリオによる評価、評価方法の課題）	事前学習	教科書 pp.129~140 を読み「教育評価の考え方と実際」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ポートフォリオ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	まとめと事例研究	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE3106 EDTE3306
2. 授業担当教員	長坂 正文		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「教育相談 (カウンセリングを含む) (中等)」と併せて履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>生徒指導は、一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めていくことを目指して行われる教育活動であるが、教育相談はこの生徒指導の一環として位置づけられ、その中心的役割を担うものである。</p> <p>本講義は、教師が児童生徒の自発的、主体的な成長・発達の過程を援助するという教育的課題を達成するにあたり、必要な知見を獲得し、児童生徒と子どもたちを取り巻く多様な人々を共感的に理解するための資質について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談を含め広義の生徒指導の意義と目的、内容、原理について理解し、説明することができるようになる。 2 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 3 学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。 4 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。 5 発達支援活動としての教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に目を通し、疑問点を明確にしておく。 ・2 回レポートを提出する (A4用紙2枚、2,400字以上)。 <ol style="list-style-type: none"> 1 小学生の心の問題と対応 2 自分が取り組む教育相談 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 会沢信彦・安齋順子編『教師のたまごのための教育相談』北樹出版、2010。</p> <p>【参考書】 長坂正文著『学校カウンセリングの基本技法』ほんの森出版、2000。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 50% ・レポート (2回) 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・今では、いじめ、不登校、発達障害などの問題に出会わない教師はいない。教育相談は、そのような特定の問題に対するときのノウハウを提供するが、日常的教育活動にも必ず活かすことができるものであるので、必ず将来役に立つことだろう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないようにすること。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (講義概要の説明) ・教育相談とは (定義、生徒指導との関係、特別支援教育との関係) ・教育相談の種類 	事前学習	テキスト pp.12~16 を読んで、「教育相談の定義・種類」について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「特別支援教育」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の動向 ・教育相談の課題 ・教育相談のめざすもの 	事前学習	テキスト pp.17~23 を読んで、教育相談の課題について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「カウンセリング・マインド」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・発達とは ・乳児期の発達と気になる行動 ・幼児期の発達と気になる行動 ・乳幼児期をめぐる最近の話題 	事前学習	テキスト pp.24~35 を読んで、乳幼児期の発達について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「発達課題」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の発達と発達課題 ・小学校の気になる行動 ・小学校をめぐる最近の話題 	事前学習	テキスト pp.36~47 を読んで、小学生の発達と問題を考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「小1プロブレム」について参考書などで調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高校生の発達と発達課題 ・中・高校生の気になる行動 ・中・高校生をめぐる最近の話題 	事前学習	テキスト pp.50~62 を読んで、中・高校生の発達と問題を考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「中1ギャップ」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害とは ・LD (学習障害) ・ADHD (注意欠陥多動性障害) ・自閉症・高機能自閉症・アスペルガー症候群 	事前学習	テキスト pp.64～76 を読んで、発達障害について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「LDへの支援」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患が疑われたら ・気分障害、統合失調症 ・パニック障害、摂食障害 	事前学習	テキスト pp.77～88 を読んで、子どもの精神疾患について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「子どものうつ」について参考書でさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・理論学習の意義 ・精神分析理論、自己理論、行動主義 ・実存主義的アプローチ、交流分析、論理療法 	事前学習	テキスト pp.89～99 を読んで、教育相談の理論について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「認知行動療法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の技法 ・コーヒークップ方式 ・リレーションを育てる技法 ・さまざまな教育相談の技法 	事前学習	テキスト pp.100～109 を読んで、教育相談の技法について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「遊戯療法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営とは ・アセスメントとストラテジー ・学級経営と教師のリーダーシップ ・具体的な介入方法 	事前学習	テキスト pp.110～121 を読んで、学級経営について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「SST」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるアセスメント ・子どものパーソナリティの理解 ・子どもの知的能力の理解 ・個人のアセスメント、学校集団のアセスメント 	事前学習	テキスト pp.124～135 を読んで、アセスメントについて考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「心理検査」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者支援の考え方 ・保護者に関わるために ・保護者とつながるために ・事例 	事前学習	テキスト pp.136～148 を読んで、保護者との連携について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「家庭訪問」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における連携 ・関係機関との連携 	事前学習	テキスト pp.151～162 を読んで、連携について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「スクールソーシャルワーカー」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとは ・スクールカウンセラーの活動内容と連携 ・スクールカウンセラー活動の実際 	事前学習	テキスト pp.165～175 を読んで、スクールカウンセラーについて考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「スクールカウンセラーの課題」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ (資料：用語・概念を中心に復習する) 	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS3106 SBMP3440 SSMP3440 EDTS3306
2. 授業担当教員	長坂 正文		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「教育相談 (カウンセリングを含む) (初等)」と併せて履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めていくことを目指して行われる教育活動であるが、教育相談はこの生徒指導の一環として位置づけられ、その中心的役割を担うものである。</p> <p>本講義は、教師が児童生徒の自発的、主体的な成長・発達の過程を援助するという教育的課題を達成するにあたり、必要な知見を獲得し、児童生徒と子どもたちをとりまく多様な人々を共感的に理解するための資質について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談を含む広義の生徒指導の意義と目的、内容、原理について理解し、説明することができるようになる。 2 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 3 学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。 4 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。 5 発達支援活動としての教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 自分が取り組む教育相談 2 中学生の心理的問題と対応 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林正幸・橋本創一・松尾直博 編『教師のための学校カウンセリング』有斐閣アルマ、2008。</p> <p>【参考書】 長坂正文 著『学校カウンセリングの基本技法』ほんの森出版、2000。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 50% ・レポート (2回) 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・今では、いじめ、不登校、発達障害などの問題に出会わない教師はいない。教育相談は、そのような特定の問題に対処するときのノウハウを提供するが、日常の教育活動にも必ず活かすことができるものであるため、必ず将来役に立つことだろう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等の行為) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション (講義概要の説明) ・教師が行う学校カウンセリング (教師のための学校カウンセリングの特徴、特別支援教育と発達障害児、特別なニーズのある子どもへの個別支援)	事前学習	テキスト pp.3~20 を読んで、教師が行うカウンセリングの特徴について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	特別支援教育について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 2 回	・教師と保護者のコミュニケーション (親とのかわり、保護者へのコンサルテーション、保護者面接のコツ)	事前学習	テキスト pp.41~53 を読んで、保護者とのかわり方について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	保護者からのクレームについて調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 3 回	・学校カウンセリングの組織と連携 (連携の意義と必要性、連携の形態、スクールカウンセラーとの連携) ・連携の実践例 (不登校対策)	事前学習	テキスト pp.55~79 を読んで、連携の種類と中身について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	コーディネーションについて調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 4 回	・子どもの状態を把握する (心理的問題、学校で起きる問題、障害のある子どもの問題)	事前学習	テキスト pp.83~100 を読んで、子どもの抱える問題について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	自殺とその対応について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。

第 5 回	・ソーシャルスキルを育む（ソーシャルスキル教育の意義と理論、ソーシャルスキル教育の方法、ソーシャルスキル教育の有効性、具体的なソーシャルスキル教育の実施例）	事前学習	テキスト pp.115～136 を読んで、ソーシャルスキルとはどのようなものか理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	自分ではどのようなソーシャルスキル教育ができるか調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 6 回	・ライフスキルを育む（ライフスキル教育とは、ヘルスプロモーション、ライフスキルと発達障害） ・ライフスキル教育の実践例	事前学習	テキスト pp.137～154 を読んで、ライフスキルとはどのようなものか考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	ストレスマネジメントについて調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 7 回	・集団不適応（集団不適応とは、集団不適応の理解と種類、非社会的問題行動、反社会的問題行動）	事前学習	テキスト pp.173～191 を読んで、非社会的問題行動・反社会的問題行動について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	中学生の非行問題について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 8 回	・不登校（不登校の実態、形成要因、初期段階でのかかわり方、中期段階でのかかわり方） ・不登校対策の実践例	事前学習	テキスト pp.193～209 を読んで、不登校について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	不登校の予防について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 9 回	・いじめ（いじめとは、被害者への支援、加害者への支援、保護者へのかかわり）	事前学習	テキスト pp.211～226 を読んで、いじめについて考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	四層構造論について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 10 回	・非行（非行とは、非行少年の特徴、非行に関する理論、非行への対処）	事前学習	テキスト pp.227～244 を読んで、非行について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	非行に関して連携できる専門機関について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 11 回	・児童虐待（児童虐待とは、4つの分類、虐待の実態、虐待が及ぼす影響、児童虐待防止にむけて）	事前学習	テキスト pp.245～262 を読んで、児童虐待について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	児童虐待防止法について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 12 回	・危機対応と PTSD（危機と危機介入、急性ストレス性障害、心的外傷後ストレス障害、回復への支援）	事前学習	テキスト pp.263～276 を読んで、危機対応について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	PTSD について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 13 回	・学業困難（LD の概念・定義、LD の判断・理解、支援のポイント） ・事例	事前学習	テキスト pp.277～297 を読んで、LD について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	LD の種類について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 14 回	・ADHD（ADHD の定義、ADHD の基本症状、ADHD の原因、ADHD の治療、教育的支援）	事前学習	テキスト pp.299～314 を読んで、ADHD について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	ADHD への支援について調べ理解を深める。疑問点については次時の授業で質問する。
第 15 回	・高機能自閉症（高機能自閉症、アスペルガー障害、障害特性、心の理論、対応と支援） ・まとめ	事前学習	テキスト pp.315～331 を読んで、高機能自閉症について考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	自閉症スペクトラムについて調べ理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2102 EDTE2302
2. 授業担当教員	鈴木 収		
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ方向の授業が基本である。 事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本科目は、小学校や特別支援学校の教育職員免許取得のためのものである。 本講では、教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小学校や特別支援学校の小学部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。 教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。		
8. 学習目標	教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠のある教育活動ができる教員となること。 教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになる。 1. 教育法規の基礎知識について知り、説明できるようになることを目的とする。 2. 教育関連法規の具体的な内容について学校(主に小学校及び特別支援学校の小学部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 3. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめることができるようになる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	【レポート課題】 <中間>改正教育基本法において、新設や改正された規定を二つ挙げ、新設・改正の理由を記述しなさい。 また、その新設や改正されたことについてあなたの考えを記述しなさい。(A4 用紙 1 枚) <期末>教員免許状の更新制度の概略とそれに対する自分の考えを記述しなさい。(A4 用紙 1 枚)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 朝倉征夫編『おさえておきたい教育法規』酒井書店、2009。 解説教育六法編修委員会『解説教育六法 2016 (平成 28 年版)』三省堂、2016。 【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の 15 % 2. 中間課題レポート 総合点の 35 % 3. 期末課題レポート 総合点の 35 % 4. 日常の学習状況 総合点の 15 %		
12. 受講生へのメッセージ	法律の勉強は一見難しそうだが、教育に関するそれは、教育現場にいと、いつ自分に降りかかってくるかわからない問題とつながっている。この授業では、単に法規の条文を解釈するだけでなく、実際に小学校の教育現場で生じた出来事を例として学習する。実例にそって生きた教育法規を学んでもらいたいと思う。また、教室内での学習中のマナーを守り、併せて必要な自宅学習にも積極的に取り組むこと。		
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義の概要説明と授業中のルールについて 法体系と法執行の原理について 教科書 pp.1~5	事前学習	新聞で報道される小学校問題の内容とそれに対する自分の考えをまとめる。
		事後学習	法体系と法執行の原理の理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 2 回	「日本国憲法」と教育について 教科書 pp.7~16	事前学習	問題プリント No1 の実施と教科書から教育に関する憲法規定をまとめる。
		事後学習	「日本国憲法」と教育についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 3 回	「教育基本法」について (改正の経過と改正の基本的な考え方と第 1 章) 教科書 pp.16~20	事前学習	問題プリント No2 の実施と教科書から教育基本法の改正の趣旨を確認する。
		事後学習	教育基本法改正について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 4 回	「教育基本法」について (第 2 章~第 4 章) 教科書 pp.20~30	事前学習	問題プリント No3 の実施と教科書から初等教育に関わりの深い教育基本法条文を確認する。
		事後学習	教育基本法条文について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 5 回	教育機関について (法 1 条の学校と初等教育の教育機関の目的・目標について) 教科書 pp.31~43	事前学習	問題プリント No4 の実施と教科書から法 1 条の学校種を暗記する。
		事後学習	初等教育の目標について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 6 回	学校教育に関する規定について (教育課程の編成の注意事項と小学校の学習指導	事前学習	問題プリント No5 の実施と教科書から教育課程の編成の注意事項を確認する。

	要領変遷について) 教科書 pp.45～53	事後学習	小学校の学習指導要領変遷の理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 7 回	学校教育に関する規定について (小学校における教科書と補助教材、備え付け表簿について) 教科書 pp.53～63	事前学習	問題プリント№6 の実施と教科書から「教科用図書」に関する法規を確認する。
		事後学習	教科書と補助教材についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 8 回	児童・生徒に関する規定について (小学校の義務教育や就学義務免除、就学援助について) 教科書 pp.65～71	事前学習	問題プリント№7 の実施と教科書から義務教育期間の規定を確認する。
		事後学習	義務教育について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 9 回	児童・生徒に関する規定について (懲戒と体罰の具体的内容について) 教科書 pp.72～82	事前学習	問題プリント№8 の実施と教科書から「体罰に当たった場合」を確認する。
		事後学習	懲戒と体罰について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	学校保健・安全に関する規定について (健康診断・感染症・衛生基準や学校給食について) 教科書 pp.83～91	事前学習	問題プリント№9 の実施と教科書から健康診断の種類をまとめる。
		事後学習	健康診断の実施について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 11 回	教職員に関する規定について (使命、資格・免許制度について) 教科書 pp.93～102	事前学習	問題プリント№10 の実施と教科書から免許の種類をまとめる。
		事後学習	教師の使命、資格についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 12 回	教職員に関する規定について (小学校に配置される教職員とその役割、任用について) 教科書 pp.102～111	事前学習	問題プリント№11 の実施と教科書から小学校に配置される教職員を確認する。
		事後学習	配置される教職員について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 13 回	教職員に関する規定について (服務と職務上・身分上の義務、研修について) 教科書 pp.112～125	事前学習	問題プリント№12 の実施と教科書から職務上・身分上の義務をまとめる。
		事後学習	服務について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 14 回	特別支援教育に関する規定について (特別支援学校設置の理念、特別支援学校、特別支援学級について) 教科書 pp.147～153	事前学習	問題プリント№13・14 の実施と教科書から特別支援学校の設置理念をまとめる。
		事後学習	特別支援教育についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	小学校の学校事故と裁判判例について	事前学習	問題プリント№15 を実施する。
		事後学習	学校事故の裁判判例について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2102 SBMP1421 SSMP1321 EDTS2302
2. 授業担当教員	鈴木 収		
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目は、中学校・高等学校や特別支援学校及び養護教諭の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、小中一貫連携教育を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小・中・高等学校や特別支援学校の小学部・中学部・高等部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。</p> <p>また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。</p> <p>4. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>5. 教育関連法規の具体的な内容について学校(小・中・高等学校及び特別支援学校の小学部・中学部・高等部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。</p> <p>6. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>【中間レポート課題】 改正教育基本法の主な改正点を記述しなさい。また第2条の「教育の目標」は新たに多くの内容が規定されたが、その内容について自分の考えを記述しなさい。(A4用紙1枚)</p> <p>【期末レポート課題】 学校教育法35条の「出席停止」について、その制度の概要を記述しなさい。あわせて「出席停止」の制度について自分の考えを記述しなさい。(A4用紙1枚)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】朝倉 征夫 編『おさえたい教育法規』酒井書店、2009。 解説教育六法編修委員会『解説教育六法2016(平成28年版)』三省堂、2016。 その他授業に必要な資料は、適宜配付する。</p> <p>【参考書】東京福祉大学 編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 授業への積極的参加 総合点の15%</p> <p>2 中間課題レポート 総合点の35%</p> <p>3 期末課題レポート 総合点の35%</p> <p>4 日常の学習状況 総合点の15%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>法律の勉強は一見難しそうだが、教育に関するそれは、教育現場にいと、いつ自分に降りかかってくるかわからない問題とつながっている。この授業では、単に法規の条文を解釈するだけでなく、実際に中等教育の教育現場で生じた出来事を例として学習して、事例にそって生きた教育法規を学ぶ。</p> <p>また、教室内での学習中のマナーを守り、併せて必要な自宅学習にも積極的に取り組むこと。</p>		
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義の概要の説明と授業中のルールについて 法体系と法執行の原理について 教科書 pp.1~5	事前学習	中学校・高校で発生する問題の中で、法律の触れる例をさがす。
		事後学習	法体系と法執行の原理について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第2回	「日本国憲法」と教育について 教科書 pp.7~16	事前学習	問題プリントNo1の実施と教科書から教育に関する憲法規定をまとめる。
		事後学習	「日本国憲法」と教育について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第3回	「教育基本法」について① (改正の経過と改正の基本的な考え方と第1章) 教科書 pp.16~20	事前学習	問題プリントNo2の実施と教科書から教育基本の改正の考え方を、まとめる。
		事後学習	教育基本法改正について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第4回	「教育基本法」について② (中等教育に関わりの深い条文について) 教科書 pp.20~30	事前学習	問題プリントNo3の実施と教科書から中等教育に関係の深い教育基本法の条文を確認する。
		事後学習	中等教育と教育基本法の理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

第 5 回	教育機関について (教育機関の種類と中等教育の目的と目標について) 教科書 pp.31～43	事前学習	プリント№4 の実施と教科書から「中等教育機関」の目的と目標をまとめる。
		事後学習	中等教育の目標・目的について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 6 回	学校教育に関する規定について (中等教育の教育課程と学習指導要領の変遷について) 教科書 pp.45～53	事前学習	問題プリント№5 の実施と教科書から中等教育の学習指導要領の変遷内容をまとめる。
		事後学習	学習指導要領の変遷について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 7 回	学校教育に関する規定について 「中等教育の教科書や表簿について」 教科書 pp.53～63	事前学習	問題プリント№6 の実施と教科書で、中学校の表簿を確認する。
		事後学習	教科書や表簿について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 8 回	生徒に関する規定について (中等教育における入学・休学・卒業等について) 教科書 pp.65～71	事前学習	問題プリント№7 の実施と教科書から中学校の入学・卒業を確認する。
		事後学習	入学・卒業の規定について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 9 回	生徒に関する規定について (生徒指導と懲戒・出席停止について) 教科書 pp.72～82	事前学習	問題プリント№8 の実施と教科書から「出席停止制度」をまとめる。
		事後学習	懲戒と体罰について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	学校保健・安全に関する規定について (生徒の健康診断や学校管理下の事故等について) 教科書 pp.83～91	事前学習	問題プリント№9 の実施と教科書から部活動時の事故の補償をまとめる。
		事後学習	学校管理下の事故についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 11 回	教職員に関する規定について (中等教育での教育職員の身分、免許更新制について) 教科書 pp.93～102	事前学習	問題プリント№10 の実施と教科書から「免許更新制度」をまとめる。
		事後学習	免許更新制について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 12 回	教職員に関する規定について (中等教育で配置される教育職員と職務内容と任用について) 教科書 pp.102～111	事前学習	問題プリント№11 の実施と教科書から中学校への配置教員を確認する。
		事後学習	職務内容と任用について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 13 回	教職員に関する規定について (分限・懲戒・研修について) 教科書 pp.112～125	事前学習	問題プリント№12・13 の実施と教科書から分限と懲戒の違いをまとめる。
		事後学習	教員の分限・懲戒について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 14 回	特別支援教育に関する規定について (中等教育を中心に) 教科書 pp.147～153	事前学習	問題プリント№14 の実施と中等教育での特別支援教育を考える。
		事後学習	特別支援教育について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	中学校・高等学校で学校事故と裁判判例について	事前学習	問題プリント№15 を実施する。
		事後学習	学校事故と裁判判例について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2104 EDTE2304
2. 授業担当教員	橋本 松代		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	教育方法とは、一般的に、教授・学習の方法を意味しており、幼稚園を含む学校で行うすべての教育指導が含まれる。本科目では、教育方法の変遷、教育課程、授業の構造、教育の技術、教育評価などの基礎的事項について理解する。それらを踏まえて、幼児・児童の側に立った指導方法、教材の検討、地域の人材活用、コンピュータなどの情報機器を利用した教育方法等について学習する。さらに、今日的課題である幼・保・小の校種間の連携や、家庭との連携のあり方について考える。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の歴史の変遷を理解する。 2. 教育方法の理論と考え方を理解する。 3. 授業の概念や様式についての理解を深める。 4. 幼・保・小の連携や地域社会との連携のあり方について考え、自分の意見を言うことができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の区切りにレポートを課す。 レポート課題： ①3分講話・・・論旨明確で伝わりやすい話し方は、指導法の原点である。3分という時間管理に基づいた原稿をもとに表現力に富んだ講話の在り方を模索する。 ②学校の教育プラン・・・出身校のグランドデザインを参考に、児童や保護者、地域の実態を踏まえた学校の教育目標やその達成のための具体策をA4 1枚にデザインする。 ③学習指導案・・・教師は授業で勝負する。確かな児童観、指導観、題材観のもとに、題材の指導計画を立て、1時間の指導過程 (A4 2枚) を立案する。 ④私はこんな授業がしたい・・・様々な教育方法の理論を具体化と相互に実践した模擬授業を分析し、教育実習に備えた授業像を構築する。(1200字程度) 2. 模擬授業を全員に課す。 レポート課題「学習指導案の作成」に基づき、模擬授業をする。指導者としての配慮は勿論のこと、児童の立場に立って指導者が設定した児童になりきることで、より実際の生きた授業の展開を工夫する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 柴田義松編著『改訂版 教育の方法と技術』学文社、2015。 【参考書】 多田俊文編『教育の方法と技術 四訂版』学芸図書出版会、2009。 辰野千壽編『学習指導用語事典 第三版』教育出版、2009。		
11. 成績評価の方法	授業への参加 (態度・演習・発表等) …………… 20% レポート課題…………… 60% 模擬授業…………… 60%		
12. 受講生への メッセージ	教師は、授業が勝負である。児童一人一人の持ち味を生かし、表には出ない背景をもつかみつつ、短期・中期・長期の到達目標に向かって授業を進めていくことは、意義深く楽しい営みであるが奥が深く、多くの知識と経験が求められる。 様々な教育方法の原理を理解するとともに、それが授業の実際場面で具体化できるような演習を積み、教師と児童とで創り上げていく感動ある授業が展開できるよう、受講生同士で大いに切磋琢磨し、教育の実践者としての資質を築き合っていくことを期待する。 15回の講義は、相互に関連し合っていて一つたりとも欠くことはできない。やむを得ない事情で欠席、遅刻、早退をした場合は、その補充をし、次年度に取り組む教育実習で生かせるように努めること。		
13. オフィスアワー	別途、通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業概要の説明) 「教育方法の歴史的概観」	事前学習	教育の意味とその方法について考えを述べられるように準備する。
		事後学習	教科書の第1章を精読する。
第2回	「学習理論」 カリキュラム論・授業論	事前学習	教科書の第2・3章に掲載された問題の意味を把握する。
		事後学習	提示された各問題について 200 文字程度でまとめる。
第3回	「学習理論」 教育の技術・学力と教育評価	事前学習	教科書の第4・5章に掲載された問題の意味を把握する。
		事後学習	提示された各問題について 200 文字程度でまとめる。
第4回	「学校の教育課程計画」 学校のグランドデザイン作成	事前学習	出身小学校等のグランドデザインを準備する。
		事後学習	学校教育目標達成のための具体的な方策を確認する。
第5回	「課題解決学習」 課題解決学習のねらいと具体的方策	事前学習	資料「課題解決学習」の指定された内容のプレゼンができるよう準備する。
		事後学習	課題解決学習のねらいと具体的方策の復習をする。
第6回	「授業設計と学習デザイン」 学校教育における学習指導の全体像の構築と授	事前学習	授業の計画・実践・評価について考える。
		事後学習	「授業をつくるとは」について理解を深める。

	業設計のポイント		
第 7 回	「教師の役割」学校教育全般の中での教師の役割 「3分講話」明確な対象と論旨、豊かな表現をめざした講話の実際	事前学習	3分講話の原稿をもとに、聞き手に伝わりやすい話し方の練習をする。
		事後学習	講話の相互評価を振り返る。
第 8 回	「学習指導案の書き方」 確かな児童観、指導観、題材観のもとにした展開のある指導過程の立案	事前学習	指導案事例集に目を通す。
		事後学習	「展開のある授業とは」を確認する。
第 9 回	「授業の実施と評価」 授業参観①・・・参観を充実したものにするために、仮想指導案を作成し交換するとともに、工夫したことを説明する。名古屋市内の小学校に出向き、授業の参観をする。 授業分析の観点①授業の計画・実践・評価の実際	事前学習	学習指導案を準備し参観授業と模擬授業を14回まで継続実施する。模擬授業者は受講者間で交代するが、事前に学習指導案を配布し、全員でその内容をつかみ、不明な点はまとめておく。
		事後学習	授業分析の観点(授業の計画・実践・評価の実際)に基づき、自他の指導案や指導の流れ等を整理する。
第 10 回	「授業分析」 授業参観②・・・仮想指導案を事前に準備する。 授業分析の観点②目標の明確化	事前学習	配布された学習指導案を分析の観点を中心に目を通す。(10～14まで同様)
		事後学習	授業分析の観点(目標の明確化)に基づき、自他の指導案や指導の流れ等を整理する。
第 11 回	「授業分析」 模擬授業① 授業分析の観点③発問・説明・指示	事前学習	配布された学習指導案に目を通す。
		事後学習	授業分析の観点(発問・説明・指示)に基づき、自他の指導案や指導の流れ等を整理する。
第 12 回	「授業分析」 模擬授業② 授業分析の観点④予想される児童の反応	事前学習	配布された学習指導案に目を通す。
		事後学習	授業分析の観点(予想される児童の反応)に基づき、自他の指導案や指導の流れ等を整理する。
第 13 回	「授業の分析」 模擬授業③ 授業分析の観点⑤板書計画	事前学習	配布された学習指導案に目を通す。
		事後学習	授業分析の観点(板書計画)に基づき自他の指導案や指導の流れ等を整理する。
第 14 回	「指導と評価の一体化」 模擬授業④ 授業分析の観点⑥指導と評価の一体	事前学習	配布された学習指導案に目を通す。
		事後学習	授業分析の観点(指導と評価の一体)に基づき、自他の指導案や指導の流れ等を整理する。
第 15 回	「教育方法論のまとめと評価」	事前学習	教育方法について課題を整理する。
		事後学習	学習目標の達成度を自己評価する。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2104 SBMP2447 SSMP2447 EDTS2304
2. 授業担当教員	石崎 達也		
4. 授業形態	講義、演習 (視聴覚教材の鑑賞、問題解決のためのグループワーク・ロールプレイングなどを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	各教科指導法の基礎を学ぶ科目である。		
7. 講義概要	「学習指導要領」の改訂により、各教科、総合的な学習の時間等の授業改善が求められている今日、教師は「よりよい授業づくり」のために、さまざまな教育方法を学ぶことが求められています。この授業では、基本的な指導方法・学習方法について説明するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、教育実習時の授業場面に役立つ教育の〈方法〉を身につけることを目的とします。具体的には、授業場面の事例をもとに、〈方法〉への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討します。その上で、グループワークによる「模擬授業」を実施し、「授業づくり」の過程における PDCA サイクル (Plan [企画]・Do [実行]・Check [評価]・Action [改善]) を体験的に学びます。		
8. 学習目標	この授業では、PDCA サイクルにもとづいた循環的な「授業づくり」を行うことができる教師の育成が目標となる。そこに至るために次の3つの到達目標を設定する。 1) 中学校・高等学校教諭等を目指す学生に求められる基本的な教授学習理論を理解し、重要な用語について説明することができる。 2) 基本的な指導方法・学習方法を理解した上で、「模擬授業」において実際にその方法論にもとづいた指導案を作成し、授業を展開することができる。 3) 自ら実施した (あるいは他の受講生が実施した) 「模擬授業」の問題点を検討し、次の授業に生かすことができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テーマごとに理解度・習熟度を確認する課題レポートを提出すること。 模擬授業における「学習指導案」の作成をすること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『中学校 学習指導要領』東山書房、2008。 文部科学省『高等学校 学習指導要領』東山書房、2011。 【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2015。 佐藤学『教育の方法』左右社、2010。 *その他、発展的学習のための参考書は必要に応じて授業の中で紹介するので、図書館を活用すること。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 30% 小テスト・課題レポートの提出状況 30% 期末レポート課題 40%		
12. 受講生へのメッセージ	受講生の皆さんは小学校・中学校・高等学校と各学校段階において、さまざまな「授業体験」を積み重ねてきていると思う。まずは、自分が体験したことのある「授業」をふりかえり、自分が目指す「よりよい授業」について考えてみてほしい。その上で、この授業を通してさまざまな教育の方法を学び、その方法を試してみるなかで、近い将来に出会うであろう生徒たちにとっての「よりよい授業とは何か」を考え、実践できる教師になるための準備をすすめてほしい。 【学生に期待される学習態度】 受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してほしい。 ① 教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高める。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでほしい。 ② 授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないこと。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告すること。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格とする。) ③ 明らかに授業態度が悪いと判断した際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られないと判断した場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格とする。 ④ 授業中、私語、居眠りはしないこと。 ⑤ 授業中は携帯電話等の携帯端末の電源は切ること。 【教員の心がまえ】 ① 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はできるかぎりシラバスに沿って行う。 ② 受講生全員に伝わるような声で話をする。また、専門用語を用いた際は、わかりやすく説明する。 ③ 一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくる。 ④ 遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出、その他、授業に臨むうえで不適切と思われる態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	第1回の講義時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション [授業の進め方、「教育方法 (論)」を学ぶ上での心得の説明]	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくる。
		事後学習	本時の授業のポイントをノートに整理すること。
第2回	教育方法の歴史① [近代以前の教育・一斉授業・新教育・効率主義の教育]	事前学習	他の授業において登場した西洋教育史上の人物について調べておくこと。

		事後学習	本時に学んだキーワードと重要人物に関してノートに整理すること。
第 3 回	教育方法の歴史② 〔日本における授業実践の歴史と展開〕	事前学習	他の授業において登場した日本教育史上の人物について調べておくこと。
		事後学習	本時に学んだキーワードと重要人物に関してノートに整理すること。
第 4 回	教育内容 〔子どもに教える教育内容選択の原理と方法・「教科書」の役割〕	事前学習	テキストの指定された箇所を読んでくること。
		事後学習	本時に学んだ内容に関してノートに整理すること。
第 5 回	教育課程 〔カリキュラムの編成と実施上の課題〕	事前学習	テキストの指定された箇所を読んでくること。
		事後学習	本時に学んだ内容に関してノートに整理すること。(ここまでに学習した内容に関する課題レポート提出)
第 6 回	授業を「設計する」技術ー「学習指導案」の作成 〔Plan〕 第 1 段階 【キーワード】 単元目標/時間配分	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	指定された教科・単元に関する学習指導案(略案)を各自作成すること。
第 7 回	授業を「実施する」技術①ー板書の技術 〔Plan〕 第 1 段階 【キーワード】 黒板/ノート/掲示物	事前学習	前時に学習した内容をふまえ自らの学習指導案内容を吟味してくること。
		事後学習	指定された教科・単元に関する学習指導案(略案)を各自作成すること。
第 8 回	授業を「実施する」技術②ー発問の技術 〔Plan〕 第 1 段階 【キーワード】 子どもの思考活動/学習意欲	事前学習	前時に学習した内容をふまえ学習指導案内容を吟味してくること。
		事後学習	指定された教科・単元に関する学習指導案(略案)を各自作成すること。
第 9 回	授業を「実施する」技術③ー児童生徒のコミュニケーションおよび児童生徒理解の技術 〔Do〕 第 1 段階 【キーワード】 学びの集団づくり/ベテラン教師	事前学習	前時に学習した内容をふまえ学習指導案内容を吟味してくること。
		事後学習	各自で作成した学習指導案(略案)を完成させ提出すること。
第 10 回	授業を「評価する」技術ー教育評価の意味と効果 〔Check〕〔Action〕 第 1 段階 【キーワード】 授業分析/教師の教育力	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	各自で作成した学習指導案(略案)の改善点を本時で学習した内容をもとに検討すること。
第 11 回	「模擬授業」に向けての準備 学習指導案作成と効果的な授業方法の検討 〔Plan〕 第 2 段階 【キーワード】 教育メディア/インターネット	事前学習	指定された教科・単元に関する学習指導案をグループごとに作成してくること。
		事後学習	本時で学習した内容をもとにグループで学習指導案を作成してくること。
第 12 回	グループワーク「模擬授業」① 〔Do〕〔Action〕 第 2 段階	事前学習	グループで作成した学習指導案をもとにした模擬授業を実施できる準備をしてくること。
		事後学習	自ら実施した模擬授業の問題点を検討し、他の受講生の模擬授業から得たことを含め、自らの授業実践の改善に向けた方法を文章化すること。
第 13 回	グループワーク「模擬授業」② 〔Do〕〔Action〕 第 2 段階	事前学習	各自の学習指導案をもとにした模擬授業を実施できる準備をしてくること。
		事後学習	自ら実施した模擬授業の問題点を検討し、他の受講生の模擬授業から得たことを含め、自らの授業実践の改善に向けた方法を文章化すること。
第 14 回	授業研究の課題と展望ー「よりよい授業」とは何か 〔Action〕 第 3 段階	事前学習	これまでに作成した各自の学習指導案を見直してくること。
		事後学習	期末レポート課題に向けた調査・資料収集をすること。
第 15 回	授業のふり返りとまとめ/授業評価	事前学習	配布資料や各自のノート等で本授業の学習内容をふり返し、自己の成果と課題を報告できるようにしてくること。
		事後学習	シラバスに記載された本科目の学習目標を達成するための3つの到達目標を確認し、その到達度を自己評価すること。

1. 科目名 (単位数)	教師論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1320 SBMP1320 EDTS1102 EDTS1302
2. 授業担当教員	水野 良治		
4. 授業形態	講義・グループ討議・ワークシート・レポート・試験	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題など変化の激しい今日の社会において、学校教育の場においても様々な課題が生じている。この課題を解決するためには、学校教育の主たる担い手である教員の役割や責任が今まで以上に大きくなってきている。これからの教員は、教科に関する知識を単に教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもを育成することが求められている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事と役割とはどのようなものか、教員の権利や義務 (サービス・研修・身分保障などを含む) は、法律上、どのように規定されているのかなど教職を志す学生があらかじめ教職について知っておく必要がある事項を考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職観の変遷について理解するとともに、教師に求められる資質・能力について考察することができるようになる。 2. 教員養成の歴史の変遷について理解するとともに、現在の教員養成の現状について考察することができるようになる。 3. 教員の役割と仕事について理解するとともに、現在、教員に期待されている役割について考察することができるようになる。 4. 教員の養成・採用・研修について理解し、教師のライフコースについて考察することができるようになる。 5. 自分の適性を理解し、なりたい教師像について考察することができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポートは 2 回提出する。 第 1 回の締め切りは第 7 回授業時、第 2 回の締め切りは第 11 回授業時、それぞれ 1,000 字程度とする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	毎時間プリントを配布する。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 2 回のレポート課題と提出物 2 授業への参加度 	総合点の約 60%	総合点の約 40%
12. 受講生への メッセージ	<p>この科目は教育職員免許状取得のために指定された必修科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受講に当たっては、自分が教壇に立った場合はどうするかを常に考えること。 2 社会人としての常識をわきまえ、教師をめざす人にふさわしい態度を保つこと。 3 発表や討論の場では積極的に自分の考えを述べること。私語を慎む。遅刻をしない。 		
13. オフィスアワー	講義の中で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業のオリエンテーション (講義概要の説明) 教師論の基盤 (なぜ教師をめざすのか)	事前学習	なぜ教師をめざすのか、自分のめざす教師像はどのようなものか、発表できるようにしておく。
		事後学習	配布資料をよく読み、あらためて自分がめざす教師像について 400 字程度でまとめる。
第 2 回	学校とは何か — 学校の種類、学校の現状、学校の教職員 —	事前学習	プリントを読み、教師の仕事場となる学校の種類、現状、教職員について概要をつかみ、発問に答えられるようにする。
		事後学習	学校とは何かについて学習した内容を確認、整理する。
第 3 回	学校の組織と運営 — 管理職、主任、校務分掌、職員会議 —	事前学習	プリントを読み、学校の組織、職務と仕事の分担、会議など、学校についての基本的な事項について概要をつかみ、発問に答えられるようにする。
		事後学習	学校についての基本的な事項について学習した内容を確認、整理する。
第 4 回	教職の意義 — 教師とは何か (教師という言葉)、教職の特殊性 —	事前学習	プリントを読んで教師とは何か、教職の意義、存在理由について自分の考えを発表できるようにする。
		事後学習	教職の意義について学習した内容を整理し、自分がめざす教師像を再考し、400 字程度でまとめる。
第 5 回	教職観と理想の教師像 — 伝統的な教師像、近代日本の教師像の類型、教職観の変遷 —	事前学習	プリントを読んで教職観と理想の教師像について内容を整理し、討論できるようにする。
		事後学習	理想の教師像について学習した内容を確認、整理し、自分がめざす教師像を再考する。
第 6 回	学習者にとっての理想の教師	事前学習	プリントを読み、現役教師の教師像を踏まえてこれからの時代に求められる教師像について自分の考えをまとめ、発表できるようにする。
		事後学習	本時の学習ポイントを整理し、自分がめざす教師像を再考する。400 字程度でまとめる。

第 7 回	教員養成の歴史 —戦前の教師たち、戦後の教員養成制度—	事前学習	プリントを読み、戦前と戦後の養成制度の違いや国家と教員の関係を概観する。
		事後学習	教員養成の歴史に関する本時の学習ポイントを確認し整理する。
第 8 回	教師の役割と仕事	事前学習	プリントを読み、教員の仕事の全体像の概略を把握し、討論できるようにする。
		事後学習	教師の役割と仕事について学習した内容を確認しポイントを整理する。
第 9 回	教師の仕事の実際 —教師の一日、教師の一年—	事前学習	プリントを読み、教師の仕事の実際について概略を把握する。
		事後学習	教師の仕事の実際について学習した内容のポイントを整理する。
第 10 回	「開かれた学校づくり」と教師	事前学習	プリントを読み、生涯学習社会における教師への期待について自分の考えをまとめ、発表できるようにする。
		事後学習	多様化する教師の役割、期待についてポイントを整理し、自分の考えをまとめる。
第 11 回	教員の勤務と服務 —勤務条件、服務規程、処分—	事前学習	プリントを読み、勤務条件、服務規程、処分などの基本的な事柄について概要をつかみ、発問に答えられるようにする。
		事後学習	教員の勤務と服務について学習した内容を整理、確認する。
第 12 回	教師の職場環境	事前学習	プリントを読み、教師の悩み、不満、学校の人間関係など教師の職場環境についての概略を把握し、討論できるようにする。
		事後学習	教師の職場環境について学習した内容を確認し、自分ならどうするか整理しておく。
第 13 回	教員研修 —初任者研修、10 年経験者研修、大学院研修—	事前学習	プリントを読み、教員研修制度について概要を理解する。
		事後学習	教員研修の必要性や教員研修制度の現状についてポイントを整理する。
第 14 回	教員になるには	事前学習	プリントを読み、教員への進路選択と教員採用選考について概略を理解する。
		事後学習	本時の学習ポイントを整理し、これから何をやればよいか考え、一覧表にまとめる。
第 15 回	まとめ —自分のめざす教師像について発表—	事前学習	自分のめざす教師像について再考し、発表できるようにする。
		事後学習	他の仲間の発表も参考にし、自分のめざす教師像に向けた新たな課題を設定する。

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GELA1104
2. 授業担当教員	アカデミック・アドバイザー			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	大学は専門的職業への学習・準備期間である。この 4 年間でうまくデザインして、自分の夢を実現することは、学生に課せられた課題である。それを援助するのが、この講座の目的である。そこで本講座は、この 4 年間の生活の仕方から始まり、授業の受け方や行事の意義並びに学ぶ仲間との交流の仕方を体得していく。最終的には、卒業時の就職や進学に関する内容を学び、日々の勉強への意欲を高めていく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で共に学びあう仲間をつくる。 2. 時間の流れから将来計画をどのように考えていくべきかを理解し、将来の目標を明確に持つことができるようになる。 3. より現実的な将来を切り開くため、自分の特性や家庭事情も含めて考えることができる。 4. 就職や進学のためにこの 4 年間にどのような準備が必要か理解でき、行動に移すことができる。 5. キャリアを人生プロセスの中で考えられ、修正できる柔軟性を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生としての学びは高等学校とは何が違うのか。－本学の授業に期待すること－ 2. 赤城山宿泊研修から学ばされたこと。－学びの友と心の友との関係－ 3. 親にしてもらったこと、迷惑をかけたこと、そして返したこと。－親からの自立とは何か－ 4. 自分が将来就きたい職業を考える。－その職業に就いた時、どんな人物像でありたいか－ 5. この半年間での私の進歩。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『学生生活の手引き』			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点(授業態度・発表・発言など) 50% 2. レポート5本(9. で示したもの) 50% 			
12. 受講生へのメッセージ	他の大学と異なり、本学の学生生活にはかなり厳しいものがある。例えば、授業への出席やレポートや発表は義務づけられ、かつディスカッションがふんだんに課せられるからである。そこで、入学後には、早速、高等学校時代とは異なる大きな段差があることになる。それにつまずかないよう、かつ将来を見据えた生活設計ができるよう本講座は設けられているので、必ず出席し、課題に取り組んでほしい。			
13. オフィスアワー	各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション(教員の自己紹介/大学における履修方法および成績評価について学ぶ)	事前学習	春期オリエンテーションで分からなかったところを整理しておく。	
		事後学習	履修方法や成績評価について分からなかったことを質問する。	
第 2 回	仲間作り (これまでの友人関係や部活での活動等について語り合う)	事前学習	これまでの友人関係や部活での活動等について思い出し、整理しておく。	
		事後学習	同級生の話を聞き、自分との共通点や相違点についてまとめる。	
第 3 回	海外にも視野を広げてみよう	事前学習	海外留学でどのような能力を身に付けることができるのかについて事前に考えておく。	
		事後学習	海外留学で学べることについてまとめる。	
第 4 回	コミュニケーション・スキル学習	事前学習	自分が周りの友人や家族にどのようなコミュニケーションをしているのかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをまとめ、今後のコミュニケーションに活用する。	
第 5 回	将来計画と今なすべきこと・したいことを考える	事前学習	大学に入学してからどのようなことをしてきたかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことを活用し、今なすべきことを計画通り実行していく。	
第 6 回	親との関係を見直す 心の自立をすとは何か	事前学習	親からの影響を考えてみる。	
		事後学習	親にしてもらったこと、返したことについて箇条書きにする。	
第 7 回	職業について考える	事前学習	自分が将来就きたい職業について考えを整理しておく。	
		事後学習	自分が将来就きたい職業に就くにはどうしたらよいかについて自ら調べる。	
第 8 回	各学部における専門教育への導入①	事前学習	自分が所属している学部学科ではどのような専門性を身に付けることができるのかについてシラバスや大学のホームページを見て、確認しておく。	

		事後学習	授業中に示された各学部学科の専門教育で必要な基礎知識について復習する。
第 9 回	各学部における専門教育への導入②	事前学習	各学部における専門教育への導入①での学習内容を復習しておく。
		事後学習	各学部における専門教育への導入②での学習内容を復習する。
第 10 回	野外活動を通じての仲間作り	事前学習	小・中・高校時代に体験した野外活動について思い出しておく。
		事後学習	赤城山宿泊研修での心構えなどについて再度、確認しておく。
第 11 回	体を鍛えて明日の自分を考える	事前学習	大学に入り、どのような運動をしてきたかについて思い出しておく。
		事後学習	合同スポーツデイに向けて体力作りに励む。
第 12 回	本学の試験に備えてすべきこと	事前学習	自分が受講している授業のシラバスを確認し、各授業の成績評価の方法を確認しておく。
		事後学習	授業で学んだことを活用し、テストやレポートに向けて学習する。
第 13 回	卒業生・先輩から学生生活、就職について話をきく	事前学習	卒業生や先輩に質問したいことを事前にまとめておく。
		事後学習	卒業生や先輩から聞いた話をまとめ、今後の学生生活の中で活用していく。
第 14 回	各学部における専門教育への導入③	事前学習	各学部における専門教育への導入①②での学習内容を復習しておく。
		事後学習	各学部における専門教育への導入③での学習内容を復習する。
第 15 回	この半年間で学んできたもの	事前学習	これまでの学習内容について整理しておく。
		事後学習	今後の学生生活を有意義に過ごすために教養基礎演習Ⅰの中で学んだものを活用していく。

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GELA2304 GELA2104
2. 授業担当教員	西脇 雅彦			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本講義では、「教養」を身に付けるための一環として、わかりやすい資料などを用いながら、①国語問題（間違えやすい漢字や熟語など）、②数学問題（計算、図形など）、③英語問題（長文読解、熟語など）、④理科問題（物理、生物など）、⑤社会問題（歴史、地理など）を解き、⑥小論文を作成する。また、それらの問題を解くための技法や留意点などについて理解を深め、応用力を高めていく。さらに、「教養」とは何かを再認識し、それを身に付けることの意義についても考察する。その他、問題発見・解決能力や協調性を高めるためのディスカッション、表現力を高めるための発表、人間性を高めるための教材なども授業に取り入れ、幅広い意味での教養を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤教養を身に付けることについて、その意義を十分に理解し、自ら実践することができる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p><課題レポート> 最終日の授業までに与えられた課題（最近注目されている話題）について、1,000 字程度のレポートを作成して提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 教科書を使用せずに、分かりやすい学習参考例を使用する。</p> <p>【参考書】 国語辞典、英和辞典、高校時代に使用した教科書や参考書。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、毎週の口頭質問テスト、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 授業への積極的参加度・受講態度 総合点の 30%</p> <p>2 毎週の確認テスト 総合点の 30%</p> <p>3 課題レポート 総合点の 40%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業を通じて、「基本的な勉強法」や「教養を身に付けることの意義」を学び、自分の将来の目標に向かって、自らが積極的に学ぶことができるようになることを願っています。</p>			
13. オフィスアワー	<p>時間・場所：第 1 回目のときに指示します。</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、マナーなど）及び資格試験や採用試験に対応するための教養（問題発見、解決能力、文章表現など）を身につけるための心得	事前学習	シラバスの内容に目を通し、教養基礎演習Ⅱの学習用ノートを準備して講義へ臨むこと。また、自分なりに学ぶ方法を調べておく。	
		事後学習	配布資料（参考書の抜粋）の要点を学習用ノートにまとめる。	
第 2 回	国語問題（同音異義語～間違えやすい漢字の読み書き）	事前学習	事前に配布された資料（同音異義語）の内容を予習して講義に臨む。	
		事後学習	同音異義語（間違えやすい漢字の読み書き）の要点を学習用ノートに記入する。	
第 3 回	国語問題（同音異義語）	事前学習	事前に配布された資料（同音異義語）の内容を予習して講義に臨む。	
		事後学習	前回の復習も含めて同音異義語の要点を学習用ノートにまとめる。	
第 4 回	国語問題（ことわざ、四字熟語）	事前学習	事前に配布された資料（ことわざ、四字熟語）の内容を予習して講義に臨む。	
		事後学習	ことわざ、四字熟語の内容を学習ノートにまとめる。	
第 5 回	数学問題（数と計算）	事前学習	事前に配布された資料（数と計算）の内容を予習して講義に臨む。	
		事後学習	数と計算の例題（解き方の確認）を含めて学習ノートにまとめる。	
第 6 回	数学問題（図形）	事前学習	事前に配布された資料（図形）の内容を予習して講義に臨む。	
		事後学習	図形の例題（考え方・解き方）を含めて学習用ノートにまとめる。	
第 7 回	英語問題（長文読解）	事前学習	事前に配布された資料（英語の長文）の内容を予習して講義に臨む。	
		事後学習	出題された英文から単語、イディオム、関係代名詞などの要点を学習用ノートにまとめる。	
第 8 回	英語問題（イディオム）	事前学習	事前に配布された資料（イディオム）の内容を予習して講義に臨む。	

		事後学習	出題された英文からイディオムを整理し要点をまとめて学習ノートにまとめる。
第 9 回	理科問題 (力のつり合い)	事前学習	事前に配布された資料(力のつり合い)の内容を予習して講義に臨む。
		事後学習	滑車、モーメント、ばね、圧力、浮力について要点を学習ノートにまとめる。
第 10 回	理科問題 (人体の恒常性と調節)	事前学習	事前に配布された資料(人体)の内容を予習して講義に臨む。
		事後学習	人体と恒常性と調節について要点をまとめて学習ノートに記入する。
第 11 回	社会問題 (戦後の日本)	事前学習	事前に配布された資料(戦後の日本)の内容を予習して講義に臨む。
		事後学習	戦後日本の歴史の要点を学習用ノートにまとめる。
第 12 回	社会問題 (世界の地形)	事前学習	事前に配布された資料(世界の地形)の内容を予習して講義に臨む。
		事後学習	世界の地形、海岸の地形について要点をまとめて学習ノートにまとめる。
第 13 回	社会問題 (アジア)	事前学習	事前に配布された資料(アジア)の内容を予習して講義に臨む。
		事後学習	アジアの地形の特色を整理して学習ノートにまとめる。
第 14 回	小論文 (日本の公害)	事前学習	事前に配布された資料(日本の公害)の内容を予習して講義に臨む。
		事後学習	日本の公害の歴史と対策について自分の観点から小論文にまとめ、その成果を発表する。
第 15 回	小論文 (日本の自然)	事前学習	事前に配布された資料(日本の自然)の内容を予習して講義に臨む。
		事後学習	日本の自然の特色と世界遺産について自分の観点から小論文にまとめ、その成果を発表する。

1. 科目名 (単位数)	金融論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2135
2. 授業担当教員	武田 嘉孝			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	経済学の基本を理解していることが望ましい。			
7. 講義概要	<p>金融論の場合は、入門であっても、講師によって扱う内容が様々に異なっている。それだけ金融という現象が幅広い経済分野にまたがっているからである。本講義は、金融論の基礎について体系的・包括的に全体像を学ぶだけでなく、そうした知識・理論を用いて、基礎的な個人の金融行動選択の方法を学ぶことに特徴がある。予備知識が少ない学生でも理解できるようになるべく平易に解説する。</p> <p>前半では、金融論の基礎知識・理論として、金融の役割、金融の方法、金融取引を行う場である金融市場、貨幣、金融機関、金融政策を解説する。後半は、個々の経済主体の意思決定に必要な基礎知識として、お金を融通することの対価である利子率、家計や企業等の金融行動に関する基本的な理論や方法を解説する。</p> <p>講義の進行方法については、受講者の理解を深めるため項目ごとに問題演習を行う。また課題として提出するレポートをもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の金融経済の現状を把握し、説明できるようになる。 2. 金融の基礎理論を理解し、説明できるようになる。 3. 預金や株式、社債などの金融商品の取引や、その結果である利益と損失の発生を理解し、説明できるようになる。 4. 家計や個人の金融行動の選択に関する考え方と方法を習得し、日常生活で実践できるようになる。 5. 金融の理論や方法を企業や社会福祉関連施設等の運営・管理において応用できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間講義内容をまとめてレポートを提出してもらう。 ・後半に簡単な計算問題の課題を出し、講義終了後に提出する。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 益田・浅羽著『金融経済の基礎』経済法令研究会、2014。</p> <p>【参考書】 家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ 第4版』中央経済社、2013。 日本経済新聞社編『ベーシック 金融入門』日本経済新聞出版社、2014。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末復習課題レポート 50% 2. 毎時間のレポート 30% 3. 授業態度 (発表、質問等、参加意欲) 20% <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>90 年代のバブル崩壊以降の厳しい経済環境下において、経済的リスクが国や企業から生活者へと次々に転嫁されてきている。このため、正しい金融リテラシーを身につけ、主体的に堅実な金融行動を実践できるように自らを変えてゆくことが大切になってくる。社会福祉の場でも、正しい金融リテラシーに基づいた活動が今後はますます求められてくるはずである。したがって、本講義の内容が今後、生活者や職業人としての自分の意思決定にどう関わってくるかをなるべく意識しながら受講してほしい。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	・金融新時代	事前学習	戦後日本の社会システムの変革を確認しておく。	
		事後学習	金融ビッグバンの現象を認識する。	
第 2 回	・金融経済を取り巻く環境	事前学習	講義用に配布した資料を読んでおく。	
		事後学習	現在の金融経済環境の特徴をまとめる。	
第 3 回	・日本の金融制度の変遷	事前学習	消費者保護に関する問題意識を持つ。	
		事後学習	消費者保護に関する各種法令の必要性を理解する。	
第 4 回	・金融商品販売法、消費者契約法、金融商品取引法、個人情報保護法	事前学習	プリントの内容を黙読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめた内容をレポート提出する。	
第 5 回	・金融、経済の基本	事前学習	金融改革の流れを知っておく。	
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。	
第 6 回	・貨幣 貨幣の機能 今日の貨幣 マネーストック	事前学習	経済の構成要素とメカニズムをまとめる。	
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。	
第 7 回	・日本銀行 日本銀行の設立、機能、目的 マネタリーベース	事前学習	日本銀行の機能について調べておく。	
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。	
第 8 回	・金融市場の変動要因	事前学習	金利の決まり方の要因を考える。	
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。	

第 9 回	・ 主要なマーケット指標	事前学習	金融の意味と金融市場の仕組みを考える。
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。
第 10 回	・ 景気 ・ 物価指標	事前学習	GDP の意義を考える。
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。
第 11 回	・ 金融政策 金融政策の運営方法 日本銀行の政策手段 金融政策による物価への効果	事前学習	金融政策の種類を考える。
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。
第 12 回	・ 利子と利子率(1) 単利方式と複利方式 現在価値の求め方	事前学習	単利と複利の違いを考える。
		事後学習	利回りの意味と課税方式を理解する。
第 13 回	・ 利子と利子率(2) 係数表を用いた金額計算	事前学習	6 つの係数の意味を理解する。
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。
第 14 回	・ 家計の金融行動 (1)	事前学習	ライフサイクルと家計の取組み方を考える。
		事後学習	講義内容を復習する。指示された練習問題を解く。
第 15 回	・ 家計の金融行動 (2) 最適な金融資産選択の決定	事前学習	金融資産商品の種類を調べておく。
		事後学習	講義内容を復習する。

1. 科目名 (単位数)	暮らしと経済 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP1118
2. 授業担当教員	城田 吉孝		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	日常、テレビや新聞で見聞きする、我々の身近な生活を取り巻く経済問題を、経済学的な観点から考察する。またそれらの経済問題を題材にして、経済学的なものの考え方を身につける。経済問題や経済学というと何かとつきにくく、縁遠い感覚を覚えるかもしれないが、実際には、意外とシンプルで、いったん身につけてしまうと、今後の社会生活を営んで行く中でも非常に便利なツールとなることがわかる。この講義を通じて、その生きていく上で有効なツールとしての経済学的な考え方が自然と身につくことを目指す。また、これまでなんとなく気になっていたにも関わらず未理解だった経済問題に整理をつけていくことを目指す。今回は日本経済を中心に学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、日本経済でどのようなことが起こり、問題になっているかを認識する。 2. 現在の日本を取り巻く経済問題を経済学の枠組みでとらえ直す。 3. 経済学 (ミクロ経済学、マクロ経済学) の基本的な考え方を身につける。 4. 数式やグラフを通じて物事を整理するという習慣を身につける。 5. 今後、日本や世界で展開する経済問題に関心をもてるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	15 回の講義のうち、5 回、暮らしと経済・流通・消費者問題にかかわる課題レポートを課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 城田吉孝著『現代の流通経済』中部日本教育文化会、1997。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・意欲 20% 課題レポート 30% 期末試験 50%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解が不十分な点については、そのまま放置せず、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。 2. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。 		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	経済の全体像と基礎知識として：経済とは、経済主体について学ぶ	事前学習	暮らしと小売業について調べる。
		事後学習	経済を動かす 3 つの主体について調べる。
第 2 回	ミクロ経済視点から「流通と商業の概念」について学ぶ	事前学習	pp.2~3 の流通の役割を読み、その概要をつかむこと。
		事後学習	p.6 を参照に流通と商業の概念をまとめること。
第 3 回	流通機能の役割について学ぶ	事前学習	p.23 の流通活動をみて現実の流通システムの概要をつかむこと。
		事後学習	現実の売買業、物的流通業、助成機能の担当企業について調べまとめること。
第 4 回	流通機構の仕組みについて学ぶ	事前学習	p.31 の流通機構の意義を読みまとめること。
		事後学習	p.38 の化粧品流通についてまとめること。
第 5 回	小売業の果たす役割について学ぶ	事前学習	p.68 を読み小売業の機能その概要をつかむこと。
		事後学習	p.69 を参照して小売業の特性をまとめること。
第 6 回	小売業にはスーパー、コンビニなどがあるその特徴について学ぶ	事前学習	pp.71~73 を読み百貨店、スーパーマーケットの特徴について調べる。
		事後学習	百貨店、スーパーマーケットの特徴についてまとめる。
第 7 回	ユニクロのビジネスについて学ぶ：ビデオ視聴	事前学習	ユニクロのHPを見てユニクロの企業概要を調べる。
		事後学習	ユニクロの流通の仕組みについてまとめる。
第 8 回	代理店、特約店などの卸売業について学ぶ	事前学習	代理店、特約店について調べる。
		事後学習	p.56 を読み卸売業の役割についてまとめる。
第 9 回	モノがどのように私たちの家庭に届くか、物的流通の仕組みについて学ぶ。	事前学習	p.95 を読み物的流通の意義についてまとめる。
		事後学習	クロネコヤマトの物流体制についてまとめる。

第 1 0 回	うその食品表示など消費者問題について学ぶ	事前学習	p.133 の図 1 から消費者と生活者の違いをまとめる。
		事後学習	p.182 を読み消費者問題についてまとめる。
第 1 1 回	私たちの生活を改善した消費者運動について学ぶ	事前学習	p.186 の図 1 をみて消費者問題発生メカニズムの概要をつかむ。
		事後学習	消費者基本法の目的をまとめること。
第 1 2 回	私たちの戦後経済の発展と暮らしと流通について学ぶ	事前学習	pp.139～143 を読んで経済発展と流通についてまとめること。
		事後学習	pp.194～202 を読んで消費者問題の経過をまとめること。
第 1 3 回	流通革命について学ぶ	事前学習	p.150 の図から日本の流通革命についてまとめること。
		事後学習	1960 年代と 1990 年代の流通革命の違いについてまとめること。
第 1 4 回	魅力ある商店街にするための方策について学ぶ	事前学習	p.171 を参照して商店街不振の理由をまとめること。
		事後学習	身近な商店街を見学してその現状をまとめること。
第 1 5 回	まとめと課題	事前学習	なぜ消費者問題が発生するかまとめること。
		事後学習	これまでの学習を振り返り消費動向と企業関係をミクロ経済の視点からまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	経営学 (非営利組織の経営含む) (2 単位)		3. 科目番号	SBMP1119
2. 授業担当教員	城田吉孝			
4. 授業形態	講義、グループワーク、グループディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、企業の活動における基礎的な諸概念、経営学用語、原理などの初歩を体系的に学ぶことによって、経営学の基本を身につけることを目的としている。そのために、経営学の学問的な性質、企業・経営の概念、経営管理、企業経営の内容、現代の経営学の役割など、各理論の概要の初歩を説明する。講義が抽象的にならないように、なるべく具体例を用いながら講義を進め、理論と実例の両側面から説明を展開していく。また、グループワークやグループディスカッションを通じて、受講者の主体的な参加によって、理解向上をはかる。			
8. 学習目標	1. 企業経営に関する基礎的知識を習得し、説明できるようになる。 2. 経営各分野について基礎的知識を習得し、専門科目履修時の理解力を向上させる。 3. 現代企業や団体の経営課題を把握し、課題解決の取り組み方法を選択できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 会社の組織を調べてみよう。 2. 会社の社会的責任活動 (CSR) を調べてみよう。 3. 愛知県の総合病院の一覧から、1つ病院を選択して、病院理念・ビジョンを調べてみよう。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 一般社団法人日本経営協会監修『経営学検定試験公式テキスト①経営学の基本』中央経済社、2015。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度・意欲 20% 課題レポート 30% 期末試験 50%			
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は、下記のことを守ること。 ①授業には欠席、遅刻、早退はしないこと (欠席、遅刻、早退の場合は、その理由を書面にて提出のこと)。 ②授業中理解できなかったことは、そのまま放っておかず質問すること。 ③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチは切っておくこと。 ④授業中は緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 ⑤課題の提出期限を厳守すること。			
13. オフィスアワー	第 1 回の授業時に伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	第 1 部：第 1 章 企業と経営		事前学習	p.3 と p.11 を読んでポイントをまとめること。
	第 2 章 企業・会社の概念と諸形態		事後学習	pp.14～20 の会社の種類をまとめること。
第 2 回	第 3 章 所有・経営と経営目的		事前学習	p.30 の経営者型企業と経営目的を読みまとめること。
	第 4 章 コーポレートガバナンス		事後学習	p.33 の会社機関とコーポレート・ガバナンスについてまとめること。
第 3 回	第 5 章 日本型企業システム		事前学習	p.50 の日本型企業システムの特徴を読みまとめること。
			事後学習	p.50 の日本型企業統治についてまとめること。
第 4 回	第 2 部：第 1 章 経営戦略の体系		事前学習	p.63 を読み経営戦略の系譜をまとめること。
	第 2 章 全社戦略		事後学習	p.76 の全社戦略の特徴をまとめること。
第 5 回	第 3 章 事業戦略		事前学習	p.104 を読み事業戦略の要点をまとめること。
	第 4 章 機能別戦略		事後学習	p.116 の機能別戦略をまとめること。
第 6 回	第 3 部：第 1 章 組織の理論		事前学習	p.129 を読み伝統的組織論をまとめること。
	第 2 章 経営組織の形態		事後学習	p.154 のラインアンドスタッフ組織について要点をまとめること。
第 7 回	第 3 章 企業組織の諸形態		事前学習	pp.173～175 を読みカンパニー制組織と持ち株会社組織の要点をまとめること。
	第 4 章 組織の制度・文化		事後学習	p.134 の組織文化についてまとめること。
第 8 回	第 4 部：第 1 章 経営管理の基礎		事前学習	pp.196～200 を読みホーソン実験についてまとめること。
	第 2 章 マネジメントの階層とプロセス		事後学習	pp.229～233 の P D C A サイクルをまとめること。
第 9 回	第 3 章 経営計画		事前学習	p.238 を読み経営計画の種類をまとめること。
	第 4 章 コントロール		事後学習	p.249 の自己統制についてまとめること。
第 10 回	第 5 部：第 1 章 M&A と買収防衛策		事前学習	p.254 を読み M&A の目的についてまとめること。
	第 2 章 経営のグローバル化		事後学習	pp.268～270 の経営の国際化についてまとめること。
第 11 回	第 3 章 企業経営と情報化		事前学習	p.280 を読み企業経営における情報化をまとめること。

		事後学習	p.288 の IT 革命の経営的意義についてまとめること。
第 1 2 回	第 4 章 企業の社会的責任	事前学習	p.292 を読み社会的責任の概念をまとめること。
		事後学習	pp.297～302 の企業倫理の制度化について要点をまとめること。
第 1 3 回	第 5 章 環境経営	事前学習	p.304 を読み地球環境問題についてまとめること。
		事後学習	p.311 の環境ビジネスについてまとめること。
第 1 4 回	現代の経営問題	事前学習	新聞記事から経営問題を選び要点をまとめること。
		事後学習	問題点をまとめること。(例：東芝の問題点)
第 1 5 回	まとめと課題	事前学習	日本型経営について要点をまとめる。
		事後学習	経営学の対象についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	経営管理論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3112
2. 授業担当教員	岡田 広司			
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答など		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本講義では組織の管理についての解説を行い、経営管理の理論的な部分に関して初歩的な理解を促すことが目的である。そのために、まずは、代表的な経営学説を学ぶことから始める。</p> <p>講義の流れとしては、経営管理の全体を把握するため、経営学の誕生、近代組織における経営管理の登場とその発展について学習する。変革する経営管理について、組織の活性化、モチベーション及び経営のリーダーシップについて学習を進める。</p> <p>また、経営の創始者としてのテイラーや管理原則を展開したファヨールの議論などを紹介する。最終的には人事労務管理論や財務管理論へと議論を展開して、経営管理の全体像を把握できるようにする。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 企業はもちろん病院・学校・公共団体などをはじめ家庭・個人にいたるまで経営管理能力が必要とされている。組織の経営管理活動の過去・現在・未来を理解できるようにする。</p> <p>2. 社会で要求される管理能力の基礎を身に付けると共に、行動案を立案できるようにする。</p> <p>3. 自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>定期的なアサイメントについては特に課さない。しかし、学習に必要な場合はレポートを課す。また、授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 塩次清代明・高橋伸夫・小林敏男著『有斐閣アルマ、経営管理〔新版〕』有斐閣、2011。</p> <p>【参考書】 岡田広司編著『現代経営学講座、戦略的イノベーション経営の潮流』あるむ、2007。 岡田広司著『現代経営学基礎講座、商品開発とビジネス戦略』あるむ、2005。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>1 授業への積極的参加度 40%</p> <p>2 確認テスト 20%</p> <p>3 課題レポート提出 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>あらゆる人は何らかの組織に所属している。組織の活動は経営管理の知識が必要である。また、経営管理の学習は、未来の自分の人生の目標を定めその生き方を方向付ける試みができ、セルフマネジメント手法を学ぶことにもつながる。</p> <p>担当教員は新事業のリーダーとして、長年企業で多くの新製品の開発とその事業化のための経営管理を進めた。その研究と実務経験を生かして、医療・福祉・介護などの組織の経営管理へ活用するための研究・学習を皆さんと共に討議を重ねながら追求していく。</p>			
13. オフィスアワー	授業の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 経営管理の概念	事前学習	テキストの著者の考え方、を知る上で、「はしがき」(pp.1~6)の内容を読みまとめる。	
		事後学習	経営管理の概要を聴いたうえで、経営体の経営管理について自分の考えをまとめて提出。	
第 2 回	経営の誕生、資本主義経済の発展と経営管理の形成人と社会システム、組織的な経済活動・公共的な経済活動	事前学習	テキスト序章 (pp.6~12) を読んでまとめる。また、関心のある企業について調べる。	
		事後学習	テキストにある日本の会社と、各自が関心のある会社を比較し、その違いなどをまとめる。	
第 3 回	管理の生成と発展、専門経営管理と組織能力近代的組織の登場、所有と支配の分離	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.16~41) をまとめる。	
		事後学習	専門経営者の台頭、経営管理論の始祖ファヨールを中心に管理の必要性をまとめる。	
第 4 回	経営管理の発展生産性と創造性の探究として経営管理論	事前学習	テキスト第 2 章前半 (pp.42~47) を熟読し、テイラーの科学的管理法をまとめる。	
		事後学習	経営管路の発展、経営管理論の系統図を理解しまとめ、現代企業との比較をする。	
第 5 回	経営管理の諸理論資本主義と企業組織の発展、経営管理の生成	事前学習	テキスト第 2 章後半 (pp.48~62) を熟読し、まとめ、諸理論の流れをつかんでおく。	
		事後学習	科学的管理法、サイモンの意思決定論を中心に内容をまとめる。	
第 6 回	経営管理の諸理論科学的管理法と大量生産方式、コンティンジェンシー理論	事前学習	人間関係論誕生につながるホーソン実験をよく理解し、その内容をまとめる。	
		事後学習	人の管理から組織の理論の流れをまとめる。	
第 7 回	組織のデザイン、環境適応へ向けての構造設計機能別組織管理と管理諸原則、ファヨールの貢献	事前学習	テキスト第 3 章の pp.64~71 を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	経営管理におけるファヨールの貢献、機能別組織のデザインについてまとめる。	
第 8 回	事業別組織の経営管理、部門管理の標準化事業部制組織の設計理念およびメリットとデメリット	事前学習	テキスト第 3 章 pp.71~76 を熟読しまとめる。	
		事後学習	新聞や雑誌などから事業部制をもつ企業を 1 社選択し、学習内容と比較検討しまとめる。	

第 9 回	日本型組織デザイン 組織のヨコの連携、競争優位の確立に向けて	事前学習	テキスト第 3 章 pp.76～89 を熟読するとともに、関心のある企業の組織図を記録しておく。
		事後学習	日本型組織の新しい展開という視点でまとめ、理解を深める。
第 10 回	経営戦略、組織経営の指針 戦略と組織の適合性、企業ドメインの策定	事前学習	テキスト第 4 章 pp.90～96 を熟読しまとめる。
		事後学習	戦略的思考、成長ベクトル、SWOT 分析をまとめ、理解を深めておく。
第 11 回	競争戦略、戦略的事業単位の経営管理 ポーターの競争戦略理論	事前学習	テキスト第 4 章 pp.96～112 を熟読しまとめる。
		事後学習	企業の競争戦略事例を取り上げ、PPM 分析に適応・考察してまとめ、理解を深める。
第 12 回	組織資源の管理 伝統的資源管理、情報資源の蓄積と利用、組織風土の適性	事前学習	テキスト第 5 章 pp.115～136 を読み、企業の伝統的な経営資源と新潮流について把握する。
		事後学習	経営資源管理から日本型社内ネットワークへの発展と組織風土の関係を中心にまとめる。
第 13 回	組織間関係の管理、戦略的提携に向けての基礎 日本における組織間関係、戦略的提携のロジック	事前学習	テキスト第 6 章 pp.138～160 を読み、これまでの組織間関係の事例をまとめる。
		事後学習	なぜ企業間連携をするのか、戦略的提携ロジックを中心にまとめ、理解を深める。
第 14 回	変革の経営管理、組織を支える人的要因 人間関係論と行動科学、組織開発と組織活性化	事前学習	テキスト第 7 章 pp.164～184 を読み、経営管理と人的資源の関係を理解する。
		事後学習	新しい時代に相応しい変革の経営管理と組織の活性化を中心にまとめる。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	経営の誕生から始まったこの学習の内容を再確認し、疑問点や問題点をまとめる。
		事後学習	この学習で理解した経営管理のあり方をまとめると共に、関心ある企業などを取り上げて理論と実践との差異などを比較しまとめる。

1. 科目名 (単位数)	経営戦略論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP3117
2. 授業担当教員	城田 吉孝		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、などを併用し、期末に試験を行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「経営組織論」や「マーケティング論」も履修することが望ましい。		
7. 講義概要	IT 化の進展によって、現在の経営はより高度化し、流動的になっている。そのような状況を考えると、企業の経営戦略について、包括的・体系的に学ぶ意義は大きい。企業経営では、経営の再評価の継続が求められるが、その際の経営方針決定の連続が経営戦略といえる。本講義においては、既存あるいは潜在的な競合他社との経営戦略について、製品戦略、事業戦略、全社戦略の側面から勉強を進める。なお、履修者は日々の会社経営について関心を持ちながら受講することが望ましい。		
8. 学習目標	1、企業を取り巻く経営環境を把握する。 2、その環境への適合方法、すなわち戦略を策定する。 3、戦略を実行するのに最適な経営組織を編成する。 4、戦略を実行し、結果を評価する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. ユニクロとしまむらの経営者の比較をしてみよう。 2. ユニクロのビジネスモデルについて調べてみよう。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求 新版』有斐閣、2006。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・意欲 20% 課題レポート 30% 期末試験 50%		
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は、下記のことを守ること。 ①授業には欠席、遅刻、早退はしないこと (欠席、遅刻、早退の場合は、その理由を書面にて提出のこと)。 ②授業中理解できなかったことは、そのまま放っておかず質問すること。 ③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話の電源は切っておくこと。 ④授業中は緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 ⑤課題の提出期限を厳守すること。		
13. オフィスアワー	第 1 回の授業時に伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	第 1 章 経営戦略の意義・研究の流れ	事前学習	p.1 の経営戦略の意義についてまとめること。
		事後学習	p.6 の経営戦略の研究の流れを読みまとめること。
第 2 回	第 1 章 経営戦略の内容・経営戦略の要件	事前学習	p.13 の経営戦略の内容を読みまとめること。
		事後学習	p.21 の経営戦略の要件をまとめること。
第 3 回	第 2 章 事業領域の定義	事前学習	p.31 の企業ドメインを読みまとめること。
		事後学習	p.44 の事業ドメインの定義についてまとめること。
第 4 回	第 3 章 戦略の策定：企業戦略の策定、事業戦略の策定	事前学習	p.61 の企業戦略の策定を読みまとめること。
		事後学習	p.67 を読み事業戦略の策定のいついてまとめること。
第 5 回	第 3 章 戦略の策定：外部環境と経営資源の分析	事前学習	p.70 の企業戦略の策定を読みまとめること。
		事後学習	p.79 の経営資源の分析についてまとめること。
第 6 回	第 4 章 競争戦略：セグメンテーション、競争の基本戦略	事前学習	p.99 のセグメンテーションを読みまとめること。
		事後学習	p.106 の競争の基本戦略をまとめること。
第 7 回	第 4 章 競争戦略：競争・攻撃の戦略	事前学習	p.113 のよい競争業者を読みまとめること。
		事後学習	p.115 の攻撃の戦略をまとめること。
第 8 回	第 5 章 新規事業創造の戦略	事前学習	p.137 の新規事業の戦略を読みまとめること。
		事後学習	3M の社内ベンチャーとポストイットの開発をまとめること。
第 9 回	第 6 章 成長の戦略	事前学習	p.181 の経営資源の突出を読みまとめること。
		事後学習	p.187 のリスクマネジメントについてまとめること。
第 10 回	第 7 章 ネットワーク戦略	事前学習	p.201 の垂直型ネットワーク組織を読みまとめる。
		事後学習	p.210 の関係性マーケティングとコラボレーション戦略をまとめること。
第 11 回	第 8 章 グローバル戦略	事前学習	p.233 のグローバル戦略と経営環境を読みまとめること。
		事後学習	p.255 のグローバル戦略の変化をまとめる。

第 1 2 回	第 8 章 グローバル戦略：ユニクロの事例	事前学習	HPを見てユニクロの企業概要をまとめる。
		事後学習	NHKビデオ：成長か死を見てユニクロのグローバル展開をまとめる。
第 1 3 回	第 9 章 地域企業の戦略	事前学習	p.269の地域企業の戦略的特徴を読みまとめること。
		事後学習	p.277のグローバル時代における地域企業の戦略をまとめること。
第 1 4 回	第 1 0 章 経営戦略と社会	事前学習	p.298の企業社会的責任とCSRを読みまとめる。
		事後学習	p.310の企業ガバナンスをまとめること。
第 1 5 回	経営戦略 まとめと今後の課題	事前学習	東芝のガバナンスについて調べる。
		事後学習	経営戦略の基礎的課題をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	経営組織論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3114
2. 授業担当教員	岡田 広司			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション(学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等)を伴ったものにする。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>企業・学校・病院など、多数の人間から構成される組織を運営するためには、これらの組織を合理的、効率的な「一つの組織」として運営する必要がある。経営組織論は、社会の基礎的構成要素としての組織を対象として、その行動やメカニズムの解明を基礎的課題とした学問領域である。</p> <p>私たちは常に組織との相互作用の中にあり、そして取り巻く組織は常に変化しながら、行動の制約や発展・成長を私たちに与えたり、逆に私たちがより良い組織や機能を提供したりしている。この講義では、この組織の機能に着目して、組織論的課題解決手法を探索する。そして、効率的に運営される組織とは何かという観点から課題を提起し、ディスカッションを通じて課題解決に取り組む。</p> <p>この講義は、科目の性質上、経営管理論や経営戦略論等の関連科目の基礎的知識も必要となる応用科目となるので、これまで学習してきた経営学に関する知識をしっかりと復習しておくことが必要である。また、必要に応じて、適宜解説を加える。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営組織論を構成する理論の概要と具体的事例の内容を理解し、説明することができる。 2. 経営組織を取り巻く経営環境を理解し、その環境への適合方法及び戦略を考察し、立案できるようになる。 3. 経営戦略を実行するのに最適な経営組織のあり方を提起し、戦略的思考を理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	定期的なアサイメントについては、特に課さない。しかし、授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。また、前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 稲葉祐之他著『キャリアで語る 経営組織』有斐閣、2012。</p> <p>【参考書】 岡田広司編著『現代経営学講座、戦略的イノベーション経営の潮流』あるむ、2008。 岡田広司著『現代経営学基礎講座、商品開発とビジネス戦略』あるむ、2005。 桑田耕太郎・田尾雅夫著『組織論』有斐閣アルマ、2012。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加度 総合点の40% 2 確認テスト 総合点の20% 3 課題レポート提出 総合点の40% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>あらゆる人は何らかの組織に所属する。組織の活動には、経営戦略、経営管理の知識が必要である。また、経営組織の学習は、変化する社会のあり方を考察し、未来の自分の人生の目標を定めその生き方を方向付ける試みができ、セルフマネジメント手法を学ぶことにもつながる。</p> <p>担当教員は新事業のリーダーとして、長年企業で多くの新製品の開発とその事業化のための経営組織の研究を進めた。その事例の一つに世界初の通信カラオケの事業化がある。事業を成功するにはそれに相応しい経営組織や経営戦略がある。これらの研究や実務経験を生かして、医療・福祉・介護などの経営組織論の研究・学習を皆さんと共に討議を重ねながら追求して行く。</p>			
13. オフィスアワー	授業の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション(講義概要の説明) 経営組織論の概念	事前学習	テキストの著者の考え方を知る上で、「はしがき」(pp.1~7)を読み、理解する。参考書などを調べて、経営組織論の持つ意味をまとめる。	
		事後学習	オリエンテーションによって得た、経営組織論についての自分の考えをまとめ提出。	
第2回	個人の欲求と組織の目的 人間の欲求と行動、 組織・企業のあり方と価値	事前学習	テキスト第1章 pp.7~13を読んでまとめる。また、関心のある企業を取り上げ、事業内容会社組織体制などについてまとめる。	
		事後学習	テキストを通して学んだ人間の欲求と組織の行動との関係についてまとめる。	
第3回	付加価値を生むプロセス 経営資源、 組織で働くことと個人で働くこと	事前学習	テキスト第1章の pp.13~26 を熟読し、内容をまとめる。	
		事後学習	当該学習を通して、付加価値とは何か、それを生むプロセス、人的資源の重要性、組織で働くことの意義をまとめる。	
第4回	組織社会科と組織社会プロセス 組織社会化、 組織文化とは何か、 組織文化の機能	事前学習	テキスト第2章 pp.27~57 を読んで、組織社会化とは何かについて考察しまとめる。	
		事後学習	組織文化が企業活動のなかでどう機能するのかまとめ、企業の実態と比較考察する。	
第5回	組織と仕事への順応化、モチベーションと規則 人材教育、 仕事に対する欲求、 内発的動機付け	事前学習	テキスト第3章 pp.59~88 を読み、モチベーション、人材育成などを中心にまとめる。	
		事後学習	仕事に対する意欲、モチベーションと組織とのつながりを中心に内容をまとめる。	
第6回	人事異動、 会社のなかでのキャリア開発 組織の人事管理、 個人のキャリアマネジメント	事前学習	テキスト第4章 pp.89~114 を読んで、自分なりに適材適所に関する考え方をまとめる。	

		事後学習	この学習を通して、組織と個人の関係についてまとめ、経営組織について理解を深める。
第 7 回	リーダーシップ、リーダーシップの意義 優れたリーダー行動と権限委譲、状況適応理論	事前学習	テキスト第 5 章の pp.117~143 を読み、リーダーシップの重要性についてまとめる。
		事後学習	優れたリーダーシップとはどういうものかという視点から、事前学習での考察を再度見直し、まとめる。
第 8 回	集団組織のダイナミズム、意思決定のプロセス 集団組織の意思決定と個人の意思決定のメリット	事前学習	テキスト第 6 章 pp.145~163 を熟読し、内容をまとめる。
		事後学習	組織活動のなかで最も重要なテーマの一つである意思決定について、過去の事例を加えながらまとめる。
第 9 回	意思決定のごみ箱モデル、集団の失敗 グループ・シンク、グループシフト	事前学習	テキスト第 6 章 pp.163~174 を熟読するとともに、集団の圧力について考察する。
		事後学習	学習をもとに、集団が誤った意思決定をした事例をまとめ、考察力を深める。
第 10 回	コンフリクト・マネジメント コンフリクトのプロセス、ダイバシティ・マネジメント	事前学習	テキスト第 7 章 pp.177~208 を熟読しまとめ、コンフリクトについての予備知識を得る。
		事後学習	学習成果を応用して、コンフリクトの無い集団はあるのか、という視点からまとめる。
第 11 回	組織デザイン 組織における分業、分業されたタスクの調整方法	事前学習	テキスト第 8 章 pp.211~240 を熟読し、組織デザインについての内容をまとめる。
		事後学習	組織における分業について、事例を取り上げ適応・考察してまとめ、理解を深める。
第 12 回	ヒエラルキーの設計 機能別組織と事業部制組織、グルーピングの基本	事前学習	テキスト第 8 章 pp.241~255 を読み、企業の伝統的なヒエラルキーをまとめる。
		事後学習	機能別組織から事業部制組織に発展した企業事例を取り上げて、まとめることで理解を深める。
第 13 回	環境のマネジメント 制度・市場・利害者集団と組織、利害者集団との関係	事前学習	テキスト第 9 章 pp.256~270 を読み、利害者集団を中心にまとめる。
		事後学習	利害者集団とのつながりがいかに重要かという視点を中心に学習内容をまとめ、企業活動への理解を深める。
第 14 回	組織変革とトップの役割 経営理念とビジネスシステム、企業の社会的責任	事前学習	テキスト第 10 章 pp.273~305 を読みまとめる。組織の変革という概念を理解する。
		事後学習	明確なる経営理念とリーダーシップのもとで変革するビジネスシステムという視点で学習内容をまとめ、創造・思考力を高める。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	会社という組織を通してキャリアの育成からはじまった当該学習の内容を再確認し、疑問点や問題点などをまとめる。
		事後学習	この学習で理解した経営組織のあり方をまとめると共に、関心ある企業などを取り上げて理論と実践との差異などを比較・考察する。

1. 科目名 (単位数)	経済学 (国際経済を含む) (2 単位)		3. 科目番号	GELA2318 GELA2118
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	講義、学生による発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目は、経済が動く仕組みがよく理解できるように、必要とされる経済学 (国際経済を含む) の基礎知識を体系的に得ることを目的のひとつとする。</p> <p>さらに、そうした基礎知識を「生きた知識」として活用させ、世界や日本国内で起こっている各種の経済問題やそこで活躍する企業や政府などについて理解することによって、分析するツールとして利用できるようになることが最終的な目的となる。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 経済現象の背後に貫徹する法則を説明できるようになる。</p> <p>2. 財政金融関係の基礎知識、企業経済・労働経済について学び、説明できるようになる。</p> <p>3. 国際経済・日本経済の歴史について、自らの意見をレポートにまとめ発表することができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 国の予算を調べてみよう。</p> <p>2. 戦後日本経済の歴史について整理してみよう。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 松村敏・玉井義浩共著『初めて学ぶ人のための経済入門』培風館、2013。			
11. 成績評価の方法	受講態度 20% 授業への積極的な参加 30% 期末試験 50%			
12. 受講生への メッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は、下記のことを守ること。</p> <p>①授業には欠席、遅刻、早退はしないこと (欠席、遅刻、早退の場合は、その理由を書面にて提出のこと)。</p> <p>②授業中理解できなかったことは、そのまま放っておかず質問すること。</p> <p>③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチは切っておくこと。</p> <p>④授業中は緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。</p> <p>⑤課題の提出期限を厳守すること。</p> <p>⑥自分の人生へどのように影響するかという観点から社会の大きな動きを見る習慣をつけて欲しい。</p>			
13. オフィスアワー	第 1 回の授業時に伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	第 1 章 経済学の役割	事前学習	pp.6~7 の財・サービスの市場、労働市場、資本市場を読みまとめること。	
		事後学習	3 種類の市場についてレポートにまとめる。	
第 2 回	第 2 章 市場のはたらき	事前学習	pp.13~14 を読み社会的分業についてまとめること。	
		事後学習	需要曲線と供給曲線についてまとめる。	
第 3 回	第 3 章 市場の限界	事前学習	pp.25~27 を読み市場の失敗についてまとめる。	
		事後学習	不完全競争、規模の経済、外部性、公共財についてレポートにまとめる。	
第 4 回	第 4 章 GDP とは何か	事前学習	p.34 の GDP とは何を示す値であるかまとめる。	
		事後学習	経済成長率と GDP 総額の推移をまとめる。	
第 5 回	第 5 章 景気指標について	事前学習	国内総生産についてまとめる。	
		事後学習	pp.49~50 を読み個人消費の特徴についてまとめる。	
第 6 回	第 6 章 財政	事前学習	p.56 の累進税率を読みまとめること。	
		事後学習	日本の租税体系についてレポートにまとめる。	
第 7 回	第 7 章 社会保障	事前学習	p.71 のモラル・ハザードを読みまとめること。	
		事後学習	保険原理と福祉原理についてまとめる。	
第 8 回	第 8 章 貨幣と金融の仕組み	事前学習	p.85 の信用創造機能についてまとめる。	
		事後学習	金融政策についてレポートにまとめる。	
第 9 回	第 9 章 企業の経済学	事前学習	pp.93~94 の有限責任を読みまとめる。	
		事後学習	株式会社の特徴についてまとめる。	
第 10 回	第 10 章 労働市場	事前学習	p.106 の労働市場を読みまとめること。	
		事後学習	失業と社会保障についてまとめる。	
第 11 回	第 11 章 国際経済	事前学習	pp.117~119 の日本貿易の特徴を読みまとめること。	
		事後学習	国際収支についてレポートにまとめる。	
第 12 回	第 12 章 戦後日本経済の歴史 (1): 成長の軌跡	事前学習	pp.140~146 の高度経済成長の特徴を読みまとめること。	
		事後学習	1955 年から 1970 年代初めまでの景気変動についてまとめる。	
第 13 回	第 13 章 戦後日本経済の歴史 (2): バブルとその後	事前学習	pp.151~152 のプラザ合意を読みまとめること。	
		事後学習	バブルの崩壊と長期不況についてまとめる。	
第 14 回	第 14 章 戦後世界経済・経済学 の歴史	事前学習	p.164 の国際通貨基金を読みまとめること。	
		事後学習	アダム・スミスについてまとめる。	
第 15 回	現代経済の課題	事前学習	経済学的なモノの見方についてまとめる。	
		事後学習	家庭・企業・政府の役割についてまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1301 GEHL1301 GEHL1101
2. 授業担当教員	春田 典三	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)		
6. 履修条件・ 他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しみながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	特記なし		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】必要に応じて随時資料を配布する。</p> <p>【参考書】大学生の健康スポーツ科学研究会編『大学生の健康・スポーツ科学 改訂版』道和書院、2007。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>積極的な授業態度 30%</p> <p>授業への貢献 30%</p> <p>実技試験 20%</p> <p>筆記試験 20%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技中心の授業のため、身体を動かしやすい服装で参加すること。(ジーンズ等禁止) 2. 欠席・遅刻・早退は原則厳禁。やむを得ない場合は、届を提出すること。 3. 企画・運営の際、仲間意識を高め、準備をしっかり行えるように努めること。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間、これ以外の時間については教務課に相談しアポイントを取ること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション <授業概要>	事前学習	シラバスを読み、授業内容を確認する。
		事後学習	授業内容の再確認をする。
第2回	卓球 ~基礎~	事前学習	基本的ルールを学習する。
		事後学習	授業の振り返りをして、基本を習得する。
第3回	卓球 ~応用~	事前学習	ダブルスについて学習する。
		事後学習	授業の振り返りをして、応用(ゲーム)のスキルを学ぶ。
第4回	バドミントン(屋外) ~基礎~	事前学習	基本的ルールを学習する。
		事後学習	ラリーをできるようにする。
第5回	バドミントン(屋外) ~応用~	事前学習	その他テクニックの事前学習。
		事後学習	授業の振り返りをして、テクニックを習得。
第6回	多項目運動(屋外) ~基礎~	事前学習	屋外で、できるスポーツを考える。
		事後学習	授業の振り返りをして、いろいろな運動法があることを知る。
第7回	レクリエーション ~Ⅰ~	事前学習	どのようなレクリエーションがあるのか考える。
		事後学習	授業の振り返りをして、レクリエーションの楽しさを知る。
第8回	レクリエーション ~Ⅱ~	事前学習	楽しめるレクリエーションを研究する。
		事後学習	授業の振り返りをして、アイディア一つで、楽しめるレクリエーションがあることを知る。
第9回	生活習慣と健康	事前学習	生活習慣の意味を考える。
		事後学習	生活習慣の重要性を知り、健康との関わりについて理解を深める。

第 1 0 回	生活習慣病～予防と対策～	事前学習	生活習慣病について調べる。
		事後学習	授業の振り返りをして、生活習慣と疾病との関わりについて理解する。
第 1 1 回	心と健康	事前学習	心と健康について考える。
		事後学習	授業の振り返りをして、心の在り方と、健康についての理解を深める。
第 1 2 回	ストレスと健康	事前学習	ストレスと健康の関わりについて考察する。
		事後学習	授業の振り返りをして、ストレスと健康についての関係を理解する。
第 1 3 回	有酸素運動と無酸素運動とは何かについて	事前学習	有酸素運動と無酸素運動について調べる。
		事後学習	授業の振り返りをして、有酸素と無酸素運動をそれぞれ理解する。
第 1 4 回	レジスタンストレーニング	事前学習	レジスタンストレーニングの意図を探る。
		事後学習	授業の振り返りをして、レジスタンストレーニングの目的を理解する。
第 1 5 回	スロトレ	事前学習	どのようなトレーニングなのかを探る。
		事後学習	授業の振り返りをして、スロトレの目的と効果を理解する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	健康心理学 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2345 PSMP3361 SBMP2345						
2. 授業担当教員	高橋 亜希		5. 開講学期	秋期						
4. 授業形態	講義、演習									
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	<p>健康心理学 (Health psychology) は、比較的新しい学問で、欧米では約 40~50 年、わが国では約 25 年の歴史がある。</p> <p>この学問の目的は、人間の「心と体」の健康の維持・増進、疾病の予防のために、心や体の健康を阻害する危険因子 (risk faction) を、bio-psycho-socio の 3 つの観点から発見し、それを防除することを目的とするものである。従来の心理学的研究方法を用いて様々なテーマを対象に研究を行うが、「疫学的」な研究方法も用いることもある。</p> <p>この学問は、いわゆる「研究」も行うが、最終的には、「実践」の学問であるといえる。すなわち、人間の心と体の健康のために役立つ具体的な「プログラム」を提示することが重要な課題であるといえる。</p>									
8. 学習目標	新しい学問としての、健康心理学の本質を理解し、自己の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、日常習慣をどのように改善すればよいか理解し、自分の考えを述べることができるようになる。									
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業中に1~2回程度のレポート提出を求める。 レポート課題「ストレス疾患」「健康リスク要因」などの中から課題を選択して提出する。									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 島井哲志・長田久雄・小玉正博編『健康心理学・入門—健康なこころ・身体・社会づくり』有斐閣、2009。</p> <p>【参考書】 森和代・茂木俊彦・石川利江編『よくわかる健康心理学』ミネルヴァ書房、2012</p>									
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、受講態度、課題レポートなどを総合して評価する</p> <table border="0"> <tr> <td>平常点 (授業態度・授業への積極的参加)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、75%以上の出席が確認できない場合は単位の修得は認められない。</p>				平常点 (授業態度・授業への積極的参加)	30%	課題レポート	30%	期末レポート	40%
平常点 (授業態度・授業への積極的参加)	30%									
課題レポート	30%									
期末レポート	40%									
12. 受講生への メッセージ	<p>健康心理学とは、心と体の健康を維持することに関する幅広い問題を取り扱うものである。私たち自身の生活をよりよくするための理論や技法、具体的な対処方法に関する知識を得ることができる。単なる学問的知識としてではなく、身近な知識として、興味を持って授業に臨んで欲しい。</p> <p>以下の点について講義では守って欲しい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に積極的に参加すること。積極的な姿勢を評価する。 2. 質問は講義内で受ける。わからないことはそのままにせず、質問すること。 3. 他の受講者の迷惑となる行為 (遅刻、不必要な私語、携帯電話等) はしないこと。 									
13. オフィスアワー	初回講義時にお伝えします									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション：本講義の目的、健康心理学とは	事前学習	健康心理学とは何か、基礎概念について調べてくる。							
		事後学習	健康心理学の中で自分が最も興味をもっていることについてまとめてくる。							
第2回	健康心理学の歴史	事前学習	健康心理学の歴史についてテキストを熟読してくる。							
		事後学習	健康心理学の歴史について考えたことや学んだことをまとめる。							
第3回	ストレスとは	事前学習	自分が考えるストレスについてまとめてくる。							
		事後学習	講義やテキストで理解できなかったところを書き出し、ポイントをまとめる。							
第4回	ストレスを測る	事前学習	現在、自分が感じているストレスは何か書き出してくる。							
		事後学習	講義で測った自分のストレス度について考えてくる。							
第5回	ストレス：ストレスの理論	事前学習	ストレス理論についてテキストを熟読してくる。							
		事後学習	ストレスの理論についてレポートを作成する。							
第6回	ストレス：心理学的モデル	事前学習	ストレス理論モデルについてテキストを熟読してくる。							
		事後学習	ストレス理論モデルについて疑問点を書き出してくる。							
第7回	ストレス：ストレス対処・ストレスマネジメント	事前学習	ストレス対処とストレスマネジメントについて調べる。							
		事後学習	自分が行っているストレスマネジメントについてまとめる。							

第 8 回	ストレス：ストレッサーと身体の関係	事前学習	ストレッサーと身体の関係についてテキストを熟読してくる。
		事後学習	ストレッサーと身体の関係について実例を挙げて説明できるようにする。
第 9 回	健康リスク要因：生活と健康	事前学習	健康リスク要因についてテキストを熟読してくる。
		事後学習	健康リスク要因について実例を挙げて説明できるようにする。
第 10 回	健康リスク要因：飲酒・喫煙	事前学習	飲酒・喫煙について自分の考えをまとめてくる。
		事後学習	飲酒・喫煙の健康リスクについて実例を挙げて説明できるようにする。
第 11 回	メンタルヘルス：アルコール依存症	事前学習	アルコール依存症について調べてくる。
		事後学習	アルコール依存症の予防・治療についてまとめる。
第 12 回	メンタルヘルス：アルコール依存症と家族	事前学習	アルコール依存症家族の特徴についてまとめてくる。
		事後学習	アルコール依存症家族の健康についてまとめる。
第 13 回	疾病治療と健康心理学的介入①悪性腫瘍（がん）と健康	事前学習	悪性腫瘍（がん）について調べてくる。
		事後学習	悪性腫瘍（がん）治療についてポイントをまとめる。
第 14 回	疾病治療と健康心理学的介入②ターミナルケア	事前学習	健康心理学におけるターミナルケアの役割について調べる。
		事後学習	ターミナルケアについて自分の考えをまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでに配布した講義資料を見直し、疑問点等をまとめておく。
		事後学習	期末レポートの作成を行う。

1. 科目名 (単位数)	言語学概論 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP1141
2. 授業担当教員	汪 宇			
4. 授業形態	講義・演習・討論・発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	言語には日本語も英語もあるが、どの言語にも共通したなんらかの性質がある。この講座は言語体系、言語能力、言語運用などといった言語学の分野でよく使われる用語を紹介したうえで、音、単語、文、意味、文化について考察を進め、ことばの普遍性と多様性を学習していく。			
8. 学習目標	1. どの言語にも応用できる言語学の基礎知識について説明できるようになる。 2. 言語学の基礎知識を日本語や母国語に当てはめ、自分で用例を挙げながら解釈できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回授業の始めに与えられた課題の発表で、内容導入を行う。 2. 毎回授業の終わりにワークシートを利用し、学習内容を確認する。 3. 研究テーマを9回目の授業前に提出し、方向性の確認後、研究を始め、14回目に発表を行う。その後、発表会での議論・コメントを踏まえ、自分の研究成果を最終レポートにまとめる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】黒田龍之助著『はじめての言語学』講談社現代新書、2004。 【参考書】授業中に紹介する。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度	30%		
	課題発表・ワークシート課題	40%		
	レポート	30%		
12. 受講生へのメッセージ	言語学という学問は、何をやっているのかわかりにくい学問かもしれない。この授業では、言語学はといった言語の何を研究しているかという言語学の基礎知識を学ぶことと、専門知識を日本語や母国語に応用することに力を入れる。応用することによって、言語学の醍醐味が分かるので、ぜひ楽しく勉強していきたい。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (授業概要の説明、自己紹介)	事前学習	言語学とは何かについて考えておく。	
		事後学習	教科書を通読し、希望の発表担当箇所を選ぶ。	
第2回	第1章「言語学をはじめる前に」言語学のイメージ、ストレス、ポイントについて	事前学習	教科書 pp.15~48 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第3回	第2章「言語学の考え方」目的、体系について	事前学習	教科書 pp.49~62 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第4回	第2章「言語学の考え方」二重分節について	事前学習	教科書 pp.63~86 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第5回	第3章「言語学の聴き方」巻舌音について	事前学習	教科書 pp.87~112 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第6回	第3章「言語学の聴き方」イントネーション、音声と音韻の違いについて	事前学習	教科書 pp.113~124 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第7回	第4章「言語学の捉え方」文法、形態素について	事前学習	教科書 pp.125~150 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第8回	第4章「言語学の捉え方」言語のしくみについて	事前学習	教科書 pp.151~166 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第9回	研究のテーマ提出、方向性の確認	事前学習	研究テーマを特定する。	
		事後学習	テーマを再確認し、研究計画を立てる。	
第10回	第5章「言語学の分け方」比較言語学について	事前学習	教科書 pp.167~186 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第11回	第5章「言語学の分け方」語族について	事前学習	教科書 pp.187~206 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第12回	第5章「言語学の分け方」方言について	事前学習	教科書 pp.207~218 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第13回	第6章「言語学の使い方」言葉の評価について	事前学習	教科書 pp.221~231 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第14回	プレゼンテーション、質疑応答、コメント	事前学習	プレゼンテーションに向け、リハーサルを行う。	
		事後学習	フィードバックを参考に、改善点を提案する。	
第15回	これまでの内容の振り返り、最終レポートの準備	事前学習	学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。	
		事後学習	テキストを復習し、最終レポートを作成する。	

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3101 SBMP3301 PSMP3401
2. 授業担当教員	卯尾 章			
4. 授業形態	講義・討議	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 ・成年後見制度と日常生活自立支援事業の相違点についてまとめ、利用者の視点で両制度の使い分けについて自身の意見を述べなさい。2000字程度。 随時小テストを実施する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の方法	授業態度	30%		
	小テスト	30%		
	レポート	40%		
12. 受講生への メッセージ	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として鋭い人権感覚を身につけておくことが重要である。また、成年後見制度利用の需要が増加しており、援助の専門家として法制度と実際の知識が必要である。 毎回の授業時、基本用語等について質問をするので、事前・事後の学習を必ず行っておくこと。 履修にあたっては、次のことを最低限守ってほしい。 1. 指定の教科書は、授業の際必ず持参してくること。 2. 別途配布する資料は、正しく整理して必ず保管しておくこと。 3. 授業中の私語や携帯電話は禁止する。			
13. オフィスアワー	授業時間の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要、権利擁護と成年後見制度の学び方)	事前学習	人権について考えておく。	
		事後学習	権利擁護について考えをまとめる。	
第 2 回	相談援助活動において想定される法律問題 日本国憲法の基本原理の理解	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 1 章第 2 節)	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。特に社会福祉基礎構造改革とのかかわりを把握しておく。	
第 3 回	行政法の理解 (行政事件訴訟、国家賠償法等)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 1 章第 3 節)	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。行政事件訴訟の類型についてまとめておく。	
第 4 回	民法の理解 (物件と債権、不法行為等)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 1 章第 4 節 1~6)	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。特に不法行為責任の種別を理解整理しておくこと。	
第 5 回	民法の理解 (親族法、相続法)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 1 章第 4 節 7・8)	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。	
第 6 回	成年後見の概要、保佐、補助の概要	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 2 章第 1 節~第 3 節)	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。後見、保佐、補助の違いを理解し整理しておく。	
第 7 回	成年後見の申立の流れ 任意後見制度、成年後見人等の義務	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 2 章第 4 節~第 6 節)	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。善管注意義務などの後見人、保佐人、補助人の義務と責任について整理しておく。	

第 8 回	成年後見制度の最近の動向と課題	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 2 章第 7 節)
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。
第 9 回	日常生活自立支援事業の概要	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 3 章)
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。成年後見制度との相違について整理しておく。
第 10 回	成年後見制度利用支援事業の概要	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 4 章)
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。
第 11 回	権利擁護にかかわる組織、団体の役割 (家庭裁判所、法務局、市町村等の役割)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 5 章)
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。各組織、団体の役割について整理しておく。
第 12 回	権利擁護にかかわる専門職の役割 (弁護士、司法書士等の役割、社会福祉士の活動の実際)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 6 章)
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。権利擁護の視点から見える各専門職の役割について整理しておく。
第 13 回	権利擁護活動の実際 (認知症を有する者への支援の実際、消費者被害を受けた者への対応の実際等)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 7 章)
		事後学習	感想文提出。
第 14 回	権利擁護活動の実際 (被虐待児への対応の実際、高齢者虐待への対応の実際、アルコール依存症への対応の実際)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 8 章第 1 節～第 3 節)
		事後学習	感想文提出。
第 15 回	権利擁護活動の実際 (非行少年への対応の実際、ホームレスへの対応の実際、多重問題重複ケースの実際)	事前学習	テキストを読んで、要点を整理しておく。 (第 8 章第 4 節～第 6 節)
		事後学習	感想文提出。 これまでの学習を振り返り、レジュメ等を整理し、今後の学習につなげる。

1. 科目名 (単位数)	更生保護 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP4301 SSMP4101 PSMP4401
2. 授業担当教員	前川 泰彦		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、途中確認テスト・小テストの併用、期末に試験を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び犯罪や非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉という自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中での働きかけ(処遇)を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、心神喪失等の状態で重大な犯罪を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の運用の実際と今後の展望等について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉との関連において必要とされる更生保護制度の基礎的知識について理解し、説明することができるようになる。 2 更生保護の組織を中心に、刑事司法・少年司法分野で犯罪前歴者等の支援活動に関与する組織、団体及び専門職について理解し、説明することができるようになる。 3 更生保護制度における関係機関・団体との連携のあり方について理解し、説明することができるようになる。 4 保護観察所が担う新たな役割として、福祉機関・団体などとの密接な連携の下に実施される被害者支援や医療観察制度について理解し、説明することができるようになる。 5 更生保護の運用の実際と今後の展望について考察し、自分の言葉で表明することができるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	中 間 班別事例研究を行い、その結果を班ごとに発表する。 期末レポート 「現在のわが国の更生保護制度の概要について記述せよ」2,000字程度		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 松本 勝編『更生保護入門 第4版』成文堂、2015。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 社会福祉士養成講座編集委員会編『更生保護制度 第二版』中央法規出版、2010。		
11. 成績評価の方法	受講態度 30% 演習 30% 期末レポート 40%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 日頃から新聞・テレビなどのマスメディアに関心をよせ、社会事象である犯罪や非行問題について考える習慣を身につけてほしい。 2 全員で授業に集中し、積極的に発言してより充実した授業内容にして、レポート作成により学んだことを自分のものにしていく方向で取り組んでいきたい。 		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(講義概要の説明) 更生保護制度の概要Ⅰ 刑事司法の中の更生保護	事前学習	テキスト pp.1~37 を精読。
		事後学習	刑事司法のチャート図の理解を深める。
第2回	更生保護制度の概要Ⅱ 仮釈放	事前学習	テキスト pp.38~55 を精読。
		事後学習	どのような場合に仮釈放が許されるかをノートにまとめる。
第3回	更生保護制度の概要Ⅲ 保護観察	事前学習	テキスト pp.63~76 を精読。
		事後学習	講義での保護観察の概要をノートにまとめる(特に種類と期間)。
第4回	更生保護制度の概要Ⅳ 生活環境の調整、更生緊急保護	事前学習	テキスト pp.56~62 及び pp.111~128 を精読。
		事後学習	更生緊急保護はどのような場合に行われるのかをノートにまとめる。
第5回	更生保護制度の概要Ⅴ 更生保護における犯罪被害者等施策	事前学習	テキスト pp.163~172 を精読。
		事後学習	犯罪被害者対策の概要をノートにまとめる。
第6回	更生保護制度の概要Ⅵ 恩赦、犯罪予防活動	事前学習	テキスト pp.151~162 及び pp.173~175 を精読。
		事後学習	自分の居住する地域での社会を明るくする運動の行事情報を収集する。
第7回	更生保護制度の担い手Ⅰ 保護観察官・保護司	事前学習	テキスト pp.77~110 を精読。
		事後学習	現在の保護観察の処遇方法の特色についてノートにまとめる。
第8回	更生保護制度の担い手Ⅱ 更生保護施設、民間協力者	事前学習	テキスト pp.129~150 を精読。
		事後学習	更生保護施設の問題点についてノートにまとめる。
第9回	更生保護制度における関係機関・団体との連携Ⅰ 裁判所、検察庁とのかかわり	事前学習	第1回で示したチャート図から裁判所・検察庁の役割を確認。
		事後学習	更生保護での処遇効果を高めるための方策についてノートにまとめる。
第10回	更生保護制度における関係機関・団体との連携	事前学習	テキスト pp.183~213 を精読。

	II 矯正施設、公共職業安定所、福祉事務所とのかわり	事後学習	更生保護での処遇効果を高めるための方策についてノートにまとめる。
第 1 1 回	医療観察制度の概要 I 医療観察法に基づく処遇制度の創設、生活環境の調査、生活環境の調整	事前学習	テキスト pp.214～220 を精読。
		事後学習	医療観察制度の意義についてノートにまとめる。
第 1 2 回	医療観察制度の概要 II 精神保健観察、関係機関との連携	事前学習	テキスト pp. 221～230 を精読。
		事後学習	社会復帰調整官の役割についてノートにまとめる。
第 1 3 回	更生保護の実際と今後の展望 I 保護観察官の業務の実際、社会復帰調整官の業務の実際	事前学習	社会福祉士・精神保健福祉士と更生保護の連携例を検討する。
		事後学習	保護観察官・社会復帰調整官の機能の違いをノートにまとめる。
第 1 4 回	更生保護の実際と今後の展望 II 更生保護の今後の展望	事前学習	自分の周りの更生保護活動の実例について情報収集。
		事後学習	更生保護活動を効果的に展開するための方策について考える。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	これまでの講義での疑問点等の抽出。
		事後学習	更生保護へ関心を持ち続けるための工夫をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2106
2. 授業担当教員	加藤 孝夫		SSMP2106
4. 授業形態	講義、グループ学習等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	SB/P 2 年次以上		
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業のなかで指示したレポート課題、視聴覚教材に対する感想文の提出を求める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『低所得者に対する支援と生活保護制度 (第 4 版)』中央法規出版、2014 年。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に臨む姿勢 (授業への参加度、集団論議の進行・内容) 30% ・課題とその発表 30% ・小テスト (最終講義のなかで行う) 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	貧困問題への理解は、すべての社会福祉制度・施策、技術・方法を考えるうえで基礎となるものである。貧困問題を特殊な人の特殊な問題ととらえずに、誰にでも起こり得る身近な問題としてとらえてほしい。社会福祉士国家試験対策の学びにとどまらず、雇用・労働政策との関係の中で貧困問題をとらえることのできる、社会科学的な視点をもった専門職を目指してほしい。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後に相談に応じる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 身近な問題としての「貧困」	事前学習	身近にある貧困問題を考える。
		事後学習	社会問題としての貧困問題を考える。
第 2 回	第 1 章 公的扶助の概念 公的扶助の概念・意義・役割 公的扶助制度の位置づけ	事前学習	第 1 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	雇用・労働施策、一般公共施策と社会保障・社会福祉の制度・施策の関係、社会福祉制度における公的扶助の位置づけの確認をしておく。
第 3 回	第 2 章 貧困・低所得者問題と社会的排除 貧困問題が発生するメカニズム 貧困問題が生活に与える影響	事前学習	第 2 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	貧困の概念について整理する。
第 4 回	第 3 章 公的扶助制度の歴史 海外の歴史	事前学習	第 3 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	貧困問題がどのように扱われてきたのかを理解しておく。
第 5 回	第 3 章 公的扶助制度の歴史 日本の歴史	事前学習	第 3 章第 2 節、第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	救貧制度の発展を理解しておくこと。
第 6 回	視聴覚教材視聴、グループワーク	事前学習	生活保護法の条文に目を通しておく。
		事後学習	講義の振り返りを行い、課題に感じた部分の学びを深めておく。
第 7 回	第 4 章 生活保護制度の仕組み 生活保護の目的、原理・原則	事前学習	第 4 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	生活保護法の内容を確認しておく。
第 8 回	第 5 章 最低生活保障水準と生活保護基準 生活保護基準の重要性	事前学習	第 5 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	生活保護基準が国民生活に与える影響について考える。

第 9 回	第 6 章 生活保護の動向 生活保護の今日の特徴	事前学習	第 6 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	最近の動向を確認し、その背景についても理解しておく。
第 10 回	第 7 章 低所得者対策の概要 各種制度・施策の概要	事前学習	第 7 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	生活困難者自立支援法の意義、役割について考えておく。
第 11 回	視聴覚教材視聴、グループワーク	事前学習	貧困問題、公的扶助、生活保護制度について、自分の考えをまとめ、説明できるようにしておく。
		事後学習	講義の振り返りを行い、課題に感じた部分の学びを深めておく。
第 12 回	第 8 章 生活保護の運営体制と関係組織 生活保護の実施主体と公的責任	事前学習	第 8 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	生活保護行政の実態とそれを取り巻く課題について理解を深めておく。
第 13 回	第 9 章 貧困・低所得者に対する相談援助活動 生活困窮者に対するソーシャルワークの実際	事前学習	第 9 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	生活困窮者支援に必要な視点・方法の振り返りを行う。
第 14 回	第 10 章 生活保護における自立支援 生活保護制度における自立概念	事前学習	第 10 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	社会福祉における「自立」のとらえ方を、生活保護制度における自立概念を通して考える。
第 15 回	小テスト 視聴覚教材視聴	事前学習	生活保護法の条文に目を通しておく。
		事後学習	半期を振り返り、自らの学習到達度を確認し、今後の学習につなげる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3442
2. 授業担当教員	水野 良治		SBMP3442
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>様々な社会的事象について関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることは、学校教育段階の教科である、社会科、地理歴史科、公民科の目的である。</p> <p>本科目では、公民科において指導すべき（学習指導要領に示される）教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解することを目指す。</p> <p>公民科指導法 I では、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、現代社会に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<p>1) 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び「現代社会」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2) 「現代社会」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができるようになる。</p> <p>3) 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、その実践と評価を通して相互に学び合いができるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アサイメント：次時の学習内容に関する教科書の該当部分を読み、ポイントや不明点を確認しておく。 ・レポート課題：講義の前半と後半の 2 回、提示されたレポート課題 (各 A4 1 枚) をまとめ提出する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文部科学省『高等学校学習指導要領解説・公民編 平成 22 年度 6 月』教育出版、2010、336 円 (税込)。</p> <p>佐々木毅他 8 名『教科書「現代社会」』東京書籍、2012。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007、2,310 円 (税込)。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1 2 回のレポート課題と提出物 総合点の約 70%</p> <p>2 授業への参加度 総合点の約 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「教師は授業で勝負する」とは、多くの教員の間で言われていることである。日々の指導に直接かかわる内容の学習でもある。しっかりと授業内容を理解して、具体的内容とその背後にある理論を自分のものとし、将来の教職で生かして行ってほしい。</p> <p>また、教室内での学習中のマナーを守り、積極的に授業に参加するとともに、併せて必要な自宅学習も確実に取り組んでほしい。</p>		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業全体の概要説明と授業中のルールの確認 高等学校学習指導要領「総則」における公民科の取扱い	事前学習	解説 pp.70~71,74~75 を読み、「公民」の学習に求められていることの概要をつかみ、意見発表できるようにする。
		事後学習	「公民」の学習に求められている役割について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 2 回	改訂の趣旨と公民科の目標 「現代社会」の科目の性格と目標	事前学習	解説 pp.1~8 を読み、改訂の趣旨、公民科の目標、「現代社会」の基本的性格と目標の概要とポイントは何か把握する。
		事後学習	改訂の趣旨と公民科の目標、「現代社会」の基本的性格及び目標について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 3 回	「現代社会」の内容① (1) 私たちの生きる社会	事前学習	解説 pp.8~10 を読み、併せて生徒用教科書では私たちの生きる社会についてどのような項目をどのように取り上げているか対比する。
		事後学習	「現代社会」の内容①「私たちの生きる社会」について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 4 回	「現代社会」の内容② (2) 現代社会と人間としての在り方生き方 ア 青年期と自己の形成	事前学習	解説 pp.10~12 を読み、併せて生徒用教科書では 青年期と自己の形成についてどのような項目をどのように取り上げているか対比する。
		事後学習	「現代社会」の内容②「青年期と自己の形成」について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 5 回	「現代社会」の内容③ (2) 現代社会と人間としての在り方生き方 イ 現代の民主政治と政治参加の意義 ウ 個人の尊重と法の支配	事前学習	解説 pp.12~15 を読み、併せて生徒用教科書では、現代の民主政治と政治参加の意義、個人の尊重と法の支配について、どのような項目をどのように取り上げているか対比する。

		事後学習	「現代社会」の内容③「現代の民主政治と政治参加の意義」「個人の尊重と法の支配」について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 6 回	「現代社会」の内容④ (2) 現代社会と人間としての在り方生き方 エ 現代の経済社会と経済活動のあり方 オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	事前学習	解説 pp.15～19 を読み、併せて生徒用教科書では、現代の経済社会と経済活動のあり方、国際社会の動向と日本の果たすべき役割についてどのような項目をどのように取り上げているか対比する。
		事後学習	「現代社会」の内容④「現代の経済社会と経済活動のあり方」「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 7 回	「現代社会」の内容⑤ (3) ともに生きる社会を目指して	事前学習	解説 pp.19～20 を読み、併せて生徒用教科書では「ともに生きる社会を目指して」についてどのような項目をどのように取り上げているか対比する。
		事後学習	「現代社会」の内容⑤「ともに生きる社会を目指して」について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 8 回	年間指導計画と指導案	事前学習	生徒用教科書「現代社会」を 2 単位で扱う場合の年間指導計画を立案する。
		事後学習	指導案作成について学習したポイントを整理し、自分で選んだテーマの指導案を立案してみる。
第 9 回	授業事例 「現代の民主政治と政治参加の意義*」 (*受講者が選んだテーマでも可) ① (教材研究)	事前学習	「現代の民主政治と政治参加の意義*」の指導内容を決める。
		事後学習	教材研究の結果明らかになった課題について整理するとともに授業展開の素案を立案する。
第 10 回	授業事例 「現代の民主政治と政治参加の意義*」 ② (指導案の作成)	事前学習	「現代の民主政治と政治参加の意義*」の指導案の素案を立案する。
		事後学習	「現代の民主政治と政治参加の意義*」の指導案を作成することで発見した課題を整理し、指導案を改訂する。
第 11 回	授業事例 「現代の民主政治と政治参加の意義*」 ③ (模擬授業)	事前学習	作成した指導案の再検討をし、模擬授業(教壇実習)の予行演習をする。
		事後学習	模擬授業の結果明らかになった課題を整理するとともに、その結果を指導案に反映させて修正する。
第 12 回	授業事例 「現代の経済社会と経済活動の在り方*」 (*受講者が選んだテーマでも可) ① (教材研究)	事前学習	「現代の経済社会と経済活動の在り方*」の指導内容を決める。
		事後学習	教材研究の結果明らかになった課題について整理するとともに授業展開の素案を立案する。
第 13 回	授業事例 「現代の経済社会と経済活動の在り方*」 ② (指導案の作成)	事前学習	「現代の経済社会と経済活動の在り方*」の指導案の素案を立案する。
		事後学習	「現代の経済社会と経済活動の在り方*」の指導案を作成することで発見した課題を整理し、指導案を改訂する。
第 14 回	授業事例 「現代の経済社会と経済活動の在り方*」 ③ (模擬授業)	事前学習	作成した指導案の再検討をし、模擬授業(教壇実習)の予行演習をする。
		事後学習	模擬授業の結果明らかになった課題を整理するとともに、その結果を指導案に反映させて修正する。
第 15 回	模擬授業の反省とまとめ	事前学習	意見交換できるように各自の模擬授業の結果を整理しておく。
		事後学習	模擬授業の実施及び意見交換で得られた貴重な体験や感想をまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3443 SBMP3443 SSMP3343
2. 授業担当教員	水野 良治		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>様々な社会的事象について関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることは、学校教育段階の教科である、社会科、地理歴史科、公民科の目的である。</p> <p>本科目では、公民科において指導すべき（学習指導要領に示される）教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解することを目指す。</p> <p>公民科指導法Ⅱでは、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、倫理・政治経済に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<p>1) 教科「公民科」のうち、科目「倫理」「政治経済」の意義と役割について説明することができる。</p> <p>2) 科目「倫理」「政治経済」の学習内容について説明することができる。</p> <p>3) 「公民科」授業の実践に必要な知識、技能について見通しを持ち、教員を目指すに当たった学習課題を設定することができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・アサイメント：次時の学習内容に関する教科書の該当部分を読み、ポイントや不明点を確認しておく。</p> <p>・レポート課題：「公民」と「政治・経済」のそれぞれについて学習指導案を作成し提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文部科学省『高等学校学習指導要領解説・公民編 平成 22 年度 6 月』教育出版、2008、336 円 (税込)。</p> <p>平木幸二郎他 7 名『教科書「倫理」』東京書籍、2013、435 円 (税込)。</p> <p>佐々木毅他 8 名『教科書「政治・経済」』東京書籍、2013、435 円 (税込)。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007、2,310 円 (税込)。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1 2 回のレポート課題と提出物 総合点の約 70%</p> <p>2 授業への参加度 総合点の約 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目は、高等学校の公民科教員となるためのものである。将来教員となるのにふさわしい学習態度で受講するよう期待している。学習する内容は、常に自分自身のありようと比較し、具体的場面を想像しながら理解するように努力してほしい。</p> <p>公民科「倫理」、「政治・経済」で学習したことを、自分の生活と関連付けて具体的に考えるよう心がけてほしい。</p>		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業全体の概要説明と授業中のルールの確認 学習指導要領改訂の背景	事前学習	現在の高校教育の課題について考え、意見発表できるようにする。
		事後学習	学習指導要領改訂の背景について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 2 回	「公民」改訂の要点及び「公民」の目標	事前学習	「公民」改訂の要点及び目標について概要をつかみ意見発表できるようにする。
		事後学習	「公民」改訂の要点、と目標について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 3 回	「倫理」の基本的性格及び目標	事前学習	「倫理」の基本的性格及び目標について概要をつかみ意見発表できるようにする。
		事後学習	「倫理」の基本的性格及び目標について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 4 回	「倫理」の内容① 「(1) 現代に生きる自己の課題」 「(2) 人間としての在り方生き方」	事前学習	「倫理」の内容 (前半) について、教科書ではどのような見出しで、どのような項目が取り上げられているか確認する。
		事後学習	「青年期の課題と自己形成*」を授業事例として取り上げる場合の授業で取り扱う内容を整理する。
第 5 回	「倫理」の内容② 「(3) 現代と倫理」	事前学習	「倫理」の内容 (後半) について、教科書と対照して確認する。
		事後学習	「青年期の課題と自己形成*」を授業事例として取り上げる場合の授業展開で留意することを整理する。
第 6 回	「政治・経済」の基本的性格及び目標	事前学習	「政治・経済」の基本的性格及び目標について概要をつかみ発問に答えられるようにする。

		事後学習	「政治・経済」の基本的性格及び目標について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 7 回	「政治・経済」の内容① 「(1) 現代の政治」 「(2) 現代の経済、 ア 現代経済の仕組みと特質」	事前学習	「政治・経済」の内容（前半）について、教科書ではどのような見出しで、どのような項目が取り上げられているか確認する。
		事後学習	「日本国憲法の基本原理*」を授業事例として取り上げる場合の授業で取り扱う内容を整理する。
第 8 回	「政治・経済」の内容② 「(2) 現代の経済、 イ 国民経済と国際経済」 「(3) 現代社会の諸課題」	事前学習	「政治・経済」の内容（後半）について、教科書と対照して確認する。
		事後学習	「日本国憲法の基本原理*」を授業事例として取り上げる場合の授業展開で留意することを整理する。
第 9 回	「指導計画の作成と指導上の配慮事項」	事前学習	指導計画を作成するときの注意点は何かについて意見交換できるようにする。
		事後学習	指導計画の作成と指導上の配慮事項について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	倫理「青年期の課題と自己形成*」の授業事例 （*受講者が選んだテーマでも可） ①（教材研究）	事前学習	「青年期の課題と自己形成*」の指導内容を決定する。
		事後学習	教材研究で明らかになった課題を整理し、どのように指導案に盛り込むか検討する。
第 11 回	倫理「青年期の課題と自己形成*」の授業事例 ②（指導案の作成）	事前学習	指導案の準備（素案作成）をする。
		事後学習	指導案作成で明らかになった課題について整理し、作成した指導案を再検討する。
第 12 回	倫理「青年期の課題と自己形成*」の授業事例について ③（模擬授業と指導案の検討）	事前学習	指導案を完成する。
		事後学習	模擬授業を実施して明らかになった課題を整理し、指導案の手直しをする。
第 13 回	政治・経済「日本国憲法の基本原理*」の授業事例 （*受講者が選んだテーマでも可） ①（教材研究）	事前学習	「日本国憲法の基本原理*」の指導内容を決定する。
		事後学習	教材研究で明らかになった課題を整理し、どのように指導案に盛り込むか検討する。
第 14 回	政治・経済「日本国憲法の基本原理*」の授業事例 ②（指導案の作成）	事前学習	指導案の準備（素案作成）をする。
		事後学習	指導案作成で明らかになった課題について整理し、作成した指導案を再検討する。
第 15 回	政治・経済「日本国憲法の基本原理*」の授業事例 ③（模擬授業と指導案の検討）	事前学習	指導案を完成する。
		事後学習	模擬授業を実施して明らかになった課題を整理し、指導案の手直しをする。

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1101 SBMP1301 PSMP1401
2. 授業担当教員	中野 一茂		
4. 授業形態	講義、グループレポート作成と発表、ディスカッション、小テスト	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	社会福祉原論、地域福祉論、ソーシャルワーク論等の関連科目の受講は望ましい。		
7. 講義概要	<p>人類の長年の願望だった長寿化社会の実現が先進国のみならず開発途上国でも見られる現象となった。現在日本は、少子高齢化の影響で人口の減少と介護人材の不足が社会問題となっており、社会が健全に発展するためには、少子・高齢社会的な現状の把握と問題の本質を理解し、ニーズに基づいた積極的な対応が必要である。</p> <p>本講義では、第 1 に、人口構造と世帯構成、高齢者の精神的・身体的状態、経済的状态など高齢者を取り巻く環境について理解を深める。第 2 に、高齢者福祉の発展過程として高齢者福祉制度の萌芽から老人福祉法、現在に至るまでの変化について検討する。第 3 に、支援が必要な虚弱高齢者、予防高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点などについて把握する。第 4 に、介護保険法に規定されている介護に関連する介護予防と各種サービス、ケアマネジメント、終末期ケアなど諸事項に関する法律について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域や選好する場所で生活し続けるためには、どのような政策や実践が必要であるかを地域で調査を実施し、社会に貢献できることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口学的特徴とライフサイクルの観点から高齢者の生活実態や世帯構成、経済的状況について理解を深める。 2. 高齢者福祉制度の仕組み、発展過程と課題について理解を深め、今後実現可能な政策とは何かを調査する。 3. 公的介護保険制度の現状と問題点について把握し、要介護高齢者の介護ニーズに適切に対応するために解決すべき課題を把握する。 4. 高齢者ニーズを満たす方法として、血縁関係のみならず地域ネットワークの在り方についても理解を深め、高齢者が社会参加を積極的にするためには、どのような環境づくりが必要であるか、調べる。 5. 終末期ケアの在り方 (人間観や倫理を含む) について理解し、高齢者が望む場所で最期を迎えるために、必要な政策と地域ネットワークのありがたを理解する。 6. 介護保険制度の仕組みについて理解を深め、介護サービス事業所の現状と問題点を調査し、改善策を把握する。 7. 相談援助活動において、要介護高齢者の人権を守るための成年後見制度など法制度の内容を理解し、成年後見制度が普及しない理由や問題点を把握する。 8. 本科目は、国家試験科目であり、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目指す。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に非定期的に小テストを実施する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 杉本敏夫・橋本有里子編、『学びを迫する高齢者福祉』保育出版社。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。 *授業中に適宜資料を配布する。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>出席率・態度評価 (4 回以上欠席は評価しない) が良好であることを前提に、欠席・遅刻・許可のない携帯電話作動・おしゃべりなどには、それぞれ 1 回につき 5 点減点とする。</p> <p>小テスト 20% 期末試験 80%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生に期待される学習態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で授業に参加することが望まれる。 2. 授業のための予習は必ずし、ノートを整理すること。 3. 理解できないことや疑問点がある場合は必ず質問すること。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではない。 4. 人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴すること。 5. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないこと。 6. レポート等の提出期限を厳守すること。提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点の対象とする。 7. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等、学習活動を妨げる行為は厳禁とする。 		
13. オフィスアワー	オフィスアワーは講義時間の前後で受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 高齢者・高齢化とは何か (1)	事前学習	高齢や老いの定義等について調べる。
		事後学習	高齢や老いの定義が自分の言葉で説明できるようにまとめる。
第 2 回	高齢者・高齢化とは何か (2)	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 3 回	高齢者の生活実態	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。

第 4 回	加齢・老化による福祉・介護ニーズ	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 5 回	第二次世界大戦前から老人福祉法制定まで	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 6 回	老人福祉法下における発展	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 7 回	平成の高齢者保健福祉(1)	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 8 回	平成の高齢者保健福祉(2)	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 9 回	高齢者保健福祉施策の理念の変化	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 10 回	老人福祉法	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 11 回	福祉関係の法制度(1)	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 12 回	福祉関係の法制度(2)	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 13 回	医療関係の法制度	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 14 回	移住・居住関係の法制度	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 15 回	まとめ	事前学習	テキストを用いてこれまで学習した知識の復習。
		事後学習	授業で提示したレジュメ資料の復習。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2301
2. 授業担当教員	瀧藤 雅博		
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠である。加えて子どもたちに国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語 (日本語) に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身に付けることが大切である。指導者が言語感覚・能力を培い、思考力・判断力・表現力を育成することが、感性や情緒をはぐくみ、人間形成や社会参加につながることを理解した上で、子どもたちの発達段階に応じた国語教育のあり方について学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>国語に対する関心を深め、思考力や想像力、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者自らが、日本語についての正しい知識を身に付ける必要がある。そのために、次のことを学習目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本語の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができる。 2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身に付けることができる。 3 「国語科」の教材としての「日本語」を考えることができるようになる。 4 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けて、これからの国語力や国語教育について考えることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメントは、随時単元のまとめについてのレポート課題を課す。 随時、小レポート (復習プリント) を課す。 期末課題：日本語の乱れについて、各自の観点で課題を見つけ2,000字程度で述べなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾編 著『図解日本語』三省堂、2006、2,100 円 (税込)。 その他、必要な資料は、その都度授業の中で配付します。 【参考書】東京福祉大学 編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2007、2,310 円 (税込)。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の受講態度、レポート等総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講態度 20% ・小レポート 小テスト 30% ・期末課題 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>最近、日本語の乱れ・ことばの乱れが問題となっている。日本語は、先祖代々われわれに受け継がれてきた貴重な財産であり、文化でもある。この授業を通して、日本語を見つめ直し、さらには日本語の良さを再認識する機会になればと願っている。</p> <p>国語科においても、「伝え合う力」の指導が重視されてきている。考えや立場の異なる相手と協同してコミュニケーションを行い、人間関係形成や合意形成を実現する能力・態度を育成していくことが重要になる。ここで大切になってくるのが、日本語 (国語) 力である。教師を目指すものとして、日本語の重要性の認識を深め、日本語に関する基礎的基本的教養を高めていってほしいと願っている。</p> <p>受講にあたって、下記のことに留意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業には真面目に参加し、積極的に質問・発言をすること。 2 私語や携帯電話 (メール等)、飲食等を慎むこと。 3 レポート等提出期限は必ず守ること。 4 遅刻や欠席をしないように。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。(事前に要望があれば、随時設定します。)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの確認をする。特に受講生へのメッセージ、小テストや期末課題について確認する。 「昨今、日本語に関して日頃気になっていること」について考えることを書いて提出する。	事前学習	テキスト pp.150～153 を熟読し、日本語についての意識を持つ。
		事後学習	昨今日本語で気になっていることを書いて提出する。
第 2 回	第 2 章第 1 節「音声と音韻」第 2 節「音節と音節構造」を読み、日本語の音声・音韻等についての基礎的な知識理解を図り、日本語の特徴を把握する。	事前学習	テキスト pp.12～25 を熟読し、音声・音韻について要点をまとめる。
		事後学習	日本語の音声・音韻音節構造について学習ノートにまとめる。
第 3 回	第 2 章第 3 節「アクセント」を読み、日本語のアクセントと方言、イントネーションとプロミネンスとの関連等について理解する。	事前学習	テキスト pp.25～39 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	日本語のアクセントとイントネーションについて学習ノートにまとめる。
第 4 回	第 3 章第 1 節「文字」第 2 節「漢字」を読み、文字の種類と漢字の変遷等、基礎知識の把握に努める。	事前学習	テキスト pp.40～50 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	文字の表記及び漢字の変遷について、学習ノートにまとめる。
第 5 回	第 3 章第 3 節「仮名」を読み、平仮名、片仮名の字源を理解するとともに、歴史的変遷やいろは歌について	事前学習	テキスト pp.51～57 を熟読し、要点をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	国語科指導法 (書写を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2311
2. 授業担当教員	瀧藤 雅博		
4. 授業形態	講義 演習 グループ討議 発表 実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	春期の「国語」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>国語科は全教科の基礎基本であり、中心的教科である。それゆえに、人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として、必須の知識・理解と実践力の基礎を育てるのがねらいである。そのために、学習指導要領の示す「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の3領域と書写を含む「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項を中心に、それぞれの各学年に応じた目標、内容及び指導法について理解と実践力を育てるようにする。</p> <p>特に、指導法に関しては単なる理解でなく、発表や討論、模擬授業等を通して指導技術の習得を図る。また、教材や学習活動の開発創造を大切にす意欲的態度を育てる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、日本の国語教育の全体像を理解し、その成果と課題について自分の考えをもつ。 2、小学校学習指導要領国語について概観し、目標や内容について説明できるようになる。 3、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導目標・内容について理解し、説明できるようになる。 4、小学校の具体的な国語教材を取り上げ、教材研究、指導案の作成、模擬授業などを行い、小学校国語科の学習指導の実際を体験的に身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメントは、随時指導案の提出及び模擬授業評価の提出を課す。</p> <p><期末課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、具体的な小学校の国語教科書から、各自、単元教材を選び、指導計画や指導案を作成して提出する。 2、自分が小学校教師として、実践したい国語の授業について、1,200字以上の文章にして提出する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田近洵一・塚田泰彦・大熊徹 編著『新版小学校国語科授業研究 第四版』教育出版、2009。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学 編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。</p> <p>その他、必要なプリントはその都度講義の中で配付します。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の受講態度、レポート等総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 20% ・小レポート 30% ・課題レポート 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>60年ぶりに改正された教育基本法を受け、改訂学習指導要領が新たに成立した。それにより、新国語科の役割やこれからの国語科授業の在り方にも、新たな取り組みが求められてくる。</p> <p>新国語科で特に重視しなければならない資質・能力は、各教科等の言語活動の充実を図るために、国語科は各教科の中核にあつて国語力を育成しなければならない重要な役割を担っている。</p> <p>今日、子供たちの国語科の学習に対する興味・関心は決して高いとは思えない。というより、「国語」嫌い、「国語」離れが増加しているのが現状である。日本語そのものへの関心を高めるとともに、言語活動への意識を活性化し、意欲をもって取り組ませるよう、指導者として「国語科」の指導法について模索していかなければならない。そのために、学生自身も自分自身の国語力を高めていくとともに、以下の点に留意して、良い指導者を目指し努力して欲しいと念じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業には誠実に参加し、お互いに力量を高めるよう積極的に討議・演習に取り組むこと。 ・レポート等の提出期限は必ず守ること。 ・質問・意見等、授業の中で解決できるよう努めること。 ・遅刻や欠席をしないようにすること。 ・授業中の携帯電話 (メール等) や私語、飲食を慎むこと。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。(事前に要望があれば、随時設定します。)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの確認をする。 講義概要の説明と期末レポート等の確認をする。 ・国語科の役割と国語科の構造について	事前学習	テキスト iii～v を熟読し、21世紀の国語教育についての概略をつかむ。
		事後学習	国語科の役割と構造について、学習内容をまとめる。
第2回	第1章 国語科の学習内容 ・現行の学習指導要領の要点について及び伝統的な言語文化に関する事項について	事前学習	現行の学習指導要領の国語編を、予め目を通しておく。
		事後学習	新旧の学習指導要領を比較し、新しく導入された箇所を確認する。(伝統的な言語文化について)
第3回	改訂学習指導要領 (国語) の目標、内容について、新旧比較対照表を読み、改訂のありようを理解し、疑問点や不明な点について話し合う。	事前学習	前時の新旧学習指導要領の比較対照表を再度読み、気がついたことをまとめる。
		事後学習	事前にまとめた内容をもとに、ディスカッションをし、学習指導要領改訂のありようをまとめて提出する。
第4回	第2章 学習指導の計画と評価 ・年間指導計画と単元ごとの指導計画について ・単元ごとの学習指導案の作成について	事前学習	テキスト pp.40～49 を熟読し、学習指導についての概略をつかむ。
		事後学習	国語科における年間指導計画及び学習指導案についてまとめる。

第 5 回	「話すこと・聞くこと」の指導について (協同的なコミュニケーションの育成) ・教科書教材にあたって、実際の指導法について理解し 実践意欲を育てる。	事前学習	テキスト pp.100～105 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	実際の国語教科書をもとに、学年を決め、「話す・聞く」の指導の展開についてまとめる。
第 6 回	「書くこと」の指導について(書く能力と書く態度の育成) ・教科書教材にあたって、実際の指導法について理解し、 実践意欲を育てる。	事前学習	テキスト pp.92～99 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	実際の国語教科書をもとに、学年を決め、「書くこと」の指導の展開についてまとめ提出する。
第 7 回	「読むこと」の指導について(読む能力と読書態度の育成) ・文学的文章の教材研究とその指導法について① ・教科書教材にあたって、実際の指導法について理解し 実践意欲を育てる。 (第一回)	事前学習	テキスト pp.32～39 を熟読し、教材研究「読むこと」の視点についてまとめる。
		事後学習	文学的文章「詩・物語文」の教材研究、指導法について、レポートにまとめて提出する。
第 8 回	「読むこと」の指導について(読む能力と読書態度の育成) ・文学的文章の教材研究とその指導法について② ・教科書教材にあたって、実際の指導法について理解し 実践意欲を育てる。 (第二回)	事前学習	テキスト pp.60～71 を熟読し、「ごんぎつね」の指導について考える。
		事後学習	実際の国語教科書「ごんぎつね」単元の授業展開について、グループで分担し、計画を立てる。
第 9 回	「読むこと」の指導について ・説明的文章の教材研究とその指導法について ・教科書教材にあたって、指導法の実際について理解し 実践意欲を育てる。	事前学習	テキスト pp.72～81 を熟読し、説明的文章の特徴について要点をまとめる。
		事後学習	説明的文章の教材研究、指導法について、レポートにまとめ提出する。
第 10 回	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導について ・教科書教材にあたって指導内容を整理するとともに、 実際の指導法について理解し、実践意欲を育てる。	事前学習	テキスト pp.106～113 を熟読し、伝統的な言語文化の意味についてまとめる。
		事後学習	グループごとに分担し、実際の教科書教材で、どのような取扱いがなされているかを話し合いまとめる。
第 11 回	「書写」の指導について(硬筆) ・各学年の指導内容を整理するとともに、教科書教材にあたって、 実際の指導法について理解し、実践意欲を育てる。	事前学習	国語科書写と芸術科書道の違いを把握し、書写指導の概略をつかむ。
		事後学習	硬筆書写における、姿勢・執筆・筆記具の扱い方等を理解し、実際の指導法を体感する。
第 12 回	「書写」の指導について(毛筆) ・各学年の指導内容を整理するとともに、教科書教材にあたって、 実際の指導法について理解し、実践意欲を育てる。	事前学習	小学校 3 年以上の教科書教材を提示し、実際の指導法について予め考えさせる。
		事後学習	書写の指導過程を考えさせ、「はらい」「曲がり」「そり」などの筆使いを学習し、毛筆で作品を完成する。
第 13 回	具体的な教材単元を選択し、実際に指導計画や指導案を作成する。 さらに、その指導案をもとに模擬授業を体験し、意見交換をする。 (第一回)	事前学習	文学的教材、4 年「ごんぎつね」の単元を、場面ごとにグループで分担し、指導案を作成する。
		事後学習	グループごとに模擬授業をし、意見交換、ディスカッションをし、その内容についてまとめる。
第 14 回	具体的な教材単元を選択し、実際に指導計画や指導案を作成する。 さらに、その指導案をもとに模擬授業を体験し、意見交換をする。 (第二回)	事前学習	説明的文章、4 年「ヤドカリとイソギンチャク」の単元をグループで分担し、指導案を作成する。
		事後学習	グループごとで模擬授業をし、意見交換、ディスカッションをし、その内容についてまとめ、提出する。
第 15 回	「国語科指導法」のまとめと評価	事前学習	課題レポート「自分が小学校教師として実践したい国語の授業について 1,200 字程度で述べなさい」について提出する。
		事後学習	提出されたレポートの要点を、各自発表させ、意見・感想を述べる。

1. 科目名 (単位数)	国際関係論 (国際法を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA3318
2. 授業担当教員	内藤 伊都子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	3年次以上		
7. 講義概要	<p>本科目は、国際政治や国際経済に関する諸問題について理解を深めることを目的とする。また、人権、国家主権や領土の問題など、国際法の考え方についても取り上げる。</p> <p>本科目では、国際関係論の全体を概観し、公務員試験や教員採用試験にも関連する内容も取り上げながら展開していく。</p>		
8. 学習目標	<p>1) 国際関係論における基本的な考え方、重要な概念について理解し説明できる。</p> <p>2) 国際社会における政治・経済動向について関心を持ち、諸問題について多面的に検討し思考することができるようになる。</p> <p>3) 国際社会における行動主体とその関係について理解できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。</p> <p>2 日頃から国際情勢に関するニュースに触れておくこと。</p> <p>3 国際関係を学ぶ意味について考えをまとめること。</p> <p>詳細については、講義内で指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。</p> <p>【参考書】 講義内で適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度・積極的な参加姿勢 20%</p> <p>グループワーク 20%</p> <p>小レポート 20%</p> <p>期末レポート 40%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国際協力や支援など国際的な活動に興味をもっていることが望ましい。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。</p> <p>自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。</p>		
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマ内容について把握しておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。
第2回	国際関係論の領域	事前学習	最近の国際的なニュースについて振り返っておく。
		事後学習	国際関係のとらえ方について整理し、学際性について確認しておく。
第3回	国際関係の歴史的展開	事前学習	国とはなにか、国民とはなにかについてそれぞれ自身の考えをまとめておく。
		事後学習	国際社会の成立について振り返り、整理しておく。
第4回	国際関係と政治	事前学習	政治に関する自身の知識情報について振り返っておく。
		事後学習	国際関係の政治的な歩みを振り返り、国際政治について整理しておく。
第5回	国際関係と経済	事前学習	経済に関する自身の知識情報について振り返っておく。
		事後学習	国際関係の経済的な歩みを振り返り、国際経済について整理しておく。
第6回	国際関係と法	事前学習	法に関する自身の知識情報について振り返っておく。
		事後学習	国際関係の法的な歩みを振り返り、国際法について整理しておく。
第7回	日本外交と国際交流	事前学習	日本と海外の交流について自身の知識情報を歴史的に振り返っておく。
		事後学習	戦後の日本外交や外交政策について整理しておく。
第8回	国際関係と組織 (1) 国際連合	事前学習	最近の国際ニュースに触れ、国際社会で活動する組織や集団の存在について把握しておく。
		事後学習	国連の組織や役割、その活動などについて確認しておく。

第 9 回	国際関係と組織（2）欧州連合ほか	事前学習	最近の国際ニュースに触れ、国際社会で活動する組織や集団の存在について把握しておく。
		事後学習	EU ほか扱った組織の活動や役割について整理しておく。
第 10 回	国際関係と組織（3）NGO、NPO など	事前学習	最近の国際ニュースに触れ、国際社会で活動する組織や集団の存在について把握しておく。
		事後学習	IGO と NGO の違いや NGO の活動や役割について整理しておく。
第 11 回	国際移民	事前学習	資料をもとに国際社会における人々の移動について把握しておく。
		事後学習	移入民や移出民、多文化主義などについて整理しておく。
第 12 回	国際関係における諸問題（1） 国際紛争、安全保障問題、人権問題など	事前学習	最近の国際ニュースに触れ、どのような問題が生じているか把握しておく。
		事後学習	扱った問題と日本との関係についてそれぞれ整理しておく。
第 13 回	国際関係における諸問題（2） 地球環境問題、南北問題など	事前学習	最近の国際ニュースに触れ、どのような問題が生じているか把握しておく。
		事後学習	扱った問題と日本との関係についてそれぞれ整理しておく。
第 14 回	国際社会と日本	事前学習	日本社会の特徴について自身の考えをまとめておく。
		事後学習	国際社会と日本の関係を確認し、相互の影響についてまとめておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について総復習をし、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	国際社会と日本 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1334 GELA1134
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループプレゼンテーション	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	1 年次以上			
7. 講義概要	「グローバル化」という言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、それは一体何を意味するのでしょうか。この授業では、国際社会の状況に関する事例を使用教材(教科書、随筆記事、映像等)を適宜用いて紹介し、それを基にグループ討議を行い、「グローバル化」が世界の人々に及ぼしている影響を多角的に学び、理解を深めます。また、学期を通して、世界各地で起こっている出来事と日本との関わりについても考察を深めていきます。			
8. 学習目標	1. 「グローバル化」がもたらしている影響について多角的な理解を深め、説明できる。 2. 「グローバル化」と日本の関わりについて多角的に考察し、自分の意見を言える。 3. 国際社会の一員として国際社会の今後の展望に関し自分の意見を言える。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 2 自身が所属する社会の特徴について分析する。 3 国際社会における日本の役割について考えをまとめること。 詳細については、講義内で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。 【参考書】 講義内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	受講態度・積極的な参加姿勢 20% グループワーク 20% 小レポート 20% 期末レポート 40% これらを総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	国際社会での活動や国際交流に興味をもっていることが望ましい。 講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。 自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。			
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマ内容について把握しておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。	
第2回	グローバリゼーション	事前学習	現在の日本について感じていることをまとめておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、合わせて今後のテーマ内容を確認しておく。	
第3回	環境と多文化共生社会	事前学習	自身が暮らしている場やその周囲はどのような環境であるか、広く振り返っておく。	
		事後学習	共生の意味や環境と文化などについて整理しておく。	
第4回	エスニック・マイノリティ	事前学習	文化背景が異なる人々に対する自身の態度について振り返っておく。	
		事後学習	国際社会におけるマイノリティの意味について整理しておく。	
第5回	アイデンティティ	事前学習	自分の文化とはなにか、自身が所属する社会・文化の特徴について振り返っておく。	
		事後学習	自身の文化的アイデンティティについて分析しておく。	
第6回	エスノセントリズム	事前学習	自身の行動の中にどのような文化的特徴があると思うか考えておく。	
		事後学習	自身のエスノセントリズムの傾向について分析しておく。	
第7回	レイシズム	事前学習	文化背景が異なる人々に対する自身の感情について振り返っておく。	
		事後学習	レイシズムについて整理し、自身の傾向について分析しておく。	
第8回	ステレオタイプ	事前学習	エスニック・マイノリティについて復習し、マイノリティに対する自身のイメージをまとめておく。	
		事後学習	ステレオタイプの特徴とその影響について整理しておく。	

第 9 回	国際社会からみた日本のイメージ	事前学習	日本や日本人のイメージについて自身の考えをまとめておく。
		事後学習	自身の社会や文化等の観方について分析しておく。
第 10 回	日本社会とニューカマー	事前学習	日本国内での異文化接触にはどのような状況があるか広く振り返っておく。
		事後学習	ニューカマーの状況について整理しておく。
第 11 回	日本社会とエスニシティ	事前学習	多文化共生社会について復習し、日本社会における共生の場について考えておく。
		事後学習	自身の生活環境と異文化接触について改めて振り返っておく。
第 12 回	国際社会と言語コミュニケーション	事前学習	自身の外国語学習の経験について振り返っておく。
		事後学習	社会参加としての言語の役割や意味について整理しておく。
第 13 回	海外における日本語教育	事前学習	日本の外国語教育について復習しておく。
		事後学習	日本語教育事情と目標言語の学習動機について整理しておく。
第 14 回	国際社会と組織	事前学習	自身が所属する組織や集団とそれらを構成するメンバーについて振り返っておく。
		事後学習	国際社会における組織内と組織間の関係とその状況について整理しておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について総復習をし、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	コンピュータネットワークⅡ (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2322
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	現代のインターネットの通信手段の基礎である TCP/IP の仕組みを演習を通して学ぶ。また、ネットワーク上のサービス形態として、クライアントサーバモデルと P2P モデルについて学ぶ。		
8. 学習目標	プロトコルの観点から、世界的情報ネットワークであるインターネットの仕組みを理解することを目標とする。特にIPプロトコル、ルーティングアルゴリズム、TCPプロトコルをマスターする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、授業時間外の作業が必要な課題を課す。 1 ネットワークの基礎知識に関する記述形式の問題 2 Linuxサーバ構築に関する演習課題		
10. 教科書・参考書・教材	必要な教材については資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	授業態度 30% 課題への取り組み・提出状況 70%		
12. 受講生へのメッセージ	Linux サーバの運用は文字ベースになることが多く、不慣れな作業になりがちとなる。できる限りたくさん の時間を使ってサーバを操作するように心掛けること。質問はいつでも気軽にしてくれて構わない。 電子メール: shsuzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。在室中は、来客のない限りいつでも対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	LAN と OSI の下位層 (コンピュータネットワークⅠの復習)	事前学習	コンピュータネットワークⅠの内容復習。
		事後学習	LAN に関する用語についてまとめる。
第 2 回	インターネットの歴史と運営組織 ドメインとアドレス体系	事前学習	インターネットの運営組織について調べる。
		事後学習	ドメイン管理の現状と IPv6 についてまとめる。
第 3 回	IP パケット、IP アドレス	事前学習	IP パケットとは何か調べておく。
		事後学習	IP パケットの構造について復習する。
第 4 回	IP アドレスとサブネットマスク演習	事前学習	サブネットマスクとは何か調べておく。
		事後学習	身近な PC のネットワーク設定を調査する。
第 5 回	DHCP、NAT など IP アドレスの管理	事前学習	IP アドレスの管理方法について調べておく。
		事後学習	自宅などで IP アドレス管理状況を調べる。
第 6 回	トランスポート層 TCP	事前学習	TCP とは何か調べておく。
		事後学習	様々なパソコンで TCP の通信状態を調査する。
第 7 回	トランスポート層 UDP	事前学習	UDP とは何か調べておく。
		事後学習	様々なパソコンで UDP の通信状態を調査する。
第 8 回	Linux の概要・導入	事前学習	Linux とは何か調べておく。
		事後学習	Linux にどのような種類があるか調べる。
第 9 回	Linux の基本操作 テキストエディタ	事前学習	Linux のコマンドとは何か調べる。
		事後学習	基本操作に関する練習課題を解く。
第 10 回	ファイル・ユーザなど運用管理	事前学習	Linux を運用するのに必要な事柄を調べる。
		事後学習	ユーザ管理など運用に関する練習課題を解く。
第 11 回	ネットワーク設定	事前学習	ネットワーク設定に必要な事柄を調査する。
		事後学習	設定を変更した個所を確認する。
第 12 回	Web サーバ構築	事前学習	Web サーバの種類を調査しておく。
		事後学習	Web サーバを導入しなおす。
第 13 回	メールサーバ構築	事前学習	メールサーバの種類を調査しておく。
		事後学習	メールサーバを導入しなおす。
第 14 回	レンタルサーバサービスの利用	事前学習	レンタルサーバサービスを調査しておく。
		事後学習	実際にレンタルサーバサービスを利用する。
第 15 回	講義のまとめ	事前学習	本講義の学習内容を復習する。
		事後学習	サーバ運用に必要な事柄をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	算数 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2302
2. 授業担当教員	北川 登		
4. 授業形態	講義と演習, 実習 (ディスカッション・グループ学習, 製作活動)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この科目を履修することによって, 学ぶ立場での算数への苦手意識を払拭するだけでなく, 更に, 算数を教える立場での算数科特有の論理的思考力を習得することができる。</p> <p>本科目では, 算数科の 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を一段深め, 再学習する。日常の様々な事象に問題を発見し, 整理して見通しを立てて解決する能力を高め, 算数的な感覚を豊かにし, 算数を生活に生かそうとする態度を育成する教員となるための素養を身につける。本講義での算数的活動や様々な体験を通し, より高い数学的見地に立った教材分析や指導・評価方法等の日頃の教育実践に生かせる教材研究力を習得することができる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 「算数的活動」を通して 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を再学習し, 数学教育の意義を感じ, 算数的な事象について進んで考えようとするようになる。 算数の領域の関連に基づいて, より高度な数学的思考ができるようになる。 算数・数学に関する問題解決の技能を復習し, 習得することができるようになる。 数学教育史を基に数学教育の今日的課題を知り, 教育内容の学年・領域の関連はもとより, 算数・数学の教材研究・教材開発に耐えうる広範な知識と数学に関する学力を習得することができるようになる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>「レポートの課題」</p> <ol style="list-style-type: none"> 中間レポート ・学力向上につながる指導技術についての考察 期末レポート ・算数的活動を生かした授業展開の工夫 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版社, 2008 年。 佐藤俊太郎編著『算数科教材研究』明治図書出版, 2005 年。</p> <p>【参考書】必要に応じて資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 日常の学習評価 総合点の 30% 受講態度 総合点の 20% レポート 総合点の 50% <p>総合点 100%</p> <p>※授業に必ず出席すること。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>※受講生に期待すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は常に集中力を保持し, 積極的に受講すること。 授業のために予習を行い, 課題意識を持って授業に臨むこと。 授業中, 授業外を問わず積極的に質問すること。 レポートなどの提出期限を厳守すること。 社会人として, 学生としてのマナーを守ること。 <p>※教師の心がけること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業準備に最善を尽くす。 学生の質問に丁寧に応える。 		
13. オフィスアワー	講座終了時に受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 学習指導要領の改訂の基本方針, 算数科の目標, 教材研究のあり方	事前学習	学習指導要領の改訂の基本方針についてまとめる。
		事後学習	算数科の目標について整理する。
第 2 回	算数科 1 年の目標と指導内容	事前学習	1 年生の指導内容について教科書をまとめる。
		事後学習	1 年生の指導内容の重点について整理する。
第 3 回	算数科 1 年の教材の研究 (数の分解と合成, 繰り下げのあるひき算)	事前学習	教科書の内容 (ひき算) をまとめる。
		事後学習	「繰り下げのあるひき算」の指導過程を立案する。(教科書 pp. 94~95)
第 4 回	算数科 2 年の目標と指導内容	事前学習	2 年生の指導内容について教科書をまとめる。
		事後学習	1 年生の指導内容の重点について整理する。
第 5 回	算数科 2 年の教材の研究 (長さ, 三角形と四角形)	事前学習	教科書の内容 (長さ) をまとめる。
		事後学習	「長さ」の指導過程を立案する。(教科書上 pp. 30~31)
第 6 回	算数科 3 年の目標と指導内容	事前学習	3 年生の指導内容について教科書をまとめる。
		事後学習	3 年生の指導内容の重点について整理する。
第 7 回	算数科 3 年の教材の研究 (あまりのあるわり算, 重さ) 【中間レポート提出】	事前学習	教科書の内容 (重さ) をまとめる。
		事後学習	「重さ」の指導過程を立案する。(教科書下 pp. 30~31)
第 8 回	演習 (レポートの発表, 研究討議を中心として)	事前学習	レポートの発表準備をする。
		事後学習	他のレポートの良さや感想についてまとめる。
第 9 回	算数科 4 年の目標と指導内容	事前学習	4 年生の指導内容について教科書をまとめる。
		事後学習	4 年生の指導内容の重点について整理する。

平成 28 年度

第 1 0 回	算数科 4 年の教材の研究 (角の大きさ、面積)	事前学習	教科書の内容 (面積) をまとめる。
		事後学習	「面積」の指導過程を立案する。 (教科書上 pp. 86~87)
第 1 1 回	算数科 5 年の目標と指導内容	事前学習	5 年生の指導内容について教科書をまとめる。
		事後学習	5 年生の指導内容の重点について整理する。
第 1 2 回	算数科 5 年の教材の研究 (小数のかけ算、円周と円の面積)	事前学習	教科書の内容 (円周) をまとめる。
		事後学習	「小数のかけ算」の指導過程を立案する。(教科書上 pp. 34~35)
第 1 3 回	算数科 6 年の目標と指導内容	事前学習	6 年生の指導内容について教科書をまとめる。
		事後学習	6 年生の指導内容の重点について整理する。
第 1 4 回	算数科 6 年の教材の研究 (分数のわり算、比) 【期末レポート提出】	事前学習	教科書の内容 (比) をまとめる。
		事後学習	「分数のわり算」の指導過程を立案する。(教科書上 pp. 43~44)
第 1 5 回	総合演習、まとめ (レポートの発表、研究討議を中心として)	事前学習	レポートの発表準備をする。
		事後学習	他のレポートの良さや感想についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	算数科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2312
2. 授業担当教員	北川 登			
4. 授業形態	講義・演習・実習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	小学校算数の目標を踏まえて、算数の授業づくりのための具体的な方法を学び、実際に学習指導案を作成する。作成した指導案を活用し、模擬授業を行い指導の実際を体験することで、さらにより良い授業作りのための方法について学んでいくとともに、授業を見る視点や授業の改善点を明らかにする手法などを学ぶ。			
8. 学習目標	(1) 今求められる算数の授業に関して、現状を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。 (2) 求められる算数の授業を踏まえ、自らが理想とする算数の授業づくりのための学習指導案を作成することができる。 (3) 模擬授業等を通して、配慮の必要な児童への対処方法や授業実践上の方法について理解し、説明することができる。 (4) 算数の授業の評価の方法について理解し、説明することができる。 (5) 模擬授業を通して、算数の授業の実践ができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「レポート課題」 1 中間レポート 「低学年の教材についての指導案」 2 期末レポート 「高学年の教材について算数的活動を生かした指導案」			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】志水廣著『算数力がつく教え方ガイドブック』明治図書出版社、2006年。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版社、2008年。 【参考書】必要に応じて資料を配付する。			
11. 成績評価の方法	1 日常の学習姿勢 総合点の20% 2 授業態度など 総合点の20% 3 レポート(中間、期末) 総合点の60% 総合点100% ※授業に必ず出席すること。			
12. 受講生への メッセージ	※受講生に期待すること。 1 授業中は常に集中力を保持し、積極的に受講すること。 2 授業のために予習を行い、課題意識を持って授業に臨むこと。 3 授業中、授業外を問わず積極的に質問すること。 4 レポートなどの提出期限を厳守すること。 5 社会人として、学生としてのマナーを守ること。 ※教師の心がけること。 1 授業準備に最善を尽くす。 2 学生の質問に丁寧に応える。			
13. オフィスアワー	月曜日 13:00~17:00			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	科目の概要、受講にあたっての留意事項、算数科の目標、教科指導法の研究について	事前学習	教科書 p.48,51 をまとめる。	
		事後学習	教科指導法の研究方法についてまとめる。	
第2回	算数の授業づくり① (授業力とは、算数好きな子どもにするためには、授業設計のあり方など)	事前学習	教科書 pp.14~23 をまとめる。	
		事後学習	授業づくりの手順と留意点を整理する。	
第3回	算数の授業づくり② (授業づくりの基本、課題解決型の指導過程、何を考えさせるかなど)	事前学習	教科書 pp.24~41 をまとめる。	
		事後学習	授業目標に有効な指導過程について整理する。	
第4回	算数科授業の展開 (子どもに分かる説明、教師発問の生かし方、子どもの発言の生かし方など)	事前学習	教科書 pp.58~69 をまとめる。	
		事後学習	時中における教師の留意事項についてまとめる。	
第5回	1~3 学年教材についての模擬授業指導案の立案	事前学習	指導案の書き方についての資料を予習する。	
		事後学習	主教材の系統性と価値について考えをまとめる。	
第6回	1~3 学年教材についての模擬授業の教材・教具製作	事前学習	指導展開の流れを作る。	
		事後学習	主教材の展開について修正を加える。	
第7回	1~3 学年教材についての模擬授業とその検討	事前学習	指導過程を推考し修正を加える。	
		事後学習	他の模擬授業の特徴をまとめる。	
第8回	1~3 学年教材についての模擬授業とその検討 【中間レポート提出】	事前学習	指導過程を推考し修正を加える。	
		事後学習	模擬授業を踏まえ指導案の修正をする。	
第9回	算数授業の実践① (机間巡視、「つまづき」への対処と生かし方など)	事前学習	教科書 pp.108~121 をまとめる。	
		事後学習	机間巡視の留意点についてまとめる。	
第10回	算数授業の実践② (一斉指導における児童の生かし方、授業の中での学習評価の生かし方など)	事前学習	教科書 pp.122~145 をまとめる。	
		事後学習	授業形態による学習評価の在り方をまとめる。	

平成 28 年度

第 1 1 回	算教授業の実践③ (児童の多様な追究の生かし方、教具、教材の工夫など)	事前学習	教科書 pp.154～164 をまとめる。
		事後学習	児童の多様な追究を可能にする教材、教具の工夫についてまとめる。
第 1 2 回	4～6 学年教材についての模擬授業指導案の立案	事前学習	教材構造と教材の系統性について調べる。
		事後学習	主教材の系統性と価値について考えをまとめる。
第 1 3 回	4～6 学年教材についての模擬授業の教材・教具製作	事前学習	指導展開の流れを作る。
		事後学習	主教材の展開について修正を加える。
第 1 4 回	4～6 学年教材についての模擬授業とその検討	事前学習	指導過程を推考し修正を加える。
		事後学習	他の模擬授業の特徴をまとめる。
第 1 5 回	4～6 学年教材についての模擬授業とその検討 【期末レポート提出】	事前学習	指導過程を推考し修正を加える。
		事後学習	模擬授業を踏まえ指導案の修正をする。

1. 科目名 (単位数)	ジェンダー論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1331
2. 授業担当教員	岩切 英隆		
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をする事に向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20 世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、このような社会的・文化的に形成された性別を意味し、「女らしさ」「男らしさ」の社会的な側面に注目した概念である。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心をもち、分析・考察し、表現する力を身につけることを目指す。		
8. 学習目標	<p>本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心をもち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。 3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 毎回の授業で、テーマやディスカッションのポイントに沿ってプリントを配布するので、きちんとノートを取る。授業の終わりに1,200字程度の課題文を課す。ポイントや考察を書くこと。 2 レポート課題 授業の中で次の課題を課すので、所定の期日までに提出すること。 「現代日本におけるジェンダーについて各自の関心に応じ社会問題を一つ取り上げ、問題点・社会背景・今後の課題を論じなさい。」 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】配付プリント</p> <p>【参考書】江原由美子・山田昌弘著『岩波テキストボックスα ジェンダーの社会学 入門』岩波書店、2008。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第三版』中央法規、2011。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 出席率 30点 2 課題 30点 3 レポート 30点 (A: 25~30点 B+: 24点 B: 21点 C: 18点) 4 学習態度 10点 (A: 9~10点 B+: 8点 B: 7点 C: 6点) 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 ディスカッションでは、豊かな議論となるよう取り組むこと。 2 課題文およびレポートでは、次の点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現力 誤字脱字がない・読みやすい・適切な言葉を選んであり分かりやすい。 ・ 論理性 説得力がある・序論から本論そして結論へと話の流れが整理されている。 ・ 思考力 引用に終始せず独自の考察が深めてある・問題提起だけでなく解決策を探っている。 		
13. オフィスアワー	授業終了後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 現代社会における「ジェンダー」 国際的比較 (男女間意識調査)	事前学習	キーワード「ジェンダー」について調べておくこと。
		事後学習	「ジェンダー」について 400 字程度で簡潔に説明できるようにする。
第2回	「女らしさ」「男らしさ」の獲得	事前学習	子どもに対し「男/女らしくしなさい」と言うのはどんな場面か、例を探しておく。
		事後学習	ジェンダーを獲得することの意義について、プラス・マイナスの両面から、説明できるようにする。
第3回	「らしさ」の科学的解明	事前学習	男女間の相違について、一般的に根拠となっている科学的根拠について調査しておく。
		事後学習	日本社会における、「らしさ」の一般的認識について、その理由と今後の方向性について簡潔にまとめる。
第4回	フェミニズムとフェミニズム運動	事前学習	フェミニズムという意味は何か、また代表的なフェミニズム運動について調べておく。
		事後学習	第一波と第二波の違い、また第三波についてポイントをまとめる。
第5回	親密性とセクシュアリティ	事前学習	一般的に「モテる」人にはどんな特徴があるのか、男/女で違いはあるか考察しておく。
		事後学習	セクシュアリティに関して男女で捉え方が異なるのはなぜか、簡潔にまとめる。

第 6 回	結婚相手を選ぶには —配偶者選択とジェンダー—	事前学習	キーワード「未婚化」「晩婚化」について調べておくこと。
		事後学習	日本の若者の配偶者選択について、その特徴と展望を述べる。
第 7 回	結婚と婚姻について (社会的意味と日本社会における法律的根拠の相違について考察する)	事前学習	結婚するという意味について、社会的な意味と法律的な意味について調べてくる。
		事後学習	結婚の法律的な意味を述べ、現代社会のジェンダーのあり方に及ぼす影響についてまとめる。
第 8 回	結婚と離婚について～離婚の諸相	事前学習	日本と諸外国の離婚率の変動について、調べておく。
		事後学習	日本における離婚の増減と社会的背景の簡連について簡潔に説明する。
第 9 回	ジェンダーと近代家族の構造・機能①～性別役割分業	事前学習	配布資料 (橋爪大三郎「家族—その変容の核」) を読んでおくこと。
		事後学習	「近代家族」の終焉についてその理由を説明できるようにすること。
第 10 回	ジェンダーと近代家族の構造・機能②～育児とジェンダー、日本社会の育児環境	事前学習	少子化もしくは育児に関する報道記事を探しておく。
		事後学習	育児についての社会的な取り組みを考察する。
第 11 回	家事労働とジェンダー —家事は「女の役割」なのか—	事前学習	お金を稼ぐことは出来ないが誰かがやらなければ社会が機能なくなる活動について、例を探す。
		事後学習	家事労働とジェンダーのあり方について展望を考察する。
第 12 回	介護の社会化と「女らしい」仕事	事前学習	「女性が多い仕事」にはどんな特徴があるか、考察する。
		事後学習	介護の社会化とその背景について説明できるようにすること。
第 13 回	労働とジェンダー 日本における男女の働き方・課題	事前学習	働き方について男性・女性というジェンダーに注目した報道記事を探しておく。
		事後学習	日本の労働環境の変化・時代背景を理解し簡潔に説明できるようにすること。
第 14 回	「男性」受難の時代 —「男らしさ」と「男性」のありかた—	事前学習	「男」の方が「女」よりも大変だ・何とかすべきだ、という具体例を探すこと。
		事後学習	「男性」特有の「生き難さ」の特徴を説明できるようにすること。
第 15 回	日本社会とジェンダーのこれから	事前学習	配布資料 (永田公彦「女性が日本を救う」と叫ばれながら男性社会が崩れない、その本当の理由) を読んでおくこと。
		事後学習	日本は男女格差が大きい諸外国ほど問題化していない理由、展望について述べること。

1. 科目名 (単位数)	システム設計 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT3315
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータサイエンスⅡ」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	システムを構築あるいは分析するためには、対象とするシステムの分析と業務分析が必要になる。これらの分析を基に、システムを UML など記述することで明確な設計を行える。具体的には、この一連の手続きについて演習を通して学ぶ。また、例題研究によって、各種のシステムがどのようにになっているかの分析や設計記述を行う。		
8. 学習目標	目標は、①情報システムの構築を行うための分析・設計技術の基本知識を習得し、②簡単な情報システムを、主として構造化設計技法に基づき、自ら設計できるスキルを獲得することである。本科目では、顧客によるシステム化要求に基づき、情報システムを構築することを想定する。構築にあたってはウォータフォールモデルをベースにしたシステム開発技法をもとに、DFD(データフロー図)やER (Entity Relationship) など、関連する技法も学ぶ。これにより広く普及している構造化設計技法を習得する。オブジェクト指向技法(具体的にUMLを通して)を本格的に学習する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	毎回、授業時間外の作業が必要な課題を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	必要な教材については資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	授業態度 30% 課題への取り組み・提出状況 40% 期末試験 30%		
12. 受講生へのメッセージ	わからないことはそのままにせず、調べる・人に聞くなどするように。質問はいつでも気軽にしてくれて構わない。 電子メール: shsuzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。在室中は、来客のない限りいつでも対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ソフトウェアとは	事前学習	ソフトウェアの定義について調べる。
		事後学習	ソフトウェアの分類についてまとめる。
第2回	ソフトウェア開発プロセス	事前学習	開発プロセスについて調べる。
		事後学習	各種開発プロセスの特徴をまとめる。
第3回	モデリングとは	事前学習	システム開発のモデリングについて調べる。
		事後学習	様々なモデリング言語についてまとめる。
第4回	オブジェクト指向モデリング	事前学習	オブジェクト指向について調べる。
		事後学習	オブジェクト指向の特徴についてまとめる。
第5回	UML のクラス	事前学習	UML とは何か調べる。
		事後学習	モデル図の作成課題を解く。
第6回	クラスの振る舞い	事前学習	クラスの「操作」について調べる。
		事後学習	操作に関するモデル図の課題を解く。
第7回	クラスの関係	事前学習	クラス図の関連、集約、汎化について調べる。
		事後学習	関係に関するモデル図の課題を解く。
第8回	抽象クラス	事前学習	抽象クラスについて調べる。
		事後学習	抽象クラスのモデル図課題を解く。
第9回	インターフェース、ポリモーフィズム	事前学習	多様性、多態性について調べる。
		事後学習	ポリモーフィズムに関する課題を解く。
第10回	オブジェクト図	事前学習	インスタンスについて調べる。
		事後学習	オブジェクト図の作成課題を解く。
第11回	ユースケース図	事前学習	ユースケースについて調べる。
		事後学習	ユースケース図の作成課題を解く。
第12回	アクティビティ図	事前学習	アクティビティ図の書き方を調べておく。
		事後学習	アクティビティ図の作成課題を解く。
第13回	シーケンス図	事前学習	シーケンス図の構成要素を調べておく。
		事後学習	シーケンス図の作成課題を解く。
第14回	状態マシン図	事前学習	状態マシン図の構成要素を調べておく。
		事後学習	状態マシン図の作成課題を解く。
第15回	配置図	事前学習	配置図の構成要素を調べておく。
		事後学習	これまでの復習問題を解く。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	システム設計演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT3316
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータサイエンスⅡ」と「システム設計」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	ソフトウェア開発において、UML 図は主流だといえるが、いかに優れた設計ツールを使っても、それを実現する方法を知らなければあまり意味を成さない。 本科目では、UML で記述された図を元に、クラスやインターフェースを JAVA プログラミング言語で記述し、実際のプログラムの実装法を行う。		
8. 学習目標	JAVA 言語を学習し、開発環境として Eclipse を使って簡単なシステムを設計する。また、JAVA 言語と UML との関係をよく理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、授業時間外の作業が必要な課題を課す。 ・プログラムの設計に関する記述形式の問題 ・コンピュータを使ったプログラム作成の演習課題		
10. 教科書・参考書・教材	必要な教材については資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	授業態度	30%	
	課題への取り組み・提出状況	70%	
12. 受講生へのメッセージ	わからないことはそのままにせず、調べる・人に聞くなどするように。質問はいつでも気軽にしてくれて構わない。 電子メール：shsuzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。在室中は、来客のない限りいつでも対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	UML の復習	事前学習	システム設計で学習したことを復習しておく。
		事後学習	モデル図作成の課題を解く。
第 2 回	JAVA 言語 文法の基礎	事前学習	JAVA 言語とは何か調べておく。
		事後学習	C 言語との違いについてまとめる。
第 3 回	JAVA 言語 クラス	事前学習	JAVA 言語のクラスとは何か調べる。
		事後学習	クラスの作成課題を解く。
第 4 回	JAVA 言語 クラス public、protected、private	事前学習	クラスのアクセス制限について調べる。
		事後学習	アクセス制限のあるクラスの作成課題を解く。
第 5 回	JAVA 言語 継承	事前学習	継承について調べておく。
		事後学習	継承を使った演習課題を解く。
第 6 回	JAVA 言語 仮想関数	事前学習	仮想関数について調べておく。
		事後学習	仮想関数を含む演習課題を解く。
第 7 回	JAVA 言語 抽象クラス 純粋仮想関数	事前学習	抽象クラスについて調べておく。
		事後学習	抽象クラスを使う演習課題を解く。
第 8 回	JAVA 言語 インターフェースクラス	事前学習	インターフェースクラスについて調べておく。
		事後学習	インターフェースを使う演習課題を解く。
第 9 回	描画処理 (1) ウィンドウの作成	事前学習	Graphics クラスについて調べておく。
		事後学習	演習内容の復習をする。
第 10 回	描画処理 (2) Graphics クラス	事前学習	Graphics クラスのオブジェクトについて調べておく。
		事後学習	Graphics クラスを使った演習課題を解く。
第 11 回	描画処理 (3) 継承クラスの作成	事前学習	クラスの継承について復習しておく。
		事後学習	Graphics クラスを継承するクラス作成の課題を解く。
第 12 回	モデリング	事前学習	モデル図の書き方を復習しておく
		事後学習	課題のシステムについてモデル図を書く。
第 13 回	設計図に基づいた実装	事前学習	モデル図に誤りがないか確認しておく。
		事後学習	作成したものが正しく動作するかテストする。
第 14 回	設計の拡張とプログラムの追加	事前学習	プログラムの仕様を追加する内容を考える。
		事後学習	拡張後に正しく動作するかテストする。
第 15 回	講義のまとめ	事前学習	本講義の学習内容を復習する。
		事後学習	システム開発の方法についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2102 PSMP2402 SBMP2302
2. 授業担当教員	植木 是			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	S/P/B 2年次以上			
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業のなかで指示したレポート課題、視聴覚教材に対する感想文の提出を求める。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第4版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に臨む姿勢 (授業への参加度、集団論議の進行・内容) 30% ・課題とその発表 30% ・小テスト (最終講義のなかで行う) 40% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>児童の問題は世帯が抱える生活問題に関連して生じてくる。児童の問題を通して世帯の生活問題を見極め、発生の原因とその対策を考えることができるようにすること。</p> <p>大学等への進学率が5割を超えている今日の児童の進路状況に対して、児童養護施設等入所児童の進学率は1割程度となっている。すべての児童が能力と意思に応じて自由に進路を選択できない原因がどこにあるのかを探り、それを保障するためには何が必要かを考えてみる。</p>			
13. オフィスアワー	授業時間の前後に相談に応じる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 児童のとらえ方を考える	事前学習	児童福祉法の条文に目を通しておく。	
		事後学習	社会問題としての児童問題を考える。	
第2回	第1章 現代社会と子ども家庭 子育て支援施策の現状について	事前学習	第1章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	子育て支援施策の現状と課題についてまとめておく。	
第3回	第2章 子ども家庭福祉とは何か 子ども家庭福祉の理念と子どもの権利	事前学習	第2章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	子どもの権利条約、民放など関連する条文に目を通しておく。	
第4回	視聴覚教材視聴、グループワーク	事前学習	「子どもの貧困」について、事前学習をする。	
		事後学習	講義の内容を振り返り、要点をまとめておく。	
第5回	第2章 子ども家庭福祉とは何か 児童福祉の発展	事前学習	第2章第4節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。また、関連する世界史、日本史についても理解を深めておく。	
		事後学習	戦後日本の児童福祉の発展について、復習しておく。	
第6回	第3章 子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども家庭福祉の法体系と実施体制	事前学習	第3章第1節、第2節、第3節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	児童福祉に関わる機関・組織について理解しておく。	
第7回	視聴覚教材視聴、グループワーク	事前学習	「児童虐待」について、事前学習をする。	
		事後学習	講義の内容を振り返り、要点をまとめておく。	

第 8 回	第 3 章 子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども家庭福祉の実施機関と専門職	事前学習	第 3 章第 4 節、第 5 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	児童福祉の現場で働く各種専門職の役割・機能について整理しておく。
第 9 回	第 4 章 子ども家庭にかかわる福祉・保健 母子保健、障害児対策	事前学習	第 4 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	母子保健制度の意義について、振り返りを行う。
第 10 回	視聴覚教材視聴、グループワーク	事前学習	発達障害について理解を深めておく。
		事後学習	講義の内容を振り返り、要点をまとめておく。
第 11 回	第 4 章 子ども家庭にかかわる福祉・保健 保育、子育て支援	事前学習	第 4 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	保育問題の現状と課題について、理解を深めておく。
第 12 回	第 4 章 子ども家庭にかかわる福祉・保健 ひとり親家庭支援、社会的養護	事前学習	第 4 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ひとり親家庭が抱える生活問題の構造を理解する。
第 13 回	視聴覚教材視聴、グループワーク	事前学習	家庭的養護について事前学習をする。
		事後学習	講義の内容を振り返り、要点をまとめておく。
第 14 回	第 5 章 子ども家庭への援助活動 地域ケアと施設ケア	事前学習	第 5 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	地域ケアと施設ケアそれぞれの特徴についてまとめておく。
第 15 回	小テスト 視聴覚教材視聴	事前学習	社会的養護と関連する組織・機関への理解を深めておく。
		事後学習	社会福祉における子ども家庭福祉の位置づけを確認し、必要な制度、サービスに対する理解を深めておく。

1. 科目名 (単位数)	児童心理学 (4 単位)		3. 科目番号	PSMP1110
2. 授業担当教員	長坂 正文			
4. 授業形態	講義、討議、発表、実習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学概説」または「心理学入門」の単位を修得した後に履修することが望ましい (児童期までの心身の発達を理解することで、次年度の発達心理学の授業につながる)。			
7. 講義概要	児童心理学の研究方法及び主要な概念について紹介し、身体的発達・認知的発達・社会的発達・人格的発達などの諸機能の発達の特徴を概説する。さらに、子ども個人の発達という枠組みではなく、家族、友人、環境としての学校、文化という広い枠組みでとらえ、どのような支援が必要なのかを学ぶ。また、発達を阻害する要因についても学び、その支援についても考究していく。			
8. 学習目標	1. 児童期までの発達に関する基本的な概念、用語を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階で生じる身体的、心理的变化を理解し、説明することができる。 3. 発達上の主な問題について理解し、その支援について自分なりの考えを整理する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・年に3回レポートを提出する (A4用紙2枚、2,400字以上)。 <ul style="list-style-type: none"> 1 絵本の紹介と心理学的考察 2 児童文学の紹介と心理学的考察 3 子どもの問題と心理学的考察 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 伊藤亜矢子編著『エピソードでつかむ児童心理学』ミネルヴァ書房、2011。</p> <p>【参考書】 市川宏伸監修『子どもの心の病気がわかる本』講談社、2004。 山中康裕著『少年期の心』中公新書、1978。</p> <p>【教材】 毎回資料を用意し活用する。</p>			
11. 成績評価の方法	授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。 ・授業への参加 (態度、発表) 40% ・レポート (3回) 60%			
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は新しいものの中から、本文・図表などが分かりやすいものを採用した。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。項目ごとに、初めの1ページに興味深いエピソードが載っているので、これも討論の対象としていく。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないようにすること。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないにすること。 			
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (講義概要の説明) ・現代社会の特徴 (ボーダレス化、少子高齢化、格差社会化) ・現代を生きる子どもの姿 (社会変動と子ども、家庭の養育機能の低下) 	事前学習	テキスト pp.4~11 を読んで、現代社会の特徴と子どもの姿について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「虐待」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・環境が子どもに与える影響 (人間関係という環境、問題行動の環境要因) ・家庭と子ども (家庭の雰囲気・文化の多様性、教育の格差、家庭からの支援と学校と家庭の連携) 	事前学習	テキスト pp.14~21 を読み、環境や家庭と子どもの関係を理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「学級風土」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と子ども (学校という場の特性、子どもの特性、学校環境と子どもの適合性と問題) ・テレビと子ども (メディア社会、乳幼児とテレビ、テレビが子どもに与える影響) 	事前学習	テキスト pp.22~29 を読んで、学校とテレビと子どもの関係について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「テレビの特徴」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビゲームと子ども (テレビゲームと攻撃性、テレビゲームと社会的不適応) ・ケータイと子ども (ケータイがもたらすトラブル、トラブルへの対処) 	事前学習	テキスト pp.30~37 を読んで、テレビゲームと携帯電話と子どもの関係について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「携帯電話の問題」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差と個性 (比べられる違い、比べられない違い、個性の尊重とは何か) ・パーソナリティとは (パーソナリティの定義、パーソナリティの理論、類型論・特性論) 	事前学習	テキスト pp.40~47 を読んで、子どもの個人差と性格について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「類型論・特性論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・知能とは (知能とは何か、知能の共通性と多様性、知能の測定、知能検査の限界) ・子どもの発達と成長 (子どもの発育パターン、体格指数とは) 	事前学習	テキスト pp.48~59 を読んで、知能と発達について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「知的障害」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	

第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満とやせ（肥満とは、やせと拒食症、子どもの肥満へのアプローチ） ・体力の発達（運動能力や体力の発達、現代の子どもと体力、子どもの体力・運動能力づくり） 	事前学習	テキスト pp.60～68 を読んで、肥満とやせ・子どもの体力を理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「拒食症」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・知能の発達（知能の生涯発達、知能指数、遺伝と環境、遺伝率） ・世界についての理解の発達（素朴理論、素朴物理学、素朴心理学、素朴生物学、素朴経済学） 	事前学習	テキスト pp.70～81 を読んで、知能と認知の発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「WISC」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート発表（絵本の紹介と心理学的考察） 	事前学習	自ら設定したテーマについてレポートを作成する。
		事後学習	指摘された点について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる（修正して再提出も可）。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・記憶の発達（記憶の四つの機能、方略の発達、メタ記憶の発達） ・発達の臨界期（子どもならではの学習、母語獲得の臨界期、第二言語獲得、音楽における臨界期） 	事前学習	テキスト pp.82～93 を読んで、記憶と発達の臨界期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「臨界期」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものパーソナリティの発達・個性化（遺伝と環境、パーソナリティの個性化と社会化） ・子どもの対人関係の発達（子どもの世界の広がり、仲間と共に学ぶ、仲間関係と大人からの自立） 	事前学習	テキスト pp.96～103 を読んで、パーソナリティと対人関係の発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ギャング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・向社会的行動を支えるもの（向社会的行動とは、共感的な人間関係を育む） ・友だち関係の発達（ギャング・グループ、チャム・グループ、ピア・グループ、友達関係の変質、友達関係を支えるもの） 	事前学習	テキスト pp.104～111 を読んで、向社会的行動と友人関係の発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「チャム」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ピア・プレッシャー（同調への圧力、ピア・プレッシャーと逸脱行為、承認欲求と同調、ピア・プレッシャーへの対策） ・異性関係の発達（異性への関心、異性との交際と異性不安、性役割と異性とのかかわり） 	事前学習	テキスト pp.112～119 を読んで、ピア・プレッシャーと異性関係の発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「アサーション」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・内発的動機づけ・外発的動機づけ（報酬、自分で決めること、周りの人に支えられる動機づけ） ・動機を左右するもの（目標を左右するもの、認知からやる気を理解する） 	事前学習	テキスト pp.124～131 を読んで、内発的動機づけについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「内発的動機づけ」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフ・ハンディキャッピング（セルフ・ハンディキャッピングとは、印象操作） ・授業を理解する力（学習と記憶のメカニズム、学習へのアプローチ、授業という場の特徴） 	事前学習	テキスト pp.132～139 を読んで、セルフ・ハンディキャッピングについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「同化と調節」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 16 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を支える要因（知識獲得の促進、学習のレベル、メタ認知・熟達化） ・読む力の発達（言葉の発達、読みにおける要点把握とメタ認知、読みにおける興味と熟達化） 	事前学習	テキスト pp.140～147 を読んで、学習と読む力の発達を理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「メタ認知」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 17 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習におけるつまずきとその原因（知識の問題、学習方法の問題、信念の問題、メタ認知の問題） ・認知カウンセリングによる相談と指導（丁寧な診断、言語化と図式化を重視した指導、意味理解の重視、ケース検討会と基礎研究の結びつき） 	事前学習	テキスト pp.150～161 を読んで、学習のつまずきと認知カウンセリングについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「学習方略」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 18 回	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと教師の関係（子どもたちが教師を見るとき、教師が子どもたちを見るとき、子どもと教師のコミュニケーション） ・教師用 RCRT（意義、結果、教師用 RCRT から見えてくるもの） 	事前学習	テキスト pp.164～171 を読んで、子どもと教師の関係を理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ピグマリオン効果」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 19 回	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども集団・学級経営（発達段階と集団形成、低学年集団、中学年集団、高学年集団、発達支援としての学級経営） ・学級風土（学級風土とその影響、教師の指導と学級風土、特別支援教育と学級風土） 	事前学習	テキスト pp.172～179 を読んで、子ども集団と学級風土を理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「Q-U 学級満足感尺度」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 20 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学級のアセスメント（コンサルテーションと教師の省察、アセスメントの留意点） ・子どものメンタルヘルス（心身の発達過程とメンタルヘルス、環境と子どものメンタルヘルス） 	事前学習	テキスト pp.180～191 を読んで、子どものメンタルヘルスを理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「分離不安」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 21 回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童期に多い問題（発達障害、学習の問題、反社会的問題、情緒・気分の問題、身体化される問題） 	事前学習	テキスト pp.192～199 を読んで、児童期の問題について理解し、疑問点を明確にする。

	・精神分析から見た子どもの心の特徴（エディプス期、潜伏期）	事後学習	「発達障害」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 2 回	・子どもの心の発達について（愛着の発達、よいものと悪いものの二分化、コンテイメント） ・虐待とは（児童虐待の現状と通告義務、子どものサインと虐待の影響、支援の基本、学校の役割）	事前学習	テキスト pp.200～209 を読んで、心の発達と虐待について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「児童虐待防止法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 3 回	・児童期の子どもの心理療法の実際（アンナちゃんの事例） ・スクールカウンセリング（小学生の悩み、スクールカウンセラーの活動）	事前学習	テキスト pp.210～219 を読んで、スクールカウンセリングを理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「9歳の壁」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 4 回	・不登校（多様な不登校、不登校の理解と支援のために） ・いじめ（いじめの定義、いじめの背景、いじめの予防と対応）	事前学習	テキスト pp.220～227 を読んで、不登校といじめについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「いじめの四層構造論」について参考書さらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 5 回	・レポート発表（児童文学の紹介と心理学的考察）	事前学習	自ら設定したテーマについてレポートを作成する。
		事後学習	指摘された点について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる（修正して再提出も可）。
第 2 6 回	・非行（非行のタイプ、非行少年の処遇） ・学校ベースの予防プログラム（予防とは、予防の種類、保護要因とリスク要因、プログラムの計画・実施・評価）	事前学習	テキスト pp.228～235 を読んで、非行について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ソーシャルスキル・トレーニング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 7 回	・広汎性発達障害とその支援（広汎性発達障害とは、原因、特徴、支援） ・ADHD とその支援（ADHD とは、原因、特徴、支援）	事前学習	テキスト pp.236～243 を読んで、広汎性発達障害・ADHD を理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「心の理論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 8 回	・学習障害とその支援（学習障害とは、原因、特徴、支援） ・通常学級における特別支援教育（通常学級での特別支援教育、授業のユニバーサルデザイン、学級経営の工夫）	事前学習	テキスト pp.244～251 を読んで、学習障害について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「特別支援教育コーディネーター」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 9 回	・事例研究（遊戯療法）	事前学習	配布資料（遊戯療法事例）をよく読み、見たとプロセスについて自分なりに理解する。
		事後学習	「見立て」「技法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 3 0 回	・まとめ（用語・概念を中心に復習する）	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	児童生徒指導論 (進路指導を含む) (初等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2106 EDTE2306
2. 授業担当教員	鈴木 収		
4. 授業形態	講義、グループ討議、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	生徒指導が重要性を増す原因の一つである、いじめや不登校、学習障害児などの諸問題への具体的な対応について理解を深めるとともに、小学校での進路指導や教育相談、学級経営について考察する。 また、生徒指導が初等教育の教育現場で具体的にどう行われているかについて知るとともに、学生自身が体験してきた生徒指導の状況と対比しながら、正しい児童理解の上に立った生徒指導の在り方を議論する。		
8. 学習目標	1 生徒指導の意義と役割について「ガイダンスの機能の充実」の視点を踏まえて理解する。 2 生徒指導の基本的な進め方と生徒指導上の諸問題への対応について理解する。 3 小学校での進路指導の意義と役割について「ガイダンスの機能の充実」の視点を踏まえて理解する。 4 教育相談、学級経営の役割と具体的な進め方について理解する。 以上の点について、理解を深めて説明ができるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	【中間レポート課題】 教科書にある「生徒指導の意義・課題」についてその内容を書きなさい。また、その「意義・課題」のいずれかについて自分の考えを書きなさい。(A4用紙1枚) 【期末レポート課題】 教科書PP.173～174から、日本の「いじめの現状(視点・構造・心理)」と「いじめ問題への」対応について、まとめて書きなさい。また、いじめを減らし、無くすためにはどうしたら良いと思うか「あなたの考え」を書きなさい。(A4用紙1枚)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】文部科学省『生徒指導提要 平成 22 年 3 月』教育図書出版、2010。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 15 % 2 中間課題レポート 総合点の 35 % 3 期末課題レポート 総合点の 35 % 4 日常の学習状況 総合点の 15 %		
12. 受講生への メッセージ	児童理解をはじめとした生徒指導(生活指導)の理論や、学校生活上で起こる様々な問題に対処できる指導方法を理解する。 また、学習したことを、自分の生活と関連づけて具体的に考えるように心がけること。		
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	学校不適應及び問題行動について	事前学習	小学校でのいじめや不登校の現状について考える。
		事後学習	いじめや不登校についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 2 回	生徒指導の意義と課題・ねらいと性格について 教科書 pp.1～3	事前学習	生徒指導のねらいを教科書からまとめる。
		事後学習	生徒指導の意義について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 3 回	生徒指導の前提となる発達観と指導観について 教科書 pp.9～15	事前学習	「発達観と指導観」とは何かを教科書で調べる。
		事後学習	「発達観と指導観」の理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 4 回	教科・道徳と生徒指導について 教科書 pp.23～27	事前学習	教科・道徳と生徒指導のポイントを教科書からまとめる。
		事後学習	教科・道徳と生徒指導について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 5 回	特別活動と生徒指導について 教科書 pp.29～35	事前学習	特別活動と生徒指導のポイントを教科書で確認する。
		事後学習	特別活動と生徒指導について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 6 回	児童観について 教科書 pp.40～42	事前学習	児童観に教科書からポイントをまとめる。
		事後学習	児童観について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 7 回	発達障害の理解について 教科書 pp.50～53	事前学習	発達障害の種類と内容を教科書で確認しておく。
		事後学習	発達障害について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 8 回	生徒指導体制と生徒指導主事について 教科書 pp.75～77、pp.80～81	事前学習	生徒指導主事の役割を教科書で調べる。
		事後学習	指導体制と生徒指導主事についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

第 9 回	教育相談の意義と体制について 教科書 pp.92～97	事前学習	教育相談の意義を教科書からまとめる。
		事後学習	教育相談の理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	学級担任が行う教育相談① 「教育相談の対象と場面、児童の不適応の気づきについて」 教科書 pp.98～102	事前学習	教育相談の対象と場면을教科書からまとめる。
		事後学習	児童の不適応の早期発見のためのポイントを整理する。
第 11 回	学級担任が行う教育相談② 「教育相談の形態と、カウンセリングの技法について」 教科書 pp.102～107	事前学習	教育相談の形態について教科書で調べておく。
		事後学習	教育相談でのカウンセリングの技法のポイントを整理する。
第 12 回	他の諸機関との連携について 教科書 pp.118～124	事前学習	学校が生徒指導で連携している機関を教科書で確認する。
		事後学習	連携している機関の特色を整理する。
第 13 回	学校全体での生徒指導の進め方について 教科書 pp.127～132	事前学習	教師集団として生徒指導で大切なことを教科書で確認する。
		事後学習	教師集団として生徒指導で大切なことのポイントを整理する。
第 14 回	学級担任としての生徒指導の進め方について 教科書 pp.138～142	事前学習	学級担任としての生徒指導の進め方を教科書で調べる。
		事後学習	学級担任としての生徒指導の進め方で新たに理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	いじめ問題について 教科書 pp.173～174	事前学習	いじめ問題の原因と対応の仕方を教科書からまとめる。
		事後学習	いじめ問題で自分が特に気を付けることをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	児童生徒指導論 (進路指導を含む) (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS2106 SBMP2448 SSMP2448 EDTS2306
2. 授業担当教員	水野 良治		
4. 授業形態	講義、グループワーク、事例研究、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校における生徒指導の意義及び生徒指導の基礎を理解し、特に学校不適応、不登校、非行、校内暴力、生徒懲戒、学校事故等の今日的な問題について理解を図る。また、生徒指導の観点から進路指導と学級経営の問題を取り上げるとともに、進路指導の進め方や学級経営の意義・在り方等について理解を図る。</p> <p>適宜、学校における生徒指導や進路指導にかかわる実践事例を組み入れて理解を深め、現場で役立つ理論的・実践的なセンスや能力を養うことを目標とする。</p> <p>新学習指導要領に示す教育の方向として、今までになく生徒指導の充実が求められている点を踏まえ、自己教育力の育成のための生徒指導の内容・方法を具体的に学ぶこととする。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義・役割について理解する。 2 生徒指導 (教育相談を含む) の進め方や生徒指導の方法を理解する。 3 進路指導の意義・方法及びキャリア教育のねらい・進め方について理解する。 4 生徒指導に基づく学級 (ホームルーム) 経営の方法及び配慮事項等について理解する。 5 事例研究を通じて、生徒指導上の諸問題への対応策・改善策について学ぶ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>アサイメント: 次時の学習範囲について教科書を読んで、自分の考えをまとめておく。</p> <p>レポート課題: 講義の前半と後半の2回、提示されたレポート課題 (A4 1枚) をまとめて提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】高橋哲夫 代表編『生徒指導の研究 第三版』教育出版、2009。</p> <p>【参考書】文部科学省『生徒指導提要 平成 22 年 3 月』教育図書出版、2010。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 2 回レポート課題と提出物 総合点の約 70% 2 授業への参加度 総合点の約 30% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>児童生徒理解をはじめとした生徒指導の理論や、学校生活上で起こる様々な問題に対処できる指導方法を理解してほしい。また、学習したことを、自分の生活と関連づけて具体的に考えるように心がけてほしい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>講義の中で周知する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業のオリエンテーション ・講義概要の説明 ・日本の学校制度、学校の役割、教師の仕事	事前学習	日本の学校制度、学校の役割、教師の仕事について、自分の考えをまとめ、発表できるようにしておく。
		事後学習	学校の役割、教師の仕事について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 2 回	生徒指導の意義とねらい ・直面する学校不適応及び問題行動 ・生徒指導の意義・ねらいと性格	事前学習	教科書 pp.1~11 を読み、学校不適応及び問題行動、生徒指導の意義・ねらいについて概要をつかむ。
		事後学習	学校不適応及び問題行動、生徒指導の意義・ねらいについて理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 3 回	ガイダンスの機能の充実とその進め方	事前学習	教科書 pp.11~22 を読み、「ガイダンス機能」の意味を確認する。
		事後学習	ガイダンス機能の充実について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 4 回	生徒指導と法制	事前学習	教科書 pp.23~25 を読み、生徒指導に関係した法制にはどんな内容があるか確認する。
		事後学習	生徒指導と法制について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 5 回	生徒指導の方法 (進め方) ① ・生徒指導の前提条件 ・自己指導能力の育成	事前学習	教科書 pp.25~30 を読み、生徒指導の前提条件、自己指導能力の育成について確認する。
		事後学習	生徒指導の前提条件、自己指導能力の育成について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 6 回	生徒指導の方法 (進め方) ② ・生徒理解 ・集団場面における生徒指導の進め方	事前学習	教科書 pp.30~45 を読み、生徒理解、集団場面における生徒指導の進め方について確認する。
		事後学習	生徒理解、集団場面における生徒指導の進め方について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 7 回	生徒指導の方法 (進め方) ③ ・青年期の心理と精神的健康についての理解 ・問題行動の理解と指導	事前学習	教科書 pp.49~66 を読み、青年期の心理、学校不適応・不登校など問題行動の理解と指導について概要をつかむ。
		事後学習	・本時の学習ポイントを整理する。 ・本時までの学習の成果を「生徒指導の実践にあたり考慮すべき基本事項」というテーマでレポートにまとめる。

第 8 回	教育相談の意義とねらい ・学校教育相談と教育との関係 ・来談者中心的カウンセリング	事前学習	教科書 pp.75～85 を読み、教育相談の意義・ねらい、カウンセリングについて教科書で確認する。
		事後学習	教育相談の意義・ねらい、来談者中心的カウンセリングについて理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 9 回	教育相談の進め方	事前学習	教科書 pp.86～89 を読み、教育相談の進め方について概要をつかむ。
		事後学習	教育相談の進め方について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	教育相談の技法と実際例 ・基礎的、一般的な方法 ・教育相談を進める上での配慮事項	事前学習	教科書 pp.90～126 を読み、教育相談の技法と実際例、教育相談を進める上でどんな配慮が必要かについて概要をつかむ。
		事後学習	本時の学習ポイントを整理するとともに、教育相談に関するこれまでの学習の成果をまとめる。
第 11 回	進路指導の意義と性格	事前学習	教科書 pp.127～147 を読み、進路指導の意義と性格について概要をつかむ。
		事後学習	進路指導の意義と性格について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 12 回	進路指導の方法と課題	事前学習	教科書 pp.148～177 を読み、進路指導の方法、進路指導の課題について概要をつかむ。
		事後学習	・進路指導の方法、進路指導の課題について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。 ・進路指導で大切だと思うことをまとめる。
第 13 回	ホームルーム経営の基本的課題	事前学習	教科書 pp.178～191 を読み、学級経営の基本的課題とは何か確認し、それに対する自分の考えをまとめ、学級経営の意義・ねらいについて概要をつかむ。
		事後学習	学級経営の課題、学級経営の意義・ねらい・役割について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 14 回	ホームルーム経営の方法・進め方と留意点	事前学習	教科書 pp.192～223 を読み、学級経営の方法・進め方について概要をつかむ。
		事後学習	ホームルーム経営のポイント、担任の仕事、学級事務、家庭との連携について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	中等教育での生徒指導の大切な点について	事前学習	中等教育での生徒指導で最も大切だと思うこととその理由をまとめ、発表できるようにする。
		事後学習	生徒指導の大切な点について理解、発見、感じたことをまとめ、実践の場で活用できるようにしておく。

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3306 EDEL2306								
2. 授業担当教員	山田 哲史										
4. 授業形態	講義、演習、実習等を織り交ぜる。	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・ 他科目との関係											
7. 講義概要	<p>社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公的資質の基礎を養う。」である。学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が一層重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について学修する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する中で、習得型の知識と探究による知識活用について学び、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。さらに、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。</p>										
8. 学習目標	<p>「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校社会科の意義、目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。 2. 社会生活の内容について、地理(自然・国土・産業)、歴史、公民の各分野の特徴を述べる事が出来る。 3. 小学校社会科の指導計画作成・学習方法や小学校社会科の評価規準について理解し、説明できる。 4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【中間レポート課題】 小学校社会科の教科目標から、どんな児童の育成を求めているかを書きなさい。また、そのことについてあなたの考えを書きなさい。(1,000～1,200 字)</p> <p>【期末レポート課題】 「小学校社会科の指導計画作成に当たって配慮すべき四つの事項とそれぞれの概要を書きなさい。また、四つ配慮事項から一つ選び、その配慮事項についてあなたの考えを書きなさい。(1000～1200字)</p>										
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説・社会編』東洋館出版社、2008。</p> <p>【参考書】 北俊夫 編著『平成 20 年度改訂 小学校教育課程講座 第 3 巻 社会』ぎょうせい、2009。 安彦忠彦 監修『小学校学習指導要領の解説と展開 社会編』教育出版、2008。</p>										
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 15%</td> </tr> <tr> <td>2 中間課題レポート</td> <td>総合点の 35%</td> </tr> <tr> <td>3 期末課題レポート</td> <td>総合点の 35%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の 15%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の 15%	2 中間課題レポート	総合点の 35%	3 期末課題レポート	総合点の 35%	4 日常の学習状況	総合点の 15%
1 授業への積極的参加	総合点の 15%										
2 中間課題レポート	総合点の 35%										
3 期末課題レポート	総合点の 35%										
4 日常の学習状況	総合点の 15%										
12. 受講生への メッセージ	<p>「教師は授業で勝負する」とは、多くの教員の間で言われていることである。日々の指導に直接かかわる内容の学習でもある。しっかりと授業内容を理解して、具体的内容とその背後にある理論を自分のものとし、将来の教職で生かしてほしい。</p> <p>また、教室内での学習中のマナーを守り、積極的に授業に参加するとともに、併せて必要な自宅学習も確実に取り組んでほしい。</p>										
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間とする。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	社会科改訂の経緯について 教科書 pp.1～2	事前学習	学習指導要領改訂の経緯を予習する。								
		事後学習	社会科改訂の経緯について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 2 回	社会科改訂の趣旨・要点・内容の改善について 教科書 pp.2～9	事前学習	社会科改訂のポイントは何か予習する。								
		事後学習	改訂の趣旨・要点・内容の改善について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 3 回	社会科の目標について (教科・学年の目標) 教科書 pp.10～12	事前学習	社会科の目標は何かをまとめる。								
		事後学習	社会科の目標について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 4 回	社会科の学年の目標の構造及び系統と内容について 教科書 pp.12～17	事前学習	学年の目標はどうつながっているか考える。								
		事後学習	学年目標の構造・系統について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 5 回	第 3・4 学年の目標について 教科書 pp.18～21	事前学習	第 3・4 学年の目標を特色は何か考える。								
		事後学習	第 3・4 学年の目標について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 6 回	第 3・4 学年の内容 (1)「身近な地域や市」、(2)「地域の人々の生産や販売」 について 教科書 pp.21～28	事前学習	第 3・4 学年の内容 (1)、(2) の主な内容を確認する。								
		事後学習	身近な地域の学習内容の感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 7 回	第 3・4 学年の内容 (3)「飲料水や廃棄物」、(4)「災害や事故防止」について	事前学習	第 3・4 学年の内容 (3)、(4) の主な内容を確認する。								

	教科書 pp.29～38	事後学習	飲料水や廃棄物について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 8 回	第 3・4 学年の内容 (5)「地域の人々の生活の変化や願い」 (6)「県(都道府)の様子」について 教科書 pp.39～47	事前学習	第 3・4 学年の内容 (5)、(6) の主な内容を確認する。
		事後学習	県の様子について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 9 回	第 5 学年の目標について 教科書 pp.48～50	事前学習	第 5 学年の目標の特色は何かを考える。
		事後学習	第 5 学年の目標について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	第 5 学年の内容 (1)「わが国の国土の自然」、(2)「我が国の農業や水産業」について 教科書 pp.51～61	事前学習	第 5 学年の内容 (1)、(2) の主な内容を確認する。
		事後学習	我が国の自然について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 11 回	第 5 学年の内容 (3)「我が国の工業生産」、(4)「情報化した社会」について 教科書 pp.62～69	事前学習	第 5 学年の内容 (3)、(4) の主な内容を確認する。
		事後学習	我が国の工業について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 12 回	第 6 学年の目標について 教科書 pp.70～73	事前学習	第 6 学年の目標の特色について考える。
		事後学習	第 6 学年の目標について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 13 回	第 6 学年の内容 (1)「我が国の歴史」について 教科書 pp.73～87	事前学習	第 6 学年の内容(1)の主な内容を確認する。
		事後学習	我が国の歴史について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 14 回	第 6 学年の内容 (2)「我が国の政治」、(3)「世界の中の日本役割」について 教科書 pp.88～99	事前学習	第 6 学年の内容(2)、(3)の主な内容を確認する。
		事後学習	我が国の政治について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	指導計画作成上の配慮事項について 教科書 pp.100～107	事前学習	指導計画作成上の四つの配慮事項のポイントは何か調べる。
		事後学習	四つの配慮事項について感想をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

1. 科目名 (単位数)	社会学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1113 GELA1313
2. 授業担当教員	卯尾 章			
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会理論と社会システム」に対応するものである。対人援助職に就く者には、被援助者とそのニーズを、社会的な関係性の中で把握することが求められる。人間は社会的な関係の中で生まれ育つものであるし、援助を必要とするような問題（ニーズ）も社会的関係の中から生ずるものだからである。こうしたことから、援助職に就こうとする者には、人間を取り巻く「社会」のなりたちや変化について観察・分析する学問である社会学の学習が必要となるのである。</p> <p>この講義では、社会学の基本的な考えかたと対象について幅広く取り上げる。また、国家試験などで求められる社会学の基本的な用語や知識についても学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会についての基礎知識を身につけて、物事をその社会的背景から考えられるようになる。 2. 人間と社会の関係について学び、人間を社会的関係の中で捉えられるようになる。 3. 社会問題について深く考察できるようになる。 4. 人々の生活について多角的に考えられるようになる。 5. さまざまな社会理論について学び、社会的な考え方ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>期末レポート 「現在の日本が抱える諸課題」について1つ取り上げ、社会的視点により考察。少子高齢化、都市化と過疎化、ワーキングプアなど。自身の興味のある他の課題を取り上げて可。2000字程度。</p> <p>中間課題 授業中に指示。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会『社会理論と社会システム (第3版)』中央法規出版、2014年</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度・課題とその発表・レポート等を総合して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業への積極的参加度 30% ② 課題とその発表 30% ③ レポート 40% 			
12. 受講生への メッセージ	<p>毎回の授業時、基本用語等について質問をするので、事前・事後の学習を必ず行っておく。</p> <p>履修にあたっては、次のことを最低限守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 指定の教科書は授業の際、必ず持参する。 ② 別途配布する資料は、正しく整理して必ず保管しておく。 ③ 授業中の私語や携帯電話の使用は禁止する。 			
13. オフィスアワー	授業時間の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義の概要) 社会とは何か、社会学とは何か	事前学習	シラバスとテキスト序章 (pp.2~11) を読んで要点を整理しておく。	
		事後学習	講義内容の振り返り。社会学とは何かについてまとめしておく。	
第2回	社会システム ~ 社会システムとは何か、社会システムの構造と機能、社会指標	事前学習	テキスト第1章第1節 (pp.14~31) を読んで、要点を整理しておく。	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。規範の普遍性について考えをまとめしておく。	
第3回	社会システム ~ 法と社会システム、経済と社会システム	事前学習	テキスト第1章第2節3節 (pp.32~57) を読んで、要点を整理しておく。	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。格差と社会移動について考えをまとめしておく。	
第4回	社会変動 ~ 社会変動とは何か、近代化、グローバル化	事前学習	テキスト第1章第4節 (pp.58~71) を読んで、要点を整理しておく。	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。	
第5回	人口変動とその影響 ~ 人口転換、少子高齢化	事前学習	テキスト第1章第5節 (pp.72~90) を読んで、要点を整理しておく。	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。合計特殊出生率の国際比較を確認しておくこと。	
第6回	生活のとらえ方 ~ 生活とは何か、ライフサイクル、生活の質	事前学習	テキスト第2章第1節 (pp.92~104) を読んで、要点を整理しておく。	
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。「生活の質」のとらえ方をまとめしておく。	
第7回	家族 ~ 社会事象としての家族、機能、変容	事前学習	テキスト第2章第2節 (pp.105~119) を読んで、要点を整理しておく。	

		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。家族における世帯単位と個人単位についての考え方をまとめておく。
第 8 回	地域 ～ 都市化、過疎化、エスニシティ	事前学習	テキスト第 2 章第 3 節 (pp.120～135) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。「新しい公共」という考え方や「持続可能性」という概念の出現を考えてみる。
第 9 回	社会集団と組織 ～ 集団の概念、類型、組織の展開	事前学習	テキスト第 3 章第 3 節 (pp.164～175) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。集団の諸類型をまとめておく。
第 10 回	社会関係 ～ 社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマ	事前学習	テキスト第 3 章第 1 節第 2 節 (pp.138～163) 第 4 節 (pp.176～186) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。社会的ジレンマの実例をあげ、それを超える方法を考えてみる。
第 11 回	社会関係資本と社会的連帯 ～ 中間集団の問題、社会関係資本の理論、社会的排除	事前学習	テキスト第 3 章第 5 節 (pp.187～197) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。社会関係資本の具体例を考えまとめておく。
第 12 回	社会問題のとらえ方 ～ 文化学習理論、社会緊張理論、ラベリング理論	事前学習	テキスト第 4 章第 1 節 (pp.200～210) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。構築主義の理論で、具体例を考えてみる。
第 13 回	社会問題① ～ 貧困、ワーキングプア	事前学習	テキスト第 4 章第 2 節 (pp.211～215) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。雇用形態の変化に伴う社会問題についてまとめておく。
第 14 回	社会問題② ～ 非行、ハラスメント、DV、児童虐待、高齢者虐待	事前学習	テキスト第 4 章第 2 節 (pp.215～225) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。
第 15 回	社会問題③ ～ 共生社会、人権思想、多文化主義全体のまとめ	事前学習	テキスト第 4 章第 3 節 (pp.226～237) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと、講義中に示した重要語句を整理しておく。これまでの学習を振り返り、レジュメ等を整理し、今後の学習につなげる。

1. 科目名 (単位数)	社会情報学 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT1301
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹			
4. 授業形態	講義と演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	情報化によって仕事や生活の様式が大きく変化している現代において、メディアや IT に関する知識は不可欠なものである。本講義では、携帯電話、電子メール、インターネットなどといった情報化社会のキーワードの理解をもとに、ワークスタイルやライフスタイルの変化を具体的な事例から学ぶ。また、社会におけるメディアのあり方や、メディアを使う人間 (ユーザー) にも着目する。			
8. 学習目標	情報化社会が現代にもたらした影響や人間の心理や生理へ与える問題などについて理解し、情報化社会におけるメディアの在り方を理解することを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、授業時間外の作業が必要な課題を課す。 ・ 次回の講義で使用する資料を読むこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	必要な教材については資料を配布する。			
11. 成績評価の方法	授業態度 30% 課題への取り組み・提出状況 70%			
12. 受講生への メッセージ	様々な分野とメディア・コミュニケーションの関わりを、論文をもとに読み解きます。読む時間が多くなりますが、時間をとってしっかり読むようにしましょう。 電子メール: shsuzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。在室中は、来客のない限りいつでも対応します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義概要 世論について	事前学習	情報化が社会のどこに影響を与えるか考える。	
		事後学習	世論と新しいメディアの関係をまとめる。	
第 2 回	公共圏と社会	事前学習	公共圏とは何か調べる。	
		事後学習	「公共圏」概念のメディアによる変容についてまとめる。	
第 3 回	記憶とメディア	事前学習	第一次世界大戦の社会史を調べる。	
		事後学習	メディアと記憶の関係についてまとめる。	
第 4 回	カルチュラル・スタディーズ	事前学習	カルチュラル・スタディーズとは何か調べる。	
		事後学習	カルチュラル・スタディーズのメディア研究の成果をまとめる。	
第 5 回	ポストモダンの文化	事前学習	ポストモダンとは何か調べる。	
		事後学習	脱中心化、ポストモダンについて考える。	
第 6 回	コミュニケーション変容と携帯電話	事前学習	携帯電話以前の通信メディアについて調べる。	
		事後学習	携帯電話によるコミュニケーションについて考える。	
第 7 回	コミュニケーション変容とインターネット	事前学習	インターネットとテレビの差異を考える。	
		事後学習	コミュニケーションの変わらない部分について考える。	
第 8 回	コミュニケーション変容とメディアの普及	事前学習	ロジャースの普及理論について調べる。	
		事後学習	情報技術の普及について考える。	
第 9 回	読み書きと電子化	事前学習	CMC とは何か調べる。	
		事後学習	CMC における変化についてまとめる。	
第 10 回	パーソナライゼーション	事前学習	個人利用されるメディアとは何か考える。	
		事後学習	自分がこれまで電話をどのように使ってきたか考える。	
第 11 回	パーソナライゼーション 電子文字によるコミュニケーション	事前学習	電子文字を使うメディアは何があるか考える。	
		事後学習	日常の電子文字コミュニケーションについて考える。	
第 12 回	メディアとは何か	事前学習	「メディア」の意味を調べる。	
		事後学習	情報技術の観点からメディアを考える。	
第 13 回	「オンナ・コドモ」とジャーナリズム	事前学習	「オンナ・コドモのジャーナリズム」を調べる。	
		事後学習	オンナ・コドモとメディアの関わりについて考える。	
第 14 回	「オンナ・コドモ」とジャーナリズム 戦争とメディア	事前学習	戦争とメディアについて調べる。	
		事後学習	戦争におけるメディアの使われ方をまとめる。	
第 15 回	講義のまとめ	事前学習	本講義の学習内容を復習する。	
		事後学習	情報メディアとコミュニケーションの今後について考える。	

1. 科目名 (単位数)	社会心理学 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS2303 SBMP2343 SSMP2343 PSMP2128
2. 授業担当教員	水谷 聡秀	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッション・フィールドワークを含む)		
6. 履修条件・ 他科目との関係	「心理学入門」、「心理学概論」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>人は他者と関わり、集団に所属しながら生活している。そして人は、他者や集団や社会から様々な影響を受けると同時に、自らも対人関係や集団に影響を及ぼしている。社会心理学は、社会学と心理学の境界領域にあたる学問領域であり、人と他者・集団との関係の中で、人の態度や認知に表れるさまざまな変化を明らかにすることを主なねらいとしている。</p> <p>本科目では、社会心理学の主要な研究分野である自己、対人認知、対人関係、集団等の心理について、基礎的な知見を学習するとともに、現代社会における諸現象について、社会心理学的視点から読み解いていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における社会心理学の位置づけについて理解し、説明することができるようになる。 2. 社会心理学における主要トピックスの要点を理解し、説明することができるようになる。 3. 日常生活や社会現象について、社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する。(A4用紙2枚、2,400字以上) <ol style="list-style-type: none"> 1 災害時になにをすべきか 2 マス・メディアの特徴と問題 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 齋藤勇編著『図説社会心理学入門』誠信書房、2011年。</p> <p>【参考書】 山田一成・北村英哉・結城雅樹編著『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房、2007年。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 40% ・レポート (2回) 60% 		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は比較的に見やすく、分かりやすいものを採用した。自分でも十分読めると思うので、興味のあるところから読んでみてほしい。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 社会心理学研究の四つのレベル (自己レベル、対人レベル、集団レベル、分化レベル)	事前学習	テキスト pp.2~5 を読んで、社会心理学の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「社会的アイデンティティ」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第2回	社会心理学の研究方法 (自然観察法、質問紙法、実験的方法、アーカイブ利用法)	事前学習	テキスト pp.5~8 を読んで、研究方法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「質問紙法」「評定尺度」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第3回	社会心理学の主要な理論的背景 (社会的欲求理論、社会的学習説、文化相対論、認知主義理論)	事前学習	テキスト pp.8~11 を読んで、主要な理論の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「社会的学習」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第4回	自己意識 (自己意識とは、公的自己意識と私的自己意識)	事前学習	テキスト pp.14~20 を読んで、自己意識について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「自己関連づけ効果」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第5回	自己評価 (自己評価の高さと安定性、自己評価と社会的比較、自己肯定欲求とポジティブ・イリュージョン)	事前学習	テキスト pp.20~28 を読んで、自己評価について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ポジティブ・イリュージョン」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第6回	実習 (自己理解：性格検査を実施)	事前学習	性格検査だけでなく、自己を理解する方法について調べてくる。
		事後学習	結果の分析について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第7回	対人認知 (印象形成、帰属理論)	事前学習	テキスト pp.28~38 を読んで、印象形成と帰属理論について理解し、疑問点を明確にする。

		事後学習	「原因の帰属過程」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	社会的認知 (自動的処理と統制的処理、ステレオタイプと偏見)	事前学習	テキスト pp.38~47 を読んで、社会的認知について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「プライミング効果」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	社会的発達の心理 (親子関係、友人関係、社会的認知の発達)	事前学習	テキスト pp.50~62 を読んで、社会的発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「愛着」「母性剥奪」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	レポート発表 (災害時になにをすべきか)	事前学習	テーマにそって調べてレポートを書く。
		事後学習	「避難所リーダーのタイプ」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	性格と社会心理 (性格と相性、精神分析的性格、性格特性論と人間関係、現代社会に潜む性格的問題)	事前学習	テキスト pp.62~78 を読んで、性格に関する理論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エゴグラム」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	社会的態度 (態度の定義、説得的コミュニケーション、マス・メディアの影響)	事前学習	テキスト pp.78~85 を読んで社会的態度について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「精緻化見込みモデル」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	行動決定の心理 (ヒューリスティックス、裏切りを認知する能力)	事前学習	テキスト pp.86~99 を読んで、ヒューリスティックスについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ヒューリスティックス」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	対人魅力と好意的人間関係 (外見的魅力、近接性と接触性、自己開示、類似性と相補性、不協和心理)	事前学習	テキスト pp.102~112 を読んで、対人魅力について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「バランス理論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	対人コミュニケーション (言語・非言語、表情、アイ・コンタクト、ジェスチャー、対人接触行動)	事前学習	テキスト pp.112~134 を読んで、対人コミュニケーションの種類について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ノンバーバル・コミュニケーション」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 16 回	実習 (社会心理学実験)	事前学習	社会心理学実験に関する資料を事前に読んで、実験について概要を理解する。
		事後学習	結果の分析について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 17 回	自己呈示と自己開示 (自己呈示、セルフ・モニタリング、対人関係の展開、自己開示)	事前学習	テキスト pp.134~144 を読んで、自己提示と自己開示について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「セルフ・モニタリング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 18 回	攻撃行動 (内的衝動説、情動発散説、社会的機能説)	事前学習	テキスト pp.144~154 を読んで、攻撃行動の代表的な理論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「モデリング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 19 回	援助行動 (援助行動の心理、援助を求める側の心理)	事前学習	テキスト pp.155~167 を読んで、援助行動に関する 5 つの理論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「傍観者効果」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 20 回	集団と個人の心理 (社会的影響、集団魅力と集団規範、リーダーシップ)	事前学習	テキスト pp.170~180 を読んで、集団の心理について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「PM 理論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 21 回	集団の影響 (内集団びいきと外集団差別、少数派と多数派、集団による意志決定)	事前学習	テキスト pp.180~188 を読んで、集団の影響について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「集団極性化」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 22 回	レポート発表 (マス・メディアの特徴と問題)	事前学習	テーマにそって調べてレポートを書く。
		事後学習	「スリーパー効果」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 23 回	情報化と社会心理 (マス・コミュニケーションの特徴、インターネット・コミュニケーションの特徴)	事前学習	テキスト pp.188~202 を読んで、情報化について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「培養理論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については

			次時の授業で質問する。
第 24 回	消費者行動の心理学 (消費者の意志決定、意志決定過程の性質、情報の認識と態度形成、個人差と社会的要因)	事前学習	テキスト pp.203~209 を読んで、消費者行動について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「プロスペクト理論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 25 回	文化と社会化 (個人主義と集団主義、自己観の文化差、認知様式の文化差)	事前学習	テキスト pp.212~220 を読んで、社会化について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「個人主義と集団主義の特徴」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 26 回	社会的適応 (ストレスとコーピング、ソーシャル・サポートの効果)	事前学習	テキスト pp.220~231 を読んで、ストレスとコーピングについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「コーピング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 27 回	ジェンダーと社会心理 (ジェンダー・ステレオタイプ、性役割と男女の勢力格差、ドメスティック・バイオレンス)	事前学習	テキスト pp.232~238 を読んで、ジェンダーについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ジェンダー・ステレオタイプ」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 28 回	社会的貢献の社会心理 (コミュニティと社会心理学、災害に備える社会心理学、参加型社会をつくる)	事前学習	テキスト pp.238~246 を読んで、社会心理学が社会にどのように貢献するかについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ボランティア活動」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 29 回	社会心理学の応用 (環境、健康、学校、職場、臨床、経済)	事前学習	テキスト pp.248~260 を読んで、社会心理学がさまざまな分野にいかに応用されるかについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「グループ・ダイナミックス」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 30 回	まとめ (用語・概念を中心に復習する)	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	社会心理学 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	EDPS2303
2. 授業担当教員	水谷 聡秀			
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッション・フィールドワークを含む)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」、「心理学概論」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	<p>人は他者と関わり、集団に所属しながら生活している。そして人は、他者や集団や社会から様々な影響を受けると同時に、自らも対人関係や集団に影響を及ぼしている。社会心理学は、社会学と心理学の境界領域にあたる学問領域であり、人と他者・集団との関係の中で、人の態度や認知に表れるさまざまな変化を明らかにすることを主なねらいとしている。</p> <p>本科目では、社会心理学の主要な研究分野である自己、対人認知、対人関係、集団等の心理について、基礎的な知見を学習するとともに、現代社会における諸現象について、社会心理学的視点から読み解いていく。</p>			
8. 学習目標	<p>4. 心理学における社会心理学の位置づけについて理解し、説明することができるようになる。</p> <p>5. 社会心理学における主要トピックスの要点を理解し、説明することができるようになる。</p> <p>6. 日常生活や社会現象について、社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できるようになる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する。(A4用紙2枚、2,400字以上) <ol style="list-style-type: none"> 1 第1部1～4の中から自分が興味を持ったテーマについて 2 第2部5～12の中から自分が興味を持ったテーマについて <p>*各回とも、そのテーマの概要を紹介し、どこに興味を持ったのか、疑問点は何か、また自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。</p> 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 池上知子・遠藤由美著『グラフィック社会心理学第2版』サイエンス社、1998年。</p> <p>【参考書】 山田一成・北村英哉・結城雅樹編著『よくわかる社会心理学』ミネルヴァ書房、2007年。</p> <p>【教材】 随時資料を用意し活用する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 40% ・レポート (2回) 60% 			
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は比較的にやすく、分かりやすいものを採用した。自分でも十分読めると思うので、興味のあるところから読んでみてほしい。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 			
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明)	事前学習	テキスト pp.2～3 を読んで、社会心理学の研究視点について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	研究視点について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第2回	社会心理学とは (社会心理学の課題と研究視点、社会心理学の研究手法、社会心理学の理論と人間観、最近の動向)	事前学習	テキスト pp.3～13 を読んで、研究視点・研究方法・人間観について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	研究倫理について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第3回	対人認知 (印象形成、対人記憶、対人認知における歪み、対人認知のプロセスモデル、コミュニケーションと印象の共有、対人認知の個人差)	事前学習	テキスト pp.18～42 を読んで、対人認知について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	ステレオタイプについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第4回	社会的推論 (帰属、帰属の認知心理学的理論、オートマティシティ、推論のエラーとバイアス、推論の誤りがもたらすもの、仮説検証型判断)	事前学習	テキスト pp.44～65 を読んで、社会的推論について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	プライミングについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第5回	態度 (態度の定義、態度と認知的一貫性、態度の情報処理理論、説得的コミュニケーション、態度と行動)	事前学習	テキスト pp.68～88 を読んで、態度について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	認知的不協和について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第6回	感情 (感情の分類、感情生起に関する理論、感情のもたらす影響、気分一致効果に関する理論、感情と情報処理方略、感情混入モデル、感情の機能的価値)	事前学習	テキスト pp.90～110 を読んで、感情について理解し、疑問点を明確にする。	
		事後学習	ジェームズ・ラング説について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。	
第7回	自己認知 (自己概念と自己認知、自己概念の内容の測定、個	事前学習	テキスト pp.114～134 を読んで、自己認知について理解し、疑問点を明確にする。	

	人的アイデンティティと社会的アイデンティティ、自己概念・自己認知の特徴、自己概念・自己認知の情報源、自己概念の複雑性と適応、関係的自己)	事後学習	セルフ・スキーマについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	自己評価 (自尊感情、社会的比較、自己評価維持モデル、自己評価における重要他者の影響、愛着と内的作業モデル)	事前学習	テキスト pp.136～155 を読んで、自己評価について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	自尊感情について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 9 回	自己と動機づけ (自己認知に関わる動機、自己呈示と動機づけ、動機づけを生み出す自己、自己制御)	事前学習	テキスト pp.158～176 を読んで、自己と動機づけについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	動機づけについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	対人行動 (自己意識と行動、自己開示、援助行動、攻撃、社会的排訴)	事前学習	テキスト pp.180～203 を読んで、対人行動について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	援助行動について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	人間関係 (関係の成立、関係の発展、関係の維持と崩壊、対人的葛藤、人間関係の諸相)	事前学習	テキスト pp.204～226 を読んで、人間関係について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	社会的交換理論について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	集団と個人 (他者存在の影響、集団による問題解決と意思決定、集団ダイナミクス、社会的ジレンマ、集団的ジレンマ)	事前学習	テキスト pp.228～252 を読んで、集団と個人について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	P M理論について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	健康と幸福 (幸福と不幸、ストレスと対処、ソーシャル・サポートと人間関係、症状・病気と治療)	事前学習	テキスト pp.254～272 を読んで、健康と幸福について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	コーピングについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	文化と人間 (文化と人間の位置関係、文化への視点、文化的自己観、集団主義と個人主義、文化論への批判、異文化適応)	事前学習	テキスト pp.274～294 を読んで、文化と人間について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	集団主義と個人主義について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	まとめ (用語・概念を中心に復習する)	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	社会政策論 / 社会政策 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2134 PSMP3308
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	講義、学生による発表とディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	現代社会は、様々な社会問題を抱えている。その問題群に対応する政策が社会政策であり、労働・人口変動・生活保障など幅広い分野をカバーしている。一方で、社会政策が十分に機能しているかという点、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もある。 この授業では、そのような社会問題や、社会政策について勉強し、少しでも良い方向に向かわせるためにはどうすればいいかを、自分の住んでいる社会のこととしてとらえ、一緒に考えてもらいたい。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の様々な社会問題について、様々な視点からとらえられるようになる。 ・社会問題に対する社会政策について調べ、その概要を説明できるようになる。 ・新聞等で取り上げられている社会問題について考え、自らの意見が発表できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポートを5回ほど課す。レポート課題は講義中に指示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 石畑良太郎、牧野富夫編著『よくわかる社会政策 第2版』ミネルヴァ書房、2014。			
11. 成績評価の方法	レポート・アサインメント 30% 授業中の発言・態度 20% 期末試験 50%			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解が不十分な点については、そのまま放置せず、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。 2. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。 			
13. オフィスアワー	別途、通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	序 社会政策と日本社会の現状	事前学習	p.4 を読んで福祉国家についてまとめること。	
		事後学習	p.12 を読んで「日本の経営」の崩壊と労働者についてまとめること。	
第2回	I 社会政策の考え	事前学習	p.22 の社会政策とは何かを読みまとめること。	
		事後学習	pp.28～30 を読み社会政策の歴史的展開をまとめること。	
第3回	II 賃金と社会政策	事前学習	p.42.をよみ賃金と何かをまとめること。	
		事後学習	p.46 の最低賃金制とは何かについてまとめること。	
第4回	II 賃金と社会政策	事前学習	p.50 の「格差社会」と同一労働同一賃金についてまとめること。	
		事後学習	p.56 のワークシェアリングと賃金についてまとめること。	
第5回	III 労働時間：労働時間制度の歴史	事前学習	p.67 を読み労働基準法の制定と労働時間の短縮についてまとめること。	
		事後学習	p.67 を読み週40時間制への移行についてまとめること。	
第6回	III 労働時間：日本的な労働時間規制	事前学習	p.74 を読み労働時間規制の方法についてまとめること。	
		事後学習	p.75 の時間外の限度を読みまとめること。	
第7回	IV 雇用・失業：雇用形態の多様化と不安定就業	事前学習	p.88 の雇用形態の基準を読みまとめること。	
		事後学習	p.89 の雇用と失業の中間形態を読みまとめること。	
第8回	IV 雇用・失業：若者の雇用問題	事前学習	p.96 の若年層の非正規雇用の増加読みまとめること。	
		事後学習	p.97 のニートを読みまとめること。	
第9回	V 労使関係：労使関係の構造と展開	事前学習	p.108 の労使関係の制度化を読みまとめること。	
		事後学習	p.109 の労使関係の問題領域についてまとめること。	
第10回	VI 高齢社会：日本の高齢化の特徴	事前学習	p.128 の高齢化の速さについてまとめること。	
		事後学習	p.129 の高齢者人口比率の国際比較を読みまとめること。	
第11回	VI 高齢社会：日本型福祉社会論	事前学習	p.134 の長寿社会対策大綱を読みまとめること。	
		事後学習	p.135 の高齢社会対策基本法の5つの領域についてまとめること。	

第 1 2 回	VII 生活と保障	事前学習	p.152 の生活保護の現実と改革について読みまとめること。
		事後学習	p.162 の公的介護保険の問題点と将来について読みまとめること。
第 1 3 回	VIII 男女平等	事前学習	p.172 の男女平等政策の歴史的変遷を読みまとめること。
		事後学習	p.180 のワークライフバランスの現状と課題を読みまとめること。
第 1 4 回	IX 外国人労働者と社会政策	事前学習	p.192 の外国人労働者問題とは何かを読みまとめること。
		事後学習	p.196 の現在の外国人労働者を読みまとめること。
第 1 5 回	まとめと課題	事前学習	「社会政策の問題」についてまとめること。
		事後学習	課題内容についてまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2107
2. 授業担当教員	尾崎 由利子		SSMP2107
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い（積極的に数値を利用して正しく測定する）、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとするものである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査（面接調査）の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。 2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。 3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。 4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。 5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。 6.分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。 7.本講義は社会福祉士国家試験科目なので、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目標とする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 自身の自治体で行われている社会福祉調査を調べて、発表する。 ②テーマ（例：大学生のアルバイト時間など）を設け、小規模の量的または質的調査を実施し、発表する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林修一・久保田滋・西野理子等『テキスト社会調査』梓出版社。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① プレゼンテーション1回（35%） 情報収集が的確か、自力で調べているか、プレゼンのわかりやすさ ② レポート1回（30%） 情報収集が的確か、文章構成が適切か、文章のわかりやすさ ③ ミニテスト1回（30%） 学習内容を理解しているか、用語を正しく理解しているか ④ 授業出席態度（5%）（実習などやむを得ず欠席する場合は必ず書面にて報告すること） 		
12. 受講生へのメッセージ	インターネットや新聞を見ると、「子育て意識調査」から「若者意識調査」まで、様々な社会調査がある。その中で、自分の気になる調査を見つけたら、誰が実施しているのか、どんな結果なのか、方法におかしいところはなにか、よく読んでみる。何か、おもしろいことが見つかるかもしれません。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後など気軽に相談・質問してください。メールアドレスもお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（講義概要の説明）：社会調査で使う用語、パソコン・インターネットの使い方	事前学習	テキスト第1章第1節を読む。
		事後学習	学習した用語の復習。
第2回	福祉や介護の社会調査：自治体福祉調査	事前学習	新聞などの福祉関連調査の記事を読んでおく。
		事後学習	居住地の自治体の福祉関連調査を調べておく。
第3回	社会福祉調査の歴史と目的	事前学習	テキスト第1章第2節を読む。
		事後学習	調査の歴史についてまとめる。
第4回	量的調査の方法	事前学習	第3回に配布する調査例の熟読。
		事後学習	居住地の社会福祉調査。
第5回	居住地の社会福祉調査（発表会）	事前学習	居住地の社会福祉調査のレポート作成。
		事後学習	同級生の発表内容の振り返り。
第6回	量的調査の実施（手順、方法）	事前学習	テキスト第2章と第3章を読む。
		事後学習	量的調査の用語の復習。
第7回	量的調査の分析手法1： 量、尺度、比率、平均、分散、相関等（パソコン実習）	事前学習	統計についての用語の確認（テキストなど）。
		事後学習	統計処理操作方法的復習。

第 8 回	量的調査の分析手法 2：検定、分析の手法	事前学習	統計処理操作方法の PC での予習。
		事後学習	統計処理操作方法の PC での復習。
第 9 回	量的調査の実施（レポート発表）	事前学習	量的調査のレポート作成。
		事後学習	レポート内容の振り返り。
第 10 回	質的調査の方法（DVD を視聴）	事前学習	テキスト第 4 章第 1 節を読む。
		事後学習	質的調査の基本事項の確認。
第 11 回	質的調査の分析手法（グラウンデッドセオリー ほか）	事前学習	テキスト第 4 章第 2～4 節を読む。
		事後学習	量的調査の用語の確認。
第 12 回	社会福祉業務と社会福祉調査： ケーススタディ（事例調査）、社会福祉記録調査	事前学習	テキスト第 4 章第 5～7 節を読む。
		事後学習	ケーススタディ等手法の用語の確認。
第 13 回	社会福祉調査と倫理、社会福祉調査の役立て方	事前学習	テキスト第 5 章を読む。
		事後学習	調査倫理についての用語の確認。
第 14 回	総まとめ 調査の実施方法について	事前学習	これまでの学習のまとめ。
		事後学習	調査実施の重点項目のまとめ。
第 15 回	総まとめ 基本事項の再確認	事前学習	これまでの学習のまとめ。
		事後学習	基本事項の再確認。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉運営管理論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP4102
2. 授業担当教員	卯尾 章		SSMP4102
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。 ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ・福祉サービスの経営と管理運営について理解する。 		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスにおける組織と経営の概要について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスに係る組織や団体の役割や税制等について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの組織、経営、集団の力学、リーダーシップ等に関する基礎理論について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの管理運営の方法（サービス管理、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理）について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉におけるリスクマネジメントとサービス提供のあり方についてまとめ、自身の意見を述べる。 ・2000字程度。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 第11巻 福祉サービスの組織と経営』、中央法規。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度とレポート等を総合して行う。 1. 授業への積極的参加度 30% 2. 小テスト 30% 3. レポート 40%		
12. 受講生へのメッセージ	毎回の授業時、基本用語等について質問をするので、事前・事後の学習を必ず行っておく。 履修にあたっては、次のことを最低限守る。 1. 指定の教科書は授業の際、必ず持参してくること。 2. 別途配布する資料は、正しく整理して必ず保管しておくこと。 3. 授業中の私語や携帯電話の使用は禁止する。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義の概要・シラバスの説明) 福祉サービスの動向について解説	事前学習	福祉サービスの概念について調べておく。
		事後学習	福祉サービスの概念、サービス提供者の倫理についてまとめておく。
第2回	福祉サービスにおける組織と団体 (第1章第1節・2節) 組織・経営と経営環境・倫理について	事前学習	テキスト第1章 (pp.2~16) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	福祉サービスの経営管理の変遷について整理し、求められている経営倫理についてまとめておく。
第3回	福祉サービスに関わる組織や団体① (第2章第1節・2節) 法人とは、社会福祉法人について	事前学習	テキスト第2章 (pp.18~43) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	法人とは何か、これからの社会福祉法人に求められるものは何かについてまとめておく。
第4回	福祉サービスに関わる組織や団体② (第2章第3節・4節) 特定非営利活動法人、その他の法人・団体	事前学習	テキスト第2章 (pp.44~66) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	特定非営利活動法人の現状と課題、及び営利法人の功罪についてまとめておく。
第5回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論① (第3章第1節・2節) 戦略、事業計画について	事前学習	テキスト第3章 (pp.68~82) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	経営戦略、事業計画の策定プロセスを整理し、まとめておく。
第6回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論② (第3章第3節・4節) 組織、管理運営の基礎理論について	事前学習	テキスト第3章 (pp.83~96) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	組織原則、管理の手法としてのPDCAサイクルについてまとめておく。
第7回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論③ (第3章第5節・6節) 集団の力学、リーダーシップについて	事前学習	テキスト第3章 (pp.97~109) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	公式組織と非公式組織、リーダーシップのあり方についてまとめる。
第8回	福祉サービスの管理運営の方法① (第4章第1節) サービスマネジメントについて	事前学習	テキスト第4章 (pp.112~127) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	結果の品質と過程の品質について、実際の例を考えてまとめておく。
第9回	福祉サービスの管理運営の方法② (第4章第2節)	事前学習	テキスト第4章 (pp.128~142) を読んで、要点を整理しておく。

	サービスの質の評価について	事後学習	福祉サービスにおける質の評価システム導入経過についてまとめておく。
第 10 回	福祉サービスの管理運営の方法③ (第 4 章第 3 節・4 節) 苦情対応とリスクマネジメント、サービス提供のあり方について	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.143~164) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	ハインリッヒの法則、リーゼンの軌道モデルを整理してまとめておく。
第 11 回	福祉サービスの人事管理と労務管理① (第 5 章第 1 節) 人事・労務管理について	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.166~192) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	動機づけ理論、人事考課の目的・課題等について整理してまとめておく。
第 12 回	福祉サービスの人事管理と労務管理② (第 5 章第 2 節) 人材育成の意義	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.193~211) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	新入材確保指針と「職場研修の三つの形態」についてまとめておく。
第 13 回	福祉サービスの会計管理と財務管理 (第 6 章) 社会福祉法人の経営と財務管理	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.214~243) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	社会福祉法人の財務管理の目的、仕組み、特殊性のポイントをまとめておく。
第 14 回	福祉サービスの情報管理と戦略的広報① (第 7 章) 事業経営の情報管理、情報戦略、個人情報保護	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.246~255) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	福祉サービス事業経営における情報管理のあり方、情報の活用、パブリック・リレーションズについてまとめておく。
第 15 回	福祉サービスの情報管理と戦略的広報② (第 7 章) 介護サービス情報の公表、第三者評価制度全体のまとめ	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.256~262) を読んで、要点を整理しておく。
		事後学習	介護サービス情報公表制度及び第三者評価制度の創設経緯、目的、内容について、まとめておく。 これまでの学習を振り返り、レジュメ等を整理し、今後の学習につなげる。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉経営論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP1117						
2. 授業担当教員	岡田 広司									
4. 授業形態	演習形式で授業を行う。集団討議、個人発表、レポート作成。場合によっては現地視察も行う。		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	本講義では、非営利法人の経営について学習をする。非営利法人には財団法人、社団法人、NPO、医療法人などがあり、それぞれの特徴について理解する。非営利法人の共通する問題としては、財源や人材の確保、社会的評価などがある。これらについて具体的な問題点を学習していき、どのように問題を解決するのが良いのかなどについて学習を進める。また、現代社会で重要視されている、コンプライアンスと非営利法人との関係についても学習をする。									
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉経営に関する広い知識を身につけ、理解する。 ・まず社会福祉を取り巻く経済の実情を知り将来を展望する。 ・福祉法人の目標を考え、経営の本質について考察し、就職等で実践する。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメントについては、基本的には課さないが、必要に応じて課すケースも有る。									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会福祉シリーズ 11. 福祉サービスの組織と経営』弘文堂、2013。</p> <p>【参考書】 小松理佐子編『よくわかる社会福祉運営管理』ミネルヴァ書房、2012。 社会福祉学習双書編集委員会編『社会福祉学習双書 2 社会福祉概論Ⅱ 2014』全国社会福祉協議会、2014。 岡田広司著『現代マネジメント概論』あるむ、2011。 岡田広司編著『戦略的イノベーションの経営』あるむ、2008。 岡田広司編著『マーケティング理論と市場戦略』あるむ、2008。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1 授業態度 (議論に参加など)</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 確認テスト</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート提出</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> </table>				1 授業態度 (議論に参加など)	総合点の 40%	2 確認テスト	総合点の 20%	3 課題レポート提出	総合点の 40%
1 授業態度 (議論に参加など)	総合点の 40%									
2 確認テスト	総合点の 20%									
3 課題レポート提出	総合点の 40%									
12. 受講生へのメッセージ	「参加すること。」これは出席を指すのではなく、他人の意見に耳を傾ける余裕と、間違えるのを恐れない自分の意見を持ち、議論に積極的に参加する。否定するときは、必ず代替案を出す。そしてリーダーシップをとる。それが「経営」において決定的に重要なためである。									
13. オフィスアワー	授業中に通知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 社会福祉と経営の概念	事前学習	教科書「はじめに」 pp.3~4 の内容から社会福祉経営の概念に関する記事を確認する。							
		事後学習	授業の説明及び授業内容全体の構成を考察して、社会福祉と経営の概念をまとめる。							
第 2 回	福祉サービス提供組織の沿革 1. 組織を取り巻く背景	事前学習	教科書 pp.4~11 の福祉サービス提供組織の記事を予備知識として確認する。							
		事後学習	授業の内容、第 1 章の組織を取り巻く環境についてまとめる。							
第 3 回	福祉サービス提供組織の沿革 2. 組織の設立と変遷	事前学習	教科書 pp.12~18 の社会福祉組織の設立と変遷の記事を確認する。							
		事後学習	授業の内容、第 1 章の福祉サービス提供組織の沿革をまとめる。							
第 4 回	福祉サービス提供組織の役割 1. 社会福祉の契約化	事前学習	教科書 pp.19~30 の社会福祉の契約化時代の到来の記事の確認。							
		事後学習	授業の内容、第 2 章の介護保険法成立までの変遷を把握する。							
第 5 回	福祉サービス提供組織の役割 2. 社会福祉事業法成立	事前学習	教科書 pp.31~37 の社会福祉事業法成立に関連する記事の確認。							
		事後学習	授業の内容、第 2 章の福祉サービス提供組織の役割を整理する。							
第 6 回	福祉サービス提供組織の体系 福祉施設の整備と運営	事前学習	教科書 pp.39~47 の福祉施設の整備と運営に関する現状の把握。							
		事後学習	授業の内容、第 3 章の福祉サービス提供組織の体系をまとめる。							
第 7 回	福祉サービス提供組織の制度 社会福祉法人と NPO	事前学習	教科書 pp.48~55 の社会福祉法人と NPO に関する現状の把握。							
		事後学習	授業の内容、第 3 章の福祉サービス提供組織の制度をまとめる。							
第 8 回	福祉サービス提供組織と地域社会 1. 社会福祉協議会	事前学習	教科書 pp.57~64 の社会福祉協議会に関連する記事を確認する。							

		事後学習	授業の内容、第 4 章の社会福祉協議会と地域社会についてまとめる。
第 9 回	福祉サービス提供組織と地域社会 2. 福祉 NPO	事前学習	教科書 pp.64～72 の福祉 NPO に関する記事の確認と現状の把握。
		事後学習	授業の内容、第 4 章の福祉 NPO と地域社会について整理する。
第 10 回	組織と経営に関する基礎知識 1. 組織の特質と成立要件、組織構造の設計原理	事前学習	教科書 pp.75～80 の授業内容に関する新聞や雑誌の記事の確認。
		事後学習	授業の内容、第 5 章の組織の成立や組織構造の設計原理を整理する。
第 11 回	組織と経営に関する基礎知識 2. テイラーの科学的管理法、ファヨールの管理過程論	事前学習	教科書 pp.80～94 のテイラーの科学的管理法の記事を確認する。
		事後学習	授業の内容、第 5 章の組織と経営に関する基礎知識をまとめる。
第 12 回	福祉サービスの業務運営と経営 1. 組織運営の基本	事前学習	教科書 pp.95～102 組織運営の基本に関連する記事を確認する。
		事後学習	授業の内容、第 6 章の福祉サービスの業務運営のあり方を整理する。
第 13 回	福祉サービスの業務運営と経営 2. NPO の組織運営	事前学習	教科書 pp.102～112 の NPO の組織運営に関連する記事を確認する。
		事後学習	授業の内容、第 6 章の NPO 法人の組織運営と経営に関してまとめる
第 14 回	福祉サービス提供組織の財源 資産管理と運営財源	事前学習	教科書 pp.113～133 の資産管理と運営財源に関連する記事の確認。
		事後学習	授業の内容、第 7 章の福祉サービス提供組織の財源に関して把握。
第 15 回	福祉サービス提供組織の人事労務・財務・会計管理、および学習内容の総括	事前学習	教科書 pp.133～146 の人事労務・財務・会計管理の記事を確認する。
		事後学習	授業の内容、第 7 章の人事労務・財務・会計管理及び全体の学習を確認し、総括する。

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP1103
2. 授業担当教員	中野 一茂		SSMP1103
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	社会福祉入門等の関連科目の履修が望ましい。		
7. 講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 		
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業中に非定期的に小テストを実施する。 レポート課題は授業中に提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第3版 ー現代社会と福祉ー』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	出席率・態度評価 (8 回以上欠席は評価しない) が良好であることを前提に、欠席・遅刻・許可のない携帯電話作動・おしゃべりなどにはそれぞれ 1 回につき 5 点減点とする。 レポート 30% 小テスト 20% 期末試験 50%		
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として、学生個人の思考力、創造力、分析能力、問題解決能力等を育成することを重視している。受講生は、これらの目標達成のために、以下の条件を守ることが期待される。 <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業は「社会福祉原論」という、福祉専門職にとっては基礎的なものである。したがって、授業中はつねに集中力を保って受講することと、積極的な態度で授業に参加することが期待されている。 2. 授業のための予習を必ずしておくこと。予習してくる教科書のページは、このシラバス、または授業中に指示する。 3. 質問があれば、授業中あるいはオフィスアワーで自ら進んで教師に尋ねること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 4. レポートの提出日を厳守すること。 5. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 6. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。授業中は教師の許可なく出入りしないこと。 		
13. オフィスアワー	オフィスアワーは講義時間の前後で受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバス・講義概要・学習目標の説明 生活問題と社会福祉①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 回	生活問題と社会福祉②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 3 回	生活問題と社会福祉③	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 4 回	生活問題と社会福祉④	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 5 回	社会福祉の思想と原理①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 6 回	社会福祉の思想と原理②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 7 回	社会福祉の歴史①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 8 回	社会福祉の歴史②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 9 回	社会福祉の歴史③	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。

第 1 0 回	国際動向からみた社会福祉政策の諸問題	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 1 回	福祉ニーズの把握	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 2 回	社会福祉政策の策定過程	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 3 回	社会福祉制度①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 4 回	社会福祉制度②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 5 回	社会福祉制度③	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 6 回	福祉サービスの供給①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 7 回	福祉サービスの供給②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 8 回	福祉サービスの供給③	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 1 9 回	サービス利用①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 0 回	サービス利用②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 1 回	社会福祉政策と関連する政策①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 2 回	社会福祉政策と関連する政策②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 3 回	現代社会に求められるソーシャルワーカーとは①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 4 回	現代社会に求められるソーシャルワーカーとは②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 5 回	現代社会に求められるソーシャルワーカーとは③	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 6 回	海外の社会福祉①	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 7 回	海外の社会福祉②	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 8 回	海外の社会福祉③	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 9 回	まとめ、レジュメ資料	事前学習	レジュメ資料の内容を整理して、振り返りを行う。
		事後学習	レジュメ資料の内容を整理して、振り返りを行う。
第 3 0 回	まとめ、レジュメ資料	事前学習	レジュメ資料の内容を整理して、振り返りを行う。
		事後学習	レジュメ資料の内容を整理して、振り返りを行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GECD3221												
2. 授業担当教員	山崎 篤															
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	通年												
6. 履修条件・他科目との関係																
7. 講義概要	ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として地域や施設で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、過去問題を使用した演習を徹底して行います。その中で、試験に合格するための知識を定着させ、合格へと導いていきます。															
8. 学習目標	社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。 (I) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。 (II) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる) これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。															
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習課題に記載している事前事後学習。															
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業内配布テキスト、『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。															
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>出席への積極性</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>学習課題の事前学習</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>毎授業で実施する確認テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>まとめテスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>30 回中、7 回以上欠席の場合は、単位は修得できない。 5 分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。</p>				出席への積極性	30%	学習課題の事前学習	10%	授業態度	10%	毎授業で実施する確認テスト	10%	まとめテスト	10%	期末試験	30%
出席への積極性	30%															
学習課題の事前学習	10%															
授業態度	10%															
毎授業で実施する確認テスト	10%															
まとめテスト	10%															
期末試験	30%															
12. 受講生へのメッセージ	「必ず社会福祉士国家試験に合格するのだ」という強い意志を持って真剣に授業に臨んで欲しい。事前事後学習は必ずすること。															
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間															
14. 授業展開及び授業内容																
講義日程	授業内容	学習課題														
第 1 回	低所得者に対する支援と生活保護制度① 生活保護の原理・原則	事前学習	生活保護の 4 原理・4 原則の内容を調べてくること。													
		事後学習	4 原理・4 原則に関する問題を解くこと。													
第 2 回	低所得者に対する支援と生活保護制度② 保護の種類と内容	事前学習	生活保護の 8 つの扶助がいつできたのかを調べてくること。													
		事後学習	保護の種類と内容に関する問題を解くこと。													
第 3 回	低所得者に対する支援と生活保護制度③ 被保護者の権利義務・保護の動向	事前学習	平成 27 年度の保護の動向 (保護率・被保護人員・被保護世帯数・保護の開始理由・保護の廃止理由) について調べてくること。													
		事後学習	被保護者の権利義務・保護の動向に関する問題を解くこと。													
第 4 回	低所得者に対する支援と生活保護制度④ 公的扶助の歴史	事前学習	旧生活保護法と現行生活保護法の違いについて調べてくること。													
		事後学習	公的扶助の歴史に関する問題を解くこと。													
第 5 回	低所得者に対する支援と生活保護制度⑤ 生活福祉資金貸付制度・「福祉から就労」支援事業	事前学習	生活福祉資金貸付制度の大きな概要について調べてくること。													
		事後学習	生活福祉資金貸付制度・「福祉から就労」支援事業に関する問題を解くこと。													
第 6 回	社会保障① 社会保険の種類 年金保険制度 (被保険者と保険料)	事前学習	わが国の社会保険の種類について調べてくること。													
		事後学習	今日の授業内容についてまとめること。													
第 7 回	社会保障② 年金保険制度 (老齢基礎年金)	事前学習	老齢基礎年金の受給要件と平成 27 年度の老齢基礎年金額 (満額) について調べてくること。													
		事後学習	老齢基礎年金に関する問題を解くこと。													
第 8 回	社会保障③ 年金保険制度 (障害基礎年金・遺族基礎年金・付加年金・寡婦年金・死亡一時金)	事前学習	遺族基礎年金の受給要件と平成 26 年度の遺族基礎年金額について調べてくること。													
		事後学習	遺族基礎年金に関する問題を解くこと。													

第 9 回	社会保障④ 年金保険制度（厚生年金）	事前学習	老齢厚生年金の受給要件について調べてくること。
		事後学習	老齢厚生年金に関する問題を解くこと。
第 10 回	社会保障⑤ 雇用保険制度	事前学習	雇用保険料について調べてくること。
		事後学習	雇用保険の被保険者・保険料に関する問題を解くこと。
第 11 回	社会保障⑥ 労働者災害補償保険	事前学習	通勤の定義について調べてくること。
		事後学習	労災保険の給付内容に関する問題を解くこと。
第 12 回	社会保障⑦ 医療保険（医療保険の種類・被保険者・保険料）	事前学習	医療保険の種類について確認してくること。
		事後学習	医療保険の種類・被保険者・保険料に関する問題を解くこと。
第 13 回	社会保障⑧ 医療保険（給付内容）	事前学習	傷病手当金について調べてくること。
		事後学習	医療保険の給付内容に関する問題を解くこと。
第 14 回	権利擁護と成年後見制度① 成年後見制度（法定後見制度）	事前学習	権利能力・意思能力・行為能力について調べてくること。
		事後学習	法定後見制度に関する問題を解くこと。
第 15 回	権利擁護と成年後見制度② 成年後見制度（任意後見制度・日常生活自立支援事業）	事前学習	任意後見制度の概要について調べてくること。
		事後学習	任意後見制度 日常生活自立支援事業に関する問題を解くこと。
第 16 回	権利擁護と成年後見制度③ 日本国憲法	事前学習	配布資料について調べてくること。
		事後学習	日本国憲法（基本原理・基本的人権）に関する問題を解くこと。
第 17 回	権利擁護と成年後見制度④ 民法（親族）	事前学習	養子（普通養子・特別養子）について調べてくること。
		事後学習	民法（親族）に関する問題を解くこと。
第 18 回	権利擁護と成年後見制度⑤ 民法（相続）	事前学習	相続人と相続分について調べてくること。
		事後学習	民法（相続）に関する問題を解くこと。
第 19 回	心理学理論と心理的支援① 欲求・動機づけ・感覚・知覚・認知	事前学習	マズローの欲求段階説について調べてくること。
		事後学習	欲求・動機づけ・感覚・知覚・認知に関する問題を解くこと。
第 20 回	心理学理論と心理的支援② 学習・記憶	事前学習	オペラント条件付けについて調べてくること。
		事後学習	学習・記憶に関する問題を解くこと。
第 21 回	心理学理論と心理的支援③ 発達	事前学習	成熟優位説・環境優位説について調べてくること。
		事後学習	発達に関する問題を解くこと。
第 22 回	心理学理論と心理的支援④ 防衛機制・心理検査	事前学習	内田クレペリン作業検査・ロールシャッハテストについて調べてくること。
		事後学習	防衛機制・心理検査に関する問題を解くこと。
第 23 回	心理学理論と心理的支援⑤ 心理療法	事前学習	来談者中心療法について調べてくること。
		事後学習	心理療法に関する問題を解くこと。
第 24 回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度① 障害者の定義	事前学習	配布資料について調べてくること。
		事後学習	障害者の定義に関する問題を解くこと。
第 25 回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度② 障害者手帳制度	事前学習	配布資料について調べてくること。
		事後学習	障害者手帳制度に関する問題を解くこと。
第 26 回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度③ DVD 学習 『ビューティフル・マインド』を見ます	事前学習	統合失調症について調べてくること。
		事後学習	統合失調症に関する問題を解くこと。
第 27 回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度④ DVD 学習 『ビューティフル・マインド』を見ます	事前学習	気分障害について調べてくること。
		事後学習	気分障害に関する問題を解くこと。
第 28 回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度⑤ 障害者総合支援法（サービス受給の流れ）	事前学習	障害者総合支援法のサービス受給の流れについて調べてくること。
		事後学習	障害者総合支援法（サービス受給の流れ）に関する問題を解くこと。
第 29 回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度⑥ 障害者総合支援法（サービス内容について）	事前学習	介護給付・訓練等給付の内容について調べてくること。
		事後学習	障害者総合支援法（サービス受給の流れ）に関する問題を解くこと。
第 30 回	1 年間のまとめテスト	事前学習	総復習をしてくること。
		事後学習	テストのやり直しをすること。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1301 GEBS1101
2. 授業担当教員	中野 一茂			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上 社会福祉系科目の最初に履修する科目である。			
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域で必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。			
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域で必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業中に非定期的に小テストを実施する。 レポート課題は授業中に提示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉[第 10 版]』ミネルヴァ書房、2014。 【参考書】 児島美都子・内山治夫編著『よくわかる専門基礎講座社会福祉』金原出版、2008。 成清美治・加納光子編『よくわかる社会福祉用語の基礎知識』学文社、2015。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第三版』中央法規出版、2011。			
11. 成績評価の方法	出席率・態度評価 (4 回以上欠席は評価しない) が良好であることを前提に、欠席・遅刻・許可のない携帯電話作動・おしゃべりなどにはそれぞれ 1 回につき 5 点減点とする。 レポート 30% 小テスト 20% 期末試験 50%			
12. 受講生への メッセージ	1 ニュースや新聞等で社会の動きに目を向けた学習態度が求められる。 2 社会福祉や社会保障について、その概要をしっかりと把握する。 3 社会福祉に関わる専門職として基礎的な知識を学ぶため、身近な生活課題から考察するように心掛ける。			
13. オフィスアワー	オフィスアワーは講義時間の前後で受け付けます。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 現代社会の諸問題に対する理解	事前学習	現代社会の問題は何があるのかを調べる。	
		事後学習	現代社会の問題に対する理解を深めるため、日頃にニュースや新聞を活用して社会的動向を確認していく。	
第 2 回	I 社会福祉の基礎概念	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 3 回	II 社会福祉をとりまく状況	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 4 回	III 社会福祉の歴史と展開	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 5 回	IV 社会福祉の仕組みと運営	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 6 回	V 社会福祉の機関と施設	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 7 回	VI 社会福祉の援助と方法	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 8 回	VII 社会保障・公的扶助	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 9 回	VIII 子ども家庭福祉	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 10 回	IX 高齢者福祉	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 11 回	X 障害者福祉	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 12 回	XI 地域福祉	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 13 回	XII これからの社会福祉の課	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 14 回	XIII 社会福祉を支える人たち	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。	
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。	
第 15 回	まとめ	事前学習	テキストを用いてこれまで学習した知識の復習。	
		事後学習	授業で提示したレジュメ資料の復習。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	社会保障論 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2105 SSMP2105 PSMP2405
2. 授業担当教員	加藤 孝夫		
4. 授業形態	講義、学生発表、グループディスカッション、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、社会保障を構成している年金、医療、介護保険、労働保険などを、それぞれの沿革にまでさかのぼり、理論的に解説する。そのことにより社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を体得する。</p> <p>社会保障の理念や範囲、期待する社会保障の機能などは国によって異なっており、その相違が主に市場経済の構造や社会的慣行にあるとすれば、今後、わが国が豊かな社会保障を構築するためにどのような条件整備を進めていくべきかを探っていく必要がある。</p> <p>教科書をベースに、下記の講義日程に沿って授業を進める。聞き漏らし部分を含め、授業中および授業終了後等に質問する習慣を身に付け、その日のうちに不明部分を解消することが必要である。本科目の学習分野は膨大であり、講義日程に沿って授業が進行するので、後日まとめたの一括つめこみは難しい。</p> <p>事前学習が済んでいることが前提であるから、説明は要点のみとなる。黒板への原則、板書は行わない。論点のいくつかに関して、学生による事前学習成果の発表と質疑討論を授業に組み入れる。</p> <p>制度知識を確実なものとするため、社会福祉士国家試験の過去問等を活用してのグループ討議を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の基本理念と役割を理解し、文章で説明できるようになる。 2 社会保障の各制度について、その適用や給付にとどまらず、運営の仕組みや財源確保の仕組みについても、わかりやすい自分の言葉で口頭説明できるようになる。 3 少子高齢化、政府財政悪化、企業福祉後といった環境変化の中で、社会保障制度の持続性を確保するには何が求められ、国民としてどう行動すべきなのかについて、自身の分析と対案を提示できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習・復習していることを前提に授業を進める。 2 期末試験時にレポート課題の提出を課す。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】学内作成のオリジナル教科書</p> <p>【参考書】『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』『教職科目要説 (初等教育編・中等教育編)』.</p>		
11. 成績評価の方法	評価は、日常の授業態度 50%、期末試験レポート 50%とする。		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容は一般的に複雑・多岐で、それなりの内容・レベルなので、集中力をもって能動的に受講する。 2 間違えることで理解が深まる。その意味で授業内・外の質問はどのようなものであっても歓迎する。 3 無用の私語は厳禁。減点対象とする。携帯電話の操作もしない。 4 遅刻はしないこと、退室には必ず許可をとること。 		
13. オフィスアワー	授業開始前の一定時間教室で行う。また、メールのアドレスを紹介するのでいつでも質問等をメールして下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション(自己紹介、授業概要の説明、「レポート課題①②」の説明) 序章 社会保障の見取り図 1 社会保障を学ぶ意義 2 社会保障の概念整理 3 社会保障の学び方。	事前学習	テキスト序章 pp.1～11 を 1 回以上は読了すること。
		事後学習	テキスト序章 pp.1～11 を復習すること。
第 2 回	第 8 章 社会保障の歴史と構造 1 世界の社会保障の歴史 ① 現代の社会保障の源流は「救貧法」。欧米における社会保障の歴史についてポイントを絞って振り返り学ぶ。 世界恐慌から第 2 次世界大戦へ。 レポート課題①の提示	事前学習	テキスト第 8 章 pp.251～258 を 1 回以上は読了すること。
		事後学習	テキスト第 8 章 pp.251～258 を復習すること。
第 3 回	第 8 章 社会保障の歴史と構造 1 世界の社会保障の歴史 ② 第 2 次世界大戦後の社会保障の概要と社会保障の歩み。	事前学習	テキスト第 8 章 pp.251～258 を 1 回以上は読了すること。
		事後学習	テキスト第 8 章 pp.251～258 を復習すること。
第 4 回	第 8 章 社会保障の歴史と構造 2 日本の社会保障の歩み ① わが国の社会保障も、イギリスやドイツなどの政策に学び発展した。明治期以降の歩みを学ぶ。	事前学習	テキスト第 8 章 pp.258～268 を 1 回以上は読了すること。
		事後学習	テキスト第 8 章 pp.258～268 を復習すること。
第 5 回	第 8 章 社会保障の歴史と構造 2 日本の社会保障の歩み ② 第 2 次世界大戦後の社会保障の概要と社会保障の歩み。	事前学習	テキスト第 8 章 pp.258～268 を 1 回以上は読了すること。
		事後学習	テキスト第 8 章 pp.258～268 を復習すること。
第 6 回	第 8 章 社会保障の歴史と構造	事前学習	テキスト第 8 章 pp.268～274 を 1 回以上は読了すること。

	3 社会保障の機能	事後学習	テキスト第 8 章 pp.268～274 を復習すること。
第 7 回	第 8 章 社会保障の歴史と構造	事前学習	テキスト第 8 章 pp.274～293 を 1 回以上は読了すること。
	4 社会保障の財政 5 現在の社会保障の課題と今後の展望	事後学習	テキスト第 8 章 pp.274～293 を復習すること。
第 8 回	第 1 章 医療保険	事前学習	テキスト第 1 章 pp.13～20 を 1 回以上は読了すること。
	1 医療サービスを保障する仕組み	事後学習	テキスト第 1 章 pp.13～20 を復習すること。
第 9 回	第 1 章 医療保険	事前学習	テキスト第 1 章 pp.21～28 を 1 回以上は読了すること。
	2 被保険者と保険料	事後学習	テキスト第 1 章 pp.21～28 を復習すること。
第 10 回	第 1 章 医療保険	事前学習	テキスト第 1 章 pp.28～39 を 1 回以上は読了すること。
	3 保険給付	事後学習	テキスト第 1 章 pp.28～39 を復習すること。
第 11 回	第 1 章 医療保険	事前学習	テキスト第 1 章 pp.39～45 を 1 回以上は読了すること。
	4 診療報酬と薬価基準	事後学習	テキスト第 1 章 pp.39～45 を復習すること。
第 12 回	第 1 章 医療保険	事前学習	テキスト第 1 章 pp.45～55 を復習すること。
	5 高齢者医療制度	事後学習	テキスト第 1 章 pp.45～55 を 1 回以上は読了すること。
第 13 回	第 1 章 医療保険	事前学習	テキスト第 1 章 pp.56～61 を 1 回以上は読了すること。
	6 国民医療費	事後学習	テキスト第 1 章 pp.56～61 を復習すること。
第 14 回	第 1 章 医療保険	事前学習	テキスト第 1 章 pp.61～71 を 1 回以上は読了すること。
	7 医療提供体制 各自レポート課題①の提出。	事後学習	テキスト第 1 章 pp.61～71 を復習すること。
第 15 回	第 2 章 生活保護と社会福祉制度	事前学習	テキスト第 2 章 pp.73～82 を 1 回以上は読了すること。
	1 生活保護制度① レポート課題①の解答と解説	事後学習	テキスト第 2 章 pp.73～82 を復習すること。レポート課題①の解答と解説を復習すること。
第 16 回	第 2 章 生活保護と社会福祉制度	事前学習	テキスト第 2 章 pp.73～82 を 1 回以上は読了すること。
	1 生活保護制度② レポート課題①の解答と解説	事後学習	テキスト第 2 章 pp.73～82 を復習すること。 レポート課題①の解答と解説を復習すること。
第 17 回	第 2 章 生活保護と社会福祉制度	事前学習	テキスト第 2 章 pp.83～100 を 1 回以上は読了すること。
	2 社会福祉制度 レポート課題②の提示	事後学習	テキスト第 2 章 pp.83～100 を復習すること。
第 18 回	第 2 章 生活保護と社会福祉制度	事前学習	テキスト第 2 章 pp.100～108 を 1 回以上は読了すること。
	3 社会手当	事後学習	テキスト第 2 章 pp.100～108 を復習すること。
第 19 回	第 3 章 介護保険	事前学習	テキスト第 3 章 pp.109～116 を 1 回以上は読了すること。
	1 介護保険サービスを保障する仕組み 2 保険者	事後学習	テキスト第 3 章 pp.109～116 を復習すること。
第 20 回	第 3 章 介護保険	事前学習	テキスト第 3 章 pp.116～145 を 1 回以上は読了すること。
	3 被保険者と保険料 4 保険給付 5 介護提供体制 6 権利擁護	事後学習	テキスト第 3 章 pp.116～145 を復習すること。
第 21 回	第 5 章 雇用保険	事前学習	テキスト第 5 章 pp.189～204 を 1 回以上は読了すること。
		事後学習	テキスト第 5 章 pp.189～204 を復習すること。
第 22 回	第 6 章 労働者災害補償保険	事前学習	テキスト第 6 章 pp.205～222 を 1 回以上は読了すること。
		事後学習	テキスト第 6 章 pp.205～222 を復習すること。
第 23 回	第 7 章 社会保険と民間保険	事前学習	テキスト第 7 章 pp.223～250 を 1 回以上は読了すること。
	1 保険の仕組み 2 社会保険と民間保険 3 民間保険の種類と働き	事後学習	テキスト第 7 章 pp.223～250 を復習すること。
第 24 回	映画『シッコ』（113 分）を上映	事前学習	ネット等で映画『シッコ』のあらましを読んでおくこと。
		事後学習	テキスト第 7 章 pp.215～242 を再度、復習すること。
第 25 回	映画『シッコ』の続きを上映	事前学習	テキスト第 4 章 pp.146～157 を 1 回以上は読了すること。
	第 4 章 年金 1 所得を保障する仕組み	事後学習	テキスト第 4 章 pp.146～157 を復習すること。
第 26 回	第 4 章 年金	事前学習	テキスト第 4 章 pp.157～172 を 1 回以上は読了すること。
	2 被保険者と保険料 3 老齢年金	事後学習	テキスト第 4 章 pp.157～172 を復習すること。
第 27 回	第 4 章 年金	事前学習	テキスト第 4 章 pp.173～178 を 1 回以上は読了すること。
	4 財政方式	事後学習	テキスト第 4 章 pp.173～178 を復習すること。
第 28 回	第 4 章 年金	事前学習	テキスト第 4 章 pp.178～188 を 1 回以上は読了すること。
	5 障害年金 6 遺族年金 7 年金の業務体制 8 企業年金など 各自レポート課題②の提出	事後学習	テキスト第 4 章 pp.178～188 を復習すること。
第 29 回	レポート課題②の解答と解説 総まとめ①	事前学習	第 1 回～28 回までの講義を総復習する。
		事後学習	レポート課題②の解答と解説を復習する。
第 30 回	総まとめ②	事前学習	第 1 回～29 回までの講義を総復習する。
		事後学習	第 1 回～29 回までの講義を総復習する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	就労支援 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP3302
2. 授業担当教員	卯尾 章		SSMP3102
4. 授業形態	講義・ディスカッション等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会福祉士が行う相談援助業務の一部として位置づけられる就労支援は、福祉サービスの利用者として位置づけられてきた人々が広い意味での「就労」を通して自立や社会参加を実現していくための支援として重要性を増している。</p> <p>この授業では、テキストを使用して就労支援に係る関係法規や制度、就労支援に関わる組織・団体や専門職についての知識を習得する。</p> <p>就労支援に関する基本的な内容を理解したうえで、就労支援が実際にどのように行われているのかを具体的な事例をもとに学習し、応用力を養っていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労支援が求められる背景について理解し、説明することができる。 2. 労働施策の概要について理解し、説明することができる。 3. 就労支援制度について理解し、説明することができる。 4. 就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解し、説明することができる。 5. 就労支援における支援のプロセスについて理解し、説明することができる。 6. 就労支援を行ううえで社会福祉専門職に求められる価値観、視点、態度について理解し、自分の言葉でまとめることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題</p> <p>・「ADA (障害を持つアメリカ人法)」と「EU均等待遇指令」についてまとめ、合理的配慮についての自身の意見を述べる。</p> <p>・2000字程度とする。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>朝日雅也・布川日佐史編著</p> <p>『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック第 16 巻 就労支援 (第 2 版)』ミネルヴァ書房、2013 年。</p> <p>【参考書】</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会</p> <p>『新・社会福祉士養成講座第 18 巻 就労支援サービス (第 3 版)』中央法規、2013 年。</p> <p>この他、必要に応じて参考資料等を使用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度とレポート等を総合して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 30% 2. 小テスト 30% 3. レポート 40% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>毎回の授業時、基本用語等について質問をするので、事前・事後の学習を必ず行っておくこと。</p> <p>履修にあたっては、次のことを最低限守ってほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指定の教科書は、授業の際必ず持参してくること。 2. 別途配布する資料は、正しく整理して必ず保管しておくこと。 3. 授業中の私語や携帯電話は禁止する。 		
13. オフィスアワー	授業時間の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義の概要) 働くことの意味、国際機関の考え方 討議=ディーセントワークとは何か	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 ディーセントワークについて自分の考えをノートにまとめておく。
第 2 回	雇用・就労の動向と施策 (1) 労働市場の変化について 就業率、福祉的就労、ワーク・ライフ・バランス等	事前学習	福祉的就労、ワークライフバランスについて調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。
第 3 回	雇用・就労の動向と施策 (2) 労働に関する法律と制度について 労働法規、公的保険、雇用対策法等	事前学習	障害者関連の労働法規について調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。社会保険と公的扶助について整理しておく。
第 4 回	障害者と就労支援 (1) 障害者の就労の現状について 障害者総合支援法、障害者雇用率制度等	事前学習	障害者総合支援法について調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。障害者雇用率制度について整理しておく。
第 5 回	障害者と就労支援 (2) 福祉分野、雇用分野のサービス体系と組織について 就労移行支援事業、就労継続支援事業、雇用義務制度	事前学習	就労移行・継続の事業体系を調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。福祉分野、雇用分野のサービス体系について整理しておく。
第 6 回	障害者と就労支援 (3) 特別支援学校、個別の教育支援計画、民間での取り組み (特例子会社制度) 等	事前学習	特例子会社制度について調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 実雇用率の推移を把握しておく。特例子会社制度

			の概念図を説明できるようにしておく。
第 7 回	障害者と就労支援（４） 障害者差別禁止法アプローチと障害者雇用率制度 アプローチについて	事前学習	障害者差別解消法について調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 障害者差別禁止法アプローチ、障害者雇用率制度アプローチについて整理し、説明できるようにしておく。
第 8 回	低所得者と就労支援（１） 低所得者就労の現状について 生活保護受給世帯、母子世帯、ホームレス等	事前学習	生活保護受給者数の変遷について調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 生活保護受給世帯の就労の現状について、理解できたことをまとめておく。
第 9 回	低所得者と就労支援（２） 生活保護受給世帯への就労支援について 自立概念、自立支援プログラム、第二のセーフティ ネット等	事前学習	社会福祉基礎構造改革での「自立」概念について把握しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 生活保護の自立支援プログラムに基づく就労支援の概要をノートにまとめておく。
第 10 回	低所得者と就労支援（３） 母子世帯、ホームレスの就労支援について	事前学習	母子世帯、ホームレスへの支援サービス組織について調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 母子世帯、ホームレスの就労支援についての福祉事務所、ハローワーク等の専門機関の役割についてまとめる。
第 11 回	福祉、雇用等の各施策における専門職の役割について	事前学習	障害者福祉施策・雇用施策の専門職、低所得者等の就労支援における専門職についてあらかじめ調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 各専門職の役割を整理し、まとめておく。
第 12 回	就労支援の連携過程、就労支援におけるケアマネジメントネットワークについて	事前学習	就労支援におけるケアマネジメントの流れについて考察しておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。
第 13 回	連携の実際（１） 障害者の就労支援における連携について、事例に基づきグループ討議を行い、発表する。	事前学習	グループ討議のために事前に配布したレジュメを読み、自分の意見をまとめておく。
		事後学習	討議したことについて振り返り、まとめておく。
第 14 回	連携の実際（２） 低所得者の就労支援における連携、特別支援学校の就労支援における連携について、事例に基づきグループ討議を行い、発表する。	事前学習	グループ討議のために事前に配布したレジュメを読み、自分の意見をまとめておく。
		事後学習	討議したことについて振り返り、まとめておく。
第 15 回	新たな就労支援の対象者（ワーキングプア、ニート等） について 全体のまとめ	事前学習	ワーキングプア、ニートについて調べておく。
		事後学習	講義内容の振り返りと講義中に示した重要語句を整理しておく。 これまでの学習を振り返り、レジュメ等を整理し、今後の学習につなげる。

1. 科目名 (単位数)	授業研究 (総合学習を含む) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2320
2. 授業担当教員	鈴木 取			
4. 授業形態	講義・グループ協議・発表・レポート作成など		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	この講義は、「小学校で実践されている授業についての研究」と「総合的な学習の時間」の内容について学習を深める。 小学校での教育が目指す方向性について学習指導要領の趣旨や目指すべき学力観について正しく理解するとともにより良い授業を目指すために「評価」という観点から考察検討していく。 小学校教育の基本は「授業」であり、授業にかかわる児童の姿や教師の教材研究などについて授業実践例を基にして考えを深めたいと考えている。 さらに「総合的な学習の時間」に関しても、その内容や具体的な事例などを踏まえて、「総合的な学習の時間」の進め方などを踏まえて実践する。			
8. 学習目標	(1)学習指導要領の趣旨や内容を理解する。 (2)目指すべき学力観について理解する。 (3)授業の評価の実際について理解する。 (4)総合的な学習の時間の導入の趣旨や内容について理解する。 (5)総合的な学習の時間の実際について理解する。 (6)自ら課題を見付け、調べ、まとめ、発表し新たな課題を見出す総合的な学習の時間の学習の流れを実践を通して理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	2回のレポート提出を行う。レポート課題については、改めて知らせる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】前田勝洋著『カンタンでグッとくる「見つけ学習」のすごさ』黎明書房、2012。 プリント資料も適宜配付する。 【参考書】文部科学省『小学校学習指導要領解説・総則編』東洋館出版社、2008。 東京福祉大学 編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の15% 2 中間課題レポート 総合点の35% 3 期末課題レポート 総合点の35% 4 日常の学習状況 総合点の15%			
12. 受講生への メッセージ	「教師は授業で勝負する」とは、多くの教員の間で言われていることだ。この授業の内容は日々の指導に直接かかわる内容だ。しっかりと授業内容を理解して、具体的内容とその背後にある理論を自分のものとし、将来の教職で活かして行ってほしいと思う。 また、教室内での学習中のマナーを守り、積極的に授業に参加するとともに、併せて必要な自宅学習も確実に取り組むこと。			
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	学習指導要領に示されている「生きる力」「確かな学力」について	事前学習	平成 20 年の学習指導要領で示された基本的理念を、まとめる。	
		事後学習	学習指導要領の基本理念の理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。	
第2回	「確かな学力」を育てる授業について	事前学習	「確かな学力」について、資料からまとめる。	
		事後学習	「確かな学力」を育てる授業の理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。	
第3回	「見つけ学習」の目指すところについて 教科書 pp.9～19	事前学習	「見つけ学習」が何を目指しているか教科書で調べる。	
		事後学習	「見つけ学習」について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。	
第4回	「見つけ学習」の進め方①について （「見つけ学習」のステップ 1～4） 教科書 pp.20～29	事前学習	「見つけ学習」のステップ 1～4 を教科書からまとめる。	
		事後学習	ステップ 1～4 の学習をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。	
第5回	「見つけ学習」の進め方①について （「見つけ学習」のステップ 5～8） 教科書 pp.30～37	事前学習	「見つけ学習」のステップ 5～8 を教科書からまとめる。	
		事後学習	ステップ 5～8 の学習をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。	
第6回	「見つけ学習」の進め方①について （「見つけ学習」のステップ 9～13） 教科書 pp.37～47	事前学習	「見つけ学習」のステップ 9～13 を教科書からまとめる。	
		事後学習	ステップ 9～13 の学習をまとめ、本時の学習ポイントを整理する。	
第7回	「見つけ学習」の各教科での進め方について② 国語、社会について 教科書 pp.48～59	事前学習	各教科での「見つけ学習」の進め方の国語と社会について教科書を読む。	
		事後学習	国語と社会の指導の仕方のポイントを整理する。	

第 8 回	「見つけ学習」の各教科での進め方について② 数学、理科、総合的な学習の時間 教科書 pp.59～69	事前学習	各教科での「見つけ学習」の進め方の理科、算数等の教科書を読む。
		事後学習	理科、算数等の指導の仕方のポイントを整理する。
第 9 回	「見つけ学習」で学力をさらに高めるワザ 1～6 について 教科書 pp.70～81	事前学習	学力をさらに高めるワザ 1～6 を教科書で調べる。
		事後学習	学力をさらに高めるワザ 1～6 のポイントを整理する。
第 10 回	「見つけ学習」で学力をさらに高めるワザ 7～11 について 教科書 pp.81～87	事前学習	学力をさらに高めるワザ 7～11 を教科書で調べる。
		事後学習	学力をさらに高めるワザ 7～11 のポイントを整理する。
第 11 回	学び合いを高める九つのワザと学習規律について 教科書 pp.88～108	事前学習	話し合いを高める九つのワザを、教科書で確認する。
		事後学習	学び合いを高める九つのワザと学習規律について学習ポイントを整理する。
第 12 回	指導案の作成の仕方について 「指導過程の書き方について」	事前学習	指導過程の書き方について、資料からその書き方を考える。
		事後学習	指導過程の書き方での注意事項を整理する。
第 13 回	指導案 I の作成①（教材研究）	事前学習	指導案を作成する授業内容について、事前調べをする。
		事後学習	教材研究での課題について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 14 回	指導案 I の作成②（指導案作成）	事前学習	指導案の検討をする。
		事後学習	指導案作成での課題について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	模擬授業及び検討会	事前学習	指導案の再検討をする。
		事後学習	2 回目の模擬授業について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

1. 科目名 (単位数)	生涯学習概論 (4 単位)	3. 科目番号	GELA2329 EDTC2308
2. 授業担当教員	横井 明廣		
4. 授業形態	講義、演習 (調査研究、グループワーク含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「社会教育主事」(基礎資格)取得希望者は、3・4年次に専門科目の履修が計画されており、本科目は、2年次に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	「生涯学習」とは、「自己の充実」、「生活の向上」、「職業能力の向上」について、自ら学ぶ内容を選択し、よりよい人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習である。本科目は、「生涯学習」の基本的な考え方と実際の生涯学習活動について概説することを通して、受講者一人ひとりが、「生涯学習」の意義を理解し、自己の充実・キャリア形成に役立てることを目的とする。同時に、生涯学習社会の実現に向けた学習活動を支える専門職員である「社会教育主事」「司書」「学芸員」の役割について学び、行政・民間レベルでの様々な取り組みについて理解を深めるとともに、自ら「生涯学習講座」を企画・立案することを通して、専門職員としての基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指す。		
8. 学習目標	この授業の目的は、「生涯学習」を学ぶ過程において、自ら生涯にわたって学び続ける姿勢を養うとともに、よりよい人生と社会の実現に向けて、自ら考え実践する力を身につけることである。 そのために次の5つの到達目標を設定する。 1)「生涯学習」を支える理念・思想について理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2)「生涯学習」の現代的意義を理解した上で、生涯学習社会に向けた行政・民間レベルでの諸活動の役割について、わかりやすく説明することができる。 3)「社会教育主事」に求められる役割を理解した上で、社会教育活動を企画・立案することができる。 4)地域の生涯学習・社会教育の実践に関心をもち、ボランティア活動等に積極的に参加することができる。 5)「生涯学習」の学びの成果を、自己の生活の質の向上やキャリア形成に生かすことができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	① 県や各市町村の生涯学習推進についての資料を収集する。 ② 各市町村や民間企業に開講している講座内容や種類等の実態を調査する。 ③ 生涯学習講座を立案し、レポートとして提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山本恒夫・浅井経子・渋谷英章編『生涯学習論』文憲堂、2007、1,944円(税込)。 伊藤俊夫執筆・編集代表 国立教育政策研究所『新訂生涯学習概論』ぎょうせい、2010、1,543円(税込)。 【参考書】 生涯学習・社会教育行政研究会編 『生涯学習・社会教育行政必携 平成24年版』第一法規、2011、4,860円(税込)。 井内慶次郎監修 山本恒夫・浅井経子 編『生涯学習「答申」ハンドブック』文憲堂、2004、3,240円(税込)。 【教材】 地方公共団体並びに民間施設の事業案内		
11. 成績評価の方法	・レポート等 総合点の50% (小テスト、宿題等含む) ・授業態度 総合点の20% ・授業参加態度 総合点の30% レポートの採点にあたっては、①文字の正確さ等(誤字・脱字がなく、小見出し・段落・句読点等が適切なこと)、②課題の趣旨を的確にとらえており、論理的なこと、③自分の考え方を述べており、その考えに妥当性があること等を評価の視点とする。 ・無断欠席者には、その都度小レポートを課す。(課題は、出席時に指示する)		
12. 受講生へのメッセージ	受講生に期待する学習態度 ① 授業中は緊張感と集中力を保って受講すること。私語を慎み、居眠りなどをしないこと。 ② わからないことをそのままにしないこと(積極的に質問を行うとともにオフィスアワー等を活用する)。 ③ レポート、アサイメント等は、期日までに提出すること。 ④ 正当な理由無しに欠席等はしないこと(止むを得ず欠席する場合は、書面で教員に提出する)。 ⑤ 携帯電話の授業中の作動は厳禁である。 ⑥ 社会教育施設(公民館、青少年教育施設等)で実施する主催事業への参加やボランティア活動体験を期待する。		
13. オフィシアワー	授業時間前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(講義概要、教材、評価の方法、約束等)	事前学習	シラバスを事前によく読み、学習する内容を確認しておく。
		事後学習	本講義の概要や学習目標、約束ごと等をしっかり理解する。
第2回	教育基本法・社会教育法と生涯学習について	事前学習	教育基本法に示されている生涯学習に関することに重点において熟読する。
		事後学習	国や地方自治体が生涯学習の必要性を認め、振興を図ろうとしていることを理解する。
第3回	生涯学習の定義と意義について	事前学習	学習とは何か、いろいろな次元を通して考える。
		事後学習	変化の激しい時代を生き抜くためには、資質・能力の開発をすることが大切であることを理解する。

第 4 回	生涯学習の必要性について	事前学習	社会の変化について、現実にはどのようなことが起きているかを考える。
		事後学習	知識社会に生きるならば、学習が日常的生活と切り離すことができないことを理解する。
第 5 回	生涯教育から生涯学習への変遷について	事前学習	時代の変遷とともに生き方、考え方が変わることを考える。
		事後学習	教育と学習の違いについて OECD の報告書から理解する。
第 6 回	生涯学習と社会教育について	事前学習	生涯学習を推進する視点から、社会教育の範囲について考える。
		事後学習	生涯学習の普及・発展のために社会教育がいかに重要な役割を持っているかを理解する。
第 7 回	生涯学習と学校教育について	事前学習	生涯学習における学校教育の占める位置について考える。
		事後学習	学校と地域・家庭とが一緒になり地域全体の教育力を高めることを理解する。
第 8 回	生涯学習と家庭教育について	事前学習	親や年長者が子どもを育てるために意図的に行うことは何かを考える。
		事後学習	父母その他の保護者が生活のために必要な習慣等を身に付け、育てることを理解する。
第 9 回	「新しい公共」と生涯学習の推進について	事前学習	自らの学習活動が、周囲や集団に影響を及ぼすことを考える。
		事後学習	公と民に二分された関係ではなく、協働して社会をつくり、発展させることを理解する。
第 10 回	生涯学習支援ネットワークの構築について	事前学習	情報をうまく交換することが、次へ繋がることを考える。
		事後学習	構築によって学習資源が増えるため、多様な学習機会等の提供が行えることを理解する。
第 11 回	生涯学習推進と大学の役割について	事前学習	大学のもつ文化・社会状況に適合した多様な機能について考える。
		事後学習	教育・研究ばかりでなく、地域社会に存在する教育要求に応える新しい大学像があることを理解する。
第 12 回	社会教育の意義と課題について	事前学習	社会教育について、既習して得た知識をまとめる。
		事後学習	地域社会の自立、社会の活性化、社会参画等と社会教育との関わりについて理解する。
第 13 回	青少年教育の意義と課題について	事前学習	青少年教育について、既習して得た知識をまとめる。
		事後学習	家庭や学校の積極的な理解・協力で生活・自然・社会体験の機会が充実していくことを理解する。
第 14 回	成人教育の意義と課題について	事前学習	成人教育について、既習して得た知識をまとめる。
		事後学習	家庭生活、職業能力、健康・体力、老い等に対しての知識、能力を得ることを理解する。
第 15 回	高齢者教育の意義と課題について	事前学習	高齢者教育について、既習して得た知識をまとめる。
		事後学習	福祉との違いを見出し、人間の個人としての可能性を発達させ、営みの尊厳を理解する。
第 16 回	社会教育の内容について	事前学習	地域ではどんな学級や講座が開かれているか調査したことを発表する。
		事後学習	社会教育講座の傾向を把握し、その理由を考え、さらに学習機会を積極的に支援していくことの必要性を理解する。
第 17 回	社会教育の方法について	事前学習	自主性・主体性を尊重した学習の手段・方法・形態を考える。
		事後学習	集団学習と集会学習、個人学習があり、参加者同士の目的や知識、技能の伝達等多様であることを理解する。
第 18 回	社会教育関係団体・NPO・グループについて	事前学習	地縁からなる団体とグループやサークルからなる団体と区別されることを考える。
		事後学習	法人であると否を問わず社会教育の関する事業を行うことを主たる目的であることを理解する。
第 19 回	社会教育主事と社会教育委員について	事前学習	社会教育行政では、社会教育の推進を図るため、どのような制度であるか考える。
		事後学習	公的機関には社会教育主事、地域には社会教育委員が主として指導と推進に携わっていることを理解する。
第 20 回	生涯学習関連施設と社会教育施設について ・現地見学と学習	事前学習	生涯学習の拠点となっている施設について発表する。
		事後学習	社会教育活動を目的とした施設と社会教育の推進に事実上役立っている施設に分かれることを理解

			する。
第 2 1 回	公民館と公民館主事について ・現地見学と学習	事前学習	どのような事業や活動がされているか、調査したことを発表する。
		事後学習	公民館には、公民館主事が主として学習機会の提供、活動を支援することを理解する。
第 2 2 回	図書館と司書について ・現地見学と学習	事前学習	どのような事業や活動がされているか、調査したことを発表する。
		事後学習	図書館には、司書が主として資料の収集、整理、提供等に携わることをまとめる。
第 2 3 回	博物館と学芸員について ・現地見学と学習	事前学習	どのような事業や活動がされているか、調査したことを発表する。
		事後学習	博物館には、学芸員が主として資料収集、保存、展示等に携わることを理解する。
第 2 4 回	青少年教育施設と指導系職員について	事前学習	県内や市町村にどんな名称の施設があり、どのような事業や活動がされているか、調査したことを発表する。
		事後学習	この施設には事務系と指導系で構成され、専門職や社会教育主事が指導・助言することを理解する。
第 2 5 回	指定管理者制度と社会教育施設について	事前学習	施設の使用・相談等で違いがあるか調査したことを発表する。
		事後学習	公的な事務・事業について、民間開放を積極的に推進する方針が進められていることを理解する。
第 2 6 回	学習情報の提供と学習相談について	事前学習	学習するにあたり、学習者が何を求めているかを調査し、どのように伝えるかを考える。
		事後学習	学習者が求めている情報を入手しやすくし、学習者の学習上の悩みの相談に応じ、解決することを理解する。
第 2 7 回	時代に対応する学習プログラムの企画立案と作成について (個人別、グループ別討議)	事前学習	既習したことや市町村の生涯学習講座を参考に作成する。
		事後学習	学習者のニーズに応えた内容となっているか、互いに検証する。
第 2 8 回	時代に対応する学習プログラムの企画立案と作成について (個人別、グループ別討議)	事前学習	補足資料を収集し、作成を進める。
		事後学習	新たな情報や意見交換から補足・修正・加筆をする。
第 2 9 回	時代に対応する学習プログラムの企画立案と作成について (個人別、グループ別討議) (発表と討議)	事前学習	提出するレポート「生涯学習講座」の最終確認をする。
		事後学習	作成した「生涯学習講座」で最も力点を置いた点を中心に、どのように発表するか、その内容をよく確認し発表する。
第 3 0 回	総まとめ	事前学習	発表を振り返る。
		事後学習	自己の学習をまとめ、生涯学習の必要性をもち、自らも取り組んでいくことを決意する。

1. 科目名 (単位数)	障害児・者の心理 (2 単位)		3. 科目番号	EDPS3304 SBMP3332 SSMP3332 PSMP3124
2. 授業担当教員	松浦 直己			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	様々な障害の特性によってもたらされる様々な心理的影響を知り、併せて、それぞれの障害を持つことでの発達段階に応じた心理的影響も理解する。また、障害を持つ当事者だけでなく、その人を取り巻く家族の心理を理解する。そして、障害の特性に応じた心理的援助のあり方について学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な障害の種類について理解し、一般的な心理的傾向を把握し、説明することができる。 2. 障害児・者を持った家族の心理を理解し、説明することができる。 3. 障害受容の一般的な過程とその実態について理解し、説明することができる。 4. 障害に種別に応じた援助のあり方を理解し、自分の考えを述べるることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートを課す。(後半) 深く調べたい障害や疾患に関する書籍を一冊選び、その内容について3,000字程度でまとめること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 石部元雄 他著『よくわかる障害児教育 第二版』、ミネルヴァ書房、2009。 【参考書】 昇地勝人・蘭香代子・長野恵子・吉川昌子編『障害特性の理解と発達援助 第二版』ナカニシヤ出版、2006。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。			
11. 成績評価の方法	受講態度 40% レポート 30% 授業前の小テスト試験 30%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達を中心に学ぶこと。自身の人格形成を視野に入れて学習すること。 2. 講義中は良く聞き良く考え、そして復習すること。疑問点や理解が困難な点は放置せず、質問・自習・文献による検討などを行うようにすること。 3. ディスカッションやグループワーク等を通して心理学的な感覚 (センス) を磨き、心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 4. 授業開始時間を守る。レポートの提出日を厳守すること。 			
13. オフィスアワー	火曜日の午後。事前にメールでアポイントをとること。 namatsuu@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 「障害をもつこと」とその心理 (本人、家族、社会)	事前学習	講義用のスライドは配布するが、事前事後学習、小テストの備えなどに活用すること。教科書の第一章を熟読すること。	
		事後学習	配布された講義資料を学習ノートにまとめる。	
第2回	運動障害の心理的特性と援助①	事前学習	テキストの運動障害の脳性マヒについて熟読し、予習する。	
		事後学習	脳性マヒの生理・病理について復習する。	
第3回	運動障害の心理的特性と援助②	事前学習	テキストの運動障害の筋ジストロフィーについて熟読し、予習する。	
		事後学習	筋ジストロフィーの病理について復習する。	
第4回	視覚障害の心理的特性と援助	事前学習	脳性マヒと筋ジストロフィーの病理に関するテスト学習をする。	
		事後学習	目の構造について生理学的に理解し、描写した上で各部分を書けるようにしておく。	
第5回	聴覚障害の心理的特性と援助	事前学習	視覚障害の原因や障害の種類についてまとめる。	
		事後学習	目の構造について生理学的に理解し、描写した上で各部分を書けるようにしておく。	
第6回	知的障害・重複障害の心理的特性と援助	事前学習	聴覚障害の原因や障害の種類についてまとめる。	
		事後学習	知的障害のIQ分布について復習する。	
第7回	精神障害の心理的特性と援助① (統合失調症)	事前学習	知的障害の合併症やそこから由来する生活上の問題点についてまとめる。	
		事後学習	統合失調症のタイプと治療法について理解すること。	
第8回	精神障害の心理的特性と援助② (うつ病等)	事前学習	統合失調症の中核症状と周辺症状についてまとめる。	
		事後学習	気分障害の定義とその治療法についてまとめること。	
第9回	発達障害の心理的特性と援助① (自閉スペクトラム症)	事前学習	気分障害の中の、単極性障害と双極性障害についての学習をする。	
		事後学習	自閉スペクトラム症のタイプとその特徴について復習する。	
第10回	発達障害の心理的特性と援助② (注意欠如多動症、限局性学習症)	事前学習	自閉スペクトラム症の中核症状と合併症についての学習をする。	

		事後学習	ADHD のタイプ分類とその治療法について復習する。
第 1 1 回	障害児・者の心理的理解と援助の技法 レポート：深く調べたい障害や疾患に関する書籍を一冊選び、その内容について 3,000 字程度でまとめること。	事前学習	ADHD の症状と特徴の学習をする。
		事後学習	興味のある疾患について詳細にまとめること。できるだけ 2 冊以上の書籍にあたるのが望ましい。
第 1 2 回	心理検査 WISCIV	事前学習	個別式知能検査に関する予習。
		事後学習	検査の目的や下位検査の内容についてまとめること。
第 1 3 回	心理検査 ITPA, 新版 K 式	事前学習	個別式知能検査に関する予習。
		事後学習	検査の目的や下位検査の内容についてまとめること。
第 1 4 回	人的環境および物的・社会環境と障害児・者援助	事前学習	学校や施設での生活で、障害児・者が受ける不利益についてまとめる。
		事後学習	配布した資料をまとめる。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	これまでの資料を全体的に総括し、質問等をまとめること。
		事後学習	今までの内容の復習、理解できないところを質問する。

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2301
2. 授業担当教員	河口 尚子		SSMP2101
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるように知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>		
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具体的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の他職種連携・ネットワーキング ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、コメント用紙を提出のこと。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第 5 版)』中央法規。</p> <p>参考図書等については随時提示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>評価方法：</p> <p>授業態度：20%</p> <p>日常的な授業での達成度 (課題・コメント用紙の提出状況など)：30%</p> <p>小テスト：8 回目 20% 15 回目 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>社会福祉援助における理念は、障害者福祉から生まれたものが中心になっている。そういう意味でも、障害者福祉論をしっかり学ぶことが、社会福祉援助を理解するうえでも重要である。</p> <p>復習をしっかり行ってほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストの授業内容をしっかり読んで復習して下さい。 2. 特に授業で配った資料は要点をおさえているので隅々まで目を通し復習して下さい。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間、これ以外の時間については、教務課に相談しアポイントを取ってください。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 障害者福祉の基本理念 1 ・人権思想	事前学習	シラバスに目を通し、ノートを準備し授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み、人権思想についての要点をまとめる。
第 2 回	障害者福祉の基本理念 2 ・人権思想に対立する思想 ・ノーマライゼーション	事前学習	人権に対立していると思うものについて具体的に考えてくる。
		事後学習	授業をふまえ、人権・ノーマライゼーションについて自分の考えを文章にまとめる。
第 3 回	障害者福祉の基本理念 3 ・リハビリテーションの変遷と自立生活 (IL) 運動	事前学習	テキスト (リハビリテーションの変遷と自立生活運動) を読み、授業に臨む。
		事後学習	授業で紹介した参考文献を読み、理解を深める。
第 4 回	障害者制度の発展過程 1 ・戦前から高度経済成長期まで	事前学習	テキスト (戦前から高度経済成長期) を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み、重要な出来事・大きな流れを熟知する。
第 5 回	障害者制度の発展過程 2 ・国際障害者年以降の動向	事前学習	テキスト (国際障害者年以降の動向) を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み、重要な出来事・大きな流れを熟知する。

第 6 回	障害者制度の発展過程 3 ・社会福祉基礎構造改革と自立支援法	事前学習	テキスト（社会福祉基礎構造改革と自立支援法）を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み、重要な出来事・大きな流れを熟知する。
第 7 回	障害の概念 ・国際障害分類（ICIDH） ・国際生活機能分類（ICF） ・障害の社会モデル	事前学習	自分なりに「障害とは何か」について考えてくる。
		事後学習	授業を受けての自分の感想を文章にまとめる。
第 8 回	障害児・者の生活実態 ・身体障害児・者 ・知的障害児・者 ・精神障害者 ・発達障害 ・難病その他	事前学習	テキスト（障害者の生活実態）を読み、授業に臨む。
		事後学習	興味をもった障害分野について、さらに調べてみる。
第 9 回	障害児・者を取りまく社会情勢の変化とニーズ ・地域生活移行・就労の実態 ・ニーズについて	事前学習	障害児・者が抱える困難について取り上げた新聞記事を探して読む。
		事後学習	配布資料を元に自分の住んでいる町の状況について調べてみる。
第 10 回	障害関係各法の理解 1 ・障害者基本法 ・身体障害者福祉法 ・知的障害者福祉法	事前学習	テキスト（障害者基本法等）を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み返し、要点・全体像を把握する。
第 11 回	障害関係各法の理解 2 ・精神保健および精神障害者福祉に関する法律 ・発達障害者支援法 ・医療観察法	事前学習	テキスト（精神保健および精神障害者福祉に関する法律等）を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み返し、要点・全体像を把握する。
第 12 回	障害者総合支援法 1 ・総合支援法の成立の経緯 ・各法との関係	事前学習	テキスト（総合支援法）を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み返し、他法との関連、大きな流れ・全体像を把握する。
第 13 回	障害者総合支援法 2 ・総合支援法の概要 ・サービス提供の実際	事前学習	テキスト（総合支援法、支給決定のプロセス）を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み返し、法の具体的な内容について理解を深める。
第 14 回	障害者の権利擁護 ・ケアマネジメントと多職種連携 ・障害者虐待防止法の概要	事前学習	テキスト（専門職の役割、多職種連携）を読み、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み返し、権利擁護における専門職の役割について理解する。
第 15 回	まとめ ・障害者差別解消法の概要 ・障害者福祉の課題	事前学習	障害者差別解消法に関する記事についてチェックする。
		事後学習	障害者福祉の課題について、自分なりの意見を文章にまとめる。

1. 科目名 (単位数)	障害児療育 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2341
2. 授業担当教員	西脇 雅彦			SSMP2341
4. 授業形態	講義、DVD視聴、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>「療育」という用語は、狭義には障害の早期発見から就学までの取り組みの意味で使われ、広義には成人の生活支援も含み、医療・福祉・教育にまたがる分野で使われている。近年、明確な診断のない「気になる」子どもや被虐待児もその対象となり、ノーマライゼーションの理念の理解とともに発達や障害についての幅広い知識が必要となるばかりか、親支援や地域の子育て支援も保育士の重要な役割となっている。</p> <p>本科目では、知的障害、肢体不自由、視覚障害や聴覚障害、自閉症スペクトラムを含む発達障害、診断はないが「気になる」子どもを対象に、年齢は乳幼児から成人まで、場所は一般の保育所のみならず、病院内保育、施設内保育等、幅広い視野で「療育」を捉え、保育士としての専門性を培う。</p>			
8. 学習目標	<p>統合保育の場では、障害のある子どもやその子を支える家族の生活・心情をふまえた支援ができるとともに、障害のない子どもへの配慮や教育もできるようになる。また、専門機関においても、保育士としての専門性を発揮して、医療・福祉の専門化と連携して適切な支援ができるようになる。</p> <p>① 幅広い対象、場、形態に及ぶ「療育」の理念や概念について知る。 ② 障害に関する医療・社会福祉・教育の制度についての基礎知識を身に付ける。 ③ 障害のある子どものいる家族の生活や心情について共感できるようになる。 ④ 発達とその順序性についての基礎知識を基盤に、障害のある子どもの育ちに見通しをつけられるようになる。 ⑤ 様々な専門家の役割を知って、障害のある子どもや保護者を中心とした連携・協働ができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 幼稚園・保育所での実践に関する情報をボランティア活動などによって入手しておくこと。 2 参考文献であげた書籍の幾つかには目を通しておくこと。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】茂木俊彦著『統合保育で障害児は育つか 子育てと健康シリーズ 10』大月書店、1997。 【参考書】清水貞夫・小松秀茂著『統合保育 その理論と実際』学苑社、1987。 鯨岡峻著『障害児保育』ミネルヴァ書房、2009。 小林保子・立松英子著『保育者のための障害児療育』学術出版会、2015。</p>			
11. 成績評価の方法	授業態度 (30%)、期末試験 (70%)			
12. 受講生へのメッセージ	<p>各障害の原因や発達特性を理解することは、障害児の療育を進める上で必要不可欠な要件である。特に幼児児童の発達を正しく理解し、その世界や心理を熟知しなければ支援を進めることはできない。机上で学ぶ学習には限界があり、障害のある幼児一人ひとりの個性や特性を知り、深める事はできない。何よりも実際に触れ合うことが重要となってくる。是非、積極的にボランティア活動などを通して、かかわる機会を得るよう心がけていくこと。その場での疑問を講義の中で解決していくよう努めること。</p> <p>※授業には高い緊張感と集中力を持って参加し、質問があれば授業中でも自ら進んで教師に尋ねるよう心がけること。授業中の私語、携帯電話の使用、飲食等、他の受講者に迷惑のかかる行為は慎むこと。</p>			
13. オフィスアワー	時間・場所：第 1 回目のときに指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	◎オリエンテーション (講義概要の説明) 障害があるということとはどのようなことか		事前学習	教科書『統合保育で障害児は育つか』 pp.8～19「統合保育とは何か」の内容に目を通して講義に臨むこと。
			事後学習	「障害があるということ」はどんな不便や問題があるのか。どんな支援が望まれるのかについてまとめる。
第 2 回	障害種別の理解と保育① 「知恵遅れのある子」「肢体に障害」「病弱・身体虚弱」		事前学習	事前に配布された資料「障害児保育への道」 pp.14～61「入園当初の指導」の内容に目を通して講義に臨むこと。
			事後学習	「知恵遅れのある子」「肢体に障害」「病弱・身体虚弱」の子どもの発達と支援の在り方について、理解を深め、まとめておくこと。
第 3 回	障害種別の理解と保育② 「入園当初の指導」「見ることに障害」「聞こえに障害」		事前学習	事前に配布されたパワーポイント資料「障害児保育への道」 pp.14～61「入園当初の指導」の内容に目を通して講義に臨むこと。
			事後学習	「見ることに障害」「聞こえに障害」の子どもの発達と支援の在り方についてまとめる。
第 4 回	知的障害児の理解と支援		事前学習	事前に配布されたパワーポイント資料「知的障害児への支援」の内容に目を通して講義に臨むこと。
			事後学習	知的障害とは何か。知的障害の定義や認知の特性を中心に学び、その対応方法についてまとめる。

第 5 回	AD/HD (注意欠陥/多動性障害)	事前学習	事前に配布されたパワーポイント資料「AD/HD」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	AD/HD を発症する生物学的メカニズムと養育環境における発症の違いを理解し、それぞれの対応方法についてまとめる。
第 6 回	ダウン症の原因とその発達特性について	事前学習	事前に配布されたパワーポイント資料「ダウン症児・者への対応」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	ダウン症児の発達特性、合併症、指導上の留意点についてまとめる。
第 7 回	自閉症の原因とその発達特性について	事前学習	事前に配布されたパワーポイント資料「自閉症の世界」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	自閉症児の発達特性の理解を深め、不適応行動への対処方法についてまとめる。
第 8 回	肢体不自由児の原因と障害特性に応じた支援	事前学習	事前に配布されたパワーポイント資料「肢体不自由児への支援」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	肢体不自由の原因、障害の状態、支援に対する配慮事項についての理解を深め対処方法をまとめる。
第 9 回	感覚統合	事前学習	事前に配布されたパワーポイント資料「感覚統合」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	障害児の発達を促す方法に、「感覚統合」がある。その基本的な理論と実践の方法についてまとめる。
第 10 回	発達状態の把握と取り組み	事前学習	教科書『統合保育で障害児は育つか』 pp.37～61「発達状態の把握ととりくみ」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	発達の基盤、言語・認識の発達、人間関係の発達と集団参加、発達段階と保育についての基本的理解を深め、まとめる。
第 11 回	統合保育① 「子どもの理解と保育」	事前学習	事前に配布された資料「障害児保育入門」 pp.1～21「どの子にもうれしい保育」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	保育所、幼稚園に通う意義、保育の現状、幼稚園・保育所の生活と障害児の発達について理解を深め、まとめる。
第 12 回	統合保育② 「分離保育と統合保育」	事前学習	事前に配布された参考文献『統合保育』 pp.86～98「分離保育と統合保育」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	「分離保育」の利点や問題点、「統合保育」の利点、問題点についてまとめる。
第 13 回	統合保育③ 「統合保育の意義と問題」	事前学習	事前に配布された資料「統合保育」 pp.101～120「統合保育の意義と問題」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	「分離主義への反省」、「ノーマリゼーションと統合保育」、「統合保育の意義」、について理解を深め、考察できるようにまとめる。
第 14 回	統合保育④ 「統合保育の現状と課題」	事前学習	事前に配布された参考文献『統合保育』 pp.111～120「統合保育の現状と課題」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	「統合保育」が抱えている現状の問題点、ついて理解を深め、その課題をまとめる。
第 15 回	まとめ、今後の展望	事前学習	我が国における「統合保育」の現状の概要を学んだことから、自己が考える障害児保育の将来像について発表できるようにまとめ、講義に臨むこと。
		事後学習	「統合保育」を目指すのか、それとも「インクルージョン」を目指すのかなど、課題を踏まえながら自分なりの展望をまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	小学校教育実習指導 (1 単位)		3. 科目番号	EDTE2371 EDTE3371
2. 授業担当教員	北川 登			
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な教科書教材を題材とした学習指導案を作成し、模擬授業の実施、協議後、各自の考え等をレポート提出する。 レポート課題：「教育実習に臨む上で①あなたが心がけたいことはどんなことか、また②学級の子どもたちや先生方からどんなことを学びたいか」について1,200字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 宮崎猛編著『小学校・中学校・高校 完全対応 教育実習まるわかり』小学館、2012。 ※その他必要な資料、「教育実習の手引き」は適宜講義の中で配付します。			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 20% ・まとめレポート 30% ・課題レポート(学習指導案・模擬授業等) 50% 			
12. 受講生への メッセージ	教育実習は、大学における教員養成諸科目と関連させ、教育という営みをとらえ直し、併せて教育者としての自覚や、その資質の向上を図ることを目的としている。したがって、教育実習に参加する際、実習生は子どもの成長と発達に大きな影響を与えるものであることを自覚しつつ、誠実な研究的態度を持ってその成果をおさめるよう取り組むことが大切である。他方、教育実習は、教科・教科外活動の指導を通して子どもたちに実際に働きかけるものであるが、同時にそれは自分自身を教育する機会でもあることを肝に銘じること。 実習生は、実習期間中はこの両面の立場で学ぶことになるので、教員としての義務、責任、使命感、倫理性等が求められます。本授業で、教育実習の全体を理解するとともに、授業の構想と実践の基礎基本をしっかり学ぶこと。 受講にあたって、下記のことを留意すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には必ず出席し、常に緊張感と、集中力を保って受講すること。 2. 授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は厳禁。 			
13. オフィスアワー	講座終了時に受け付ける。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの確認 (講義概要の説明)、 教育実習の意義・目的・内容、心構え	事前学習	テキスト pp.10~21 を熟読し、教育実習の意義についてまとめる。	
		事後学習	教育実習の概要をつかむとともに、教員に求められる資質や、教育実習の心構えについてまとめる。	
第 2 回	小学校教育についての理解	事前学習	テキスト pp.4~9 を熟読し、小学校教育についての概略をつかむ。	
		事後学習	学校運営組織や服務、勤務についてその内容を学習ノートにまとめて提出する。	
第 3 回	学習指導要領と教育課程について	事前学習	新学習指導要領及び教育課程を提示し、予め目を通させる。	
		事後学習	教育課程改善の柱と教育課程の編成について学習したことをノートにまとめる。	
第 4 回	学習指導について	事前学習	テキスト pp.72~79 を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	児童の実態の捉え方をはじめ、発問と助言・板書の仕方やノートの取らせ方等実習で必要な内容を理解する。	
第 5 回	学習指導について	事前学習	テキスト pp.80~87 を熟読し、一単位時間の過程について考えさせる。	
		事後学習	学習指導の過程、組織、形態類型など学習指導に関する方法と技術についてノートにまとめて提出する。	
第 6 回	道徳指導について	事前学習	テキスト pp.56~57 を熟読し、道徳指導の概略をつかむ。	

		事後学習	道徳指導の目標と内容、資料の選択と扱い方、道徳指導の進め方などについて学習したことをノートにまとめる。
第 7 回	特別活動、総合的な学習の時間について	事前学習	テキスト pp.28～37、pp.70～71 を熟読し、特別活動・総合的な学習の時間の概略をつかむ。
		事後学習	特別活動の目標と内容、学級活動・学校行事の指導、総合的な学習の時間の内容と方法についてノートにまとめ提出する。
第 8 回	生徒指導について	事前学習	「生徒指導提要」を熟読し、生徒指導の概略をつかむ。
		事後学習	生徒指導の意義や内容、生徒指導の進め方など学習した内容をノートにまとめる。
第 9 回	学習指導案の作成について	事前学習	テキスト pp.46～47 を読み、学習指導案の作成について基本的事項をつかむ。
		事後学習	指導案例集を提示し、次時に道徳指導の指導案を作成することを伝える。
第 10 回	学習指導案の作成	事前学習	道徳資料「明るい心」（愛知県版）をもとに、指導資料を決め指導案の作成をする。
		事後学習	作成した指導案をグループでディスカッションし、次時からの模擬授業の指導過程を検討する。
第 11 回	模擬授業（低学年）	事前学習	低学年の道徳資料をもとに作成した指導案で模擬授業の準備をする。
		事後学習	模擬授業について意見交換、ディスカッションをし、その内容をまとめる。
第 12 回	模擬授業（中学年）	事前学習	中学年の道徳資料をもとに作成した指導案で模擬授業の準備をする。
		事後学習	模擬授業について意見交換、ディスカッションをし、その内容をまとめる。
第 13 回	模擬授業（高学年）	事前学習	高学年の道徳資料をもとに作成した指導案で模擬授業の準備をする。
		事後学習	模擬授業について意見交換、ディスカッションをし、その内容をまとめて提出する。
第 14 回	実習日誌の書き方	事前学習	予め「教育実習の手引き」を提示し、実習日誌の書き方の箇所を読ませておく。
		事後学習	先輩の実習日誌を参考に、書き方について把握する。ただし、自分の個性を出すように指導する。
第 15 回	まとめ（実りある教育実習のために）	事前学習	レポート課題「教育実習に臨む上で①心がけたいことはどんなことか、また②学級の子どもたちや先生方からどんなことを学びたいか」について 1,200 字程度でまとめ提出する。
		事後学習	提出されたレポートをもとに、各自発表し、実りある教育実習にすることを確認させる。

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1333
2. 授業担当教員	前川 泰彦		
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	1 年次以上		
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>		
8. 学習目標	<p>1 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>3 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。</p> <p>4 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。</p>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>中間レポート 「同じ犯罪をしながら、少年と大人でその取り扱いが異なる理由」 1,000 字程度</p> <p>期末レポート 「少年事件を扱う機関とその機能について記述せよ」 2,000 字程度</p>		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 伊藤富士江編著『司法福祉入門(第二版増補)』ぎょうせい、2015。		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度 30%</p> <p>演習 30%</p> <p>期末レポート 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>1 常に新聞・テレビなどのマスメディアに関心をよせ、社会事象である非行・犯罪問題について考える習慣を身につけてほしい。</p> <p>2 全員で授業に集中し、積極的に発言してより充実した授業内容にし、レポート作成により学んだことを自分のものにしていく方向で取り組んでほしい。</p> <p>なお、講義日程で調整がつけば、裁判所の公判傍聴を組み込む予定。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション(講義概要の説明) 少年非行・犯罪に関する基礎知識	事前学習	教科書 x 頁の図表 1 を学習する。
		事後学習	少年時代の処理の流れを理解する。
第 2 回	少年非行の概要	事前学習	教科書 pp.8~12 を精読する。
		事後学習	少年非行の推移を読み取る。
第 3 回	非行・犯罪の種類	事前学習	前 2 回の講義から非行の原因を考える。
		事後学習	非行類型論をノートにまとめる。
第 4 回	少年法の理念	事前学習	教科書 pp.13~38 を精読する。
		事後学習	少年を特別扱いにする理由をノートにまとめる。
第 5 回	警察・児童相談所における少年事件の取り扱い	事前学習	教科書 pp.103~133 を精読する。
		事後学習	児童相談所・児童自立支援施設の実態についてノートにまとめる。
第 6 回	家庭裁判所での調査	事前学習	教科書 pp.39~44 を精読する。
		事後学習	裁判所調査官の役割についてノートにまとめる。
第 7 回	少年鑑別所	事前学習	教科書 pp.134~157 を精読する。
		事後学習	鑑別所の果たすべき役割についてノートにまとめる。
第 8 回	最近の少年非行の態様	事前学習	教科書 pp.69~102 を精読する。
		事後学習	最近の非行の特色をノートにまとめる。
第 9 回	少年院の概要	事前学習	教科書 pp.159~204 を精読する。
		事後学習	少年院の種類と処遇の特色についてノートにまとめる。

第 1 0 回	更生保護の概要	事前学習	教科書 pp.207～236 を精読する。
		事後学習	更生保護の業務の内容をノートにまとめる。
第 1 1 回	保護観察の実際	事前学習	教科書 pp.237～277 を精読する。
		事後学習	少年の保護観察の特色についてノートにまとめる。
第 1 2 回	犯罪被害者の支援	事前学習	教科書 pp.281～384 を精読する。
		事後学習	犯罪被害者支援の必要性をノートにまとめる。
第 1 3 回	事例研究	事前学習	事前配布する事例研究方法を精読。
		事後学習	研究した事例の問題点をノートにまとめる。
第 1 4 回	健全育成・非行防止活動・少年とマスメディア	事前学習	地域社会での非行防止活動の情報を収集する。
		事後学習	効果的な非行防止活動の実践について考えノートにまとめる。
第 1 5 回	まとめ・レポート評価など	事前学習	これまでの講義での疑問点等を抽出する。
		事後学習	非行少年と福祉との関わりについて再認識し、ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GECM1104 GEBS1104
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、授業時間外の作業が必要な課題を課す。 1 Word・Excel・PowerPointの演習課題 2 教科書の該当箇所を読む 3 年2回程度のレポート課題 課題例) インターネットの歴史について		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】実教出版編修部編『最新 事例でわかる 情報モラル 改訂版』実教出版、2014。		
11. 成績評価の方法	授業態度	30%	
	課題への取り組み・提出状況	70%	
12. 受講生へのメッセージ	レポートの書き方など初めて学ぶことも多くあると思われる。わからないことはそのままにせず、調べる・人に聞くなどするように。質問はいつでも気軽にしてくれて構わない。 電子メール : shsuzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。在室中は、来客のない限りいつでも対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) Windows の基本操作 ファイル・フォルダの管理、 キーボードによる文字入力練習	事前学習	自分の周りのコンピュータ環境を把握する。
		事後学習	USB メモリを購入する。
第2回	WWW ウェブブラウザの使用方法、情報の検索	事前学習	情報倫理に関する教科書を読む。
		事後学習	Web ブラウザの使用方法について復習する。
第3回	Microsoft Word (1) : 文字の編集	事前学習	文字入力の練習をする。
		事後学習	文字入力・文字の装飾について復習する。
第4回	Microsoft Word (2) : 文章の整形	事前学習	講義内で使う文章データを作成する。
		事後学習	文章の整形について復習する。
第5回	Microsoft Word (3) : 図形描画 画像の挿入	事前学習	講義内で使うデータを作成する。
		事後学習	図・画像の挿入について復習する。
第6回	Microsoft Word (4) : 表の作成	事前学習	講義内で使うデータを作成する。
		事後学習	表の作成について復習する。
第7回	Microsoft Word (5) : ページ設定 スタイルの設定	事前学習	講義内で使うデータを作成する。
		事後学習	スタイルの設定について復習する。
第8回	Microsoft Word (6) : 目次の作成	事前学習	講義内で使うデータを作成する。
		事後学習	目次の作成について復習する。
第9回	Microsoft Word (7) : 文書作成まとめ (レポート作成)	事前学習	これまでに学習した Word の内容を復習する。
		事後学習	レポート作成に必要な資料を集める。
第10回	Microsoft Word (8) : 文書作成まとめ (レポート作成)	事前学習	レポート作成に必要な資料を集める。
		事後学習	作成したデータを提出するため体裁を整える。
第11回	Microsoft Excel (1) : 基本操作・データの入力	事前学習	Excel で出来ることを調べる。
		事後学習	基本操作について復習する。
第12回	Microsoft Excel (2) : 表・グラフの作成	事前学習	講義内で使うデータを作成する。
		事後学習	グラフ作成について復習する。
第13回	総合演習 (1) : Word Excel との連携	事前学習	コンピュータで扱う文書の種類を調べる。
		事後学習	Excel データを Word へ貼り付けする方法を復習する。
第14回	Microsoft Word (9) : 文書作成まとめ (レポート作成)	事前学習	レポートに必要な体裁について復習する。
		事後学習	レポート作成に必要な資料を集める。
第15回	Microsoft Word (10) : 文書作成まとめ (レポート作成)	事前学習	レポート作成に必要な資料を集める。
		事後学習	作成したデータを提出するため体裁を整える。
第16回	前半の復習、後半講義の概要	事前学習	Excel の基本操作について復習する。
		事後学習	Excel の基本操作・グラフ作成を復習する。

第 17 回	Microsoft Excel (3) : 関数の利用	事前学習	Excel 関数とは何か調べる。
		事後学習	Excel 関数について復習する。
第 18 回	Microsoft Excel (4) : データの並べ替え・抽出	事前学習	Excel データの利用方法・目的について調べる。
		事後学習	Excel を使ったデータの分析について復習する。
第 19 回	データベース データベースの作成と活用	事前学習	データベースとは何かについて調べておく。
		事後学習	Excel のデータベース利用について復習する。
第 20 回	Microsoft Power Point (1) : 基本操作、スライドの作成	事前学習	プレゼンテーションソフトについて調べる。
		事後学習	Power Point の基本操作について復習する。
第 21 回	Microsoft Power Point (2) : グラフの作成、図表・オブジェクトの挿入	事前学習	プレゼンテーション資料に必要なものについて調べる。
		事後学習	図などの挿入方法について復習する。
第 22 回	Microsoft Power Point (3) : 効果の追加 (アニメーション)	事前学習	コンピュータによるプレゼンテーションの特徴を調べる。
		事後学習	アニメーションの追加方法について復習する。
第 23 回	Microsoft Power Point (4) : 効果的なプレゼンテーションの基礎知識	事前学習	プレゼンテーション資料の役割を考える。
		事後学習	プレゼンテーション方法について復習する。
第 24 回	総合演習 (2) : テーマ設定、調査	事前学習	発表テーマについて考える。
		事後学習	発表に必要なデータを集める。
第 25 回	総合演習 (3) : 調査、レポート作成	事前学習	発表に必要なデータを集める。
		事後学習	発表内容に沿ったレポートを作成する。
第 26 回	総合演習 (4) : 調査、レポート作成、発表用資料作成	事前学習	発表内容に沿ったレポートを作成する。
		事後学習	発表用資料を作成する。
第 27 回	総合演習 (5) : レポート作成、発表用資料作成	事前学習	発表用資料を作成する。
		事後学習	発表用資料を作成する。
第 28 回	総合演習 (6) : 発表用資料作成	事前学習	発表に際し、不安な箇所がないか探す。
		事後学習	発表の練習をする。
第 29 回	プレゼンテーション演習	事前学習	発表の練習をする。
		事後学習	他者の発表を聞いてどう感じたか復習する。
第 30 回	講義のまとめ	事前学習	身に付いたことは何か考える。
		事後学習	学習の足りなかった部分について復習する。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	GECM2104 GECM2304 GECM2204
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2 年次以上 「情報処理演習Ⅰ」を先に履修すること		
7. 講義概要	情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。 マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。		
8. 学習目標	情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどのような姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	毎回、コンピュータを使用する課題を課す。 1 画像データの加工 2 情報倫理に関するレポート作成		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 実教出版編修部編『最新 事例でわかる 情報モラル 改訂版』実教出版、2014。		
11. 成績評価の方法	授業態度 30% 課題への取り組み・提出状況 70%		
12. 受講生へのメッセージ	わからないことはそのままにせず、調べる・人に聞くなどするように。質問はいつでも気軽にしてくれて構わない。授業内容は皆さんの習熟度等によって変わる可能性もある。 電子メール: shsuzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。在室中は、来客のない限りいつでも対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(講義概要の説明) メールサービスの利用	事前学習	利用中のメールサービスについて調べる。
		事後学習	登録したメールアドレスを実際に使う。
第2回	インターネットコミュニティの利用	事前学習	SNS について調べる。
		事後学習	登録した SNS を利用する。
第3回	インターネットの仕組み・歴史	事前学習	インターネットの歴史について調べる。
		事後学習	インターネットの歴史に関するレポートを作成する。
第4回	コンピュータの歴史	事前学習	コンピュータの歴史について調べる。
		事後学習	コンピュータの歴史についてレポートを作成する。
第5回	インターネット犯罪	事前学習	特に子供のインターネット犯罪について調べる。
		事後学習	子供のインターネット犯罪を防ぐにはどうするか考える。
第6回	情報モラル 著作権について	事前学習	著作権について調べる。
		事後学習	著作権について子供に教育するにはどうするか考える。
第7回	情報モラル モバイルとネット文化	事前学習	子供のモバイル機器利用について考える。
		事後学習	モバイル機器利用について子供に教育するにはどうするか考える。
第8回	中間まとめ①	事前学習	ネット利用時の注意点・モラルについて復習する。
		事後学習	子供に情報モラルを教育するにはどうするか考える。
第9回	画像データ さまざまな画像形式	事前学習	どんな場面でコンピュータの画像データを利用するか考える。
		事後学習	画像が使われる場面と適した形式について復習する。
第10回	画像処理ソフトの利用 基本操作の習得 文字画像の作成	事前学習	画像編集ソフトについて調べる。
		事後学習	画像編集ソフトの基本操作を復習する。
第11回	画像処理ソフトの利用 画像の切り抜き・合成	事前学習	画像の合成について調べる。
		事後学習	画像の切り抜き・合成方法を復習する。
第12回	画像処理ソフトの利用 画像の部分的な半透明処理	事前学習	画像に対する様々な変更操作を調べる。
		事後学習	画像の半透明処理について復習する。
第13回	画像処理ソフトの利用 ポスターの作成(1) 材料の準備	事前学習	ポスターの題材・出来上がりイメージを考える。
		事後学習	ポスター作成に必要な材料を準備する。

第 1 4 回	画像処理ソフトの利用 ポスターの作成 (2) 作成演習	事前学習	ポスター完成に必要な手順を考える。
		事後学習	ポスターを完成させる。
第 1 5 回	中間まとめ②	事前学習	画像処理ソフトの利用で行ったことをまとめる。
		事後学習	画像処理ソフトの学習で足りなかった部分を復習する。
第 1 6 回	インターネットサービスの利用 検索・地図	事前学習	検索以外のインターネットサービスについて調べる。
		事後学習	地図の利用について復習する。
第 1 7 回	緊急時の情報共有 ソーシャルブックマーク	事前学習	災害発生時など緊急時のネット利用について調べる。
		事後学習	ブックマークサービスを使ってみる。
第 1 8 回	写真・動画の共有サービス	事前学習	ネットを利用したデータ共有サービスについて調べる。
		事後学習	データ共有サービスを利用する。
第 1 9 回	オンラインストレージサービス 電話サービス	事前学習	クラウドについて調べる。
		事後学習	オンラインストレージサービスを利用する。
第 2 0 回	中間まとめ③	事前学習	インターネットサービスの今後の発展について考えてくる。
		事後学習	インターネットサービス利用時の注意点についてまとめる。
第 2 1 回	Web サイト作成サービスの利用 (1) サービスの登録と基本的な使い方	事前学習	Web サイト作成サービスの種類を調べる。
		事後学習	Web サイト作成環境の変遷をまとめる。
第 2 2 回	Web サイト作成サービスの利用 (2)	事前学習	記事投稿用の画像を用意しておく。
		事後学習	演習内容を復習し記事の投稿練習をする。
第 2 3 回	Web サイト作成サービスの利用 (3)	事前学習	Jimdo の使い方を復習しておく。
		事後学習	Jimdo の特徴についてまとめる。
第 2 4 回	情報モラル プライバシーについて	事前学習	ネット利用時のプライバシーについて考える。
		事後学習	ネット利用時のプライバシーについて復習する。
第 2 5 回	Web サイト作成サービスの利用 (4) サービスの登録と基本的な使い方	事前学習	Wix について調べる。
		事後学習	新しく一つ以上 Web サイトを追加する。
第 2 6 回	Web サイト作成サービスの利用 (5)	事前学習	記事投稿用の画像を用意しておく。
		事後学習	演習内容を復習し、記事の投稿練習をする。
第 2 7 回	Web サイト作成サービスの利用 (6) プラグインの追加	事前学習	プラグインとは何か、について調べておく。
		事後学習	Jimdo と Wix の違いについてまとめる。
第 2 8 回	オンラインプレゼンテーションツールの利用 (1)	事前学習	prezi について調べる。
		事後学習	powerpoint との違いをまとめる。
第 2 9 回	オンラインプレゼンテーションツールの利用 (2)	事前学習	講義内で発表するためのデータを用意する。
		事後学習	離れた場所の相手へのプレゼンテーションを試す。
第 3 0 回	総まとめ	事前学習	本講義の学習内容を復習する。
		事後学習	我々の生活とコンピュータ利用の今後について考える。

1. 科目名 (単位数)	人格心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2358						
2. 授業担当教員	高橋 亜希								
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に立ち、さまざまな観点から人格の特徴を明らかにしていく。</p> <p>次のことを理解していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動をみることができる。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 								
8. 学習目標	<p>人間とはなにか。人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することがこの授業の最大の目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学習目標の一つである。</p>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業中に1~2回程度のレポート提出を求める。</p> <p>課題例) パーソナリティ検査について、パーソナリティ障害について 等</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 榎本博明・安藤寿康・堀毛一也著『パーソナリティ心理学—人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』有斐閣、2009年。</p> <p>【参考書】 鈴木公啓編『パーソナリティ心理学概論—性格理解への扉』ナカニシヤ出版、2012。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、受講態度、課題レポートなどを総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>平常点 (授業態度・授業への積極的参加)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、75%以上の出席が確認できない場合は単位の修得は認められない。</p>			平常点 (授業態度・授業への積極的参加)	30%	課題レポート	30%	期末試験	40%
平常点 (授業態度・授業への積極的参加)	30%								
課題レポート	30%								
期末試験	40%								
12. 受講生への メッセージ	<p>人にはそれぞれ個性があるが、心理学ではこれを「人格 (性格・パーソナリティ)」という言葉で説明している。本講義では、人格 (性格・パーソナリティ)、つまり個性について心理学的・科学的に理解していく。パーソナリティを測る質問紙などの体験を通して、理論や測定法の理解だけでなく、自身のパーソナリティ理解にもつなげていってほしい。</p> <p>講義で守って欲しいこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に積極的に参加すること。積極的な姿勢を評価する。 2. 質問は講義内で受ける。わからないことはそのままにせず、質問すること。 3. 他の受講者の迷惑となる行為 (遅刻、不必要な私語、携帯電話等) はしないこと。 								
13. オフィスアワー	初回講義時にお伝えします。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション: 本講義の目的、人格心理学の基礎概念	事前学習	人格について考えてくる。						
		事後学習	人格心理学の中で自分が最も興味をもっていることについてまとめてくる。						
第2回	パーソナリティ研究の歴史	事前学習	テキスト (パーソナリティ研究の歴史) を熟読し、疑問点等はまとめてくる。						
		事後学習	パーソナリティ研究の歴史について考えたことや学んだことをまとめておく。						
第3回	パーソナリティの理論 (1): 類型論	事前学習	テキスト (類型論) を熟読し、疑問点等はまとめてくる。						
		事後学習	類型論についてノートにまとめておく。						
第4回	パーソナリティの理論 (2): 特性論	事前学習	テキスト (特性論) を熟読し、疑問点等はまとめてくる。						
		事後学習	代表的な特性論についてノートにまとめておく。						
第5回	パーソナリティの測定: YG 性格検査	事前学習	特性論についてまとめておく。						
		事後学習	YG 性格検査の結果について類型論と特性論の考えをまとめてくる。						
第6回	パーソナリティの理論 (3): 因子理論	事前学習	テキスト (因子理論) を熟読し、疑問点等はまとめてくる。						
		事後学習	それぞれの因子理論を理解し、5 因子モデルの各因子名についてまとめる。						
第7回	5 因子名の小テスト パーソナリティの理論 (4): そのほかの理論	事前学習	パーソナリティの理論について、資料等を探して調べておく。						
		事後学習	そのほかの理論をまとめておく。						

第 8 回	パーソナリティの測定：5 因子性格検査	事前学習	パーソナリティの測定について、資料等を探して調べておく。
		事後学習	心理検査の結果をまとめてくる。
第 9 回	気質とパーソナリティ	事前学習	気質とは何かテキストや資料などで調べてくる。
		事後学習	気質についてまとめておく。
第 10 回	パーソナリティの発達	事前学習	テキスト（パーソナリティの発達）を熟読し、疑問点等はまとめてくる。
		事後学習	発達課題を覚えて、まとめておく。
第 11 回	パーソナリティと疾患：病前性格	事前学習	テキスト（病前性格）を熟読し、疑問点等はまとめてくる。
		事後学習	病前性格をまとめておく。
第 12 回	パーソナリティと疾患：A 群のパーソナリティ障害	事前学習	A 群パーソナリティ障害について調べておく。
		事後学習	A 群パーソナリティ障害をまとめておく。
第 13 回	パーソナリティと疾患：B 群のパーソナリティ障害	事前学習	B 群パーソナリティ障害について調べておく。
		事後学習	B 群パーソナリティ障害をまとめておく。
第 14 回	パーソナリティと疾患：C 群のパーソナリティ障害	事前学習	C 群パーソナリティ障害について調べておく。
		事後学習	C 群パーソナリティ障害をまとめておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでに配布した講義資料を見直し、疑問点等をまとめておく。
		事後学習	これまでの学習を振り返り、期末試験に向けてプリントなどをまとめておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1105 GELA1305
2. 授業担当教員	伊藤 京一		
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上		
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 学習用ノート</p> <p>2 レポート提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権について ・人権問題の現状と課題 ・人権週間について ・今日的な子どもの人権に関する課題解決に向けて 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】中野光、小笠原毅 編著『ハンドブック 子どもの権利条約』岩波書店、1996。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房、2007。</p>		
11. 成績評価の方法	レポートおよび振り返りカード	総合点の60%	
	授業への参加度	総合点の40%	
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、授業で学習したことをどのように子どもたちに活かしていけばよいかを考え、人権教育のあり方について追求していくことを目的としている。目的達成のために、以下のことに留意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業中は集中力と緊張感を持って積極的に参加すること。 2、授業は、欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退の場合はその理由を書面を以って教員に説明すること。 3、分からないところはそのままにしないで質問すること。 4、明らかに授業態度が悪いと判断された場合は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度に改善が見られない場合は、たとえ皆、出席であってもF評価になるので注意すること。 5、授業中、居眠り、私語、携帯電話の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことに留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業の目的、目標を明確にし、授業進行はシラバスに沿って行う。 2、受講生全体に聞こえる声の大きさと話し、専門用語はわかりやすく説明する。 3、一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表)できるように双方向対話型の学習環境を作る。 4、遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	講義の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の進め方について グループ編成・自己紹介 「世界人権宣言について」	事前学習	「人権とは何か」について考える。
		事後学習	世界人権宣言の内容をノートにまとめて提出する。
第2回	我が国の人権問題の現状と課題について、平成28年度啓発活動年間強調事項をもとに与えられた項目の調べた内容を発表する。	事前学習	平成28年年間強調事項について課題を一つ選び、現状を考察してレポートを作成し提出する。
		事後学習	強調事項の内容をノートにまとめる。
第3回	子どもの権利条約成立についてグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	教科書 pp.2~17 を読んで、子どもの権利条約が成立した経緯をノートにまとめる。
		事後学習	子どもの権利条約成立について理解した内容をノートにまとめる。

第 4 回	子どもの権利条約のなかの「子ども」の定義についてグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	教科書 pp.18～21 を読んで、自分が考える「子ども」についてノートにまとめる。
		事後学習	子どもの定義について討論した後、自分の考えをノートにまとめる。
第 5 回	子どもの最善の利益についてグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	教科書 pp.26～31 を読んで、子どもにとって大切なことについてまとめる。
		事後学習	子どもの最善の利益について調べ、レポートを作成して提出する。
第 6 回	子どもの人権を考える中での親の責任と権利と義務についてグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	教科書 pp.38～41 を読んで、「親権」の持つ意味についてノートにまとめる。
		事後学習	親の責任と権利と義務についてノートにまとめる。
第 7 回	子どもの名前、国籍、養育の権利についてグループで話し合う。 また、夫婦別姓について話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	教科書 pp.46～51 を読んで、夫婦別姓について自分の考えをノートにまとめる。
		事後学習	話し合ったことをもとに名前の持つ意味についてノートにまとめる。
第 8 回	自分の名前がつけられた由来について発表する。また、自分の感想も述べる。	事前学習	自分の名前の由来について親に聞き、その感想もノートにまとめる。
		事後学習	自分が理想とする名前を考えノートにまとめる。
第 9 回	人権週間について、朝の会で小学生にわかりやすく発表する。(模擬授業) どのようにすれば、子どもにわかりやすく伝えることができるのかグループで話し合う。	事前学習	小学生に人権週間についてわかりやすく話すにはどのようにすれば良いか考え、レポートを作成して提出する。
		事後学習	再度わかりやすい授業の仕方を考え、ノートにまとめる。
第 10 回	子どものゆとりの権利についてグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	教科書 pp.158～161 を読んで、ゆとりについてノートにまとめる。
		事後学習	ゆとりの権利についてノートにまとめる。
第 11 回	障害児の就学について教科書や新聞記事をもとにグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	教科書 pp.118～123 を読んで、障害児の就学についてノートにまとめる。
		事後学習	障害児の就学についてメリット、デメリットを考えて、ノートにまとめる。
第 12 回	日本の同和問題についてグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	「人間らしいってなに」を読んで、同和について調べノートにまとめる。
		事後学習	同和問題について身近なこととして考え、自分ができることをノートにまとめる。
第 13 回	外国人の人権について留学生の体験をもとにグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	外国人が差別されていることについて考え、ノートにまとめる。
		事後学習	外国人の人権を守るために自分ができることを考え、ノートにまとめる。
第 14 回	小学校における人権教育についてグループで話し合う。 話し合った内容をグループごとに発表する。	事前学習	小学校で人権教育をどのように行えばよいか考え、ノートにまとめる。
		事後学習	最近の子ども(小学生)の人権に関する課題を調べ、レポートを作成して提出する。
第 15 回	まとめ 子どもの人権を守るためにどのようなことに留意したらよいかグループで話し合う。 話し合った内容を発表する。	事前学習	今日の子どもの人権についての問題を考え、ノートにまとめる。
		事後学習	本講義で学習し理解したことをノートにまとめ提出する。

1. 科目名 (単位数)	人事管理論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP4103
2. 授業担当教員	岡田 広司		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答など	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>企業など組織・経営体が利潤を最大化するために、どのように内部の人事を管理していくかを学んでいく。人事管理には、組織内に努める社員・職員の評価や勤務条件などの他に、どのようなシステムにおいて、社員・職員全員が最大の生産性を上げることができるかなどを学び、「人」がどのような価値をもち、どのように機能しているのかを考えて行く。社員・職員は「人財」とも呼ばれ、最も重要なファクターの一つであることから、企業や組織・経営体を管理する上で、人事管理の効率的な運営とは何かについて、考察を深めて行く。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 経営体は多くの経営資源から構成されている。その経営資源の中で最も重要な人的資源に関わる管理の全体像を理解する。 2. 生きた資源としての人的資源を確保 (採用) し、職務能力を育成し、合理的・効率的に活用するなどといった管理のステップを理解する。 3. 人的資源の管理を学ぶことにより、病院・学校・公共団体・企業など、組織に参画し、自ら職務を担当したり、経営するための人事管理能力の基礎を身に付ける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>定期的なアサイメントについては特に課さない。しかし、学習に必要な場合はレポートを課す。また、授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 佐藤博樹他著『新しい人事労務管理 (第 4 版)』有斐閣、2011。 【参考書】 佐藤正男著『経営人事管理』弘文堂、2011。 佐藤博樹・小泉静子編著『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』勁草書房、2011。 須田敏子著『戦略人事論—競争優位の人材マネジメント』日本経済新聞出版社、2010。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1 授業態度 (積極性など) 総合点の 40 % 2 確認テスト 総合点の 20 % 3 課題レポート提出 総合点の 40 %</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>あらゆる人は何らかの組織・経営体に所属する。また、経営体・組織の活動は、経営資源の管理に関する知識が必要であり、その中でも最も重要な人事管理に関する学習は、未来の自分の人生の目標を定め、その生き方を方向付ける試みができ、セルフマネジメント手法を学ぶことにもつながる。 この学習は、皆さんが就職した時の配属先、更にはその後の人事異動、あるいは賃金などは、労務管理の制度や運用に規定されるものである。また、管理職に昇進したり、自ら起業した場合にも、人材教育や人事労務管理などが必要であり、この学習は常に職業生活にはついて回る重要な領域である。 担当教員は新事業のリーダーとして、長年企業で多くの新製品の開発とその事業化のために、優秀な部下を採用し教育するなど、人事労務管理にも取り組んだ。その事例の一つに世界初の通信カラオケの事業の成功がある。事業を成功するにはそれに相応しい「人財」という経営資源の育成とその活用が重要なファクターである。企業での実務経験を生かして、医療・福祉・介護などの人事労務管理に関する研究・学習を皆さんと共に論議を重ねながら追求して行きたい。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 人事管理の概念	事前学習	テキストの著者の考え方、を知る上で、「はしがき」(pp.1~5) の内容を読み、まとめる。
		事後学習	人事管理の概念及びこの学習への関心について自分の考えをまとめ提出する。
第 2 回	企業経営における人事労務管理の課題、人事労務管理の 3 つの機能、内外環境の変化と人事労務管理システム	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.6~15) を読んでまとめる。また、関心のある企業について調べる。
		事後学習	テキストにある人事労務管理と新聞などで取り上げられている会社を比較しまとめる。
第 3 回	ライフ・ワーク・バランス、人事労務管理の分業体制、国際人事管理のあり方、海外派遣要員の雇用管理	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.16~30) をまとめる。新しい課題である人事の国際化について調べる。
		事後学習	客観的な視点からライフ・ワーク・バランスの意義を整理し、人事管理の必要性をまとめる。
第 4 回	採用管理、採用計画、配置と移動、キャリア形成と能力開発、募集・採用に関わる法律上の規制	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.31~50) を熟読、男女雇用機会法、障害者雇用促進法などを調べる。
		事後学習	労働力供給構造の変化、高齢化、女性化についてまとめる。
第 5 回	雇用調整、定年制と人事管理システムの変化、エイジフリー、60 歳代前半の雇用形式	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.51~64) を熟読し、定年に関する課題をまとめる。
		事後学習	定年制度及び定年延長と人事管理システムの変化をまとめる。

第 6 回	人事制度、職能資格制度、能力開発・人事考課・昇給・昇格と職能資格の関連性	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.65～76) をまとめる。関心のある企業人事制度の事例を調べ、まとめる。
		事後学習	職能資格と能力開発・人事考課・昇給・昇格の関係について考察し、まとめる。
第 7 回	人事考課制度、人事考課の役割、職能資格制度と人事考課、新しい評価手法	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.77～86) を熟読し、「育成の理論」「選抜の理論」についてまとめる。
		事後学習	人事考課の役割、評価の基準・評価の方法をまとめる。新しい評価制度を考察し、まとめる。
第 8 回	賃金管理、給与決定の仕組み、賃金体系、労働市場と賃金、企業内の賃金制度給与決定の仕組み	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.87～99) を熟読し、賃金管理、賃金制度をまとめる。
		事後学習	関心のある企業の賃金管理について調べ、学習内容と比較検討し、まとめる。
第 9 回	賃金体系、労働市場と賃金、企業内の賃金制度、成果を基準とした賃金とその問題点	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.100～116) を熟読し、賃金体系に関してまとめる。
		事後学習	賃金体系の意味、賃金カーブ、職能資格等級と賃金に関してまとめ、理解を深める。
第 10 回	企業内昇進の基礎理論、「資格昇格選抜」と「役職昇給選抜」、人事部門とライン管理職	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.117～127) を熟読し、昇進管理を中心にまとめる。
		事後学習	昇進管理における「育成」「選抜」「動機づけ」についてまとめ、企業内昇進の意味を深める。
第 11 回	役職昇進の遅延とその問題点、専門職の職務内容とその育成・処遇、ポジティブ・アクション	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.128～142) を熟読し、ポジティブ・アクションを中心にまとめる。
		事後学習	女性が活躍できる職場の拡大、ポジティブ・アクションの領域についてまとめ、理解を深める。
第 12 回	労働時間管理、労働サービスの供給量とタイミングの管理、労働時間制度、労働時間の構成と法規制	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.143～150) を読み、労働者の生活時間と働き方についてまとめる。
		事後学習	労働者の生活時間と働き方の柔軟性の視点から労働時間管理についてまとめ理解を深める。
第 13 回	労働時間短縮の進展、労働時間の弾力化と課題、労働時間の 2 極化、弾力的な労働時間制度	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.151～164) を読み、労働時間の弾力性についてまとめる。
		事後学習	「労働時間の質の向上」という観点から労働時間の弾力化が機能するための条件をまとめる。
第 14 回	能力開発、能力を高める意義と方法 仕事に必要とされる能力、能力開発における人事部の役割、能力開発の主体	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.165～180) を読み、能力開発の必要性をまとめ、理解を深める。
		事後学習	新しい時代に相応しい、求められる能力とその多様性についてまとめ、理解を深める。
第 15 回	職場の能力形成、OJT と Off-JT の役割 能力開発 5 つのポイント 授業のまとめ	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.181～196) を読み、OJT についてまとめる。また人事労務管理から始まった学習内容の疑問点や問題点をまとめる。
		事後学習	この学習で理解した人事管理のあり方をまとめると共に、関心ある企業などを取り上げて理論と実践との差異などを比較しまとめる。

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1111 GELA1311
2. 授業担当教員	小澤 良		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」を履修済みであること。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。また、心理学の基礎理論の理解を通して、心理学的思考方法の習得を促す。		
8. 学習目標	1. 心理学の基本的な考え方を身につける。 2. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 3. 心理学の考え方や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 4. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	【中間レポート課題】 「認知、記憶、学習、動機」のテーマから1つ選びA4で2枚以上。 【期末レポート課題】 「感情、発達、人格、ストレス」のテーマから1つ選びA4で2枚以上。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】松原達哉『心理学概論』培風館、2002。 【参考書】梅本克夫・大山正 編著『心理学への招待 こころの科学を知る』サイエンス社、1992。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の50% 2 課題レポート 総合点の40% 3 日常の学習状況 総合点の10%		
12. 受講生へのメッセージ	心理学は、保育・教育・福祉・医療・産業など、受講生の皆さんが将来関わる様々な分野に応用がなされている。応用のための基礎を身に付け、各自が学習目標に到達するために、(1)高い緊張感と積極的な態度で授業に臨むこと、(2)理解できないことをそのままにせず質問すること、(3)レポートの提出期限を厳守すること、(4)自らの意見を述べる機会を模索すること、(5)遅刻・欠席・早退をしないこと、(6)携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) を慎むよう心掛けること。		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 心理学とは何か	事前学習	教科書 (心理学の歴史) を読む。
		事後学習	心理学史について復習する。
第2回	環境を理解する (感覚・知覚・認知について)	事前学習	教科書 (知覚の心理) を読む。
		事後学習	情報処理過程について復習する。
第3回	記憶の心理学 (人はどれくらいの情報をどれくらい記憶できるか)	事前学習	教科書 (記憶) を読む。
		事後学習	短期・長期記憶の特性について復習する。
第4回	記憶の心理学 (忘却させる要因とは)	事前学習	教科書 (忘却) を読む。
		事後学習	忘却する要因について復習する。
第5回	学習の心理学 (古典的条件づけによる学習)	事前学習	教科書 (古典的条件づけ) を読む。
		事後学習	古典的学習について復習する。
第6回	学習の心理学 (オペラント条件づけによる学習)	事前学習	教科書 (オペラント条件づけ) を読む。
		事後学習	オペラント学習について復習する。
第7回	動機 (欲求) を理解する	事前学習	事前に配布された資料を読む。
		事後学習	生理的・社会的欲求について復習する。
第8回	感情を理解する	事前学習	教科書 (感情とは) を読む。
		事後学習	感情の理論について復習する。
第9回	発達の心理学 (発達に関するモデルについて)	事前学習	事前に配布された資料を読む。
		事後学習	発達の諸モデルについて復習する。
第10回	発達の心理学 (各発達段階における行動について)	事前学習	教科書 (発達課題) を読む。
		事後学習	社会性・知能・道徳の発達について復習する。
第11回	パーソナリティを理解する	事前学習	教科書 (性格の心理) を読む。
		事後学習	類型論・特性論について復習する。
第12回	社会心理学 (個人と集団心理について)	事前学習	教科書 (対人関係) を読む。
		事後学習	対人関係について復習する。
第13回	適応とストレス (ストレスとは何か)	事前学習	事前に配布された資料を読む。
		事後学習	ストレスモデルについて復習する。
第14回	適応とストレス (ストレス対処法について)	事前学習	事前に配布された資料を読む。
		事後学習	コーピングについて復習する。
第15回	まとめ	事前学習	各テーマについてまとめる。
		事後学習	学習目標を達成できたか確認する。

1. 科目名 (単位数)	心理学基礎実験 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2142 EDPS2301
2. 授業担当教員	小澤 良 / 岡田 順介		
4. 授業形態	講義・実習(グループ活動)・演習(グループ活動)・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	2年次以上 (心理統計法が履修済みであること)		
7. 講義概要	<p>心理学を研究するための基礎となる各手法をとり上げ、生理、記憶、学習、認知、人格、社会等、心理学の主要な分野の知識を身につけながら、それらの知識や考え方に基づく科学的レポートの書き方を学ぶ。実験等の体験を通して、心理学の理論を机上に終わらせることなく、身近なものとして体得することができる。</p> <p>なお本科目は認定心理士の資格科目であり、受講生は規定数以上の実験等に参加し、レポートを提出することが義務付けられている。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験等の演習を通して、心理学を含む社会科学全般に必要な不可欠である各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し、身につける。 2. 実験の演習等によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理することができるようになる。 3. 目的、方法、結果、考察から成る心理学研究レポートの記述の仕方を習得し、心理学的事象について、統計処理の結果を用いて、説明、解釈できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>【中間レポート課題】 ミュラー・リヤー錯視実験および鏡映描写実験に関するレポートをA4でそれぞれ4枚以上。</p> <p>【期末レポート課題】 SD法および一対比較法に関するレポートをA4でそれぞれ4枚以上。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 B. フィンドレイ著『心理学 実験・研究レポートの書き方』北大路書房、1996。</p> <p>【参考書】 山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の60% 2 課題レポート 総合点の40% (中間2本、期末2本) 		
12. 受講生への メッセージ	<p>この授業は自らが主体的に考えること、さらに考えたことを適切に伝える訓練の場である。よって、積極的態で授業に参加することが期待される。授業への参加にあたっては、以下の事項を守って臨むこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業のための予習を必ずする (予習してくる教科書等の頁は、授業中に指示する)。 2 レポートの提出期限を厳守する (提出期限が守られない場合は、正当な理由がない限り、受け付けない)。 3 正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず面をもって教員に報告する。 		
13. オフィスアワー	<p>小澤：第1回の講義の際に指示をする。 岡田：第16回の講義の際に指示をする。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 小澤担当①：ミュラー・リヤー錯視	事前学習	科学としての心理学に関し予習。
		事後学習	科学的方法に関し復習。
第2回	小澤担当②：実験に関する一般的知識	事前学習	知覚心理学に関し予習。
		事後学習	大きさの恒常性に関し復習。
第3回	小澤担当③：実験の計画と準備	事前学習	要因計画法に関し予習。
		事後学習	ここまですを総合的に復習。
第4回	小澤担当④：実験の実施	事前学習	仮説・結果の予想を作成。
		事後学習	仮説・結果の予想の確認し、ノートにまとめておく。
第5回	小澤担当⑤：データの分析の仕方	事前学習	エクセルによるデータ分析を予習。
		事後学習	心理学における統計に関し復習。
第6回	小澤担当⑥：統計的处理と考察	事前学習	分散分析に関し予習。
		事後学習	結果の記述を完成させて提出。
第7回	小澤担当⑦：ディスカッション&レポート作成について	事前学習	目的から考察までの流れを作成。
		事後学習	レポートを完成させて提出。
第8回	小澤担当①：鏡映描写	事前学習	学習心理学に関し予習。
		事後学習	技能学習に関し復習。
第9回	小澤担当②：実験に関する一般的知識	事前学習	視覚運動協応に関し予習。
		事後学習	両側性転移に関し復習。
第10回	小澤担当③：実験の計画と準備	事前学習	要因計画法に関し確認。
		事後学習	ここまですを総合的に復習。
第11回	小澤担当④：実験の実施	事前学習	仮説・結果の予想の作成。
		事後学習	仮説・結果の予想の確認し、ノートにまとめておく。
第12回	小澤担当⑤：データの分析の仕方	事前学習	統計に関し以前の内容を確認。
		事後学習	t 検定に関し復習。

第 1 3 回	小澤担当⑥：統計的処理と考察	事前学習	ANOVA4 の使用法を確認。
		事後学習	結果の記述を完成させて提出。
第 1 4 回	小澤担当⑦：ディスカッション&レポート作成について	事前学習	目的から考察までの流れを作成。
		事後学習	レポートを完成させて提出。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	発表準備をする。
		事後学習	発表で得られた質問・疑問についてよく考える。
第 1 6 回	岡田担当：イントロダクション（心理調査法とは）	事前学習	事前に配布された資料の「心理調査法」を読む。
		事後学習	心理調査法によって得られる結果の社会的意義を熟知する。
第 1 7 回	岡田担当①：SD 法（調査に関する一般的知識）	事前学習	事前に配布された資料の「SD 法」を読む。
		事後学習	SD 法の利用が社会にとってどのような意義があるのかを理解してまとめる（レポート作成時に必要）。
第 1 8 回	岡田担当②：調査の計画と準備	事前学習	事前に配布された資料の「SD 法の手続き」を読む。
		事後学習	調査の計画と準備について熟知しておく。
第 1 9 回	岡田担当③：データの集計作業（記述統計を含む）	事前学習	事前に配布された資料の「量的データ集計」を読む。
		事後学習	心理統計法の「記述統計」を読み理解しておく。
第 2 0 回	岡田担当④：データの分析作業（推測統計を含む）	事前学習	事前に配布された資料の「量的データ分析法」を読み理解しておく。
		事後学習	心理統計法の「因子分析」を読み理解しておく。
第 2 1 回	岡田担当⑤：考察とディスカッション	事前学習	調査結果（記述・推測統計）をノートにまとめる。
		事後学習	調査前に立てた仮説を支持する結果だったのか。そこから何が言えるのかを考える。支持しない結果の場合、なぜかを考える。
第 2 2 回	岡田担当⑥：レポート作成について	事前学習	教科書（実験・研究レポートの書き方）を読む。
		事後学習	レポートを作成する。
第 2 3 回	岡田担当⑦：口頭発表	事前学習	発表（目的・方法・結果・考察）の準備しておく。
		事後学習	発表で得られた質問・疑問についてよく考え、レポートに反映させる。
第 2 4 回	岡田担当①：一対比較法（調査に関する一般的知識）	事前学習	事前に配布された資料の「一対比較法」を読む。
		事後学習	一対比較法の利用が社会にとってどのような意義があるのかを理解してまとめる（レポート作成時に必要）。
第 2 5 回	岡田担当②：調査の計画と準備	事前学習	事前に配布された資料の「一対比較法の手続き」を読む。
		事後学習	調査の計画と準備について熟知しておく。
第 2 6 回	岡田担当③：データの集計作業（記述統計を含む）	事前学習	事前に配布された資料の「量的データ集計」を読む。
		事後学習	心理統計法の「記述統計」を読み理解しておく。
第 2 7 回	岡田担当④：データの分析作業（推測統計を含む）	事前学習	事前に配布された資料の「量的データ分析法」を読み理解しておく。
		事後学習	心理統計法の「 χ^2 検定」を読み理解しておく。
第 2 8 回	岡田担当⑤：考察とディスカッション	事前学習	調査結果（記述・推測統計）をノートにまとめる。
		事後学習	調査前に立てた仮説を支持する結果だったのか。そこから何が言えるのかを考える。支持しない結果の場合、なぜかを考える。
第 2 9 回	岡田担当⑥：レポート作成について	事前学習	教科書（実験・研究レポートの書き方）を読む。
		事後学習	レポートを作成する。
第 3 0 回	岡田担当⑦：口頭発表	事前学習	発表（目的・方法・結果・考察）の準備しておく。
		事後学習	発表で得られた質問・疑問についてよく考え、レポートに反映させる。

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3143 EDPS3301
2. 授業担当教員	小澤 良		
4. 授業形態	講義・実習・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	心理学入門、心理学概論、統計学、心理統計法、心理学基礎実験の全てを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>心理学は、具体的に見ることのできない人の心を対象としていることから、一般の人にも興味を持たれやすい学問であり、身近なもののように思われる。しかし学問としての心理学は実証科学としての性格を持っており、具体的に見ることのできる対象を扱う自然科学の方法論と共通するところが多い。そのため、心理学を研究する際、具体的に見ることのできない心を見えるようにするための工夫が求められることから、人の心という対象を実証科学的に扱う方法は、本質的な難点を伴っている。</p> <p>そこで、本科目では、心理学を科学として研究するための代表的な方法である実験法、調査法、観察法、検査法、面接法等について、それぞれの長所短所の両面を学び、実践するために必要な知識を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 科学としての心理学であることの認識を持ち、実証科学的方法の手順を理解する。</p> <p>2. 心理学の代表的な研究方法について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。</p> <p>3. 心理的な問題をいかに研究に乗せていくかについて、自ら考え、実践できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	【中間レポート課題】 「質的および量的研究」についてA4で4枚以上。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 下山晴彦他編著『心理学研究法入門—調査・実験から実践まで』東京大学出版会、2001。</p> <p>【参考書】 中澤潤他著『心理学マニュアル (要因計画法)』北大路書房、2000。 中澤潤他著『心理学マニュアル (観察法)』北大路書房、1997。 中澤潤他著『心理学マニュアル (質問紙法)』北大路書房、1998。 中澤潤他著『心理学マニュアル (面接法)』北大路書房、2000。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 授業への積極的参加 総合点の40%</p> <p>2 課題レポート 総合点の20%</p> <p>3 口頭発表 総合点の30%</p> <p>4 日常の学習状況 総合点の10%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>一人前のセラピスト (カウンセラー) になるには、リサーチ (事実の発見や確認) 能力が不可欠となる。リサーチができることにより、自分の面接技法を見直すことができ、より効果的な面接法を検討できたりするからである。</p> <p>さて、本講義は、実際の問題をいかに心理学の研究に載せて検討し問題解決に至るかに重点を置いている。従って、援助職などに多大な興味のある学生を前提としている。能率的・効率的に学習を進め、研究者としての能力を養成したい。</p> <p>そこで、学生には以下のことを守って頂きたい。</p> <p>1. 居眠りや私語は禁止。</p> <p>2. 授業には、予習をして積極的態で臨むこと。理解できないことがあれば、授業以外でも質問したり、仲間同士で研鑽して欲しい。</p> <p>3. レポートの提出期限は厳守すること。レポートの提出期限が守られない場合は、正当な理由がない限り、受け取り拒否となる。</p> <p>4. 欠席、遅刻、早退をしない。正当な理由により、欠席等をした場合にはその理由を書面にして報告する。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1. 研究法入門 オリエンテーション (心理学研究法とは何か?)	事前学習	教科書第1章「心理学の研究とは」を読む。
		事後学習	研究法の意義について理解し、ノートにまとめる。
第2回	2. 研究の種類とレベル	事前学習	教科書第1章「研究の特徴とその過程」を読む。
		事後学習	研究法の種類について理解し、ノートにまとめる。
第3回	配布資料 (研究法の基礎) 1. 研究テーマと操作的定義 2. 操作的定義	事前学習	事前に配布された資料の「研究法の基礎」を読む。
		事後学習	操作的定義について理解し、ノートにまとめる。
第4回	配布資料 (母集団という考え方)	事前学習	事前に配布された資料の「母集団」を読む。
		事後学習	統計に必要な概念「母集団」について理解し、ノートにまとめる。
第5回	配布資料 (さまざまな研究方法) 1) 質問紙法 2) 観察法	事前学習	事前に配布された資料の「質問紙法・観察法」を読む。
		事後学習	質問紙・観察法がどのような研究テーマで利用されるのかを理解し、ノートにまとめる。
第6回	配布資料 (さまざまな研究方法) 3) 面接法 4) 文書資料	事前学習	事前に配布された資料の「面接法・文章資料」を読む。
		事後学習	面接法・質問紙法がどのような研究テーマで利用されるのかを理解し、ノートにまとめる。

第 7 回	配布資料（さまざまな研究方法） 5) 実験法	事前学習	事前に配布された資料の「実験法」を読む。
		事後学習	実験法がどのような研究テーマで利用されるのかを理解し、ノートにまとめる。
第 8 回	まとめ（授業内容 1~7）	事前学習	これまでの授業内容についてのコメント・疑問等をまとめる。
		事後学習	質問に対する回答をよく理解し、ノートにまとめる。
第 9 回	5. 資料の分析法 1) 統計法-1（調査法）	事前学習	事前に配布された資料の「調査法分析」を読む。
		事後学習	調査後の分析方法について理解し、ノートにまとめる。
第 10 回	5. 資料の分析法 2) 統計法-2（実験法）	事前学習	事前に配布された資料の「実験法分析」を読む。
		事後学習	実験後の分析方法について理解し、ノートにまとめる。
第 11 回	5. 資料の分析法 3) 表現法 4) 数量化できないもの 5) 考察について	事前学習	事前に配布された資料の「質的研究法」を読む。
		事後学習	記述的データ収集法について理解し、ノートにまとめる。
第 12 回	6. プロポーザルの作成の方法	事前学習	事前に配布された資料の「研究目的作成」を読む。
		事後学習	研究論文の目的・仮説の作成方法について理解し、ノートにまとめる。
第 13 回	まとめ（授業内容 9~12）	事前学習	これまでの授業内容についてのコメント・疑問等をまとめる。
		事後学習	質問に対する回答をよく理解し、ノートにまとめる。
第 14 回	まとめ（授業内容 1~12 までの全体ディスカッション）	事前学習	全体ディスカッション（授業内容 1~12）のため、事前に準備をする。
		事後学習	ディスカッションで得られた意見等をノートにまとめる。
第 15 回	質的調査（面接法）の特徴と限界	事前学習	教科書（面接法によるデータ収集）を読む。
		事後学習	面接法の種類・特徴について理解し、ノートにまとめる。
第 16 回	質的調査（観察法）の特徴と限界	事前学習	教科書（観察法によるデータ収集）を読む。
		事後学習	観察法の種類・特徴について理解し、ノートにまとめる。
第 17 回	量的調査（調査法）のプロセス	事前学習	教科書（調査法の特徴とプロセス）を読む。
		事後学習	質問紙尺度の作成について理解しノートにまとめる。
第 18 回	量的調査（調査法）の特徴と限界	事前学習	教科書（調査法の仮説の検証）を読む。
		事後学習	調査法の特徴と限界について理解し、ノートにまとめる。
第 19 回	実験法の論理	事前学習	教科書（実験法の理論と方法）を読む。
		事後学習	実験法による因果関係の解明について理解し、ノートにまとめる。
第 20 回	実験法の特徴と限界	事前学習	教科書（実験デザイン）を読む。
		事後学習	実験デザインの特徴と限界について理解し、ノートにまとめる。
第 21 回	準実験の種類と特徴	事前学習	教科書（準実験の内的妥当性）を読む。
		事後学習	内的妥当性を脅かす要因について理解し、ノートにまとめる。
第 22 回	単一事例実験の種類と特徴	事前学習	教科書（単一事例実験の基本的考え方）を読む。
		事後学習	単一事例実験の種類と特徴について理解し、ノートにまとめる。
第 23 回	教育場面における実践研究（意義・方法）	事前学習	教科書（教育・発達における実践研究）を読む。
		事後学習	研究意義・方法について理解し、ノートにまとめる。
第 24 回	教育場面における実践研究（種類・限界）	事前学習	教科書（教育・発達における実践研究）を読む。
		事後学習	研究の種類・限界について理解し、ノートにまとめる。
第 25 回	臨床における実践研究（意義・方法）	事前学習	教科書（臨床における実践研究）を読む。
		事後学習	研究の意義・方法について理解し、ノートにまとめる。
第 26 回	臨床における実践研究（種類・限界）	事前学習	教科書（臨床における実践研究）を読む。
		事後学習	研究の種類・限界について理解し、ノートにまとめる。
第 27 回	研究の展開—研究計画から発表	事前学習	教科書（研究の展開）を読む。
		事後学習	研究計画から発表までのプロセスについて理解し、ノートにまとめる。

第 28 回	研究の展開—論文執筆	事前学習	教科書（研究の展開）を読む。
		事後学習	研究内容の論文化について理解し、ノートにまとめる。
第 29 回	まとめ（授業内容 15～28）	事前学習	これまでの授業内容についてのコメント・疑問等をまとめる。
		事後学習	質問に対する回答をよく理解し、ノートにまとめる。
第 30 回	全体のまとめ、発表	事前学習	心理学研究の意義とは何かを考える。
		事後学習	授業を自分なりにまとめ、研究法を勉強する意義を発表する。

1. 科目名 (単位数)	心理学入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1310 GEBS1110
2. 授業担当教員	高橋 亜希		
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	心理学系科目の中で最初に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目では、心理学という学問の入門的な学習として、歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における最も基礎的な概念と理論に幅広くふれながら、理解する。		
8. 学習目標	1. 心理学への興味を高め、後の心理学系専門科目の学習につなげることができる。 2. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 3. 心理学的な思考方法を身につけ、心理学系専門科目を学ぶための基礎を身につける。 4. 世間一般の心理学のイメージと、学問としての心理学との違いを理解し、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	それぞれに割り当てられた実習内容をよく把握し、実習を行う。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】星野欣生 著『人間関係づくりトレーニング』金子書房、2002。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、受講態度、課題レポートなどを総合して評価する ・授業への参加(態度、発言) 40% ・発表資料作りと発表 50% ・レポート 10%		
12. 受講生への メッセージ	1. ディスカッションやワーク等を通して心理学的な感覚(センス)を磨き、心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 3. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為(私語、居眠り、グループ活動に協力しない等)をつつしむこと。 講師は、可能な限り対話のスタイルで授業を展開したいと考えている。したがって、授業に参加する各自がテーマをねばり強く考える態度で臨むことを期待する。なお授業展開は、参加者の様子等によって随時変更の可能性があり、その場合は授業中に伝える。		
13. オフィスアワー	初回講義時にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション・「第一印象」	事前学習	テキスト「思い込み」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第2回	「自己概念」	事前学習	テキスト「自己概念」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第3回	「自己理解」	事前学習	テキスト「自己理解」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第4回	「価値観」	事前学習	テキスト「価値観」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第5回	「双方向コミュニケーション」	事前学習	テキスト「双方向コミュニケーション」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第6回	「聴く、話す、観る」	事前学習	テキスト「聴く、話す、観る」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第7回	「感情とのつきあい方」	事前学習	テキスト「感情とのつきあい方」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第8回	「共感的に理解すること」	事前学習	テキスト「共感的に理解すること」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第9回	「リラクセーション」	事前学習	テキスト「リラクセーション」を読み、実習資料を作成する。

		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第 10 回	「葛藤とのつきあい方」	事前学習	テキスト「葛藤とのつきあい方」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第 11 回	「他者理解」	事前学習	テキスト「他者理解」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第 12 回	「自己開示」 1	事前学習	テキスト「自己開示」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第 13 回	「自己開示」 2	事前学習	テキスト「自己開示」を読み、実習資料を作成する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第 14 回	「フィードバック」	事前学習	テキストに出てきた用語についてわからないものを確認する。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	テキスト全体をふりかえり、学んだことをまとめる。
		事後学習	ディスカッションを通して得られた理解をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	心理検査法 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS3302 PSMP3144
2. 授業担当教員	長坂 正文	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係	3年次以上、「臨床心理学」と併せて履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>臨床心理学において、必須の知識である必要な心理査定技術の基礎を習得する。担当教員が選定した代表的な心理検査について、1. 理論的背景、2. 実施方法、3. 結果の整理方法、4. 解釈方法、5. 利用上の注意点、6. 適応範囲と限界などを理解することを目的とする。心理検査法の基礎的な事項（理論や施行法）を身に付けるために、演習を重視する。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当箇所心理検査をレジユメにまとめて、プレゼンテーションを行う。 2. 検査者・被検査者体験、心理検査の事例等に関してグループディスカッションを行う。 3. 実施した心理検査に関して、レポートを提出する。 <p>といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。</p> <p>また、時間がゆるせば、1. 査定法の選び方、2. 環境の整え方、3. 結果の報告やフィードバックの仕方 などについても検討する。</p>		
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって心理査定技術の基礎的な技術を身につけ、活用できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・5回レポートを提出する (A4用紙1枚、800字以上)。 1 YGの自己分析 2 TEGの自己分析 3 SCTの自己分析 4 バウムテストの自己分析 5 風景構成法の自己分析 ・下記参考書を読み、授業内容の理解を深めることを期待する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 澤田丞司著『心理検査の実際』新興医学出版社、2004。</p> <p>【教材】 必要に応じて資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 総合点の 50% ・レポート (5回) 総合点の 50% 		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ心理検査全般を取り上げながら、いくつかを実際にペアで実施し、その心理検査をどのように整理し、分析からなにが分かるのかを体験する。 ・また、可能なかぎり実習的な要素を取り入れて実践的な力を身につけてもらう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 【心理検査とそのなりたち】 ・心理検査の定義 ・心理検査の歴史	事前学習	テキスト pp.1~11 を読んで、心理検査のなりたちについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	講義で強調した心理検査について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 回	【心理検査の利用上の問題】 ・心理検査の種類と特徴 (能力検査、質問紙法、作業検査法、投影法) ・心理検査の選び方 (妥当性、信頼性、標準化、臨床における心理検査) ・心理検査実施上の留意事項 (心理検査の実際目的、検査場面をめぐる問題、テスト・バッテリー、結果の整理と読み方)	事前学習	テキスト pp.12~25 を読んで、心理検査の種類・特徴の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「妥当性」「信頼性」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 3 回	【心理検査の実際】 ・田中ビネー知能検査 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・WAIS 成人知能検査法 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・WPPSI 知能診断検査 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方)	事前学習	テキスト pp.26~54 を読んで、ビネー式とウエクスラー式の特徴と違いについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「精神年齢」と「偏差 IQ」の違いについてについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 4 回	・WISC 知能検査法 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・WISC の実施	事前学習	テキスト pp.55~66 を読んで、WISC 知能検査法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	言語性検査と動作性検査の検査結果 (VIQ、PIQ) と全検査結果 (FIQ) の関係について参考書などで

			さらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 5 回	・ WISC の事例検討	事前学習	WISC の事例資料を事前に目を通しておく。
		事後学習	下位検査から読み取れることについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ S-M 社会生活能力検査 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ 新版 K 式発達検査 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) 	事前学習	テキスト pp.74～80 を読んで、精神発達検査の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「継次処理」「同時処理」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ YG 性格検査 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ YG の実施 	事前学習	テキスト pp.81～89 を読んで、YG 性格検査の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「尺度」と「因子」の関係について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	・ YG の分析、レポート作り	事前学習	自分の YG の結果についてテキストで分かる範囲内で調べておく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める (再提出も可)。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ MMPI (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ MAS (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ MAS 実施 	事前学習	テキスト pp.90～99 を読んで、MMPI の 10 尺度について理解しておく。
		事後学習	MAS の結果について振り返り、自己理解を深め、対処方法を考える。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ CMI (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ SDS 自己評価式抑うつ性尺度 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ SDS 実施 	事前学習	テキスト pp.100～107 を読んで、CMI のスクリーニング機能について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	SDS の結果から自分の状態を考え、対処方法を検討する。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ TEG (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ TEG 実施 	事前学習	テキスト pp.108～118 を読んで、交流分析の基本概念について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「5つの自我状態」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 12 回	・ TEG の分析、レポート作り	事前学習	自分の TEG の結果についてテキストで分かる範囲内で調べておく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し、理解を深める (再提出も可)。
第 13 回	・ TEG の事例検討	事前学習	資料に事前に目を通しておく。
		事後学習	TEG のパターン分類について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 14 回	・ 内田クレペリン精神検査 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方)	事前学習	テキスト pp.119～126 を読んで、クレペリンの検査の特徴について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「スクリーニング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンダー・ゲンシュタルト検査 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・ ベンダー・ゲンシュタルト検査実施 	事前学習	テキスト pp.127～134 を読んで、ベンダー・ゲンシュタルト検査の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「パスカル・サッテル法」と「コピッツ法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 16 回	・ ロールシャッハ検査検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方)	事前学習	テキスト pp.135～147 を読んで、ロールシャッハの実施法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エクスター法」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 17 回	・ TAT (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方)	事前学習	テキスト pp.148～155 を読んで、TAT の検査概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	マレーの「欲求・圧力理論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 18 回	・ P-F スタディ (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方)	事前学習	テキスト pp.156～165 を読んで、P-F スタディの検査概要を理解し、TAT との違いについて検討し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「アグレッションの方向性と型」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまと

			める。
第 19 回	・SCT (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・SCT 実施	事前学習	テキスト pp.166~171 を読んで、SCT の検査概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	分析の観点「力動的側面」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 20 回	・SCT の分析、レポート作り	事前学習	「分析方法」についてテキスト pp.169~171 をよく読んでおく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める (再提出も可)。
第 21 回	・バウムテスト (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・バウムテスト実施	事前学習	テキスト pp.172~177 を読んで、バウムテストの概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「空間象徴図式」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 22 回	・バウムテストの分析、レポート作り	事前学習	「分析方法」についてテキスト pp.174~177 をよく読んでおく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める (再提出も可)。
第 23 回	・バウムテストの事例検討	事前学習	資料に事前に目を通しておく。
		事後学習	バウムテストの解釈について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 24 回	・風景構成法 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・風景構成法実施	事前学習	風景構成法の資料に事前に目を通しておく。
		事後学習	風景構成法の事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 25 回	・風景構成法の分析、レポート作り	事前学習	風景構成法の資料の分析方法の部分に目を通しておく。
		事後学習	返却されたレポートのコメントを読み、再度分析を確認し理解を深める (再提出も可)。
第 26 回	・動的家族画 (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・動的家族画実施 ・HTP (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・HTP 実施	事前学習	動的家族画・HTP の資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	動的家族画か HTP のいずれかの事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 27 回	・MSSM 検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・MSSM 実施	事前学習	MSSM の資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	MSSM の事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 28 回	・改訂長谷川式簡易知能評価スケール (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方) ・MMSE (検査概要、検査内容、実施方法、結果の整理、結果の読み方)	事前学習	改訂長谷川式簡易知能評価スケールの資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	「認知症」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 29 回	・補足 (アンケート調査法、事例研究法、面接法など)	事前学習	アンケート調査法、事例研究法、面接法などの補足資料を読んで概要を理解しておく。
		事後学習	興味をもった研究法について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 30 回	・まとめ (用語・概念を中心に復習する)	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	心理検査法演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3354
2. 授業担当教員	長坂 正文		
4. 授業形態	演習およびグループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	3年次以上、「心理検査法」と併せて履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理臨床の現場でよく使用されている主な質問紙法検査や投影法検査等の理論、実施方法、結果の解釈について学習する。自らが心理検査の実施者と被検者の役割をとることによって、心理検査の目的、特徴、有効性や限界について体験的に学ぶとともに、他のアセスメント方法とも合わせて総合的に事例を理解できるようになることを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の種類・特徴および長所・短所を理解し、説明できるようになる。 2. 心理検査の実際を体験的に学び、使用できるようになる。 3. 心理検査の結果からのアセスメントができるようになる。 4. 心理検査における心理臨床の倫理について理解し、説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・実習で行った心理検査について結果レポートを課す (A4用紙1枚)。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 澤田丞司著『心理検査の実際 改訂版』新興医学出版社、2004。 土川隆史他編『ロールシャッハ法解説』名古屋ロールシャッハ研究会、2011。 【教材】 随時資料を用意し活用する。		
11. 成績評価の方法	授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。 ・授業への参加 (態度、発表) 50% ・レポート 50%		
12. 受講生へのメッセージ	・人間の深層心理を知る手がかりのさわりには是非触れてほしい。病院臨床だけでなく、スクールカウンセラーなどの教育臨床であっても、将来必ず役に立つであろう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・演習を中心に授業が展開するので、主体的・積極的に取り組むこと。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション (心理検査の概要)	事前学習	心理検査の概要の予習をしてくる。
		事後学習	興味をもった検査について参考書などで調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 2 回	・YG 性格検査の実施と分析	事前学習	YG 性格検査について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 3 回	・TEG の実施と分析	事前学習	TEG について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 4 回	・うつ尺度 (SDS)、不安尺度 (MAS) の実施と分析	事前学習	SDS、MAS について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 5 回	・WISC の実施と分析	事前学習	WISC について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 6 回	・長谷川式簡易知能評価スケール・MMSE の実施	事前学習	長谷川式簡易知能評価スケール・MMSE について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 7 回	・動的家族画、HTP の実施と分析	事前学習	動的家族画、HTP について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 8 回	・PF スタディの実施と分析	事前学習	PF スタディについて調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。

第 9 回	・風景構成法の実施と分析	事前学習	風景構成法について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 10 回	・SCT の実施と分析	事前学習	SCT について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 11 回	・バウムテストの実施と分析	事前学習	バウムテストについて調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 12 回	・ロールシャッハ・テストの実施と分析	事前学習	ロールシャッハ・テストについて調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の検査結果をまとめてレポートとして提出する。
第 13 回	・箱庭療法 (実施した箱庭の検討)	事前学習	箱庭療法について調べ、概要を理解するとともに疑問点を明確にする。また、事前にひとりずつ箱庭を作成する。
		事後学習	自分の箱庭作品の解釈を試み提出する。
第 14 回	・箱庭の事例研究	事前学習	事前に配布された事例を読んで、概要を理解し分からないところを明確にする。
		事後学習	箱庭作品の解釈を試みレポートを提出する。
第 15 回	・まとめ	事前学習	ロールシャッハ・テストと箱庭について、テキストを再読し問題意識を明確にする。
		事後学習	配布資料で興味をもった項目について、さらに自分で調べ理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	心理統計法 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS1301 PSMP1141
2. 授業担当教員	岡田 順介		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	複数回の課題を課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度	総合点の 20%	
	課題	総合点の 20%	
	期末試験	総合点の 60%	
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 統計処理法はデータ処理のテクニックである。一度学べば生活や社会で役立つはずである。 2 卒業研究で実験したり調査したりする際に必要な内容である。 3 計算は電卓で行うが、分析と考察は実施者が行う。これが統計処理法である。 4 関数つき電卓があると便利である。 <p>尚、人数等、講義の状況に応じて一部記載内容から変更される場合がある。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の解説) 統計学と心理統計法および統計処理法	事前学習	教科書 (心理学と数字) を読み、心理統計の社会的な貢献を理解しておく。
		事後学習	なぜ心理学に統計が必要か、および社会的貢献を熟知し、ノートにまとめておく。
第 2 回	実験・調査データの検定と推定 (仮説検定法について)	事前学習	教科書 (変数) を読む。
		事後学習	量的変数・質的変数の概念について理解し、ノートにまとめておく。
第 3 回	記述統計 (代表値)	事前学習	教科書 (代表値) を読む。
		事後学習	代表値の種類とその特徴を理解し、ノートにまとめておく。
第 4 回	記述統計 (散布度)	事前学習	教科書 (散布度・標準化) を読む。
		事後学習	散布度の種類とその特徴について理解し、ノートにまとめておく。
第 5 回	相関分析 (散布図・相関係数)	事前学習	教科書 (2 変数の関係) を読む。
		事後学習	散布図の利用法・相関関係の概念について理解し、ノートにまとめておく。
第 6 回	相関分析 (仮説の検証)	事前学習	教科書 (母集団を推測) を読む。
		事後学習	相関分析による仮説検証について理解し、ノートにまとめておく。
第 7 回	クロス集計表と連関係数 (χ^2 検定について)	事前学習	教科書 (クロス集計表) を読む。
		事後学習	連関係数の求め方・特徴について理解し、ノートにまとめておく。
第 8 回	まとめ (授業 1~7)	事前学習	次の授業で質問できるように、これまでの授業内容についてコメント・疑問等をまとめておく。
		事後学習	質問に対する回答を理解し、ノートにまとめておく。
第 9 回	統計的仮説検定とは	事前学習	教科書 (統計的仮説検定) を読む。
		事後学習	仮説検定の考え方・手順を理解し、ノートにまとめておく。

第 1 0 回	実験法 (1) t 検定の求め方	事前学習	教科書 (t 検定) を読む。
		事後学習	二つの平均値の比較の求め方を理解し、ノートにまとめておく。
第 1 1 回	実験法 (2) 対応のある・ない場合の求め方	事前学習	教科書 (t 検定) を読む。
		事後学習	対応のある・ない場合の検定方法について理解し、ノートにまとめておく。
第 1 2 回	実験法 (3) 分散分析法 (三つ以上の平均値の比較)	事前学習	教科書 (分散分析) を読む。
		事後学習	平均値ではなく分散を利用することについて理解し、ノートにまとめておく。
第 1 3 回	実験法 (4) 分散分析法 (二要因被験者内計画)	事前学習	教科書 (分散分析) を読む。
		事後学習	二要因被験者内計画について理解し、ノートにまとめておく。
第 1 4 回	実験法 (5) 分散分析法 (二要因被験者間計画)	事前学習	教科書 (分散分析) を読む。
		事後学習	二要因被験者間計画について理解し、ノートにまとめておく。
第 1 5 回	まとめ (授業 1~14)	事前学習	次の授業で質問できるように、これまでの授業内容についてコメント・疑問等をまとめておく。
		事後学習	これまでの授業内容を熟知しておくこと。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理療法概説 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3308 PSMP3382
2. 授業担当教員	長坂 正文		
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	心理学入門・心理学概論を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	様々な心理療法の中から、クライアント中心療法、精神分析療法、行動療法、家族療法、芸術療法等の主要な心理療法を取り上げ、その理論と技法を体験的に学習する。また、それぞれのアプローチにおける効用と限界についての理解を深めることで、クライアント自身や問題に適した心理療法を学ぶ。		
8. 学習目標	1. 心理療法の諸理論・諸技法について、その背景となる考え方を理解し、それぞれの治療・援助の方法を具体的に知ること、その考え方や方法を日常生活に応用できるようになる。 2. 対人援助の場で、利用者や抱える問題に応じた心理的側面の援助方法を選ぶことができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する。(A4用紙2枚、2,400字以上) ①自分が興味を持った心理療法理論 <ul style="list-style-type: none"> *その理論の概要を紹介し、どこに興味を持ったのか、疑問点は何か、また自分なりの意見を、文献を2, 3冊参考にしてまとめる。 ②カウンセリングをする際の留意点 <ul style="list-style-type: none"> *カウンセリングを実施する際に、どのような問題があるのか、またどのようなことに留意すればよいのかについて、文献を2, 3冊参考にしてまとめ、自分なりの意見を述べる。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003。 【教材】随時資料を用意し活用する。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発言) 40% ・レポート 60% 		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら主体的に取り組むようにすること。 ・事前に該当頁を必ず読み、分からない言葉・用語・概念などを調べて、授業に臨むこと。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないでほしい。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないようにしてほしい。 		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・心理療法の進め方 (心理療法とは、セラピストに期待されるもの、場面構成、心理療法の実際、セラピストの倫理) ・練習 (対話的関係の検討) 	事前学習	テキスト pp.1~8 を読んで、心理療法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「治療構造」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神分析の理論と技法 (精神分析の基礎理論、無意識の理論、性の理論、こころの構造とその機能、心理療法としての精神分析) ・練習 (事例の精神分析的な理解) 	事前学習	テキスト pp.14~39 を読んで、精神分析の概要、フロイトの理論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エディプス・コンプレックス」「防衛機制」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・フロイトからの分派 (アドラーと劣等コンプレックス・権力への意志、ユングと分析心理学) ・実習 (向性検査) 	事前学習	テキスト pp.46~53 を読んで、アドラーとユングの理論の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「普遍的無意識」「元型」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・フロイト理論の発展と修正 (クラインに始まる対象関係論、ウィニコットと遊び) ・実習 (スクイグル) 	事前学習	テキスト pp.56~62 を読んで、対象関係論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「対象」「二者関係」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・交流分析 (交流分析とは、自我状態と構造分析、交流パターン分析、ゲーム分析、脚本分析) ・実習 (エゴグラム) 	事前学習	テキスト pp.67~77 を読んで、交流分析の理論について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	自分の「エゴグラム」について振り返り、自分について理解した内容をノートにまとめ、疑問点については次時の授業で質問する。

第 6 回	・心理療法文献の検討 1 (精神分析的心理学の事例)	事前学習	精神分析的心理学の事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	「見立て」「技法」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 7 回	・クライエント中心療法 (誕生の萌芽、ロジャーズ理論の歴史的展開、クライエント中心療法の基本的な考え方) ・フォーカシング (フォーカシングとは、フェルト・センス、フォーカシングの基本的ステップ、五つのスキル) ・練習 (感情の反射と明確化)	事前学習	テキスト pp.83~95、pp.99~103 を読んで、クライエント中心療法とフォーカシングの概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「カウンセラーの 3 条件」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 8 回	・行動療法 (行動療法とは、行動療法の歴史、学習理論、行動療法の諸技法、行動療法の特徴) ・自律訓練法 (自律訓練法とは、自律訓練法の歴史、自立訓練法の標準練習、自律訓練法の諸技法、自律訓練法の特徴) ・練習 (不安階層表)	事前学習	テキスト pp.106~114、pp.119~126 を読んで、行動療法と自律訓練法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「系統的脱感作法」「フラッディング法」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 9 回	・認知行動療法 (認知行動療法とは、認知行動療法の歴史、認知行動療法の主な理論、認知行動療法の特徴) ・練習 (論駁法)	事前学習	テキスト pp.129~141 を読んで、認知行動療法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ABC 理論」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 10 回	・家族療法 (家族療法とは、家族療法の歴史、家族療法の諸理論、家族療法の特徴) ・練習 (ミラクル・クエスチョン、スケーリング)	事前学習	テキスト pp.147~158 を読んで、家族療法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「リフレーミング」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 11 回	・芸術・表現療法 (芸術・表現療法とは、芸術・表現療法の歴史、芸術・表現療法の実践、芸術・表現療法の特徴) ・実習 (バウムテスト)	事前学習	テキスト pp.162~174 を読んで、芸術療法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「箱庭療法」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 12 回	・心理療法文献の検討 2 (芸術・表現療法の事例)	事前学習	芸術・表現療法の事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	カウンセラーの応答について読み直して理解を深め、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 13 回	・森田療法 (森田療法とは、基礎理論、治療理論、森田療法の実際、森田療法の特徴) ・内観療法 (内観療法とは、内観療法の歴史、内観療法の実際、内観療法の効果、内観療法の特徴) ・練習 (内観)	事前学習	テキスト pp.178~185、pp.188~192 を読んで、森田療法と内観法の概要について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	森田療法・内観療法がどのような人に向いているのか調べノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 14 回	・集団心理療法 (さまざまな集団心理療法、精神分析的集団精神療法、心理劇)	事前学習	テキスト pp.195~203 を読んで、集団心理療法について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「エンカウンター・グループ」についてテキスト以外の書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 15 回	まとめ (用語・概念を中心に復習する)	事前学習	テキストを読み直して、臨床心理学の用語・概念について復習し、疑問点を明確にする。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について辞典などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (小) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL1304
2. 授業担当教員	久田 孝寛			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特色や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	作品完成ごとにその過程や学んだ技法、自己評価を記録して提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】大学美術指導法研究会 編著『図画工作科指導法—理論と実践』日本文教出版、2009。			
11. 成績評価の方法	授業への意欲や関心等にかかる態度	総合点の 30%		
	提出作品	総合点の 50%		
	提出レポート	総合点の 20%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業へは常に積極的な態度で臨み、集中してほしい。 2 製作にあたっては、創意を遺憾なく発揮してほしい。 3 実習を多く伴うので、材料や用具を忘れないでほしい。 4 常に「子どもを育てる」視点に立って取り組んでほしい。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (授業概要の説明) 美術教育とは何か 一理論と課題について	事前学習	小学校で図画工作がなぜ必要か考え、教科書 pp.13~16 を読んでくる。	
		事後学習	創造的な活動は人の根源であることを理解し、学習の心構えをもつ。	
第 2 回	色彩の学習	事前学習	色彩について学習する意義を考え、教科書 pp.170~175 を読んでくる。	
		事後学習	色彩の役割について復習し、ふりかえり票を書く。	
第 3 回	実習：平面構成練習 1 (水彩による表現)	事前学習	必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	学んだ技法を活かす場面を考え、反省点をふりかえり票に書く。	
第 4 回	実習：平面構成練習 2 (パスなどによる表現)	事前学習	必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	学んだ技法を活かす場面を考え、反省点をふりかえり票に書く。	
第 5 回	実習：身近な材料を用いてつくる (竹とんぼ)	事前学習	必要な材料・用具を準備する。刃物の取扱いを考える。	
		事後学習	身近な材料のよさを知り、切り出し刀の使い方をふりかえり票に書く。	
第 6 回	実習：立体構成練習 1 (とびだすカード)	事前学習	カッターナイフ、はさみの使い方、紙工作について予備知識を持つ。	
		事後学習	新しい発想や修正点を考え、反省点をふりかえり票に書く。	
第 7 回	実習：立体構成練習 2 (とびだすカード)	事前学習	接着剤について予備知識を持つ。	
		事後学習	学んだことを生かす場面を考え、反省点をふりかえり票に書く。	
第 8 回	実習：いろいろな技法に挑戦 1 (一版多色刷り版画)	事前学習	木版画に必要な材料・用具を準備する。下絵になるものを用意する。	
		事後学習	次回に工夫すべき点をまとめ、反省点をふりかえり票に書く。	
第 9 回	実習：いろいろな技法に挑戦 2 (一版多色刷り版画)	事前学習	必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	彫刻刀の使い方をまとめ、反省点をふりかえり票に書く。	
第 10 回	実習：いろいろな技法に挑戦 3 (一版多色刷り版画)	事前学習	印刷に必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	作品の展示を工夫する。反省点をふりかえり票	

			に書く。
第 1 1 回	表現と鑑賞（美術館へ行こう）	事前学習	美術館でのマナーを確認する。
		事後学習	鑑賞内容をレポートにまとめる。反省点をふりかえり票に書く。
第 1 2 回	実習：手を描く、手をつくる	事前学習	粘土（モデリング）に必要な材料・用具を準備する。
		事後学習	作品の展示を工夫する。反省点をふりかえり票に書く。
第 1 3 回	材料の特性を知る（接着剤等・走る車）	事前学習	機構工作に必要な材料・用具を準備する。
		事後学習	走る機構の工夫すべき点をまとめ、反省点をふりかえり票に書く。
第 1 4 回	材料の特性を知る（接着剤等・走る車）	事前学習	機構工作に必要な材料・用具を準備する。
		事後学習	紙の切断・接着方法を復習し、反省点をふりかえり票に書く。
第 1 5 回	指導のまとめ（評価）	事前学習	これまでに学んだ技法等をふりかえる。（ふりかえり票の整理）
		事後学習	図画工作科の必要性をあらためて復習し、反省点をふりかえり票に書く。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (小) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2304
2. 授業担当教員	久田 孝寛			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	図画工作科の目標及び学習内容や評価について理解を深めると共に、造形遊び、絵や立体、工作に表す活動、鑑賞の諸領域の演習を通して各学年に応じた題材の特性や教育的意義の理解を深めることを通して、より実践的な指導力を高めていく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 図画工作科のねらいや評価と関連付けながら題材の意義を説明することができる。 2 演習を通して各学年に応じた題材の特性や教育的意義の理解を深めることができる。 3 諸領域に関する基礎的・基本的知識及び造形的技能を習得し、実践することができる。 4 造形教育における教師の役割について理解を深めることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	作品完成ごとにその過程や学んだ技法、自己評価を記録して提出する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】大学美術指導法研究会 編著『図画工作科指導法—理論と実践』日本文教出版、2009。			
11. 成績評価の方法	授業への意欲や関心等にかかる態度	総合点の 30%		
	提出作品	総合点の 50%		
	提出レポート	総合点の 20%		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業へは常に積極的な態度で臨み、集中してほしい。 2 製作にあたっては、創意を遺憾なく発揮してほしい。 3 実習を多く伴うので、材料や用具を忘れないでほしい。 4 常に「子どもを育てる」視点に立って取り組んでほしい。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業の概要説明 — 図画工作科の性格と目標について—	事前学習	図画工作科のねらいについて考える。教科書 pp.7~16 を読んでくる。	
		事後学習	ふりかえり票を書き、図画工作科の意義を復習する。	
第 2 回	実習：水彩画のいろいろな技法について	事前学習	水彩用具を準備する。	
		事後学習	ふりかえり票を書き、水彩の技法についてまとめる。	
第 3 回	実習：木工の技法について 1	事前学習	木工用具を準備する。	
		事後学習	ふりかえり票を書き、材木の知識、木どりの仕方を復習する。	
第 4 回	実習：木工の技法について 2	事前学習	組み立ての仕方を考える。	
		事後学習	ふりかえり票を書き、組み立てで重要な点について復習する。	
第 5 回	実習：木工の技法について 3	事前学習	塗装に必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	ふりかえり票を書き、木工の技法全体を反省する。	
第 6 回	実習：版による表現 1 (紙版画を作ろう)	事前学習	紙、接着剤など必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	紙版画の特徴をとらえて下絵ができたかをふりかえり票を書き、反省する。	
第 7 回	実習：版による表現 2 (紙版画を作ろう)	事前学習	印刷に必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	版の効果が作品に表れているか反省し、ふりかえり票に書く。	
第 8 回	実習：紙工作の技法 1 (張り子のお面を作ろう)	事前学習	紙、接着剤など必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	作りたい形の骨組みができたかをふりかえり票に書き、反省する。	
第 9 回	実習：紙工作の技法 2 (張り子のお面を作ろう)	事前学習	各種の紙を準備する。	
		事後学習	隙間なく紙片を貼ることができたかを反省し、ふりかえり票に書く。	
第 10 回	実習：紙工作の技法 3 (張り子のお面を作ろう)	事前学習	彩色に必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	形に合った彩色ができたかを反省し、ふりかえり票に書く。	
第 11 回	表現と鑑賞 (美術館へ行こう)	事前学習	美術館でのマナーを確認する。	
		事後学習	鑑賞内容をレポートにまとめる。反省点をふりかえり票に書く。	
第 12 回	実習：針金の技法 1 (クランクを使った機構工作)	事前学習	針金、ペンチなど必要な材料・用具を準備する。	
		事後学習	クランクのしくみを生かした発想ができたか	

			反省し、ふりかえり票に書く。
第 13 回	実習：針金の技法 2（クランクを使った機構工作）	事前学習	厚紙など必要な材料・用具を準備する。
		事後学習	スムーズに動く仕組みができたかを反省し、ふりかえり票に書く。
第 14 回	実習：針金の技法 3（クランクを使った機構工作）	事前学習	飾りに必要な材料・用具を準備する。
		事後学習	クランクの仕組みを生かした装飾ができたかを反省し、ふりかえり票に書く。
第 15 回	指導のまとめ（評価）	事前学習	これまでに学んだ技法等をふりかえる（ふりかえり票の整理）。
		事後学習	実際に児童に指導するときの注意事項をふりかえり票にまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	久田 孝寛			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。 2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。 3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。 4. 図画工作科における評価の考え方と方法について学び、理解を深める。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導案の提出 2 講義ごとに新しく学んだこと、及び自己評価を記録し提出する 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】大学美術指導法研究会 編著『図画工作科指導法—理論と実践』日本文教出版、2009。</p> <p>【参考書】藤江 充、辻 政博 編著『小学校新指導要領 ポイントと授業づくり 図画工作 平成 20 年度版』東洋館出版、2008。</p>			
11. 成績評価の方法	授業への意欲や関心等にかかる態度	総合点の 40%		
	指導案・レポートの提出	総合点の 50%		
	授業技術	総合点の 10%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業へは常に積極的な態度で臨み、集中してほしい。 2 演習、実習が多くある。メモを取り、積極的に参加・発言してほしい。 3 常に「子どもを育てる」視点に立って取り組んでほしい。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業の概要説明 —図画工作科の性格と目標について—	事前学習	図画工作科の意義について考える。教科書 pp.7~12 を読んでくる。	
		事後学習	図画工作科の目標を復習し、ふりかえり票を書く。	
第 2 回	子どもの成長発達と造形表現の発達について	事前学習	子どもの成長の段階について考える。教科書 pp.142~153 を読んでくる。	
		事後学習	知能の発達と造形表現の発達の関係を復習し、ふりかえり票を書く。	
第 3 回	美術教育の変遷と新指導要領の解説について	事前学習	美術教育の変遷について考える。教科書 pp.154~165 を読んでくる。	
		事後学習	時代によって美術教育のねらいが変わることを復習し、ふりかえり票を書く。	
第 4 回	造形遊び 学習のねらいと内容・指導のあり方	事前学習	造形遊びとは何か考える。教科書 pp.23~34 を読んでくる。	
		事後学習	造形遊びの意義を復習し、ふりかえり票を書く。	
第 5 回	絵 (版を含む)・立体に表す 学習のねらいと内容・指導のあり方	事前学習	絵・立体の表現について考える。教科書 pp.35~70 を読んでくる。	
		事後学習	絵・立体の表現の意義を復習し、ふりかえり票を書く。	
第 6 回	工作に表す・鑑賞 学習のねらいと内容・指導のあり方	事前学習	工作の表現・鑑賞の意義について考え、教科書 pp.71~100 を読んでくる。	
		事後学習	工作の表現・鑑賞の意義を復習し、ふりかえり票を書く。	
第 7 回	指導計画の作成と内容の取り扱いについて	事前学習	指導計画の作成について考える。教科書 pp.111~116 を読んでくる。	
		事後学習	指導計画の作成について復習し、ふりかえり票を書く。	
第 8 回	図画工作科における評価と方法について	事前学習	図画工作の評価について考え、教科書 pp.124~141 を読んでくる。	
		事後学習	図画工作の評価と方法について復習し、ふりかえり票を書く。	

第 9 回	図画工作科の教材研究について	事前学習	教材研究とは何か考え、教科書 pp.166～181 を読んでくる。
		事後学習	図画工作科の教材研究の意義を復習し、ふりかえり票を書く。
第 10 回	学習指導案について	事前学習	学習指導案の書き方を考える。教科書 pp.117～123 を読んでくる。
		事後学習	題材を決めておく。反省点をふりかえり票に書く。
第 11 回	実習：学習指導案の作成	事前学習	題材のねらいを下書きしておく。
		事後学習	指導案を清書し、学生の人教分をコピーしておく。
第 12 回	実習：授業の準備、資料作成	事前学習	授業に必要な準備を考え、必要なものを持ってくる。
		事後学習	授業をするのに必要なものを確認しておく。ふりかえり票を書く。
第 13 回	模擬授業①	事前学習	授業準備を再確認しておく。
		事後学習	自分の授業の反省点を確認し、ふりかえり票を書く。
第 14 回	模擬授業②	事前学習	他者の授業の見方を再確認する。
		事後学習	他者の授業の反省点を確認し、ふりかえり票を書く。
第 15 回	指導のまとめ（評価）	事前学習	図画工作の授業で大切なことをノートにまとめておく。
		事後学習	図画工作の授業のあり方を復習し、ふりかえり票を書く。

1. 科目名 (単位数)	政治学 (国際政治を含む) (2 単位)		3. 科目番号	GELA1318
2. 授業担当教員	鈴木 収			
4. 授業形態	講義、グループ討議		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上			
7. 講義概要	景気対策、規制緩和、地域主権、社会保障、雇用問題など「政治」の場で議論される諸問題はマスメディア報道などを通して日々われわれの耳に入ってくる。わたしたちは、住みやすい社会をつくり、市民の生活水準の向上を図るための機能を「政治」と呼んでいる。本科目では政治学の基礎的な概念を理解し、歴史的事象、時事問題を事例として政治の仕組みについて考えていく。			
8. 学習目標	1) 政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2) 現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 具体的な公共政策を事例として可否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	2回のレポート提出を行う。レポート課題については、改めて知らせる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 北山俊哉・久米郁男・真淵勝共著『はじめて出会う政治学 (第三版)』有斐閣アルマ、2009。 【参考書】 バーナード・クリック 著『現代政治学入門』講談社学術文庫、2003。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の15% 2 中間課題レポート 総合点の35% 3 期末課題レポート 総合点の35% 4 日常の学習状況 総合点の15%			
12. 受講生への メッセージ	かなり難しく思える政治学が「住みやすい社会」と「住民を守る国家」を築くことを目標とするものであり、そのための手段を「政治」というのだと理解してもらいたい。毎回、自分の意見を適切に述べ合う授業方法で進めていきたいと思う。			
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 第1章 組織された集団 「1 鉄の三画同盟」について (教科書 pp.2~9)	事前学習	地図帳や図表などを見て、世界地理を知る。	
		事後学習	現代の政治問題について、ノートにまとめる。	
第2回	第1章 組織された集団 「2 少数者たちが支配する? ー多元的民主主義ー」 (教科書 pp.9~19)	事前学習	利益集団とは何かを知る。	
		事後学習	多元的民主主義の考え方を、ノートにまとめる。	
第3回	第2章 官と民の関係 「1 規制緩和と何が変わったか?」 (教科書 pp.20~26)	事前学習	官 (政治家、官僚) と民 (経営者、労働者) の関係を知る。	
		事後学習	企業と労働組合の選挙活動や政治運動について、ノートにまとめる。	
第4回	第2章 官と民の関係 「2 市場の失敗・政府の失敗」 (教科書 pp.26~39)	事前学習	官 (政治家、官僚) と民 (経営者、労働者) の関係を知る。	
		事後学習	企業と労働組合の選挙活動や政治運動について、ノートにまとめる。	
第5回	第3章 大企業と政治 「1 大企業が政治を支配している?」 「2 大企業の構造的な影響力と政治的紛争」 (教科書 pp.40~56)	事前学習	大企業の政治献金による政党との癒着を覚える。	
		事後学習	自由民主党の衰退と復活の背景について、ノートにまとめる。	
第6回	第4章 選挙と政治 「1 政策で選挙は戦えるか?」 「2 施策に代わる手がかりは?」 (教科書 pp.58~76)	事前学習	政党と内閣の関係をつかむ。	
		事後学習	公職選挙の問題点について、ノートにまとめる。	
第7回	第5章 地方分権 「1 自治体には2つの役割がある」 「2 国と地方の相互依存」 (教科書 pp.77~94)	事前学習	日本の地方自治の欠点を知る。	
		事後学習	地方税と裁判所について、ノートにまとめる。	
第8回	第6章 マスメディアと政治 「1 マスメディアは政治を動かす?」 「2 マスメディアは誰の味方か?」 (教科書 pp.96~116)	事前学習	マスメディアとインターネットを覚える。	
		事後学習	マスメディアの管理について、ノートにまとめる。	
第9回	第7章 国会 「1 ねじれ国会」 「2 国会の影響」	事前学習	国会と内閣の関係をつかむ。	
		事後学習	大統領制度と内閣制度の違いについて、ノートにまとめる。	

	(教科書 pp.118～137)		
第 10 回	第 8 章 内閣と内閣総理大臣 「1 内閣総理大臣と大統領」 「2 総理大臣の影響力」 (教科書 pp.138～159)	事前学習	総理大臣（首相）と国務大臣（閣僚）の構成を知る。
		事後学習	総理大臣の権力構造について、ノートにまとめる。
第 11 回	第 9 章 官僚 「1 大臣と官僚のバトル」 「2 キャリア官僚のキャリア」 (教科書 pp.160～176)	事前学習	国会議員（政治家）と公務員（官僚）の対立を覚える。
		事後学習	官僚支配の実態について、ノートにまとめる。
第 12 回	第 10 章 冷戦の終わりからテロとの戦いへ 「1 戦後の国際環境」 「2 日本の対外政策」 (教科書 pp.178～195)	事前学習	アメリカとソ連の冷戦の歴史をつかむ。
		事後学習	冷戦後の軍事体制について、ノートにまとめる。
第 13 回	第 11 章 経済交渉 「1 貿易は世界を幸せにするか？」 「2 経済交渉の行われ方」 (教科書 pp.196～217)	事前学習	貿易摩擦と経済交渉を知る。
		事後学習	PPF 交渉の背景について、ノートにまとめる。
第 14 回	第 12 章 国境を越える政治 「1 ビリヤード・ゲームのような国際政治」 「2 裸になる国家」 (教科書 pp.218～238)	事前学習	今日の国際政治の焦点を覚える。
		事後学習	イラン問題と北朝鮮問題の対策について、ノートにまとめる。
第 15 回	政治学のまとめ	事前学習	政治問題の解決手段をつかむ。
		事後学習	国民を幸福にする政治とは何かについて、ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	精神医学 (4 単位)	3. 科目番号	EDHE2306
2. 授業担当教員	滝川 英昭		SBMP3324 SSMP3324 PSMP2315
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士 (および他の援助専門職) としての実務に役立つ精神医学の基本知識を身につける。統合失調症 (精神分裂病)、躁うつ病など、主要な疾患の学習を通して、精神障害者の心理社会的側面についての理解を深める。脳および神経の生理・解剖、臨床および分子遺伝学の概要を把握し、その生物学的側面についても留意する。代表的な精神疾患の従来診断、DSM 診断、ICD 診断を学習する。薬物療法はもとより、さまざまな精神療法的アプローチについても学習する。また、精神障害者を地域社会のなかで治療するための地域精神医療について学習する。		
8. 学習目標	以下の項目について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 精神医学、精神医療の歴史を理解する。 2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。 3. 精神医学の概念について理解する。 4. 精神疾患の従来診断および操作診断について理解する。 5. 代表的な精神疾患の病因・症状・経過について理解する。 6. 薬物療法およびその副作用について理解する。 7. 精神療法、家族療法など心理社会的アプローチの概要について理解する。 8. 病院精神医学および地域精神医学について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	適宜レポートの提出を求める。 日常的に精神保健・医学に関心を保っててください。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編『増補 精神保健福祉士養成セミナー第 1 巻 精神医学』へるす出版、2013。 【参考書】北村俊則 著『精神・心理症状学ハンドブック』日本評論社、2013。 笠原嘉著 著『精神病』岩波新書、1998。 ダニエルヘル、マーガレットフィッシャー - フェルテン著植木・曾根監訳『みんなで学ぶ精神分裂病 ―正しい理解とオリエンテーション』星和書店、1996。		
11. 成績評価の方法	授業態度 総合点の 50% 期末試験 総合点の 50%		
12. 受講生へのメッセージ	誰もが豊かな人生を享受する上で、精神的健康の保持・増進は重要な条件となる。しかし、現実には不登校や引きこもり、アルコール依存や薬物乱用、精神疾患など、様々な精神保健上の課題がある。精神保健学の授業を基盤に、各種疾患の基礎と現実的な課題や対応についても幅広く学習できるように努めていく。		
13. オフィスアワー	授業の前後に相談に応じます。メールの活用も考慮します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	精神医学・精神医療の歴史 (欧米) : 古代、中世、近世、近代、第 2 次世界大戦後、現代 (DSM による操作主義の採用)、正統精神医学と力動精神医学	事前学習	精神科の病気について、まずイメージを思い浮かべてみよう。
		事後学習	DSM と ICD の両方に目が配れるようにしておこう。
第 2 回	精神医学・精神医療の歴史 (日本) : わが国における精神医療の変遷 (古代から近世まで、明治、大正、昭和 [敗戦まで]、昭和 [戦後]・平成)	事前学習	狐憑きなど、昔の日本によくみられた迷信について考えてみよう。
		事後学習	欧米と日本の精神医療史を比べて、どういう違いがあるだろうか。
第 3 回	脳および神経の生理・解剖 1 : 脳と心の関係、神経系の発生と構成、ニューロンおよびシナプスの構成 (神経伝達物質についての知識)	事前学習	脳と心の関係について、常識的な考え方を整理してみよう。
		事後学習	脳を肉眼で側面から見た図を描き、言語中枢を指し示してみよう。
第 4 回	脳および神経の生理・解剖 2 : 中枢神経系 (脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳 : 前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系、大脳基底核)、末梢神経系	事前学習	知・情・意の脳における大まかな局在を思い浮かべてみる。
		事後学習	神経伝達物質を少なくとも 4 つは列挙できるようになっているか。
第 5 回	精神医学にとって鍵となる概念 : 正常と異常の問題、精神病理学 (了解と説明)、精神分析学 (葛藤、防衛機制)、操作的診断基準	事前学習	精神の健康とはなにか、改めて自分の考えを文章に書いてみよう。
		事後学習	ヤスパースの「了解」(理解) の概念について、よく復習しておこう。
第 6 回	精神障害の成因、用語、分類 : 外因・内因・心因、病態・挿話、治癒・緩解、再燃・再発・増悪、ICD の診断ガイドライン、DSM の操作的診断基準	事前学習	外因・内因・心因という用語の意味について少し予習しておこう。
		事後学習	ある病態を心因によると判定するための基準について述べよ。
第 7 回	精神科における面接の仕方 : 問診表、面接を進めるときの注意、問診の順序、カルテ記載の仕方、精神	事前学習	「話す能力」と「聞く能力」のうちで、どちらが大切だと思うか。

	的現在症、さまざまな状態像	事後学習	精神科で扱われるさまざまな状態像について、解説できるだろうか。
第 8 回	身体検査と心理検査：一般身体検査（神経学的所見）、一般臨床検査、神経学的補助診断法（頭部 X 線、CT、MRI、PET、EEG）、遺伝子診断、心理検査、症状評価尺度	事前学習	精神科で身体検査が重要なのはなぜだろうか、考えてみよう。
		事後学習	ニューロイメージングのうちで「無侵襲」といえるのはどれか。
第 9 回	症状性を含む器質性精神障害：意識障害、健忘症状群、認知症（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、びまん性レビー小体病、ピック病など）、軽度認知機能障害（MCI）、AChE 阻害剤	事前学習	意識障害と認知症との違いについて、理解しているだろうか。
		事後学習	三大認知症を列挙し、それぞれの臨床経過をまとめておくこと。
第 10 回	精神作用物質使用による精神および行動の障害：急性中毒、依存、離脱状態、フラッシュバック、アルコール関連障害（振戦せん妄を含む）	事前学習	精神依存と身体依存の 2 つについて、少し予習しておこう。
		事後学習	覚醒剤精神病のフラッシュバックについて、説明できるだろうか。
第 11 回	統合失調症（精神分裂病）1：概念の歴史、診断・徴候・症状（プロイラーの症状基準、シュナイダーの一般症状、DSM-IV の診断基準）、病型、経過と予後	事前学習	幻覚と妄想について、これまで習ったことをもう一度復習しよう。
		事後学習	DSM-IV の診断基準のポイントをしっかりと整理しておくこと。
第 12 回	統合失調症（精神分裂病）2：疫学、病因（遺伝学的、生物学的、心理社会的）、治療（薬物療法、ECT、その他）、妄想性障害および他の精神障害	事前学習	遺伝因と環境因のどちらが重要か、自分なりに考えてみること。
		事後学習	脆弱性 - ストレスモデルについて、明解に説明できるだろうか。
第 13 回	気分 [感情] 障害（躁うつ病）1：概念と歴史、抑うつと躁状態、うつ病性障害、双極性障害、気分変調性障害	事前学習	統合失調症との一番の違いはどこに求めることができるだろうか。
		事後学習	双極 I 型と双極 II 型それぞれの臨床経過像を図示してみること。
第 14 回	気分 [感情] 障害（躁うつ病）2：病前性格と発病状況、疫学、縦断的経過のシェーマ、患者に接する際の注意点、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害剤）	事前学習	うつ病になりやすい人のパーソナリティ特徴について考えよう。
		事後学習	代表的な気分安定薬を 3 種類列挙して試してみることができるだろうか。
第 15 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 1：恐怖症性不安障害、パニック発作、全般性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害	事前学習	これが「了解可能」な精神疾患であることを銘記してほしい。
		事後学習	PTSD について、症状と経過の概要をまとめておくこと。
第 16 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 2：解離性（転換性）障害、身体表現性障害、離人・現実感喪失症候群、神経衰弱	事前学習	フロイトの精神分析はどのような臨床経験に基づくものであったか。
		事後学習	転換ヒステリーと解離ヒステリーという分け方も理解しておく。
第 17 回	摂食障害：神経性無食欲症（anorexia nervosa）、神経症性大食症（bulimia nervosa）、社会文化的背景、行動療法・家族療法	事前学習	拒食症よりも過食症のほうが増えているのはなぜだろうか。
		事後学習	過食症に制限型と排出型の 2 種があることを銘記しよう。
第 18 回	睡眠障害：不眠、過眠、ナルコレプシー、睡眠・覚醒サイクル障害、パラスムニア、睡眠時無呼吸症候群、睡眠による脳波の変化	事前学習	一口に「不眠」と言っても、いろいろなタイプがありそうである。
		事後学習	ナルコレプシーの睡眠脳波にはどのような特徴があるだろうか。
第 19 回	精神の人格および行動の障害 1：人格障害とは、奇妙で風変わりな群、演技的・感情的でうつろいやすい群、不安や恐怖を感じやすい群	事前学習	最近では「人格」よりも「パーソナリティ」のほうが用いられる。
		事後学習	境界性パーソナリティ障害の臨床症状を整理しておくこと。
第 20 回	精神の人格および行動の障害 2：脳損傷および脳疾患によらない持続的人格変化、習慣および衝動の障害、性同一性障害、性嗜好障害、虚偽性障害（ミュンヒハウゼン症候群）	事前学習	欧米に比べ、日本では、性に関する臨床研究が立ち遅れている。
		事後学習	虚偽性障害、とくに「ミュンヒハウゼン症候群」を覚えておこう。
第 21 回	精神遅滞および発達障害の障害：精神遅滞とは、精神遅滞の病因、自閉性障害（高機能、中機能および低機能自閉症）、アスペルガー障害	事前学習	最近では「精神遅滞」よりも「知的障害」のほうが用いられる。
		事後学習	DSM-5 の「自閉症スペクトラム障害」についても学習してみよう。
第 22 回	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害：多動性障害、行為障害、情緒障害、その他（選択的緘黙、チック障害など）	事前学習	児童精神医学という領域は、昨今ますます重要視されつつある。
		事後学習	ADHD の治療薬として処方される薬剤の一般名を覚えておこう。
第 23 回	てんかん：定義、疫学、病因、発作閾値、分類、発作のタイプ、診断、治療、脳波検査法と脳波周波数の分類	事前学習	てんかんが精神科の病気でもあることを銘記してほしい。
		事後学習	正常脳波と比べながら、異常脳波の特徴について理解する。
第 24 回	その他の神経系の疾患：感染性疾患、脱髄性疾患、代謝疾患・栄養障害、変性疾患、プリオン病、磁気	事前学習	精神症状が身体疾患にもよくあらわれることを忘れないように。

	共鳴映像法 (MRI)	事後学習	CT および MRI の所見に即して、いくつかの脳疾患を復習する。
第 25 回	薬物療法とその副作用：向精神薬の歴史、薬物療法における注意事項、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、電気ショック療法	事前学習	脳内の神経伝達物質について、これまで習ったことを整理しよう。
		事後学習	新世代型抗精神病薬の最大の利点について述べられるだろうか。
第 26 回	精神療法および環境・社会療法：一般精神科医の精神療法、精神分析、森田療法、認知・行動療法、集団精神療法、家族療法	事前学習	正統精神医学と力動精神医学の対比のことを思い起こそう。
		事後学習	精神分析でいう「転移」および「逆転移」について説明できるか。
第 27 回	精神科リハビリテーション：蜂矢による ICIDH による障害構造論、院内および院外リハビリテーション、精神科クリニック、精神科デイケア	事前学習	「精神疾患」と「精神障害」のニュアンスの違いはどこにあるか。
		事後学習	ICIDH の改訂版 ICF についても少し予習しておくことが望ましい。
第 28 回	病院精神医療から地域精神医療：日本における精神科病院の概要、精神保健福祉法と精神科病院、精神科救急医療、地域精神医療	事前学習	精神科での「保健」「医療」「福祉」をイメージアップしてみよう。
		事後学習	日本の精神科医療に「脱施設化」が生じないのはなぜだろうか。
第 29 回	授業の総括と補足（病跡学、表現精神病理学からの話題：認知神経科学、分子精神医学の展望など）	事前学習	返却されたミニテストの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	現代精神医学のいくつかのトピックについて、自分で調べてみよう。
第 30 回	まとめ	事前学習	返却されたミニレポートの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	教員との質疑で浮上した疑問点について、自分で解決しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 (4 単位)	3. 科目番号	EDHE2303
2. 授業担当教員	滝川 英昭		SBMP2358
4. 授業形態	講義、グループ討論	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。また、乳幼児から老年期までのそれぞれのライフステージにおける精神保健、及び精神保健における個別課題、例えば精神障害者対策・アルコール・薬物乱用問題・ターミナルケア等への取り組みについても検討していく。さらに、地域精神保健対策や精神保健法制・行政についても学習する。		
8. 学習目標	1、精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2、現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について理解する。 3、精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 4、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	日常的に精神保健・医学に関心を保っててください。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編 『新版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学』へるす出版、2012。		
11. 成績評価の方法	授業態度	総合点の 50%	
	期末試験	総合点の 50%	
12. 受講生へのメッセージ	誰もが豊かな人生を享受する上で、精神的健康の保持・増進は重要な条件となる。しかし、現実には不登校や引きこもり、アルコール依存や薬物乱用、精神疾患など、様々な精神保健上の課題がある。精神保健学では、精神保健の問題を発達という視点から検討するとともに、精神保健の多様な課題に対する対策や制度についても学ぶ。		
13. オフィスアワー	授業の前後に相談に応じます。メールの活用も考慮します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書を通読する。
		事後学習	精神保健福祉学とは何かについて調べる。
第2回	精神保健学の概要	事前学習	教科書 pp. 1～16 を読み、精神保健学の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 1～16 を読み、精神保健学の概要について復習する。
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期)	事前学習	教科書 pp. 17～28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 17～28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (学童期)	事前学習	教科書 pp. 28～40 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 28～40 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期)	事前学習	教科書 pp. 40～53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 40～53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第6回	ライフサイクルにおける精神保健 (青年期)	事前学習	教科書 pp. 53～60 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 53～60 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)	事前学習	教科書 pp. 60～70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 60～70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第8回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期)	事前学習	教科書 pp. 70～78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 70～78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第9回	精神保健における個別課題への取り組み (精神障害対策)	事前学習	教科書 pp. 80～95 を読み、精神障害対策について調べる。

		事後学習	教科書 pp. 80～95 を読み、精神障害対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 0 回	精神保健における個別課題への取組み (認知症対策)	事前学習	教科書 pp. 95～105 を読み、認知症対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 95～105 を読み、認知症対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 1 回	精神保健における個別課題への取組み (アルコール関連問題対策 1)	事前学習	教科書 pp. 106～121 を読み、アルコール関連問題対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 106～121 を読み、アルコール関連問題対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 2 回	精神保健における個別課題への取組み (アルコール関連問題対策 2)	事前学習	教科書 pp. 106～121 を読み、アルコール関連問題対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 106～121 を読み、アルコール関連問題対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 3 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 1)	事前学習	教科書 pp. 122～140 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 122～140 を読み、薬物乱用防止対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 4 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 2)	事前学習	教科書 pp. 122～140 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 122～140 を読み、薬物乱用防止対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 5 回	精神保健における個別課題への取組み (思春期精神保健対策)	事前学習	教科書 pp. 140～152 を読み、思春期精神保健対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 140～152 を読み、思春期精神保健対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 6 回	精神保健における個別課題への取組み (「こころの健康づくり」の動向)	事前学習	教科書 pp. 152～164 を読み、「こころの健康づくり」の動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 152～164 を読み、「こころの健康づくり」に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 7 回	精神保健における個別課題への取組み (司法精神保健福祉対策)	事前学習	教科書 pp. 164～177 を読み、司法精神保健福祉対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 164～177 を読み、司法精神保健福祉対策に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 8 回	精神保健における個別課題への取組み (緩和ケアと精神保健)	事前学習	教科書 pp. 177～187 を読み、緩和ケアと精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 177～187 を読み、緩和ケアと精神保健に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 1 9 回	精神保健活動の実際 (家庭における精神保健)	事前学習	教科書 pp. 189～199 を読み、家庭における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 189～199 を読み、家庭における精神保健に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 2 0 回	精神保健活動の実際 (学校における精神保健)	事前学習	教科書 pp. 199～209 を読み、学校における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 199～209 を読み、学校における精神保健に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 2 1 回	精神保健活動の実際 (職場における精神保健)	事前学習	教科書 pp. 209～217 を読み、職場における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 209～217 を読み、職場における精神保健に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 2 2 回	精神保健活動の実際 (地域における精神保健)	事前学習	教科書 pp. 217～226 を読み、地域における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 217～226 を読み、地域における精神保健に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 2 3 回	地域精神保健の現状と課題 (概要・関係法規・関係施策)	事前学習	教科書 pp. 227～253 を読み、地域精神保健の現状と課題 (概要・関係法規・関係施策) について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 227～253 を読み、地域精神保健の現状と課題 (概要・関係法規・関係施策) に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 2 4 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 1)	事前学習	教科書 pp. 253～268 を読み、調査研究にはどのようなものがあるか調べる。
		事後学習	配布資料を読み、各種手法について理解不足な点がないか確認する。
第 2 5 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 2)	事前学習	配布資料やノート等を見直し、第 24 回の内容について理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	配布資料を読み、量的研究について理解不足な点がないか確認する。
第 2 6 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 3)	事前学習	配布資料やノート等を見直し、第 25 回の内容について理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	配布資料を読み、質的研究について理解不足な点がないか確認する。
第 2 7 回	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp. 269～277 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割について調べる。

		事後学習	教科書 pp. 269～277 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 28 回	精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健	事前学習	教科書 pp. 279～318 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 279～318 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 29 回	まとめ (1)	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
第 30 回	まとめ (2)	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 / 精神保健学 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2303 EDHE2306
2. 授業担当教員	滝川 英昭			
4. 授業形態	講義、プレゼンテーション、ディスカッション、レスポンスシート	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	養護教諭として求められる「乳幼児から老年期までの各ライフステージにおける精神保健」、「精神保健における個別課題（家庭・学校・地域・職場・司法精神保健など）」、「精神保健に関する法制度・行政のしくみ」「世界の精神保健事情」についての最新事情を学び、将来の自身のあり方を選択することに役立てる。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「養護教諭」として必要な精神保健学の知識を身につける。 ・精神保健の最新事情を知り、学校現場における「精神保健」の意義や課題について考える。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義で取り上げた項目や学生の関心事項の中から、選択してレポートを作成し提出する。詳細は授業で説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編 『新版 精神保健福祉士養成セミナー2 精神保健学—精神保健の課題と支援』へるす出版、2014。 東京福祉大学 編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 東京福祉大学 編『保育児童福祉要説 第4版』中央法規、2013。</p> <p>【参考書】</p> <p>日本精神保健福祉士養成校協会 編『新・精神保健福祉士養成講座1 精神疾患とその治療』中央法規、2012。 東京福祉大学 編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房、1999。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>出席点 (毎回の提出物、授業態度) 総合点の 5 0 % (おしゃべりや携帯電話等の使用は減点します)</p> <p>課題レポート、プレゼンテーション 総合点の 1 0 % (詳細は講義の中で説明します)</p> <p>復習テスト (随時実施) の総計点数 総合点の 4 0 % (事前に範囲・形式を予告します。)</p>			
12. 受講生へのメッセージ	精神保健は、過去・現在そして将来、あなた自身を見つめ、把握し、自身を守るスキルとなる。自分の個体生存のためにも今学んでいるという視点をもってほしい。講義では視覚教材を多用する。毎回、授業内容の重要項目をプリントアウトしたものを全員に配布するので、その「 」内や余白に書き込んで自前のノートをつくっていくこと。			
13. オフィスアワー	授業の前後に相談に応じます。メールの活用も考慮します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの説明、オリエンテーション ストレスと脳	事前学習	教科書 pp.1~16 を読んでくる。	
		事後学習	ストレスについての配布プリントを復習する。	
第 2 回	ライフサイクルにおける精神保健 乳幼児期	事前学習	教科書 pp.17~28 を読んでくる。	
		事後学習	乳幼児期についての配布プリントを復習し、ライフサイクルの表 (教科書 p.56) をいつも見ることができるようしておく。	
第 3 回	ライフサイクルにおける精神保健 学童期	事前学習	教科書 pp.28~40 を読んでくる。	
		事後学習	学童期についての配布プリントを復習する。	
第 4 回	ライフサイクルにおける精神保健 思春期、青年期	事前学習	教科書 pp.40~60 を読んでくる。	
		事後学習	思春期/青年期についての配布プリントを復習する。自我同一性の拡散 (教科書 p.57) について振り返る。	
第 5 回	ライフサイクルにおける精神保健、 (青年期に発症する) 統合失調症、 わが国の精神障害者対策	事前学習	教科書 pp.80~95 を読んでくる。	
		事後学習	青年期の精神障害についての配布プリントを復習する。	
第 6 回	ライフサイクルにおける精神保健 成人期、老年期 うつ病、認知症について	事前学習	教科書 pp.60~78、pp.95~105 を読んでくる。	
		事後学習	成人期/老年期についての配布プリントを復習する。	
第 7 回	障害者 (児) の精神保健 てんかん、知的障害について	事前学習	障害にはどのような種類があるのか、調べてみる。	
		事後学習	障害者 (児) についての配布プリントを復習する。	
第 8 回	成人の発達障害 (アスペルガー障害、ADHD) 老年の認知症 (皮質性、皮質下性) と、その対策について	事前学習	発達障害や認知症にはどのような種類があり、どのような対策がなされているのか調べてみる。	
		事後学習	成人の発達障害や認知症が社会問題となっている、昨今の社会背景について考えてみる。	
第 9 回	アルコール関連問題対策 薬物乱用防止対策について	事前学習	教科書 pp.106~140 を読んでくる。	
		事後学習	薬物についての配布プリントを復習する。	
第 10 回	思春期 (青年期) の精神保健対策 (オーバードーズを中心に)	事前学習	教科書 pp.140~152 を読んでくる。	
		事後学習	自我同一性の拡散 (教科書 p.57) と確立 (教科書 p.58) について振り返ってみる。	

第 1 1 回	家庭における精神保健 (児童虐待を中心に)	事前学習	教科書 pp.189～197 を読んでくる。
		事後学習	児童虐待についての配布プリントを復習する。
第 1 2 回	職場・学校における精神保健 (児童相談所の職場環境を中心に)	事前学習	教科書 pp.198～226 を読んでくる。
		事後学習	児童相談所についての配布プリントを復習する。
第 1 3 回	地域における精神保健 (保健福祉活動における具体的な技術、SST など)	事前学習	教科書 pp.227～252 を読んでくる。
		事後学習	保健福祉活動についての配布プリントを復習する。
第 1 4 回	まとめ (その 1) うつ病と自殺対策、わが国の「こころの健康づくり」について	事前学習	教科書 pp.152～164 を読んでくる。
		事後学習	自殺対策には何が必要なのか、身の回りの事柄から考えてみる。
第 1 5 回	まとめ (その 2) 世界的にみた精神保健の流れ	事前学習	教科書 pp.299～318 を読んでくる。
		事後学習	日本の精神医療、精神保健の現状から、日本人の特性について考えてみる。

1. 科目名 (単位数)	生理学 (4 単位)	3. 科目番号	GELA2322
2. 授業担当教員	宋 暁鈞	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表。生理学に関する簡単な実験。		
6. 履修条件・他科目との関係	2 年次以上		
7. 講義概要	医療分野の多極化がすすみ、数多くの co-medical の新しい職種が誕生している。人体に関係のある仕事に携わる人々にとって人体生理学は大変大切である。職場の労働者の健康管理や快適な職場環境づくりを行うための衛生管理者にとって、この生理学は欠かすことのできない科目であるが、難解な科目でもある。しかし、まず、人体の全般にわたって理解を深め、その上で、専門的な知識を習得していくことが大切である。本科目では、人体各部の組織、器官・器官系それぞれの生理機能を理解し、それらが統合された個体としての人体活動について、疾病とも関連させて学ぶ。		
8. 学習目標	<p>学生には下記について学び、説明できるようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を確認する。 2. 生体内の諸組織・器官の機能について学ぶ。 3. 生体内の諸組織・器官の神経系による調節について学ぶ。 4. 生体内の諸組織・器官の内分泌系による調節について学ぶ。 5. 神経系・免疫系・自律神経系を介する生体防御について学ぶ。 6. 生体機能を健康的に維持する方法について学ぶ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ごとのレポート：各問題に簡潔に説明せよ <ol style="list-style-type: none"> ①血液の成分と機能、 ②免疫の仕組みと働き、 ③体循環と肺循環の血流ルートとその生理的意義、 ④呼吸の調節、 ⑤肺気量の分画、 ⑥各消化液の機能、 ⑦骨のカルシウム代謝、 ⑧体温調節の仕組み、 ⑨ホルモン分泌の調整を行うフィードバック機構、 ⑩血糖値を調整するホルモン、 ⑪ストレスと内分泌系の変化、 ⑫神経の興奮伝達・シナプス伝達、 ⑬体性神経系と自律神経系の類似点と相違点、 ⑭中枢神経の分類とその働き、 ⑮骨格筋・心筋・平滑筋の類似点と相違点、 ⑯平衡聴覚器の仕組みとその働き <p>※A4/1枚にまとめる。</p> 2. まとめレポート：教科書の中から最も関心の高かった器官の一つを選び、概要をまとめ完成させる。 ※A4/2枚にまとめる。第15回授業後提出。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】岡田隆夫・松村幹郎著『人体生理学ノート 改訂7版』金芳堂、2009。 【参考書】吉岡利忠他(編)『生体機能学テキスト 第2版』中央法規、2007。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業中の積極的発言、日常の受講態度、課題レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の積極的発言 総合点の20% 2. 授業ごとの課題 総合点の40% 3. まとめレポート 総合点の40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、受講生は以下の条件を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は常に集中力を保って受講すること。 2. 積極的態度で授業を参加すること。疑問点は後に残さず、講義時間内及び直後に質問すること（研究室への来訪は大歓迎）。 3. 予習・復習を十分行うこと。関連図書を沢山読むこと。 4. レポートは、簡潔且つ要点を掘り下げたものを求めること。 5. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。特に、携帯電話の操作は絶対にしないこと。上記のことをした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 		
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも結構であるが、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の解説) 身体・細胞 (構造と機能)	事前学習	pp. 1～13: 身体の仕組み; 細胞の構造と機能について予習する。
		事後学習	細胞膜・細胞内小器官・細胞核の機能についてまとめる。
第2回	体液 (組成、恒常性の調節)	事前学習	pp. 15～19: 体液の組成とバランスについて予習する。
		事後学習	細胞内液、細胞外液の組成、水分調整、脱水症状についてまとめる。
第3回	血液 (組成、役割、血液凝固と線溶系)	事前学習	pp. 31～44: 血液の組成と役割について予習する。
		事後学習	血球の働き、血液凝固機序についてまとめる。
第4回	循環① (心機能の調節機序、心電図の意味)	事前学習	pp. 57～67: 心臓の位置、構造について予習する。
		事後学習	心機能の調節機序と心電図の意味についてまとめる。
第5回	循環② (血管系と機能調節、血管系の異常、リンパ系)	事前学習	pp. 68～85: 血管系・リンパ系の構造と機能調節について予習する。

		事後学習	血管系・血圧調節の機序とリンパ液の役割についてまとめる。
第 6 回	呼吸① (呼吸器の構造と機能調節)	事前学習	pp. 45～49: 気道と肺の構造と機能について予習する。
		事後学習	呼吸器系の機能調節についてまとめる。
第 7 回	呼吸② (ガス交換、呼吸器系の異常)	事前学習	pp. 49～56: 吸気・呼気中のガス成分について予習する。
		事後学習	血中酸素分圧の測定結果を踏まえて、呼吸器系機能についてまとめる。
第 8 回	消化① (消化器系の構造と機能調節)	事前学習	pp. 99～102: 消化管と消化腺の構造について予習する。
		事後学習	消化管と消化腺の機能調節についてまとめる。
第 9 回	消化② (消化、吸収、消化管ホルモン)	事前学習	pp. 102～109: 消化・吸収の意味、消化酵素生理機能について予習する。
		事後学習	消化運動に関与するホルモンについてまとめる。
第 10 回	授業のまとめとディスカッション 第 1 回 課題レポート提出	事前学習	第 1 回～第 9 回まで学んだことについて学生間でディスカッションし、第 1 回課題レポートを行う。
		事後学習	課題レポートの内容について、誤っていた部分を再学習する。
第 11 回	栄養と代謝 (栄養素、中間代謝、エネルギー所要量)	事前学習	pp. 111～118: 栄養素の種類と機能について予習する。
		事後学習	栄養素の代謝についてまとめる。
第 12 回	体温 (体温の生理的変動、熱産生、熱放射、気候順化)	事前学習	pp. 119～120: 人体の体温測定部位と正常値、体温調節中枢について予習する。
		事後学習	体温調節のメカニズムについてまとめる。
第 13 回	尿の生成と排尿 (腎臓の機能、糸球体の濾過、尿細管再吸収、体内の水分平衡)	事前学習	pp. 87～98: 泌尿器系の構造と機能について予習する。
		事後学習	尿の生成機構と排尿機構についてまとめる。
第 14 回	内分泌系① (内分泌腺とホルモン、ホルモン分泌調節機序)	事前学習	pp. 125～129: 内分泌腺・外分泌腺の相違とホルモンの特性について予習する。
		事後学習	内分泌の刺激機構、フィードバックによる抑制機構についてまとめる。
第 15 回	内分泌系② (成長ホルモン、甲状腺ホルモン、下垂体後葉ホルモン)	事前学習	pp. 130～136: 下垂体、甲状腺の構造と機能について予習する。
		事後学習	成長ホルモン、甲状腺ホルモン、下垂体後葉ホルモンの生理的効果についてまとめる。
第 16 回	内分泌系③ (副腎皮質ホルモン、性ホルモン、膵臓ホルモン)	事前学習	pp. 136～142: 副腎ホルモンとインスリンの機能について予習する。
		事後学習	ホルモンの過剰・過小の影響についてまとめる。
第 17 回	内分泌系④ (ストレスと内分泌系の変化)	事前学習	事前配布資料を読んで、ストレスの生理機能への影響について予習する。
		事後学習	ストレスに起因する各種疾患について、内分泌と免疫機構との関連を含めてまとめる。
第 18 回	生殖 (性分化、二次性徴、性周期、受精・分娩)	事前学習	pp. 143～149: 受精、胎児の成長、分娩の過程について予習する。
		事後学習	性分化、二次性徴と性ホルモンとの関連についてまとめる。
第 19 回	骨とカルシウム代謝 (構造、骨吸収・再形成、骨代謝とホルモン、骨粗鬆症)	事前学習	事前配布資料を読んで、骨の構造と代謝、骨粗鬆症について予習する。
		事後学習	カルシウム調整ホルモンの種類と機能、骨粗鬆症の予防機構についてまとめる。
第 20 回	授業のまとめとディスカッション 第 2 回 課題レポート提出	事前学習	第 11～第 19 回まで学んだことについて学生間でディスカッションし、第 2 回課題レポートを行う。
		事後学習	課題レポートの内容について、誤っていた部分を再学習する。
第 21 回	神経① (神経細胞の形態、活動電位、興奮の伝達・伝導)	事前学習	pp. 21～29: 神経細胞の特徴とシナプス伝達について予習する。
		事後学習	神経の興奮伝導・シナプス伝達についてまとめる。
第 22 回	神経② (自律神経系、運動神経系、感覚神経系)	事前学習	pp. 153: 末梢神経系 (遠心性、求心性) の特徴について予習する。
		事後学習	末梢神経系の障害に伴う各種症状をまとめる。
第 23 回	神経③ (中枢神経系: 大脳新皮質、辺縁系)	事前学習	pp. 151～161: 脳の構造と機能について予習する。

		事後学習	高次脳機能とそれらの障害に伴う症状についてまとめる。
第 2 4 回	神経④ (中枢神経系：脳幹、脊髄、小脳)	事前学習	事前配布資料を読んで、脳幹、脊髄、小脳の構造について予習する。
		事後学習	脳幹、脊髄、小脳の機能についてまとめる。
第 2 5 回	筋肉① (骨格筋：筋収縮の機序、運動の神経支配)	事前学習	pp. 183～191：随意筋(骨格筋)と不随意筋(平滑筋・心筋)の特徴について予習する。
		事後学習	骨格筋の収縮機序と筋疲労についてまとめる。
第 2 6 回	筋肉② (平滑筋、心筋)	事前学習	pp. 183～185：平滑筋と心筋の特徴について予習する。
		事後学習	平滑筋、心筋の収縮と自律神経調節機構についてまとめる。
第 2 7 回	感覚① (感覚の種類、感覚受容器と伝導、体性感覚)	事前学習	pp. 163～167：五感とは何か、感覚刺激の感受、伝導・伝達と脳機能について予習する。
		事後学習	体性感覚の種類と感度についてまとめる。
第 2 8 回	感覚② (特殊感覚)	事前学習	pp. 168～182：特殊感覚の種類と感覚受容部位について予習する。
		事後学習	特殊感覚(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚)の特徴とそれらの障害についてまとめる。
第 2 9 回	授業のまとめと総括、質疑応答	事前学習	第 1 回～第 2 8 回まで学んだ内容について学生間でディスカッションし、質疑応答を行う。
		事後学習	第 1 回～第 2 8 回までの授業を振り返り、ポイントを掴む為に再学習する。
第 3 0 回	第 3 回 課題レポートを作成し、提出する	事前学習	課題に対するレポートの作成を行うこと。
		事後学習	生理学全般について、学習目標を達成できたかを考えておく。

1. 科目名 (単位数)	生理心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3336
2. 授業担当教員	小澤 良			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	P 3 編年次以上			
7. 講義概要	生理心理学とは、生体の生理的反応と心的過程との対応関係について研究する分野である。心的反応によって生じる生理的变化は、脳内活動によって制御されている。本講義では脳の構造と働きについて体系的な知識を身につけるとともに、知覚、記憶、感情といった心的過程と脳の生理的反応の関係について学ぶ。さらに、精神疾患との関連についても学び、「心」の問題と脳の活動について理解を深める。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と働きについて基本的な知識を身につける。 ・心的過程や精神疾患に脳がどのように関わっているのか学ぶ。 ・上記の応用として、臨床事例と脳の活動について説明出来るようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	特にレポート・宿題を求めることはないが、予習・復習をおこなうこと。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定しない(資料を事前に配布する)。 【参考書】 村上郁也 編『イラストレクチャー 認知神経科学』オーム社、2010 年。			
11. 成績評価の方法	発表課題(関連テーマ1つをまとめた口頭発表)：90% 授業態度：10% 私語は禁止するが、質問は随時受けつけるので積極的に行うこと。			
12. 受講生へのメッセージ	授業はただその時間だけ参加すればよいものではなく、そこで得た知識を基に自分で知識を深めていくきっかけとなるものである。また、授業中も出来るだけ知識を吸収するため、積極的な態度で参加することを期待する。授業への参加にあたっては、以下の事項を守って臨むこと。 1. 授業のための予習・復習を必ずする。 2. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず書面をもって教員に報告する。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明)	事前学習	シラバスを熟読し、内容を確認しておくこと。	
		事後学習	第1回に習った心理学一般に関してノートにまとめ復習すること。	
第2回	生理心理学とは	事前学習	「生理心理学とは」何かを資料を探して調べてくること。	
		事後学習	心理学における生理指標の位置づけをノートにまとめておくこと。	
第3回	脳の解剖学1	事前学習	講義資料を熟読し、「脳の解剖」をA4用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。	
第4回	脳の解剖学2	事前学習	前回の内容を再度確認すること。	
		事後学習	第3・4回を通じた内容をA4用紙三枚程度にまとめる。	
第5回	脳活動の測定	事前学習	第1回～第4回までの講義資料を熟読すること。	
		事後学習	脳活動の測定をA4用紙一枚程度にまとめること。	
第6回	視覚	事前学習	講義資料を熟読し、「脳と視覚」についてA4用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。	
第7回	聴覚	事前学習	講義資料を熟読し、「脳と聴覚」をA4用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	第6・7回を通じた内容をA4用紙三枚程度にまとめる。	
第8回	記憶と学習	事前学習	講義資料「脳と記憶」を熟読し、A4用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加えること。	
第9回	言語	事前学習	講義資料を熟読し、「脳と言語」をA4用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加え、読み返してこること。	
第10回	運動	事前学習	講義資料を熟読し、「脳と運動」をA4用紙一枚程度にまとめること。	
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに	

			加えること。
第 1 1 回	脳と感情	事前学習	講義資料を熟読し、「脳と感情」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加え、読み返してくること。
第 1 2 回	ストレス性疾患	事前学習	講義資料を熟読し、「脳とストレス性疾患」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	第 11・12 回を通した内容を A4 用紙三枚程度にまとめる。
第 1 3 回	執行機能	事前学習	講義資料を熟読し、「脳と執行機能」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加え、読み返してくること。
第 1 4 回	意識	事前学習	講義資料を熟読し、「脳と意識」を A4 用紙一枚程度にまとめること。
		事後学習	事前学習で作成したまとめに、講義内容を新たに加え、読み返してくること。
第 1 5 回	これまで学んだテーマのうち 1 つを選択し、口頭発表を行なう。それに対する講評も合わせて行う。	事前学習	これまでの資料等を熟読して、今まで学んだことをまとめてくること。
		事後学習	これまでに作成したまとめの整理をすること。

1. 科目名 (単位数)	専門演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDOT4198 EDOT4199
2. 授業担当教員	宋 暁鈞		
4. 授業形態	講義、問題演習、意見発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本授業は、日本語教師にとって必要な基礎学力養成を目標とする。基礎学力とは、日本語教師の教養及び日本語専門を中心としながら課題設定や研究能力の向上等も含めている。そして学生各自のスキルアップを図ることを目指している。</p> <p>具体的には、「留学生の健康観および健康づくりの取り組み」と題して、受講生は各自の興味に基づいて「留学生の喫煙に関する調査」や「留学生の朝食意識に関する調査」等のテーマを設定し、必要な質問紙調査を実施しながら、資料を収集し、関連情報の分析も行う。そして数回にわたって研究発表を行い討議する。その研究成果を論文としてまとめることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 研究に関して、その構想力や実践力等がどのように遂行するかということが理解できるようになる。</p> <p>2. 自分の考え方を分かりやすく発表したり、他者の発表について積極的に意見を述べるができるようになる。</p> <p>3. 良い健康状態を守ると学習効果も向上する。その関連性について理解できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎授業ごとにレポート課題に関わる文献・資料・データ・情報等の収集、討論、発表。</p> <p>レポート課題 各自の研究テーマにより、その概要をまとめ完成させる。 ※A4約7～8枚(約3000字)でまとめる。第15回授業後提出。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 必要に応じて随時参考資料を配布する。</p> <p>【参考書】 各自の研究テーマにより、健康・スポーツ・身体についての関連文献や書籍を選択すること。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題レポート 70%</p> <p>授業参加度 20%</p> <p>授業態度 10%</p> <p>授業での積極的な発言や提案、発表が加味される。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、以下の事を守ることが期待されている。</p> <p>1. 学生には常に集中力を保って受講し、積極的態で授業に参加すること。理解できない問題をそのまま放置しないこと。自ら進んで教員に質問することを望む。</p> <p>2. 各自の課題に対して、自ら関連文献を収集し、論文としてまとめ、口頭発表を繰り返し練習する事をすすめる。</p> <p>3. マスメディアに外国人学生に関する情報も多数紹介されるので、関心を持ってチェックすること。</p> <p>4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。</p> <p>特に、携帯電話の操作は絶対にしないこと。</p> <p>上記のことをした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。</p> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <p>1. 授業の目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>2. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。</p> <p>3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも結構ですが、研究室で受けます。どんな事でも気軽に相談して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	【健康の自己観察Ⅰ】 各自の健康状態を THI 調査によって明らかにする。	事前学習	専門演習の学習用ノートを準備し、講義へ臨むこと。
		事後学習	THI と健康の主観・多面的測定の意義を理解し、THI 調査を行い、学習用ノートに各自の調査内容をまとめる。
第2回	【健康の自己観察Ⅱ】 THI 調査結果から、各自の健康状態について把握し、課題を発見する。	事前学習	各自の健康状態・健康観について何か考えておく。
		事後学習	学習用ノートに各自の計画を立てる。研究テーマとは何か考えておく。
第3回	【健康の自己観察Ⅲ】 課題解決のための方法を考え・討論し、研究の方向性を決める。	事前学習	研究の方向性や研究テーマを再び考えておく。
		事後学習	設定した研究テーマの妥当性について再考する。組立てた研究論旨を学習用ノートにまとめる。
第4回	【課題Ⅰ】—① 留学生の喫煙習慣とストレスの関わり：何故留学生の喫煙が多いのか、ストレスとの関連性について考え、討論	事前学習	留学生の喫煙習慣とストレスの関わりについて考えておく。
		事後学習	何故留学生の喫煙が多いのか、ストレスとの関

	する。		連性について、考案した内容を学習用ノートにまとめる。
第 5 回	【課題Ⅰ】—② 「喫煙の健康に及ぼす影響について」の文献を収集する。医学的知見について学習する。	事前学習	「喫煙の健康に及ぼす影響について」関連のある文献をどのように収集するか考えておく。
		事後学習	学んだ医学的内容を各自の学習用ノートにまとめ、再学習する。
第 6 回	【課題Ⅰ】—③ 喫煙と発癌性との関連、呼吸性や消化性疾患の発病について、医学の領域に関する学習。	事前学習	喫煙は身体にどのような悪影響を与えるのか考えておく。
		事後学習	配布したプリントの内容を各自の学習用ノートにまとめ、再学習する。
第 7 回	【課題Ⅰ】—④ ストレスによる身体の変化（心身相関・心身症）について学び、その解消法について考える。	事前学習	何故ストレスが身体に変化を起こさせるのかを考えておく。
		事後学習	各自のストレス解消法を学習用ノートにまとめる。
第 8 回	【課題Ⅱ】—① 生体リズムについて学び、考える。	事前学習	生体のリズムとは何か考えておく。
		事後学習	生体リズムと自律神経系の関わりを学習用ノートにまとめる。
第 9 回	【課題Ⅱ】—② 朝食の必要性や、睡眠と起床の関連性について生理学の観点から学ぶ・理解する。	事前学習	朝食の必要性や、睡眠と起床の関連性について考えておく。
		事後学習	消化器系や神経系等、学習した医学的内容を学習用ノートにまとめる。
第 10 回	【課題Ⅱ】—③ 睡眠の深さと生体リズム	事前学習	睡眠の深さと生体リズムについて考えておく。
		事後学習	正しい生活習慣を守ることの必要性について、その内容を学習用ノートにまとめる。
第 11 回	【課題Ⅱ】—④ 日々の生活習慣：労働、睡眠・起床について含めて考え、健康づくりの計画を立案し、実践する。	事前学習	健康づくりの計画とは何か考えておく。
		事後学習	各自の健康づくりの計画についてその内容を学習用ノートにまとめる。
第 12 回	【課題発表、検討会Ⅰ】	事前学習	各自がまとめたものをベースに、報告用資料を作成する。課題の発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表した内容について、不足点の修正や補足を行う。
第 13 回	【課題発表、検討会Ⅱ】	事前学習	再び発表の準備を行う（資料の精査及び発表手順の再確認）。
		事後学習	学習用ノートに書かれている研究結果を元に、論文を作成する。
第 14 回	【課題発表、検討会Ⅲ】	事前学習	各自の研究内容の妥当性や順序について考えておく。
		事後学習	再び研究の内容の確認、改めて添削や補足を行う。
第 15 回	まとめ・論文提出	事前学習	授業を振り返り、書いた内容を論文として提出する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2155
2. 授業担当教員	植木 是		SSMP2155
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	SB/P 2年次以上		
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	学生には下記の目標を達成することが期待される。 ・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学生の理解度に応じた課題を適宜出します。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	・授業に臨む姿勢 (授業への参加度、集団論議の進行・内容) 30% ・課題とその発表 30% ・小テスト (最終講義のなかで行う) 40%		
12. 受講生への メッセージ	本講義では、大学の各講義で学んだ知識や方法を当事者支援に活用するために必要となる援助技術の理論や方法を学ぶ。現場実践に不可欠な内容について講義するので、予習・復習にしっかりと取り組み理解を深めること。特に、ソーシャルワークのプロセスやバイステックの 7 原則と言った基礎的な知識は、確実に身につけられるようにすること。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後に相談に応じます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 社会福祉におけるソーシャルワークの位置づけ	事前学習	ソーシャルワーク I で何を学ぶのか、テキストを概観する。
		事後学習	社会福祉とソーシャルワークの関係について、理解を深めておく。
第 2 回	第 1 章 相談援助とは ソーシャルワーカーとソーシャルワーク	事前学習	第 1 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルワーカーとは、ソーシャルワークとは、これらを端的に説明できるようにする。
第 3 回	第 2 章 相談援助の構造と機能 ソーシャルワークの構造	事前学習	第 2 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルワークの対象についての理解を深める。
第 4 回	第 2 章 相談援助の構造と機能 ソーシャルワークの機能	事前学習	第 2 章第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルワークの機能についての理解を深める。
第 5 回	第 3 章 人と環境の相互作用	事前学習	第 3 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	人と環境の相互作用に働きかけるソーシャルワークのイメージをつかむ。
第 6 回	第 4 章 相談援助における援助関係 援助関係の意義	事前学習	第 4 章第 1 節、第 2 節、第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ミクロ、メゾ、マクロの各領域におけるソーシャルワークについて理解する。
第 7 回	第 4 章 相談援助における援助関係 援助関係の質と自己覚知	事前学習	第 4 章第 4 節、第 5 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	協働的援助関係について、理解を深めておく。

第 8 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I ケース発見からアセスメントまで	事前学習	第 5 章第 1 節、第 2 節、第 3 節、第 4 節、第 5 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	アセスメントの視点と方法について、理解を深めておく。
第 9 回	第 5 章 相談援助の展開過程 I アセスメントから支援の実施まで	事前学習	第 5 章第 6 節、第 7 節、第 8 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	当事者主体の支援計画とはどのようなものか、理解を深めておく。
第 10 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II モニタリングと再アセスメント	事前学習	第 6 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	モニタリングの視点と方法について、理解を深めておく。
第 11 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II 支援の終結とアフターケア	事前学習	第 6 章第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	支援関係終結後のアフターケアの視点と方法について、理解を深めておく。
第 12 回	第 6 章 相談援助の展開過程 II 予防的対応とサービス開発	事前学習	第 6 章第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	潜在的ニーズに対する予防的視点がなぜ重要なのかを理解する。
第 13 回	第 7 章 相談援助のためのアウトリーチの技術 アウトリーチの意義と目的	事前学習	第 7 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	アウトリーチの必要性を理解する。
第 14 回	第 7 章 相談援助のためのアウトリーチの技術 アウトリーチの方法と留意点	事前学習	第 7 章第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	アウトリーチの方法と課題について考える。
第 15 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術 契約の意義と目的	事前学習	第 8 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルワークでなぜ契約が重要になるのかを理解しておく。
第 16 回	第 8 章 相談援助のための契約の技術 契約の方法と留意点	事前学習	第 8 章第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	支援・被支援関係における「合意」の意味について理解する。
第 17 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメントの技術 アセスメントの特性、援助関係、面接	事前学習	第 9 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	アセスメントは何を目的に実施するのかを理解する。
第 18 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメントの技術 得るべき情報と視覚化	事前学習	第 9 章第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	アセスメントの方法について理解する。
第 19 回	第 9 章 相談援助のためのアセスメントの技術 情報の使い方	事前学習	第 9 章第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	アセスメントで得た情報の活用方法について理解を深める。
第 20 回	第 10 章 相談援助のための介入の技術 介入の意義と目的	事前学習	第 10 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルワークにおいて「介入する」ということはどういうことかを理解する。
第 21 回	第 10 章 相談援助のための介入の技術 介入の方法と留意点	事前学習	第 10 章第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	介入の際に求められる方法について理解する。
第 22 回	第 11 章 相談援助のための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術 モニタリング	事前学習	第 11 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	モニタリングに求められる視点と方法について理解する。
第 23 回	第 11 章 相談援助のための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術 再アセスメント	事前学習	第 11 章第 2 節、第 3 節、第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	再アセスメントに求められる視点と方法について理解する。
第 24 回	第 12 章 相談援助のための面接の技術 面接の目的と展開	事前学習	第 12 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	なぜ面接を行うのか、どのような面接を行うのかを理解する。
第 25 回	第 12 章 相談援助のための面接の技術 面接の技術とコミュニケーション	事前学習	第 12 章第 3 節、第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。

		事後学習	面接に必要な技術について、どのようにすれば身につけられるのかを考える。
第 26 回	第 13 章 相談援助のための記録の技術 記録の意義と目的	事前学習	第 13 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	実践現場における支援記録の意義と課題について理解を深める。
第 27 回	第 13 章 相談援助のための記録の技術 記録の方法と IT 化	事前学習	第 13 章第 3 節、第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	IT 化の課題について整理しておく。
第 28 回	第 14 章 相談援助のための交渉の技術 交渉の意義と目的	事前学習	第 14 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルワークにおける交渉の意義を考える。
第 29 回	第 14 章 相談援助のための交渉の技術 交渉の方法と留意点	事前学習	第 14 章第 2 節、第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	交渉の方法について学びを深める。
第 30 回	小テスト 半期の振り返り	事前学習	ソーシャルワークのプロセスとバリエーションの 7 原則について復習しておく。
		事後学習	半期を振り返って学び足りないことを整理しておく。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)		3. 科目番号	SSMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	植木 是			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学生の理解度に応じた課題を適宜出します。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座 7）』第 3 版、中央法規出版、2015 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に臨む姿勢（授業への参加度、集団論議の進行・内容） 30% ・ 課題とその発表 30% ・ 小テスト（最終講義のなかで行う） 40% 			
12. 受講生への メッセージ	ソーシャルワークⅠに引き続き、相談援助に必要な理論・方法について学んでいく。実践現場で使える生きた知識として身につけることを期待する。			
13. オフィスアワー	授業時間の前後に相談に応じる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワークⅡの位置づけと内容	事前学習	ソーシャルワークⅠで学んだ内容の振り返りをしておく。	
		事後学習	ソーシャルワークⅡで何を学ぶのか、テキストを概観する。	
第 2 回	第 1 章 相談援助における対象の理解 社会福祉援助活動の概念と定義	事前学習	第 1 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	社会福祉援助活動とはどのようなものであるか、理解を深めておく。	
第 3 回	第 1 章 相談援助における対象の理解 相談援助の対象をどうとらえるか	事前学習	第 1 章第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	個人、家族、グループ、地域のとらえ方について復習しておく。	
第 4 回	第 2 章 ケースマネジメント（ケアマネジメント） ケースマネジメントの基本とそのプロセス	事前学習	第 2 章第 1 節、第 2 節、第 3 節、第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	ケースマネジメントのプロセスについて理解を深めておく。	
第 5 回	第 2 章 ケースマネジメント（ケアマネジメント） ケースマネジメントの特徴とソーシャルワークとの関係	事前学習	第 2 章第 5 節、第 6 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	ケースマネジメントについて理解を深めておく。	
第 6 回	第 3 章 グループを活用した相談援助	事前学習	第 3 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	グループワークの意義と展開過程について理解を深めておく。	
第 7 回	第 3 章 グループを活用した相談援助 自助グループを活用した相談援助	事前学習	第 3 章第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。	
		事後学習	自助グループについて理解を深めておく。	

第 8 回	第4章 コーディネーションとネットワーキング コーディネーション	事前学習	第 4 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	コーディネーションについて理解を深めておく。
第 9 回	第4章 コーディネーションとネットワーキング ネットワーキング	事前学習	第 4 章第 3 節、第 4 節、第 5 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ネットワーキングについて理解を深めておく。
第 1 0 回	第5章 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 意義と目的、方法と留意点	事前学習	第 5 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	社会資源とはどのようなものか理解を深めておく。
第 1 1 回	第5章 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 ソーシャルアクション	事前学習	第 5 章第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルアクションについて理解を深めておく。
第 1 2 回	第6章 さまざまな実践モデルとアプローチ I 三つの実践モデル	事前学習	第 6 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	三つの実践モデルの特徴を理解しておく。
第 1 3 回	第6章 さまざまな実践モデルとアプローチ I ジェネラリスト・ソーシャルワーク	事前学習	第 6 章第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特徴を理解しておく。
第 1 4 回	第7章 さまざまな実践モデルとアプローチ II 心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ	事前学習	第 7 章第 1 節、第 2 節、第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	各アプローチの特徴を理解しておく。
第 1 5 回	第7章 さまざまな実践モデルとアプローチ II 課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ	事前学習	第 2 章第 4 節、第 5 節、第 6 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	各アプローチの特徴を理解しておく。
第 1 6 回	第 8 章 さまざまな実践モデルとアプローチ III エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ	事前学習	第 8 章第 1 節、第 2 節、第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	各アプローチの特徴を理解しておく。
第 1 7 回	第 8 章 さまざまな実践モデルとアプローチ III アプローチをめぐる課題	事前学習	第 8 章第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	各アプローチの特徴を理解しておく。
第 1 8 回	第 9 章 スーパービジョンとコンサルテーション スーパービジョンの意義、目的、方法、留意点	事前学習	第 9 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	スーパービジョンについて理解しておく。
第 1 9 回	第 9 章 スーパービジョンとコンサルテーション コンサルテーション	事前学習	第 9 章第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	コンサルテーションについて理解しておく。
第 2 0 回	第 10 章 ケースカンファレンスの技術 意義と目的、運営と展開過程	事前学習	第 10 章第 1 節、第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ケースカンファレンスについて理解を深めておく。
第 2 1 回	第 10 章 ケースカンファレンスの技術 事例検討	事前学習	第 10 章第 3 節、第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	事例検討に関する講義内容の振り返りを行う。
第 2 2 回	第 11 章 相談援助における個人情報の保護 個人情報の保護	事前学習	第 11 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	個人情報の保護と社会福祉士の倫理綱領について理解を深めておく。
第 2 3 回	第 12 章 相談援助における情報通信技術 (ICT) の活用	事前学習	第 12 章を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	ソーシャルワークと ICT の関係について理解しておく。
第 2 4 回	第 13 章 事例研究・事例分析 事例研究の目的と意義	事前学習	第 13 章第 1 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	講義内容の要点をまとめ、実践現場で活用できるようにしておく。
第 2 5 回	第 13 章 事例研究・事例分析 事例研究の方法と留意点	事前学習	第 13 章第 2 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	講義内容の要点をまとめ、実践現場で活用できるようにしておく。
第 2 6 回	第 13 章 事例研究・事例分析 事例分析の目的と意義	事前学習	第 13 章第 3 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	講義内容の要点をまとめ、実践現場で活用でき

			るようしておく。
第 27 回	第 13 章 事例研究・事例分析 事例分析の方法と留意点	事前学習	第 13 章第 4 節を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	講義内容の要点をまとめ、実践現場で活用できるようにしておく。
第 28 回	第 14 章 相談援助の実際 事例 1、事例 3	事前学習	第 14 章事例 1、事例 3 を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	講義内容の要点をまとめ、実践現場で活用できるようにしておく。
第 29 回	第 14 章 相談援助の実際 事例 2、事例 4	事前学習	第 14 章事例 2、事例 4 を通読し、わからない用語等があれば調べておく。
		事後学習	講義内容の要点をまとめ、実践現場で活用できるようにしておく。
第 30 回	小テスト 半期の振り返り	事前学習	小テスト対策をしておく。
		事後学習	社会福祉におけるソーシャルワークの意義・役割を明確にしておく。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4 単位)		3. 科目番号	SBMP3157 SSMP3157 PSMP3457						
2. 授業担当教員	植木 是		5. 開講学期	春期						
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ									
6. 履修条件・他科目との関係	ソーシャルワークⅠ及びⅡをすでに履修していることが望ましい。									
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>									
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント (ケアマネジメント) についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>毎回講義の始めに前回講義内容についての振り返り問題を行うため必ず復習をしてから受講すること。</p> <p>課題については講義内容の中から課題を設定する。</p> <p>Ex. レポート課題 1: 事例を読んで、治療 (医学) モデル、生活モデル、ストレングスマodelの各実践モデルの特徴的な捉え方、質問の仕方などを考察せよ。(A4 2 枚程度)</p> <p>レポート課題 2: スーパービジョンとコンサルテーションの違いについて論述せよ。(A4 2 枚程度)</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座 8)』第 3 版、中央法規、2015 年。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>積極的な受講態度</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>各期 1 回 10% × 2</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>70%</td> </tr> </table>				積極的な受講態度	10%	レポート	各期 1 回 10% × 2	期末試験	70%
積極的な受講態度	10%									
レポート	各期 1 回 10% × 2									
期末試験	70%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>ソーシャルワークの理論について事例を通して一緒に学んでいく。</p> <p>様々な実践モデルやアプローチを学び、相談援助の実際について理解していくことが重要である。</p> <p>わからないことをそのままにしないで積極的に質問すること。</p>									
13. オフィスアワー	授業前後の時間、これ以外の時間については、教務課に相談しアポイントを取ってください。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 相談援助における対象の理解① ・社会福祉援助活動の概念と定義について	事前学習	テキスト (社会福祉援助活動の概念と定義) を熟読すること。							
		事後学習	ソーシャルワークの定義について自身の言葉でまとめておく。							
第 2 回	相談援助における対象の理解② ・相談援助の対象をどうとらえるか	事前学習	テキスト pp.7~17 を熟読すること。							
		事後学習	システム理論に基づいたクライアント理解についてまとめておく。							
第 3 回	ケースマネジメント (ケアマネジメント) ① ・ケースマネジメントの基本とその過程	事前学習	テキスト pp.21~32 を熟読すること。							
		事後学習	ケースマネジメントの過程について再読し、ノートにまとめておく。							
第 4 回	ケースマネジメント (ケアマネジメント) ② ・ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴 ・ケアプランの作成・実施の特徴 ・ケースマネジメントの特徴・ソーシャルワークの関係	事前学習	テキスト pp.33~52 を熟読すること。							
		事後学習	アセスメントについて、自身の言葉で要約しておく。							
第 5 回	グループを活用した相談援助 ・グループの意義と展開、自助グループの活用	事前学習	テキスト pp.53~73 を熟読すること。							
		事後学習	自身が地域でどのようなグループに所属しているか書き出しておく。							
第 6 回	コーディネーションとネットワーキング ・コーディネーションの目的と意義、方法と技術、留意点 ・ネットワーキングの目的と意義、方法	事前学習	テキスト pp.75~97 を熟読しておく。							
		事後学習	コーディネーションとネットワーキングについてまとめておく。							

第 7 回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発① ・社会資源の活用、調整・開発の意義と目的、方法と留意点	事前学習	テキスト pp.99~115 を熟読しておく。
		事後学習	自身の地域にある「社会資源」には何があるか調べてまとめる。
第 8 回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発② ・ソーシャルアクションのシステム作りについて、事例研究	事前学習	テキスト pp.116~120 を熟読する。
		事後学習	ソーシャルアクションによって新しい社会資源となったものを調べてノートにまとめておく。
第 9 回	さまざまな実践モデルとアプローチ I ① ・実践モデルの意味について	事前学習	テキスト pp.121~130 を熟読する。
		事後学習	なぜ実践モデルが必要か、考えノートにまとめておく。
第 10 回	さまざまな実践モデルとアプローチ I ② ・治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルの理解について	事前学習	テキスト pp.131~135 を熟読する。
		事後学習	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルをそれぞれ、ノートにまとめておく。
第 11 回	さまざまな実践モデルとアプローチ I ③ ・ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	事前学習	テキスト pp.136~141 を熟読する。
		事後学習	課題 1 : 事例をもとに各実践モデルの特徴的な捉え方、質問の仕方などを考察せよ (A4 2 枚程度)
第 12 回	さまざまな実践モデルとアプローチ II ① ・心理社会的アプローチ	事前学習	テキスト pp.143~146 を熟読する。
		事後学習	心理社会的アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 13 回	さまざまな実践モデルとアプローチ II ② ・機能的アプローチ	事前学習	テキスト pp.147~149 を熟読する。
		事後学習	機能的アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 14 回	さまざまな実践モデルとアプローチ II ③ ・問題解決アプローチ	事前学習	テキスト pp.150~152 を熟読する。
		事後学習	問題解決アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 15 回	さまざまな実践モデルとアプローチ II ④ ・課題中心アプローチ 春期 まとめ	事前学習	テキスト pp.153~155 を熟読する。
		事後学習	課題中心アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 16 回	さまざまな実践モデルとアプローチ II ⑤ ・危機介入アプローチ	事前学習	テキスト pp.156~158 を熟読する。
		事後学習	危機介入アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 17 回	さまざまな実践モデルとアプローチ II ⑥ ・行動変容アプローチ	事前学習	テキスト pp.159~161 を熟読する。
		事後学習	行動変容アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 18 回	さまざまな実践モデルとアプローチ III ① ・エンパワメントアプローチ	事前学習	テキスト pp.164~167 を熟読する。
		事後学習	エンパワメントアプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 19 回	さまざまな実践モデルとアプローチ III ② ・ナラティブ・アプローチ	事前学習	テキスト pp.168~171 を熟読する。
		事後学習	ナラティブ・アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 20 回	さまざまな実践モデルとアプローチ III ③ ・その他のアプローチ ・アプローチをめぐる課題	事前学習	テキスト pp.172~181 を熟読する。
		事後学習	解決志向アプローチに関する基本文献を探し、疑問点等をノートにまとめておく。
第 21 回	スーパービジョンとコンサルテーションの技術 ① ・スーパービジョンの意義と目的 ・スーパービジョンの方法と留意点	事前学習	テキスト pp.184~200 を熟読する。
		事後学習	スーパービジョンはなぜ必要なのか、自身の言葉でまとめておく。
第 22 回	スーパービジョンとコンサルテーションの技術 ② ・コンサルテーションの意義 ・コンサルテーションの形態 ・スーパービジョンとの違いについて	事前学習	テキスト pp.201~203 を熟読する。
		事後学習	課題 2 : スーパービジョンとコンサルテーションの違いについて論述せよ (A4 2 枚程度)
第 23 回	ケースカンファレンスの技術 ① ・ケースカンファレンスの意義と目的	事前学習	テキスト pp.205~216 を熟読する。
		事後学習	ケースカンファレンスの意義についてまとめておく。
第 24 回	ケースカンファレンスの技術 ② ・ケースカンファレンスの実際、評価と普遍化について	事前学習	テキスト pp.217~229 を熟読する。
		事後学習	ケースカンファレンスの実際の事例を再読し、まとめておく。
第 25 回	相談援助における個人情報の保護	事前学習	テキスト pp.231~242 を熟読する。
		事後学習	個人情報保護の必要性についてまとめておく。
第 26 回	相談援助における情報通信技術 (ICT) の活用	事前学習	テキスト pp.243~255 を熟読する。
		事後学習	自身の地域では、情報弱者のために工夫されているものがあるか調べて、ノートに書き出しておく。
第 27 回	事例研究・事例分析 ① ・事例研究の目的と意義、方法と留意点	事前学習	テキスト pp.258~273 を熟読する。
		事後学習	事例研究の目的についてまとめる。

平成 28 年度

第 28 回	事例研究・事例分析② ・事例分析の目的と意義、方法と留意点	事前学習	テキスト pp.274~281 を熟読する。
		事後学習	事例分析の目的、事例研究との関係についてまとめておく。
第 29 回	相談援助の実際（事例 1・2）	事前学習	テキスト pp.283~289 を熟読する。
		事後学習	事例研究の実際を再読し、まとめておく。
第 30 回	相談援助の実際（事例 3・4・5） 総まとめ	事前学習	テキスト pp.290~297 を熟読する。
		事後学習	事例研究の実際を再読し、まとめておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1102 GELA2302
2. 授業担当教員	卯尾 章			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習 I、II、III、IV、V と 1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習 I では、これからの演習への導入として、社会福祉とは何か、社会福祉援助活動とは何か、どのように援助活動が展開されるのかという基本的学習を中心に、コミュニティ (地域) の社会学的定義、コミュニティの役割・機能、住民のニーズ (必要性) の発見と理解などに必要とする情報収集方法と社会調査方法を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習 I が終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) 社会福祉実践とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) コミュニティの社会学的な定義が明瞭にできる。 4) コミュニティの役割・機能と住民に対する福祉サービスがどのような形態で、どのような過程を通じて提供されるのか理解し、明瞭な説明が口頭及び文書でできる。 5) 初歩的なコミュニティ・ニーズの調査方法と情報収集方法の理解がされ、応用することができる。 6) コミュニティにおける福祉従事者の役割・機能の理解がされ、明瞭に説明できる。 7) コミュニティにおける福祉従事者の実践活動に必要とする知識について理解する。 8) 以上のことを報告書にまとめ、発表することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚) 課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成 課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。 課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。 まとめレポート: 課題 4 にて作成した報告書について各自でのまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房、2011 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート (課題 2・3・4) 30 % 個人レポート (課題 1) 30 % まとめレポート 40 % なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習 I のねらいと単元の解説、他己紹介、グループ編成		事前学習	ソーシャルワーク演習 I の学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。また、これからの学習に際し、テキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	ソーシャルワーク演習 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。
第 2 回	社会福祉とは? 社会福祉援助活動とは? 社会福祉の定義と目的、分類、活動の展開過程を知る		事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~25) を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
			事後学習	「社会福祉とは何か」「社会福祉援助活動」について学習用ノートにまとめ提出する (学習用

			ノートの確認)。
第 3 回	社会福祉の働き “ニーズ”とは何か？ 個人の“ニーズ”と福祉“ニーズ”の違い（もしくは同じ点）を知る 課題 1：マズローのニーズ体系に関するレポート（A4/2 枚）	事前学習	テキスト第 2 章（pp.28～51）のうち、「福祉ニーズ」について要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成。
第 4 回	地域（コミュニティ）について知る コミュニティとは何か？ コミュニティを知るための手段とは？ グループ分けと調べるコミュニティの選別 グループ毎に選別したコミュニティを調べるのに必要な資料やデータ収集	事前学習	テキスト第 3 章（pp.54～65）を熟読し、「コミュニティとは何か」「コミュニティの診断方法」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーで相談し、選別したコミュニティに関する資料とデータを収集する。
第 5 回	集めた資料やデータを整理、分析しグループレポートにまとめる 課題 2：グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成	事前学習	集められたデータをもとに、グループメンバー各自が予備的なレポートを作成する（これを用いてグループレポートを作成）。
		事後学習	グループ毎に作成したレポートをもとに、各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第 6 回	グループレポートの発表 1	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 7 回	グループレポートの発表 2	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 8 回	地域社会にどのような福祉のニーズがあるのか考える 希望する対象領域を考える 領域ごとのグループ編成 課題 3：グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。	事前学習	テキスト第 4 章（pp.68～76）を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループ毎に選別した領域に関する予備的情報（制度や関連データ）を各自収集し、学習用ノートにまとめる。
第 9 回	集めた資料、データの報告	事前学習	各自がまとめたものをベースに、報告用資料をグループで作成する。
		事後学習	報告した資料の課題点、不足点についてまとめ、不足点を補足する。
第 10 回	聞き取り調査の計画（1） 聞き取り対象者の選定 質問項目の作成	事前学習	テキスト第 4 章（pp.76～86）を熟読し、「現地調査の方法」について学習用ノートにまとめ提出する（学習用ノートの確認）。
		事後学習	「キー・インフォーマント・アプローチ」及び「フォーカス・グループ・アプローチ」について学習ノートにまとめる。
第 11 回	聞き取り調査の計画（2） 聞き取り調査の依頼（協力依頼書の作成方法、電話での依頼方法について） 聞き取り調査のロールプレイ（実際の聞き取り調査を想定して、演習内で互いに調査を行ってみる）	事前学習	グループ毎に聞き取り調査における調査項目について素案を作成する。
		事後学習	ロールプレイの実施を受け、課題とその修正点について各自学習ノートにまとめる。 聞き取り調査の実施計画についてグループで最終確認の後実施する。
第 12 回	聞き取り調査の実施 課題 4：コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。	事前学習	聞き取り調査にて収集したデータ（回答）を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめたレポートを受け、各自の考察を学習用ノートにまとめる。
第 13 回	聞き取り調査の成果発表（1）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 14 回	聞き取り調査の成果発表（2）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 15 回	振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅱに向けての課題	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる（まとめレポート）。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ提出する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2103 GELA2303
2. 授業担当教員	卯尾 章		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは、グループ(小集団)理論、グループ・ダイナミクス理論を基礎にして、グループワーク(集団援助技術)の学習をする。特に、実践グループワークの方法を中心に、目標の設定方法、グループの構成方法、グループ・プロセス、リーダーシップ、凝集性、メンバーの役割、相互作用、グループの発達段階などを演習グループの体験を通じて学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。 「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」 より詳細には、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ(小集団)とは何か、その基本的知識、特性の理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) グループ・ダイナミクス理論とその主要概念の理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) グループワークの歴史的発展、目的、特質、援助技術としての位置づけについて理解ができ、明瞭な説明ができる。 4) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)について各々の特質の理解ができ、説明ができる。 5) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)についてのワーカーの知識、技術、役割、機能の理解ができ、説明ができる。 6) グループ・プロセス(過程)の理解ができ、説明ができる。 7) グループワークを行ううえでの最低の技術(リーダーシップ、個々のメンバーとグループ全体にどのように関わるか、プロセスの促進、凝集性の発達、葛藤の解決、コミュニケーション能力の発達など)に関する基本的理解ができ、説明ができる。 8) 図工、音楽、ゲーム、行事などのプログラムを媒介役として、相互作用、凝集性の促進、役割・責務の遂行などについて理解ができ、実行することができる。 		
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	<p>課題1：自分がこれまで関わったグループ(小集団)(例：仲良しグループ、学級、高校の同窓会、勉強会、趣味のグループ等)を題材に、次にあげるグループの特性について例をあげて説明せよ(A4/3枚)。 ①どのような目的のグループか ②どのようにしてグループが作られたのか ③メンバーは何人か ④どのくらいの期間、継続しているのか ⑤どのくらいの頻度で会合を開いているのか ⑥グループの特性は何か ⑦あなたがグループに属する理由は何か ⑧今までにグループを止めた人はいるか、それはどのような理由からか ⑨グループの中心になっている人がいるか、それはどのような人格の人か ⑩グループの中で意見の相違、お互いの葛藤が生じた場合、どのように相違や葛藤を解決したか</p> <p>課題2：グループワークに関する文献を調べ、下記の「概念」の意味について自分の言葉で説明せよ(A4/3枚)。 ①グループ・ダイナミクス ②規範 ③役割 ④相互作用 ⑤凝集性 ⑥グループの発達段階 ⑦グループワーカーの役割と機能 ⑧メンバーの役割と機能</p> <p>課題3：リーダーシップ理論についてその概念についてまとめよ。(A4/2枚)。 まとめレポート：グループワークに関するまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】保田井進・硯川真旬・黒木保博『福祉グループワークの理論と実際』、2010年。 【参考書】平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』、2004年。 野村豊子 監訳『グループワーク入門』中央法規、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60% まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 8. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション グループとは何か 自分が体験したグループの目的、特徴、何が自分のためになったか。グループの良い点と悪い点はなにか。 演習Ⅱの学習目標は何か、何を、どのように学習するか。 (グループの目的と、個々のメンバーの目的は何か)	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~9) の内容をまとめる
		事後学習	課題 1 の作成と提出
第 2 回	グループワーク基本的概念を理解する 相互作用、過程、規範、力動、凝集性、自己開示とはなにか体験してみる。 グループワークの歴史発達を理解する。 グループワークと他の実践技術との関係を理解する。	事前学習	参考書『グループワーク入門』第 2 章 (pp.71~98) の内容をまとめる
		事後学習	課題 2 の作成と提出
第 3 回	グループワークの理解の枠組み：グループの発達段階 (準備期、開始期、作業期、終結期) グループワークのプロセスを学習する。 グループワークの記録の方式を学ぶ。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~61 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	グループワークの記録について学習したことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 4 回	新しいグループを構成する 準備期：グループの計画 施設・機関のニーズを知る。どのようなグループを構成するか、参加者の募集 (高齢者の孤立を解消する、児童養護施設での行動問題がある子どもの矯正グループ、統合失調症患者の家族のためのグループなど)。 グループワークの計画書を作成する。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~53 を熟読し、グループ計画書を作成する。
		事後学習	構成されたグループメンバーにてグループワークの計画書を完成させる。
第 5 回	準備期 「契約書」を作成し、ワーカーとメンバー間で交換する。 グループワークの評価方法をきめる。	事前学習	テキスト p.77 「評価の方法」を読み、その内容をまとめる。
		事後学習	講義内で用いた契約書をもとに、再度契約書を作成し提出する。
第 6 回	開始期 グループをどのように始めるか。「アイスブレイカー」を用意する。 ワーカーはグループ全体と個々のメンバーとの関係をつくる技術 (メンバーの経験を普遍化する技術、メンバーのグループ・過程に参加を促進する技術) の習得。 グループのルール (規範) について話し合う。	事前学習	アイスブレイクに必要なアイデアを考えまとめる。
		事後学習	テキスト pp.53~56 の内容を A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 7 回	開始期 「コミュニケーション技術の基本」を学習する。 メンバーの自己開示を促進する技術の習得。 メンバー間の思考、感情、行動を連携させる技術の習得。 リーダーシップについて。	事前学習	第 6 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	課題 3 の作成と提出
第 8 回	作業期 グループ過程を明確化する技術。プロセスの促進する技術、凝集性を発達する技術の習得。メンバーの役割を理解する技術、「葛藤解決技術」習得の習得。	事前学習	テキスト pp.56~59 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	講義で取り上げた技術について 1 つを選択し、その内容についてまとめる。
第 9 回	作業期 「問題解決技術」と「認知再構成技術」の習得。	事前学習	第 8 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	問題解決技術もしくは認知再構成技術について 1 つを選びその内容を A4 用紙 1 枚にまとめる。
第 10 回	作業期 メンバーの役割を理解する技術の習得。 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.62~68 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	教員から提示されたプログラム活動についてその内容をまとめる。
第 11 回	作業期 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。 ソシオグラム (Sociogram) を作る。	事前学習	プログラム活動案を作成し、講義内でメンバーからフィードバックを受ける。
		事後学習	ソシオグラムについて学習したことを用いて家族のそれを作成する。
第 12 回	作業期 グループ内と外の社会資源を探し、有効に利用する技術 (例：精神障害者の家族のための心理・教育グループ)。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.68~72 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	特定のグループを想定し、そのグループに提供可能な身近で具体的な社会資源についてあげ、その活用と意義についてまとめ提出する。
第 13 回	終結期 グループの終結の準備 (終結の予告をして、メンバーの終結に対する感情の話し合い)。	事前学習	テキスト pp.59~61 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	グループで実践してみる「終結作業」を通じて学び、感じたことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 14 回	グループワークの評価方法を応用	事前学習	テキスト第 8 章 pp.73~81 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	これまで行ってきたグループ活動を通じてグループワークにおけるソーシャルワーカーの機能と役割について A4 用紙 3 枚にまとめて提出する (まとめレポート)。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生が演習Ⅱで学んだことは何であって、どの程度学習目標の達成ができたか。	事前学習	テキスト第 9 章 pp.82~88 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3160 SBMP3460 PSMP3460
2. 授業担当教員	卯尾 章			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の日標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライアントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライアントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題1: 個人(人)を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。 課題2: 面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい(第9・10回の学習をまとめる) 課題3: 事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行う まとめレポート: ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。 【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 日本社会福祉士養成校協会監修 『相談援助の理論と方法Ⅰ(新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート 30% 個人レポート 40% まとめレポート 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 12. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 13. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 14. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 15. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 10. 受講生全体に関こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 11. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 12. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにする。	
		事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章(pp.10~33)を熟読し、その内容をまとめる。	
第2回	人を理解する(1) 精神分析理論について学習する: 精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する: 行動理論と学習理論の主要概念について理解を深める 学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1(pp.35~38)を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	課題1の作成(授業内で示された提出期限厳守)	

第 3 回	人を理解する (2) 心理社会理論について学習する：心理社会理論の主要概念について理解を深める 人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する	事前学習	参考書『人間行動と社環境』第 4 章 (pp.64～88) を熟読し、その要点をノートにまとめる。
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その内容を確認する。
第 4 回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、面接の形態 (構造化面接と生活場面面接)、面接実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100～111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できるよう、学習内容をノートにまとめる。
第 5 回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離について考え、どのような距離感をもっているかをノートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第 6 回	クライアントに対する姿勢：バイステイックの 7 原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について再確認する	事前学習	バイステイックの 7 つの原則について、その内容を調べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイステイックの 7 原則との関係性をノートにまとめる。
第 7 回	面接における技術：面接におけるコミュニケーションについて理解する 基本的コミュニケーション技法について、その原則について理解を深め、ロールプレイを用いて習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特質 (癖や傾向) について気づいたことをノートにまとめる。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてレポートにまとめ提出する。
第 8 回	面接における技術：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理解し、その活用方法についてロールプレイを用いて実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーションについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてノートにまとめる。
第 9 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.112 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 10 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.92 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開かれた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 11 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 10 回までに学んだことを振り返り、コミュニケーションと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 12 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 9 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 13 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 14 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	第 13 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題となったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートにまとめ提出する (まとめレポート)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3161 SBMP3461 PSMP3461
2. 授業担当教員	卯尾 章			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に把握します。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論についても学習を深めます。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に関する知識や理論を深める。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：認知理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題2：課題中心理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題3：システム(家族療法)理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>まとめレポート：ソーシャルワーク実践アプローチに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 川村隆彦著『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版、2011年。</p> <p>【参考書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』中央法規出版、2015年。 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <p>16. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。</p> <p>17. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。</p> <p>18. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。</p> <p>19. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。</p> <p>20. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。</p> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <p>13. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>14. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>15. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。</p> <p>遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します) 認知理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.76~83 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。	
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。	
第2回	認知理論・アプローチ② (事例を通してクライアントの考え方の傾向に気づかせることを学びます)	事前学習	テキスト pp.83~86 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。	
		事後学習	支援プロセスについてノートにまとめる。	

第 3 回	認知理論・アプローチ③ (事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます)	事前学習	テキスト pp.86～87 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ABC 理論についてノートにまとめる。
第 4 回	認知理論・アプローチ④ (事例を通して、クライアントの非合理的な考え方を論駁することについて学びます)	事前学習	テキスト pp.87～89 を熟読し、不明な点は明らかにし、箇条書きにしてノートにまとめ、授業へ臨む。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 5 回	認知理論・アプローチ⑤ (事例を通して合理的な考え方を学び、それを訓練することについて学びます) 小まとめ *課題 1	事前学習	テキスト pp.92～94 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 6 回	課題中心理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.132～138 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 7 回	課題中心理論・アプローチ② (事例を通して、ターゲット問題を選択することを学びます)	事前学習	テキスト pp.138～141 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	ターゲット問題についてノートにまとめる。
第 8 回	課題中心理論・アプローチ③ (事例を通して、目標と課題を設定する(契約)ことを学びます)	事前学習	テキスト pp.141～143 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題中心アプローチにおける契約についてノートにまとめる。
第 9 回	課題中心理論・アプローチ④ (事例を通して、課題を遂行し、アセスメントを行うことを学びます)	事前学習	テキスト pp.143～145 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 10 回	課題中心理論・アプローチ⑤ (事例を通して、終結について学びます) 小まとめ *課題 2	事前学習	テキスト pp.145～147 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 11 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.165～173 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 12 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ② (事例を通して、ジョイニングにより関係を形成し、主訴を確認することを学びます)	事前学習	テキスト pp.173～178 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 13 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ③ (事例を通して、情報収集と仮説設定をすることを学びます)	事前学習	テキスト pp.178～180 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 14 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ④ (事例を通して、働きかけることを学びます)	事前学習	テキスト pp.180～182 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 15 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ⑤ (事例を通して、再情報収集・仮説設定・働きかけの循環を行うことを学びます) まとめ *課題 3	事前学習	テキスト pp.183～186 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 3 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習V (2 単位)		3. 科目番号	SSMP4162 SBMP4462 PSMP4462
2. 授業担当教員	卯尾 章		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	演習			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8) 終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1: 授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2: 授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3: 自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>			
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題 1: 前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>課題 2: 後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>まとめレポート: 事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第 2 版、中央法規、2015 年。</p> <p>【参考書】 平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005 年。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題 1~2) 50%</p> <p>まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <p>21. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。</p> <p>22. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。</p> <p>23. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。</p> <p>24. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。</p> <p>25. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。</p> <p>教員は以下のことを実行する。</p> <p>16. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>17. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>18. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。</p> <p>遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<p>オリエンテーション(授業の進め方等)</p> <p>障害者の就労支援に関する相談援助 ①</p> <p>※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場(環境や集団)や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要があることを学習する。</p> <p>※ 教科書の第 5 章、事例問題 25 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。</p>	事前学習	テキスト pp.268~271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。	
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。	

第 2 回	障害者の就労支援に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 1 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 3 回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要のあることを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 27 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 4 回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 3 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 5 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DV とはどのようなものか、その特質を理解し、「DV 防止法」をもとに DV が被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 28 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 6 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 5 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 7 回	虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 30 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 8 回	虐待虐待への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 7 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 9 回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 34 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 10 回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 9 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 11 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 37 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 12 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 11 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 13 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 38 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 14 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 13 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 15 回	まとめ ※ 第 1 回～第 14 回授業を振り返り、援助の重要ポイントを押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習 V での学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (S/P) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2180 SBMP2480 PSMP2480
2. 授業担当教員	戎 弘志		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3) 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容についてまとめなさい。</p> <p>課題2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容についてまとめなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未修得者への実習配属は行わない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明	事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
		事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制について理解する。(東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」使用)	事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
		事後学習	「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	・専門職養成と実習の関係を明確化する (テキスト pp.2~13) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める。 ・社会福祉士及び介護福祉士法改正とその内容について理解する (テキスト pp.16~23)。	事前学習	テキスト pp.2~23 を熟読する。
		事後学習	実習における実習生の役割についてノートにまとめ提出する。

第 4 回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)の位置づけと内容(テキスト pp.24～60)：相談援助実習(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)の法律上の位置づけ及び社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性について理解を深める。	事前学習	テキスト pp.24～60 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト pp.24～60 を参照のうえ、実習の中で価値・倫理、知識、技術をいかに形成すべきかノートにまとめる。
第 5 回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習)が可能な施設・機関の紹介と説明(テキスト pp.62～69 及び東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」使用)：法定施設・機関の紹介と希望種別の選択 ・実習形態に関する理解(テキスト pp.70～72)	事前学習	テキスト pp.62～69 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
		事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。
第 6 回	・事前学習として実習先を理解する意義について(テキスト p125)：希望種別に関する事前学習レポートをまとめる(課題 1)。 ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題 1 の作成(講義内で示される提出期限厳守)。
第 7 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート(課題 1)の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート(課題 1)の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート(課題 1)の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成(実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
第 11 回	・配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法(テキスト p.141) ・個人調書等書類の作成(社会福祉士資格取得の動機の明文化)	事前学習	「社会福祉士を目指す動機」「思い描く社会福祉士像」について言語化できるようまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 12 回	・相談援助実習の仕組み(テキスト pp.160～179)：望まれる相談援助実習の在り方(3段階実習プログラム)を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する。 ・見学実習(事前訪問)に向けた準備：見学実習(事前訪問)の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp.160～179 を熟読し、「3段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
第 13 回	・実習計画の作成(テキスト pp.182～186)：実習計画の意義と作成についての理解を深める ・見学実習(事前訪問)に向けた準備：基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp.182～186 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題 2 の作成(講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解(個人情報保護法の理解を含む)	事前学習	東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士実習の手引き」pp.55～を熟読し制度としての個人情報保と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
第 15 回	・見学実習(事前訪問)の最終確認 ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた課題	事前学習	事前訪問日時について実習指導者へ電話連絡のうえ、訪問日時を明確にする。
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (S/P) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3181 SBMP3481 PSMP3481
2. 授業担当教員	戎 弘志			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 3) 記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 4) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 5) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題1：実習計画の作成 課題2：ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題1 30% 課題2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対に行わないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 ・実習に向けての不安・課題についての話し合い 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。	
		事後学習	講義での話し合いを踏まえ、ソーシャルワーク基礎 (またはソーシャルワーク実習) 実施上の課題についてノートにまとめる。	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.196~224) : 第 1 節~第 4 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習計画の作成 : ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認 ・実習計画の意義と目的についての説明 	事前学習	テキスト pp.196~224 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	実習計画 (案) を作成し、教員の添削を受ける。	

第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.195～）：第 5 節～第 9 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習計画（案）の作成： 実習計画書の記入と添削 	事前学習	テキスト pp.225～254 を読み、実習活動について理解を深める。
		事後学習	添削された実習計画（案）を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解（テキスト pp.257～268）： 実習記録の意義、書き方、取り扱い等に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成： 施設概要作成に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習計画（案）の作成： 実習計画書の記入と添削・確認 	事前学習	テキスト pp.257～268 を熟読し、記録の意義と記入の際の留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	添削された実習計画（案）を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解：実習記録の書き方演習 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習計画の作成（課題 1）：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 <p>※この週から第 7 回の週の期間中にソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削指導を受けた実習計画書を実習指導者へ提出、協議を行う。</p>	事前学習	第 4 回で配布された実習日誌（コピー・練習用）に記録を記入し、添削を受ける。
		事後学習	確認を受けた実習計画（案）を実習先実習指導者へ訪問のうえ提出し、その内容を協議する。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の理解（テキスト pp.270～287）： 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する <p>※ここまでに巡回担当教員との面接を終えていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成： 作成された施設概要の確認 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習計画の作成： スーパーバイザーとの協議の結果、実習計画書をまとめる 	事前学習	テキスト pp.270～287 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	実習先指導者との協議のうえ、確定した実習計画をまとめる。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認： 事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認 	事前学習	東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」 pp.38～42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習生の義務と権利について学習したことをノートにまとめる。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り： ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ・ソーシャルワーク基礎実習の学習効果と課題の整理： ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成（課題 2） 	事前学習	実習記録の整理 自己評価の実施
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で提示される提出期限厳守）。
第 9 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解： ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する 	事前学習	東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」 p.9 を熟読する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習においてすべきことがらについてノートにまとめ、口頭で説明できるようにする。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士 実習 学習の手引き」使用）： 実習目標と目標を達成するための展開方法について ・ソーシャルワーク実習計画（案）の作成： 	事前学習	東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」 pp.20～の実習プログラミングの実習先該当箇所を目を通す。
		事後学習	ソーシャルワーク実習計画（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。

第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用） 「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習計画（案）の作成： 	事前学習	ソーシャルワーク実習計画（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。
		事後学習	事例をもとに「ソーシャルワークケース記録」の記入を行い提出する。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習計画（案）の作成 	事前学習	ソーシャルワーク実習計画（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認を受ける。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員と協議した実習計画（案）を、実習先指導者へ提出、協議を行う。
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	ソーシャルワーク実施に向けた自己課題をノートに記載する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習に必要な資料を収集し、事前学習を進める。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (S/P) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3182
2. 授業担当教員	戎 弘志		SBMP3482
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習) 実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習) 実践へと結び付ける。(実習) 実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。なお、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ講義内での指導内容は、帰校指導記録を用いて実習先指導者へ定期的に報告することとなる。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、社会福祉専門職が行う各種手続きについて明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉専門職が行う相談援助業務について明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、専門職間の連携について明確に説明できる。 5) 実習先での実践を振り返り、社会資源、関係機関との連携について明確に説明できる。 6) 倫理綱領の重要性について、実践(実習)をもとに理解を深め、実践に基づく説明ができる。 7) 自己の価値観念についてめとめ、それが援助にどのように反映するか考えをまとめられる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義日程にて示す通り。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1～7 30%</p> <p>実習総括レポート 30%</p> <p>講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・ソーシャルワーク実習 実習計画書の確認 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成、配属施設実習指導者より確認を得た実習計画書と照らし合わせ、具体的に実習で行いたい事をノートにまとめる。
		事後学習	実習計画をもとに、30 回の実習をより具体的にマネジメントする。

第 2 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：アセスメントについて	事前学習	支援過程とアセスメントの方法についてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ソーシャルワークケース記録情報収集とアセスメントについて事例を用いて実際に記入し、提出する。
第 3 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：ジェノグラムとエコマップについて・プランニングについて	事前学習	ジェノグラムとエコマップについてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ジェノグラムとエコマップについて事例を用いて実際に作成、提出する。
第 4 回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：インターベンション・結果と評価	事前学習	帰校指導記録の記入。
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第 5 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・社会福祉専門職についての理解：実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる（課題 1）	事前学習	実習時に主たるサービス利用手続きについて指導者より指導を受けその内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 6 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・社会福祉専門職についての理解：実習施設・機関における相談援助業務についてまとめる（課題 2）	事前学習	実習時に実習指導者の業務について説明を受けその内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 7 回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 ・社会福祉専門職についての理解：実習施設・機関で行われている行事等の実施過程についてまとめる（課題 3）	事前学習	帰校指導記録の記入。
		事後学習	課題 3 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 8 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・職種間連携についての理解：実習施設・機関における各部門職種とその機能・関係についてまとめる（課題 4）	事前学習	実習先の職種、部門の業務について調べ、記録にまとめる。
		事後学習	課題 4 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 9 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・機関の社会的連携についての理解：実習施設・機関と社会資源・関係機関との連携についてまとめる（課題 5）	事前学習	実習先の地域関連機関等とその機関との具体的連携内容について指導を受け、その内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題 5 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 10 回	・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・専門職の倫理綱領と実践についての理解：実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題 6）	事前学習	実習において実践活動及び職員の行動を観察のうえ、専門職倫理との関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題 6 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 11 回	・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジюмеを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 12 回	・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジюмеを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 13 回	・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 ・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換	事前学習	帰校指導記録の記入。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 14 回	・実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）：実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・実習報告書の作成について（説明） ・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める：自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題 7）	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題 7 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 15 回	・実習後の学習課題（テキスト p.310）：目標と結果の照合、今後の課題について明確化する	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。

1. 科目名 (単位数)	体育 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2303
2. 授業担当教員	横井 明廣		
4. 授業形態	・実技 (小学校体育における各領域から抜粋した運動) ・講義 (実技で取り扱えない領域および保健領域に関わるもの) ・ディスカッション (適宜グループで話し合いをし、より質の高い運動や演技を考える)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	2年次秋期の「体育科指導法」と密接な関連性をもつ授業であることを理解し修得することが望ましい。		
7. 講義概要	○本授業では、以下に提示された小学校体育に関わるおもな学習内容を知るとともに、教育現場において本講義で身に付けた知識・技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。 ・小学校学習指導要領における体育の目標、内容をおおまかに捉え、小学校における体育の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、体育指導に必要となる必要最低限の技能を身につけることができるようにする。 ・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。 1. 今日までの小学校体育科授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育科指導に際して各運動領域における必要最低限の基本的運動技能を身につけることができる。 3. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント：課題についてグループ及び個々で自主的に調べ、自分の考えを持って講義に臨む。 レポート課題：グループ及び個々で考え、作成した指導案を提出する。 講義終了毎に自分の考えや意見をまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・安彦忠彦監修 高橋健夫・野津有司 編著『小学校 学習指導要領の解説と展開 体育編』教育出版、2008。 ・清水紀宏、他監修『楽しい体育 1～6年』大日本図書、2012。 ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社、2015。 【参考書】 ・必要に応じ適宜資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	授業態度・・・・・・・・・・・・・・・・・・60% 講義、レポート・・・・・・・・・・・・・・・・20% 授業への参加・・・・・・・・・・・・・・・・20% 計100%		
12. 受講生へのメッセージ	体育学習は、子どもにとっても楽しい時間である。終了チャイムとともに目を輝かせて運動場に走り出てくる。こうした子どもの心を満たす体育指導の上手な教師は、子ども達から慕われ、頼りにされている。教師にとって体育指導はとても価値のあるものといえる。教師を志す皆さんは、よき教師となるためにも、体育指導をきちんと学ぶことがとても大切である。しっかりとした目的意識をもって参加してほしい。そのためにも、講義の欠席、遅刻、早退は原則厳禁とする。やむを得ない場合は、きちんと届けを出すこと。実技のある時は、運動するにふさわしい服装で参加し、ジーパンは禁止とする。また、学校等の訪問をし、教えを受ける機会があった時は、礼儀をもって臨むことを何よりも大切とする。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・本講義概要の説明、授業計画、授業の約束 ・生涯学習と体育活動の現状と今後	事前学習	講義内容についてシラバスである程度把握して臨む。
		事後学習	本講義の概要や約束ごとをしっかりと理解する。
第2回	学校体育の役割 (講義・ディスカッション) ・学校教育の目的・目標を理解するとともに、体育科の学校教育への貢献や生涯スポーツ社会について理解する。	事前学習	学校体育、生涯スポーツについて考える。
		事後学習	学校体育と生涯スポーツとの関わりを知り、自らも取り組む必要性をもつことを自覚する。
第3回	体育科の目標 (講義・ディスカッション) ・運動とは何か、その特性を明らかにし、楽しみとしての運動を理解し、運動への愛好的な態度を育てることを理解する。	事前学習	体育の目標とは何かを自分の経験をもとに考える。
		事後学習	運動の楽しさを味わうことにより、生涯スポーツに繋がることを理解する。
第4回	学習過程と学習の進め方 (講義・ディスカッション) ・学習を進めるにあたり、目標の大切さを理解し、その条件の一つとなるグルーピングの仕方について追究する。	事前学習	どのように学習を進めたらよいか、経験をもとに考える。
		事後学習	目標をもって取り組むことが、学習の成果に大きく結びつくことを理解する。
第5回	教師の指導・支援 (講義・ディスカッション) ・子どもが主体的に取り組むことにより学習成果が期待されるが、安易な教師の介入指導により意欲が損なわれることがあることを理解をする。	事前学習	体育の授業で意欲が半減したことを振り返って考える。
		事後学習	教師の指導・支援は、子どもの主体性と関わることが大きく、学習に影響することを理解する。
第6回	学習評価 (講義・ディスカッション)	事前学習	評価と評定とは何であったか、自分の考えをまとめる。

	・相対評価と絶対評価の違いを明らかにし、体育学習の評価とは何かを理解する。	事後学習	評価とは、子どもの先天的な能力ではなく、学習の成果を対象とするものであることを理解する。
第 7 回	体育のカリキュラムづくり（講義・ディスカッション） ・どのような運動領域・種目をどんな順序で配列するのか、どのくらいの時間を配当するのかを検討し、年間計画の作成を行う。	事前学習	どのような種目や運動を学習してきたかをまとめる。
		事後学習	年間計画を作成する上で、留意すべき大切な事項があることを理解する。
第 8 回	保健学習領域（講義・ディスカッション） ・体をよりよく発育・発達させることや健康に過ごすため生活、更には心の発達及び不安、悩みなどの対応について理解する。	事前学習	健康な生活とか病気をしない体についての考えをまとめる。
		事後学習	自らの生活をもとに、運動の必要性を認識するとともに、心と体は一体であることを理解する。
第 9 回	体づくり運動（講義・実技・発表） ・多様な動きに体をなじませ、調整力を養い、動きのレパートリーを広げていく運動であり、その結果として体力の向上をさせる効果をねらった運動であることを理解する。	事前学習	どのような運動であるか、何のためにするのかを考える。
		事後学習	体を動かす楽しさや易しい活動を通して身のこなしが巧みにできるようになることを理解する。
第 10 回	器械運動（講義・実技・発表） ・様々な技に挑戦し、これを達成したときに楽しさや喜びを味わう運動であることや教師の指導、工夫によって技能習得が大きく左右することを理解する。	事前学習	どのような運動であるか、何を留意するのかを考える。
		事後学習	指導の工夫が求められることや事故なく技を体得させることの大切さを理解する。
第 11 回	走・跳の運動遊び、陸上運動（講義・実技・発表） ・体を巧みに操作しながら、合理的で心地よい動きを身につけて、他人と速さや高さ、距離を競い合ったり、自己の目指す目標を達成したりする運動であることを理解する。	事前学習	自己の走・跳・投の能力は、どうであったかを振り返って考える。
		事後学習	どのような身体操作をし、習得するための工夫をしたら目標に達するかを理解する。
第 12 回	水遊び、水泳（講義・発表） ・水中で自由に体を動かすなど日常生活で味わうことができない体験をする運動であり、また首、足、脚、腕などのバランスを保ちながら泳ぐ全身運動であることを理解する。	事前学習	泳ぎができるまで、どんな苦勞と努力があったかを考える。
		事後学習	どのようにクロール及び平泳ぎの技能ポイントや工夫をしたら長く泳ぐことができるかを考える。
第 13 回	ゲーム、ボール運動（講義・実技・発表） ・集団的スポーツとして「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の分類がある。集団対集団で競い合うことから仲間と力を合わせることや作戦を工夫することが大切であることを理解する。	事前学習	ボール運動に取り組む過程で、どんな点に苦勞をしたかを考える。
		事後学習	チームの課題を持ち、練習の仕方やゲームの中でどのように動けばよいかを理解する。
第 14 回	表現リズム遊び、表現運動（講義・実技・発表） ・自己の心身を開放し、リズムやイメージの世界に没入して踊る運動であり、感じたことや思いなど心の動きを体の動きで表す運動であることを理解する。	事前学習	体の動きで自然や感情などを表現すること考える。
		事後学習	表現したいものになりきり、友と気持ちを合わせて表現することがよい作品になることを理解する。
第 15 回	総合的な学習との連携を図った授業 ・教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動が求められている。体育学習は社会と理科の連携のように実践されてこなかった。運動学習の探究的な活動は、総合的な学習との連携に繋がることを理解する。	事前学習	体育と他の学習や教科との繋がりについて考える。
		事後学習	体育の持つ特性が、他の教育活動や教科学習との連携ができ、社会性の向上や人間形成に繋がることを理解する。

1. 科目名 (単位数)	体育科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2313
2. 授業担当教員	横井 明廣		
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習 (指導案の作成と模擬授業による確かめ) 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	E/SBP 2年次以上		
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。		
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1) 小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2) 学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3) 模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4) 現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 体育科教育における今日的な教育的課題を選び、改善に向けて自分の考えや意見をまとめ体育科授業指導に結び付ける。(個人) 課題 2 グループに分かれて模擬授業を行う。また、その際にその授業指導案の細案を作成する。(グループ)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社、2008。 ・立木正他『小学校体育科授業研究』教育出版、2009。 【参考書】 ・必要に応じて適宜配布する。		
11. 成績評価の方法	授業出席態度 50% 学習への意欲・関心 20% 指導案作成 30%		
12. 受講生へのメッセージ	子どもたちは潜在的に五つの欲求を抱きながら体育の授業に臨むといわれている。そしてこの五つの欲求を上手に満たしてあげる教師こそが体育指導者のスペシャリストといえる。さて、この五つの欲求とは何か。小学校の教員を目指すみなさんに、「魅力ある体育」のたくさんのヒントを提供する。 ジャージ、運動着などは体育教師のいわば「制服」である。実技や演習では運動するためのふさわしい常識的な服装 (体育着) で参加すること。ジーパンは禁止。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (本講義の意義と今後の流れ) *本講座で行う模擬授業の位置づけとグループ分けを行い、意識を高めさせる。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	各グループで提案授業の内容の計画を立てる。
第 2 回	講義 日本における体育科教育の変遷と今日における体育科の特性および目標 *これまで歩んできた体育科教育の流れを把握するとともに今日的課題を知り学習指導法を追究する。	事前学習	これまでの学習指導要領のだいたいの流れを調べる。
		事後学習	新学習指導要領における体育の位置づけを理解する。
第 3 回	講義 体育科の領域構成 単元計画の立て方 *各自自治体における最新の体育科指導案を提示し、指導案からイメージされる授業についてディスカッションすることができる。	事前学習	過去の体育科学習指導案を見て授業イメージを持っておく。
		事後学習	指導案の全体構成を把握し理解できたか。
第 4 回	講義 体育科学習指導案作成 *小学校体育学習の運動内容について低学年、中学年、高学年に分けて考え、有機的なまとまりで組織されていることを理解する。	事前学習	指導案に目を通し、学年により授業内容と方法とが異なることを把握する。
		事後学習	低・中・高学年へと運動内容が発展し有機的にまとまっていることを理解できたか。
第 5 回	講義 体育科学習指導案作成 *各運動領域にはその運動が持つ特性があり、この特性を追究し運動の持つ楽しさや喜びを味わうことに結び付けることが大切であることを理解する。	事前学習	各運動にはその運動が持つ特性があることを把握する。
		事後学習	運動の特性を捉えて授業を進めることが体育指導の目標であり、楽しさや喜びに結び付くこと理解できたか。

第 6 回	講義 体育科学習指導案作成 *各単元には技能、態度、思考・判断の目標があり、その目標を具体的に設定し、その達成に向けて授業を展開することが大切であることを理解する。	事前学習	各単元それぞれに技能、態度、思考・判断の目標があることを把握する。
		事後学習	授業は単なる身体活動でなく、それぞれの目標の達成に向けて展開することが理解できたか。
第 7 回	講義 体育科学習指導案作成 *各単元には学習指導計画があり、学習内容と評価の観点を設定し関連させながら指導していくことが大切であることを理解する。	事前学習	各単元には学習計画がありその計画に従い進めることを把握する。
		事後学習	各単元には評価の観点を設定しその達成を目指して展開することが理解できたか。
第 8 回	講義 体育科学習指導案作成 *本時の目標を基に指導過程があり、授業の良し悪しが評価される。そのために運動の分析と児童の発達段階、能力を適格に把握していることが大切であることを理解する。	事前学習	指導過程の作成が教師の力量を問われることを把握する。
		事後学習	指導過程は授業の良し悪しを評価するものになり、指導者として事前に指導上必要な知識が必要であることが理解できたか。
第 9 回	講義 体育科学習指導案作成 *学習活動の指導過程で成果を高めるための手立て・方法として指導形態、発問、言葉かけ、補助具、学習カード、場面での配置等が必要であるとともに自己評価や子供たちどうしでの相互評価が必要であることを理解する。	事前学習	学習成果を高めるためのいろいろな手立てを把握する。
		事後学習	単に授業を展開するのではなく、より成果を高め、楽しさや喜びを味わうためには多くの方法を講じる必要があることを理解する。
第 10 回	講義 体育科学習指導案作成 *評価規準を設定しその達成について評価することが改善につながることを理解する。また第 4 回から第 10 回の講義で作成してきたことを基に学習指導案を完成する。互いに完成した指導案を読みあい意見交換をする。	事前学習	指導には評価があることを把握する。また既習の講義内容をまとめる。
		事後学習	第 4 回から第 10 回までの講義内容をまとめ学習指導案を完成する。 次時の模擬授業の進め方について説明をする。
第 11 回	模擬授業 1 1～3 年生対象 (グループワーク 授業分析 授業振り返り) *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、チームティーチングの配置は適切か ウ、発問、指導過程が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができていないか 等 *相互評価を実施し修正をする。	事前学習	授業者の指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第 12 回	模擬授業 2 4～6 年生対象 (グループワーク 授業分析 授業振り返り) *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、チームティーチングの配置は適切か ウ、発問、指導過程が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができていないか 等 *相互評価を実施し修正をする。	事前学習	授業者の指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第 13 回	模擬授業 3 1～3 年最終指導案 (グループワーク 授業分析 授業振り返り) *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、チームティーチングの配置は適切か ウ、発問、指導過程が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができていないか 等 *相互評価を実施する。	事前学習	授業者の指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして教育実習の授業に生かせるようにする。
第 14 回	模擬授業 4 4～6 年最終指導案 (グループワーク 授業分析 授業振り返り) *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、チームティーチングの配置は適切か ウ、発問、指導過程が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができていないか 等 *相互評価を実施する。	事前学習	授業者の指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして教育実習の授業に生かせるようにする。
第 15 回	まとめと評価 *体育の指導に際して対象児童における適切な指導の細案を個々で作成することができ、学校現場における指導案作りの重要性が理解でき、学校現場で十分に応用できる能力を身につけることができたか。	事前学習	これまでの一連の模擬授業を思い出し、新しい指導案を考える。
		事後学習	体育科学習指導案の書き方の基本を押さえ、実際の現場で生かせることできるよう確認する。

1. 科目名 (単位数)	対照言語学 (2 単位)	3. 科目番号	EJJP3345
2. 授業担当教員	汪 宇		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	E J 3 年次以上		
7. 講義概要	日本語と他の言語と共時的に比較対照する方法、および日本語の誤用分析の方法を勉強する。対照と誤用分析によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という視点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討していく。		
8. 学習目標	1. 比較対照および誤用分析に関する基本的概念を理解し、説明できるようになる。 2. 日本語学習者の習得を困難にさせる要因について分析できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回授業の終わりにワークシートを利用し、学習内容の確認を行う。 2. 基本的には日本語と英語の対照が中心になるが、対象研究に関する知見を得ることが主たる目的となるので、他言語との対照比較も可能。 3. 研究テーマを8回目の授業前に提出し、方向性の確認後、研究を始め、14回目に発表を行う。その後、発表会での議論・コメントを踏まえ、自分の研究成果を最終レポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】随時、授業内容に即したプリントを配布する。 【参考書】国立国語研究所編集『対照研究と日本語教育』くろしお出版、2002。 石綿敏雄・高田誠著『対照言語学』桜楓社、1990。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度 30% 課題発表・ワークシート課題 40% レポート 30%		
12. 受講生へのメッセージ	日本語学習者が使っている日本語について、なぜこのような間違いをするのかと不思議に思ったことはないか。この授業は対照研究を通して、学習者が習得を困難にさせる要因を明らかにし、日本語教育への応用を目指す。日本語学習者や日本語教育に関心をもって臨んでほしい。		
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	Introduction:授業概要の説明、自己紹介	事前学習	日本語の特徴は何かについて考えておく。
		事後学習	授業概要の書かれたプリントを通読し、希望の発表担当箇所を選ぶ。
第2回	「類型から見た日本語」について配布プリント①	事前学習	配布プリント①を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第3回	「誤用分析と中間言語」について配布プリント②	事前学習	配布プリント②を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第4回	「動詞と名詞」について配布プリント③	事前学習	配布プリント③を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第5回	「指示代名詞」について配布プリント④	事前学習	配布プリント④を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第6回	「授受表現」について 配布プリント⑤	事前学習	配布プリント⑤を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第7回	「とりたてたとガ」について 配布プリント⑥	事前学習	配布プリント⑥を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第8回	研究のテーマ提出、方向性の確認	事前学習	研究テーマを特定する。
		事後学習	テーマを再確認し、研究計画を立てる。
第9回	「するとなる」について 配布プリント⑦	事前学習	配布プリント⑦を熟読しておく、
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第10回	「人間全体と人間部分」について 配布プリント⑧	事前学習	配布プリント⑧を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第11回	「省略」について 配布プリント⑨	事前学習	配布プリント⑨を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第12回	「連体修飾」について 配布プリント⑩	事前学習	配布プリント⑩を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第13回	「言語と文化」について 配布プリント⑪	事前学習	配布プリント⑪を熟読しておく。
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。
第14回	プレゼンテーション、質疑応答、コメント	事前学習	プレゼンテーションに向け、リハーサルを行う。
		事後学習	フィードバックを参考に、改善点を提案する。
第15回	これまでの内容の振り返り、最終レポートの準備	事前学習	学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	テストを復習し、最終レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	第二言語習得理論 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2141
2. 授業担当教員	汪 宇			
4. 授業形態	講義、演習 (グループワークを含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	第二言語を学び習得する際の理論や問題点について学んでいく。日本語教育の場では、主な学習者は日本語を第二言語としている。第二言語習得(Second Language Acquisition:SLA)は、日本語教師なることを目指す者にとって必要な知識である。本講座では、基本的な専門用語や、日本語習得の際に起こる問題について学ぶ。			
8. 学習目標	第二言語習得(SLA)の基本的な概念の理解を目的とする。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回授業の始めに与えられた課題の発表で、内容導入を行う。 2. 毎回授業の終わりにワークシートを利用し、学習内容を確認する。 3. 教科書と講義内容を踏まえたうえで、自分が第二言語を勉強した際に抱えた問題とその原因についてレポートを作成する。詳細については、講義内で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】白井恭弘著『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』岩波新書、2008。 【参考書】授業中に紹介する。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度	30%		
	課題発表・ワークシート課題	40%		
	レポート	30%		
12. 受講生へのメッセージ	私たちは、かなりの時間と労力を費やして外国語を学んでいるが、思い通りに外国語を使えずにいる。より効果的な第二言語学習とは何かを念頭に置きながら、第二言語習得論のメカニズムを勉強する。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (授業概要の説明、自己紹介)	事前学習	第二言語習得論とは何かについて考えておく。	
		事後学習	教科書を通読し、希望の発表担当箇所を選ぶ。	
第2回	第1章「母語を基礎に外国語は習得される」について	事前学習	教科書 pp.1~28 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第3回	第2章「臨期期仮説」について	事前学習	教科書 pp.28~50 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第4回	第3章「どんな学習者が外国語学習に成功するか」適正について	事前学習	教科書 pp.52~70 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第5回	第3章「どんな学習者が外国語学習に成功するか」動機づけについて	事前学習	教科書 pp.70~82 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第6回	第4章「外国語学習のメカニズム」言語の特質について	事前学習	教科書 pp.84~93 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第7回	第4章「外国語学習のメカニズム」インプット仮説について	事前学習	教科書 pp.93~116 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第8回	まとめ、レポートのテーマの提出	事前学習	テーマを特定する。	
		事後学習	テーマを再確認し、レポートの骨組みを立てる。	
第9回	第5章「外国語を身につけるために」第二言語習得理論の変遷について	事前学習	教科書 pp.118~126 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第10回	第5章「外国語を身につけるために」習得順序について	事前学習	教科書 pp.126~136 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第11回	第5章「外国語を身につけるために」アウトプット仮説について	事前学習	教科書 pp.142~161 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第12回	第6章「効果的な外国語学習法」インプットとアウトプットについて	事前学習	教科書 pp.164~170 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第13回	第6章「効果的な外国語学習法」学習ストラテジーについて	事前学習	教科書 pp.170~180 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第14回	第6章「効果的な外国語学習法」学習法について	事前学習	教科書 pp.180~183 を熟読しておく。	
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。	
第15回	これまでの内容の振り返り、最終レポートの準備	事前学習	学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。	
		事後学習	テキストを復習し、最終レポートを作成する。	

1. 科目名 (単位数)	第二言語習得理論演習 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP3141						
2. 授業担当教員	汪 宇									
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク、ディスカッションなど)		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	「第二言語習得理論」を必ず受講しておくこと。									
7. 講義概要	第二言語習得理論を踏まえ、更なる実践的な教育能力を身につけると共に、研究能力養成を目指す。本講座では、日本語教育と日本語習得研究の間にどのような関係があるのかを考えると共に、第二言語習得について、どのような研究や報告がなされているのか知見を深める。そのための方法として、紹介した論文や自分が興味のある論文を選び、それについてまとめ、発表する。									
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・第二言語習得についての論文を読み、最近の研究の動向を知る。 ・日本語教育の場で第二言語習得がどのように応用されているか考える。 ・外国語学習体験について第二言語習得を通して考える。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回授業のはじめと終わりに学習内容の確認を行う。 2. CiNiiなどで検索・選択した論文についてレジュメを作成し、8回目の授業前に提出する。9回目以降は発表を行う。その後、発表会での議論・コメントを踏まえ、自分の研究成果を最終レポートにまとめる。 									
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 必要な教材については資料を配布する。 【参考書】 大関浩美著『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版、2010。									
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>授業中の態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>課題発表・ワークシート課題</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> </table>				授業中の態度	30%	課題発表・ワークシート課題	40%	レポート	30%
授業中の態度	30%									
課題発表・ワークシート課題	40%									
レポート	30%									
12. 受講生へのメッセージ	第二言語習得による日本語教育の現場での応用に重点を置く。外国語を勉強する際にどんなことが起こるのか、それはなぜなのか、そしてどのように解決するかを検討する。ぜひ、自分の外国語学習のことを思い出して、自分の経験にてらしあわせながら授業を受けてほしい。									
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	授業概要、CiNii や Google Scholar などによる論文検索法の説明、レジュメの書き方の説明	事前学習	これまで学んだ第二言語習得論について復習する。							
		事後学習	興味のある論文を検索し、8 回目の授業前にレジュメが提出できるように準備する。							
第 2 回	「第二言語習得論」について配付プリント①	事前学習	配布プリント①を熟読しておく。							
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。							
第 3 回	「中間言語」について配付プリント②	事前学習	配布プリント②を熟読しておく。							
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。							
第 4 回	「母語の影響」について配付プリント③	事前学習	配布プリント③を熟読しておく。							
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。							
第 5 回	「習得順序と発達順序」について配付プリント④	事前学習	配布プリント④を熟読しておく。							
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。							
第 6 回	「インプット・アウトプット」について配付プリント⑤	事前学習	配布プリント⑤を熟読しておく。							
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。							
第 7 回	「文法を教える効果」について配付プリント⑥	事前学習	配布プリント⑥を熟読しておく。							
		事後学習	配布したワークシートの問題をやる。							
第 8 回	レジュメ提出、内容の確認	事前学習	発表したい論文を特定し、レジュメを作成する。							
		事後学習	レジュメを修正・完成する。							
第 9 回	プレゼンテーション①	事前学習	レジュメ①を熟読しておく。							
		事後学習	発表について議論、コメントする。							
第 10 回	プレゼンテーション②	事前学習	レジュメ②を熟読しておく。							
		事後学習	発表について議論、コメントする。							
第 11 回	プレゼンテーション③	事前学習	レジュメ③を熟読しておく。							
		事後学習	発表について議論、コメントする。							
第 12 回	プレゼンテーション④	事前学習	レジュメ④を熟読しておく。							
		事後学習	発表について議論、コメントする。							
第 13 回	プレゼンテーション⑤	事前学習	レジュメ⑤を熟読しておく。							
		事後学習	発表について議論、コメントする。							
第 14 回	プレゼンテーション⑥	事前学習	レジュメ⑥を熟読しておく。							
		事後学習	発表について議論、コメントする。							
第 15 回	これまでの内容の振り返り、最終レポートの準備	事前学習	学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。							
		事後学習	テキストを復習し、最終レポートを作成する。							

1. 科目名 (単位数)	多文化コミュニケーション (2 単位)	3. 科目番号	GELA1336 GELA3336								
2. 授業担当教員	内藤 伊都子										
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション、グループ発表	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係	SBEP/EJ 1 年次以上 異文化理解										
7. 講義概要	<p>加速するグローバル化、少子高齢化、広がる SNS などの波を受け、現在の日本を取り巻く環境には、自分とは異なる母語・習慣・価値観をもった人たちとのコミュニケーション活動が溢れている。本講義は、自分の視野をこのような多文化「共生社会」にむけて広げ、必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的とする。具体的には、「言語」「コミュニケーション」「文化」の3つの基本的概念を理解した後、コミュニケーション行動を言語と非言語に大別して展開し、日米をはじめ東アジア文化圏のコミュニケーション行動なども交えながら、実際の対人場面で行われているさまざまなコミュニケーション行動の文化的特徴、世界の人々の生活習慣、経済状況、異なる価値観の背景にある歴史について学んでいく。実際のコミュニケーションは、複数の行動が同時に表出されるものである。そこで、表出された行動の意味について総合的に考え、日常生活や身近な出来事の中にあるコミュニケーションと関連付けたり、自身と文化背景の異なる他者の行動を比較したりしながら、文化が多層に重なりあっている現代社会のコミュニケーション行動への理解を深めていく。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身のコミュニケーション行動について客観的な視点で認識できるようになる。 2. 文化的行動の意味について理解できるようになる。 3. 多様な人々について、創造的、多面的に考え、共存のあり方を自分なりに考えられるようになる。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。 2 自身のコミュニケーション行動を分析する。 3 自身のコミュニケーション行動の中にどのような文化的特徴があるか分析する。 <p>詳細については、講義内で指示する。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。</p> <p>【参考書】 講義内で適宜紹介する。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>受講態度・積極的な参加姿勢</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>グループワーク</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小レポート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table> <p>これらを総合的に評価する。</p>			受講態度・積極的な参加姿勢	20%	グループワーク	20%	小レポート	20%	期末レポート	40%
受講態度・積極的な参加姿勢	20%										
グループワーク	20%										
小レポート	20%										
期末レポート	40%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>文化背景の異なる人々との交流やコミュニケーションに興味をもっていることが望ましい。 自身や周囲のコミュニケーション状況を意識して観察し、関連付けながら受講することを勧める。 講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。 自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。</p>										
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや行動内容について把握しておく。								
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。								
第2回	文化とはなにか	事前学習	“文化”とはなにかについて、自身の考えをまとめておく。								
		事後学習	自身がもつ文化について改めて考えを整理しておく。								
第3回	文化とコミュニケーション	事前学習	“コミュニケーション”とはなにかについて、自身の考えをまとめておく。								
		事後学習	文化とコミュニケーションという用語について学術的な見かたの意味を確認しておく。								
第4回	文化とあいさつ行動	事前学習	挨拶行動にはどのようなものがあるか振り返っておく。								
		事後学習	挨拶行動の方法と意味について整理しておく。								
第5回	言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (1) 言語の多様性	事前学習	自身の母国語となる言語の特徴について考えておく。								
		事後学習	言語の共通性と多様性について整理しておく。								
第6回	言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (2) 自己開示	事前学習	日頃、自分自身について自分の何について誰に話すか/話さないかについて振り返っておく。								
		事後学習	自己開示とはなにかについて整理し、自身の自己開示傾向を分析しておく。								

第 7 回	言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (3) 会話スタイル	事前学習	自身の話し方の特徴や癖について振り返っておく。
		事後学習	会話スタイルについて整理し、自身のスタイル傾向を分析しておく。
第 8 回	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの関係	事前学習	言語コミュニケーション行動の文化的特徴について全体的に復習しておく。
		事後学習	非言語コミュニケーションの特徴について整理し、コミュニケーション全体についてその意味を確認しておく。
第 9 回	非言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (1) 空間行動	事前学習	他者と快適に過ごせる距離はどのくらいなのか、自身の必要とする距離について考えておく。
		事後学習	空間行動にはどのような行動が含まれるか整理しておく。
第 10 回	非言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (2) 身体接触	事前学習	日頃、自分は誰のどこをよく触るか、自分は誰からどこを触れたくないかについて振り返っておく。
		事後学習	接触行動には具体的にどのような行動が含まれるか整理しておく。
第 11 回	非言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (3) 身体動作	事前学習	ジェスチャーなど身体を動かすことでどのような動きが何を伝えるか、何が伝わるかについて考えておく。
		事後学習	身体動作には具体的にどのような行動が含まれるか整理しておく。
第 12 回	非言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (4) 被服行動	事前学習	自身の服装の好みや日頃の服装傾向について振り返っておく。
		事後学習	被服行動から何がわかるか整理しておく。
第 13 回	非言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (5) 準言語	事前学習	会話スタイルについて復習し、自身のスタイルを振り返っておく。
		事後学習	準言語には具体的にどのような行動が含まれるか整理しておく。
第 14 回	非言語コミュニケーション行動の文化的特徴 (6) 時間、環境ほか	事前学習	自身の日頃の時間の使い方について振り返っておく。
		事後学習	非言語コミュニケーション行動の文化的特徴について全体的に復習しておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について総復習をし、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	多文化理解入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1335
2. 授業担当教員	内藤 伊都子		
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	多文化コミュニケーション		
7. 講義概要	<p>現代はグローバル化の影響で以前にもまして人やモノが国境を越え移動するようになり、文化背景が異なる他者が日常の中で身近に存在している。その一方、文化を共有している人々の間では常識であることも、文化背景が異なると相手は自分と同じ考え方をすると限らないし、自分とは異なった行動をすることもあ。そのような文化の違いにより誤解などが生じることもあるため、「文化」の影響について知ることは多文化共生のために特に大切である。</p> <p>本講義では異なった文化背景を持つ様々な他者の理解を深めると共に、自文化、つまりは自分について理解することも目的とする。自分とは異なる文化背景を持つ他者に向かい合うことで、自分と自分が属する文化への理解を深めていく。また多文化理解を促進する態度や技能を個人ワーク、ペアワーク、グループディスカッションを通し身につけていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 「文化」という概念について理解を具体例を通し、説明できるようになる。 自分とは異なった背景を持つ他者について理解できるようになる。 自分自身の「文化」的背景への気づきを高め、「文化」がもたらす影響を意識できるようになる。 多文化理解を促進する態度や技能を身につける。 多文化共生社会の実現のために自分ができていることを自分なりに考え意見をいえる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 事前学習課題は毎回指定された教科書の課題を意味する。事前に配付されたプリントに回答し、毎回授業開始時に提出する。 講義ノートは、講義内容や理解した内容、疑問などについて、講義毎に自分の言葉・表現でまとめたノートを意味する。第5回、第10回、第15回の授業時に提出する。 他グループの発表について、内容のまとめやグループの特徴、感想などについてレポートを作成する。詳細については、講義内で指示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】原沢 伊都夫著 『異文化理解入門』 研究社。2,376 円</p> <p>【参考書】 授業時に指示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>事前学習課題の提出 20%</p> <p>講義ノートの提出 20%</p> <p>受講態度・積極的な参加姿勢 20%</p> <p>グループ発表 20%</p> <p>発表評価レポート 20%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業は事前学習を前提に行うため、必ず事前学習課題に取り組んで授業に臨むこと。</p> <p>異なる文化、多様な文化に積極的な興味を持っていることが望ましい。</p> <p>日常生活や身近な出来事の中にある異文化接触と関連付けながら受講することを勧める。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。</p> <p>自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。</p>		
13. オフィスアワー	初回の講義内で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、教科書内容について把握しておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方や講義ノートの作成について整理しておく。
第 2 回	第 1 章: 異文化を理解する (pp. 19~24)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 1 とワーク 1 を配付プリントに回答し、教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 3 回	第 2 章: 文化とは(その 1) (pp. 29~36)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 2, 3, 4 と <考えよう 1> を配付プリントに回答し、教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 4 回	第 3 章: 文化とは(その 2) (pp. 41~52)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 2 と確認チェック 5 と 6 を配付プリントに回答し、教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 5 回	振り返り 1: 自文化を説明する	事前学習	既習の教科書内容とこれまでの講義ノートを見直し、気づいたこと、疑問などを講義ノートにまとめておく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。

第 6 回	第 4 章：異文化適応 (pp. 57～66)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 7 と考えよう 2 を配付プリントに回答し、教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 7 回	第 6 章：違いに気づく (pp. 79～87)	事前学習	授業範囲を読み、事例 1 と事例 2 について、自分の考えを講義ノートにまとめておく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 8 回	第 7 章：異文化の認識 (pp. 93～99)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 8 と 9 と考えよう 3 について配付プリントに自分の考えをまとめておく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 9 回	第 8 章：差別を考える (pp. 105～108)	事前学習	授業範囲を読み、大切だと思う部分に線を引いておく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 10 回	振り返り 2：異文化理解の問題を説明する	事前学習	既習の教科書内容とこれまでの講義ノートを見直し、気づいたこと、疑問などを講義ノートにまとめておく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 11 回	第 9 章：世界の価値観 (pp. 117～126)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 5 と考えよう 5 を配付プリントに回答し、教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 12 回	第 11 章：異文化受容 (pp. 143～150)	事前学習	授業範囲を読み、確認チェック 10 と考えよう 6 を配付プリントに回答し、教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 13 回	第 12 章：自分を知る (pp. 155～163)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 6 と 7 を配付プリントに回答し、教科書に書き込んでおく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 14 回	第 15 章：多文化共生社会の実現に向けて (pp. 193～196)	事前学習	授業範囲を読み、ワーク 12 を自分なりに考え講義ノートにまとめておく。
		事後学習	授業で学んだことを講義ノートにまとめておく。
第 15 回	総括：多文化共生社会の実現に向けたグループ発表	事前学習	ワーク 12 のグループ発表ができるよう準備をする。
		事後学習	授業全体のまとめを講義ノートに記録しておく。

1. 科目名 (単位数)	地域福祉論 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2104
2. 授業担当教員	中野 一茂		SSMP2104
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	社会福祉原論、高齢者福祉論、障害者福祉論、児童福祉論、ソーシャルワーク論等の関連科目の履修が望ましい。		
7. 講義概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を学ぶとともに、地域援助技術としてのコミュニティワーク、コミュニティソーシャルネットワークの実践方法を身につける。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。 ・地域福祉の主体と対象について理解し説明できる。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について把握することができる。 ・地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法について把握し、その実際について説明できる。 ・地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解し説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に非定期的に小テストを実施する。 レポート課題は授業中に提示する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	出席率・態度評価（欠席は 7 回まで、8 回以上欠席したら成績評価の対象にならない。）が良好であることを前提に、欠席・遅刻・許可のない携帯電話作動・おしゃべりなどにはそれぞれ 1 回につき 5 点減点とする。 レポート 30% 小テスト 20% 期末試験 50%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は常に集中力を保って受講すること。積極的な態度で授業に参加することを期待する。 2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4. レポートの提出日を厳守すること。（後日提出は評価対象にしない。） 		
13. オフィスアワー	オフィスアワーは講義時間の前後で受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション（講義概要の説明）	事前学習	地域福祉の発展過程や源流について予習する。
		事後学習	今日の日本において、地域福祉が注目される社会的背景についてまとめる。
第 2 回	現代社会における地域福祉の実際	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 3 回	地域福祉の基本的考え方①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 4 回	地域福祉の基本的考え方②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 5 回	地域福祉の発展過程①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 6 回	地域福祉の発展過程②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 7 回	地域での生活を支える地域福祉サービスの実際①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 8 回	地域での生活を支える地域福祉サービスの実際②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 9 回	地域福祉の主体と対象①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 10 回	地域福祉の主体と対象②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 11 回	地域福祉の推進方法①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。

第 1 2 回	地域福祉の推進方法②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 1 3 回	地域福祉計画と地域福祉活動計画①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 1 4 回	地域福祉計画と地域福祉活動計画②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 1 5 回	中間まとめ	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 1 6 回	ボランティア活動と福祉教育①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 1 7 回	ボランティア活動と福祉教育②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 1 8 回	地域福祉に係る組織、団体および専門職や地域住民①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 1 9 回	地域福祉に係る組織、団体および専門職や地域住民②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 2 0 回	地域福祉の財源①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 2 1 回	地域福祉の財源②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 2 2 回	これからの地域福祉のあり方①	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 2 3 回	これからの地域福祉のあり方②	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 2 4 回	これからの地域福祉のあり方③	事前学習	テキスト該当頁の内容を予習。
		事後学習	テキスト該当頁の内容を復習。
第 2 5 回	海外の地域福祉①	事前学習	日本の地域福祉に似通った実践や政策は海外にないのかを調べる。
		事後学習	授業で提示した資料を用いて復習する。
第 2 6 回	海外の地域福祉②	事前学習	授業で提示した資料を用いて予習する。
		事後学習	授業で提示した資料を用いて復習する。
第 2 7 回	海外の地域福祉③	事前学習	授業で提示した資料を用いて予習する。
		事後学習	授業で提示した資料を用いて復習する。
第 2 8 回	地域福祉実践の先進事例について（資料提供）	事前学習	地域福祉学会等のホームページを活用して、地域福祉の実践における先進事例の資料収集を行う。
		事後学習	先進事例から何が学んだ地域福祉の要素をまとめる。
第 2 9 回	まとめ①	事前学習	今日の日本においてどのような社会問題があるのかについて調べる。
		事後学習	今日の社会問題に対応する地域福祉の役割について考える。
第 3 0 回	まとめ②	事前学習	地域福祉のどの部分が「新しい」なのかについて復習する。
		事後学習	これからの地域福祉の発展における課題についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	哲学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1319 GELA1320
2. 授業担当教員	山田 哲史		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1 年次以上		
7. 講義概要	<p>「哲学とは何か？」という問いは、現在でも、世界の一線級の哲学者たちの間でさえ合意をみていない。ここに哲学の特徴、難しさ、そしておもしろさが表れている。この世界がどうなっているかについての新しい知識を求める経験科学的な探求と異なり、哲学は、(例えて言えば) この世界を見ている自分たちの目そのものを探求するような自己言及的な側面を強くもっている。しかし言うまでもなく、自分で自分の目を覗き見ることはどうやってもできない。そこに哲学のむずかしさがあり、哲学に「答えはない」と言われる所以(ゆえん)がある。それでも、普段自分たちが当たり前のものとして考えたり疑ったりすることのなかった前提を、改めて見つめなおしてみることに意義を感じられる人にとっては、哲学を学ぶこと(あるいは「哲学する」こと)は、好奇心を刺激されるものとなるだろう。</p> <p>本講義では、哲学者たちが取り組んできたテーマについて、日常生活とのつながりを意識しながら学んでいく。しかし、もっとも大切なことは、哲学者たちの考えた内容そのものを覚えることではなく、その思考の軌跡を追体験することによって、受講者自身が各自の思考力を鍛えていくことである。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 自分が今このように存在し、このように物事を認識しているその(無意識の)根拠を改めて問いなおすことによって、人間として生きているとはどのようなことなのかをよりよく考えられるようになること。</p> <p>2. 科学的な探求とは異なる知のあり方があることを理解すること。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の進行に沿って理解度を確認するため、学習シートの提出を求めることがある。提出の時期はその都度指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	必要に応じて資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	<p>期末試験 (40%)</p> <p>学習シート提出 (20%)</p> <p>授業態度 (40%)</p>		
12. 受講生への メッセージ	授業時に取り扱う内容に対し、自分自身の身近な問題と照らし合わせながら理解しようとする意識を持って積極的に学習に取り組んで欲しい。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間とする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 万物の根源について	事前学習	「自分はなぜ今ここに存在するのか」この問いへの答えを簡単に整理する。
		事後学習	授業(万物の根源について)を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第2回	知を愛する者について (ソフィストとソクラテス)	事前学習	物事を議論するときどのようなことを心がけるか思いつくことを列挙する。
		事後学習	授業(知を愛する者について)を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第3回	想起することについて (プラトン)	事前学習	自分にとっての「理想とする〇〇」の〇〇を具体的に5点くらい列挙する。
		事後学習	授業(想起することについて)を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第4回	原因と結果について (アリストテレス)	事前学習	この一週間で自分の身の回りで起こった出来事を思い出し、その原因を推測し説明できるようにする。
		事後学習	授業(原因と結果について)を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第5回	神と哲学について (アウグスティヌス、等)	事前学習	自分が「神様」のことを頭に浮かべるときはどんな時か具体的な場面を説明できるようにする。
		事後学習	授業(神と哲学について)を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第6回	イドラについて (ベーコン)	事前学習	自分が今まで独りよがりな「思い込み」をしていたことを自覚した例を思い出していくつか例を挙げる。
		事後学習	授業(イドラについて)を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第7回	疑うことについて (デカルト)	事前学習	自分が普段の生活の中で疑わしいと思っている事柄とその理由をいくつか列挙する。
		事後学習	授業(疑うことについて)を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第8回	自己保存の本能について (ホブズ)	事前学習	社会のルールはなぜ必要なのだろうか具体的な例を挙げながら簡単に説明できるようにする。

		事後学習	授業（自己保存の本能について）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第 9 回	感情の抑制について （スピノザ）	事前学習	自分が普段の生活の中で自由であることを実感する具体的な場面をいくつか列挙する。
		事後学習	授業（感情の抑制について）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第 10 回	道徳法則について （カント）	事前学習	道徳という言葉からどんなことを連想するか説明できるようにする。
		事後学習	授業（道徳法則について）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第 11 回	弁証法について （ヘーゲル）	事前学習	他者の意見を取り入れながら意見をまとめていくときにどんなことを心がけるか思いつくことを列挙する。
		事後学習	授業（弁証法について）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第 12 回	ニヒリズムについて （ニーチェ）	事前学習	自分が体験した「信じられない！」という衝撃的な体験を説明できるようにする。
		事後学習	授業（ニヒリズムについて）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第 13 回	無意識の領域について （フロイト）	事前学習	自分が思わずしてしまった言動にはどんなことがあるか具体的な場面をいくつか説明できるようにする。
		事後学習	授業（無意識の領域について）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第 14 回	人間の頽落について （ハイデッガー）	事前学習	自分は他者にどんなことを配慮しているか説明できるようにする。
		事後学習	授業（人間の頽落について）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
第 15 回	アンガジュマンについて （サルトル）	事前学習	所属する集団において自分はどんな役割を担うことを求められているか説明できるようにする。
		事後学習	授業（アンガジュマンについて）を通して理解したこと、発見したこと、感じたことをノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	統計学 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1321 GELA1121
2. 授業担当教員	岡田 順介			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	我々の身の回りには実に多くの統計的データが存在する。しかし、それらについての正しい見方を知らない と、日常生活において重大な間違いを犯してしまうことにもなりかねない。理系・文系の枠に関係なく、統 計学の知識は、データを正しく読み取り、正しく理解するために必要な教養のひとつである。この統計学の クラスでは、統計に対する正しい知識を身につけることと、将来自分でデータを集め分析できるようになる ことを目標に、統計学の基本的な概念の紹介から始まり、記述統計、推測統計まで幅広く学習していく予定 である。			
8. 学習目標	日常生活における統計学的なものの見方・考え方を身につけるとともに、レポート・論文の中に記載された 統計に関する記述箇所を正しく読み取れるようになることが、本講義の主たる学習目標である。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業で紹介した内容を利用した計算課題などを行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	授業内で資料を配布する。 【教科書】 なし 【参考書】 他の講義で既に利用しているものを中心に、授業内で指定・紹介する。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度	総合点の 20%		
	課題	総合点の 20%		
	期末試験	総合点の 60%		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学は心理統計法や統計処理法に必要な基礎である。一度学べば心理統計法がよく理解できるはずであ る。 ・卒業研究で実験や調査をする際に必要な内容である。 ・関数付きの電卓があると便利である。 			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業概要の説明)、統計学 (法) とは		事前学習	統計学を学ぶにあたり、関係する数学の基礎 知識について個々人の既知の範囲で確認し ておく。
			事後学習	授業を基に統計的処理の目的・意義を把握 し、関係する数学の基礎知識について確認す る。
第 2 回	統計学で使う用語、記号、数式など		事前学習	第 1 回で指定したことを踏まえ、もう一度統 計学に関わる数学の基礎知識について確認 しておく。
			事後学習	今後の授業で統計用語や記号が出てきても 問題なく理解できる事を目標に、授業内容を 復習する。
第 3 回	母集団と標本一測定値の意味、誤差の原因		事前学習	日常生活などで目にする統計データが何に ついてどのように得られたものか観察し、普 段なんとなく理解しているその意味につい て意識的に整理してみる。
			事後学習	母集団と標本の関係や誤差について問題な く理解できているか確認する。
第 4 回	統計量の意味を考えるー平均値とばらつき		事前学習	代表値と散布度について指定、或いは配布し た資料を基に予習しておく。
			事後学習	平均値などの特徴、利点について把握する。
第 5 回	ガウスの正規分布曲線を知るー大試料のデータの分布		事前学習	「正規分布」について調べ、理解が困難な点 を整理しておく。
			事後学習	今後の授業に備え、分布が何を意味してい るのか、正規分布とは何かを整理しておく。
第 6 回	標準正規分布曲線を知るー確率と分布曲線の面積との 関係、偏差値		事前学習	前回の正規分布について整理したうえで、標 準正規分布について指定、あるいは配布し資 料を基に予習する。
			事後学習	授業内容をもとに標準正規分布について復 習するとともに、統計において分布を扱う意 義を把握する。

第 7 回	統計的仮説の検定	事前学習	実生活など実際に目にする統計データについて、「何を目的としてそのデータを得たのか」を考えてみる。
		事後学習	事業内容を復習し、統計的仮説の検定について、その仕組みや注意点について理解する。
第 8 回	t 分布曲線を知る—平均値の分布、試料数による t 分布曲線の違い	事前学習	授業で指定、あるいは配布した資料を基に t 分布について学習し、理解が困難な点を整理しておく。
		事後学習	授業を基に t 分布の特徴について整理する。
第 9 回	t 分布表の見方と使い方	事前学習	前回の授業を基に、t 分布を実際に利用する方法について予習しておく。
		事後学習	授業で行った例題にもう一度取り組み、自身が把握できていなかった点について理解し、t 分布を利用できるようにする。
第 10 回	F 分布曲線を知る—ばらつきの比の分布、試料数による F 分布曲線の違い	事前学習	授業で指定、あるいは配布した資料を基に F 分布について学習し、理解が困難な点を整理しておく。
		事後学習	授業を基に F 分布の特徴について整理する。
第 11 回	F 分布表の見方と使い方	事前学習	前回の授業を基に、F 分布を実際に利用する方法について予習しておく。
		事後学習	授業で行った例題にもう一度取り組み、自身が把握できていなかった点について理解し、F 分布を利用できるようにする。
第 12 回	二項分布について	事前学習	授業で指定、あるいは配布した資料を基に二項分布について学習し、理解が困難な点を整理しておく。
		事後学習	授業を基に二項分布の特徴について整理する。
第 13 回	χ^2 分布表の見方と使い方	事前学習	授業で指定、あるいは配布した資料を基に χ^2 分布について学習し、理解が困難な点を整理しておく。
		事後学習	授業を基に χ^2 分布の特徴について整理する。
第 14 回	χ^2 分布曲線を知る—ばらつきの分布、試料数による χ^2 分布曲線の違い	事前学習	前回の授業を基に、 χ^2 分布を実際に利用する方法について予習しておく。
		事後学習	授業で行った例題にもう一度取り組み、自身が把握できていなかった点について理解し、 χ^2 分布を利用できるようにする。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの授業で概観したそれぞれの分布の特徴、差異について自身で整理してみる。
		事後学習	目的に応じて適切な分布を自身で選択・利用できる事を目標に、授業を基にもう一度整理する。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	道徳の指導法 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS3307
2. 授業担当教員	石崎 達也		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>道徳というのは大人がしたり顔でする説教でも教科書に羅列されている題目でもなく、私たちの身近にあるものである。たとえば、「あれかこれか」という二つ以上の選択肢にぶつかったときに、私たちはどの道を選ぶのがよいのかという価値判断に迫られる。このような、よさ・悪さ、xxすべき、といった当為・価値判断に関わる問題はすべて道徳的、倫理的問題だと言える。この意味では、私たちは道徳とともに毎日の生活を送っている。</p> <p>自分の価値判断が、自分の考えや行動、自分の生き方の内部だけで完結するのであれば、それほどたくさん問題は出てこないのかもしれない。しかし自分の価値判断はほとんどの場合、他人を巻き込む。つまり、道徳の問題は個人的であると同時に社会性をもつものである。異なる道徳規範をもった人が二人以上集まる時(私たちの実際の生活のほとんどあらゆる場がそれに該当する)、そこは衝突と妥協と調整の場となる。</p> <p>このような価値判断のぶつかり合いの連続である現実をどのように生き抜いていけるのか、またそれを次の世代の子どもたちにどのように伝えていったらよいかを考えるために、本講義では縦軸(日本の歴史の中で道徳規範がどのように変化し、道徳教育がどのように変遷してきたか)と横軸(他の社会や文化圏ではどのような道徳規範が機能しているか)の両方に目を配り、今の自分がもっている道徳観念や価値基準を見つめなおしていく。さらに人類の発展とともに新たに生じてきた道徳的、倫理的課題をも取り上げ、今後ますます変化していく社会の中で生きていく受講生が、自分の頭で価値を判断していく力をつけ、道徳教育を実践する上で基礎となる資質・能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の課題と展望について学び、道徳教育に対する自らの考えを深め、説明することができること。 2. 道徳教育の授業理論を理解し、実践的な指導力を身につけること。 3. さまざまなかたちの道徳規範や価値基準と自分たちのそれとの間の共通点と相違点に着目することで、自分が(無意識に)拠って立っている基盤を再考できるようになること。 4. 自分がどのように生きていくかという課題は、ほとんど必然的に他者を巻き込むという点ですぐれて社会的なテーマでもある。「自分を含みこむ社会の一員としての自分」という角度から自分を見つめなおしてみること、そして自分が関わっていると感じられる社会の外延を広げられるようになること。 5. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質であるのみならず、これこそがまさに、非常に大切な「道徳的資質」と言える)。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業内容に関するリアクションペーパーと小テスト・小レポートを提出すること。 ・「道徳」の学習指導案を作成すること。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>資料はプリントにて適宜、配布する。プリントを整理するファイル等を用意すること。</p> <p>【教科書】文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版、2008。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 中等教育編』ミネルヴァ書房、2015。</p> <p>*その他、発展的学習のための参考書は必要に応じて授業の中で紹介するので、図書館を活用すること。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 30%</p> <p>小テスト・課題レポートの提出状況 30%</p> <p>期末レポート課題 40%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>「学校の先生になる人が何で道徳教育を勉強する必要があるんですか？」この問いに応答することが本授業の目的である。受講生が小学校・中学校時代に体験してきた道徳の授業を批判的に振り返るとともに、道徳教育の重要性に改めて気づき、子どもたちの「生きる力」を育む道徳教育のあり方を主体的に考えた上で、実践できる教師になるための準備をすすめてほしい。</p> <p>【学生に期待される学習態度】</p> <p>受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高める。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでほしい。 ② 授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退席をしないこと。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面で報告すること。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格とする。) ③ 明らかに授業態度が悪いと判断した際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られないと判断した場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格とする。 ④ 授業中、私語、居眠りはしないこと。 ⑤ 授業中は携帯電話等の携帯端末の電源は切ること。 		
	<p>【教員の心がまえ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はできるかぎりシラバスに沿って行う。 ② 受講生全員に伝わるような声で話をする。また専門用語を用いた際は、わかりやすく説明する。 ③ 一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくる。 <p>遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退席、その他、授業に臨むうえで不適切と思わ</p>		

	れる態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 〔授業の進め方、「道德教育の研究」を学ぶ上での心得を説明する。〕【講義】	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくる。
		事後学習	本時の授業のポイントをノートに整理すること。
第 2 回	道德とは何か 〔「道德」の必要性和今日的課題をもとに「よりよい生き方・あり方」について考える。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	これまで受けてきた道德科の授業で学んだことをまとめてくる。
		事後学習	本時の授業のポイントをノートに整理すること。
第 3 回	道德教育とは何か① 〔学習指導要領に示されている「道德教育」の目標と方法について問題点を挙げながら理解を深める。〕【講義・グループワーク】	事前学習	テキストの指定された箇所を読んでくる。
		事後学習	道德教育の目標と方法についてノートに整理すること。
第 4 回	道德教育とは何か② 〔「道德教育」の歴史について理解を深める。〕 【講義】	事前学習	「道德教育の歴史」に関する資料を読んでくる。
		事後学習	道德教育の歴史的背景についてノートに整理すること。
第 5 回	道德教育とは何か③ 〔哲学・倫理学・人間学の観点から現代の「道德教育」についての理解を深める。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	配布資料を読んでくる。
		事後学習	本時の授業で学んだことをふまえ今日の道德教育の問題点をまとめておく。
第 6 回	道德科の授業方法① 〔さまざまな授業方法について理解を深める。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	これまで受けてきた道德科の授業方法をまとめてくる。
		事後学習	本時で取り上げた授業方法のポイントをノートに整理すること。
第 7 回	道德科の授業方法② 〔「モラルスキルトレーニング」を取り上げる。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	配布資料を読んでくる。
		事後学習	モラルスキルトレーニングプログラムのポイントをノートに整理すること。
第 8 回	道德科の授業をデザインする 〔道德教育の授業実践を参考しながら各自テーマを設定した上で道德科の授業をデザインする。〕 【講義・指導計画および指導案作成】	事前学習	道德科の授業づくりの際に取り上げたいテーマを選んでくる。
		事後学習	道德科の学習指導案を作成し提出すること。
第 9 回	教科教育・特別活動と道德教育の関係について 〔教育活動の各領域と「道德教育」とのかかわりについて概説する。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	テキストの指定された箇所を読んでくる。
		事後学習	教育活動全体の中での道德教育の価値や位置づけについてノートにまとめておく。
第 10 回	人権教育と道德教育 〔人権と「道德教育」とのかかわりについて事例を挙げながら理解を深める。〕 【講義・授業シート作成】	事前学習	「人権教育」に関する資料を読んでくる。
		事後学習	人権教育の授業シートを作成し提出すること。
第 11 回	諸外国の道德教育 〔文化のちがいと「道德教育」について概説する。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	諸外国の道德教育の事情について調べておく。
		事後学習	本時の授業をふまえ日本の道德教育の問題点を整理すること。
第 12 回	心を育てる学級集団づくりと道德教育 〔道德の授業が成立する学級づくりについて話し合う。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	よりよい学級集団づくりのために必要な条件について自らの意見をまとめてくる。
		事後学習	本時で話し合った内容をふまえ道德科の授業を活用したよりよい学級集団づくりのポイントをノートに整理すること。
第 13 回	道德教育の課題① 〔現場の教師が抱える「道德の時間」に対するさまざまな課題について説明する。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	配布資料を読んでくる。
		事後学習	本時で話し合った内容をふまえ道德教育の課題について自らの意見をまとめておく。
第 14 回	道德教育の課題② 〔「よりよい道德教育」実践の構築に向けて議論を深める。〕 【講義・グループワーク】	事前学習	配布資料を読んでくる。
		事後学習	本時で話し合った内容をふまえよりよい道德教育のあり方についての自らの意見をまとめておく。
第 15 回	総括および授業評価	事前学習	配布資料や各自のノート等で本授業の学習内容をふり返り、自己の成果と課題を報告できるようにしてくる。
		事後学習	シラバスに記載された本科目の学習目標を達成するための3つの到達目標を確認し、その到達度を自己評価する。

1. 科目名 (単位数)	特別活動の指導法 (初等) (2 単位)		3. 科目番号	EDTE2307						
2. 授業担当教員	伊藤 京一									
4. 授業形態	◇講義、演習、模擬実習、グループワーク、ディスカッションなど 例：導入：講義によって課題の把握→展開（演習）：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議→まとめ：協議内容を含め講義のまとめ		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>◇ 特別活動は、児童の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防的な役割を果たすなど、児童の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につけさせる。</p> <p>◇ 特別活動に関する主要な概念を講義等で受け入れて増やす学び（概念受容型の学び）と演習や協議等を通じて自力で概念を形成する「概念形成型の学習」を行うようにする。特に、特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、学級活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。</p> <p>◇ 演習内容は、小学校における「学級活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからである。また、教科書もなく学級担任としての力量が学級担任になると即刻問われるからである。</p>									
8. 学習目標	<p>◇ 特別活動に関する理論と実践について理解し、理論と実践の交流や応用が図れるようになる。</p> <p>◇ 特別活動が重視する「よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成」を具体的な活動例『よりよい人間関係づくりを目指した体験活動、生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動』などを通して理解し、自ら考えた新企画を発表できるようになる。</p> <p>◇ 小学校における特別活動の中核となる「学級活動」について、計画委員会が主体となって授業を展開する指導案（展開案）を作成し、班内及び全員の前で発表できるようにする。</p>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポートは、2 回提出する。</p> <p>(1) 第 1 回の締め切りは、第 8 回授業時。1,000 字程度を課す。 テーマ「特別活動は何のために行われるのか。」 ー特別活動全体としての目標と各内容ごとの目標についてー</p> <p>(2) 第 2 回の締め切りは、第 12 回授業時。1,000 字程度を課す。 テーマ「ある体験学習を想定し、指導者として留意すべき事項を述べなさい。」</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>毎時間、プリントを配布する。</p> <p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社、2008 年。</p>									
11. 成績評価の方法	<p>以下の方法で評価する。</p> <table border="1"> <tr> <td>1 授業への出席状況 (受講態度)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2 第 1 回および第 2 回のレポートの内容</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>30%</td> </tr> </table>				1 授業への出席状況 (受講態度)	30%	2 第 1 回および第 2 回のレポートの内容	40%	3 期末試験	30%
1 授業への出席状況 (受講態度)	30%									
2 第 1 回および第 2 回のレポートの内容	40%									
3 期末試験	30%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>この科目は教育職員免許状取得のために指定された科目である。</p> <p>1 受講にあたっては、自分が教壇に立った場合はどうするかを常に考えること。</p> <p>2 社会人としての常識をわきまえ、教師を目指す人の集まりにふさわしい態度を保つこと。</p> <p>3 立ち居振る舞いを真摯に。私語を慎む、遅刻をしない。早退する場合は、授業の前に申し出る。</p> <p>4 20 分以上の遅刻は、欠席にカウントする。</p>									
13. オフィスアワー	初回の授業時に連絡する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	授業のオリエンテーション (講義概要の説明) 特別活動等諸活動の領域について知る	事前学習	解説書 pp.5～15 を読み特別活動とは何か問題意識を持つ。							
		事後学習	特別活動の概要を復習し、ふりかえりカードに記入する。							
第 2 回	教育課程と特別活動のかかわりについて学ぶ	事前学習	解説書 pp.16～21 を読み、特別活動の位置づけを考える。							
		事後学習	特別活動の意義を復習し、ふりかえりカードに記入する。							
第 3 回	学級活動の内容について学ぶ	事前学習	解説書 pp.22～30 を読み、学級活動とは何か考える。							
		事後学習	学級活動の意義を復習し、ふりかえりカードに記入する。							
第 4 回	学級の経営について学ぶ	事前学習	解説書 pp.31～32 を読み、学級経営とは何か考える。							
		事後学習	学級経営の意義を復習し、ふりかえりカードに記入する。							
第 5 回	学級会 (話し合い・集会) の運営について学ぶ	事前学習	解説書 pp.33～34 を読み、学級会の運営について考える。							

		事後学習	学級会の運営について復習し、ふりかえりカードに記入する。
第 6 回	児童会活動の意義とその内容について学ぶ	事前学習	解説書 pp.40～49 を読み、児童会活動の意義を考える。
		事後学習	児童会活動の意義を復習し、ふりかえりカードに記入する。
第 7 回	クラブ活動の意義とその内容について学ぶ	事前学習	解説書 pp.50～58 を読み、クラブ活動の意義を考える。
		事後学習	クラブ活動の意義を復習し、ふりかえりカードに記入する。
第 8 回	学校行事の意義とその内容について学ぶ	事前学習	解説書 pp.59～74 を読み、学校行事とは何か考える。
		事後学習	学校行事の意義を復習し、ふりかえりカードに記入する。
第 9 回	第 1 回レポートのフィードバック	事前学習	レポートの発表準備をする。
		事後学習	他の学生のレポート内容のよかった点をまとめ、ふりかえりカードに記入する。
第 10 回	体験学習の意義とその内容について学ぶ	事前学習	解説書 pp.81～82 を読み、体験学習の重要性を考える。
		事後学習	体験学習の意義や問題点を復習し、ふりかえりカードに記入する。
第 11 回	特別活動の学習指導案の作成の仕方について学ぶ	事前学習	特別活動の指導案について考える。
		事後学習	特別活動の指導案の書き方を復習し、模擬指導案を書く。
第 12 回	総合的な学習の時間の意義とその内容について学ぶ	事前学習	学習指導要領第 5 章を読み、総合的な学習の時間とは何か考える。
		事後学習	総合的な学習の時間の意義を復習し、ふりかえりカードに記入する。
第 13 回	特別活動の内容の取扱いについて学ぶ	事前学習	解説書 pp.75～89 を読み、特別活動の内容の取扱いについて予備知識を持つ。
		事後学習	特別活動の内容の取扱いについて復習し、ふりかえりカードに記入する。
第 14 回	第 2 回レポートのフィードバック 1	事前学習	レポートの発表準備をする。
		事後学習	他の学生のレポート内容のよかった点をまとめ、ふりかえりカードに記入する。
第 15 回	第 2 回レポートのフィードバック 2	事前学習	レポートの発表準備をする。
		事後学習	特別活動の指導のあり方を復習し、ふりかえりカードに記入する。
期末試験			

1 科目名(単位数)	特別活動の指導法(中等) (2単位)	3 科目番号	EDTS2307 SBMP2346 SSMP2346
2 授業担当教員	石崎 達也		
4 授業形態	講義、演習(グループワーク含む)	5 開講学期	秋期
6 履修条件・他科目との関係	「教育方法論(初等)」を履修していることが望ましい。		
7 講義概要	特別活動に関する主要な概念を講義等で受け入れて増やす学び(概念受容型の学び)と演習や協議等を通じて自力で概念を形成する「概念形成型の学習」を行うようにする。特に、特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、学級活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。演習内容は、小学校における「学級活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからであり、教科書もなく学級担任としての真の力量が問われからである。		
8 学習目標	(1)特別活動に関する理論と実践について理解し、理論と実践の交流や応用が図れるようになる。 (2)改訂学習指導要領の特別活動では、「よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成」などを特に重視しており、それらに関わる力について実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動を一層充実することが求められている。そこで、これらのニーズに応える具体的な活動例を理解し、自ら考えた新企画を発表できるようになること。 (3)中学校における特別活動の中核となる「学級活動」について、計画委員会が主体となって授業を展開する指導案(展開案)を作成し、班内及び全員の前で発表できるようになること。		
9 アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメントは、適宜課す。 [レポート課題] 「特別活動の特質」・「特別活動の歴史」・「挑戦したい学級活動」・「私が挑戦する学級活動展開案」等		
10 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい、2008。 【参考書】 高橋哲夫、原口盛次、井田延夫編『特別活動研究 第三版』教育出版、2010。 【教材】 プリント教材は、毎時の授業時に配布する。		
11 成績評価の方法	日常の授業態度 30% 小テスト・課題レポートの提出状況 30% 期末レポート課題 40%		
12 受講生へのメッセージ	<p>社会の変化とともに、「教師」に対する親や社会の期待はますます高まっている。そこで、教育現場における「教師」として、さまざまなニーズに対応するための「問題解決能力」「コミュニケーション能力」の向上が課題となってきた。受講生の皆さんには、この授業の中では失敗や間違いを恐れず積極的に発言・発表すること、また同じ目標をもった受講生同士が協力して課題に取り組み、学び合うことを期待している。</p> <p>【学生に期待される学習態度】</p> <p>受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してほしい。</p> <p>① 教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高める。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでほしい。</p> <p>② 授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないこと。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告すること。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格とする。)</p> <p>③ 明らかに授業態度が悪いと判断した際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られないと判断した場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格とする。</p> <p>④ 授業中、私語、居眠りはしないこと。</p> <p>⑤ 授業中は携帯電話等の携帯端末の電源は切ること。</p> <p>【教員の心がまえ】</p> <p>① 授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はできるかぎりシラバスに沿って行う。</p> <p>② 受講生全員に伝わるような声で話をする。また専門用語を用いた際は、わかりやすく説明する。</p> <p>③ 一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくる。</p> <p>④ 遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出、その他、授業に臨むうえで不適切と思われる態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13 オフィスアワー	第1回の授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(学習目標等) -特別活動の特質・教育的意義	事前学習	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を概観して くこと。
		事後学習	特別活動の主要語句を覚えること。
第2回	特別活動の目標と内容 -特別活動の経験と学び	事前学習	これまで経験した「特別活動」をふりかえって くること。
		事後学習	特別活動の目標と内容についてまとめて おくこと。

第 3 回	特別活動の歴史の変遷 -明治以降の教科外活動の流れ	事前学習	「特別活動の変遷」を熟読してくる。
		事後学習	一覧表をもとに「特別活動の変遷」の整理しておくこと。
第 4 回	特別活動の教育的意義 -特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連	事前学習	これまで経験した「総合的な学習の時間」の活動内容をふりかえってくる。
		事後学習	志望する教科と特別活動との関連についてまとめておくこと。
第 5 回	特別活動と生徒指導	事前学習	これまで中学校・高等学校で行われていた「生徒指導」の内容をふりかえってくる。
		事後学習	特別活動と生徒指導との関連についてレポート [1] にまとめること。
第 6 回	特別活動と人間関係づくり	事前学習	中学校・高等学校の生徒が直面する人間関係の問題について調べてくること。
		事後学習	授業で学んだ「望ましい人間関係づくり」のポイントを復習し、「私が挑戦する学級活動」[2]の題材を考えておくこと。
第 7 回	特別活動と規範意識・社会性の育成	事前学習	中学校・高等学校の生徒の規範意識問題について調べてくること。
		事後学習	授業で学んだ「望ましい集団活動」のポイントを復習し、「私が挑戦する学級活動」[3]の題材を考えておくこと。
第 8 回	「私が挑戦する学級活動」[2][3]の展開案の発表	事前学習	学級活動例を熟読してくる／「私が挑戦する学級活動」[2][3]の発表用資料を作成してくる。
		事後学習	発表後に展開案の修正をすること。
第 9 回	特別活動の実践例から学ぶ① -学級生活を豊かにする係活動の運営	事前学習	これまで経験した「係活動」の活動内容をふりかえってくる。
		事後学習	係活動の在り方を再確認し、当番活動との違いを整理すること。
第 10 回	特別活動の実践例から学ぶ② -生徒会活動としての「いじめ防止活動」の実践例	事前学習	生徒会活動に関する資料を熟読してくる。
		事後学習	「生徒会活動の活性化に向けた指導の工夫」[4]を考えておくこと。
第 11 回	特別活動の実践例から学ぶ③ -部活動の指導(目標、内容、組織、指導計画・活動計画など)、部活動の指導上の留意事項	事前学習	部活動に関する資料を熟読してくる。
		事後学習	部活動の指導上の留意事項をまとめておくこと。
第 12 回	特別活動の実践例から学ぶ④ -学校行事の指導(目標、内容など)、学校行事の事前指導、学校行事の授業計画	事前学習	学校行事に関する資料を熟読してくる。
		事後学習	「こんな学校行事を提案します」[5]を考えておくこと。
第 13 回	特別活動の指導計画と指導案の作成 特別活動の授業時数・特別活動の指導計画(全体計画、年間指導計画)・評価	事前学習	配布資料を熟読してくる。
		事後学習	指定された題材で学級活動の学習指導案を作成すること。
第 14 回	「生徒会活動の活性化に向けた指導の工夫」[4]・「こんな学校行事を提案します」[5]の発表	事前学習	「生徒会活動の活性化に向けた指導の工夫」[4]・「こんな学校行事を提案します」[5]の発表用資料を作成してくる。
		事後学習	発表した内容を振り返っておくこと。
第 15 回	ふりかえりと授業評価	事前学習	配布資料や各自のノート等で本講義の学習内容をふり返し、自己の成果と課題を報告できるようにしておくこと。
		事後学習	シラバスに記載された本科目の学習目標を達成するための3つの到達目標を確認し、その到達度を自己評価すること。

1. 科目名 (単位数)	日本語学 I (音声・音韻) (2 単位)	3. 科目番号	EJJP2121
2. 授業担当教員	山口 雅代		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	EJ 2 年次以上		
7. 講義概要	学習者の発音を指導するためには、日本語の音声についての知識が必要である。本講座では、日本語の音声についての一般的な概要を行い、日本語の音声がどのように産出されているのかについて学ぶ。また、演習では実際に発音し、日本語教育におけるモデルとなる音声について理解する。		
8. 学習目標	日本語の音声の仕組みについて理解し、日本語の音声についてコントロールできることを目指す。それにより、日本語学習者の発音の問題点をどのように直せばよいのか理解できる。日本語教育の音声における知識と技能を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	毎回、ワークシートに記入する。 発音練習の課題として最初の時間に第14回で読む原稿を渡す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2004。 【参考書】猪塚恵美子・猪塚元『日本語の音声入門』バベルプレス、2003。 榎本正嗣『現代日本語発音の基礎知識』学文社、2006。 戸田貴子『日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク、2004。 文化庁『音声と音声教育』大蔵省印刷局、2001。 など		
11. 成績評価の方法	出席 (授業態度含む) 30%、課題 (演習、ワークシートなど) 30%、期末試験 40% 遅刻は 15 分以上で欠席とみなし、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。 本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	日本語の音声は、どこで発音され、どのように音が出されるのか、日本語学習者に説明できるようにしていくこと。		
13. オフィスアワー	初回授業時にプリントにて知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、課題説明、1. 日本語の音	事前学習	自分の苦手な日本語の発音を確認する。
		事後学習	できなかった発音を見直す。
第 2 回	2. 日本語の音節	事前学習	pp.25~28 を読んで理解する
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 3 回	2. 復習と確認問題	事前学習	p.29 の確認問題を行う。
		事後学習	音節と音韻について確認する。
第 4 回	3. 日本語のリズム	事前学習	pp.29~30 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 5 回	4. 日本語の母音	事前学習	p.31~32 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 6 回	5. 日本語の子音 (1)	事前学習	pp.32~34 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 7 回	5. 日本語の子音 (2)	事前学習	p.34~36 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 8 回	5. 復習と確認、6. 日本語の半母音	事前学習	p.37 の確認問題を行う。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 9 回	7. 日本語の「音素」	事前学習	pp.37~39 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 10 回	8. 母音の無声化	事前学習	pp.40 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 11 回	9. 日本語のアクセント (1)	事前学習	pp.40~41 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 12 回	9. 日本語のアクセント (2)	事前学習	pp.41~43 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 13 回	10. 日本語のイントネーション	事前学習	pp.44 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 14 回	課題読み発表	事前学習	発表原稿を正しく読めるように練習する。
		事後学習	できなかった発音を見直す。
第 15 回	まとめと復習	事前学習	ワークシートを見直す。
		事後学習	試験のための総復習を行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	日本語学Ⅱ (語彙・意味) (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2122
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	EJ 2年次以上			
7. 講義概要	日本語を教えるには、語彙の意味や用法を知っておくことが基本となる。本講座では、「日本語の語彙・意味」に関する一般的な概論を行い、日本語教育における専門用語について学ぶ。			
8. 学習目標	日本語を教える際に必要な語彙に関する基礎的な知識や専門用語の習得を目指す。 1. 和語・漢語・外来語・混種語の使われ方や使用頻度について理解する。 2. 親族語彙・色彩語彙など、日本語の語彙に体系はあるのか。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、ワークシートを配布するので、記入して提出する。 レポートは、期日までに提出する。 レポートテーマ： ・語彙の体系について ・語種について			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2004。 【参考書】沖森卓也他『図解日本の語彙』三省堂、2011。 沖森卓也編『語と語彙』朝倉書店、2012。 秋元美晴『日本語教育能力検定試験に合格するための語彙 12』アルク、2010。 など			
11. 成績評価の方法	出席 (授業態度含む) 30%、課題 (レポート、ワークシートなど) 30%、試験 40% 遅刻は 15 分以上で欠席とみなし、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。 本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	今まで意識していなかった日本語の語彙について、どのような特徴や意味があるのか学んでいくこと。			
13. オフィスアワー	初回授業時にプリントにて知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、第 5 章 語彙、1. 語彙と語の違い	事前学習	p.162 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 2 回	第 5 章 2. 語種 (1)	事前学習	pp.163~164 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 3 回	第 5 章 2. 語種 (2)	事前学習	pp.164~165 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 4 回	第 5 章 3. 語構成 (1)	事前学習	pp.166~167 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 5 回	第 5 章 3. 語構成 (2)	事前学習	pp.167~168 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 6 回	第 5 章 4. 語彙の体系 (1)	事前学習	p.169 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 7 回	第 5 章 4. 語彙の体系 (2)	事前学習	p.170 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 8 回	第 5 章 5. 語を数える (1)	事前学習	p.171 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 9 回	第 5 章 5. 語を数える (2)	事前学習	pp.172~173 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 10 回	第 5 章 6. 位相	事前学習	p.174 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 11 回	第 7 章 社会言語学、2. 敬語 (1)	事前学習	p.181~182 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 12 回	第 7 章 2. 敬語 (2)	事前学習	pp.182~185 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 13 回	第 7 章 2. 敬語 (3)	事前学習	pp.186~187 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 14 回	第 7 章 3. 方言と共通語	事前学習	pp.188~190 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 15 回	総まとめ	事前学習	これまでのワークシートを見直す。	
		事後学習	期末試験のため復習を行う。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	日本語学Ⅲ (文法・文体) (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2323
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	EJ 2 年次以上			
7. 講義概要	日本語教育で用いられる文法は、国文法とは専門用語が異なる場合がある。本講座では、日本語教育で用いられる文法の専門用語について学ぶと共に、日本語の誤用について、なぜ日本語学習者が間違えるのか、国文法では説明できない、日本語教育の文法について学ぶ。			
8. 学習目標	日本語教育で用いられる文法の専門用語を覚える。また、文法の誤用に関し、学習者になぜ違うのか説明できる文法力を身につける。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシート・レポートは期限内に提出すること。 レポートテーマ： ・日本語文法の動詞の活用と用語 ・格助詞の使い方			
10. 教科書・参考書・教材	教科書：高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2004。 参考書：加藤重弘『日本語文法入門ハンドブック』研究社、2006。 野田尚史『はじめての人の日本語文法』くろしお出版、1991。			
11. 成績評価の方法	出席 (授業態度含む) 30%、課題・レポート 40%、期末試験 30% 遅刻は 15 分以上で欠席とみなし、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。 本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	日本語文法は、国文法と違った用語が使われているが、なぜ異なっているのか、考えながら受講すること。			
13. オフィスアワー	初回授業時にプリントにて知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、第 1 章 日本語の文法、1. 日本語文法と国文法	事前学習	pp.46~47 を読み、日本語と国語について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 2 回	第 1 章 2. 文型教育：表現文型のリストと提出順序、3. 品詞分類	事前学習	pp.48~52 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 3 回	第 1 章 4. 動詞の活用	事前学習	pp.53~59 を読んで、間違いやすい動詞の活用について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 4 回	第 1 章 5. 日本語の文法的特徴	事前学習	pp.60~63 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 5 回	第 1 章 6. 名詞文「～は～です」、7. 主語と主題	事前学習	pp.64~68 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 6 回	第 1 章 8. 「こそあど」詞：指示詞	事前学習	pp.69~70 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 7 回	第 1 章 9. 形容詞、10. 「～たい」と「ほしい」：希望・欲求の表現	事前学習	pp.71~78 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 8 回	第 1 章 11. 動詞と表現意図、12. 「いる」と「ある」：存在文と所在文	事前学習	pp.79~81 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 9 回	第 1 章 13. 自動詞と他動詞、14. 「～ている」	事前学習	pp.82~86 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 10 回	第 1 章 15. 可能表現、16. 使役表現、17. 受身表現、	事前学習	pp.87~92 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 11 回	第 1 章 18. 授受表現	事前学習	pp.93~96 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 12 回	第 1 章 19. 助詞	事前学習	pp.97~101 を読んで、苦手な助詞について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 13 回	第 1 章 20. 「は」と「が」	事前学習	pp.102~110 を読んで、「は」と「が」の使い方について理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 14 回	第 1 章 21. 「を」の用法、22. 「に」と「で」の用法	事前学習	pp.111~116 を読んで、「を」「に」「で」の使い方について理解する。	
		事後学習	ワークシートにまとめる。	
第 15 回	復習とまとめ	事前学習	課題レポートを提出する。	
		事後学習	試験のため総復習を行う。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	日本語学Ⅳ (文字・表記) (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2324
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	EJ 2年次以上			
7. 講義概要	日本語の文字・表記は日本語学習者にとって最も難しいと言われる。文字・表記を合理的に教えるためには、日本語の文字・表記に関する知識が不可欠である。本講座では、漢字・ひらがな・カタカナ・ローマなど日本語の文字の一般的な知識を得ると共に、日本語の表記法についても学ぶ。			
8. 学習目標	日本語の文字・表記に関し、基本的な知識を得る。 1. 日本語の漢字、平仮名、片仮名、ローマ字の歴史と表記体系を理解し、正しい仮名遣いを習得する。 2. 表記実習を通して、漢字や仮名遣い、効果的な文字の使い分けの能力を向上させる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、ワークシートに記入し、次の授業時に提出する。 レポートは期日までに提出すること。 レポートテーマ： ・日本語の表記の問題 ・日本語の表記法			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】：高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2004。 【参考書】：沖森卓也他『図解日本語文字』三省堂、高木裕子、2011。 高木裕子『日本語の文字・表記入門』バベルプレス、1996。 など			
11. 成績評価の方法	出席 (授業態度含む) 30%、課題 (レポート、ワークシート、発表など) 30%、期末試験 30% 遅刻は 15 分以上で欠席とみなし、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。 本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	日本語の文字・表記には、どのような問題があるのか、考えながら受講すること。			
13. オフィスアワー	初回授業時にプリントにて知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、文字の種類	事前学習	日本語の文字の特徴について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 2 回	第 4 章 文字・表記、1. 常用漢字表について (1)	事前学習	pp.118~121 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 3 回	第 4 章 1. 常用漢字表について (2)	事前学習	pp.121~123 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 4 回	第 4 章 2. 漢字の筆順	事前学習	pp.124~125 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 5 回	第 4 章 3. 送り仮名のつけ方 (1)	事前学習	pp.126~127 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 6 回	第 4 章 3. 送り仮名のつけ方 (2)	事前学習	pp.128~130 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 7 回	第 4 章 3. 送り仮名のつけ方 (3)	事前学習	pp.130~132 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 8 回	第 4 章 4. 現代仮名遣い (1)	事前学習	pp.133~134 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 9 回	第 4 章 4. 現代仮名遣い (2)	事前学習	pp.135~137 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 10 回	第 4 章 5. 外来語の表記 (1)	事前学習	pp.138~139 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 11 回	第 4 章 5. 外来語の表記 (2)	事前学習	pp.140~141 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 12 回	第 4 章 6. ローマ字の表記 (1)	事前学習	pp.142~143 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 13 回	第 4 章 6. ローマ字の表記 (2)	事前学習	pp.143~144 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 14 回	第 4 章 7. くぎり符号、くり返し符号、横書きの書き方など	事前学習	pp.145~148 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 15 回	総まとめと復習	事前学習	ワークシートを見直す。	
		事後学習	期末試験のため、今までの復習を行う。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	日本語学V (談話) (2 単位)		3. 科目番号	EJJP3326
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義と演習、グループワーク	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	EJ 2年次以上			
7. 講義概要	ことばをコミュニケーションの手段とするには、表現上の工夫が必要である。具体的には、ことばの選択がなされ、集められコミュニケーションが作られる。コミュニケーション活動において、談話はことばがどのように機能しているのかが問題となる。本講座では、文や会話のまとまりである、文章や談話が、コミュニケーションにおいてどのように構成されているのか学ぶ。			
8. 学習目標	課題を通して、文章や談話について理解を深める。 1. 順接・逆接・並列といった接続詞以外にどのような表現が接続表現として機能するか理解できる。 2. 同じ表現の反復を避けるために、どのような表現が使用され、省略されているか、分析できる。 3. 叙述表現から見た提題がわかる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシートは期限内に提出する。 個人とグループによる発表を行う。 課題レポート：個人の発表原稿について談話分析を行う。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】寺村秀夫他『ケーススタディ 日本語の文章・談話』おうふう、1990。 【参考書】泉子・K・メナード『談話分析の可能性』くろしお出版、1997。			
11. 成績評価の方法	授業態度 30%、課題 (ワークシート・発表) 30%、期末試験 (レポート) 40% 遅刻は15分以上で欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	文より上のまとまりである談話について、学んでいく。			
13. オフィスアワー	初回授業時にプリントにて知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション、序	事前学習	pp.6~11 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第2回	ケース1 接続表現 (1)	事前学習	pp.12~23 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第3回	グループ発表	事前学習	グループの分担について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第4回	ケース3 指示表現	事前学習	pp.34~44 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第5回	グループ発表	事前学習	グループの分担について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第6回	ケース4 反復と省略の表現	事前学習	pp.46~57 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第7回	グループ発表	事前学習	グループの分担について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第8回	ケース5 提題表現	事前学習	pp.58~69 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第9回	グループ発表	事前学習	グループの分担について考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第10回	ケース6 叙述表現	事前学習	pp.70~81 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第11回	グループ発表	事前学習	グループの分担について考える	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第12回	ケース7 段落の構造類型	事前学習	pp.82~93 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第13回	グループ発表	事前学習	グループの分担を考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第14回	課題レポート発表	事前学習	課題レポートを提出する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第15回	フィードバック	事前学習	評価について考える。	
		事後学習	課題レポートを見直す。	

1. 科目名 (単位数)	日本語学概論 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP1121
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	日本語についての幅広い知識を得るため、日本語の特徴について学ぶ。世界における日本語の地位、日本語の文法、音声・音韻等、これから日本語教育を学ぶための入門として必要な知識を学ぶ。			
8. 学習目標	日本語は、どのような言語か、幅広い知識の習得を目指す。 1. 世界の言語と比べ、その特徴を理解する。 2. 日本語は難しい言語なのか、世界の言語を俯瞰的に眺められる視野を養う。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、授業で習った項目のワークシートを配布するので、次の授業時に提出する。 発表やレポートは、記日までに提出すること。 レポートテーマ： ・世界の言語と日本語の特性 ・日本語の類型			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2004。 など。 【参考書】庵功雄『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク、2012。 大野純子『大学「教養の日本語」』講談社出版サービスセンター、2003。 沖森卓也編『日本語概説』朝倉書店、2010。 放送大学教材『日本語学概論』放送大学教育振興会、1995。 宮地裕『日本語と日本語教育のための日本語学入門』明治書院、2010。 など			
11. 成績評価の方法	出席 (授業態度含む) 30%、課題・レポート・小テスト 30%、期末試験 40% 遅刻は 15 分以上で欠席とみなし、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。 本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	日本語は、世界の言語からみてどのような特性があるのか、考えながら受講すること。			
13. オフィスアワー	初回授業時にプリントにて知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業概要、第 1 章 言語としての日本語、1. 日本語はどこから来たか	事前学習	pp.8~9 を読み、日本語とはどのような言語か考える。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 2 回	第 1 章 2. 語順から見た日本語	事前学習	p.9 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 3 回	第 1 章 3. 日本語はどんな類型に属するか	事前学習	pp.10~12 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 4 回	第 1 章 4. 日本語にはどんな特性があるか (1)	事前学習	pp.13~14 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 5 回	第 1 章 4. 日本語にはどんな特性があるか (2)	事前学習	pp.15~16 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 6 回	第 1 章 4. 日本語にはどんな特性があるか (3)	事前学習	pp.16~18 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 7 回	第 1 章 4. 日本語にはどんな特性があるか (4)	事前学習	pp.18~21 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 8 回	復習とまとめ、小テスト	事前学習	日本語の特性について考える。	
		事後学習	日本語の特性についてまとめる。	
第 9 回	オノマトペから見た日本語の特徴	事前学習	配布プリントを読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 10 回	1. 日本語とオノマトペ	事前学習	配布プリントを読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 11 回	2. 音とイメージ	事前学習	配布プリントを読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 12 回	3. オノマトペの形態	事前学習	配布プリントを読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 13 回	4. 日本語の中におけるオノマトペの位置	事前学習	配布プリントを読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 14 回	まとめと復習	事前学習	配布プリントを読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 15 回	総まとめ	事前学習	ワークシートを見直し、復習する。	
		事後学習	期末試験のための総復習を行っておく。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	日本語学史 (2 単位)	3. 科目番号	EJJP2142
2. 授業担当教員	山口 雅代		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	EJ 4年次以上		
7. 講義概要	日本の歴史に沿って、日本語がどのように研究されてきたのか、主に明治以前と以降に分けて学ぶ。また、日本語学史の発展は日本語教育と密接な関係にある(西洋人の日本語学習から貴重な文献が残されている(ロドリゲス著(1604-08『日本大文典』など))ことから、日本語教育史についても取り上げる。		
8. 学習目標	日本語学史を通して、どのような研究が行われ、今日の日本語学に至っているのかを理解する。また、日本語学史と日本語教育史との関連についても理解する。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>毎回、授業で習った項目のワークシートを配布するので、次の授業時に提出する。</p> <p>課題レポート：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語学史の時代区分と、それぞれの時代の特徴を書きなさい。 ・明治以前の西洋人による日本語の記述の特徴を3つに分けて論じなさい。 ・日本語教育史の時代区分とその特徴について書きなさい。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】使用しない。</p> <p>【参考書】真田信治『よくわかる日本語史』アルク、1999。 佐伯哲夫・山内洋一郎『国語概説』和泉書院、1983。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 30%、課題(ワークシート・宿題など)40%、期末試験(レポート)30%</p> <p>遅刻は15分以上で欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。</p> <p>本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業には誠実に参加し、お互いの力量と自らの目標を達成するために積極的に研究・討論に取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語は厳禁とする。 ・質問・意見等は授業中に解決するよう努力すること。 ・授業中の携帯電話・メールや私語、飲食は絶対に慎むこと。 		
13. オフィスアワー	初回授業時にプリントにて告知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業概要と日本語学史の時代区分	事前学習	日本の時代区分について確認しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第2回	明治以前の研究(1)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第3回	明治以前の研究(2)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第4回	明治以前の研究(3)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第5回	明治以前の研究(4)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第6回	明治以降の研究(1)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第7回	明治以降の研究(2)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第8回	明治以降の研究(3)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第9回	まとめと復習チェック	事前学習	配布プリントとワークシートを見直す。
		事後学習	間違ったところを見直す。
第10回	日本語教育史(1)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第11回	日本語教育史(2)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第12回	日本語教育史(3)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第13回	日本語教育史(4)	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第14回	まとめと復習チェック	事前学習	配布プリントを読み、内容を理解しておく。
		事後学習	間違ったところを見直す。
第15回	総まとめと最終レポートの準備	事前学習	配布プリントやワークシートを見直す。
		事後学習	レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	日本語学習とマルチメディア (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2361
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	古くから視聴覚教材は語学学習に有効な教材として使われてきた。近年のコンピュータ環境の進歩により、マルチメディア、インターネットを利用した高度な学習システムやサービスの一般利用が可能となった。このような教材を扱う技術や知識を得ることは語学学習者・教育者にとって重要である。本講義では、マルチメディア教材の有効性について学習し、IT を用いた日本語学習教材について演習によって操作方法などを修得する。また、日本語教育に必要なマルチメディア教材について分析・検討する。			
8. 学習目標	日本語学習にマルチメディアがどのように関係するかを知り、その効果的な利用方法について学ぶ。講義、演習を通して、IT を用いた日本語学習コンテンツに関する基礎的な知識や操作方法を修得する。日本語教育の実践に向けた教材の作成技術を習得する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回授業時間外の作業が必要な課題を課す。 ・日本語学習、教育におけるマルチメディア教材に関するレポート課題 (2 回程度) ・マルチメディア教材作成に関する演習課題			
10. 教科書・参考書・ 教材	必要な教材については資料を配布する。			
11. 成績評価の方法	授業態度	30%		
	課題への取り組み・提出状況	50%		
	期末試験	20%		
12. 受講生への メッセージ	コンピュータを使う演習や課題がたくさんある。操作方法が分からない場合は早めに関きに来て課題に取り組む時間を有効に使うようにしてほしい。			
13. オフィスアワー	授業内にて周知する。在室中は、来客のない限りいつでも対応します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義概要の説明 IT とマルチメディアについて	事前学習	マルチメディアとはどのような意味を持つ言葉か調べる。	
		事後学習	マルチメディアとは何か、また IT との関係についてまとめる。	
第 2 回	日本語学習・教育におけるマルチメディア教材の歴史と現状	事前学習	「視聴覚教材」とは何か調査しておく。	
		事後学習	マルチメディア教材の歴史と現状についてまとめる。	
第 3 回	コンピュータを利用するマルチメディア教材・学習コンテンツ	事前学習	コンピュータを利用する学習コンテンツについて調べておく。	
		事後学習	IT を利用した日本語学習コンテンツについてまとめる。	
第 4 回	IT を利用する対話型の学習サービス	事前学習	対話型の学習サービスとは何か調べる。	
		事後学習	対話型サービスの有効性についてまとめる。	
第 5 回	IT 活用に関する注意事項 情報倫理	事前学習	文章や画像の著作権について調べる。	
		事後学習	著作権、コンピュータシステム利用時のセキュリティについてまとめる。	
第 6 回	確認テスト	事前学習	これまでに学習した内容の復習をする。	
		事後学習	日本語学習におけるマルチメディア教材の現状についてレポートを作成する。	
第 7 回	e-ラーニングサービスの利用①	事前学習	語学 e-ラーニングサービスについて調べる。	
		事後学習	利用したサービスの特徴についてまとめる。	
第 8 回	e-ラーニングサービスの利用②	事前学習	Web カメラを使う語学 e-ラーニングサービスについて調べる。	
		事後学習	利用したサービスの特徴についてまとめる。	
第 9 回	教育する側の視点による教材の分析	事前学習	これまでに学習したマルチメディア教材の特徴をまとめる。	
		事後学習	教育する側としてマルチメディア教材の有効性について検討する。	
第 10 回	学習教材の企画① 企画枠組みの作成	事前学習	日本語教師の支援について何が必要か考える。	
		事後学習	自身が考える学習教材について必要な事柄をまとめる。	
第 11 回	学習教材の企画② 企画の実現を考慮したコンテンツ調整	事前学習	著作権やシステムセキュリティについて復習しておく。	
		事後学習	企画した教材に著作権、セキュリティ上の問題がないか検討する。	

第 1 2 回	学習教材の企画③ 発表用資料の準備	事前学習	企画した学習教材の有効な点についてまとめておく。
		事後学習	発表用の資料を完成させる。
第 1 3 回	作成した教材企画の発表	事前学習	発表の練習をしておく。
		事後学習	他の発表に対する意見をまとめる。
第 1 4 回	発表の振り返り 各自の意見の整理	事前学習	他の発表に対する意見と改善点をまとめる。
		事後学習	講義内で出た意見をまとめて自分の教材企画に反映させる。
第 1 5 回	確認テスト 講義のまとめ	事前学習	これまでに学習した内容の復習をする。
		事後学習	日本語教育におけるマルチメディア教材の現状についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	日本語教育演習 (2 単位)	3. 科目番号	EJJP3355
2. 授業担当教員	村松 喜久子		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	EJ/B 3年次以上		
7. 講義概要	<p>日本語を教えるためには、どのような教科書と指導法がよいかを実際に教案を作りながら考える。</p> <p>1 直接法の授業を実際に体験する。 2 どのように教案を書くのかを学ぶ。 3 授業をしやすい教案とは何かをクラスで考える。 4 学習者主体の授業とは何かを確認しながら教案を作成し、模擬授業を行う。 *各自の教案をクラスで考え、それぞれの良い点・悪い点を意見交換する。</p>		
8. 学習目標	授業に対する教案の作成ができる。 模擬授業を体験しながら「日本語指導」における大切なことがわかる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	毎回授業の課題についてレポートを提出する。 例: 教案「指示語」を書く。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 プリントを使用する。必ず辞書を持参すること。辞書がない場合は欠席とする。</p> <p>【参考書】 高見沢孟著『新・はじめての日本語教育1・2』アスク出版、2004年。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート20%、日常の授業態度(質問、積極性)20%、授業演習60% 遅刻は15分以上で欠席とみなし、遅刻は3回で欠席1回とする。 教室から出た場合は、早退扱いとする。早退も3回で欠席1回とする。 なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	将来日本語教師になるための実践トレーニングとなる。 みなさんの体験をもとに、素晴らしい指導法を考えていきたいと考えている。		
13. オフィスアワー	授業時間前後。詳細は初回授業時に説明する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	日本語教育の変遷	事前学習	初級日本語の授業を振り返る。
		事後学習	レポート「理想の日本語教育」を書く。
第2回	教科書について考える	事前学習	自分が学習に使った教科書を振り返る。
		事後学習	レポート「より良い教科書」を書く。
第3回	学習者主体の授業とは	事前学習	学生にとって良い授業は何かを考える。
		事後学習	レポート「学習者主体の授業」を書く。
第4回	直接法の指導について	事前学習	「直接法」について調べる。
		事後学習	レポート「直接法の指導の良い点」を書く。
第5回	指示語の指導について	事前学習	指示語を復習する。
		事後学習	教案「指示語」を書く。
第6回	テ形の指導について	事前学習	テ形を復習する。
		事後学習	教案「テ形」を書く。
第7回	「ある」「いる」の指導について	事前学習	存在を復習する。
		事後学習	教案「ある・いる」を書く。
第8回	イ形容詞・ナ形容詞の指導について	事前学習	形容詞を復習する。
		事後学習	教案「形容詞」を書く。
第9回	教案作成について	事前学習	教案の作り方を調べる。
		事後学習	レポート「教案」を書く。
第10回	指示語の指導について(模擬授業)	事前学習	指示語の授業を考える。
		事後学習	内省「指示語」を書く。
第11回	テ形の指導について(模擬授業)	事前学習	「テ形」の授業を考える。
		事後学習	内省「テ形」を書く。
第12回	「ある」「いる」の指導について(模擬授業)	事前学習	存在の授業を考える。
		事後学習	内省「存在」を書く。
第13回	イ形容詞・ナ形容詞の指導について(模擬授業)	事前学習	形容詞の授業を考える。
		事後学習	内省「形容詞」を書く。
第14回	模擬授業の発表とコメントの練習	事前学習	模擬授業教案を書く。
		事後学習	内省レポートを書く。
第15回	総まとめ 授業発表	事前学習	発表授業教案を書く。
		事後学習	コメントシートを書く。

1. 科目名 (単位数)	日本語教育概論 (2 単位)	3. 科目番号	EJJP1151
2. 授業担当教員	山口 雅代		
4. 授業形態	講義・演習・討論・発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	日本語教育について考えるコースとして、日本語教育の情勢、教育内容、教授法などをさまざまな面から概観したい。さらに、第二言語として日本語を教えるという、日本語教育に積極的に関わろうとする多くの学習者の一助にしたい。発表については、各自がアサイメントでまとめた内容を発表し、それについての討論を実施していく。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これから日本語教育に携わるかもしれないものとして学んでいくにあたり、日本語教育とはどんなことをするのか、その全体像を今後の土台として描けるようにし、発表・説明できるようにする。 ・外国語(日本語)を学ぶということの意義についての考えを深め、発表・説明できるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシートや課題は期限内に提出すること。 課題レポート： 「コース・デザインを考える」(どこで誰に何をどのように教えるのかまとめる)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 2』アスク、2004。 【参考書】 遠藤織枝 編『日本語教育を学ぶ』三修社、2011。 国際日本語研修協会『日本語教育と評価』凡人社、2009。 国際交流基金『日本語教師の役割/コースデザイン』国際交流基金、2006。		
11. 成績評価の方法	授業態度 30%、課題・発表 40%、課題レポート 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	授業には誠実に参加し、お互いの力量と自らの目標を達成するために積極的に研究・討論に取り組むこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語は厳禁とする。 ・質問・意見等は授業中に解決するよう努力すること。 ・授業中の携帯電話・メールや私語、飲食は絶対に慎むこと。 		
13. オフィスアワー	授業中に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバス確認、日本語教育事情	事前学習	自国の日本語教育事情について考える。
		事後学習	自国の日本語教育事情にまとめる。
第 2 回	第 1 章 日本語教師の役割、1. 教師は何をするか。	事前学習	pp.8~13 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 3 回	第 1 章 日本語教師の役割、2. 教師に求められる条件	事前学習	pp.14~20 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 4 回	第 2 章 日本語を教えるということ、1. どこまで教えるか—指導の範囲	事前学習	p.22 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 5 回	第 2 章 日本語を教えるということ、2. 何をどう教えるか—コース・デザイン (1)	事前学習	pp.23~25 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 6 回	第 2 章 日本語を教えるということ、2. 何をどう教えるか—コース・デザイン (2)	事前学習	pp.26~30 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 7 回	第 2 章 日本語を教えるということ、2. 何をどう教えるか—コース・デザイン (3)	事前学習	pp.31~34 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 8 回	第 2 章 日本語を教えるということ、3. カリキュラム	事前学習	p.37~38 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 9 回	第 2 章 日本語を教えるということ、4. 教材の選択	事前学習	pp.39~42 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 10 回	第 8 章 評価と試験、1. 評価の対象、2. 学習者に対する評価、3. 試験形式の種類	事前学習	pp.136~139 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 11 回	第 8 章 評価と試験、4. 試験の目的別の分類、5. 試験問題の種類、6. 試験の効果	事前学習	pp.140~146 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートにまとめる。
第 12 回	第 9 章 いろいろな外国語教授法、1. 外国語教授法の変遷	事前学習	pp.148~150 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 13 回	第 9 章 いろいろな外国語教授法、2. 直説法	事前学習	pp.152~152 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 14 回	第 9 章 いろいろな外国語教授法、3. オーディオ・リンガル・アプローチ	事前学習	pp.153~156 を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 15 回	まとめと課題について	事前学習	教授法についてまとめる。
		事後学習	課題レポートについて書く。

1. 科目名 (単位数)	日本語教授法 I (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2153
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義・演習・討論・発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	日本語教育に携わる際、まず心がけなければならないことは、日本語を知ること、それをわかりやすく説明する技術が必要となる。 この講義では、日本語そのものについて学習し、それらがどんな特徴を持っているのかなど、日本語教育に必要な基礎知識を修得し、日本語教育を志す受講者の教授法における基礎力の育成を目指す。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教師にとって、日本語はどんな言語かについて学び、日本語の言語的な成り立ちや他の言語との関わりについて理解し、説明できるようにする。 日本語の音声・文法・文字・語彙などについて、日本語教師として、現場での指導実践に役立てるようになることができるようにする。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	期限内にワークシートや課題を提出すること。 課題：日本語の初級教科書の中からある課を選び、到達目標は何か、そのためにどのような練習を行えばよいか等をまとめ、レポートを作成する。 例『第1課自己紹介』の教え方			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】高見沢孟 著『新・はじめての日本語教育 2』アスク、2013 年。 【参考書】高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2004。 小林ミナ『教授法 37』アルク、2010。 など			
11. 成績評価の方法	授業態度 30%、課題・発表 40%、課題レポート 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	授業には誠実に参加し、お互いの力量と自らの目標を達成するために積極的に研究・討論に取り組むこと。 ・授業中の私語は厳禁とする。 ・質問・意見等は授業中に解決するよう努力すること。 ・授業中の携帯電話・メールや私語、飲食は絶対に慎むこと。			
13. オフィスアワー	授業の中で通知します。(事前に要望があれば、随時設定します。)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの確認、第 3 章 初級の教え方	事前学習	初級がどのような授業か考える。	
		事後学習	どのような初級授業を受けたかまとめる。	
第 2 回	第 3 章 1. 会話を教えるということ、2. 日本語教育と教授法	事前学習	pp.44~46 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 3 回	第 3 章 3. 会話テキストの構成、4. 科の目的理解	事前学習	pp.46~48 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 4 回	第 3 章 5. 対話の指導	事前学習	pp.49~55 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 5 回	第 3 章 6. 補足語彙の指導、7. 文法用法説明の指導	事前学習	pp.56~57 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 6 回	第 3 章 8. 各種練習の指導 (1)	事前学習	pp.58~64 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 7 回	課題 1~5 の中の担当をグループで発表	事前学習	グループの課題発表準備。	
		事後学習	オーディオ・リンガル法の練習指導についてまとめる。	
第 8 回	第 3 章 8. 各種練習の指導 (2)	事前学習	pp.64~74 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 9 回	自由選択練習、ロール・プレイ、シナリオ、タスク作成	事前学習	グループの課題発表準備	
		事後学習	初級の会話練習についてまとめる。	
第 10 回	第 3 章 9. 日本語教育における「練習」と「転移」、10. 練習問題の指導	事前学習	pp.75~80 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 11 回	第 4 章 1. 文字教育を始める前に	事前学習	pp.82~83 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 12 回	第 4 章 2. かな文字の教え方、3. 漢字の教え方、パソコンの利用法	事前学習	pp.84~87 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 13 回	第 4 章 5. 日本語の表記	事前学習	pp.88~92 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 14 回	第 4 章 6. 誤用の指導	事前学習	pp.93~94 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートを記入する。	
第 15 回	まとめと授業評価	事前学習	課題レポートを提出する。	
		事後学習	各自のレポートを発表しあい、ディスカッションする。	

1. 科目名 (単位数)	日本語教授法Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	EJJP3154
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義、討論、発表、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>日本語教授法Ⅰで培った日本語の基礎知識を踏まえて、日本語教育においてどのような教育方法が望ましいかを追求していく授業である。さまざまな教授法の長所を生かし、より良い教授法を模索していくことが重要である。</p> <p>日本語教育の現状の分析に基づき、言語教育理論の成果も取り入れて、教授法の理論とその実践方法を学習していく。また、レッスンプランの発表については、各グループの代表が行い、模擬授業の討論についてはグループごとで行い、各自がまとめて提出する。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教師の役割と、日本語を教えることの目的や意義を理解し、学習者の目標を達成でき、役立てることを目指す。 日本語の発音・会話等初級から読解・聴解等中上級の教え方について、自分ならどう教えていくかを理解し、説明できるようにする。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>ワークシートや課題は期限内に提出する。</p> <p>課題レポート： 「中上級を教える場合の工夫について」</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】高見沢孟 著『新はじめての日本語教育 2』アスク、2004。</p> <p>【参考書】高見沢孟監『新・はじめての日本語教育 1』アスク、2004。 小林ミナ『教授法 37』アルク、2010。 など</p>			
11. 成績評価の方法	授業態度 30%、課題・発表 40%、課題レポート 30%			
12. 受講生への メッセージ	<p>授業には誠実に参加し、お互いの力量と自らの目標を達成するために積極的に研究・討論に取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の私語は厳禁とする。 質問・意見等は授業中に解決するよう努力すること。 授業中の携帯電話・メールや私語、飲食は絶対に慎むこと。 			
13. オフィスアワー	授業の中で通知します。(事前に要望があれば、随時設定します。)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業概要確認、第 5 章 中上級の教え方 (1) 会話/聴解、1. 中級レベルの教育 (1)	事前学習	テキスト読み、初級と中級、上級の違いは何か考える。	
		事後学習	初級、中級、上級の違いについてまとめる。	
第 2 回	第 5 章 1. 中級レベルの教育 (2)	事前学習	pp.96~99 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 3 回	第 5 章 2. 中上級レベルの会話指導の目標、 3. 中上級レベルの会話指導の内容	事前学習	pp.100~102 を読み理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 4 回	第 5 章 4. コミュニケーション能力を育てる指導	事前学習	pp.103~105 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 5 回	第 5 章 5. テレビドラマの指導	事前学習	pp.106~109 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 6 回	第 5 章 6. ニュース番組の指導、7. スピーチの指導	事前学習	pp.110~112 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 7 回	中上級の会話指導についてグループ発表	事前学習	グループの担当課題を行う。	
		事後学習	意見交換、ディスカッションを踏まえ、中上級会話指導についてまとめる。	
第 8 回	第 6 章 中上級の教え方 (2) 読解/情報収集、1. 読本を使った読解教育	事前学習	pp.114~115 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 9 回	第 6 章 2. 新聞を使った読解教育	事前学習	pp.116~122 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 10 回	中上級の読解教材や教え方	事前学習	グループの担当課題について考える。	
		事後学習	発表の担当について考える。	
第 11 回	グループ発表	事前学習	発表原稿を確認する。	
		事後学習	ディスカッションをし、感想意見を書いて提出する。	
第 12 回	第 7 章 中上級の教え方 (3) その他のクラス指導	事前学習	pp.124~129 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 13 回	第 7 章 2. 文書作成の授業	事前学習	pp.130~134 を読んで理解する。	
		事後学習	ワークシートに記入する。	
第 14 回	グループ発表と課題レポート	事前学習	グループの担当課題について考える。	
		事後学習	日本語教育の課題・問題点について、A4 用紙 2 枚程度で書いて提出する。	
第 15 回	まとめと授業評価	事前学習	課題レポートを提出する。	
		事後学習	各自のレポートを、発表しあい、質疑応答、ディスカッションをする。	

1. 科目名 (単位数)	日本史 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1327 GELA1127
2. 授業担当教員	鈴木 収		
4. 授業形態	講義 ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	グローバルな時代と呼ばれている現代、国と国、国民と国民とのあいだの交流がさまざまな面で深く、密接になっており、自他の歴史的な関係を理解することが求められている。わたしたちが生きている現代は、過去のできごとの積み重ねの上に成り立っている。その意味で、歴史は過去と現在との対話である。また、歴史には、未知のことも多くあり、新しい事実関係が発見されたり、時代とともに評価が変わることもある。授業では、日本の歴史のなかで興味深い事件やできごと、歴史上の人物をとりあげて、歴史上のできごとの背景や、激動の時代を生きた人びとの生き方、歴史上に果たした役割を検証していく。		
8. 学習目標	1) 日本史の基本事項 (概念) について理解し、説明できる。 2) 日本史上の出来事や時代背景について歴史学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 日本史上の人物の考え方や生き方を知り、自分の考え方や生き方を省みることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	【中間レポート課題】 内村鑑三、西郷隆盛について次の内容について記述しなさい。①生涯の主な出来事を三つ②彼の行動についての感想③行動から学んだこととその生かし方 (A4用紙1枚) 【期末レポート課題】 上杉鷹山、中江藤樹、二宮尊徳について次の内容について記述しなさい。①生涯の主な出来事を三つ②彼の行動についての感想③行動から学んだこととその生かし方 (A4用紙1枚)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 内村鑑三著、鈴木範久訳『代表的日本人 新版』岩波書店、1995。 【参考書】 各自の好きな歴史上の人物にかかわる書籍		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 15% 2 中間課題レポート 総合点の 35% 3 期末課題レポート 総合点の 35% 4 日常の学習状況 総合点の 15%		
12. 受講生への メッセージ	「過去を学んで、コンピューター時代に役立つのかな」は、ある中学生の素朴な疑問だが、過去も未来も、その中に生きている人間が作り出すことには変わりはない。人間は置かれた状況によりいろいろな行動をとる。その人間の行動の仕方を、日本史上に名を残している人物の生き様から学び、皆さんの生き方の参考にしてほしいと思う。 教室内での学習中はマナーを守り、併せて必要な自宅学習にも積極的に取り組むこと。		
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	本時の概要説明と授業中のルールについて 歴史を学ぶ意義について	事前学習	歴史を学ぶ意味について、自分の考えをまとめる。
		事後学習	歴史を学ぶ意味について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 2 回	日本の歴史の概略について	事前学習	日本の歴史について知っていることを整理する。
		事後学習	日本の歴史の概略について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 3 回	『Representative Men of Japan』 (日本語版『代表的日本人』) と内村鑑三について① 「内村鑑三の生涯について」 教科書 pp.179~208	事前学習	内村鑑三の生涯を、教科書からまとめる。
		事後学習	内村鑑三の生涯について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 4 回	『Representative Men of Japan』 (日本語版『代表的日本人』) と内村鑑三について② 「明治期の日本の現状と内村の出版への思いについて」	事前学習	明治期の日本の国際社会での位置を教科書から、確認する。
		事後学習	内村鑑三の出版の思いについて理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 5 回	西郷隆盛について① 「西郷隆盛の生涯について」 教科書 pp.13~49	事前学習	西郷隆盛の生涯を、教科書からまとめる。
		事後学習	西郷隆盛の生涯について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 6 回	西郷隆盛について② 「学生作成の『西郷隆盛新聞』の発表と内容への意見交換」	事前学習	西郷隆盛の生き方について、自分の考えをまとめる。
		事後学習	発表された新聞について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

第 7 回	上杉鷹山について① 「上杉鷹山の生い立ちについて」 教科書 pp.51～78	事前学習	上杉鷹山の生い立ちを、教科書からまとめる。
		事後学習	上杉鷹山の生い立ちについて理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 8 回	上杉鷹山について② 「上杉鷹山の功績について」	事前学習	上杉鷹山について、他の資料で調べる。
		事後学習	上杉鷹山の功績について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 9 回	上杉鷹山について③ 「学生作成の『上杉鷹山新聞』の発表と内容への意見交換」	事前学習	上杉鷹山の生き方について、自分の考えをまとめる。
		事後学習	発表された新聞について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	二宮尊徳について①「二宮尊徳の生涯について」 教科書 pp.79～110	事前学習	二宮尊徳の生涯を、教科書からまとめる。
		事後学習	二宮尊徳の生涯について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 11 回	二宮尊徳について② 「学生作成の『二宮尊徳新聞』の発表と内容への意見交換」	事前学習	二宮尊徳の生き方について、自分の考えをまとめる。
		事後学習	発表された新聞について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 12 回	中江藤樹について①「中江藤樹の生涯について」 教科書 pp.111～140	事前学習	中江藤樹の生涯を、教科書からまとめる。
		事後学習	中江藤樹の生涯について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 13 回	中江藤樹について② 「学生作成の『中江藤樹新聞』の発表と内容への意見交換」	事前学習	中江藤樹の生き方について、自分の考えをまとめる。
		事後学習	発表された新聞について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 14 回	「私の好きな歴史上の人物」のプレゼンテーション及びその人物の生き方について意見交換①	事前学習	「私の好きな歴史上の人物」について、発表内容をまとめる。
		事後学習	学生の発表についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	「私の好きな歴史上の人物」のプレゼンテーション及びその人物の生き方について意見交換②	事前学習	「私の好きな歴史上の人物」について、発表内容をまとめる。
		事後学習	学生の発表について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語 / 日本の文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1117 GECM1717
2. 授業担当教員	山口 雅代			
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この授業は、本学で学ぼうとする留学生の日本語運用能力のレベルアップと日本文化についての理解をより一層深めることを目的としています。特に中・上級学習者の知的好奇心に答えるため、女性、子ども、若者、働く人々の実態に関する資料と読み物を教材として用い、日本経済の変遷、教育制度、ファッション、「携帯」文化、就業実態といった現代日本社会の多様な側面について学んでいきます。毎回の授業は、これらのトピックについての資料の読解、ディスカッション、作文、そして語彙・語法に関する小テストで構成されます。また学期中を通して、各自で興味のあるテーマについての研究を進め、その成果を口頭で発表し、最終レポートにまとめます。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・社会に関する理解を深める。 2. 日本語で書かれた説明文や資料を正確に理解し、自分の言葉で要約できるようになる。 3. 議論を進めるために適切な質問ができるようになる。 4. 日本語での口頭発表を行う能力を養う。 5. 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働して作業が出来るようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題例：「日本の印象について、原稿用紙2枚程度にまとめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の発表レポートは、期日までに提出すること。 ・発表レポートについては、パソコン印刷とする。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】授業中に適宜プリントを配布する。</p> <p>【参考書】山下早代子・小川百合子『インタビュープロジェクト』くろしお出版、1994。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度、発表レポート等を総合的に評価する。</p> <p>・受講態度 30% ・課題・発表等 40% ・課題レポート 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業には誠実に参加し、留学生はお互いの力量を高めるよう発表、討議に積極的に取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語での学習が中心であるので、留学生は授業中に母国語での会話、私語はくれぐれも慎むこと。 ・質問、意見等、授業の中で解決できるように努めること。 ・授業中の携帯電話（メール等）や私語、飲食は厳に慎むこと。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。(事前に要望があれば、随時設定します。)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業概要確認、発表分担	事前学習	日本国内での旅行経験について考える。	
		事後学習	日本国内の旅行経験について発表原稿を書く。	
第 2 回	日本の地理…日本の位置、地形について	事前学習	日本国内の旅行経験について発表準備する。	
		事後学習	日本の 6 地方の特徴について、グループで調べる。	
第 3 回	日本の地理…日本の気候、山、川、湖について	事前学習	配布した日本地図をもとに、山・川・湖等を確認する。	
		事後学習	学習した内容をもとに、日本の地理全体を白地図にまとめる。	
第 4 回	日本の観光…国立公園、世界遺産、国宝、重要文化財について	事前学習	グループごとに分担し、国立公園、世界遺産、国宝、重要文化財について調べる。	
		事後学習	グループごとの発表に対する質疑を行い、それぞれの項目についてまとめ提出する。	
第 5 回	日本の観光…神社、寺院、城、観光地、温泉について	事前学習	グループごとに分担し、神社、寺院、城、観光地、温泉について調べる。	
		事後学習	グループごとの発表に対する質疑を行い、それぞれの項目についてまとめ提出する。	
第 6 回	日本の文化…衣について	事前学習	日本の着物について調べる。	
		事後学習	学習した内容をもとに、「衣」について考える (自国との比較もふくめて) ⇒提出する。	
第 7 回	日本の文化…食について	事前学習	日本の食べ物について自分の経験をもとに調べる。	
		事後学習	学習した内容をもとに、「食」についてまとめる。(自国との比較も含めて) ⇒提出する。	
第 8 回	日本の文化…住について	事前学習	日本の住まいについて調べる。	
		事後学習	学習した内容をもとに、「住」についてまとめる。(自国との比較も含めて) ⇒提出する。	
第 9 回	伝統芸能…能、歌舞伎について	事前学習	グループごとに分担し、「能」と「歌舞伎」について調べる。	
		事後学習	グループごとの発表に対する質疑を行い、それぞれの項目についてまとめ提出する。	

第 10 回	伝統芸能…茶道、華道、書道について	事前学習	グループごとに分担し、「茶道」「華道」「書道」について調べる。
		事後学習	グループごとの発表に対する質疑を行い、それぞれの項目についてまとめ提出する。
第 11 回	グループ発表	事前学習	まとめた物の発表準備を行う。
		事後学習	グループごとの発表に対する質疑を行い、それぞれの項目についてまとめ提出する。
第 12 回	伝統芸能…短歌、俳句について	事前学習	グループごとに分担し、「短歌」「俳句」について調べる。
		事後学習	グループごとの発表に対する質疑を行い、それぞれの項目についてまとめ提出する。
第 13 回	日本の昔話	事前学習	プリントを準備し、日本の代表的な昔話について理解させる。
		事後学習	自国の昔話を考える。
第 14 回	自国の昔話発表	事前学習	自国の昔話について発表準備を行う。
		事後学習	自国の昔話をまとめて提出する。
第 15 回	課題レポート まとめと授業評価	事前学習	課題レポートの内容について、各自で観点を決め、A4・2 枚にまとめ提出する。(パソコン)
		事後学習	代表的なレポートについての発表を行い、まとめとする。

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECM1718
2. 授業担当教員	山口 雅代		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	日本の文化と言語Ⅰ		
7. 講義概要	<p>「日本の言語と文化Ⅰ」で養った日本語運用能力をさらにレベルアップする訓練を行います。毎回の授業は、学生が主体となって行う口頭発表・ディスカッションを中心に構成します。発表担当者は、事前にテキストを熟読し、テーマに関する情報収集を行い、クラスメートからの質問に答えられるよう準備をしておきます。授業では、担当者が内容導入を行い、教師役となりクラスでのディスカッションをリードします。ディスカッション後は、各自が意見をまとめる作文と語彙・語法に関する小テストの時間を設けます。これらの活動を通して、研究課題の特定、情報収集、分析、そしてディスカッション、問題解決の提案といった、日本語でリサーチプロジェクトを遂行するために必要な基礎的スキルの養成を目指します。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の学びの場で日本人学生と円滑に意見交換、議論ができるレベルの日本語運用能力の習得を目指し、実践することが出来る。 2. ディスカッションリーダーとなる経験を通して、日本の文化・社会に関する問題を多角的に分析し、論点を明確にする能力を身につけることが出来る。 3. 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働する力を向上させ、グローバル社会で働く基礎力を身につけることが出来る。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>ワークシート・課題は期限内に提出する。 課題レポート：「私にとって文化とは何か」 どのようなテーマで書くか授業で考える。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。 【参考書】佐々木薫・赤木浩文・安藤節子・草野宗子・田口典子 編著『改訂版トピックによる日本語総合演習中級前期』スリーエーネットワーク、2009。 細川英雄・蒲谷宏『日本語教師のための「活動型」授業の手引き』スリーエーネットワーク、2008。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度、発表レポート等を総合的に評価する。 ・受講態度 30% ・課題・発表等 40% ・期末レポート 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業には誠実に参加し、お互いの力量を高めるよう発表、討議に積極的に取り組むこと。 ・日本語の学習が中心であるので、留学生は授業中に母国語での会話、私語はくれぐれも慎むこと。 ・質問・意見等、授業の中で解決できるように努めること。 ・授業中の携帯電話（メール等）や私語、飲食は厳に慎むこと。</p>		
13. オフィスアワー	授業の中で通知します。（事前に要望があれば、随時設定します。）		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業概要説明	事前学習	自分の属している文化は何か考える。
		事後学習	自分の属している文化についてまとめる。
第 2 回	文化について読み物①「境目」	事前学習	配布資料を読み理解する。
		事後学習	ワークシート A に記入する。
第 3 回	内容確認とワークシート答え合わせ	事前学習	配布資料の確認をする。
		事後学習	ワークシート B に記入する。
第 4 回	グループディスカッションと発表	事前学習	ディスカッションの内容を確認する。
		事後学習	ディスカッションと発表後の感想を書く。
第 5 回	文化について読み物②「ことばと文化を結ぶために」	事前学習	配布資料を読み理解する。
		事後学習	ワークシート A に記入する。
第 6 回	内容確認とワークシート答え合わせ	事前学習	配布資料の確認をする。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 7 回	グループディスカッションと発表	事前学習	ディスカッションの内容を確認する。
		事後学習	ディスカッションと発表後の感想を書く。
第 8 回	文化について話し合い	事前学習	文化についてワークシートにまとめる。
		事後学習	課題テーマを考える。
第 9 回	文化について読み物③「祇園祭」	事前学習	配布資料を読み理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 10 回	内容確認とワークシートの答え合わせ	事前学習	自国の祭りについて考える。
		事後学習	自国の祭りについてまとめる。
第 11 回	文化について読み物④「贈り物」	事前学習	配布資料を読んで理解する。
		事後学習	ワークシートに記入する。
第 12 回	内容確認とワークシート答え合わせ	事前学習	配布資料を読み理解する。
		事後学習	自国の贈り物に関するタブーを考える。

第 13 回	贈り物について発表	事前学習	日本の贈り物に関するタブーとそれぞれの国でのタブーについて比較して話し合うための準備を行う。
		事後学習	贈り物についてまとめる。
第 14 回	レポート発表	事前学習	課題レポートを提出する。
		事後学習	フィードバック用ワークシートに記入する。
第 15 回	フィードバック	事前学習	文化に対する考え方についてまとめる。
		事後学習	授業を通して文化を相対化する。

1. 科目名 (単位数)	日本文学と文化 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2383
2. 授業担当教員	高 峽			
4. 授業形態	講義、演習 (グループディスカッション・グループワーク含む)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	いま、日本の「文化」が問われている。その問いに応答するために、本講義では日本文学と文化の流れを概観しながら、日本人のアイデンティティを再考するとともに、世界に向けて「日本」を発信するための力を養うことを目的とする。具体的には、日本の代表的な文学作品を取り上げ、作品や作家の魅力、意義等について考察するとともに、作品が書かれた時代的・社会的・思想的背景からアプローチして、作品の世界観に迫る。併せて、受講者各自が文学作品を読む習慣を身につけ、知識や見識を深め、表現力や批評的精神を高めることを目指す。			
8. 学習目標	そのために次の 3 つの到達目標を設定する。 1) 日本の文学・文化に関する幅広い知識を身につけ、その内容をわかりやすく説明することができる。 2) 日本の文学・文化に関する基本的な知識を自らの日本語の語彙力・表現力を高めるために役立てることができる。 3) 日本の文学・文化に関する教養を深めることをとおして、個人や社会に対する深い洞察力や豊かな想像力をもつことができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	【アサイメント】 予め参加者全員が、学習課題の事前学習に基づいて準備してから授業に参加する。毎回レポーターを指定する。レポーターが発表、討論を行った後、全員が短いコメントを書いて次回の授業までに提出する。 【課題レポート】 小島信夫の「アメリカン・スクール」を読み、〈戦中〉が〈戦後〉にどう残存・継続しているのか、一方、両者がどう切断されているのか、について考える。A4用紙2枚。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 飯田祐子他編『文学で考える「日本」とは何か』双文社出版、2007。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度と課題 (40%)、出席 (30%)、期末テスト (30%) により、総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	欠席しないこと。積極的に授業に参加することが必要で、毎回発言を求める。授業中の態度、参加度が成績評価の主な対象となる。			
13. オフィスアワー	授業についての質問は、授業中あるいは授業終了後に教室にて受付ける。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	普請中 / 森鷗外 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.14 の視点を考えながら、pp.8~14 を読む。	
		事後学習	テキスト p.14 の「視点 3」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。	
第 2 回	武蔵野 / 国木田独歩 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.9 の視点を考えながら、pp.15~29 を読む。 担当者は視点 1 を踏まえてレジュメを作成する。	
		事後学習	テキスト p.29 の「視点 1」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。	
第 3 回	十二月八日 / 太宰治 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.38 の視点を考えながら、pp.30~38 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジュメを作成する。	
		事後学習	テキスト p.38 の「視点 2」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。	
第 4 回	コラム「ディスカバー・ニッポン」	事前学習	参加者全員がテキスト p.39 を読む。 担当者はコラムに出てきた川端康成の「美しい日本の私」、および大江健三郎の「あいまいな日本の私」を調べ、レジュメを作成する。	
		事後学習	川端康成と大江健三郎のテキストについての感想をまとめ、次回の授業までに提出する。	
第 5 回	マリヤン / 中島敦 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.49 の視点を考えながら、pp.42~49 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジュメを作成する。	
		事後学習	テキスト p.49 の「視点 3」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。	

第 6 回	祝といふ男 / 牛島春子 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.64 の視点を考えながら、pp.50~64 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.64 の「視点 1」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 7 回	幼年、辻詩海、合唱について、くらいまつくす / 金鍾漢 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.68 の視点を考えながら、pp.65~68 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.68 の「視点 3」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 8 回	コラム「歴史小説と〈日本〉のアイデンティティ」	事前学習	参加者全員がテキスト p.69 を読む。 担当者はコラムに出てきたテキストを調べ、レジюмеを作成する。
		事後学習	司馬遼太郎の「坂の上の雲」についての感想をまとめ、次回の授業までに提出する
第 9 回	火垂るの墓 / 野坂昭如 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.89 の視点を考えながら、pp.72~89 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.89 の「視点 3」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 10 回	アメリカン・スクール / 小島信夫 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.116 の視点を考えながら、pp.90~116 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.116 の「視点 3」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 11 回	水滴 / 目取真俊 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.137 の視点を考えながら、pp.117~137 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.137 の「視点 3」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 12 回	コラム「新国家、樹立?」	事前学習	参加者全員がテキスト p.138 を読む。 担当者はコラムに出てきたテキストを調べ、レジюмеを作成する。
		事後学習	「方言」と「標準語」の間にある政治性についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 13 回	証しの空文 / 鳩沢佐美夫 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.164 の視点を考えながら、pp.140~164 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.164 の「視点 1」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 14 回	仲間 / リービ英雄 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.191 の視点を考えながら、pp.165~191 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.191 の「視点 2」についてレポートを書き、次回の授業までに提出する。
第 15 回	母に連れられて荒地地に住み着く / 伊藤比呂美 著	事前学習	参加者全員がテキスト p.197 の学習ポイント（視点）を考えながら、pp.192~197 を読む。 担当者は視点を踏まえてレジюмеを作成する。
		事後学習	テキスト p.197 の「視点 3」についてレポートを書き、期末試験までに提出する。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	日本文化研究 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP1181
2. 授業担当教員	高 峽			
4. 授業形態	講義、討論、発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	E J 1 年次以上			
7. 講義概要	日本文化については、日本の言語、文学、歴史、生活文化、宗教、思想、哲学、芸術スポーツ文化等を中心とする多彩な分野である。中でも日本を深く理解するために必要な情報や社会生活を知るうえで必要な情報等、多岐にわたっているため、日本文学に視点を置き、日本文化の一端を考察する。 この講義では、日本の様々な文学作品を紹介することで、その作品の時代背景や歴史、思想、生活文化等について学習者がより日本の文化に興味を持ち、長く役に立てることを願っている。さらに、日本文化の特質とは何かについても、この講義を通して掘り下げていけるようにしたいと考える。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文学の随筆や評論、小説等を読み、それぞれの文章の特徴を理解し、単元ごとの設問のまとめや説明ができるようにする。 ・各文学作品の中に内在している思想や生活文化等を討論・理解し、各自の感想・意見を発表・説明できるようにする。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	【アサイメント】 予め参加者全員が、学習課題の事前学習に基づいて準備してから授業に参加する。授業の後、全員が短いコメントを書いて次回の授業までに提出する。 【課題レポート】 文学史の時代区分について著者の主張およびその主張の根拠を、自分の言葉でまとめ、あわせてその妥当性について考える。A4用紙2枚。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ①小西甚一著『日本文学史』講談社、1993。 ②資料(各時代の代表的な作品の抜粋)を配布する。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度と課題(40%)、出席(30%)、期末テスト(30%)により、総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	欠席しないこと。積極的に授業に参加することが必要で、毎回発言を求める。授業中の態度、参加度が成績評価の主な対象となる。			
13. オフィスアワー	授業についての質問は、授業中あるいは授業終了後に教室にて受付ける。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	イントロダクション	事前学習	テキスト pp.226～242 を読んでくる。	
		事後学習	著者について調べ、次回の授業までに提出する。	
第2回	序説	事前学習	テキスト pp.13～22 を読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	文学史の時代区分について著者の主張およびその主張の根拠をまとめ、次回の授業までに提出する。	
第3回	第1章 古代①萌芽時代	事前学習	テキスト pp.23～26 を読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	p.26 著者が言う「史的な回想によって促される」古代日本的な文藝を、自分の言葉でまとめ、その妥当性を考える。	
第4回	第1章 古代②古代国家の成立とその文藝 a	事前学習	テキスト pp.26～32 を読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	古代国家の成立と文藝との関係に対する著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。	
第5回	第1章 古代②古代国家の成立とその文藝 b	事前学習	テキスト pp.26～32 を読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	東アジアという文脈でその時代の日本の文を考える。	
第6回	第1章 古代③万葉の世紀	事前学習	テキスト pp.32～44 を読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	額田王・柿本人麻呂・山部赤人・山上憶良・大伴旅人・大伴家持などの主要万葉歌人の歌を一首ずつ調べ、鑑賞する。次回の授業までに提出する。	
第7回	第2章 中世第一期①漢詩文の隆盛と和歌の新風	事前学習	テキスト pp.48～52 を読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	一国史観を脱し、東アジアにおける漢詩を総合的に考える。	

第 8 回	第 2 章 中世第一期②散文の発達	事前学習	テキスト pp.52～59 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	小説と物語の違いについて著者の意見をまとめ、次回の授業までに提出する
第 9 回	第 2 章 中世第一期③女流文藝の全盛	事前学習	テキスト pp.63～73 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	この時代の文学に女性が大きな役割を果たした原因について考え、次回の授業までに提出する。
第 10 回	第 3 章 中世第二期①歌壇の再分裂	事前学習	テキスト pp.87～96 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	『新古今和歌集』の代表的歌人西行、藤原俊成、藤原定家、寂蓮などによる和歌を一首ずつ調べ、鑑賞する。次回の授業までに提出する。
第 11 回	第 3 章 中世第二期②伝統的散文と新興の散文	事前学習	テキスト pp.96～105 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	『平家物語』の文体について考え、次回の授業までに提出する。
第 12 回	第 4 章 中世第三期①俳諧の興隆と芭蕉	事前学習	テキスト pp.130～140 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	芭蕉の「古池や蛙とびこむ水の音」を中国語に訳し、次回の授業までに提出する。
第 13 回	第 4 章 中世第三期②浮世草子と西鶴	事前学習	テキスト pp.141～153 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	『好色一代男』の時代背景について調べ、まとめる。
第 14 回	第 5 章 近代①	事前学習	テキスト pp.188～197 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	坪内逍遙『当世書生気質』と二葉亭四迷『浮雲』を読み比べてみる。
第 15 回	第 5 章 近代②	事前学習	テキスト pp.197～205 を読み、分からない言葉を調べる。
		事後学習	夏目漱石『文学論』における漢文学と英文学について考える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	認知心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2318 EDPS3309
2. 授業担当教員	岡田 順介		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	P/E/EJ 2/3編/3編年次以上		
7. 講義概要	認知心理学は、“知”の働きを中心にして、人間の心のしくみを、情報処理という枠組みにもとづいて明らかにしていこうとする心理学の一分野である。本講義では、特に知覚、注意、記憶、言語、思考などの領域を概観する。また、心の働きを科学的に解明しようとする手法や考え方について学習するとともに、上記領域における最新の知識を習得する。		
8. 学習目標	1. 認知心理学における基礎的な知識を習得する。 2. 認知心理学の研究の方法を理解し、説明することができる。 3. 日常生活の身近な問題に、習得した認知心理学的手法を適用することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	複数回の課題を課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】森敏昭・井上毅・松井孝雄著『グラフィック認知心理学』サイエンス社、1995。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度	総合点の 20%	
	課題	総合点の 20%	
	期末試験	総合点の 60%	
12. 受講生への メッセージ	認知心理学を学んでいく中で、普段は意識することのない「心の働き」について考え、自分自身や日常生活における事象に、今よりもっと広く注意を向けてほしい。遅刻・早退・欠席をしないよう心がけること。尚、人数等、講義の状況に応じて一部記載内容から変更される場合がある。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の解説) 認知心理学の歴史と研究法	事前学習	教科書 (認知心理学とは) を読む。
		事後学習	認知心理学の方法と領域について復習する。
第 2 回	知覚	事前学習	事前に配布した資料を読む。
		事後学習	知覚について復習する。
第 3 回	記憶のしくみ (過程と区分)	事前学習	教科書 (記憶の過程・記憶の区分) を読む。
		事後学習	過程・区分について復習する。
第 4 回	記憶のしくみ (感覚・短期・長期記憶)	事前学習	教科書 (感覚・短期・長期記憶について) を読む。
		事後学習	各貯蔵庫の特性について復習する。
第 5 回	記憶のしくみ (処理水準モデル・記銘方略)	事前学習	教科書 (処理水準モデル・記銘方略) を読む。
		事後学習	処理水準とは何か、記銘方略の種類について復習する。
第 6 回	情報の検索と忘却	事前学習	教科書 (検索・忘却) を読む。
		事後学習	検索・忘却のメカニズムについて復習する。
第 7 回	概念と言語	事前学習	教科書 (概念と言語) を読む。
		事後学習	概念の構造について復習する。
第 8 回	知識と表象 (知識について)	事前学習	教科書 (知識) を読む。
		事後学習	知識としての意味記憶について復習する。
第 9 回	知識と表象 (語の表象)	事前学習	教科書 (語の表象) を読む。
		事後学習	語彙的表象について復習する。
第 10 回	イメージと空間の情報処理	事前学習	教科書 (画像的記憶) を読む。
		事後学習	言語的記憶との違いを復習する。
第 11 回	認知の制御過程	事前学習	教科書 (注意の研究) を読む。
		事後学習	処理の自動性・制御について復習する。
第 12 回	高次認知作業 (問題解決)	事前学習	教科書 (問題解決) を読む。
		事後学習	問題解決の理解・知識について復習する。
第 13 回	高次認知作業 (意思決定)	事前学習	教科書 (意思決定) を読む。
		事後学習	規範的・記述的理論について復習する。
第 14 回	認知心理学の応用	事前学習	教科書 (日常世界と認知心理学) を読む。
		事後学習	認知心理学の応用について復習する。
第 15 回	まとめ	事前学習	各テーマについてまとめる。
		事後学習	学習目標を達成できたか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS2304 SBMP2342 SSMP2342 PSMP2122
2. 授業担当教員	水谷 聡秀	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義		
6. 履修条件・他科目との関係	児童心理学を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	従来発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目されはじめている。また、老人だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、発達心理学と福祉の関係を学習することの重要性が高まっている。そこで、本講義では、発達心理学の方法と考え方を学び、初期経験の重要性としての知能・性格・感情の基本を形成する乳幼児期の経験について理解する。また、生涯発達の観点から、幼児・児童等の心身の発達と学習の過程について理解するとともに、胎児期から成年・老年期までの発達期の特徴を概説する。さらにそれぞれの段階においての不適応行動についても学ぶ。		
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学び、説明できるようになる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習、事後学習に努めること。 ・3回レポートを作成し、発表を課す。(A4用紙2枚、2,400字以上) ①児童期の問題(虐待、いじめ、不登校など)を取り上げ、どのようなものかまとめ、自分なりの意見を述べる。 ②青年期の問題(モラトリアム、摂食障害、アパシー、ひきこもりなど)を取り上げ、どのようなものかまとめ、自分なりの意見を述べる。 ③成人期の問題(うつ、育児不安など)を取り上げ、どのようなものかまとめ、自分なりの意見を述べる。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学第2版』ミネルヴァ書房、2009年。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加(態度、発表) 40% ・レポート(3回) 60% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義を通じて、発達心理学に関する基本的な知識を、単にテキストから学ぶだけでなく、自ら考え・調べ、他者との意見交換を通じながら、身につけてほしい。 ・事前に該当頁を必ず読み、分からない言葉・用語・概念などを調べて、授業に臨むこと。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為(携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等)をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 【胎児期】 ・胎内で聞こえる母親の声	事前学習	テキスト pp.2~3 を読んで、胎児・新生児について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	胎児の特徴について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第2回	【新生児期】 ・親の顔を見分ける赤ちゃん(選好注視法) 【乳児期】 ・微笑みと人見知り(自発的微笑、外発的微笑、社会的微笑、8ヶ月不安、イナイナイバア、愛着)	事前学習	テキスト pp.20~23 を読んで、選好注視と微笑み・人見知りについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「愛着」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第3回	・大事に育てたい親子の愛情(エンタレインメント、情緒的コミュニケーション、基本的信頼感、愛着、安全基地) ・増えていく言葉の数(喃語、一語文、二語文、一次のことば、二次のことば)	事前学習	テキスト pp.24~25、pp.32~33 を読んで、親子の関係と言葉の発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「基本的信頼感」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第4回	・大事なスキンシップ(スキンシップ、カンガルーケア、タッチケア、アタッチメント) ・ハイハイから二足歩行へ(平衡機能、協応関係、原始歩行、レディネス)	事前学習	テキスト pp.34~25、pp.38~39 を読んで、スキンシップと歩行について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「スキンシップ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第5回	【幼児期前期】 ・ものを見立てる遊び(ごっこ遊び、見立て、象徴遊び、表象、表象機能) ・自分に目覚める(自我の芽生え、反抗期)	事前学習	テキスト pp.46~49 を読んで、遊びと自我の芽生えについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「第一次反抗期」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。

第 6 回	事例文献の検討 1 (幼児期、発達の遅れ)	事前学習	発達の遅れの事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	「1.5 歳健診、3 歳児健診」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことをするようになる (強化子、注目獲得行動、計画的無視、タイムアウト) ・毛布などを好きになる (乳児院・養護施設、ハーロウのアカゲザルの実験、移行対象) 	事前学習	テキスト pp.52~53、pp.56~57 を読んで、困った問題への関わりと移行対象について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「移行対象」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 8 回	【幼児期後期】 <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考える時期 (感覚運動段階、前操作段階、素朴理論) ・言葉の上達 (役割所得、一次のことば、二次のことば) 	事前学習	テキスト pp.62~63、pp.68~69 を読んで、幼児期の発達と言葉の発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ピアジェの発達段階」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊び (ごっこ、表象、内面世界、モニタリング、心の理論) ・保育所、幼稚園で学ぶこと 	事前学習	テキスト pp.72~73、pp.76~77 を読んで、ごっこ遊びと保育所・幼稚園について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「心の理論」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 10 回	【児童期】 <ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの力 (識字、鏡文字、外言、内言) ・いじめ (環境移行、自己効力感) 	事前学習	テキスト pp.84~85、pp.90~91 を読んで、読字・書字といじめについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「いじめの 4 層構造」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 11 回	事例文献の検討 2 (児童期、いじめ)	事前学習	いじめの事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	「いじめ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビの悪影響 ・先生に恵まれる (ピグマリオン効果) 	事前学習	テキスト pp.92~93、pp.96~97 を読んで、について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「テレビの影響」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 13 回	レポート発表 1 (児童期の問題)	事前学習	自ら設定したテーマについて参考文献を調べながらレポートを作成する。
		事後学習	指摘された点について再考する (レポートを修正して再提出してもよい)。
第 14 回	【青年期】 <ul style="list-style-type: none"> ・男の子、女の子の違い (男女差、友人関係、性役割) ・将来どうやって生きるか (アイデンティティ、将来展望) 	事前学習	テキスト pp.110~113 を読んで、男女差や将来展望について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「アイデンティティ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自分についての悩み (20 答法、第二性徴、アイデンティティの確立) 【成人初期・中期】 <ul style="list-style-type: none"> ・どう生きていくべきか (危機、モラトリアム、拡散、燃え尽き症候群、アイデンティティ・フリー) 	事前学習	テキスト pp.118~119、pp.122~123 を読んで、アイデンティティと生きがいについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「モラトリアム」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 16 回	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての楽しさ つらさ (育児ストレス、育児ノイローゼ、虐待) 【成人後期・老年期】 <ul style="list-style-type: none"> ・中年の危機 (空の巣症候群) 	事前学習	テキスト pp.128~129、pp.142~143 を読んで、子育てと中年の危機について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「虐待」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 17 回	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と認知症 (老化現象、認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症) ・老年の生きがい (生きがい度測定尺度) 	事前学習	テキスト pp.150~151、pp.154~155 を読んで、高齢者の問題について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「認知症」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。

第 18 回	<ul style="list-style-type: none"> 人生を回顧する (ライフレビュー、回想法) 介護の大変さとストレス (老老介護、ストレス、ケアマネージャー) 	事前学習	テキスト pp.156~159 を読んで、回想法と介護について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ライフレビュー」「回想法」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 19 回	<ul style="list-style-type: none"> 死をどう考えているか (魔術的思考、自我の統合性) 【発達を援助する】 虐待はどうして起こる (身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクト、DV の目撃、長期の母子分離) 	事前学習	テキスト pp.160~163 を読んで、死と虐待について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「児童虐待防止法」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 20 回	レポート発表 2 (青年期の問題)	事前学習	自ら設定したテーマについて参考文献を調べながらレポートを作成する。
		事後学習	指摘された点について再考する (レポートを修正して再提出してもよい)。
第 21 回	<ul style="list-style-type: none"> 不登校はどうして起こる (分離不安、ネグレクト、さなぎの時期)。 子育てのストレスを和らげる援助 (育児不安、エンゼルプラン)。 	事前学習	テキスト pp.164~167 を読んで、不登校と育児不安について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「分離不安」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 22 回	事例文献の検討 3 (青年期、無気力)	事前学習	無気力の事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	「無気力」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 23 回	<ul style="list-style-type: none"> 発達の障害 (精神遅滞、広汎性発達障害、脳性麻痺、学習障害、注意欠陥・多動性障害) 学校の問題を援助する (登校しぶり) 	事前学習	テキスト pp.168~171 を読んで、発達障害と登校しぶりについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「発達障害」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 24 回	<ul style="list-style-type: none"> 思春期の悩みを援助する (行動化、身体化) 思春期の食の問題 (摂食障害、神経性無食欲症、神経性大食症) 	事前学習	テキスト pp.172~175 を読んで、思春期の悩みの特徴と摂食障害について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「行動化」「身体化」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 25 回	<ul style="list-style-type: none"> 生きかたに迷う大学生への援助 (アイデンティティ拡散) 悩みを抱える成人への援助 (自殺、うつ、心理社会的危機、認知行動療法) 	事前学習	テキスト pp.176~179 を読んで、大学生と成人の問題について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「アイデンティティ拡散」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 26 回	<ul style="list-style-type: none"> 施設高齢者の適応と生きがい (初期適応、回想法) 【発達を考える際に】 子どものこころの問題 	事前学習	テキスト pp.180~183 を読んで、高齢者と子どものこころについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「高齢者の施設」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 27 回	<ul style="list-style-type: none"> 大人も変わる (クオリティ・オブ・ライフ) 発達と能力 	事前学習	テキスト pp.186~189 を読んで、クオリティ・オブ・ライフについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「クオリティ・オブ・ライフ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 28 回	事例文献の検討 4 (成人期、うつ)	事前学習	うつの事例文献をよく読み、自分なりの理解をしておく。
		事後学習	「うつ」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 29 回	<ul style="list-style-type: none"> 虐待の連鎖をストップする (世代間連鎖) 生涯にわたる発達をみる 	事前学習	テキスト pp.190~193 を読んで、虐待と生涯発達について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「世代間連鎖」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。疑問点については次時の授業で質問する。
第 30 回	レポート発表 3 (成人期の問題) まとめ	事前学習	自ら設定したテーマについて参考文献を調べながらレポートを作成する。
		事後学習	指摘された点について再考する (レポートを修正して再提出してもよい)。

1. 科目名 (単位数)	発達相談 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3311 PSMP3307
2. 授業担当教員	西脇 雅彦		
4. 授業形態	講義と演習、必要に応じてグループディスカッションを入れる	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	乳児期児童期における定型発達を振り返りながら、発達期にみられる種々の問題や障害（発達障害や精神疾患）の問題について考察するとともに、育児に悩む親への相談技法についてカウンセリング技法をベースに具体的事例を通して学習する。援助職としての技術を習得することもできる。		
8. 学習目標	発達相談の授業が終了した時点で以下のことが達成されていることを目標とする。 1. 乳児期児童期にみられる種々の問題や障害についてその現状を把握する。 2. 乳児期児童期の子供が抱える困難さを相談者の視点、親の視点・教師の視点から理解し、支援の方法を仮説立て、検証する見直しを持つ。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学んだ内容について、主に対象者の心理背景について根拠を伴う私見が述べられるようにしておくこと。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 平山諭・早坂方志 編著『発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房、2003 年。 【参考書】 内藤朝雄 著『いじめの構造』講談社現代新書、1984 年。 柏木恵子 著『子育て支援を考える』岩波書店、2001 年。 金馬宗昭 著『不登校ひきこもり 心の解説書』学びリンク、2010 年。 青木和雄 著『HELP キレル子どもたちの心の叫び』KINNO-HOSHI、2000 年。		
11. 成績評価の方法	授業態度・アサイメント (30%) 課題レポート (70%)		
12. 受講生へのメッセージ	学生のみなさんが将来的に接するであろう問題について学ぶ。知識として理解するのみに留まらず、自己の周辺の状況に積極的にいかかわることで理解を深めていってほしい。特に、相談される立場にいることを想定して、どのような知識や観点が必要となるのか、自分の資質を高める課題としていってほしい。		
13. オフィスアワー	時間・場所：第 1 回目のときに指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	◎オリエンテーション (授業の概要、授業の進め方) 今、子どもたちは「①いじめの構造」	事前学習	配布された参考書『いじめの構造』p.19「学校という空間」、資料「いじめられている君へ」の内容に目を通す。
		事後学習	人は何故いじめられるのか。異質なものの排斥、支配としてのいじめの心理的背景をまとめる。
第 2 回	今、子どもたちは「②いじめの構造」	事前学習	事前に配布された参考資料「いじめの事例」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	いじめの心理背景について個人および集団の観点で考察し自分なりの考えをまとめる。
第 3 回	今、子どもたちは「③不登校児の心理 I」	事前学習	事前に配布された参考資料「こころの解説書」pp.17～29「自信を失うきっかけ」、「昼夜逆転」、「理論武装」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	不登校の要因として、家庭生活に起因するものがあるが、その心理背景と具体例をまとめる。
第 4 回	今、子どもたちは「④不登校児の心理 II」	事前学習	事前に配布された参考資料「こころの解説書」pp.30～39「ささいな達成感」、「過去のせいにする」、「行動するのがだるい」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	不登校の要因として、子ども本人に起因するものがあるが、その心理背景と具体例をまとめる。
第 5 回	今、子どもたちは「⑤不登校児の心理 III」	事前学習	事前に配布された参考資料「こころの解説書」pp.40～58「言われて当たり前」、「前向きに生きる」、「人との比較」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	不登校の要因として、学校生活に起因するものがあるが、その心理背景と具体例をまとめる。
第 6 回	「発達相談の意義」	事前学習	教科書『発達の臨床からみた心の教育相談』pp.5～13「教育相談」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	教育相談に臨む教師や心理士の姿勢、相談時の留意事項についてまとめる。
第 7 回	今、子どもたちは「⑥キレル子どもの心理 I～三輪車」	事前学習	事前に配布された参考資料『HELP』pp.11～34「三輪車」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	事例の対象児の心理背景と対応の方法、改善された要因についてまとめる。

第 8 回	今、子どもたちは 「⑦キレる子どもの心理Ⅱ～カナリア」	事前学習	事前に配布された参考資料『HEL P』pp.35～54 「カナリア」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	事例の対象児の心理背景と対応の方法、改善された要因についてまとめる。
第 9 回	今、子どもたちは 「⑧キレる子どもの心理Ⅲ～タイムロス」	事前学習	事前に配布された参考資料『HEL P』pp.55～88 「タイムロス」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	事例の対象児の心理背景と対応の方法、改善された要因についてまとめる。
第 10 回	今、子どもたちは 「⑨キレる子どもの心理Ⅳ～タイムロス」	事前学習	事前に配布された参考資料『HEL P』pp.55～88 「タイムロス」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	カウンセリングノートで展開する当事者の心理背景と改善された要因についてまとめる。
第 11 回	今、子どもたちは 「⑩キレる子どもの心理Ⅴ～ヘルプ」	事前学習	事前に配布された参考資料『HEL P』pp.89～130 「ヘルプ」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	事例の対象児の心理背景と対応の方法、改善された要因についてまとめる。
第 12 回	今、子どもたちは 「⑪キレる子どもの心理Ⅵ～ヘルプ」	事前学習	事前に配布された参考資料『HEL P』pp.89～130 「ヘルプ」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	カウンセリングノートで展開する当事者の心理背景と改善された要因についてまとめる。
第 13 回	今、子どもたちは 「⑫キレる子どもの心理Ⅶ～ナイフ」	事前学習	事前に配布された参考資料『HEL P』pp.131～187 「ナイフ」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	事例の対象児の心理背景と対応の方法、改善された要因について、またカウンセリングノートで展開する当事者の心理背景と改善された要因についてまとめる。
第 14 回	子育て問題 「問題発生のメカニズムと対応」	事前学習	事前に配布された参考資料「子育て支援に活かす心理学」pp.130～140「育児不安と子育て支援」の内容に目を通して講義に臨むこと。
		事後学習	子育てを取り巻く社会環境と問題発生のメカニズム、その改善点についてまとめる。
第 15 回	まとめ、今後の展望	事前学習	教科書「発達の臨床からみた心の教育相談」及び講義で学んで得た知識を活用して、対象児や保護者に対してどのような姿勢で支援にかかわる必要があるのかを発表できるようにまとめて講義に臨むこと。
		事後学習	相談を受ける立場として、どのような姿勢で支援をすればよいのか。カウンセリングをする立場として、自己の課題点を認識しまとめる。

1. 科目名 (単位数)	犯罪心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3359
2. 授業担当教員	松浦 直己		
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究・同結果のプレゼンテーション、学生との応答。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	P 3編年次以上		
7. 講義概要	心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、パーソナリティ要因としては行為障害や人格 (パーソナリティ) 障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、DV・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解を深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから説明することができるようになる。 2 犯罪の動機・原因を犯罪の種類と関連させながら理解し、説明することができるようになる。 3 特に、最近の無差別殺人事件や通り魔殺人事件、あるいはストーカー殺人事件に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、受講生自らの事例研究・発表を通し、犯罪心理学の観点から理解し、説明することができるようになる。 4 犯罪・非行にかかる刑事司法機関、処遇機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 5 犯罪の未然防止や犯罪者の更生・社会復帰の可能性について理解し、説明することができるようになる。 6 犯罪に関係する諸科学、諸理論について理解し、説明することができるようになる。 7 犯罪や非行に関係する職場に就職するための専門的知識を身に付けることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	小レポートを課す 「少年非行に関する書籍を一冊選び3000字程度にまとめる」		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】松浦直己著『非行・犯罪心理学』明石書店、2015年。</p> <p>【参考書】橋本和明・松浦直己他著『発達障害と思春期・青年期一生きにくさへの理解と支援一』明石書店、2009年。</p> <p>Per-Olof H. Wikstroem Robert J. Sampson 著 『The Explanation of Crime: Context, Mechanisms and Development (Pathways in Crime)』Cambridge University Press、2006年。</p>		
11. 成績評価の方法	授業前の小テスト (30%)、レポート (30%)、日常の授業態度 (質問、出席状況) (40%)		
12. 受講生へのメッセージ	精神医学、心理学、社会学の学際的領域を取り入れた講義を展開する。かなり手強いと思われるので、覚悟して受講すること。小レポートも複数回課す予定である。授業中は指名して意見を述べてもらうことが多い。その積極性を評価したい。		
13. オフィスアワー	火曜日の午後。事前にメールでアポイントをお願いします。 namatsuu@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 犯罪心理学とは 統計からみる犯罪・非行 脳科学と犯罪 (行動異常) のイントロ	事前学習	パワーポイントの資料を用意し毎回配布するので、それらを予習復習に活用すること。
		事後学習	スライドの復習、および指示された学術用語を調べること。
第2回	発達精神病理学からみた犯罪と非行 (1) ー 犯罪分類学 ー	事前学習	前回重要であると指摘したこと (犯罪統計の解釈や重要研究の知見) について、復習する。
		事後学習	今回の授業における内容の復習と犯罪分類学についての学習。
第3回	発達精神病理学からみた犯罪と非行 (2) ー 縦断的発達学 ー	事前学習	犯罪分類学の理論に関するテスト勉強。
		事後学習	授業の復習、主に犯罪に関する縦断的研究の知見についてまとめる。
第4回	発達精神病理学からみた犯罪と非行 (3) ー 双生児研究と犯罪、遺伝、環境 ー	事前学習	生物学的分野の基礎を予習する。
		事後学習	授業の復習、主に遺伝子研究に関する研究の知見についてまとめる。
第5回	社会学からみた犯罪生成理論 (1) ー アノミー論、分化的接触論、ラベリング論、ボンズ理論 ー	事前学習	双生児研究の知見や遺伝子多型研究の結果について学習する。
		事後学習	授業の復習、特にアノミー理論とデュルケムの理論についてまとめる。
第6回	社会学からみた犯罪生成理論 (2) ー シカゴ学派とエビデンス ー	事前学習	アノミー理論とラベリング理論に関するテストの学習。
		事後学習	授業の復習、シカゴ学派の重要な研究について1つ取り上げて勉強する。

第 7 回	精神医学からみた犯罪・非行と行動異常（1） －反抗挑戦性障害，行為障害，反社会性人格障害－	事前学習	精神医学の基礎に関する資料を配布するので予習する。
		事後学習	配付した資料を熟読し、破壊的行動障害の 3 つの障害についての勉強をする。
第 8 回	精神医学からみた犯罪・非行と行動異常（2）	事前学習	破壊的行動障害の障害名とその特性についてのテストの学習。
		事後学習	配付した資料を熟読し、サイコパスの特性と理論の勉強をする。
第 9 回	日本の犯罪研究とその知見（1） －発達障害と精神障害－	事前学習	渡された論文を熟読し、レポートにまとめ、質問事項を明らかにしておく。
		事後学習	学習用ノートに、講義の内容をまとめる。
第 10 回	日本の犯罪研究とその知見（2） －虐待と非行－	事前学習	渡された論文を熟読し、レポートにまとめる。
		事後学習	学習用ノートに、講義の内容をまとめる。
第 11 回	エビデンスからみた犯罪矯正 －効果のある矯正教育とは－ －世界の犯罪矯正とその比較－	事前学習	提示された資料を熟読し、矯正教育に関して基礎的な理解をしておく。
		事後学習	学習用ノートに、講義の内容をまとめる。
第 12 回	中間まとめ 小レポート「少年非行に関する書籍を一冊選び、3,000 字程度にまとめる」	事前学習	紹介された書籍から、レポートで取り上げる本を選び、読み込む。
		事後学習	指導内容を中心に自分の考えをまとめ、レポートにする。
第 13 回	少年非行事例：発達障害の合併した少年の事例	事前学習	資料を読み、学習用ノートにまとめる。
		事後学習	矯正教育に関する司法的理解についてまとめる。
第 14 回	少年非行事例：深刻な虐待を受けた女子少年の事例	事前学習	資料を読み、学習用ノートにまとめる。
		事後学習	矯正教育に関する教育的理解についてまとめる。
第 15 回	総まとめ	事前学習	講義ノートをまとめる。
		事後学習	添削されたレポートを修正する。

1. 科目名 (単位数)	比較日本文化論 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2382
2. 授業担当教員	高 峽			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>世界には多くの文化が存在し、共通性を有する文化もあれば、固有性や多様性にも富んでいる。ある文化を理解するためには、他文化を知り他文化を通して、また文化の内外からその文化を見つめる比較的視点も重要である。</p> <p>本講義では、日本文化論の代表的な文献を複数取り上げた本をテキストとして使用する。取り上げた文献を用いて、日本文化や比較文化としての日本を分かりやすく要約、解説している。テキストで扱う内容については、履修者の意見も取り入れながら、調整して進めていきたい。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 日本文化について、客観的に考えることができるようになる。</p> <p>2. 日本人のアイデンティティの形成について理解することができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>【アサイメント】 予め参加者全員が、学習課題の事前学習に基づいて準備してから授業に参加する。授業の後、全員が短いコメントを書いて次回の授業までに提出する。</p> <p>【課題レポート】 教科書pp.49～51を読み、ノーマンによる日中近代化の比較を自分の言葉でまとめ、あわせてその妥当性について考える。A4用紙2枚。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 E.H.ノーマン著、大窪愿二訳『日本における近代国家の成立』岩波書店、1993。</p> <p>【参考書】 Norman, H. E.: <i>Japan's Emergence as a Modern State: Political and Economic Problems of the Meiji Period.</i> UBC Press, Vancouver, 2000 前野佳彦著『近代日本研究の方法的基礎』文化記号塾、2013。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度と課題 (40%)、出席 (30%)、期末テスト (30%) により、総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>欠席しないこと。積極的に授業に参加することが必要で、毎回発言を求める。授業中の態度、参加度が成績評価の主な対象となる。</p>			
13. オフィスアワー	<p>授業についての質問は、授業中あるいは授業終了後に教室にて受付ける。</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション	事前学習	著者 E.H.ノーマンについて調べる。	
		事後学習	著者 E.H.ノーマンの年表を作成、次回の授業までに提出する。	
第 2 回	第 1 章 序論①	事前学習	テキスト pp.19～31 をよく読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	日中近代化比較の年表を作成、次回の授業までに提出する。	
第 3 回	第 1 章 序論②	事前学習	テキスト pp.19～31 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。	
		事後学習	明治維新の重要人物を 15 人ぐらい調べ、次回の授業までに提出する。	
第 4 回	第 1 章 序論③	事前学習	テキスト pp.19～31 をよく読み、著者の主張に対する自分の考え方をはっきりさせておく。	
		事後学習	中国近代化の重要人物を 15 人ぐらい調べ、さらに明治維新の重要人物と比較して気づくことを書く。次回の授業までに提出する。	
第 5 回	第 2 章 明治維新の背景①封建制度の衰退 a	事前学習	テキスト pp.32～48 をよく読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	明治維新の特徴の一つとして、著者は「封建社会から近代的工業社会への移行の迅速」と捉えている。自分の言葉でその主張をまとめ、次回の授業までに提出する。	
第 6 回	第 2 章 明治維新の背景①封建制度の衰退 b	事前学習	テキスト pp.48～53 をよく読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	ノーマンによる日中近代化の比較を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。	
第 7 回	第 2 章 明治維新の背景②開国の強要 a	事前学習	テキスト pp.67～80 をよく読み、分からない言葉を調べる。	
		事後学習	明治維新をもたらした外的圧力についての著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。	

第 8 回	第 2 章 明治維新の背景②開国の強要 b	事前学習	テキスト pp.67～80 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。
		事後学習	日本がなぜ植民地化しなかったか、についての著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。
第 9 回	第 2 章 明治維新の背景（まとめ）	事前学習	テキスト pp.32～80 をよく読み、著者の主張に対する自分の考え方ははっきりさせておく。
		事後学習	明治維新をもたらした内部の衰退と外的圧力がいかに結合したのか、著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。
第 10 回	第 3 章 明治維新①封建勢力—商人連合の歴史的背景	事前学習	テキスト pp.89～96 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。
		事後学習	著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。
第 11 回	第 3 章 明治維新②藩独占制とその封建勢力—商人の関係に及ぼした影響	事前学習	テキスト pp.99～101 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。
		事後学習	著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。
第 12 回	第 3 章 明治維新③藩政への資本主義の導入	事前学習	テキスト pp.102～104 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。
		事後学習	著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する
第 13 回	第 3 章 明治維新④封建勢力—商人連合と明治維新	事前学習	テキスト pp.106～108 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。
		事後学習	著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。
第 14 回	第 3 章 明治維新⑤藩政改革運動におけり近代官僚の発生	事前学習	テキスト pp.108～115 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。
		事後学習	著者の主張を自分の言葉でまとめ、次回の授業までに提出する。
第 15 回	第 3 章 明治維新⑥明治初年の農民運動	事前学習	テキスト pp.119～128 をよく読み、著者の主張を自分の言葉で説明できるようにしておく。
		事後学習	著者の主張を自分の言葉でまとめ、期末試験までに提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	比較文化学演習 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP3382
2. 授業担当教員	高 峽			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、プレゼンテーション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	比較文化とは、他文化を通して自文化を客観的にみつめ、それぞれの文化がもつ固有性や共通性をみていく学問領域である。文化を比較するといっても各文化のもつ背景は様ではないため単純に比較することはできないが、比較は物事の本質や性質を認識するための方法の一つである。 本講義では、比較文化の入門書をテキストとして使用する。「比較日本文化論」のテキストでも扱った文献をはじめ、複数の文献が取り上げられている。テキストで扱う内容については、履修者の意見も取り入れながら、調整して進めていきたい。			
8. 学習目標	1. 表面的な差異だけでなく、文化間の交差や文化受容などについて理解することができる。 2. 異文化の事象を通時的・共時的に考察することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	【アサイメント】 予め参加者全員が、一週間前から配布される資料を読んでから授業に参加する。毎回レポーターを指定する。レポーターが発表、討論を行った後、全員が短いコメントを書いて次回の授業までに提出する。 【課題レポート】 第12回目の授業で取り上げた論文「東アジア世界論と日本史」を読み、著者の意見を自分の言葉でまとめ、さらに東アジア史のなかで日本を考える妥当性について考える。A4用紙2枚。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】プリントを配布。 【参考書】大津透他著『岩波講座日本歴史』岩波書店、2003。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度と課題 (40%)、出席 (30%)、期末テスト (30%) により、総合的に評価する。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	欠席しないこと。積極的に授業に参加することが必要で、毎回発言を求める。授業中の態度、参加度が成績評価の主な対象となる。			
13. オフィスアワー	授業についての質問は、授業中あるいは授業終了後に教室にて受付ける。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンスと担当の割り当て	事前学習	配布資料を管理するクリアブックを準備すること。	
		事後学習	配布資料を読む。	
第2回	6・8世紀の東アジアと東アジア世界論	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	
第3回	倭国の成立と東アジア	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	
第4回	遣唐使の役割と変質	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	
第5回	唐風文化から国風文化へ	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	
第6回	モンゴル襲来と鎌倉幕府	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	
第7回	戦国の争乱	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	
第8回	江戸幕府の政治構造	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	
第9回	近現代史への招待	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。	
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。	

第 1 0 回	帝国日本の形成と展開	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。
第 1 1 回	サンフランシスコ講和条約と日本の戦後処理	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。
第 1 2 回	東アジア世界論と日本史	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。
第 1 3 回	女性史／ジェンダー史—近現代日本の領域を軸に	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。
第 1 4 回	伝統文化の創造と近代天皇制	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。
第 1 5 回	教科書訴訟・教科書問題と現代歴史学	事前学習	参加者全員が配布資料を読む。担当者は文献の要約を行い、レジュメを作成する。
		事後学習	授業で取り上げたテーマについてコメントを書き、次回の授業までに提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	東アジアの中の日本文化 (2 単位)		3. 科目番号	EJJP2181
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>従来、日本の文化はアメリカやヨーロッパと比較され、その差異に目を向けられることが多かった。一方、東アジア諸国と日本は、古くからの交流の歴史において、人々の移動やそれにともなう文化の影響など、相互の共通性を有しているものの、一様というわけではない。</p> <p>本講義では、中国や韓国を中心とした東アジア諸国と日本の文化について、比較したり文化的特徴を見出したりしていく。日本文化や日本人の文化的行動との共通性や類似性ととも、日本との関係性や欧米との対比では見過ごされてしまいがちな差異などについて扱っていく。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 日本文化について、改めて考え理解を深めることができるようになる。</p> <p>2. 東アジア諸国と日本の関係について理解することができるようになる。</p> <p>3. 東アジアの文化について、共通性ととも、差異性など多面的にとらえることができるようになる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておくこと。</p> <p>2 講義で扱うテーマの中から一つ取り上げ、具体的な例を示しながら文化を比較し分析をする。</p> <p>3 東アジアにおける日本のサブカルチャーの影響について分析をする。</p> <p>詳細については、講義内で指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。</p> <p>【参考書】 講義内で適宜紹介する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>受講態度・積極的な参加姿勢 20%</p> <p>グループワーク 20%</p> <p>小レポート 20%</p> <p>期末レポート 40%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>異なる文化、多様な文化に積極的な興味を持っていることが望ましい。</p> <p>自身の身近な生活の中にある異文化を意識して観察し、関連付けながら受講することを勧める。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。</p> <p>自身の意見や考えについて積極的に発信していくこと。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや内容について把握しておく。	
		事後学習	講義内容を振り返り、授業の進め方について整理しておく。	
第 2 回	東アジアの伝統文化	事前学習	東アジアについて地理的に確認しておく。	
		事後学習	東アジアの文化的共通性について振り返っておく。	
第 3 回	東アジアのサブカルチャー	事前学習	サブカルチャーにはどのようなものが含まれるか考えをまとめておく。	
		事後学習	日本のサブカルチャーの影響について振り返っておく。	
第 4 回	日中韓の言語行動の特徴	事前学習	自身の言語行動の特徴について振り返っておく。	
		事後学習	日中韓の言語行動の特徴について整理しておく。	
第 5 回	日中韓の非言語行動の特徴	事前学習	言葉以外の行動にはどのようなものがあるか、振り返っておく。	
		事後学習	日中韓の非言語行動の特徴について整理しておく。	
第 6 回	日中韓の家族観	事前学習	自身の家族に対する考え方について振り返っておく。	
		事後学習	日中韓の家族に対する考え方について整理しておく。	
第 7 回	日中韓の仕事観	事前学習	自身の仕事に対する考え方について考えをまとめておく。	
		事後学習	日中韓の仕事に対する考え方について整理しておく。	
第 8 回	日中台韓の教育観	事前学習	進学した動機について自身の考えを振り返っておく。	
		事後学習	日中台韓の教育に対する考え方について整理しておく。	

第 9 回	東アジアの若者文化	事前学習	東アジアのサルカルチャーについて復習しておく。
		事後学習	若者の特徴と社会的影響について整理しておく。
第 10 回	東アジアの文化的行動：中国	事前学習	中国のイメージや中国人の行動特徴について自身の考えをまとめておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、中国の文化的行動を整理しておく。
第 11 回	東アジアの文化的行動：台湾	事前学習	台湾のイメージについて自身の考えをまとめておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、台湾の文化的行動を整理しておく。
第 12 回	東アジアの文化的行動：韓国	事前学習	韓国のイメージや韓国人の行動特徴について自身の考えをまとめておく。
		事後学習	講義内容を振り返り、韓国の文化的行動を整理しておく。
第 13 回	東アジアの文化的行動：日本	事前学習	中台韓の文化的行動を踏まえ、日本人らしい行動とはどのような行動であると思うか考えをまとめておく。
		事後学習	中台韓と日本の文化的行動を比較しながら、全体的に整理しておく。
第 14 回	東アジアにおける文化交流	事前学習	文化交流への参加経験がある場合には、振り返っておく。
		事後学習	東アジアの交流の歴史について整理しておく。
第 15 回	総括	事前学習	既習内容について総復習をし、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	病原微生物学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2312 EDHE2311
2. 授業担当教員	宋 暁鈞		
4. 授業形態	講義、ワークシート提出、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>細菌やウイルスなどの微生物の中には、ヒトや動植物に病気を起こすものがある。病原微生物学はこれら病原性のある微生物を対象とする。人類はその歴史が始まって以来、数々の微生物感染症と闘ってきたが、自然科学の進歩とともに抗生物質やワクチンが開発され、公衆衛生や栄養状態の改善等とあいまって、先進諸国では感染症はほぼ制圧できたと思われた。しかし、近年の新興・再興感染症の広がりや薬剤耐性菌による院内感染、高齢者や免疫力の低下している人々の日和見感染など、病原微生物との戦いには終わりが無いことが明らかとなった。また、開発途上国の人々にとっては感染症は依然として脅威である。</p> <p>本科目ではこのような状況を踏まえうえて、微生物とは何かという基礎から、ヒトにおける生体防御システム、感染症の予防対策まで幅広く理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 微生物感染症の歴史と現状について説明することができるようになる。 2) 微生物の種類 (細菌・ウイルス・真菌・原虫) とその基本構造について説明することができるようになる。 3) 感染症の成立要因 (①感染源、②感染経路、③宿主の感受性) について説明することができるようになる。 4) 感染源・感染経路への対策について説明することができるようになる。 5) 感受性対策について説明することができるようになる。 6) 生体防御システムについてその概略を説明することができるようになる。 7) 主な微生物感染症について説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ごとの感想・意見の提出、授業講義要約トレーニング。 2 グループで主な微生物感染症に関してテーマを決め、発表する。 3 課題レポート <ol style="list-style-type: none"> ①微生物の種類とその基本構造について ②感染症の成り立ち要因 (①病原体の存在 ②感染経路の存在 ③感受性者の存在) について、概要をまとめる。 <p>※A4/3枚 (約1200字) でまとめる。第15回授業後提出。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田爪正気ほか著『新・感染と微生物の教科書』研成社、2012年。</p> <p>【参考書】 吉田真一・南嶋洋一著、『系統看護学講座 専門基礎分野 6 微生物学』医学書院、2009年。 トニー・ハート著、中込 治訳『恐怖の病原体図鑑』西村書店、2011年。 高田明和著『からだのしくみと病気がわかる事典』日本文芸社、2005年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業中の積極的発言、日常の受講態度、課題レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の積極的発言 総合点の20% 2 授業ごとの課題 総合点の40% 3 まとめレポート 総合点の40% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>日本人の死亡原因の第一位は悪性新生物であるが、悪性新生物患者の直接的死亡原因の約50%は、微生物感染症によるものである。人と病気の歴史は、人と微生物の闘いで始まり、現在も続いているのである。先人たちの病気との闘いの中で生まれた知恵をしっかり学び、これからの保健・医療・福祉の中で役立てよう。</p> <p>「受講生に期待される学習態度」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3 予習・復習を十分行うこと。 4 レポートは、簡潔且つ要点を掘り下げたものを求めること。 5 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>「教師は次のことを実行する」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語は分かりやすく説明する。 		
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも結構ですが、研究室で受け付ける。どんな事でも気軽に相談すること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	微生物の基礎知識 (微生物の地球上における役割、病原微生物とは何か、新興感染症・再興感染症、薬剤耐性菌、院内感染、日和見感染症)	事前学習	pp. 15-18: 微生物と病原微生物の相違点について予習する。
		事後学習	病原微生物が持つ病原性ということの意味をまとめる。
第2回	微生物の種類 (細菌、真菌、原虫、ウイルス) とその基本的構造	事前学習	pp. 18-20: 微生物の種類について予習する。
		事後学習	微生物の基本構造についてまとめる。
第3回	細菌の性質 (構造と特徴、細菌の培養と増殖、細菌の遺伝、細菌の分類、常在細菌と常在細菌叢)	事前学習	pp. 20-26: 細菌の構造と特徴について予習する。

		事後学習	細菌の増殖と病原性についてまとめる。
第 4 回	ウイルスの性質（構造と特徴、ウイルスの培養と増殖、ウイルスの分類、ウイルス感染症とは何か）	事前学習	pp. 21-24：ウイルスの構造と特徴について予習する。
		事後学習	ウイルスの増殖と病原性についてまとめる。
第 5 回	真菌の性質（構造と特徴、真菌の増殖と培養、真菌の分類、真菌感染症とは何か）	事前学習	pp. 19-22：真菌の構造と特徴について予習する。
		事後学習	真菌の増殖と病原性について復習する。
第 6 回	原虫の性質（構造と特徴、原虫の増殖と培養、原虫の分類、原虫感染症とは何か）	事前学習	pp. 22-26：原虫の構造と特徴について予習する。
		事後学習	原虫の増殖と病原性について復習する。
第 7 回	感染症の成立要因（病原体、感染経路、感受性者の存在が同時に存在すること 感染所の予防対策 感染者の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）	事前学習	pp. 27-36：感染症とは何か、感染症の予防対策について予習する。
		事後学習	感染症の成立要因とその予防対策について復習する。
第 8 回	感染経路対策：滅菌と消毒（滅菌と消毒の違い、滅菌法、消毒法、消毒薬の種類と効果）、標準予防策（スタンダードプリコーション）、手洗い方法	事前学習	pp. 75-82：滅菌と消毒の違いについて予習する。
		事後学習	滅菌と消毒、正しい手洗い方法について復習する。
第 9 回	病原体対策：感染症の治療（化学療法剤の作用メカニズム、抗生物質、抗菌スペクトル、薬剤感受性試験、最小発育阻止濃度（MIC）、薬剤耐性）	事前学習	pp. 49-58：感染症の治療について予習する。
		事後学習	感染症の治療についてまとめる
第 10 回	感受性者対策：免疫の仕組み（自然免疫と獲得免疫、免疫担当細胞、体液性免疫と細胞性免疫、抗原抗体反応）、予防接種（定期接種と任意接種、ワクチンの種類）	事前学習	pp. 83-107：免疫の定義、構成要素について予習する。
		事後学習	感染に対して生体防御機構の仕組みについてまとめる。
第 11 回	主な微生物感染症①（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法等をまとめ、分かりやすく発表する。	事前学習	教科書の該当ページを予習する。
		事後学習	感染症法 1 類感染症、2 類感染症、3 類感染症についてまとめる。
第 12 回	主な微生物感染症②（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法等をまとめ、分かりやすく発表する。	事前学習	教科書の該当ページを予習する。
		事後学習	感染症法 4 類感染症及び HIV 感染症についてまとめる。
第 13 回	主な微生物感染症③（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法等をまとめ、分かりやすく発表する。	事前学習	教科書の該当ページを予習する。
		事後学習	性感染症、食中毒を起こす病原微生物についてまとめる。
第 14 回	主な微生物感染症④（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法等をまとめ、分かりやすく発表する。	事前学習	教科書の該当ページを予習する。
		事後学習	ウイルス性風邪症候群やウイルス性肝炎についてまとめる。
第 15 回	まとめ・課題提出	事前学習	養護教諭や保健科教諭としての病原微生物に対する基本的考え方や感染制御方法等について、学習目標が達成できたかを考える。
		事後学習	学習したことを振り返り、課題レポートを完成する。

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3103
2. 授業担当教員	中野 一茂		SBMP3103
4. 授業形態	講義、グループ討議等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	社会福祉原論等の関連科目の履修は望ましい。		
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック（行政）が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 福祉行財政の実際について理解する。 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed back について学び、理解を深める。 福祉計画の策定するとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業中に非定期的な小テストを実施する。 レポート課題は授業中に提示する。 授業内容に応じて、グループワークで課題を取り込むことがある。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。 【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>出席率・態度評価（4 回以上の欠席は評価しない）が良好であることを前提に、欠席・遅刻・許可のない携帯電話作動・おしゃべりなどにはそれぞれ 1 回につき 5 点減点とする。</p> <p>レポート 30% 小テスト 20% 期末試験 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>社会保障・社会福祉の制度、法律、財政、現状や課題などについて、自主的にも学ぶこと。また、日頃から主体的に資料やニュース、参考文献、各省庁のインターネット情報などに目を通しておくこと。 （特に社会保障・社会福祉制度の法律・制度の矛盾・現状・動向について、日頃から関心を持って資料収集すること。）</p> <p>履修にあたっては次の事を最低限守ること。 ①指定の教科書は授業の際、必ず持参すること。 ②別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 ③授業中の私語や携帯電話の使用は禁止とする。</p>		
13. オフィスアワー	オフィスアワーは講義時間の前後で受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 社会福祉の法体系	事前学習	テキスト該当頁の予習。
		事後学習	テキスト該当頁の復習。
第 2 回	福祉行政の実施体制①	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 3 回	福祉行政の実施体制②	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 4 回	福祉行政の実施体制③	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 5 回	福祉行政の実施体制④	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 6 回	福祉行政の実施体制⑤	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 7 回	福祉計画の役割と考え①	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 8 回	福祉計画の役割と考え②	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 9 回	福祉計画の役割と考え③	事前学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて予習。
		事後学習	テキスト該当頁及び配布資料を用いて復習。
第 10 回	グループワーク ①「私たちが描く地域福祉計画」 （メンバーの役割分担、資料の確認と不足する資料の検討）	事前学習	地域福祉計画の意義を再度理解しておくこと。
		事後学習	グループのメンバーの役割と計画策定の柱立てを決める。

第 1 1 回	グループワーク ②「私たちが描く地域福祉計画」 (資料の読み込みと討論、柱立てを決める)	事前学習	基礎的データの収集とメンバーの共有化を図る。
		事後学習	柱立ての検討をしておくこと。
第 1 2 回	グループワーク ③「私たちが描く地域福祉計画」 (柱立てに沿った福祉サービス内容を検討)	事前学習	必要な福祉サービスは何かあるか事前に調べておく。
		事後学習	柱立てとの関連を精査する。
第 1 3 回	グループワーク ④「私たちが描く地域福祉計画」 (B 紙への書き込み作業)	事前学習	B 紙に書き写す素案を準備する。
		事後学習	発表に向けた内容を検討する。
第 1 4 回	グループワーク ⑤「私たちが描く地域福祉計画」 (まとめ作業)	事前学習	発表の役割分担を検討する。
		事後学習	発表に向けた最終確認をする。
第 1 5 回	発表会 「わが市町村の地域福祉計画について」	事前学習	グループの意思統一を確認しておく。
		事後学習	発表について相互評価を行う。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉と教育 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1329
2. 授業担当教員	西脇 雅彦			
4. 授業形態	講義 (学習参考例)、演習 (ワークシート)、ディスカッション、レポート課題、発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	福祉や教育の現場では、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉や教育を必要とする各人のニーズに応えられるように解決していかなければならない。そのためには、これまで我が国で主流とされてきた一方的な知識注入型の授業法を改め、学生が主体となって学習に取り組めるような双方向対話型の授業法に切り替えていかなければならない。本授業では、主に「新聞記事」「視覚教材」「学習参考例」などをもとにして、日本の福祉と教育のあり方について考え、真に必要な能力は何かを分析しながら、現代社会で求められる福祉従事者や教育者のあり方について考察する。			
8. 学習目標	本講義では、①ディスカッションでは、他人の意見を受け入れつつ、柔軟な思考力や問題解決能力を養うこと、②発表では、聞き手に理解されやすい表現力を身に付けること、③レポート課題では、論理的でわかりやすく簡潔な文章が書けるような文章作成能力を身に付けること、を学習目標にしている。また、①～③に記した能力を兼ね備え、福祉や教育の現場で役立つ実践力を身に付けることを究極の目標としている。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の授業内容に関するリアクションペーパーと定期的に課す課題レポートを提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	資料はプリントにて適宜、配布する。プリントを整理するファイル等を用意すること。 【教科書】 使用しない。 【参考書】 伊藤良高編著『教育と福祉の課題』晃洋書房、2014。 竹内常一・佐藤洋作編著『教育と福祉の出会いとところ』山吹書店、2006。 増山均著『教育と福祉のための子ども観』ミネルヴァ書房、1997。 *その他、発展的学習のための参考書は必要に応じて授業の中で紹介する。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 30% 小テスト・課題レポートの提出状況 30% 期末レポート課題 40%			
12. 受講生へのメッセージ	<p>他者とのさりげない会話や挨拶などに心を配ること (=ケア) …こうした日々の実践が対人援助職を目指す上で大切だと考えている。日頃から福祉と教育に関心をもち、積極的にボランティア活動等に参加すること。</p> <p>【学生に期待される学習態度】 受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意すること。 ①教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高める。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨むこと。 ②授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退席をしないこと。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告すること。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格とする。) ③明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られないと判断された場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格とする。 ④授業中、私語、居眠りはしないこと。 ⑤授業中は携帯電話等の携帯端末の電源は切ること。</p> <p>【教員の心がまえ】 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はできるかぎりシラバスに沿って行う。 ②受講生全員に伝わるような声で話をする。また専門用語を用いた際は、わかりやすく説明する。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくる。 ④遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出、その他、授業に臨むうえで不適切と思われる態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	時間・場所：第 1 回目の授業時に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方、「福祉と教育」を学ぶ上での心得を説明する。	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくること。	
		事後学習	本時の授業のポイントノートに整理すること。	
第 2 回	ライフステージからみた福祉と教育 福祉と教育の今日的課題をもとに「教育の福祉化」「福祉の教育化」についての理解を深める。 [キーワード] 人間形成論・発達段階論・生涯発達	事前学習	現代社会における「子ども」「おとな」の特色や違いについて考えてくること。	
		事後学習	本時の授業のポイントをリアクションペーパーに整理すること。	
第 3 回	子ども期における福祉と教育① 乳幼児期における子ども家庭福祉の課題を挙げながら理解を深める。	事前学習	事前配布資料をもとに乳幼児期における児童福祉制度や幼児教育に関する情報を集めてくること。	

	[キーワード] 児童福祉施設、児童虐待、児童相談所	事後学習	本時の授業のポイントをリアクションペーパーに整理すること。
第 4 回	子ども期における福祉と教育② 学童期における教育的支援の課題を挙げながら理解を深める。 [キーワード] 発達障害、特別支援教育、ライフストーリーワーク、子どもの貧困	事前学習	事前配布資料をもとに子どもの貧困に関する情報を集めてくること。
		事後学習	第 3・4 回の授業内容をふまえ、課題レポートに取り組むこと。
第 5 回	若者期における福祉と教育① 若者期における教育的支援の課題を挙げながら理解を深める。 [キーワード] 特別支援教育・発達障害	事前学習	事前配布資料をもとに「若者期の課題」について調べてくること。
		事後学習	本時の授業のポイントをリアクションペーパーに整理すること。
第 6 回	若者期における福祉と教育② 若者の自立と支援のあり方について、資料をもとに解を深める。 [キーワード] キャリア教育・ひきこもり	事前学習	事前配布資料をもとに若者の自立支援とキャリア教育に関する情報を集めてくること。
		事後学習	第 5・6 回の授業内容をふまえ、課題レポートに取り組むこと。
第 7 回	おとな期における福祉と教育① 成人期における福祉と教育の課題を挙げながら理解を深める。 [キーワード] 里親制度・家族	事前学習	事前配布資料をもとに家族・家庭の役割に関する情報を集めてくること。
		事後学習	本時の授業のポイントをリアクションペーパーに整理すること。
第 8 回	おとな期における福祉と教育② 「はたらく」をめぐる課題について資料をもとに理解を深める。 [キーワード] 職業生活・子育て・介護	事前学習	事前配布資料をもとに子育て支援制度に関する情報を集めてくること。
		事後学習	第 7・8 回の授業内容をふまえ、課題レポートに取り組むこと。
第 9 回	老年期における福祉と教育① 超高齢社会における福祉と教育の課題を挙げながら理解を深める。 [キーワード] 生涯学習社会、コミュニティ	事前学習	事前配布資料をもとに生涯学習のあり方に関する情報を集めてくること。
		事後学習	本時の授業のポイントをリアクションペーパーに整理すること。
第 10 回	老年期における福祉と教育② ターミナルケアの事例を取り挙げながら理解を深める。 [キーワード] 終末期医療	事前学習	事前配布資料をもとに現代の終末期医療に関する情報を集めてくること。
		事後学習	第 9・10 回の授業内容をふまえ、課題レポートに取り組むこと。
第 11 回	学校における福祉と教育① 道徳教育と福祉の問題や学校におけるケア職についての理解を深める。 [キーワード] 道徳教育・スクールソーシャルワーカー・学校心理士	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	本時で話し合った内容をふまえ、道徳教育と福祉のつながりについて、自らの意見をまとめておくこと。
第 12 回	学校における福祉と教育② 社会と教育から排除された子ども・若者の支援について理解を深める。 [キーワード] 生徒指導・不登校・非行・居場所	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	本時で話し合った内容をふまえ、子ども・若者支援について、自らの意見をまとめておくこと。
第 13 回	現代的問いとしての「ケア」の問題 ケアという言葉から福祉と教育について考える。 [キーワード] 感情労働・当事者性	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	本時で話し合った内容をふまえ、ケアという言葉の意味と広がりについて、自らの意見をまとめておくこと。
第 14 回	福祉と教育のつながりを求めて 福祉と教育をつなぐさまざまな実践例を紹介し、ディスカッションを通して理解を深める。 [キーワード] ボランティア・人間としての生き方あり方教育	事前学習	配布資料を読んでくること。
		事後学習	本時で話し合った内容をふまえ、福祉と教育のつながりについて、自らの意見をまとめておくこと。
第 15 回	総括および授業評価	事前学習	配布資料や各自のノート等で本授業の学習内容をふり返り、自己の成果と課題を報告できるようにしてくること。
		事後学習	シラバスに記載された本科目の学習目標を達成するための 3 つの到達目標を確認し、その到達度を自己評価する。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1107 GELA1107
2. 授業担当教員	村松 喜久子		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各自で、随時テーマに沿った文章課題を課す。 課題例) 日本語の乱れについて		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 石黒 圭著『この 1 冊できちんと書ける論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012。 その他、必要なプリントはその都度講義の中で配付します。		
11. 成績評価の方法	<p>日常の受講態度、レポート、期末課題等総合的に評価する。</p> <p>(1) 期末課題 総合点の 50%</p> <p>期末課題については、学部ごとにテーマを決め、課題に取り組む。</p> <p>(2) 小レポート 総合点の 30%</p> <p>(3) 受講態度 総合点の 20%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>(1) 授業では、音読や視写、討議やグループワーク等を取り入れ、文章を書く活動を多く取り入れて進める。真剣に取り組むとともに、絶えず意欲的かつ積極的に参加すること。</p> <p>(2) 日頃から新聞や本を読む等、できるだけ活字に親しむ機会をつくること。さらに、政治、経済、教育、福祉、環境問題等にも関心を向け、絶えず日常生活の中の諸問題に対して自分の考えを持てるように努力すること。</p> <p>(3) 宿題や課題レポート等には誠実に取り組み、提出期限を守ること。</p> <p>(4) 授業には真剣に取り組む、携帯電話 (メール等) や私語等周りの迷惑になる行為は慎むこと。</p> <p>(5) この授業では手書きを基本とするので、鉛筆・シャープペンシルの使用を原則とする。(パソコン不可)</p>		
13. オフィスアワー	授業時に告知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの確認等、授業の進め方やレポート課題、期末課題の確認をする) 各自の自己紹介文を作成し、自己紹介をする。	事前学習	自己紹介できるよう資料を集め、各自発表し、自己アピールできるようにする。
		事後学習	発表した自己紹介文を清書して提出する。
第 2 回	文章表現についての基礎基本事項の確認① 論文の構成の考え方について理解し、演習問題を解く。	事前学習	テキスト (pp.14~19) を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	論文の六つの基本構成のポイントをまとめて提出する。
第 3 回	文章表現についての基礎基本事項の確認② 問いを立てる目的について理解し、演習問題を解く。	事前学習	テキスト (pp.20~29) を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	テキスト p.29 の課題 2 の演習問題をまとめて提出する。
第 4 回	文章表現についての基礎基本事項の確認③ 主語述語の関係や呼応関係について理解し、演習問題を解く。(プリント使用)	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	主述関係・呼応関係についての演習問題をし、学習内容の確認をする。
第 5 回	文章表現についての基礎基本事項の確認④ 文章を書く際の心構えなどについて理解する。	事前学習	テキスト (pp.70~91) を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	文章を書く際のルールを理解し、テーマを決め原稿用紙に書いて提出する。
第 6 回	意見文の表現① 提示した文章「日本語の乱れ」(清水義範著)を読み、要点や要旨をとらえ、討議・意見交換をする。これらをもとに、自分としての意見を文章化する。	事前学習	「日本語の乱れ」の文章を予め提示し、各自の意見を考えさせる。
		事後学習	グループで意見交換をし、自分の意見をノートにまとめる。

第 7 回	意見文の表現② 前回の文章化された意見文を推敲し、グループ内で検討する。検討後、清書して提出する。	事前学習	前時でまとめた意見を文章化する。
		事後学習	グループごとに各自の意見文を推敲し、清書して提出する。
第 8 回	説明的文章の表現 提示した説明的文章の構成等について理解する。段落・要点等を把握し、提示した例を参考にして、説明文を書く。	事前学習	説明的文章を提示し、文章構成について考える。
		事後学習	説明する内容をグループで話し合い、説明文を作成し提出する。
第 9 回	小論文の書き方① 小論文作成の技法について理解し、グループごとにテーマを討議し、レポートの検討をする。	事前学習	テキスト (pp.124~142) を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	グループごとに話し合った内容をまとめ発表する。
第 10 回	小論文の書き方② 決められたテーマをもとに、レポートの下書き、推敲、清書する。	事前学習	前時に話し合った内容をまとめ、小論文を書く準備をする。
		事後学習	決めたテーマに基づいて、小論文を書く。 (例：地球環境の未来について)
第 11 回	課題レポートの作成① (構想、計画、材料収集等)	事前学習	各グループ (教育・心理・社会福祉) で、課題レポートのテーマを決める。
		事後学習	決められたテーマをもとに、構想を練り、材料収集などについて話し合う。
第 12 回	課題レポートの作成② (下書き、推敲)	事前学習	グループごとに作成したレポートを推敲する。
		事後学習	グループでお互いのレポートを読みあい、より推敲を重ねる。
第 13 回	課題レポートの作成③ (清書)	事前学習	作成したレポートを清書する。
		事後学習	次時からの発表についての準備をする。
第 14 回	小論文 (課題レポート) の発表、感想発表①	事前学習	感想や意見交換ができるよう心構えをさせる。
		事後学習	発表レポートについてのコメントを書いて提出する。
第 15 回	小論文 (課題レポート) の発表、感想発表② 文章表現のまとめ、レポート返却、授業評価	事前学習	前時に続き、発表について意見交換できるように心構えをさせる。
		事後学習	発表レポートについてのコメントを書いて提出する。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (留学生) (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1107
2. 授業担当教員	村松 喜久子		
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	大学の講義及びゼミでは、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習、研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。 特に、身近な問題や内外の諸問題、実際のレポート等を取り上げ、テーマを設定して書く活動やグループ活動を取り入れるようにしていく。		
8. 学習目標	1 レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し説明できるようになる。 2 わかりやすい表現方法や明瞭且つ論理的な文章を作成する力量を身に付けることができるようになる。 3 定められたテーマで決められた時間、字数等の条件の中で文章を作成する技術と態度を身につけることができるようになる。 4 与えられたテーマについて、自分の考えを自分の言葉で書き、発表することができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【アサイメント】 課題例：「授業で作成した自己紹介文を清書し、提出する」 【期末課題】 今日的に話題になっている課題について、テーマを設定し、自分の考えを 2,000 字程度の小論文にまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 蒲田美千子、仁科浩美著『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク、2014。		
11. 成績評価の方法	日常の受講態度、レポート、期末課題等総合的に評価する。 (1) 期末課題 総合点の 50% (2) 小レポート 総合点の 30% (3) 受講態度 総合点の 20% 遅刻は 15 分以上で欠席とみなし、遅刻は 3 回で欠席 1 回とする。 教室から出た場合は、早退扱いとする。早退も 3 回で欠席 1 回とする。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	(1) 授業では、音読や視写、討議やグループワーク等を取り入れ、文章を書く活動を多く取り入れて進める。真剣に取り組むとともに、絶えず意欲的かつ積極的に参加すること。 (2) 日頃から新聞や本を読む等、できるだけ活字に親しむ機会をつくること。さらに、政治、経済、教育、福祉、環境問題等にも関心を向け、絶えず日常生活の中の諸問題に対して自分の考えを持てるように努力すること。 (3) 宿題や課題レポート等には誠実に取り組み、提出期限を守ること。 (4) 授業には真剣に取り組む、携帯電話 (メール等) や私語等周りの迷惑になる行為は慎むこと。 (5) この授業では手書きを基本とするので、鉛筆・シャープペンシルの使用を原則とする。(パソコン不可)		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(事前に要望があれば、随時時間を設定する。)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの確認等、授業の進め方やレポート課題、期末課題の確認をする) 各自の自己紹介文を作成し、自己紹介をする。	事前学習	自己紹介できるよう資料を集め、各自発表し、自国や地域のアピールができるようにする。
		事後学習	発表した自己紹介文を清書して、提出する。
第 2 回	文章表現についての基礎基本事項の確認① 書き言葉について (話し言葉との比較)	事前学習	書き言葉に関する教科書の練習問題 pp.3~7 をする。
		事後学習	学習した内容をもとに p.8 ステップ 3 をまとめる。
第 3 回	文章表現についての基礎基本事項の確認② 言葉について (和語と漢語の違い)	事前学習	和語と漢語に関する教科書の練習問題 pp.10~15 をする。
		事後学習	学習した内容をもとに p.16 ステップ 3 をまとめる。
第 4 回	文章表現についての基礎基本事項の確認③ 名詞化について	事前学習	名詞化に関する教科書の練習問題 pp.18~23 をする。
		事後学習	学習した内容をもとに p.24 ステップ 3 をまとめる。
第 5 回	文章表現についての基礎基本事項の確認④ ジャンルによる言葉の使い分けについて	事前学習	ジャンルによる言葉の使い分けに関する教科書の練習問題 pp.26~31 をする。
		事後学習	学習した内容をもとに、正しい言葉の使い分け方を身につけ、p.32 ステップ 3 をまとめる。
第 6 回	まとめ ①アンケート調査を作る ②講演内容をレジュメにする	事前学習	アンケートに関する用語を学習する。
		事後学習	学習した内容をもとに、各自でアンケート調査用紙を作成する。

第 7 回	意味を読み取って言い換える① (長い文、複数の文) レポート作成 1 テーマを決める	事前学習	長文・複数の文に関する教科書の練習問題 pp.38~41 をする。
		事後学習	学習した内容をもとに、長文・複数の文に関する p.42 ステップ 3 をまとめる。
第 8 回	意味を読み取って言い換える② (上位概念) レポート作成 2 レポートの構成を考える	事前学習	上位概念に関する教科書の練習問題 pp.45~47 をする。
		事後学習	学習した内容を応用し、p.48 ステップ 3 をまとめる。
第 9 回	意味を読み取って言い換える③ (簡潔な表現) レポート作成 3 簡条書きでまとめる	事前学習	簡潔な表現について教科書の問題 pp.50~52 をする。
		事後学習	学習した内容を応用し、p.53 ステップ 3 をまとめる。
第 10 回	意味を読み取って言い換える④ (含意・解釈)	事前学習	含意・解釈について教科書の問題 pp.55~57 をする。
		事後学習	学習した内容を応用し、p.58 ステップ 3 をまとめる。
第 11 回	課題レポートの作成① (構想、計画、材料収集等)	事前学習	グループごとに課題レポートのテーマを決める。
		事後学習	決められたテーマをもとに、構想を練り、材料収集などについて話し合う。
第 12 回	課題レポートの作成② (下書き、推敲)	事前学習	グループごとに作成したレポートを推敲する。
		事後学習	グループごとに作成したレポートを読みあい、さらに推敲を重ねる。
第 13 回	課題レポートの作成③ (清書)	事前学習	作成してレポートを清書する。
		事後学習	次時からの発表についての準備をする。
第 14 回	小論文(課題レポート)の発表、感想発表①	事前学習	感想や意見交換ができるように心構えをさせる。
		事後学習	発表レポートについてのコメントを書いて提出する。
第 15 回	小論文(課題レポート)の発表、感想発表② 文章表現のまとめ、レポート返却、授業評価	事前学習	前時に続き、発表について意見交換できるように心構えをさせる。
		事後学習	発表レポートについてのコメントを書いて提出し、まとめとする。

1. 科目名 (単位数)	文章表現Ⅱ (アカデミック・ライティング) (4 単位)	3. 科目番号	GELA2307								
2. 授業担当教員	森田 哲志										
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	通期								
6. 履修条件・ 他科目との関係											
7. 講義概要	<p>この授業は、大学生として求められる「自ら問題設定をして、調査をし、結果をまとめる」というアカデミック・ライティングを実践的に学んでいくことを目的としている。</p> <p>具体的には、まず、「問題設定」、「調査」、「文章作成」についての問題を解く中で、アカデミック・ライティングの基礎を確認していく。その上で、受講生それぞれ (個人あるいはグループ) が、「問題設定」、「調査、情報収集」を行い、レポートなどの適切な形にまとめていく作業を行う。また就職活動と直結するエントリーシートやメールでの問い合わせなどの実践的文章表現も適宜学んでいく。</p> <p>併せて、受講生のレベルに応じて、レポート作成の基礎となる文字表記、語彙力の向上のための小テストを行う。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学で必要とされるアカデミック・ライティングの知識とルールを身につける。 2) 自分の考えたことから、レポートなどの問題設定をすることができるようになる。 3) 自分の調査課題について、必要な情報収集、文献検索の技術を身につける。 4) 調査課題について調べたことを、レポートなどの適切な文章にまとめることができる。 5) 就職活動で必要となる文章表現の知識とルールを身につける。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学習課題に指示した事前学習・事後学習を必ず行った上で授業に参加すること。 2) 課題などを記録したノート (ルーズリーフは不可) を提出する。 3) 授業を通して、自ら設定したテーマについてレポートを作成する。詳しい作成方法などについては、授業中に説明する。 										
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 福嶋健伸、橋本修、安部朋世編『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』、三省堂、2009 年</p> <p>【参考書】 授業中に、適宜、指示する</p>										
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>授業中の態度・積極的参加度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>ノートの提出</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポートの提出</td> <td>30% (中間レポート、最終レポートの 2 回)</td> </tr> </table>			授業中の態度・積極的参加度	30%	ノートの提出	30%	小テスト	10%	レポートの提出	30% (中間レポート、最終レポートの 2 回)
授業中の態度・積極的参加度	30%										
ノートの提出	30%										
小テスト	10%										
レポートの提出	30% (中間レポート、最終レポートの 2 回)										
12. 受講生への メッセージ	<p>この授業では、アカデミック・ライティングの知識とルールを「実践」しようとする受講生それぞれの継続的な取り組みを重視する。特に以下の点には注意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 欠席、遅刻、早退などせず、積極的に参加すること。 2) 提出物、宿題は必ず提出すること。 3) ノートを一冊用意 (表紙に氏名明記) し、この授業の履修中は、なくさないこと。 4) 教科書 (テキスト、トレーニングシート)、ノートは毎回必ず持参すること。 5) 分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること。 <p>なお、各回の授業での内容 (課題、小テストなど)、提出物は、担当教員の指示に従うこと。</p>										
13. オフィスアワー	初回の授業時に指示する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	授業概要の説明、自己紹介 (自分の目標など)	事前学習	教科書の目次 (テキスト p.3) を読み、この授業を通して、何が出来るようになりたいのかを考えておく。								
		事後学習	この授業での目標をノートにまとめてみる。								
第 2 回	第 1 章 人を紹介する	事前学習	テキスト pp.5~7 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1、2 (p.1) に記入しておく。								
		事後学習	今回、学んだ表現や気づいたことをノートに記入しておく。								
第 3 回	第 2 章 説明をする	事前学習	テキスト pp.8~10 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 2 (p.4) に記入しておく。								
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.6) をノートに記入し、第 4 回の授業で提出する。								
第 4 回	第 3 章 議事録をとる ノート提出 (1 回目)	事前学習	テキスト pp.11~13 を読んでおく。								
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.8) に記入した議事録を見直しておく。								
第 5 回	第 5 章 上手な意見交換の方法を学ぶ	事前学習	テキスト pp.17~19 を読んでおく。								
		事後学習	授業を振り返り、意見交換の注意点をノートに記入しておく。								
第 6 回	第 6 章 文章を読解する	事前学習	テキスト pp.20~22 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1 (p.15) に記入しておく。								
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.15) をノートに								

			記入しておく。
第 7 回	第 7 章 文章を要約する	事前学習	テキスト pp.23～25 を読んでおく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 1 (p.19) の要約文をノートに記入し、第 8 回の授業で提出する。
第 8 回	第 8 章 データを集めて解釈する ノート提出 (2 回目)	事前学習	テキスト pp.26～28 を読んでおく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 5 (p.24) に取り組む。
第 9 回	第 9 章 インターネットを用いて調査する	事前学習	テキスト pp.29～31 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1 (p.25) に記入しておく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 4 (p.26) に取り組み、ノートに記入しておく。
第 10 回	第 10 章 図書館を利用する	事前学習	テキスト pp.32～34 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1、2 (p.27、p.28) に記入しておく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 4、5 (p.30) に取り組み、ノートに記入しておく。
第 11 回	第 11 章 堅実なレポートの書き方を学ぶ 1	事前学習	テキスト pp.35～37 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1 (p.31) に記入しておく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.32) に取り組み、ノートに記入しておく。
第 12 回	第 11 章 堅実なレポートの書き方を学ぶ 1 発表① (レポートの問題設定)	事前学習	これから自分が取り組んでいきたいレポートの課題をまとめておく。
		事後学習	自分の「問題設定」を、ノートに記入しておく。第 13 回の授業で提出する。
第 13 回	第 12 章 堅実なレポートの書き方を学ぶ 2 ノート提出 (3 回目)	事前学習	テキスト pp.38～40 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1 (p.33) に記入しておく。
		事後学習	テキスト pp.38～40 を読み直し、レポートの体裁の注意点を確認しておく。
第 14 回	第 12 章 堅実なレポートの書き方を学ぶ 2 グループディスカッション	事前学習	トレーニングシートの課題 4-2 (p.36) に取り組み、ノートに記入しておく。
		事後学習	ディスカッションから考えたことをノートに記入しておく。
第 15 回	第 29 章 小論文を作成する	事前学習	テキスト pp.89～91 を読んだ上で、第 12 回の授業でまとめた「問題設定」について、組み立てプランをノートに記入しておく。
		事後学習	800 字の中間レポートを作成して、提出する。
第 16 回	発表② (中間レポートの内容報告)	事前学習	提出した小論文についての発表原稿を作成し、ノートに記入しておく。
		事後学習	発表を通して気づいた修正点や、さらに調査を加える必要のある課題をノートに記入しておき、最終レポート提出までに、進めておく。
第 17 回	第 18 章 電話対応のマナーを学ぶ	事前学習	テキスト pp.56～58 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1 (p.51) に記入しておく。
		事後学習	今回の授業で学んだ表現をノートに記録しておく。
第 18 回	第 19 章 アンケートをとる	事前学習	テキスト pp.59～61 を読んでおく。
		事後学習	今回の授業で気づいたアンケートの際の midpoint をノートに記入しておく。
第 19 回	グループワーク (アンケートの作成と実施) 発表③ (それぞれのレポートの調査の進捗について) ノート提出 (4 回目)	事前学習	トレーニングシートの課題 5 (p.54) に取り組み、ノートに記入しておく。
		事後学習	グループワークで取り組んだアンケートを完成させる。
第 20 回	第 20 章 段取りを考えて連絡する	事前学習	テキスト pp.62～64 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1 (p.55) に記入しておく。
		事後学習	授業でのペアからのコメントに基づいて、トレーニングシートの課題 3 (p.56) をノートに記入しておく。
第 21 回	第 21 章 奨学金を申請する	事前学習	テキスト pp.65～67 を読んでおく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.58) をノートに記入しておく。
第 22 回	第 22 章 逆算して計画を立てる	事前学習	テキスト pp.68～70 を読んだ上で、トレーニングシートの課題 1 (p.59) に記入しておく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.60) をノートに記入しておく。
第 23 回	第 23 章 メールを書く① ノート提出 (5 回目)	事前学習	テキスト pp.71～73 を読んでおく。
		事後学習	授業で書いたメールを、見直しておく。

第 24 回	第 23 章 メールを書く ②	事前学習	トレーニングシートの課題 3 の A (p.62) に記入しておく。
		事後学習	授業でのペアからのコメントに基づいてメールの清書をノートに記入しておく。
第 25 回	第 24 章 手紙を書く 1	事前学習	テキスト pp.74~76 を読んでおく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.65) に記入しておく。
第 26 回	第 25 章 手紙を書く 2	事前学習	テキスト pp.77~79 を読んでおく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.68) をノートに記入しておく。
第 27 回	第 27 章 エントリーシートを作成する ①	事前学習	テキスト pp.83~85 を読んでおく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 2 (p.71) をノートに記入しておく。
第 28 回	第 27 章 エントリーシートを作成する ②	事前学習	トレーニングシートの課題 3 (p.72) をノートに記入しておく。
		事後学習	授業でのペアからのコメントに基づいて、課題 3 の清書をノートに記入し、第 29 回の授業で提出する。
第 29 回	第 30 章 企画書を書く ノート提出 (6 回目)	事前学習	テキスト pp.92~94 を読んでおく。
		事後学習	トレーニングシートの課題 3 (p.79、p.80) に取り組んでおく
第 30 回	これまでの内容の振り返り、最終レポート提出	事前学習	この授業の内容を振り返り、出来るようになったことを考えておく。
		事後学習	これからの目標をノートに記入しておく。

1. 科目名 (単位数)	文章表現Ⅲ (口頭発表表現) (4 単位)	3. 科目番号	GELA3307																
2. 授業担当教員	森田 哲志																		
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	通期																
6. 履修条件・他科目との関係	文章表現Ⅱをすでに受講していることが望ましい。																		
7. 講義概要	<p>この授業では、自己紹介、自分の身近な問題から受講生がまとめたレポートなどの成果に至るまで、効果的にスピーチやプレゼンテーションをするための口頭表現を学び、実践のためのトレーニングを進めていく。</p> <p>具体的には、自分の発表を聞き手に伝えるためには、どのような発表の「型」を取ることが適切なのか、発表資料や原稿の準備と発表を通して、実践的に訓練していく。また、作成した発表資料などについては、ペアワーク、グループディスカッションを通して、受講生同士で検討することを要求する。その中で、発表に対する適切なコメントの仕方も練習していく。</p> <p>併せて、受講生のレベルに応じて、口頭表現の基礎となる文字表記、語彙力の向上のための小テストも行っていく。</p>																		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大学の学びの場で求められるさまざまな口頭表現の形式を理解し、自ら実践できるようになる。 2) 発表内容を適切な日本語の表現で伝えることができるようになる。 3) 発表内容に適した資料の作成ができるようになる。 4) 発表に対して、適切なコメントを言えるようにする。 5) 適切な速さや大きさで、発表が出来るようになる。 																		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>○事前・事後学習課題は各回の事前学習に指定された課題を指す。</p> <p>○授業後の提出物は、事前課題の提出や授業中使用したワークシートの提出等を指す。</p> <p>○自己PRスピーチ、ポスター発表、スライドを使用したプレゼンテーション1, 2は発表原稿 (もしくはスポスター、スライド等) も評価対象とし、発表終了後に提出する。</p> <p>○自己PRスピーチの詳細は教科書1のp.18を参照すること。</p> <p>○ポスター発表は4人程度のグループ発表を指す。</p>																		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 教科書1. 大島弥生、大場理恵子、岩田夏穂、池田玲子著『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012。 教科書2. 三浦香苗、岡澤孝雄、深澤のぞみ、ヒルマン小林恭子著『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房、2006。</p> <p>【参考書】 中野美香著 「大学生からのプレゼンテーション入門」 ナカニシヤ出版、2012。</p>																		
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>授業への積極的参加度</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>事前・事後学習課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業後の提出物</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>自己PRスピーチ</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>ポスター発表</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>パワーポイントプレゼンテーション1</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>パワーポイントプレゼンテーション2</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>口頭発表表現に関する小テスト</td> <td>10%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加度	10%	事前・事後学習課題	20%	授業後の提出物	20%	自己PRスピーチ	10%	ポスター発表	10%	パワーポイントプレゼンテーション1	10%	パワーポイントプレゼンテーション2	10%	口頭発表表現に関する小テスト	10%
授業への積極的参加度	10%																		
事前・事後学習課題	20%																		
授業後の提出物	20%																		
自己PRスピーチ	10%																		
ポスター発表	10%																		
パワーポイントプレゼンテーション1	10%																		
パワーポイントプレゼンテーション2	10%																		
口頭発表表現に関する小テスト	10%																		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は事前学習を前提に行うため、必ず事前学習課題は行うこと。 2. 授業で扱ったすべてのプリントはなくさずいつでも提出できるようファイルにまとめておくこと。 3. 携帯電話は電源から切り、かばんの中にするここと。 4. 私語は授業中は決してしないこと。 5. わからないことはどのようなことでも教員に質問するよう心がけること。 6. どのようなことでもよいので積極的に意見を述べるここと。 7. 授業内容におけるページ番号は第1回から15回までは教科書1、16回以降は教科書2に該当する。 8. 受講者数と授業の進行状況によりシラバスの進行が変更する場合がある。 																		
13. オフィスアワー																			
14. 授業展開及び授業内容																			
講義日程	授業内容	学習課題																	
第1回	シラバスの説明	事前学習	教科書の目次と ii~x までを読み大切だと思うところと疑問に思うところに線を引いておく。																
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながらシラバスの重要点をノートにまとめる。																
第2回	1課 オリエンテーション(pp.2~7)	事前学習	pp.2~7 を読み教科書のワークシート1課のプレタスク、タスク1・2を完了する。また p.7 の日本語エクササイズの答えも教科書に記入しておく。																
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.2~7 の重要点をまとめておく。																
第3回	2課 自己PR①自分を伝える(pp.8~13)	事前学習	pp.8~13 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート2課のプレタスク、タスク1を完了する。また日本語エクササイズ提出用シート2課を完了しておく。																

		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.8～13 の重要点、特に役に立つ口頭発表表現をまとめておく。
第 4 回	3 課 自己 PR②情報を整理する(pp.14～19)	事前学習	pp.14～19 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート 3 課のプレタスク、タスク 1 を完了する。また日本語エクササイズ提出用シート 3 課を完了しておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.14～19 の重要点、特に役に立つ口頭発表表現をまとめておく。
第 5 回	4 課 自己 PR③スピーチの準備をする(pp.20～25)	事前学習	pp.20～25 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート 4 課のプレタスクを完了する。また日本語エクササイズ提出用シート 4 課を完了しておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.20～25 の重要点、特に自己 PR スピーチに関する口頭表現をまとめておく。
第 6 回	5 課 自己 PR④スピーチをする(pp.26～29) : 自己 PR スピーチ	事前学習	自己 PR スピーチを何も見ずに話せるまで練習する。
		事後学習	pp.26～29 を読み重要点に線を引く。またワークシート 5 課を使用しながら自己 PR スピーチを振り返り、良かったところと今後の改善点をノートにまとめておく。
第 7 回	自己 PR スピーチの振り返り	事前学習	効果的な自己 PR スピーチの特徴をクラスでの良かったスピーチから考えノートに書いておく。
		事後学習	クラスでのディスカッションを参考にしながら効果的な自己 PR スピーチ実践のために必要だと思うことをノートに書いておく。
第 8 回	6 課 自己 PR⑤志望動機書・学習(研究)計画書を読み合う(pp.30～37)	事前学習	pp.30～37 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート 6 課のプレタスクとタスク 1 を完了する。また日本語エクササイズ提出用シート 6 課を完了しておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.30～37 の重要点、特に役に立つ口頭発表表現をまとめておく。
第 9 回	7 課 ブック・トーク①情報を探す(pp.40～45)	事前学習	pp.40～45 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート 7 課のプレタスクとタスク 1 を完了する。また日本語エクササイズ提出用シート 7 課を完了しておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.40～45 の重要点、特に役に立つ口頭発表表現をまとめておく。
第 10 回	8 課 ブック・トーク②情報を読んで伝える(pp.46～51)	事前学習	pp.46～51 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート 8 課①のプレタスクを完了する。また日本語エクササイズ提出用シート 8 課を完了しておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.46～51 の重要点、特に役に立つ口頭発表表現をまとめておく。
第 11 回	9 課 ブック・トーク③詳しいブック・トークをもとにアウトラインを書く(pp.52～59)	事前学習	pp.52～59 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート 9 課のプレタスクとタスク 1・2 を完了する。また日本語エクササイズ提出用シート 9 課を完了しておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.52～59 の重要点、特に役に立つ口頭発表表現をまとめておく。
第 12 回	10 課 ブック・トーク④ポスター発表を準備する(pp.60～65)	事前学習	pp.60～65 を読み教科書の重要点に線を引き、ワークシート 10 課のプレタスクを完了し発表用ポスターのレイアウトを考えてくる。また日本語エクササイズ提出用シート 10 課を完了しておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.52～59 の重要点、特に次週のポスター発表をするうえで役に立つ口頭発表表現をまとめておく。
第 13 回	11 課 ブック・トーク⑤発表する:ポスター発表(pp.66～71)	事前学習	ポスター発表での自分のパートについて何も見ずに話せるまで練習する。pp.66～71 を読み重要点に線を引き、グループ全体での時間管理や役割分担を p.66 のプレタスクで確認しておく。可能であればグループで事前練習を実施する。
		事後学習	ワークシート 11 課を完了し、自分のグループ発表と他のグループ発表について振り返る。
第 14 回	ポスター発表の振り返り	事前学習	効果的なグループ発表の特徴を一番良かったグループ発表から考えノートに記入しておく。
		事後学習	グループ討論とクラス全体での討論内容を参考にしながら効果的なグループ発表実践のために必要なことをノートにまとめる。

第 1 5 回	今までの口頭発表表現のまとめ、小テスト 1	事前学習	今まで学んだ口頭発表表現一覧を作成し、小テストに備える。
		事後学習	自分の作成した口頭発表表現一覧を必要に応じて加筆しまとめ直す。特に小テストでできなかった口頭発表表現はマークし何度も繰り返し覚える。
第 1 6 回	スライドを使ったプレゼンテーションの概要説明(pp.2~11)	事前学習	教科書 2 の概要とプレゼンテーションの概要について pp.2~11 を読み、重要点に線を引く。スライドを使用したプレゼンテーションの特徴について自分なりに考えてくる。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.2~11 の重要点をまとめ直す。
第 1 7 回	プレゼンテーションに必要な表現①(pp.12~31)	事前学習	pp.12~31 を読み重要点に線を引き教科書の練習問題を完了する。プレゼンテーションの流れと関連の表現と数字や図表の説明に必要な表現をノートにまとめておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.12~31 の重要点をまとめ直す。学習した口頭発表表現を覚える。
第 1 8 回	プレゼンテーションに必要な表現②(pp.32~45)	事前学習	pp.32~45 を読み重要点に線を引き教科書の練習問題を完了する。比較、引用、接続の表現と指示のこたばをノートにまとめておく。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.32~45 の重要点をまとめ直す。学習した口頭発表表現を覚える。
第 1 9 回	スライドの作成法(pp.47~54)	事前学習	pp.47~54 を読み重要点に線を引きスライドの作成法をノートにまとめる。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら pp.47~54 の重要点をまとめ直す。
第 2 0 回	プレゼンテーションにおける話し方と態度(pp.212~218)	事前学習	pp.212~218 を読み重要点に線を引き「発音練習 1・2・3」を行う。
		事後学習	プレゼンテーションにおける話し方と態度で実践する上で難しいと思う点をノートにまとめる。
第 2 1 回	プレゼンテーション 1 の準備(pp.56~63)	事前学習	pp.56~63 を読み重要点に線を引き、教科書の練習問題と p.63 を完了しプレゼンテーション 1 の準備をする。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら学習した口頭表現をノートにまとめる。プレゼンテーション 1 のスライド作成をはじめめる。
第 2 2 回	プレゼンテーション 1 の事例検討会(pp.64~70)、発表のリハーサル(pp.219~222)	事前学習	pp.64~70 を読みプレゼンテーション 1 の事例から参考になる点をノートにまとめておく。p.221 を見ながら発表の注意点を確認する。
		事後学習	プレゼンテーション 1 の事例検討会で出たプレゼンテーションの注意点についてノートにまとめ直す。参考になった口頭表現もノートに書いておく。
第 2 3 回	プレゼンテーション 1 :私の国や町	事前学習	プレゼンテーション 1 がスムーズにできるよう準備する。p.221 を参考に発表の最終確認をする。
		事後学習	プレゼンテーション 1 の良かった点と改善点を自分なりに考えノートに書いておく。
第 2 4 回	プレゼンテーション 1 の振り返り	事前学習	上手なプレゼンテーションの話し方とスライドの使用法の特徴を考えノートに書いておく。
		事後学習	先生や友達からもらったコメント(p.222)からわかった自分の話し方とスライドの使い方の良いところと改善点をノートにまとめる。
第 2 5 回	プレゼンテーション 2 の準備(pp.71~80)	事前学習	pp.71~80 を読み重要点に線を引き、教科書の練習問題と p.80 を完了しプレゼンテーション 2 の準備をする。
		事後学習	教員が強調した点に気を付けながら学習した口頭表現をノートにまとめる。プレゼンテーション 2 のスライド作成をはじめめる。
第 2 6 回	プレゼンテーション 2 の事例検討会(pp.81~89)、発表のリハーサル	事前学習	pp.81~89 を読みプレゼンテーション 2 の事例から参考になる点をノートにまとめておく。p.221 とプレゼンテーション 1 の振り返りから発表の注意点と自分の課題を再確認する。
		事後学習	プレゼンテーション 2 の事例検討会で出たプレゼンテーションの注意点についてノートにまとめる。発表のリハーサルで気づいた点もノートに書いておく。

第 27 回	プレゼンテーション 2:私の専門	事前学習	プレゼンテーション 2 がスムーズにできるよう準備する。p.221 とプレゼンテーション 1 の振り返りを参考に発表の最終確認をする。
		事後学習	プレゼンテーション 2 の良かった点と改善点を自分なりに考えノートに書いておく。
第 28 回	プレゼンテーション 2 の振り返り	事前学習	上手なプレゼンテーションの話し方とスライドの使用法の特徴を考えノートに書いておく。
		事後学習	先生や友達からもらったコメント(p.222)からわかった自分の話し方とスライドの使い方で改善できた点と今後の更なる改善点をノートにまとめる。
第 29 回	スライドを使用した口頭発表表現のまとめ、小テスト 2	事前学習	スライドを使用した口頭発表一覧を作成し、小テストに備える。
		事後学習	自分の作成した口頭発表一覧を必要に応じ加筆しまとめ直す。特に小テストでできなかった口頭発表表現はマークし何度も繰り返し覚える。
第 30 回	今まで学んだ口頭発表表現の確認と口頭発表実の向上に向けた総まとめ	事前学習	今まで学んだ口頭発表一覧を見直す。4 回の口頭発表で学んだ上手な口頭発表の特徴をまとめる。
		事後学習	クラス討論から出てきた重要な口頭発表表現と上手な口頭発表のための留意点の総まとめをする。

1. 科目名 (単位数)	法学 (憲法) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1117 GELA1317								
2. 授業担当教員	鈴木 収										
4. 授業形態	講義 (質疑応答を含む) を主とするが、事例問題ではグループ討議、発表、検討を行う。講義はレジュメに沿って行うが、理解を助ける上で教科書を使用したり、必要な最新情報等を提供したりする。各自が要点を把握し、配布されたレジュメに筆記することが必要である。毎回の授業時間の末尾においてその日の授業内容に関する内容を記入し、提出する。	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	今後学ぶことが考えられる法律に係る科目の基礎となるものである。この科目は、民法、行政法、教育法規等を学習するときの基礎知識となるものである。										
7. 講義概要	<p>本科目は、教育職員免許状を取得する際の基礎資格として必須科目である。また、公務員試験を受験する際の必要な科目ともなっている。</p> <p>公務員や教員だけに限らず社会人にとって、法について基礎知識を学び、身に付けることは仕事を進める上で大切なことである。また、一般の公務員や教員及び企業人の実践力は法に裏付けられたものでなければ、その役割を全うすることは困難である。</p> <p>そこで、本講義では法の作用や役割を学び、社会人として必要とされる法律の基礎知識を習得する。なお、習得の際には多くの具体的事例を通して学び、時にはグループディスカッションをしたりして理解を深めることにする。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学 (憲法) の基礎知識を理解する。 2. 法学を学ぶには、条文や判例などを読むことは欠かせないものであるとの学習態度を身に付ける。 3. 法律的なものの考え方を理解し、仕事に就いたときに活かせるようにする。 4. 教員採用試験や公務員試験に出題される法規一般の問題に対応しうる法律知識を身に付ける。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【中間レポート課題】 憲法 9 条について以下の内容について記述しなさい。「①条文の解釈② 9 条に関する日本政府見解の変遷について③ 9 条についての自分の意見」(A4 用紙 1 枚)</p> <p>【期末レポート課題】 日本国憲法に規定されている「基本的人権」の概要を記述しなさい。あわせて、最近主張されている「新しい人権」を一つ選びその内容の説明とその新しい人権についてのあなたの考えを記述しなさい。(A4 用紙 1 枚)</p>										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】伊藤 正己著『憲法入門 第四版補訂版』有斐閣双書、2006 年。										
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 15%</td> </tr> <tr> <td>2 中間課題レポート</td> <td>総合点の 35%</td> </tr> <tr> <td>3 期末課題レポート</td> <td>総合点の 35%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の 15%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の 15%	2 中間課題レポート	総合点の 35%	3 期末課題レポート	総合点の 35%	4 日常の学習状況	総合点の 15%
1 授業への積極的参加	総合点の 15%										
2 中間課題レポート	総合点の 35%										
3 期末課題レポート	総合点の 35%										
4 日常の学習状況	総合点の 15%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>憲法の勉強は一見難しそうだが、何といっても日本の基本となる決まりだからしっかり勉強してほしい。条文を繰り返し読んで、内容の理解に努めてほしいと思う。</p> <p>また、教室内での学習中のマナーを守り、併せて必要な自宅学習にも積極的に取り組むこと。</p>										
13. オフィスアワー	講義の中で、周知するが、研究室に在室中はいつでも受け付ける。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	憲法とは何か 教科書 pp. 1~17	事前学習	日本国憲法の特徴は何か確認しておく。								
		事後学習	憲法について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 2 回	明治憲法の特徴について 教科書 pp. 18~28	事前学習	明治憲法の特徴を調べる。								
		事後学習	明治憲法について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 3 回	日本国憲法の成立について 教科書 pp. 29~38	事前学習	日本国憲法成立の改定を調べる。								
		事後学習	日本国憲法の成立過程について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 4 回	国民主権について (国民主権と選挙) 教科書 pp. 54~77	事前学習	国民主権と選挙に行かない多くの人についての関係を考える。								
		事後学習	国民主権について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 5 回	国民主権について (象徴天皇制と地方自治) 教科書 pp. 78~103	事前学習	天皇制の意味を考える。								
		事後学習	象徴天皇制についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 6 回	平和国家について 教科書 pp. 104~115	事前学習	国際社会の現状と我が国の平和主義について考える。								
		事後学習	憲法九条について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。								
第 7 回	基本的人権の保障について (人権尊重の原理) 教科書 pp. 116~130	事前学習	我が国の基本的人権の基本的な考え方をまとめる。								

		事後学習	人権尊重の原理について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 8 回	基本的人権の保障について（人権の体系） 教科書 pp. 131～146	事前学習	人権の保障についてどんな課題があるか調べる。
		事後学習	人権の体系について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 9 回	基本的人権の保障について（自由権） 教科書 pp. 147～174	事前学習	自由権の内容を確認する。
		事後学習	自由権について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 10 回	基本的人権の保障について（社会権） 教科書 pp. 175～184	事前学習	社会権の内容を確認する。
		事後学習	社会権について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 11 回	権力分立について（国会①） 国会の地位と性格、両院制、国会議員の地位について 教科書 pp. 185～196	事前学習	国会議員と地方議会議員の役割の違いを考える。
		事後学習	国会議員の役割について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 12 回	権力分立について（国会②） 国会の会期、国会の議事、国会と財政、議院の権能について 教科書 pp. 196～224	事前学習	内閣の役割を確認する。
		事後学習	内閣の役割についての理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 13 回	権力分立について（内閣） 教科書 pp. 212～224	事前学習	裁判所の役割を確認する。
		事後学習	三審制について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 14 回	権力分立について（裁判所） 教科書 pp. 225～236	事前学習	憲法改正の仕組みと改正への賛否の考え方を調べる。
		事後学習	憲法改正の方法について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。
第 15 回	平和の願いと日本国憲法について	事前学習	平和を維持するために必要なことは何か考える。
		事後学習	日本国憲法全体について理解、発見、感じたことをまとめ、本時の学習ポイントを整理する。

1. 科目名 (単位数)	法学Ⅱ (民法、行政法) (4 単位)		3. 科目番号	GELA2317								
2. 授業担当教員	鈴木 収		5. 開講学期	通年								
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。											
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	<p>社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、民法 (総則・財産法・家族法) 及び行政法 (行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等) に関する基礎知識を学び、その実践に求められる能力、いわゆるリーガルマインドを習得する必要がある。</p> <p>また、法律科目の特性上、まず法律の条文を読んで理解し、適切に解釈できるようになるとともに、判例を学び、各々の法律条文がどのように解釈され、適用されているのかを理解できるようにならなければならない。そのため、この講義では、条文に当たり、判例を検討しながら学習を進めていく。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条文や判例に基づいて法律を解釈できるようになる。 2. 民法、行政法の基礎的知識を習得し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の民法、行政法科目に対応できるようになる。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	民法、行政法それぞれで 2 回のレポート提出を行う。レポート課題については、改めて知らせる。											
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】三好充他編著『ポイント法学』嵯峨野書院、2008。</p> <p>【参考書】川井健著『民法入門・第 7 版』有斐閣、2012。</p> <p>藤田宙靖著『行政法入門・第 6 版』有斐閣、2013。</p>											
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 15%</td> </tr> <tr> <td>2 中間課題レポート</td> <td>総合点の 35%</td> </tr> <tr> <td>3 期末課題レポート</td> <td>総合点の 35%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の 15%</td> </tr> </table>				1 授業への積極的参加	総合点の 15%	2 中間課題レポート	総合点の 35%	3 期末課題レポート	総合点の 35%	4 日常の学習状況	総合点の 15%
1 授業への積極的参加	総合点の 15%											
2 中間課題レポート	総合点の 35%											
3 期末課題レポート	総合点の 35%											
4 日常の学習状況	総合点の 15%											
12. 受講生へのメッセージ	学習内容を自分の日々の生活と結び付けて理解を深めるとともに、授業中積極的に発言することに心がけ学習内容について自分の考えを深め広げて、主権者としての役割を考えてほしい。											
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	権利能力 (教科書 pp.223~225)	事前学習	教科書で自然人と胎児の権利能力及び権利能力の消滅について調べる。									
		事後学習	権利能力人について理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。									
第 2 回	意思能力、行為能力、制限行為能力者制度 (教科書 pp.226~229)	事前学習	教科書で意思能力、行為能力、制限行為能力者制度について調べる。									
		事後学習	意思能力、行為能力、制限行為能力者制度に人について、ノートに補説をまとめる。									
第 3 回	成年被後見人 (教科書 pp.229~233)	事前学習	教科書で成年被後見人について調べる。									
		事後学習	成年被後見人について理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。									
第 4 回	制限能力者の相手方の保護、法人の能力 (教科書 pp.234~237)	事前学習	教科書で制限能力者の相手方の保護、法人の能力について調べる。									
		事後学習	制限能力者の相手方の保護、法人の能力について、ノートに補説をまとめる。									
第 5 回	法律行為 (教科書 pp.238~244)	事前学習	教科書で法律行為について調べる。									
		事後学習	法律行為について、理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。									
第 6 回	債権の目的・効力、多数当事者の債権および債務 (教科書 pp.244~250)	事前学習	教科書で債権の目的・効力、多数当事者の債権および債務について調べる。									
		事後学習	債権の目的・効力、多数当事者の債権および債務について、ノートに補説をまとめる。									
第 7 回	債権の譲渡・引受・消滅 (教科書 pp.250~257)	事前学習	教科書で債権の譲渡・引受・消滅について調べる。									
		事後学習	債権の譲渡・引受・消滅について理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。									

第 8 回	契約総論、契約各論（教科書 pp.257～265）	事前学習	教科書で契約総論、契約各論について調べる。
		事後学習	契約総論、契約各論について、理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。
第 9 回	不法行為（教科書 pp.265～270）	事前学習	教科書で不法行為について調べる。
		事後学習	不法行為について、理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。
第 10 回	物権、所有権（教科書 pp.270～274）	事前学習	教科書で物権、所有権について調べる。
		事後学習	物権、所有権について、理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。
第 11 回	用益物権、占有権、担保物権（教科書 pp.275～279）	事前学習	教科書で用益物権、占有権、担保物権について調べる。
		事後学習	用益物権、占有権、担保物権について、理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。
第 12 回	保物件の先取特権・質権・抵当権・仮登記担保（教科書 pp.279～285）	事前学習	教科書で担保物件の先取特権・質権・抵当権・仮登記担保について調べる。
		事後学習	担保物件の先取特権・質権・抵当権・仮登記担保について、ノートに補説をまとめる。
第 13 回	親族と法（教科書 pp.286～294）	事前学習	教科書で親族と法について調べる。
		事後学習	親族と法について、理解を深めるために、ノートに補説をまとめる。
第 14 回	相続と法（教科書 pp.294～301）	事前学習	教科書で相続と法について調べる。
		事後学習	相続と法について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 15 回	民法のまとめ	事前学習	民法について、ポイントをノートにまとめる。
		事後学習	民法の学習について、感想をノートにまとめる。
第 16 回	行政活動と法（教科書 pp.117～119）	事前学習	教科書で行政活動と法について調べる。
		事後学習	行政活動と法について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 17 回	行政活動と法規制（教科書 pp.119～122）	事前学習	教科書で行政活動と法規制について調べる。
		事後学習	行政活動と法規制について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 18 回	行政による活動基準の設定、行政上の計画（教科書 pp.122～126）	事前学習	教科書で行政による活動基準の設定、行政上の計画について調べる。
		事後学習	行政による活動基準の設定、行政上の計画について、ノートに補説をまとめる。
第 19 回	行政行為の意義と特色、行政裁量（教科書 pp.126～130）	事前学習	教科書で行政行為の意義と特色、行政裁量について調べる。
		事後学習	行政行為の意義と特色、行政裁量について、ノートに補説をまとめる。
第 20 回	行政行為の種別、附款、瑕疵（教科書 pp.130～135）	事前学習	教科書で行政行為の種別、附款、瑕疵について調べる。
		事後学習	行政行為の種別、附款、瑕疵について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 21 回	行政行為の取消しと撤回、行政手続（教科書 pp.135～139）	事前学習	教科書で行政行為の取消しと撤回、行政手続について調べる。
		事後学習	行政行為の取消しと撤回、行政手続について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 22 回	行政指導、行政上の契約（教科書 pp.139～142）	事前学習	教科書で行政指導、行政上の契約について調べる。
		事後学習	行政指導、行政上の契約について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 23 回	行政強制、行政罰（教科書 pp.142～145）	事前学習	教科書で行政強制、行政罰について調べる。
		事後学習	行政強制、行政罰について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 24 回	行政救済法の体系、行政上の不服申立て、不服申立ての提起（教科書 pp.145～149）	事前学習	教科書で行政救済法の体系、行政上の不服申立て、不服申立ての提起について調べる。
		事後学習	行政救済法の体系、行政上の不服申立て、不服申立ての提起について、ノートに補説をまとめる。
第 25 回	不服申立ての審理、不服申立てに対する判断（教科書 pp.149～151）	事前学習	教科書で不服申立ての審理、不服申立てに対する判断について調べる。
		事後学習	不服申立ての審理、不服申立てに対する判断について、ノートに補説をまとめる。

第 26 回	行政訴訟の意義、類型（教科書 pp.151～156）	事前学習	教科書で行政訴訟の意義、類型について調べる。
		事後学習	行政訴訟の意義、類型について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 27 回	国家賠償の意義、国賠法 1 条の責任（教科書 pp.156～160）	事前学習	教科書で国家賠償の意義、国賠法 1 条の責任について調べる。
		事後学習	国家賠償の意義、国賠法 1 条の責任について、ノートに補説をまとめる。
第 28 回	国賠法 2 条の責任、損失補償の意義・根拠（教科書 pp.160～163）	事前学習	教科書で国賠法 2 条の責任、損失補償の意義・根拠について調べる。
		事後学習	国賠法 2 条の責任、損失補償の意義・根拠について、にノートに補説をまとめる。
第 29 回	損失補償の要件・内容（教科書 pp.163～165）	事前学習	教科書で損失補償の要件・内容について調べる。
		事後学習	損失補償の要件・内容について、理解を深めるためにノートに補説をまとめる。
第 30 回	結果責任に基づく損害の填補、予防接種禍事件（教科書 pp.166～169）	事前学習	教科書で結果責任に基づく損害の填補、予防接種禍事件について調べる。
		事後学習	結果責任に基づく損害の填補、予防接種禍事件について、ノートに補説をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1116 GELA1316								
2. 授業担当教員	鈴木 収										
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション(学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等)を伴ったものにする。	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶ、いわゆる「法学入門」に相当するものである。</p> <p>この講義では、法学をはじめて学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。</p> <p>この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としていますが、学習範囲がかなり広いので、深く突込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになり、また、事前・事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。 										
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	2回のレポート提出を行う。レポート課題については、改めて知らせる。										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】三好充・鈴木義孚編著『ポイント法学』嵯峨野書院、2008。</p> <p>【参考書】末川博編『法学入門 第六版』有斐閣双書、2009。</p>										
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の15%</td> </tr> <tr> <td>2 中間課題レポート</td> <td>総合点の35%</td> </tr> <tr> <td>3 期末課題レポート</td> <td>総合点の35%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の15%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の15%	2 中間課題レポート	総合点の35%	3 期末課題レポート	総合点の35%	4 日常の学習状況	総合点の15%
1 授業への積極的参加	総合点の15%										
2 中間課題レポート	総合点の35%										
3 期末課題レポート	総合点の35%										
4 日常の学習状況	総合点の15%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>法学概論は、諸法令の基礎にある知識や考え方を習得する重要な科目である。予習、復習をして授業に臨んでもらいたい。</p> <p>また、憲法については、条文や判例を読んでその背景を判断するという難しい作業のほかに、学生の皆さんが持っている価値観や人間観が問われるものであることを学んでほしい。</p>										
13. オフィスアワー	講義の中で通知するが、研究室在席中はいつでも受け付ける。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション(講義概要の説明) 「1 法とは何か」(教科書 pp.1~7)	事前学習	インターネットなどで社会秩序維持の理念を知る。								
		事後学習	法と道徳の違いについてノートにまとめる。								
第2回	第1章 法学へのさそい 「2 法源」(教科書 pp.7~14)	事前学習	テキストから法の発展の歴史を覚える。								
		事後学習	成文法と不文法についてノートにまとめる。								
第3回	第1章 法学へのさそい 「3 法の体系」(教科書 pp.14~18)	事前学習	国法形式をつかむ。								
		事後学習	行政機関の立法権限についてノートにまとめる。								
第4回	第1章 法学へのさそい 「4 法の効力」(教科書 pp.18~21)	事前学習	法の妥当性と実効性を知る。								
		事後学習	実際社会で法は守られているかについてノートにまとめる。								
第5回	第1章 法学へのさそい 「5 法の適用と解釈」(教科 pp.21~25)	事前学習	法の適用の仕方を覚える。								
		事後学習	いくつかの解釈方法についてノートにまとめる。								
第6回	第2章 統治と法 「1 憲法の基礎」(教科書 pp.26~33)	事前学習	日本国憲法の三大原理をつかむ。								
		事後学習	明治憲法との違いについてノートにまとめる。								
第7回	第2章 統治と法 「2 国民主権と天皇制」「3 立法と国会」 (教科書 pp.34~50)	事前学習	権力分立の必要性を知る。								
		事後学習	諸国の政治組織の違いについてノートにまとめる。								
第8回	第2章 統治と法 「4 行政と内閣」「5 司法と裁判所」 (教科書 pp.50~64)	事前学習	内閣の権限を覚える。								
		事後学習	裁判所の役割についてノートにまとめる。								
第9回	第3章 人権と法 「1 人権の基礎」(教科書 pp.65~83)	事前学習	基本的人権と市民革命の歴史をつかむ。								
		事後学習	人権思想についてノートにまとめる。								
第10回	第3章 人権と法 「2 自由と人権」(教科書 pp.83~96)	事前学習	自由権の種類を調べる。								
		事後学習	自由権の特質第3章 人権と法 「2 自由と人権」(教科書 pp.83~96)についてノートにまとめる。								

第 1 1 回	第 3 章 人権と法 「3 社会権と人権」「4 受益権と人権」 「5 参政権と人権」(教科書 pp.97~116)	事前学習	社会権の概要を調べる。
		事後学習	受益権と参政権についてノートにまとめる。
第 1 2 回	行政法の基礎 (教科書 pp.117~145)	事前学習	行政法の対象を覚える。
		事後学習	法治行政についてノートにまとめる。
第 1 3 回	刑法の基礎 (教科書 pp.170~179)	事前学習	刑法の基礎理論をつかむ。
		事後学習	罪刑法定主義についてノートにまとめる。
第 1 4 回	民法の基礎 (教科書 pp.223~244)	事前学習	民法の適用範囲を知る。
		事後学習	法律行為自由の原則についてノートにまとめる。
第 1 5 回	法学概論のまとめ (講義・質疑応答)	事前学習	多面的法律関係をつかむ。
		事後学習	いちばん関心の深い法令の内容説明をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	簿記 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2132
2. 授業担当教員	武田 嘉孝		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、問題演習などを併用し、期末に試験を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「簿記」履修後、「会計学」を履修すると理解力は増大する。		
7. 講義概要	<p>簿記は、事業経営における日々の取引を記録し、経営成績や財政状態を把握するための財務諸表にまとめるための基礎部分を構成する、実務的には非常に重要な部分を占めるものです。簿記を学ぶ上では、机上で学ぶことに加え、実際に手を動かし、電卓を叩いて、実践することが大切です。</p> <p>この講座では、1 コマ目の前半 30 分間を用いて、毎回確認テストを行い、確認テストを解説した上で、2 コマ目で新たな分野を学習します。</p> <p>この講座を受講する学生は、毎回電卓 (できれば 10 ケタ以上の電卓を用意して欲しい) を持参して下さい。</p>		
8. 学習目標	<p>1、簿記の仕組みを理解し、簡単な仕訳を正確にできるようになる。</p> <p>2、財務諸表の仕組みを理解し、自分で作成できるようになる。</p> <p>3、日商簿記 3 級程度の内容を理解できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメント及びレポートについては、時には提出を求めることがある。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 武田嘉孝著『簿記原理』中部日本教育文化会、2011。 渡部・片山・北村編著『簿記ワークブック 3 級商業簿記』中央経済社、2016。</p> <p>【参考書】 授業内で適宜指示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1、授業態度 (質問、出席態度など) 10%</p> <p>2、確認テスト 30%</p> <p>3、期末テスト 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	授業をただ受動的に聴くだけでは簿記の技法は身に付くものではない。ワークブックおよびテキストに示した重要項目の処理方法を、その通りに実施することによって身につけられる。学ぶよりも真似ることが重要。		
13. オフィスアワー	授業中に別途通知する。不明箇所があったらその時間が終了後に必ず質問に来るようにしてほしい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション(講義概要の説明) 簿記の意義	事前学習	簿記学習の心構えを話をする。
		事後学習	勘定と勘定科目の意味を理解させる。
第 2 回	財産の変動と貸借対照表	事前学習	資産・負債・純資産の勘定を覚える。
		事後学習	財政状態の意義・貸借対照表の役割を知る。
第 3 回	収益・費用の発生と損益計算書	事前学習	損益計算書の性格を知っておく。
		事後学習	損益計算書に計上される勘定の種類を学ぶ。
第 4 回	簿記上の取引	事前学習	貸借対照表と損益計算書の仕組みを把握。
		事後学習	取引要素の結合関係を学習する。
第 5 回	取引の仕訳と勘定への記入	事前学習	借方、貸方に記入される勘定を覚える。
		事後学習	仕訳帳と総勘定元帳の記帳方法を知る。
第 6 回	精算表 (6 桁) の作成	事前学習	残高試算表と B/S と P/L の記入。 残高試算表と他の二つが連結することを理解する。
		事後学習	元帳の残高～精算表を作成し、締切法も知る。
第 7 回	元帳決算 (元帳の締切)	事前学習	元帳の閉め切る手順を理解させる。
		事後学習	純利益を資本金に振返る手続きを覚える。
第 8 回	記帳練習 (上記の練習問題)	事前学習	記帳の仕方を調べてくる。
		事後学習	記帳練習を復習する。
第 9 回	工業簿記の基礎 (特色)	事前学習	工業簿記の特色を調べる。
		事後学習	工業簿記の記帳の対象をまとめる。
第 10 回	原価の 3 要素	事前学習	原価の要素には何があるか調べる。
		事後学習	原価の 3 要素とは何かをまとめる。
第 11 回	原価と原価計算	事前学習	原価計算期間、原価計算の分類を調べる。
		事後学習	原価の構成、発生・製品・操業度から分類する。
第 12 回	工業簿記の構造	事前学習	原価要素の処理方法について調べる。
		事後学習	製品完成から販売にいたる処理をまとめる。
第 13 回	工業簿記総合復習問題 1	事前学習	総合復習練習 1 を解答する。
		事後学習	総合復習練習 1 を解説する。
第 14 回	工業簿記総合復習問題 2	事前学習	総合復習練習 2 を解答する。
		事後学習	総合復習練習 2 を解説する。

第 1 5 回	現金と預金	事前学習	現金・預金の範囲を調べる。
		事後学習	小口現金出納帳などの記帳法を理解する。
第 1 6 回	債権・債務処理	事前学習	債権・債務の種類を調べる。
		事後学習	各種関連問題の記帳練習をし、理解を深める。
第 1 7 回	商品有高帳	事前学習	各種処理方法の知識を整理する。
		事後学習	売上原価、期末商品棚卸高の金額を確かめる。
第 1 8 回	約束手形と為替手形	事前学習	手形の種類と約手・為手の違いを調べる。
		事後学習	仕訳練習により、両者の違いを理解する。
第 1 9 回	減価償却	事前学習	減価償却の意義を知っておく。
		事後学習	計算方法と仕訳方法を理解する。
第 2 0 回	貸倒れの見積り	事前学習	貸倒れの意味を調べる。
		事後学習	差額補充法を理解できるようにする。
第 2 1 回	有価証券の処理	事前学習	時価主義による評価替えの必要性を調べる。
		事後学習	処理方法を具体的な問題練習で知っておく。
第 2 2 回	商品評価損と棚卸減耗損	事前学習	期末実地棚卸による商品の金額を修正する意味を知っておく。
		事後学習	商品評価損と棚卸評価損の計算法を覚える。
第 2 3 回	売上原価の計算と期末修正仕訳	事前学習	商品勘定 3 分法による売上原価の計算の必要性を知っておく。
		事後学習	仕入勘定で売上原価を計算するための修正仕訳をしっかりと理解しておく。
第 2 4 回	決算整理事項の総括	事前学習	決算修正仕訳の種類を列挙する。
		事後学習	各種の決算修正仕訳を知る。
第 2 5 回	費用収益の見越しと繰延べ	事前学習	期間損益計算の必要性を調べる。
		事後学習	見越しと繰延べの意味と整理仕訳を理解させる。
第 2 6 回	決算産整理事項の仕訳から精算表への記入	事前学習	精算表への修正記入項目の整理をする。
		事後学習	精算表の作成方法を理解する。
第 2 7 回	8 桁精算表の作成	事前学習	修正欄への記帳練習をする。
		事後学習	精算表の各種縮切り方法を理解する。
第 2 8 回	精算表の記帳練習 1	事前学習	精算表の作成書式の違いの練習をする。
		事後学習	縮め切り方法に違いがあることを覚える。
第 2 9 回	精算表の記帳練習 2	事前学習	精算表の出題問題には、逆進問題がある。この解き方を練習する。
		事後学習	全体的な精算表の解き方を知ることが出来る。
第 3 0 回	精算表の記帳練習 3	事前学習	8 桁精算表の総合問題を練習する。
		事後学習	8 桁精算表の全体的な問題に対応できるようにする。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保健医療 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP1302
2. 授業担当教員	中野 一茂		SSMP1102
4. 授業形態	講義、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む。)や保健医療サービスについて理解する。 ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 ・医療ソーシャルワーカーの多くが所属する組織である「病院」についての理解を深めると同時に、組織とソーシャルワークの関連を理解する。 ・医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスの各専門職の役割および連携についての、基礎的な知識を踏襲する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるようになる。 2. 診療報酬の概要を理解し、説明することができるようになる。 3. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携について理解し、説明することができるようになる。 4. 医療を取り巻く現状について理解し、説明することができるようになる。 5. 病院のしくみについて理解し、説明することができるようになる。 6. 組織とソーシャルワークの関連について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>毎回、講義内容の振り返りシートの作成と同時に最近の保健医療分野や社会の状況についての各自が関心を持った記事やニュースについてコメントを書くこと。</p> <p>レポート課題1：地域福祉・地域医療が重要視されるようになった理論的背景である「ノーマライゼーション」について調べる (A4 2枚程度)</p> <p>レポート課題2：「医療と介護の連携とはどのようなものか」現在の医療制度と介護保険制度のつながりは実際にどのように行われているのか、その具体的な状況を自分の言葉でまとめる (pp.176~184の事例④~⑫をもとにして A4 2枚程度)。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>期末試験 60%</p> <p>レポート課題1・2 40%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>保健医療政策の動向や社会情勢について理解することは重要である。この講義を受講する前提として、常に新聞やニュース等を確認することを勧めたい。毎回、講義の時には講義内容の振り返りシートの作成と同時に最近の保健医療分野や社会の状況についての各自が関心を持った記事やニュースについてコメントを書いてもらうことにする。教科書上の学習と実際の生活との接点を見出せることが、保健・医療・福祉の理解を深めていくことに繋がっていく。利用者・患者の QOL の向上に貢献できるソーシャルワーカーのあり方について一緒に考えていきたい。</p> <p>[出欠席について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず遅刻・早退する場合は、その理由を申し出ること。 ・出席不足となった場合は、本学の学則に従って対応する。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間、これ以外の時間については、教務課に相談しアポイントを取ること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(講義概要の説明) ・保健医療サービス分野での利用者(患者・家族)を理解するとは? ・医療機関という「場」とは?	事前学習	医療機関という「場」について考えをまとめてくる。
		事後学習	患者を理解するとはどのようなことを指すかをノートにまとめること。
第2回	保健医療サービスの担い手を理解する ・各医療専門職の役割 ・医療ソーシャルワーカーの役割	事前学習	テキスト pp.16~28 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの役割とその視点についてノートにまとめること。
第3回	医療ソーシャルワーカー業務指針 ・医療ソーシャルワーカー業務指針ができるまでの歴史 ・医療ソーシャルワーカー業務指針の意味・概要	事前学習	テキスト pp.30~40 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	医療ソーシャルワーカー業務指針改訂が行われた背景についてノートにまとめること。
第4回	保健医療サービス機関を理解する ・医療施設の概要(医療法上における医療機関の分類) ・診療報酬による病床の分類、医療機関の組織	事前学習	テキスト pp.44~52 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	医療施設の類型と医療機関の機能分化をノートにまとめること。
第5回	保健医療サービス制度体系を理解する① ・医療保険制度の概要(各種公的医療保険、公的負担医療)	事前学習	テキスト pp.55~66 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	自身の加入している医療保険は何かを調べる。
第6回	保健医療サービス制度体系を理解する② ・診療報酬制度の意味とその概要について	事前学習	テキスト pp.68~77 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。

		事後学習	患者が入院した場合の医療費がどのようなプロセスを経て医療機関に支払われていくかを時系列に書き出すこと。
第 7 回	保健医療サービス制度体系を理解する③ ・医療保険制度と介護保険制度の関係 (医療制度改革の変遷、医療と介護の連携、後期高齢者医療制度と介護保険の関係)	事前学習	テキスト pp.78~86 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	第 4 次医療制度改革後の患者は医療保険と介護保険をどのように使い分けていくことになったかノートにまとめること。
第 8 回	保健医療サービス制度体系を理解する④ ・保健医療対策の概要 (医療供給体制・地域保健サービス体系・母子保健医療対策・メタボリックシンドローム予防のための特定健診と特定保健指導)	事前学習	テキスト pp.88~93 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	医療法の中の医療提供体制についてノートにまとめること。
第 9 回	保健医療サービス関係者との連携の実際① ・各医療関連専門職種との連携の意味について (医師・看護師・保健師・理学療法士と作業療法士・薬剤師) ・患者の治療と療養生活支援のための連携	事前学習	テキスト pp.95~105 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	各医療関連専門職種との「地域連携パス」の具体的な流れを図示しておくこと。
第 10 回	保健医療サービス関係者との連携の実際② ・チーム医療における連携 (栄養サポートチーム・緩和ケアチーム・退院支援チーム・当事者参加型チーム・市民参加型チーム) ・地域医療における連携	事前学習	テキスト pp.106~117 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	ホームページを持っている自身の地域の医療機関を探し、どのような院内・地域連携を行っているか調べておくこと。
第 11 回	保健医療サービス関係者との連携の実際③ ・地域の社会資源との連携 (社会資源とは何か・調査と収集・社会資源活用と留意点など)	事前学習	テキスト pp.118~129 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	自身の地域の社会資源を調べて整理し分類しておくこと。
第 12 回	保健医療サービスにおける今後の課題と展望① ・保健医療サービスにおける今後の課題と展望 ・社会サービスとしての保健医療サービスの必要性 ・医療サービスの拡大と医療費の増大 ・保健医療サービスの利用が困難な人々	事前学習	テキスト pp.131~141 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	課題 1 : 地域福祉・地域医療が重要視されるようになった理論的背景である「ノーマライゼーション」について調べる (A4 2 枚程度)
第 13 回	保健医療サービスにおける今後の課題と展望② ・地域・在宅医療に向けて ・在宅医療ソーシャルワーク ・地域医療ソーシャルワーク、この実践に求められるもの	事前学習	テキスト pp.142~155 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	退院援助に至るプロセスにそって行われる在宅医療ソーシャルワークについてノートにまとめること。
第 14 回	保健医療分野での事例学習① ・医療ソーシャルワーカーの働き ・医療ソーシャルワークを展開するための心構え ・心構えを実現するための技法について	事前学習	テキスト pp.157~168 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	課題 2 : 解決構築アプローチで支援を行う上での三原則について具体的な場面を考えて説明すること (A4 2 枚程度)
第 15 回	保健医療分野での事例学習② ・機関別医療ソーシャルワーカーの働き (特定機能病院・一般病院・総合リハビリテーションセンター・回復期リハビリテーション病院・地域医療支援病院・在宅療養支援診療所など)	事前学習	テキスト pp.170~183 を熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。
		事後学習	機関別医療機関の事例を再読すること。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1330
2. 授業担当教員	渡邊 保志			
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1 年次以上			
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに見直され、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。 4. ボランティアコーディネーターに求められているボランティア指導の方法を理解することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末レポート課題：ボランティアの文化性について、各自の考えを述べて下さい。 字数は、800 字以上 1200 字以内。 ・ 実地見学報告レポート 字数は、400 字以上 ワープロ (A4)、あるいは手書き。ただし、手書きの場合、原稿用紙とする。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 講義内容を簡潔に示したプリント、及び随時、資料を配布する。</p> <p>【参考書】 川村匡由編著『ボランティア論』ミネルヴァ書房、2006 年。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005 年。 安藤雄太監修『ボランティアまるごとガイド』ミネルヴァ書房、2002 年。</p>			
11. 成績評価の方法	成績評価は日常の授業参加度 (日常の授業態度及び実地見学報告含) と期末レポートによる。 授業参加度 70%、レポート 30%			
12. 受講生への メッセージ	出会いの時ボランティアの始まり。可能な限り何らかの形で地域のボランティア活動に参加するよう心がけて下さい。通知 (確認) 事項等は、随時、授業中にお伝えします。			
13. オフィスアワー	授業時間の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) スケジュールの確認	事前学習	学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。	
		事後学習	オリエンテーション・スケジュールの要点を確認すること。	
第 2 回	ボランティア活動の概念	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	ボランティアの理念について各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。	
第 3 回	ボランティア活動の目的	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	ボランティアの目的について各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。	
第 4 回	ボランティア活動の活動範囲・事例	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	事例を通して学び、感じたことを学習ノートにまとめる。	
第 5 回	ボランティア活動の内容	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	講義とプリント (ボランティアの分類等) との関連を再確認する。	
第 6 回	海外のボランティア活動の沿革	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	講義とプリント (欧米のボランティアの沿革等) との関連を再確認する。	
第 7 回	日本のボランティア活動の沿革	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	講義とプリント (戦後ボランティアの沿革等) との関連を再確認する。	
第 8 回	企業、労働組合のボランティア活動	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。	
		事後学習	講義とプリント (企業の社会貢献等) との関連を再確認する。	

第 9 回	社会福祉協議会、NPOと有償ボランティア	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	講義とプリント（NPO等）との関連を再確認する。
第 10 回	病院ボランティア	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	講義とプリント（ホスピス）との関連を再認識する。
第 11 回	災害ボランティア・東日本大震災でのボランティア	事前学習	プリントを読んで、要点を学習ノートにまとめる。東日本大震災でどのようなボランティア活動が実践されたかを調べる。
		事後学習	リアルタイムでボランティア活動が実践されていることを再確認する。
第 12 回	実地見学 地域活動とボランティア 見学予定：一般社団法人愛知県聴覚障害者協会	事前学習	実地見学先の活動について調べる。各自が質問を一つ以上考えておく。
		事後学習	実地見学先での講話内容等を学習ノートにまとめる。
第 13 回	実地見学報告とディスカッション	事前学習	実地見学報告レポートを作成する。
		事後学習	各報告レポートとディスカッションの要点を学習ノートにまとめる。
第 14 回	ボランティア活動の内容（まとめ）	事前学習	ボランティア論での学びを振り返り、学習ノート・プリントを整理確認する。
		事後学習	ボランティアの文化性についてまとめる。
第 15 回	期末レポート提出（講評等）	事前学習	期末レポート提出の準備を行う。
		事後学習	ボランティアは、何よりも実践することにより、はじめて理論的にも理解できるものであることを再確認し、今後の活動に生かす。

1. 科目名 (単位数)	マーケティング論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2133
2. 授業担当教員	城田 吉孝			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目履修後に、「経営戦略論」および「経営組織論」を引き続き履修することが望ましい。			
7. 講義概要	企業は自社の標的市場を確定し、市場需要の創造・開拓・拡大を図るために製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策を展開していることを学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティング戦略の体系を理解する 2. マーケティングリサーチの役割を理解する 3. 4 P (product, price, promotion, place) について理解する 4. 企業の社会的責任について理解する 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> (1) マクドナルドのマーケティング戦略について考える。 (2) 自社の売り上げの一部を寄付している会社、地域貢献をしている会社の活動内容を調べてみよう。 (3) 身近な社会福祉法人の特徴について調べてみよう。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 城田吉孝著『ポイントマーケティング情報論』中部日本教育文化会、2015。</p> <p>【参考書】 宮澤永光・城田吉孝・江尻行男 編『現代マーケティングその基礎と展開』ナカニシヤ出版、2009。 西田安慶・城田吉孝 編『マーケティング戦略論』学文社、2011。 上田隆徳・青木幸弘 著『マーケティングを学ぶ (上) 一売れる仕組み』中央経済社、2008。</p>			
11. 成績評価の方法	授業中の態度・意欲	20%	課題レポート	30%
	期末試験	50%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は、下記のことを守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業には欠席、遅刻、早退はしないこと (欠席、遅刻、早退の場合は、その理由を書面にて提出のこと)。 ②授業中理解できなかったことは、そのまま放っておかず質問すること。 ③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチは切っておくこと。 ④授業中は緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 ⑤課題の提出期限を厳守すること。 			
13. オフィスアワー	第1回の授業時に伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	第1章	マーケティングの概念と役割	事前学習	p. 5 の企業経営におけるマーケティング役割についてまとめること。
			事後学習	マーケティング重視の背景と適用の拡大まとめること。
第2回	第2章	マーケティング戦略: マネジリアルマーケティングの成立経過と展開	事前学習	p. 13 のマネジリアルマーケティングの成立経過について読みまとめること。
			事後学習	マーケティング戦略の展開についてまとめること。
第3回	第2章	マーケティング戦略: マーケティングミックス	事前学習	pp. 26~28 を読み製品、場所、プロモーション、価格についてまとめること。
			事後学習	競争対応を読みまとめること。
第4回	第3章	製品情報	事前学習	p. 38 の第1節製品の意義と分類についてまとめること。
			事後学習	p. 39 の第3節サービスマーケティングについてまとめること。
第5回	第4章	ブランド情報: 第1節ブランドの定義、第2節ブランド商標、製品開発とブランド構築	事前学習	第1節ブランドの定義と役割についてまとめること。
			事後学習	第2節製品開発とブランド構築の関係をまとめること。
第6回	第4章	ブランド情報: ブランドエクイティ	事前学習	p. 53 のブランドエクイティの概要をまとめること。
			事後学習	ブランド戦略についてまとめること。
第7回	第5章	価格情報	事前学習	p. 72 の価格決定の基本的な方法についてまとめること。
			事後学習	価格政策についてまとめること。
第8回	第6章	チャネル情報	事前学習	p. 85 のチャネル役割についてまとめること。
			事後学習	チャネル政策についてまとめること。
第9回	第7章	プロモーション情報	事前学習	p. 93 の広告・パブリシティ・広報の意味についてまとめること。
			事後学習	広告の機能と種類についてまとめること。
第10回	第8章	マーケティング情報	事前学習	p. 111 を読みマーケティング情報システムについてまとめること。
			事後学習	マーケティングリサーチの研究系譜についてまとめること。

第 1 1 回	第 9 章 マーケティングリサーチの役割	事前学習	p. 127 を読みマーケティングリサーチの意味をまとめること。
		事後学習	マーケティングリサーチの役割についてまとめること。
第 1 2 回	第 1 0 章 マーケティングリサーチの範囲 第 1 1 章 マーケティングリサーチの方法	事前学習	p. 130 を読みマーケティングリサーチの範囲についてまとめること。
		事後学習	p. 139 を読みマーケティングリサーチの方法をまとめること。
第 1 3 回	第 1 2 章 調査票の設計 第 1 3 章 標本調査	事前学習	p. 149 を読み質問文の注意点をまとめること。
		事後学習	標本数の決め方をまとめること。
第 1 4 回	第 1 4 章 データ分析と調査結果の報告、 マーケティング課題と展望	事前学習	p. 162 のデータ分析の要点をまとめること。
		事後学習	調査結果の報告書の注意点をまとめること。
第 1 5 回	第 1 5 章 コーズリレーテッドマーケティング	事前学習	p. 167 を読みコーズリレーテッドマーケティングの課題をまとめること。
		事後学習	コーズリレーテッドマーケティングについてまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	養護教育学 (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2301
2. 授業担当教員	辻 立世			
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>児童生徒の健康課題が多様化する中、平成 20 年中央教育審議会答申における養護教諭に関する記述からは、その専門性に対する期待の大きさを読み取ることができる。養護教諭の職務は、学校教育法 37 条 12 項において「養護教諭は児童の養護をつかさどる」と記されており、他の教職員にはない独自の活動を理解し、これを展開することのできる力量を形成することは、養護教諭を目指す者にとって大変重要である。本講義では、養護教諭の歴史の変遷や、その固有の職務内容を概観することにより、「養護教諭の実践する養護とは何か」を、明らかにしていく。また、学校保健領域における養護教諭の具体的実践について学び、取り組みの基本的スタンスを身につける。</p>			
8. 学習目標	<p>① 養護教諭の歴史の変遷を理解し、学校教育に果たす養護教諭の役割について説明することができる。 ② 養護の概念を体得するとともに、養護教諭独自の活動の展開について、具体的に考えることができる。 ③ 子どもが主体の学校教育を基本として、効果的な保健教育活動のあり方について説明することができる。 ④ 保健室の機能と養護教諭の活動過程を理解し、これから時代に必要とされる養護教諭の基本的スタンスを身につける。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1 課題レポート：養護教諭の平成 9 年保体審以降の職務と役割について説明しなさい。 2 課題レポート：保健室経営と運営のありかたについて、考えを述べなさい。 3 課題レポート：養護教諭の職の特質を健康相談に活かすとは何かを説明しなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】三木とみ子編著『四訂 養護概説』ぎょうせい、2009 年、3,600 円 (税込)。 教科担当者が作成した資料 【参考書】采女智津江他編『新養護概説 第 8 版』少年写真新聞社、2015 年、2,592 円 (税込)。 岡田加奈子・河田史宝編著『養護教育のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論』東山書房、2016 年、2,500 円 (税抜)。</p>			
11. 成績評価の方法	授業態度 (発表、発言内容など)	30%		
	レポート、期末試験	50%		
	事前・事後の学習の到達度	20%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>小・中学生の時、「養護の先生は、保健室で何をしているんだろう」と思ったことはないだろうか。養護教諭の活動は非常に多岐にわたっている。外から見えにくい部分もあるが、自分の「創造力」により、様々な方法で子どもにアプローチし、保健活動を進めていけることも少なくない。 養護教諭には、子どもの観察力や、決断力、健康問題を敏感につかみ取る力も必要である。すべては「子どもを愛する心」が基盤だと私は信じている。「養護をつかさどる」意味を考え、養護教諭に必要な資質を備えることを目指し、一緒に考え、学んでいきたい。</p>			
13. オフィスアワー	講義の前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の解説) 養護の本質と概念 教育と養護	事前学習	養護教諭を目指す理由について発表できるようにしておく。	
		事後学習	講義の復習をしておく。	
第 2 回	養護教諭制度の沿革と変遷について	事前学習	養護教諭の前進がどのように生まれたかを調べてくる。	
		事後学習	平成 9 年以降の役割の変遷をまとめる。	
第 3 回	教育に果たす養護教諭の役割 学校保健活動と養護教諭	事前学習	養護教育学の目的について考えてくる。	
		事後学習	教育に果たす養護教諭の役割が理解できたか振り返る。	
第 4 回	養護教諭の職務推進の基本と実際① 保健室の経営と運営 機能する保健室とは	事前学習	保健室の備品を調べてくる。	
		事後学習	保健室の見取り図を描いてくる。	
第 5 回	養護教諭の職務推進の基本と実際② 救急処置の進め方 危機管理	事前学習	学校での救急処置とは何かを考えてくる。	
		事後学習	危機管理の重要性をまとめて書く。	
第 6 回	養護教諭の職務推進の基本と実際③ 健康診断	事前学習	健康診断の準備について考えておく。	
		事後学習	情報の収集と活用についてまとめておく。	
第 7 回	養護教諭の職務推進の基本と実際④ 健康観察 疾病予防	事前学習	健康観察の必要性を考えてくる。	
		事後学習	健康観察の実際例を想定して書く。	
第 8 回	養護教諭の職務推進の基本と実際⑤ 保健教育とヘルスプロモーション 保健指導の基本	事前学習	ヘルスプロモーションについて調べてくる。	
		事後学習	ヘルスプロモーションの理念に立った授業を考える。	
第 9 回	養護教諭の職務推進の基本と実際⑥ 保健学習と養護教諭	事前学習	ヘルスプロモーションの理念に立った授業を考える。	
		事後学習	仮想指導案を立ててみる。	
第 10 回	保健指導 健康相談活動	事前学習	保健指導の場について考えてくる。	
		事後学習	養護教諭の職の特質を健康相談に生かすとは何かをまとめる。	

第 1 1 回	組織活動と連携 児童生徒委員会活動	事前学習	児童生徒の委員会活動年間計画を立ててみる。
		事後学習	一例を挙げ、連携し対応した事項についてまとめる。
第 1 2 回	学校環境衛生活動と養護教諭	事前学習	環境衛生活動の意義を考えてくる。
		事後学習	主な環境衛生基準を覚える。
第 1 3 回	食の指導と養護教諭	事前学習	食育とは何かを考えてくる。
		事後学習	アレルギーへの対応についてまとめる。
第 1 4 回	養護教諭と学校安全活動 安全活動と危機管理	事前学習	安全活動が重要視されてきた理由を考えてくる。
		事後学習	学校保健のコーディネーターとは何かをまとめる。
第 1 5 回	養護教諭に必要な資質能力 まとめ	事前学習	養護教諭にどんな資質が必要か考え、質問事項をまとめてくる。
		事後学習	養護教諭の職務と役割が理解できたかを振り返る。

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS3305 SBMP3331 SSMP3331 PSMP3134
2. 授業担当教員	長坂 正文		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	人格心理学・心理療法概説を履修・修得することが望ましい。		
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する (A4 用紙 2 枚、2,400 字以上)。 <ol style="list-style-type: none"> 1 春期・青年期の心理的問題 2 子どもの遊戯療法事例 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 丸島令子・日比野英子編著『臨床心理学を基本から学ぶ』北大路書房、2004 年。</p> <p>【参考書】 下山晴彦編『改訂新版 よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房、2009 年。</p> <p>【教材】 毎回資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加の積極性、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加 (態度、発表) 50% ・レポート (2 回) 50% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は、全体像が分かり、読みやすいものを採用したので、しっかり勉強して、基本的な知識を身につけてほしい。 ・臨床心理学は、カウンセラーなどを目指す心理学部の学生には必ず役立つであろう。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の解説)	事前学習	テキストのまえがきと目次を読み、概略を理解する。
		事後学習	興味をもった内容についてテキスト・辞典で調べてノートにまとめる。
第 2 回	臨床心理学とは何か (臨床心理学の来た道、おもな学問分野、アセスメントと心理療法・援助の技法)	事前学習	テキスト pp.1~9 臨床心理学の 3 つの柱について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「精神分析」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 3 回	無意識と欲動の心理学 (心的装置、リビドー、心の葛藤と防衛、フロイトの発達論)	事前学習	テキスト pp.9~16 を読み、フロイトの発達論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「局所論」「構造論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 4 回	自我心理学 (自我心理学への展開、分離・個性化理論、心理・社会的発達論)	事前学習	テキスト pp.16~27 を読み、エリクソンのライフサイクルの発達論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「モラトリアム」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 5 回	対象関係の心理学 (分析心理学、対象関係論、クライン、ウィニコット)	事前学習	テキスト pp.27~37 を読み、分析心理学、対象関係論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「原始的防衛機制」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 6 回	共感の心理学 (共感とは、カウンセリングにおける共感、マイクロカウンセリング、かかわり技法、積極的技法、	事前学習	テキスト pp.37~48 を読み、クラインエント中心療法について理解し、疑問点を明確にしておく。

	閉じられた質問・開かれた質問)	事後学習	「カウンセラーの3条件」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第7回	実習（事例研究：インシデント・プロセス方式）	事前学習	インシデント・プロセス方式について調べて理解しておく。
		事後学習	事例および事例研究について感想をノートにまとめ提出する。
第8回	乳幼児期から児童期の子どもの心と心のつまずき（フロイトによる心理・性的発達論、エリクソンによる心理・社会的自我発達論、その他の精神力学的発達理論、臨床心理学と発達心理学の出会い）	事前学習	テキスト pp.49～62 を読み、フロイトの心理・性的発達論とエリクソンの心理・社会的自我発達論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「エディプス・コンプレックス」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第9回	思春期から青年期の心と心の迷い（青年期の年代区分、不登校・引きこもりの諸相、非行・逸脱行為の諸相、親離れと自立）	事前学習	テキスト pp.62～68 を読み、ギャングエイジから大学生までの青年期の区分について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「境界パーソナリティ」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第10回	レポート発表（思春期・青年期の心理的問題）	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する（レポートを修正して再提出してもよい）。
第11回	児童期・思春期の心理的問題（知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害、いじめ、不登校、選択性緘黙、児童虐待、少年非行、家庭内暴力）	事前学習	テキスト pp.69～77 を読み、児童期・思春期の諸問題について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	自分が興味をもった問題の一つ取り上げて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第12回	大人の心と心の病とゆがみ（エリクソンの生涯発達の成人3段階の人格論、レヴィンソンの「人生の四季」、成人の発達モデル「無段階論」、大人の「永遠の少年」現象、不良老人）	事前学習	テキスト pp.78～87 を読み、段階論と段階論と無段階論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「大人の心の病」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第13回	実習（事例研究：子どもの事例）	事前学習	事前に事例の資料を読んで、自分なりの理解をしてくる。
		事後学習	興味をもった概念・病理について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第14回	心理アセスメント1（心理アセスメント実施の際の諸注意、心理検査の選択、観察法・質問紙法）	事前学習	テキスト pp.88～106 を読み、心理アセスメントの分類について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「妥当性」「信頼性」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第15回	心理アセスメント2（ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査、集団式知能検査、グッドイナフ人物画知能検査、発達検査、知能・発達検査の危険性）	事前学習	テキスト pp.106～113 を読み、知能指数と偏差IQの違いについて理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「1歳半健診」「3歳児健診」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第16回	心理アセスメント3（投影法の特徴、P-F スタディ、バウムテスト、ロールシャッハ・テスト）	事前学習	テキスト pp.113～120 を読み、投影法がどのようなものか理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「テスト・バッテリー」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第17回	実習（心理検査：バウムテスト）	事前学習	テキストの「心理アセスメント実施の際の諸注意」pp.89～90 を読み、問題意識を明確にしておく。
		事後学習	バウムテストの解釈について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第18回	心の診断基準とその背景（精神医学史と疾病分類の確立、米国の力動精神医学から DSM-IVへ、DSMの流れと国際疾病分類との関係、DSM-IVの特色、「神経症」の各病型と DSM-IVにおける表現型）	事前学習	テキスト pp.120～126 を読み、疾病分類の概要について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	DSMの「多軸診断」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

第 19 回	カウンセリング (臨床心理士とは、カウンセラーの仕事、カウンセリングにおける留意点、症状のとらえ方、論理的普遍性と臨床的個性)	事前学習	テキスト pp.127~136 を読み、臨床心理士の活動について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「治療構造」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 20 回	カウンセリングのビデオ視聴とディスカッション	事前学習	事前に pp.127~136 のカウンセリングの部分を読み返しておく。
		事後学習	興味をもったカウンセリングについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 21 回	箱庭療法 (箱庭療法の歴史、箱庭療法の実際、ユング心理学と箱庭療法の理論、日本における箱庭療法の現状、箱庭療法の訓練)	事前学習	テキスト pp.136~145 を読み、箱庭療法の概要について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「象徴」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 22 回	補足と事例研究 (箱庭の事例)	事前学習	事前に箱庭事例の資料を読んで、自分なりの理解をしてくる。
		事後学習	箱庭療法の別の事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 23 回	遊戯療法 (遊びとは、遊戯療法の基礎的理論、遊戯療法の枠組み、対象、遊戯療法の過程)	事前学習	テキスト pp.146~155 を読み、遊戯療法の概要について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「アクスラインの 8 つの基本的原理」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 24 回	レポート発表 (子どもの遊戯療法事例)	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する (レポートを修正して再提出してもよい)。
第 25 回	行動療法 (行動療法の原理、オペラント法と現実的脱感作法、逆制止法と系統的脱感作法、強化消去法、嫌悪療法、モデリング法)	事前学習	テキスト pp.155~167 を読み、行動療法の基本について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「不安階層表」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 26 回	認知療法 (認知療法の原理、認知療法の治療法、認知行動療法)	事前学習	テキスト pp.167~173 を読み、ABC 図式について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「ソーシャル・スキル・トレーニング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 27 回	エンカウンター・グループ (エンカウンター・グループとは、エンカウンター・グループの実際、ロジャーズという背景、有機体としてのグループ、ファシリテーターの非促進的行動)	事前学習	テキスト pp.173~181 を読み、ベーシック・エンカウンター・グループの基本について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「ファシリテーター」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 28 回	実習 (事例研究：大人の事例)	事前学習	事前に事例の資料を読んで、自分なりの理解をしてくる。
		事後学習	興味をもった概念・病理について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 29 回	臨床心理士になるためには (臨床心理士制度の概略と、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、臨床心理学の研究、臨床心理士の倫理)	事前学習	テキスト pp.182~193 を読み、臨床心理士になるために何が必要かについて理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「スーパービジョン」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 30 回	まとめ (用語・概念を中心に復習する)	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1103 GEBS2303
2. 授業担当教員	山口 榮三		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。		
8. 学習目標	1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. レクリエーションの企画書、運営後の評価および今後の課題。 2. 地域のレクリエーション活動などを調査し、レポートする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】日本レクリエーション協会著『レクリエーション支援の基礎 第二版』 日本レクリエーション協会、2015 年。 授業内でプリント資料を配布する		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 30% 2 課題レポート 総合点の 20% 3 日常の学習状況 総合点の 30% 4 期末試験 総合点の 20%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 欠席・遅刻・早退は原則厳禁とする。やむを得ない場合は、届を提出すること。 2. 分からないことは、授業後やオフィスアワーを利用し理解を深めること。 3. 企画・運営の際、仲間意識を高め、準備をしっかりと行えるように努めること。		
13. オフィスアワー	授業の前後 (その他授業中に指示をする)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (講義概要の説明)	事前学習	レクリエーション理論の学習用ノートを準備し、講義へ臨むこと。
		事後学習	レクリエーションの意味について、学習用ノートにまとめる。
第 2 回	レクリエーションの意義 講義及びディスカッション 演習 (pp. 32~33)	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.10~32)「レクリエーションの意義」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「レクリエーションの意義」について、「演習(pp.32~33)」にまとめ、提出する (演習の確認)。
第 3 回	レクリエーション運動を支える制度 講義及びディスカッション 演習 (pp. 51~52)	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.34~50)「レクリエーション運動を支える制度」について、要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「レクリエーション運動を支える制度」について、「演習(pp.51~52)」にまとめ、提出する (演習の確認)。
第 4 回	レクリエーション・インストラクターの役割 講義及びディスカッション 演習 (pp. 66~67)	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.54~65) を熟読し、「レクリエーションインストラクターの役割」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「レクリエーションインストラクターの役割」について、「演習(pp.66~67)」にまとめ、提出する (演習の確認)。
第 5 回	ライフスタイルとレクリエーション 講義及びディスカッション 演習 (pp. 90~91)	事前学習	テキストⅡ第 1 章 (pp.70~89) を熟読し、「ライフスタイルとレクリエーション」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「ライフスタイルとレクリエーション」について、「演習(pp.90~91)」にまとめ、提出する (演習の確認)。
第 6 回	高齢社会の課題とレクリエーション 講義及びディスカッション	事前学習	テキストⅡ第 2 章 (pp.92~115) を熟読し、「高齢社会の課題とレクリエーション」について、その内容を学習用ノートにまとめる。

	演習 (p. 116)	事後学習	「高齢社会の課題とレクリエーション」について、「演習(p.116)」にまとめ、提出する(演習の確認)。
第 7 回	少子化の課題とレクリエーション 講義及びディスカッション 演習 (p. 141)	事前学習	テキストⅡ第 3 章 (pp.118～140) を熟読し、「少子化の課題とレクリエーション」について、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「少子化の課題とレクリエーション」について、「演習(p.141)」にまとめ、提出する(演習の確認)。
第 8 回	地域とレクリエーション 講義及びディスカッション 演習 (p. 156)	事前学習	テキストⅡ第 4 章 (pp.142～155)「地域とレクリエーション」を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「地域とレクリエーション」について、「演習(p.156)」にまとめ、提出する(演習の確認)。
第 9 回	レクリエーション事業とは 講義及びディスカッション 演習 (pp. 182～183)	事前学習	テキストⅢ第 1 章 (pp.162～181)「レクリエーション事業とは」を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「レクリエーション事業とは」について、「演習(pp.182～183)」にまとめ、提出する(演習の確認)。
第 10 回	事業計画Ⅰ-① 講義及びディスカッション	事前学習	テキストⅢ第 2 章 (pp.184～193) を熟読し、「事業計画Ⅰ」について学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「事業計画Ⅰ」について、「演習(pp.194～195)」の内容を確認する。
第 11 回	事業計画Ⅰ-② 演習 (p. 194)	事前学習	「事業計画Ⅰ」立案について内容を確認し、計画立案に必要なデータを集める。
		事後学習	「事業計画Ⅰ」について、「演習(pp.194～195)」にまとめ、提出する(演習の確認)。
第 12 回	事業計画Ⅱ-① 講義及びディスカッション	事前学習	テキストⅢ第 3 章 (pp.196～205) を熟読し、「事業計画Ⅱ」について学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「事業計画Ⅱ」について、「演習(pp.206～207)」の内容を確認する。
第 13 回	事業計画Ⅱ-② 演習 (pp. 206～207)	事前学習	「事業計画Ⅱ」立案について内容を確認し、計画立案に必要なデータを集める。
		事後学習	「事業計画Ⅱ」について、「演習(pp.206～207)」にまとめ提出する(演習の確認)。
第 14 回	レクリエーション活動の安全管理 講義及びディスカッション 演習 (pp. 222～223)	事前学習	テキストⅢ第 4 章 (pp.208～221) を熟読し、「レクリエーション活動の安全管理」について学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「レクリエーション活動の安全管理」について、「演習(pp.222～223)」にまとめ、提出する(演習の確認)。
第 15 回	まとめ	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる。
		事後学習	レクリエーションワークに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ、提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1102 GEBS2302
2. 授業担当教員	山口 榮三		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 対象者を設定し、それに応じたレクリエーション・ワークを考え、グループで支援計画を立案し、実際に発表する。 2. 開講学期期間中に現場指導実習に1回・最低3時間は参加し参加レポートを提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】日本レクリエーション協会著『レクリエーション支援の基礎 第二版』 日本レクリエーション協会、2016 年第 9 刷。 授業内でプリントを配布する		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の 30% 2 課題レポート 総合点の 40% 3 日常の学習状況 総合点の 30%		
12. 受講生へのメッセージ	4. 実技中心の授業のため、身体を動かしやすい服装で参加すること (ジーンズ等禁止)。 5. 欠席・遅刻・早退は原則厳禁とする。やむを得ない場合は、届を提出すること。 6. 分からないことは、授業後やオフィスアワーを利用し、理解を深めること。 7. 企画・運営の際、準備をしっかり行い、協働意識を高めるように努めること。		
13. オフィスアワー	授業の前後 (その他授業中に指示をする)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション —授業概要・現場支援実習説明—	事前学習	レクリエーションワークの学習用ノートを準備し、講義へ臨む。
		事後学習	レクリエーション支援の必要性について学習用ノートにまとめる。
第 2 回	コミュニケーション・ワーク 1 —ホスピタリティとは —演習：レクリエーション・ワーク体験①—	事前学習	テキスト第IV 1 章 (pp.226~233) 「ホスピタリティとは」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「ホスピタリティとは」について「演習(pp.234~235)」の振り返り表を提出する (演習の確認)。
第 3 回	コミュニケーション・ワーク 2 —ホスピタリティの示し方 —ホスピタリティ・トレーニング —演習：レクリエーション・ワーク体験②—	事前学習	テキスト第IV 1 章 (pp.236~243) 「ホスピタリティの示し方」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「ホスピタリティの示し方」について「演習 (pp.244~245)」の振り返り表を提出する (演習の確認)。
第 4 回	コミュニケーション・ワーク 3 —アイスブレイキング①—	事前学習	テキスト第IV 1 章 (pp.246~253) 「アイスブレイキングの意義と基本技術」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「アイスブレイキングの意義と基本技術」について「演習(pp.254~255)」の振り返り表を提出する (演習の確認)。
第 5 回	コミュニケーション・ワーク 4 —アイスブレイキング②アイスブレイキングのプログラミング—	事前学習	テキスト第IV 1 章 (pp.256~267) 「アイスブレイキングのプログラミング」を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	「アイスブレイキングのプログラミング」について「演習(pp.268~269)」の振り返り表を提出する (演習の確認)。
第 6 回	レクリエーション・ワークの実践 1 —ウォークラリーの企画①—下見 1 回目	事前学習	ウォークラリー資料を熟読し、理解を深める。
		事後学習	下見の結果をまとめる。 概略ウォークラリーコース図を作成する。

第 7 回	レクリエーション・ワークの実践 2 —ウォークラリーの企画②—下見 2 回目	事前学習	ウォークラリー資料を熟読し、コマ図作成の理解を深める。
		事後学習	概略ウォークラリーコース図（コマ図）を作成する。
第 8 回	レクリエーション・ワークの実践 3 —ウォークラリーの企画③—計画書・コース図作成	事前学習	ウォークラリー資料を熟読し、コマ図を完成させる。
		事後学習	「ウォークラリーコマ図作成」についての振り返り表を提出する。
第 9 回	レクリエーション・ワークの実践 4 —ウォークラリーを体験—	事前学習	「コマ図」を確認する。
		事後学習	「ウォークラリー」についての振り返り表を提出する（演習の確認）。
第 10 回	レクリエーション・ワークの実践 5 —レクリエーションスポーツ体験—	事前学習	実施する「レクリエーションスポーツ」資料を熟読する。
		事後学習	「レクリエーションスポーツ」についての振り返り表を提出する。
第 11 回	レクリエーション・ワークの実践 6 —身近なものを使用したレクリエーション—	事前学習	実施する「レクリエーションワーク」資料を熟読する。
		事後学習	「レクリエーションスポーツ」についての振り返り表を提出する。
第 12 回	レクリエーション・ワークの実践 7 —グループで、支援するレク財を検討し、指導案を作成する—	事前学習	実施する「レクリエーションワーク」の「レク財」を準備する。
		事後学習	「レクリエーションワークの実践 7」についての振り返り表を提出する。
第 13 回	グループごとのレクリエーション・ワークの支援実践① —全グループの半数が支援実践を行う—	事前学習	実施する「レクリエーションワーク」の「レク財」を準備する。
		事後学習	「レクリエーションワークの支援実践」についての振り返り表を提出する。
第 14 回	グループごとのレクリエーション・ワークの支援実践② —全グループの半数が支援実践を行う—	事前学習	実施する「レクリエーションワーク」の「レク財」を準備する。
		事後学習	レクリエーションワークの支援実践についての振り返り表を提出する。
第 15 回	まとめと評価	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる。
		事後学習	今後のレクリエーションワークに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ、提出する。

1. 科目名 (単位数)	労働安全衛生法 (じん肺法を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3337 SSMP3337
2. 授業担当教員	豊田 成雄			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>労働安全衛生法は、労働者の安全と健康を確保すると共に、労働者を取り巻く環境の変化に応じ、人間尊重を基盤とした「より快適な」作業環境づくりの促進を目的として、事業者のみならず国や労働者に対する責務についても規定している。</p> <p>本科目では、労働安全衛生法、じん肺法、およびそれらに基づいてより細かく具体的に規定された労働安全衛生規則や種々の有害作業別に規定された規則について学ぶ。近年、技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高齢化等に伴う心身の健康状態の変化等の問題が頻発しているため、これらに対応できる福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについても学ぶ。</p> <p>なお労働安全衛生法は、本学で国家資格である第 1 種衛生管理者免許を取得するために、必ず履修しなければならない科目の一つである。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 労働安全衛生法および施行令、施行規則について説明できるようになる。 事務所衛生基準規則について説明できるようになる。 酸素欠乏症等防止規則について説明できるようになる。 有機溶剤中毒予防規則について説明できるようになる。 特定化学物質等障害予防規則について説明できるようになる。 粉じん障害防止規則について説明できるようになる。 じん肺法およびじん肺法施行規則について説明できるようになる。 石綿障害予防規則について説明できるようになる。 電離放射線障害防止規則について説明できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学生の理解度をはかりながら、そのつど指示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】村上剛志・佐々木昭三 著『やさしい労働安全衛生法・労働安全規則』かもがわ出版、2008。</p> <p>【参考書】中央労働災害防止協会 編『労働衛生のしおり 平成 26 年度版』中央労働災害防止協会、2014。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 授業態度 (質問、出席態度など) 20% 確認テスト 30% 期末テスト 50% 			
12. 受講生への メッセージ	この科目については、受講生の多くが厚生労働省の認定する資格取得を目指しているものと思うが、労働安全衛生法およびじん肺法が制定されるに至ったわが国の労働環境の劣悪さ、労働災害の過酷さ、労働疾病の悲惨さは、けっして過去の話ではないことを理解し、それらの防止を意図する学問であることを自覚して勉強を進めていってほしい。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 労働安全衛生法について (1)	事前学習	インターネットなどで労働安全衛生法と労働基準法との関係を知る。	
		事後学習	労働安全衛生法の成立の背景についてノートにまとめる。	
第 2 回	労働安全衛生法について (2)	事前学習	労働災害にいかなるものがあるかを覚える。	
		事後学習	労働災害防止責任者についてノートにまとめる。	
第 3 回	労働安全衛生法について (3)	事前学習	社会福祉施設で発生している労働衛生問題をつかむ。	
		事後学習	社会福祉施設の運営管理を規制する法体系についてノートにまとめる。	
第 4 回	安全衛生管理体制について (1)	事前学習	総括安全衛生管理者や衛生管理者などの資格者制度を知る。	
		事後学習	労働安全衛生規則は実際の職場で守られているかについてノートにまとめる。	
第 5 回	安全衛生管理体制について (2)	事前学習	快適な職場環境の形成を図るために事業者が講ずべき措置を覚える。	
		事後学習	作業における労働衛生管理のためのガイドラインについてノートにまとめる。	
第 6 回	労働安全衛生規則について	事前学習	労働安全衛生規則の内容をつかむ。	
		事後学習	労働安全衛生に関する法体系についてノートにまとめる。	

第 7 回	事務所衛生基準規則について	事前学習	事務所衛生基準規則の要点を覚える。
		事後学習	空気環境の基準値、測定の頻度、測定結果の保存年数などについてノートにまとめる。
第 8 回	有機溶剤中毒予防規則について	事前学習	有機溶剤中毒予防規則の内容をつかむ。
		事後学習	建設業における有機溶剤中毒予防のためのガイドラインについてノートにまとめる。
第 9 回	粉じん障害防止規則について	事前学習	作業主任者選任と健康診断などの義務化の状況をつかむ。
		事後学習	換気装置や呼吸保護具の適正な選定と着用についてノートにまとめる。
第 10 回	じん肺法、じん肺法施行規則について	事前学習	じん肺(じんばい)の原因と症状を知る。
		事後学習	粉じん障害防止対策についてノートにまとめる。
第 11 回	特定化学物質等障害予防規則について (1)	事前学習	化学物質等による危険性・有害性などの調査指針の解説を覚える。
		事後学習	化学物質等安全性データシート(MSDS)についてまとめる。
第 12 回	特定化学物質等障害予防規則について (2)	事前学習	特定化学物質の 4 区分をつかむ。
		事後学習	健康管理手帳の交付要件についてノートにまとめる。
第 13 回	石綿障害予防規則について	事前学習	石綿障害の原因と症状を知る。
		事後学習	建築物解体等の作業での労働者の石綿曝露の防止対策についてノートにまとめる。
第 14 回	酸素欠乏等防止規則	事前学習	酸素欠乏症の原因と症状を覚える。
		事後学習	酸素欠乏症の防止のための特別教育についてノートにまとめる。
第 15 回	労働安全衛生法のまとめ	事前学習	多面的な労働安全衛生法の内容を一覧してつかむ。
		事後学習	いちばん関心の深い労働安全衛生法の分野についてノートにまとめる。
期末試験は論述方式で実施する。			

1. 科目名 (単位数)	労働衛生学 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP3336 SCMP3336 SNMP3336 SSMP3336
2. 授業担当教員	戎 弘志		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>労働者が安全で衛生的かつ快適に働くには、労働者を取り巻く環境をより良い状態に維持することが重要である。そのために衛生管理者は、社会情勢の変化や技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高齢化等に伴う心身の健康状態の変化等に柔軟に対応できなくてはならない。</p> <p>本科目では、安全衛生管理体制の確立と衛生管理者の役割、そして衛生管理の 3 本柱である「作業環境管理」、「作業管理」、「健康管理」を中心に労働衛生管理全般について学ぶ。福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについても考察する。</p> <p>なお労働衛生学は、本学で国家資格である第 1 種衛生管理者免許を取得するために、必ず履修しなければならない科目の一つである。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の労働衛生の現状について説明できるようになる。 2. 望ましい安全衛生管理体制について説明できるようになる。 3. 労働安全衛生マネジメントシステムやリスクアセスメントについて説明できるようになる。 4. 一般作業環境について説明できるようになる。 5. 有害作業環境（物理的、化学的、生物学的）要因とそれらによる健康障害について説明できるようになる。 6. 作業環境管理（作業環境測定とその管理、換気装置等）について説明できるようになる。 7. 作業管理（作業時間と休憩時間、労働衛生保護具等）について説明できるようになる。 8. 健康管理（健康診断及び健康教育等）について説明できるようになる。 9. 職場におけるメンタルヘルス対策について説明できるようになる。 10. 救急蘇生法について説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	適宜、提出物、レポート (1,200字) を提出する。 労働衛生に関するマスコミ報道等をディスカッションする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】厚生労働省安全衛生部安全衛生課編『新 衛生管理 (上) <第一種用>』 中央労働災害防止協会、2016。</p> <p>【参考書】社会福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座 (1) 人体の構造と機能及び疾病』 中央出版、2015。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 厚生労働省労働基準局編『労働衛生のしおり 平成 22 年度版』中央労働災害防止協会、2015。 厚生労働省安全衛生部監修『安全衛生法令要覧』中央労働災害防止協会、2015。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 期末試験 70% ② 出席点 10% ③ 提出物 10% ④ 授業態度 10% <p>出席率は原則 3/4 以上 (30 回中 23 回以上) のこと。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とする。 [成績評価]①から④の合計点で評価する。 A (100~90 点) B+ (89~80 点) B (79~70 点) C (69~60 点) F (59 点以下)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>学生はお客様であるが、授業に参加するときにはお客様としての「ルール」と「マナー」がある。人に迷惑となる私語は厳禁する。逆に授業に関する意見や質問等は積極的に発言してほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 種衛生管理者と同等以上の知識を習得することを第一目標とする授業を行うので、授業には毎回積極的に参加すること (1 回の授業に欠席すると 3% の減点になる)。 2. 座席は毎回変え、男女交互で着席する。 3. 当てられたら立って、読み・質問に答える。その後は皆で拍手をする。 4. 質問大歓迎である。学生を中心にしたわかりやすい授業にしていきたい。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間とする。それ以外は教務課と相談する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの説明、レポート・参考文献の書き方、衛生管理者の仕事について	事前学習	衛生管理者とは何かについて調べてくる。
		事後学習	具体的な衛生管理者の仕事を理解する。
第 2 回	衛生管理者の職務と役割	事前学習	衛生管理者の役割について調べてくる。
		事後学習	衛生管理者の役割と制度の変遷について理解する。
第 3 回	作業環境と職業性疾病①	事前学習	職業病について調べてくる。
		事後学習	職業病と作業環境について理解する。
第 4 回	作業環境と職業性疾病②	事前学習	職業病について調べてくる。
		事後学習	職業病と作業環境について理解する。

第 5 回	労働作業環境と職業性疾病③（生物学的要因）	事前学習	人体の構造と機能について調べてくる。
		事後学習	生物学的要因と健康障害について理解する。
第 6 回	労働作業環境と職業性疾病④（物理的要因）	事前学習	人体の構造と機能について調べてくる。
		事後学習	作業要因と健康障害について理解する。
第 7 回	社員の健康管理の強化 一般作業環境（温熱環境）	事前学習	人体の構造と機能について調べてくる。
		事後学習	作業環境管理について理解する。
第 8 回	労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS） 一般作業環境（視環境・照明）	事前学習	労働衛生の具体的進め方を調べてくる。
		事後学習	OSHMS の概要を理解する。
第 9 回	有害エネルギーの影響（高温、低温、異常気圧、熱中症、騒音、振動、超音波非電離放射線、電離放射線）	事前学習	有害エネルギーについて調べてくる。
		事後学習	物理的因子と作業環境について理解する。
第 10 回	人体の構造と機能①（細胞、組織、器官）	事前学習	人体構造について調べてくる。
		事後学習	細胞と組織について理解する。
第 11 回	人体の構造と機能②（血液と体液）	事前学習	人体構造について調べてくる。
		事後学習	血液の働きについて理解する。
第 12 回	人体の構造と機能③（循環器）	事前学習	人体構造について調べてくる。
		事後学習	心臓と血管について理解する。
第 13 回	人体の構造と機能④（呼吸器）	事前学習	人体構造について調べてくる。
		事後学習	肺と気管支について理解する。
第 14 回	人体の構造と機能⑤（消化器）	事前学習	人体構造について調べてくる。
		事後学習	消化器の構造と機能について理解する。
第 15 回	人体の構造と機能⑥（腎及び生殖器）	事前学習	人体構造について調べてくる。
		事後学習	腎臓の構造と機能、生殖器の構造について理解する。
第 16 回	人体の構造と機能⑦（神経系）	事前学習	人体構造について調べてくる。
		事後学習	中枢及び末梢神経系について理解する。
第 17 回	有害化学物質による職業病①（じん肺・粉じん障害） 熱中症の予防法 作業環境管理の考え方	事前学習	職業病について調べてくる。
		事後学習	有害化学物質と身体との関係について理解する。
第 18 回	有害化学物質による職業病②（じん肺・粉じん障害、有機溶剤）	事前学習	職業病について調べてくる。
		事後学習	有害化学物質と身体との関係について理解する。
第 19 回	有害化学物質による職業病③（有機溶剤、金属）	事前学習	職業病とは何かについて調べてくる。
		事後学習	有機溶剤、金属と職業病について理解する。
第 20 回	有害化学物質による職業病④（金属、刺激性ガス）	事前学習	職業病について調べてくる。
		事後学習	刺激性ガスと職業病について理解する。
第 21 回	有害化学物質による職業病⑤（刺激性ガス、農薬、その他）	事前学習	職業病とは何か調べてくる。
		事後学習	農薬と職業病について理解する。
第 22 回	有害化学物質による職業病⑥（職業がん、皮膚障害）	事前学習	職業病について調べてくる。
		事後学習	職業に関係する悪性腫瘍について理解する。
第 23 回	作業環境管理（環境測定、評価、措置） 局所排気装置	事前学習	作業環境について調べてくる。
		事後学習	環境測定と局所排気について理解する。
第 24 回	局所排気装置 制御風速	事前学習	作業環境について調べてくる。
		事後学習	風速の制御と局所排気について理解する。
第 25 回	作業管理（目的、産業疲労、作業姿勢、保護具、人間工学的取り組み）	事前学習	作業の姿勢について調べてくる。
		事後学習	作業管理の重要性を理解する。
第 26 回	作業管理（事務室、VDT 作業）	事前学習	VDT 作業について調べてくる。
		事後学習	VDT と健康について理解する。
第 27 回	健康管理と健康維持増進対策	事前学習	健康維持健康増進について調べてくる。
		事後学習	健康維持健康増進について理解する。
第 28 回	労働衛生教育	事前学習	労働衛生の目的とは何か調べてくる。
		事後学習	労働衛生法と労働衛生教育について理解する。
第 29 回	救急処置 心肺蘇生法 自動体外式除細動器（AED）	事前学習	救急処置について調べてくる。
		事後学習	救急処置を理解し、身につける。
第 30 回	まとめ	事前学習	環境について調べてくる。
		事後学習	環境と健康について理解する。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	労働法 (労働基準法) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3338
2. 授業担当教員	豊田 成雄		SBMP3338
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	社会保障論 (労災保険)		
7. 講義概要	<p>20 世紀末以降労働関係法令は新しいものがいくつも制定され、かつ既存法も大幅に内容が改正されてきた。そこには、社会における新しい雇用形態や労働条件の変化が大きく影響している。本科目では、労働基準法の基本構造を学ぶとともに、新たに制定された労働契約法や男女雇用機会均等法のほか、パートタイム労働法や派遣労働法も対象領域とする。ただし、学習負担の面から基本事項に限定して講義する。発展部分は実社会に出てから各自で応用学習してもらいたい。</p> <p>なお、労働組合活動の退潮もあり、労働組合活動を対象とした集団的労働関係法は扱わない。講義は教科書に沿って進行する。随時、テーマを設定してディスカッションを行い、自宅学習で議論の集約、文章化の訓練を行う。最終授業では、実際の試験問題を用いた基礎知識修得状況の検証を行う。</p>		
8. 学習目標	<p>就職とは基本的に勤め先との間で労働契約を交わすことである。雇用労働者は、内定、使用期間、処遇、人事異動、出向、昇格・昇進、懲戒処分、労災事故、退職 (解雇) など様々な事態に遭遇することになる。本科目の履修者は、労働基準法等においてどのように規定されているか、また労働基準監督署や裁判所ではどのように判断されているかの知識を習得しているの、適切に対処することができる。</p> <p>勤務経験を積むことにより、勤務先で管理監督者 (使用者) の地位を与えられることになるが、本科目内容を履修することで労働法令の基礎理論や先例を理解でき、職場内の労働紛争を回避することができる。アルバイトなどの学生生活においても、労働基準法等がどのように適用されるかを検証し、労働法を身近なものとして生かすことができる。いわゆるブラック企業のやり口を見極める基礎能力を身につける。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 各回の授業に際しては、下記の論点事項について教科書の十分な読み込み学習がされていることを前提に講義を進める。(1回の授業に関して4時間の事前または事後学習が必要とされている。) なお、事前学習に際しては、マスコミ報道のうち労働問題に関連するものに注目し、現実社会で労働法がどのように作用しているかを検証する点検しておくことを求める。</p> <p>2. 毎回の授業の中でディスカッションを組み込む。積極的な発言、討論を必須とする。無言者、無反応者は早退したもののみならずことがある。</p> <p>3. 学期を通じて使用する学習カード (初回に配布) に、毎回の授業で学んだことなどを記述して提出しなければならぬ (最終週を除く)。学習カードは次回授業時に返却する。</p> <p>4. 学期内に1回、テーマを指定してのレポート作成提出 (自筆1800字程度) を求める。</p> <p>5. 適宜、希望学生による研究成果発表を予定する。この場合、学生は発表用資料を事前準備する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】原昌登著『コンパクト労働法』新世社、2014。</p> <p>【参考書】今野晴樹著『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』文春新書、2012。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2015。 六法全書 労働基準法、労働契約法等労働法令を含むもの (各自インターネットで抽出)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1. 演習等授業参加態度 (9. のアサインメントの 1. から 3.) 15% 1%×15回</p> <p>2. レポート (9. のアサインメントの 4.) 15%</p> <p>3. 期末試験 70%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>1. 労働法 (労働基準法) は範囲が広く、制度改正も頻繁であるため、細かな制度内容よりも、全体を貫く理念は何かを常に念頭において講義に参加すること。</p> <p>2. 授業中の質問は歓迎。各自相談することを指示した場合以外の私語は厳禁。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	労働法とは何か 労働法の存在理由 労働法により介入の仕組み 法学の基礎知識 労働法のルール	事前学習	教科書第 1 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 2 回	雇用関係における様々な法ルール 労働基準法 労使協定 労働契約法 労働協約 就業規則 労働契約	事前学習	教科書第 2 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 3 回	労働法の当事者 労働者とは 労基法、労契法、労組法 使用者 労働組合	事前学習	教科書第 3 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 4 回	労働者の採用について 使用者の採用自由の原則とは 採用内定の法的性質 使用期間とは	事前学習	教科書第 4 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。

第 5 回	企業の人事権と権利濫用法理の適用 昇進・昇格・降格について 配転とは何か 出向（在籍） 転籍 休職	事前学習	教科書第 5 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 6 回	使用者の懲戒権 懲戒処分とは 懲戒処分の法規制 懲戒処分のポイント	事前学習	教科書第 6 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 7 回	労使関係の終了 解雇の法的問題 労働契約終了事由 解雇に関する法規制 手続・理由 解雇権濫用法理 整理解雇のルール 解雇紛争の解決 定年制 高齢者雇用確保措置	事前学習	教科書第 7 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 8 回	賃金について 賃金とは何か 賞与・退職金の法律問題 賃金支払いの 4 原則 休業手当とは 最低賃金	事前学習	教科書第 8 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 9 回	労働時間の基本 労働時間規制の基本的枠組み 法定労働時間 休憩時間 休日 時間外・休日労働 三六協定 割増賃金	事前学習	教科書第 9 章（9.1 から 9.3 まででよい）を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 10 回	休憩・休業 年次有給休暇 年休権の法的性質 休業制度 労基法、育児・介護休業法	事前学習	教科書第 10 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 11 回	労働条件の変更 就業規則の不利益変更の法ルール 労働協約による労働条件不利益変更	事前学習	教科書第 11 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 12 回	非正規労働者と労働法 非正規雇用とは 有期契約と雇い止め 無期契約への転換制度導入 パートタイム労働者（短時間労働者）と労働法 派遣労働の法ルール 偽装請負とは	事前学習	教科書第 12 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 13 回	労働者の健康・労働災害 職場における安全衛生 労安法 労働災害補償 労災保険 民事上の損害賠償 労働時間規制の例外措置 法規制の適用除外 変形労働時間制とフレックスタイム制 みなし労働時間制	事前学習	教科書第 13 章を熟読。疑問点を整理しておく。 教科書第 9 章のうち 9.4 と 9.5 を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 14 回	労基法の総則部分 労働者の人権保障・雇用差別禁止 労働者の人権保障規定 平等原則 男女雇用機会均等法 各種ハラスメントの法的責任	事前学習	教科書第 14 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 15 回	企業組織の変動と労働関係 企業合併の場合 事業譲渡の場合 会社分割の場合 社福士（精神保健福祉士）試験と労働法 過去の出題事例の検討	事前学習	教科書第 15 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	15 回の授業で学んだことの総復習をする。

期末試験は完全論述方式で実施する。過去 14 回の事後学習テーマを中心に入念な試験準備が必要である。

